

中外关系史名著译丛



在华耶稣会士列传 及书目

〔法〕费赖之 著 冯承钧 译







中外关系史名著译丛

在华耶稣会士列传及书目

上册

〔法〕费赖之 著

冯承钧 译



中华书局

NOTICES
BIOGRAPHIQUES ET BIBLIOGRAPHIQUES
SUR
LES JÉSUITES DE L'ANCIENNE MISSION DE CHINE
1552—1773
PAR
LE P. LOUIS PFISTER, S. J.
CHANG-HAI
IMPRIMERIE DE LA MISSION CATHOLIQUE.
1932, 1934



[法] 费赖之著

冯承钧 译

*

中 华 书 局 出 版

(北京王府井大街 36 号)

新华书店北京发行所发行

北京怀柔桥中印刷厂印刷

*

787 × 1092 毫米 1/32 · 39 印张 · 789 千字

1995 年 11 月第 1 版 1995 年 11 月北京第 1 次印刷
印数 1 - 2500 册 定价: 44.00 元

ISBN 7—101—01035—0/K · 420

目 录

上

序.....	(1)		
绪言.....	(3)		
原序.....	(7)		
一 方济各沙勿略.....	(1)	一五	郭居静..... (57)
二 巴莱多.....	(10)	一六	苏如望..... (62)
三 培莱思.....	(14)	一七	龙华民..... (64)
四 黎伯腊和黎耶腊.....	(17)	一八	罗如望..... (71)
		一九	庞迪我..... (73)
五 加奈罗.....	(18)	二〇	李玛诺..... (77)
六 范礼安.....	(20)	二一	费奇规..... (81)
七 罗明坚.....	(23)	二二	黎宁石..... (84)
八 巴范济.....	(30)	二三	杜禄茂..... (85)
九 利玛窦.....	(31)	二四	骆入禄..... (86)
一〇 麦安东.....	(47)	二五	林斐理..... (87)
一一 孟三德.....	(49)	二六	高一志..... (88)
一二 石方西.....	(51)	二七	鄂本笃..... (97)
一三 钟巴相.....	(53)	二八	游文辉..... (105)
一四 黄明沙.....	(55)	二九	徐必登..... (106)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 三〇 熊三拔…………… (106) | 五〇 费玛诺…………… (186) |
| 三一 阳玛诺…………… (110) | 五一 黎若望…………… (187) |
| 三二 金尼阁…………… (115) | 五二 嘉尔定…………… (187) |
| 三三 丘良厚…………… (125) | 五三 罗历山…………… (189) |
| 三四 钟鸣礼…………… (127) | 五四 伏若望…………… (191) |
| 三五 石宏基…………… (128) | 五五 罗雅谷…………… (192) |
| 三六 丘良稟…………… (129) | 五六 卢安德…………… (197) |
| 三七 倪雅谷…………… (130) | 五七 庞类思…………… (199) |
| 三八 〔附一〕…………… (131) | 五八 费藏裕…………… (200) |
| 〔附二〕…………… (131) | 五九 徐复元…………… (200) |
| 〔附三〕…………… (131) | 〔附〕戈泰思…………… (201) |
| 三九 艾儒略…………… (132) | 六〇 班安德…………… (201) |
| 四〇 毕方济…………… (142) | 六一 郭玛诺…………… (203) |
| 四一 曾德昭…………… (148) | 六二 颜尔定…………… (204) |
| 四二 史惟贞…………… (152) | 六三 瞿洗满…………… (204) |
| 四三 郭若望…………… (154) | 六四 聂伯多…………… (206) |
| 四四 法类思…………… (155) | 六五 方德望…………… (208) |
| 〔附一〕纳爵…………… (155) | 六六 谢贵禄…………… (210) |
| 〔附二〕康玛囊…………… (156) | 六七 卢纳爵…………… (211) |
| 四五 傅汎际…………… (156) | 六八 林本笃…………… (212) |
| 四六 邓玉函…………… (158) | 六九 努纳爵…………… (214) |
| 四七 费乐德…………… (163) | 七〇 金弥格…………… (214) |
| 四八 祁维材…………… (166) | 七一 陆若汉…………… (216) |
| 四九 汤若望…………… (167) | 七二 杜奥定…………… (220) |
| | 七三 马多禄…………… (221) |

七四 谭玛兰····· (223)	九七 客方西····· (287)
七五 郭纳爵····· (224)	九八 马雅····· (288)
七六 李范济····· (226)	九九 利玛弟····· (289)
七七 范有行····· (226)	一〇〇 王若翰····· (290)
七八 何大化····· (227)	一〇一 洪度贞····· (291)
七九 潘国光····· (230)	一〇二 刘迪我····· (292)
八〇 利类思····· (235)	一〇三 傅沧溟····· (298)
八一 贾宜睦····· (247)	〔附〕巴莱笃
八二 孟儒望····· (249)	····· (299)
八三 徐日升····· (250)	一〇四 聂仲迁····· (300)
八四 万密克····· (251)	一〇五 穆尼阁····· (303)
八五 卢安东····· (252)	一〇六 乐类思····· (304)
八六 梅高····· (253)	一〇七 穆格我····· (305)
八七 李方西····· (254)	一〇八 穆迪我····· (306)
八八 安文思····· (256)	一〇九 林公撒····· (309)
八九 费藏玉····· (260)	一一〇 林玛诺····· (309)
九〇 卫匡国····· (260)	一一一 冯公撒····· (310)
九一 穆尼阁····· (266)	一一二 郭巴相····· (310)
九二 瞿安德····· (270)	一一三 郭玛诺····· (311)
〔附〕阿则维多	一一四 柏应理····· (311)
····· (274)	一一五 苏纳····· (318)
九三 卜弥格····· (274)	一一六 吴尔铎····· (319)
九四 张玛诺····· (281)	一一七 郎安德····· (320)
九五 成际理····· (282)	一一八 毕嘉····· (321)
九六 汪儒望····· (284)	一一九 白乃心····· (325)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 一二〇 殷铎泽…… (327) | 一四一 郑玛诺…… (380) |
| 一二一 陆安德…… (332) | 一四二 徐日升(葡萄牙) |
| 〔附〕努若翰 | …………… (380) |
| …………… (336) | 一四三 汪多玛…… (384) |
| 一二二 鲁日满…… (336) | 一四四 李西满…… (385) |
| 一二三 瞿笃德…… (339) | 一四五 张安当…… (386) |
| 一二四 南怀仁…… (340) | 一四六 万其渊…… (387) |
| 一二五 甘类思…… (360) | 一四七 鲁日孟…… (388) |
| 一二六 恩理格…… (360) | 一四八 洪度亮…… (389) |
| 一二七 穆亚立…… (363) | 一四九 何纳爵…… (390) |
| 一二八 罗雅各…… (364) | 一五〇 张儒良…… (390) |
| 一二九 方玛诺…… (364) | 一五一 齐又思…… (391) |
| 一三〇 杨若瑟…… (365) | 一五二 罗历山…… (391) |
| 一三一 罗迪我…… (366) | 一五三 潘玛诺…… (392) |
| 一三二 罗阁伯…… (366) | 一五四 穆若瑟…… (394) |
| 一三三 狄若瑟…… (367) | 一五五 都加禄…… (395) |
| 一三四 石嘉乐…… (368) | 一五六 吴历…… (396) |
| 一三五 闵明我…… (369) | 一五七 奚安当…… (398) |
| 〔附〕皮方济 | 一五八 金玉敬…… (398) |
| …………… (374) | 一五九 孟由义…… (399) |
| 一三六 葛安德…… (376) | 一六〇 马玛诺…… (400) |
| 一三七 金百炼…… (376) | 一六一 苏霖…… (400) |
| 一三八 方济各…… (377) | 一六二 刘蕴德…… (402) |
| 一三九 冯思嘉…… (379) | 一六三 安多…… (403) |
| 一四〇 范方济…… (379) | 一六四 何天章…… (412) |

一六五 龚尚实…… (413)	一八八 陈方济…… (470)
一六六 庞若翰…… (415)	一八九 成方济…… (470)
一六七 陆若瑟…… (416)	一九〇 克森德…… (471)
一六八 罗斐理…… (417)	一九一 鲁伯都…… (471)
一六九 卫方济…… (418)	一九二 鲁类思…… (471)
一七〇 洪若翰…… (423)	一九三 樊西元…… (472)
一七一 白晋…… (434)	一九四 法安多…… (473)
一七二 李明…… (441)	一九五 骆保禄…… (474)
一七三 张诚…… (444)	一九六 罗马诺…… (476)
一七四 刘应…… (453)	一九七 麦雅谷…… (477)
〔附〕罗类思	一九八 纪理安…… (477)
…… (459)	一九九 沈弥格…… (480)
一七五 郭天庞…… (459)	二〇〇 法方济…… (481)
一七六 艾未大…… (460)	二〇一 费约理…… (481)
一七七 马玛诺…… (461)	二〇二 鲍仲义…… (481)
一七八 陆希言…… (461)	二〇三 万惟一…… (482)
一七九 王石汗…… (462)	二〇四 郭若望…… (483)
一八〇 郭天爵…… (464)	二〇五 艾逊爵…… (483)
一八一 江纳爵…… (465)	二〇六 林安多…… (486)
一八二 金弥格…… (465)	〔附〕冯斯嘉
一八三 卢依道…… (466)	…… (487)
一八四 张方济…… (467)	二〇七 金澄…… (488)
一八五 李国正…… (468)	二〇八 杨安德…… (488)
一八六 何大经…… (468)	二〇九 闵玛弟…… (489)
一八七 张方济…… (469)	二一〇 曾类斯…… (489)

二一一	罗安当…… (489)	二三一	孟正气…… (505)
二一二	李若望…… (490)	二三二	颜理伯…… (508)
二一三	高嘉乐…… (490)	二三三	巴多明…… (509)
二一四	杨若翰…… (491)	二三四	南光国…… (525)
二一五	瞿良道…… (492)	二三五	马若瑟…… (525)
二一六	戈德望…… (492)	二三六	雷孝思…… (537)
二一七	罗玛弟…… (492)	二三七	卫嘉禄…… (545)
二一八	龙安国…… (493)	二三八	恩安当…… (545)
二一九	毕登庸…… (494)	二三九	马安能…… (546)
二二〇	庞嘉宾…… (494)	二四〇	唐玛诺…… (546)
二二一	利安国…… (496)	二四一	薄贤士…… (547)
二二二	瞿良士…… (498)	二四二	殷弘绪…… (548)
二二三	陆玛诺…… (499)	二四三	傅圣泽…… (555)
二二四	何多敏…… (499)	二四四	宋若翰…… (561)
二二五	贾嘉禄…… (500)	二四五	罗德先…… (562)
二二六	艾斯珂…… (501)	二四六	范若瑟…… (565)
二二七	李若瑟…… (501)	二四七	聂若望…… (566)
二二八	卜纳爵…… (502)	二四八	穆敬远…… (567)
二二九	利圣学…… (503)	二四九	蒋若翰…… (569)
二三〇	翟敬臣…… (505)	二五〇	郭中传…… (570)

下

二五一	樊继训…… (573)	二五四	沙守信…… (578)
二五二	毕多明…… (574)	二五五	苏安当…… (580)
二五三	方记金…… (575)	二五六	龚当信…… (580)

- | | | | |
|-----|-------------|-----|-------------|
| 二五七 | 顾铎泽…… (584) | 二八〇 | 林济各…… (628) |
| 二五八 | 戈维里…… (587) | 二八一 | 台维翰…… (629) |
| 二五九 | 赫苍璧…… (589) | 二八二 | 公类思…… (630) |
| 二六〇 | 杜德美…… (594) | 二八三 | 随弥嘉…… (631) |
| 二六一 | 隆盛…… (597) | 二八四 | 麦大成…… (632) |
| 二六二 | 聂若翰…… (597) | 二八五 | 阳秉义…… (633) |
| 二六三 | 卜文气…… (599) | 二八六 | 邓立山…… (635) |
| 二六四 | 汤尚贤…… (600) | 二八七 | 储斐理…… (635) |
| 二六五 | 陆伯嘉…… (603) | 二八八 | 夏德修…… (636) |
| 二六六 | 李良…… (603) | 二八九 | 滕若瑟…… (638) |
| | 〔附〕卢多禄 | 二九〇 | 卜日生…… (638) |
| | …………… (604) | 二九一 | 张貌理…… (641) |
| 二六七 | 索玛诺…… (605) | 二九二 | 胥孟德…… (643) |
| 二六八 | 彭加德…… (605) | 二九三 | 郎世宁…… (646) |
| 二六九 | 冯秉正…… (607) | 二九四 | 罗怀忠…… (650) |
| 二七〇 | 庞克修…… (615) | 二九五 | 房日升…… (652) |
| 二七一 | 安道义…… (615) | 二九六 | 喜大敦…… (653) |
| 二七二 | 习展…… (616) | 二九七 | 戴进贤…… (654) |
| 二七三 | 德其善…… (617) | 二九八 | 罗佩思…… (665) |
| 二七四 | 费 隐…… (617) | 二九九 | 徐懋德…… (665) |
| 二七五 | 张安多…… (620) | 三〇〇 | 席宾…… (668) |
| 二七六 | 穆若瑟…… (622) | 三〇一 | 严嘉乐…… (669) |
| 二七七 | 德玛诺…… (622) | 三〇二 | 麦安东…… (672) |
| 二七八 | 石可圣…… (626) | 三〇三 | 裴方济…… (672) |
| 二七九 | 梅若翰…… (627) | 三〇四 | 米来迺…… (673) |

- | | |
|------------------|------------------|
| 三〇五 徐茂盛…… (674) | 三二八 罗秉中…… (755) |
| 三〇六 安泰…… (677) | 三二九 巴若翰…… (755) |
| 三〇七 倪天爵…… (678) | 三三〇 高若望…… (756) |
| 三〇八 穆安东…… (679) | 三三一 □玛诺…… (757) |
| 三〇九 秉多…… (679) | 三三二 陈圣修…… (757) |
| 〔附〕嘉尔达 | 三三三 赵加彼…… (758) |
| …………… (680) | 三三四 吴君…… (759) |
| 三一〇 樊守义…… (680) | 三三五 □德望…… (762) |
| 三一·一 霍…… (683) | 三三六 沈东行…… (762) |
| 三一·二 傅方济…… (683) | 三三七 □玛竇…… (763) |
| 三一·三 利博明…… (684) | 三三八 尚玛诺…… (763) |
| 三一·四 宋君荣…… (685) | 三三九 仇伯都…… (764) |
| 三一·五 雅嘉禄…… (719) | 三四〇 陈多禄…… (764) |
| 三一·六 何云汉…… (720) | 三四一 □雅谷…… (766) |
| 三一·七 麦有年…… (722) | 三四二 周若瑟…… (766) |
| 三一·八 陈善策…… (722) | 三四三 查林格…… (767) |
| 三一·九 纪类思…… (725) | 三四四 迦尔范…… (767) |
| 三二〇 索智能…… (728) | 三四五 费若瑟…… (768) |
| 三二一 安玛尔…… (730) | 三四六 赵圣修…… (771) |
| 三二二 黄安多…… (731) | 三四七 杨方济…… (773) |
| 三二三 沙如玉…… (742) | 三四八 任重道…… (774) |
| 三二四 孙璋…… (745) | 三四九 魏继晋…… (775) |
| 三二五 纽若翰…… (750) | 三五〇 鲍友管…… (778) |
| 三二六 □纱微…… (753) | 三五·一 刘松龄…… (780) |
| 三二七 程儒良…… (754) | 三五·二 南怀仁(奥地利) |

..... (790)	三七七 蒋友仁..... (848)
三五三 傅作霖..... (805)	三七八 杨若望..... (860)
三五四 □若翰..... (810)	三七九 王若望..... (862)
三五五 嘉类思..... (811)	三八〇 杜纱微..... (862)
三五六 王致诚..... (820)	三八一 吴直方..... (863)
三五七 杨自新..... (826)	三八二 费德尼..... (863)
三五八 □斯唐..... (827)	三八三 艾启蒙..... (864)
三五九 马若瑟..... (827)	三八四 郭方济..... (867)
三六〇 罗班..... (828)	三八五 尚若翰..... (868)
三六一 汤执中..... (829)	三八六 傅安德..... (869)
三六二 石若翰..... (835)	三八七 刘多默..... (870)
三六三 纪文..... (836)	三八八 穆玛诺..... (870)
三六四 □多玛..... (837)	三八九 □若瑟..... (871)
三六五 许方济..... (837)	三九〇 崔保禄..... (872)
三六六 □达德..... (838)	三九一 □兴福..... (872)
三六七 鲁仲贤..... (839)	三九二 钱德明..... (873)
三六八 □西满..... (841)	三九三 康斐理..... (906)
三六九 林德瑶..... (841)	三九四 刘保禄..... (907)
三七〇 孙觉人..... (843)	三九五 郎若瑟..... (908)
三七一 管玛尔..... (843)	三九六 高慎思..... (911)
三七二 归玛诺..... (844)	三九七 穆方济..... (914)
三七三 习若望..... (845)	三九八 毕安多..... (914)
三七四 艾若翰..... (846)	三九九 罗启明..... (915)
三七五 谈方济..... (846)	四〇〇 杨达..... (915)
三七六 马德昭..... (847)	四〇一 张舒..... (915)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 四〇二 卫玛诺…… (917) | 四二七 杨德望…… (970) |
| 四〇三 麦西蒙…… (917) | 四二八 高类思…… (975) |
| 四〇四 毕纳爵…… (918) | 四二九 毕若翰…… (978) |
| 四〇五 林若瑟…… (919) | 四三〇 晁俊秀…… (979) |
| 四〇六 林方济…… (920) | 四三一 金济时…… (1013) |
| 四〇七 骆尼阁…… (920) | 四三二 严守志…… (1019) |
| 四〇八 蓝方济…… (924) | 四三三 甘若翰…… (1019) |
| 四〇九 陶…… (925) | 四三四 巴新…… (1025) |
| 四一〇 韦斯玳…… (926) | 四三五 齐类思…… (1028) |
| 四一一 曹貌禄…… (927) | 四三六 贺清泰…… (1030) |
| 四一二 法安东…… (928) | 四三七 潘廷璋…… (1036) |
| 四一三 伽若瑟…… (929) | 四三八 李俊贤…… (1041) |
| 四一四 冯若望…… (930) | 四三九 侯钰…… (1041) |
| 四一五 河弥德…… (930) | 四四〇 贾克兴…… (1042) |
| 四一六 许立正…… (933) | 四四一 穆类思等四人 |
| 四一七 索德超…… (933) | …………… (1042) |
| 四一八 安国宁…… (936) | 〔附〕穆保禄 |
| 四一九 韩国英…… (938) | …………… (1044) |
| 四二〇 方守义…… (953) | 四四二 卢若望…… (1046) |
| 四二一 刘道路…… (958) | 四四三 阿瓜多…… (1048) |
| 四二二 刘保禄…… (959) | 四四四 范大讷…… (1048) |
| 四二三 姚若翰…… (960) | 四四五 郅维铎…… (1049) |
| 四二四 巴良…… (961) | 四四六 波尔德…… (1049) |
| 四二五 腊伯都…… (962) | 四四七 甘玛诺…… (1049) |
| 四二六 汪达洪…… (963) | 四四八 桂德望…… (1050) |

四四九	傅其达……(1051)	四五九	习安东……(1056)
四五〇	郭玛诺……(1051)	四六〇	德……(1056)
四五一	贡玛诺……(1052)	四六一	齐亚……(1058)
四五二	杨……(1052)	四六二	(阙名)……(1059)
四五三	罗明尧……(1053)	四六三	(阙名)……(1059)
四五四	□保禄……(1053)	四六四	赵中……(1060)
四五五	孟……(1053)	四六五	蔡按铎……(1061)
四五六	皮若望……(1054)	四六六	魏……(1061)
四五七	罗历西……(1054)	四六七	邹……(1061)
四五八	罗若瑟……(1055)		
西文主要参考书……(1063)			
中文主要参考书……(1095)			
本书在传人重要译著书目……(1097)			
译名对照索引……(1147)			
传目索引……(1205)			
后记……(1214)			

序

自明万历迄清乾隆二百年间，为旧耶稣会士在华活动之时期，于传布宗教之外，兼沟通中西学识，撰译无虑数百种，会士事迹可考者近五百人，其留存之史料，关系应甚重要也。然世人所知者，利马窦、汤若望、南怀仁等之历算，雷孝思等之绘图，郎世宁等之绘画，张诚等缔结《中俄尼布楚条约》，冯秉正等翻译中国史书，此外会中杰出之人与其所撰之记录信札，世鲜知之。例如汤若望记清世祖致死之原因，安文思记张献忠据蜀事，卜弥格记永历命赴教廷求援事，皆大事也。治两朝史者，颇鲜征引及之。瞿式耜之入教受洗，在吾人为创闻，而在卜弥格书中竟谓实有其事。吴继善曾受张献忠礼部尚书职，安文思言之历历，其事应非诬也。观此足证此一部史料之重要。

今人所撰关于耶稣会士之书录，以费赖之神甫书最切于用。费赖之神甫书初印本颇罕觐，重印本去岁始完全刊布。惟原稿多舛误，虽经校订人整理一过，缺陷尚多。裴化行(Henri Bernard)神甫在西文方面搜集材料不少，其意颇欲余在中文方面钩稽群书，共同校补。余以其事重，未遑应之。既而思国内研讨此类史料者应不乏人，不如先将此书转为华言，以为大辂椎轮，俾中西学者分别校补。是书立传凡四百六十七人，详略不等，盖为材料所限也。译文除将侈陈灵异之处略为删

节，错误显明之处偶为改正，略加案语外，无所增损。原书不分章节，兹为随译随刊计，分为若干卷，每传前列有参考书目，概属简称。别有主要参考书目表附于全书之后。征引之西书，关涉语言甚众，兹皆转录原文，俾使谙习各种语言者可以直接参考。第一卷校正讫，特识其缘起于卷首云。

一九三六年四月二十五日冯承钧识

绪 言

本书撰者是费赖之〔Louis (Aloys) Pfister〕神甫^①，一八五三年至一八九一年间人，一八六七年至中国。

①钩案：昔传教士几尽具汉姓名，本书卷首未题撰人汉名，检卷末索引，载其人名费赖之，字福民。近人徐宗泽撰《明末清初灌输西学之伟人》，写其名作费赖子，误也。

赖之工考证，一八六九年时已刊布有《江南教区记》；并撰有不少论文载入《天主教各教区会刊》中，又撰有《中国新教区书信集》（石印本）。此外别有《江南传道会地图》一幅，《传教师之目录》数种，数百种语言之《圣母经》等编。

一八七二年八月郎怀仁（Languillat）主教与传道会诸老成练达之士计议，举行科学研究，费赖之神甫担任纂集，所纂诸编中有《江南新教区通史》一部^①。赖之因裒辑材料不少，并在留华之二十三年中撰有日记，逐日记录，未曾间断，惜皆毁于一八九一年五月十二日芜湖之火^②。本人即殁于火灾后数日，时在一八九一年五月十七日也。

①参看史式微（J. de la Servière）《江南传教史》第二卷，一九四页。

②同上书，第一卷序。

然尚留存有重要著作一部，全书已编成，预备刊行，即本书也。赖之编纂此书亘二十年，兹全录其标题如下：

“《始方济各沙勿略(François-Xavier)之死,迄耶稣会之废止,留华传布福音之一切耶稣会士之传记及书录,同会费赖之撰,一八六八至一八七五年撰于上海》

其书凡三易稿,每次发现有新资料,辄补订而增广之。第二次稿本较第一次卷帙更为繁重,题年为一八六八年至一八七五年,前有一八七五年十一月二十二日序。第三次稿本更巨,共有一千四百四十三页(表录未计),合为大八开本,凡五册。成书之时,应在一八八六年顷,盖中有若干参考书籍为一八八五年刊本,然此写本标题仍用前一稿本年月,作一八六八年至一八七五年,并重录一八七五年序^①。

①原序转录于后,惟略将其文删节而已。

此第三稿本中极可宝贵之资料固然甚多,而重大缺陷亦间有之。所引之文及所参考之书,不常详细注明出处,而文笔亦有时疏陋,是其失也。诸道长以为此种缺陷未补,不能核准刊行。会费赖之神甫死,如任此重要稿件散失,未免可惜。于是在一八九七年决定石印若干本,不许售卖。仅许供江南诸教师书室或档库之收藏;非得传道会道长之许可,不得交给外人阅览。

顾自世人知有此列传以后,各方索者纷至,有为其他教区之传教师,有为留心汉学及历史之友朋及欧洲通讯员。由是印本无一存者,乃索者日见其多也。

吾人明知列传必须完全改订。盖自一八八六年以后,关于中国教区史之书籍出版者甚多;各档库之有条理的寻究,所增未刊资料亦复不少。惟现在时间人材并缺,吾人以为等待改订之前,似须应各方不断之求,用史料名义,将费赖之神甫

之《列传》印行，以供诸传教师参考，至其体裁内容则一仍原书①。

①仅有第一传(《圣方济各沙勿略传》)，由史式徵神甫在一九二五年完全改订。

吾人仅(此仅字所代表之工作亦复甚巨)将引文及参考书泛指出处者审订补充之。若干最新之专门著作与伯希和(Pelliot)之研究为之补入。书录部分从新审查一过，据以对勘者，以索默尔沃热尔(Sommervogel)神甫之书录为多。若干年代显有错误者为之改正。于附注中著录异文。地名附以汉字。文笔疏陋者为之润色。此外吾人正从事于一种按照字母次序的总索引(人名地名书题大事)之编纂，如蒙天主乐许，行将附载于本书第二册后。

吾人特应中国诸传教师之请，以此书供其研求。虽有疏误，甚愿彼等得利用之，并请彼等将所认为必须改订增补之处通知吾人。行将综合其文编一附录，慎重保存，以供将来编纂定本之用云①。

①此种文字将刊布于单页中，俾能插载于本书之内。

一九三二年七月三十一日圣依纳爵(S^t. Ignace de Loyola)祭日 汉学研究所识

原 序

吾人现在刊行之书，并非完全新作。先有进士韩霖、张赧二人^①，曾用汉文撰有《圣教信证》。序题顺治丁亥，适当西历之一六四七年。其书之旨趣乃在证明基督教之真实，而传教者之离其祖国并非为欺骗华人而来也。其书在一六六八年及一六七四年刻于北京。

①张赧非进士，仅为举人，见艾儒略(J. Aleni)撰《利玛窦行迹》。

南怀仁(F. Verbiest)神甫曾将此书补订，前有长篇历史绪言；题曰《道学家传》^①。彼于所举公教真实诸证中，对于诸出类拔萃之学者，离其家国，舍其福乐，而谋华人救赎一证，尤深切言之。

①参看本书第一二四传。

柏应理(Couplet)神甫曾将南怀仁神甫之《道学家传》译为拉丁文，于一六八六年刊于巴黎^①。标题作《一五八一至一六八一年传教中国之耶稣会诸神甫名录》，并以《康熙朝之欧罗巴天文》一篇附于南怀仁神甫原书之后。

①参看本书第一一四传。

名录虽佳，然不完备：时间仅限百年，自一六八一年后迄于一七七三年耶稣会废止时之一切入华耶稣会士，皆未著录。尤可惋惜者，此书故将一切辅佐教士之名遗漏，并有神甫数人

因行迹未详而不见于总编。盖以柏应理神甫之《名录》极为简略，所著录者，人名年代与诸传教师所撰之汉籍标题而已。

吾人之目的即在尽吾人之所能，补足此种缺陷，遗者补之，阙者续之，止于旧耶稣会最后会士之死，而于各人之传记书录务求完备。设若资料更较丰富，此编或者更加完全，然读者不应忘者，撰者远处欧洲六千里(Lieues)外，未能参考诸图书馆之藏书，有若干罕觏之书籍未能检阅也。但吾人有一非常便利，即能参考若干写本、中国载籍，及不少殁于北京的古耶稣会士之碑文，斯皆赖得法国驻华使馆第一译员德沃利亚(Deveria)之助。吾人对之诚实热烈表示感谢^①。其经吾人参考之书籍目录别详后编^②。

①德沃利亚，一八八四至一八九九年间人；一八六〇至一八七六年间驻中国。参看《通报》，一八九九年刊，四八一至四八七页。

②见本书卷末。

虽赖此种辅助，吾人对于若干传教师，仅能记载若干事迹年代，此诚堪惋惜者也。但愿有更较博达而幸运较佳之人阐发幽隐，将此种博学信道教士之事迹补辑之。

关于诸传教师之事业，可分为三个时代，读者不难在此《在华耶稣会士列传及书目》中见之。

第一时代始一五八〇年，终一六七二年，约一个世纪，为不少汉文著述撰刻之时代。在此开始时代，必须驳斥偶像崇拜，说明真正教旨，培养信心，满足信念，训练信徒。顾君主贵人之保护，寓有大益，则应用学术方法而获取之。由是最初传教师撰有数学、天文、物理之书甚多，与所撰关于宗教及辩论

之书相等，或且过之。此时期盖为李玛诺(E. Diaz Senior)，阳玛诺(E. Diaz Junior)，罗雅各(J. Rho)，艾儒略(J. Aleni)，金尼阁(N. Trigault)，高一志(Vagnoni)，利类思(Buglio)，安文思(G. de Magalhaens)，柏应理(Couplet)，尤其是利玛窦(M. Ricci)，汤若望(Adam Schall)，南怀仁(F. Verbiest)诸贤圣与博学教士生存之时期。

第二时代始一六七二年，终雍正(一七二二至一七三六)初年；是为北京及诸行省法国传教会产生发展之时代。中国礼仪问题在是时辩论甚烈，时常超过限度，后在本笃十四世(Benoit XIV)时始完全解决(一七四二年七月十一日)。就此一刺激问题曾发表有不少文章^①。《传教信札》即在此时代开始刊布，其叙事繁多，信心虔笃，今尚为读者所嗜读也。科学在是时仍在培植。雷孝思(Régis)神甫等测绘中国地图，冯秉正(de Mailla)神甫翻译中国编年史书，安多(Thomas)，卫方济(Noël)，张诚(Gerbillion)，巴多明(Parrenin)，马若瑟(d'Prémare)，殷弘绪(d'Entrecolles)，戴进贤(Kögler)诸神甫等，从事于满文汉文数理、天文之有用工作。虽有凌虐之事，公教仍传布于全国，是以康熙皇帝曾言：就是基督教之格言及其在中国之进步测之，将来必有一日成为占优势之宗教^②。

①吾人对此问题不愿有所申述，盖其无议论之余地也。宗座业已决定，教会既有断言，任何传教师不能有所怀疑，亦不能发生何种微末抗议。

②参看白晋(Bouvet)《康熙皇帝》，一一三页。

第三时代则见最后之传教师为保持人数逐渐加增的诸教区之信仰，宁愿作勇敢的牺牲，奋斗至于末日。虐待之事，非

续发生，遍延全国。此非撰述之时，必须先其所急也。然在此蒙难时代，如宋君荣(Gaubil)，刘松龄(Hallerstein)，蒋友仁(Benoist)，韩国英(Cibot)，钱德明(Amiot)辈之功绩，诃不伟欤。

兹仅对一重要问题微有一言。此名录中列载之耶稣会士约有五百，其为华籍者七十人。耶稣会外之其他华籍司铎，而经本会会士训练者尚有若干。此种比例据贝特朗(X. Bertrand)神甫《传道会历史记录》所引金尼阁、柏应理、鲁日满(de Rougemont)、南怀仁诸神甫呈进宗座之记录，一六九五年神甫之人数，明白证明本会常欲养成一种本地神职班，在中国抑在他国皆同然也。

吾人对于法国传道会诸神甫所留存之官话写法，务保存之，仅将每字开始之 ou 缀音代以英文之 w 而已。至若吾人引用之文籍，务求按文转录：盖吾人注意之一点，在传记中抑在书录中，参考时固然不免见有差违，然务求引文必为诸原作者著作之语；否则吾人将剥夺其叙述之真实性，而无理由负担未能始终审核之责任矣。

一八七五年十一月二十二日费赖之识于上海

一 方^①济各沙勿略

一五〇六年四月七日生——一五四〇年七月二十七日入会^②。——一五四一年四月二十二日发愿——一五五二年至华——一五五二年十二月二日至三日之夜歿于上川。

兹将记述此远东宗徒与中国发生关系之诸要文鸠集于此，或亦为读者所乐许也。诸文录自西班牙神甫之伟大刊物《沙勿略事辑》^③，克罗(Cros)^④、布鲁(Brou)^⑤二神甫新撰之两部法文《圣方济各沙勿略传》亦多采之。

①薛孔昭(Sica)《耶稣会神甫和修士名录》(以下简称《名录》)(一八九二)作方。费赖之作范。

②是为教宗保罗三世(Paul III)核准耶稣会的敕令颁布之时期。

③《沙勿略事辑》，马德里一八九九年以后刊本，载《耶稣会史辑》。

④一九〇〇年巴黎刊本。

⑤一九一二年巴黎刊本，卷二，二二二页。一九二二年有第二版，吾人所征引者即此本也。

沙勿略最初思及传教中国之日，似在居留日本之时。彼与有学识的日本人，尤与僧人辩论之中，辄惊日本人对其比邻大国之文学哲理深致敬佩，盖此为日本全部文

化之所本也。

- “汝教如独为真教，缘何中国不知有之？”^①与辩者以此语作答不只一次。宗徒于是自思，使日本归依之善法，莫若传播福音于中国。彼在一五五二年曾记述云：“中国乃一可以广事传播耶稣基督教理之国。若将基督教理输入其地，将为破坏日本诸教派之一大根据点。”^②当时沙勿略所得关于中国及其居民之消息甚佳：“留居其国之葡萄牙人谓其为正义国家，优于全基督教界诸国。我在日本及他处所见之华人，皆聪明而多智巧，远为日本人所不及，且为习于劳苦之人也。”^③复有人向其誉扬此国之统一，君主一人治之。若使此君主归依基督之教，其广大领土将必从之也^④。

①《沙勿略事辑》，卷一，六六三页。

②《沙勿略事辑》，卷一，六九五页。布鲁《圣方济各沙勿略传》，卷二，二二二页。

③《沙勿略事辑》，卷一，六九四页以下。布鲁《圣方济各沙勿略传》，卷二，二二一页。

④布鲁译《圣方济各沙勿略传》，卷二，二二二页。

惟应注意者，沙勿略在由满刺加赴日本之途中，于所乘之中国海船上，亦曾见华人之缺点。船主船员常欲避免约定之义务，而彼等之幼稚迷信，曾使沙勿略大感苦痛也^①。

①《沙勿略事辑》，卷一，五七三页。布鲁《圣方济各沙勿略传》，卷二，一一九页以下。

顾沙勿略前在印度创立之传道会，势须本人亲往整

理,于是此宗徒决于一五五一年十一月附葡萄牙船离去丰后(Bungo)。同年十二月抵上川,即彼来年病故之所;在此见其挚友葡萄牙人培莱刺(Diogo Pereira)之船舶圣克罗切(Santa Croce)号,遂附之至满刺加。

沙勿略在航行中,曾以其对于中国之计划告其友培莱刺,最稳妥进入中国之法,要在由印度总督遣使入朝中国皇帝。因拟定培莱刺为使臣,沙勿略随使行,试以此法取得传教之许可。此慷慨商人为堪以接受宗徒秘密之人,彼遂期于来年驾同一船舶往复中国,并自任出使之一切费用。印度总督诺隆哈(don Alphonse Noronha)及果阿主教阿布奎基(don Jean de Albuquerque)皆赞其谋,总督并以使臣之例行证书付培莱刺。

不意满刺加长官阿塔伊德(don Alvaro de Ataíde)之嫉妒,竟将此谋完全破坏。彼见使节之煊赫,愤使节之荣与利为一寻常商人所独揽,留培莱刺于满刺加,不许圣克罗切号前往中国,且以其党羽监视船员。沙勿略用宗座专使名义以谴责胁之,此长官不为所动,反命其党羽凌辱圣者^①。

①布鲁《圣方济各沙勿略传》,卷二,三二五页以下。

沙勿略随同葡萄牙使臣前赴中国之计划,因是抛弃;所余者只有犯冒险阻潜入中国之一法矣。诸友劝其勿行,然彼决意前往。一五五二年八月圣克罗切号载之至上川^①。时已有葡萄牙船数艘先抵此处。有挚友数人见沙勿略至,欢待之。时中国禁与葡萄牙人通商,葡萄牙人只能

与华人私相贸易；广东官吏有利可图，遂视若无睹。中国船舶载土货至上川，以易欧洲船舶所载之货物而归。

- (1)上川亦误作三洲，应以葡萄牙人之上川写法为是，至Sancian 写法乃由拉丁文 Sancianum 所转出，诸传教师信札皆采用之。参看加莱克斯 (Garaix) 撰《上川圣方济各沙勿略墓》，第一页。

沙勿略甫登陆，于葡萄牙人中执行教务之暇，辄与私同欧洲人交易之华商谋，求其设法载之至广东边岸；诸商几尽拒之，实告以不能犯死罪，而密携一外国人入国内。只有一人愿与同谋，约给费二百元(cruzados)，彼将携之至边岸，藏伏其家中，然后载之至广东之一港。沙勿略曾作书云：“我将立时入谒总督。我将告以吾人盖为人见中国皇帝而来。我将出示主教(卧亚主教)呈皇帝书，而书称其派我来此传播天主教理也。据诸土人云，吾人犯冒两重危险。同谋之商人得金以后，或畏总督之威，将吾人弃于某荒岛内，抑掷吾人于海中。纵其携吾人至广东得见总督，总督对吾人将施拷捶，抑将吾人投之狱；盖吾人之举动，前所未闻也。”^①此宗徒对此未来祸患皆愿欢欣受之，盖其忆及主言有云：“爱惜自己生命的就丧失生命。在这世上恨自己生命的就保守生命到永生。”^②

- ①《沙勿略事辑》，卷一，七八三、七八四页。布鲁《圣方济各沙勿略传》，卷二，三四六页。

- ②《约翰福音》十二章二十五节——《沙勿略事辑》，卷一，七八五页。

此书作于十月二十二日。载彼来此之船将载其惟一欧洲同伴而归，盖修士费雷拉(Alvaro Fereira)身体孱弱，不能任

此劳苦,犯此危险。沙勿略仅存二仆,一为马拉巴尔人克里斯托夫(Christophe),一为中国青年安敦(Antoine),此人曾受业于果阿学院。诸葡萄牙船贸易已毕,次第离上川去,仅圣克罗切号留待十一月末始行。约期既届,所约之华商不至,由是进至广东沿岸之希望完全断绝^①。 4

“足使此衰朽之身尚在一线生气之希望忽然断绝,机能遂复旧状,永无能为矣。”^②方济各发热甚剧,所患者或为肋膜炎,百物皆缺。在所居之茅屋中饥寒交迫。十一月二十二日试移居圣克罗切号上养病,然风浪簸动船舶,苦不能耐。翌日复还岛上。有一较为慈善之葡萄牙人接之至其小木屋中,为之放血。放后圣者晕绝,殆因手术之不善也。热度日增,不能进食。二十四日发谵语,其语有为安敦所不解者,殆为其儿时所操之巴斯克语^③。余语由其义仆忆而不忘者,则为迭言之:“请您怜恕我的罪过,耶稣,大卫之子,怜悯我吧!”十一月二十八日星期一,圣者不能语,不识人,不进食,如是凡三日。十二月一日星期四,语言知识恢复,安敦闻其迭言:“最圣之三位一体、圣父、圣子、圣灵。”此华仆续述云:彼作如是语及其他相类语,至于星期五夜半。将近黎明前,我见其垂危,以一烛置其手中。彼口诵耶稣之名而终。事在一五五二年十二月三日星期六之黎明前也^④。

① 克罗《圣方济各沙勿略传》,卷二,三四六页引华人安敦语。

② 布鲁《圣方济各沙勿略传》,卷二,三六三页。

③ 《沙勿略事辑》,卷二,八九五页以下——参考克罗

《圣方济各沙勿略传》，卷二，三四八页注。

- ④《沙勿略事辑》卷页同前。圣方济各沙勿略去世时日问题，曾引起热烈之争论。迄于十九世纪末年，虽有若干异说，世人所从者，要为罗马圣务日课著录之十二月二日。至是克罗神甫有所发现，遂在其书卷二引证华人安敦语，而认其说近真，乃将死日改作十一月二十七日。布鲁神甫曾从其说。（第一版，卷二，四四二页。）然为阿斯特兰（Astrain）与米切尔（Michel）二神甫所驳。《沙勿略事辑》卷二，刊行，内载有华人安敦语，较克罗神甫所引者更为完备，以更较真确，由是纷争遂息，而取十二月二日夜至三日黎明之说。（《沙勿略事辑》，卷二，七八七至七九二页）。纷争之说业经布鲁神甫明白节录于一论文中，载入《宗教学研究》。（一九一六年五月至九月刊，三二八页）。彼亦取十二月二日夜至三日晨之说，而载入其书第二版卷二，四四二页中。

圣克罗切号上之葡萄牙人除一二人外对于沙勿略之死皆淡漠视之。宗徒死后，彼等且不知为适当之殡葬。仅有一人往助华人安敦及二黑白混种人料理葬事。余皆“因天气酷寒”未下船也。

- 5 棺木下穴时，其一黑白混种人，于尸体上下撒石灰数袋，将以此消血肉而留骨骼，俾将来容易运至印度。下棺以后，以土掩之。

逾两月有半；次年二月半间，圣克罗切号将行。义仆安敦往见船长而语之曰：“船长，方济各神甫乃一圣贤，遗

体弃置于此欤？”船长答曰：“安敦，彼之为人诚如汝言……然汝欲吾人何为？盖我不知其遗体是否可能运走。我将遣人往视，如可运则运归。”船长立遣一亲信人往葬所，破土开棺，见神甫遗体与葬时无异，除石灰外，别无臭味或其他异味。遂并棺运至圣克罗切号上。二月十七日开船，进向印度。三月二十二日至满刺加，至是方济各之凯旋开始矣^①。

①此处皆节录华人安敦之语（《沙勿略事辑》卷页同前，又布鲁书，卷二，三六八页以下）。嗣后弃置沙勿略于岛山之葡萄牙人刊布别说，欲以自解，然其可信之程度不能与上说侔也。

埋葬宗徒二月有半之墓穴，后为诸教侣巡礼之所。次年修士阿尔卡佐瓦(Pierre de Alcazova)归自日本，曾至上川，于前葬方济各神甫墓穴之前祈祷^①。

①克罗《圣方济各沙勿略传》（以下简称《沙勿略传》），卷二，三六二页。

一五六五年，即方济各神甫死后之十三年，有耶稣会神甫八人，从道长佩雷兹(François Perez)神甫至澳门，建设住所一处，即后为传教日本之传教师之疗养院^①。忠仆安敦既亲视方济各之死，复将埋葬圣者遗体两月之旧穴用石志之，后居澳门诸神甫所以终余年；以理测之，其重赴上川似不止一次，殆因导教中人巡礼葬所也。

①参看本书第三传。

一六三九年澳门诸神甫在圣者旧墓上立有石碑，迄今尚存，可以为证。其一碑上勒文曰：“东方宗徒耶稣会士圣方济各沙勿略曾葬此处。”如上所述，具见诸神甫曾视其地确为宗

徒葬所无疑。

- 4 墓碑后为土人所推倒。盖土人以下有宝藏也。一六八八年耶稣会士骆斐理 (Philippe Carossi) 神甫过上川时重为立之。

一六九八年俺斐特里特号 (Amphitrite) 载法国传教师十一人赴中国, 十月六日至上川。诸神甫曾至圣墓巡礼。马若瑟 (de Prémare) 在一致夏斯 (de la Chaise) 神甫书中, 曾遗留有感人肺腑之叙述也^①。俺斐特里特号船员先在一大风暴中获沙勿略之庇荫, 因共醴资在圣者墓上建礼拜堂一所。

①一六九九年作于广州, 见《传教信札》, 卷三, 一三页。

一七〇〇年, 都加禄 (Turcotti)、利国安 (Laurcati) 二神甫得广州总督之许可, 于距葬所七八里处建一住所, 于墓上建一小屋; 礼拜堂以石建筑, 方广各三公尺五十四公分, 上立一十字架^①。

①建筑师卡斯特奈 (Castner) 神甫致耶稣会长贾札勒兹 (Thyrse Gonzalez) 书, 见《威尔特-博特》(斯托克林及其继承者), 三〇九号。

一七〇一年俺斐特里特号重载法国新来传教师又至上川, 沙守信 (de Chavagnae) 神甫于一七〇一年十二月三十日致书中曾述此印度宗徒重救俺斐特里特号船员, 而诸法国船员敬礼事: “先鸣炮, 然后庄严连诵此圣者名, 嗣在停泊之十五日中, 用种种方法敬礼此印度宗徒。吾人几逐日在其墓上举行弥撒, 船员敬奉之虔, 颇使吾人欣慰也。”^①

①《传教信札》，卷三，五一页以下。

当此十八世纪初年，康熙皇帝欢迎教士之时，教士往来甚易，澳门诸神甫必亦有赴上川巡礼者，然其事今已无可考见。在至十八世纪之后七十五年间，虐待宗教之事起，继续巡礼殆不可能矣。

一八一三年虐待之事稍息，澳门主教沙钦(Francisco Chacim)曾偕葡国侨民多人巡礼圣墓，命其书记笔录其事①。一六三九年所建之碑尚存，然礼拜堂则已倾圮矣。

①加莱克斯《上川方济各沙勿略墓》(以下简称《沙勿略墓》)，一六页以下。

一八六二年耶稣会士重还澳门，盖自一七五九年被庞拔(Pombal)驱逐以后，绝迹久矣。两年后，道长隆迪纳(Rondina)神甫率百余人赴上川巡礼①。自是以后，香港、广州、澳门之公教徒，常赴上川祈祷。

①见巴黎《研究》杂志一八六六年刊第十一卷，五四九页。

提倡敬礼此印度宗徒末年受苦难地而最热心者，要 7
为外方传道会之吉尔曼(Guillemin)，时任广东教监，而上川为其辖境也。法国驻京公使拉勒芒(de Lallemand)伯爵曾应其请，排除一切困难，得在岛中建筑礼拜堂二所，一在圣方济各沙勿略墓上，一在两村之间，是为传道会之教堂。墓上礼拜堂之祝礼，于一八六九年四月二十五日举行。参礼者有广州法国领事馆书记官，法、意、葡三国传教师，广州、香港、澳门等地之巡礼人。堂长二十公尺，宽十公尺，钟楼高二十三公尺，并有哥德式精制钟

一口，法国皇后欧仁妮 (Eugénie) 所赠也^①。嗣后又有岛中两高岗上立花岗石大十字架一具，宗徒铜像一尊。

①见《传教年鉴》一八六九年九月及十一月刊，三九七及四一一页吉尔曼教监和奥苏夫 (Osouf) 神甫的通讯。

一八八四年中，法失和，上川之二礼拜堂因遭劫掠。迄于一九〇四年时，岛中传教之事停顿，无一司铎驻留岛上。

至是梅雷 (Merel) 主教命外方传道会之托马斯 (E. Thomas) 神甫赴岛传教，两村间之教堂及墓上之礼拜堂并皆修复。志愿受洗人遂开始增加矣^①。

①上述诸事见前引加莱克斯神甫书。

近有一事曾使入教运动大为活泼。一九一〇年及一九一一年时，有盗贼来自广州，劫掠岛中村庄数次。昔日反对传教之神甫者遂求助于公教传教师。梅雷主教应托马斯神甫之请，求广州总督遣炮船二艘载兵赴岛平乱。

乱事平后，盗贼或伏诛，或逃走。岛中居民遂感神甫恩，志愿受洗者以千计；受洗者数百人^①。因沙勿略死而成圣地之岛屿，将有一日成为基督教地，可预睹也。

①见《中国记录》一九一四年四月刊，三五九页以后托马斯神甫通讯。

二 巴莱多

——一五五七年发愿——一五七一年八月十日歿于果阿。

方济各死后，继至中国之第一传教师是修士阿尔卡佐瓦，彼于一五五三年还自日本，路经上川，曾临视墓穴^①。

①见布隆迪尼(Aires Blondini)修士自一五五四年十二月二十四日信札，此信札业经重为校勘，收入《沙勿略事辑》，卷二，九一九至九四九页。

但应承认者，阿尔卡佐瓦之本意不在入居中国。然巴莱多(Melenior Nunez Barreto)神甫则反是。

巴莱多在一五五一年被派至印度，继巴尔则(Gaspard Barzée)神甫为日本区长。一五五五年在赴日本途中，曾为赎三葡萄牙人与其他三基督教徒出狱事，留居广州二月。虽尽其力，而所谋未遂，亦未能使一华人受洗。他曾与一著名文人作公开辩论，其人词屈，愤而唾其面。

巴莱多以一五二〇年生于波尔托。一五四三年三月十一日入会，科英布拉学子入会者，彼为第一人。一五五七年发愿。一五七一年八月十日歿于果阿。

彼离广州时，曾留修士戈兹(Etienne Goez)于彼学习华语。然此修士学习过劳，因而致疾，越六月遂还果阿^①。

①苏查(Francisco de Souza):《征服东方》，卷一，七〇〇页。

巴尔托利(Bartoli)《中国耶稣会史》四九页。弗兰格(Franco)《耶稣会的新兴年》，四五九、七一九页。

《印度日本信札》(卢万，一五七〇年)所收巴莱多神甫之信札有四。第一是一五五四年致圣依纳爵(St. Ignace)书，述方济各死及日本会务事。(八六页以下。)第二是一五五五年

- 十一月二十三日致印度诸同僚书，述自满刺加赴新加坡及自新加坡赴上川在圣方济各墓前举行弥撒事。（一二九页以下。）并在此书中述中国事尤致意于广州城市政治风俗等事。曾言华人人教之困难及成功之方法；书末言其赴日本事。第三是一五五八年一月八日在柯枝致本会士书，述浪白溜(Lampacum)与广东之邻城，并详言日本事。（一五四页以下。）第四是一五六一年十二月三十一日书，亦发自柯枝，仅存节略，彼在此书中拟偕葡萄牙使臣赴中国。（二六一页以下。）^①

①关于巴莱多神甫者，参看汾屠立(Tacchi Venturi)

《利玛窦神甫历史著作集》（以下简称《历史著作集》）一〇五页注三。

闻尚有信札数通^①，不知其内容有无关系中国传道会事。其于一五五八年一月十三日在果阿致耶稣会长书内含有《中国日本传教情报》（威尼斯，一五五九年）^②。

①参看索默尔沃热尔《耶稣会作家书目》（以下简称《书目》），卷五，一八四一栏以下。

②巴莱多神甫信札之关系中国者列下：一五五四年一月在果阿致圣依纳爵书，言方济各死事。（《沙勿略事辑》卷二，七五五页引。）

一五五四年五月在柯枝致圣依纳爵书。（同上书，七五五至七七一页。）

一五五四年十一月三十日在满刺加致里斯本耶稣会书（费弗尔（Faivre）《日本传道会信札》三三至三七页。）

一五五四年十二月三日在满刺加致圣依纳爵书。(《沙勿略事辑》，卷二，七四八至七五五页。)此书在一五五五年发出，九月达里斯本，复于十月十五日转寄意大利，十一月二日达罗马。(布鲁《沙勿略传》，卷二，三九一页注二。)据舒尔哈默尔(Sehurhammer)《平托游记》，载《大亚细亚》，一九二七年，二〇页)，此书似致米罗(Mirao)神甫者。

一五五五年十二月二十三日致果阿耶稣会士书。此书虽有人谓发自广州(费弗尔《日本传道会信札》，七二至八五页)或上川(舒尔哈默尔《佛罗伊斯》，四九页)，或自澳门发出〔波兰科(Polanco)《耶稣会年鉴》，卷五，七一四至七二一页〕。蒙德兹·平托(Mendez Pinto)亦于一五五五年十一月二十日在澳门作书(舒尔哈默尔《平托游记》，二一页)。

一五五八年一月十日在柯枝致葡萄牙耶稣会士书。(舒尔哈默尔《佛罗伊斯》，五二至五五页和上引费弗尔书一一三至一一九页皆有转录。)此书与费赖之神甫题作一月八日之书似为一书。

一五五八年一月十五日(非一月十三日)书。此书含有一葡萄牙人被俘之报告。

巴莱多神甫居满刺加时，有一葡萄牙人曾困中国牢狱六年者，对其述中国事甚详。舒尔哈默尔《平托游记》，六一、六二页；考狄(Cordier)《西洋人论中国书目》(以下简称《书目》)七九〇至七九一页；《沙勿略事辑》，卷二，七五五页；上引波兰科书，卷二，八〇五页；别有平托在一五五

四年十二月五日作于满刺加之一书，亦应加入。

一五六一年十二月三十一日书。雷伯洛 (Brito Rebelo) 于一九一〇年在里斯本重刊《平托游记》时曾刊布平托二书，巴莱多三书，弗罗兹 (Luis Froez) 二书。

弗罗伊斯神甫在一五六一年从满刺加寄回被俘葡萄牙人彼雷拉 (Galiote Pereira) 之《中国情报》，加戈 (Gago) 神甫曾见之。(舒尔哈默尔《平托游记》，六一页注一。)

以上皆裴化行神甫补注。

三 培莱思 葡萄牙人

一五六五年入华。

巴莱多神甫经行后未满六年，葡萄牙国王塞巴斯蒂安 (don Sébastien) 承其父约翰三世 (Jean III) 遗命，命印度新总督雷顿多 (don François Coutinho de Redondo) 遣使赴北京。遂以方济各之挚友彼雷拉 (Jacques Pereira) 为首领，率领耶稣会士数人往。彼于一五六二年四月偕培莱思 (François Perez) 和泰玛诺 (Emmanuel Texeira) 二神甫及安德·平托 (André Pinto) 修士 (有一旧抄本谓第三人是加戈 (Balthazar Gago) 神甫^① 自果阿向广州出发，一五六三年七月二十六日抵澳门。中国人疑之，不许入境，迁延二年，诸神甫进入中国内地之计划终归完全失败^②。

①案加戈神甫未预使列，其事甚明。此神甫以一五二〇年生于里斯本，研究文典四年，然后在一五四六年入会，一五四八年奉派至印度，一五五二年圣方济各遣之赴日本。

传教日本八年,以疲劳故,于一五六〇年十月二十七日自日本首途还,遇台风,漂流至海南岛。是年十二月二十四日始抵澳门。一五六一年一月一日重在澳门登舟,同月二十日抵满刺加。后在一五八三年歿于果阿。其在一五六二年十二月十日发自果阿之信札,于研究中国传教史上颇有关系。(裴化行神甫补注。)

- ②培莱思神甫事迹,阅布鲁《沙勿略传》(卷二,四六九页)者皆熟知之。其奉使之情形详见撒奇尼(Sacchini)神甫书第二部分,卷七,一二七至一三〇页、一四〇页。前引苏查神甫书,卷一,七三八至七四〇页;卷二,三七二至三七三页。

一五六三年时,彼曾得澳门代主教贡查勒斯(Gregorio Gonzalez)之许可,于圣周中组织一种圣迹游行。在此年中曾偕泰玛诺神甫及派赴日本诸神甫等为葡萄牙人执行教务,并使若干华人人教。(见苏查神甫书)(裴化行神甫补注)。

泰玛诺神甫信札可考者,有一五六四年发自广东之一信札,见《神甫们来信》(科英布拉,一五七〇年)三七七页著录①。

- ①尚有一信札系一五六九年一月二日发自果阿者,见斯特莱特(Streit)《传教士著作书目》(以下简称《书目》),卷四,一二九五号。

次年培莱思复谋入内地,一五六五年十一月二十一日进至广州,上书二通于中国官吏,一华文,一葡文,述其职业,莅华之目的,与其欲居中国之志愿。中国官吏以旧

例不许外人入居中国，拒绝不允。〔苏查《征服东方》，卷二，三七一页。巴尔托利《中国耶稣会史》，一五〇页。高龙肇 (Colombel)《江南传教史》卷一，一五页以下。蒙塔托 (Montalto)《澳门史》，三〇〇页〕。

一五六五年培莱思神甫始在澳门建一小屋以为驻所。未久改驻所为学校。嘉尔定 (Cardim) 神甫之《日本教省报告》(1645) 法文译本九页记有云：“澳门之本会学校建筑于一高处，平常足容六十人。已而改为大学，授诸学科，自文典以至神学皆备，毕业者授博士学位。吾人之礼拜堂兴建于一六〇二年，装饰甚丽，堂前正面有诸圣者铜像，复有圣母像及圣伯多罗 (St. Pierre) 及圣保罗 (St. Paul) 二宗徒像。诸神甫在学校外别为华人建筑圣母庇荫之礼拜堂一所，凡入教者皆于其中受洗，诸神甫等在其中用华语说教。……附近有志愿受洗人居处一所，小修院二所，一为葡萄牙儿童设立，一为日本人设立。”

一七五九年葡萄牙国王驱逐境内耶稣会士时，此礼拜堂及学校，并为澳门参事会没收。学校变为军营。礼拜堂则在一八三五年一月二十六日毁于火。火起于午后六时，至八时一刻，全堂皆烬，仅余堂之正面独存，见《海陆军年报》第 10 号，一八四三年；参看马尔克 (Marques)《澳门大事报导》，九页以下。考狄《葡萄牙人至中国》，载《通报》第二十二卷，(一九一一年)，四八三页以下〕。

四 黎伯腊和黎耶腊 葡萄牙人 11

黎伯腊 (Jean-Baptiste Ribeyra) 和黎耶腊 (Pierre-Bonaventure Riera) 二神甫于一五六八年抵澳门^①。耶稣会长莱奈兹 (Jacques Laynez) 曾命彼等务用种种方法进入中国内地。彼等始求广州官吏许彼等入广州城，广州官吏拒之。黎伯腊神甫气质颇欠沉着，不顾诸道长之言欲密入广州。因与一中国船主同谋，冀于夜间乔装潜入内地。孰知船主狡诈，应如约载之至南安者，乃载之重返澳门。苏查《征服东方》，卷二，四一三页^②。

①时澳门城甫兴。葡萄牙人初至澳门，事在一五五四年，盖因货物为风雨所浸，欲在澳门滩上曝晒也。先是葡人贸易之所，在上川或浪白濠等处。曾在其结地有茅屋若干，已而商人用砖石木料建筑房屋。一五五七年时有若干中国叛人凭踞澳门，抄掠广州全境，“所过之处，肆为焚毁，受害者不仅乡野，村镇亦受其劫。省中官吏不能剿灭盗贼，求助于上川之葡萄牙人。葡萄牙人为数仅四百，赖天主及圣方济各之助击散群盗。中国人奖其功，许葡萄牙人在澳门停留居住，惟不许其筑城置炮。”嘉尔定《日本教省报告》，六页。

一五八六年四月十日，此城正式名曰“中国天主之城”，并赋以若干特权。（上引马尔克书，三四页）。

一五八三年印度总督梅内塞斯 (Édouard de Menezes) 在澳门设置参事会一所, 一五九一年西班牙葡萄牙国王菲利普二世 (Philippe II) 核准之。〔桑巴约 (Man. de Campo Sampayo)《澳门的中国人》, 五六页。〕参看上引蒙塔托书十八页以下。考狄《葡萄牙人至中国》, 载《通报》第二十二卷 (一九一一年), 五四九页以下。

- ②黎伯腊神甫盖为幼年枢机员巴罗梅 (Cardinal Charles Baromée) “归依” 事而离罗马。(一五六五年九月五日。) 彼与黎耶腊神甫在一五六七年同离果阿而赴澳门。

在澳门失败后, 重返果阿, 于一五七四年复归欧洲, 担任会中总会计员兼书记等重要职务。(舒尔哈默尔《弗罗伊斯》, 二六一页注二。)

现存有一五七五年十月十八日致会长信札一件残文。(汾屠立《历史著作集》, 卷一, 一〇六页注。)

黎耶腊神甫系于一五七四年十月在果阿海中溺毙。见上引苏查书, 卷二, 一八页。(裴化行神甫补注。)

五 加奈罗 葡萄牙人

一五四三年四月二十五日入会——一五七六年入华——一五八三年八月十九日歿于澳门。

加奈罗爵 (Mgr Melchior Carneiro) 生于科英布拉。

一五四三年四月二十五日入会。一五五一年被任为埃武腊学校校长。一五五五年任尼斯主教。是年即赴澳门管理此广大教区。

一五七六年有幼年僧人入教受洗者，被同国人勒令出教，他曾赴广州为之辩护。此新入教之僧徒曾被杖，投狱中。主教虽持有护照，脱非同行葡萄牙人之助，几不能出中国法庭。但彼终不愿弃此新信徒，为之力辩，法官终释此新信徒出。

嗣后彼在澳门为异教徒及基督教徒各建医院一所，于一五八三年八月十九日歿于澳门之中国城中^①。其遗体葬于圣保罗教堂内，时人为建一壮丽墓堂。〔苏查《征服东方》卷二，四七九页。聂雷姆堡(Nieremberg)《英雄传记》，卷三，六九〇页以下。〕

①先是加奈罗(Carneiro)辞职，曾被许可，盖在一五六九年萨阿(don Léonard de Saa)曾奉命继其任也。此主教何时至澳门未详，一五八二年时，必已抵任。一五九七年，彼在果阿赴澳门途中，亚齐附近，曾被马来海盗所俘。后教区分为二，日本教区归耶稣会莫赖斯(Sébastien de Moraes)神甫管理，中国教区于一六〇五年归宣教师会(Ordre de Prêcheurs)之皮埃达德(Jean de Piedade)神甫管理。(苏查《征服东方》，卷二，五九〇页，考狄《葡萄牙人至中国》，第一章。)

加奈罗爵信札现存者有二，一为一五五五年发自莫桑比克者，一为一五五七年十二月二十四日发自果阿者，并与中国毫无关系。《澳门书信》载有一五六二年十一月二十日致格拉尔(Geral)神甫书，内言冀于中国开辟一传道会事。〔《东印

度通讯》(八开本,威尼斯,一五八〇年)和《日本通讯》(罗马,一五七八年)。参看索默尔沃热尔《书目》,卷二,七五七栏以下。〕

六 范礼安 意大利人

一五三八年十二月二十日生^①——一五六六年五月二十九日入会——一五七三年九月八日发愿——一六〇六年一月二十日歿于澳门。

范礼安(Alexandre Valignani)神甫字立山,生于那不勒斯国之基耶提城,名族之裔也。年未十九得帕度亚大学法学博士学位,为枢机员之旁听员。一五六六年在罗马入耶稣会,同年五月二十九日入圣安德修院。见习并研究神学二年,为修院助教,晋司铎后,为修院教习。

①布鲁克尔(Bruker)考订作一五三九年二月。

默库里安(Everard Mereurian)神甫见其能,立囑其发四愿,命为东方全境之视察员兼副主教。范礼安于一五七四年偕同伴三十八人自里斯本首途赴印度。视察毕赴澳门(一五七八),留十月,旋赴日本。(聂雷姆堡《英雄传记》,卷四,四八〇页以下。)

彼见本教未被中国,极为感动。中国虽拒外人人境,然不足以阻其行。最初尝试失败,彼不因之而气馁。曾德昭(Semedo)神甫记有云:“闻人言范礼安神甫一日在澳门学校窗内目瞩陆地,而大声呼曰:‘岩石!岩石!汝何时得开?’”(曾德昭《中国通史》,二五三页。)

范礼安乃解其事业经营以前，须先训练职工。最要之条件，首重熟悉华语。于是函请印度区长鲁伊兹（Vincent Ruiz）遣一堪任此职之人来，并于离澳门前笔录其旨，以备未来传教师开始肄习者参考之用。

初奉命者是弗拉利斯（Bernardin de Ferraris），然未及赶至柯枝乘船出发。遂以罗明坚（Michel Ruggieri）^①神甫代其往，其后不久利玛窦（Mathien Ricci）、巴范济（François Pasio）二神甫继之。范礼安至日本，劝化有马郡（Arima）藩主及其家属数人入教，为之授洗，劝奉基督教之藩主三人遣使往朝教皇，并建设学校和小修院数所〔金尼阁（Trigault）《基督教远征中国史》，八八页〕。

①北平图书馆藏抄本作罗明鉴。

彼巡历诸国三次，陆续航行印度及中国海上垂三十二年，后于一六〇六年一月二十日歿于澳门。当时教中名人拟其事业与圣方济各等，而埃武腊之大主教布拉甘斯（don Teutonio de Bragance）曾以“东方宗徒”之号奉之。

范礼安神甫之遗著可考者如下：

（一）《一五八〇——一五九九年关于日本与中国通讯》，载《埃武腊文集》；《一五八〇年神甫们的来信》。

（二）《给日本及印度各族信仰坚定的基督徒的公开信》，载波赛文编《特选书目》，卷一，第十和十一册。

（三）雅利克（de Jarric）神甫（《在印度发生的最令人难忘之事》，卷二，第一七章）以为别有一书亦出范手，书题《中国奇闻》。考耶稣会士雨果（Hugo）所撰书《日本、印度与秘鲁札记》（安特卫普，一六〇五年，八八三至九〇

○页),确著录有书名《中国奇闻》,疑为范之著作,今日尚可完全采录。此书今重刊于《沙勿略事辑》,卷一,一五八页以下。(参看汾屠立《利玛窦神甫历史著作集》,卷二,四一七页注二。)

雨果神甫书九一一页著录有范礼安之别一信札,系于一五八六年一月十七日在柯枝致耶稣会长阿奎维瓦(Aquaviva),言中国传教之进步及其未来之希望^①。

①利玛窦对于中国教徒适用礼仪之训令(见《利玛窦传》附注),范礼安神甫曾审查而核准之。毕嘉(Gabiani)《中国教会许行礼仪之辩论》卷一,载巴黎《研究》,一九一〇年,第一二四卷,七七五页。

汾屠立《历史著作集》,卷一,五二页注二列举有一五八〇至一五八九年间范礼安致耶稣会长之信札。考狄《西洋人论中国书目》七九四、七九五、八〇〇页。著录有二札,一发自柯枝,作于一五八七年一月十四日,一作于一五九九年十月十日,并致耶稣会长。

海(Hay)神甫(非雨果)《日本印度秘鲁札记》,九一一页著录之柯枝信札,所题年月是一五八八年一月四日,费赖之作一五八六年一月十七日,上引索默尔沃热尔《书目》,卷八,四〇五页作一五八二年,并误。(裴化行神甫补注。)

(四)尚有若干信札见瓦里格南尼(Federigo Valignani)《查理七世王朝之诗》(八开本,那波利,一七五一年。参看索默尔沃热尔《书目》,卷八,四〇三栏以下。)

七 罗明坚 意大利人

15

一五四三年生——一五七二年十月二十八日入
会——一五八〇年^①入华——一六〇七年五月
十一日歿于萨莱诺。

罗明坚^② (Michel Ruggieri) 神甫字复初，生于那波利国韦诺萨教区中之斯皮纳佐拉城。受两种法学博士学位，曾在朝中任显职。二十九岁辞职入修院学道。彼自觉宜于传道远方，遂不待神学研究完毕，请于默库里安) 神甫，得派赴印度。一五七八年偕阿奎维瓦、巴范济、利玛窦、斯皮诺拉(Nicolas Spinola) 诸神甫等在里斯本登舟。抵果阿，区长鲁伊兹 (Vecent Ruiz) 神甫遣之至佩切利亚 (Pécherrie) 沿岸劝化异教人入教，已而命之至柯枝乘船赴澳门。〔弗兰格(Franco)《卢西塔尼亚教省年鉴概要》，一一六页。聂雷姆堡《英雄传记》，卷四，三三四页以下。〕

①薛孔昭《名录》作一五八一年。

②北平图书馆钞本作罗明鉴。

一五七九年七月抵澳门，范礼安神甫已行。彼接读范礼安神甫所留之训示决严守之。惟后此曾对人言，彼得悉训示之内容后，大惊骇，脱非忆及服从之义，将为之气沮。自是以后，诸友识辈以其虚耗有用之光阴，从事于永难成功之研究，有劝阻者，有揶揄者，然彼皆不为所动。只有葛安德(Gomez)^① 神甫一人始终鼓励之。(本

19

一五八〇年十一月八日致会长默库里安书，见汾屠立《历史著作集》，卷二，三九七页以下。）

①葛安德神甫西班牙人，约在一五三四年生于昂特克腊。

一五五三年入葡萄牙之耶稣会，教授哲学八年，已而教授神学，并在特赛腊岛执行教务。后被派赴日本。然曾停留澳门若干时。嗣后任日本副区长九年。于一六〇〇年二月一日歿于日本。遗有若干关于中国之记录。〔阿勒甘布(Alegambe)《耶稣会作家书目》(以下简称《作家书目》)六七三页。〕

“彼尚感有另一困难。澳门团体诸道长意度其永远不能操华语，写华文，常阻扰其学业，而命其执行教务。范礼安神甫闻之，作书谕诸道长，禁其阻扰彼之学业。”〔斯特一弗伊(Ste-Foi)《利玛窦传》，二六六页。〕

罗明坚神甫之第一授业师为一中国画师，利用其毛笔教授中国文字形义。迨彼自信所学已足之时，遂欲入中国内地。盖彼以为必须与中国官吏相应接也。〔金尼阁《基督教远征中国史》(以下简称《远征中国史》)，二三四页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，一〇九页以下。〕

时葡萄牙人与中国贸易，每年有一定时期，限在广州附郭举行，日入后葡萄牙人必须归舟，不许逗留中国境上。罗明坚神甫利用此种情况而与中国若干官吏接近，请许彼留居陆上。盖其在呈文中云：既为司铎，必须逐日敬奉天主，不能处处追随葡萄牙人也。

中国官吏似认其请求正当，许其居陆(一五八〇年)。且喜见一欧罗巴人善华语，许其居于每年款待暹罗贡使之驿馆中。

由官吏之优待，遂引起华人之注意，尤引起澳门华人之注意，因有数人意欲入教。罗明坚神甫居澳门时，建设志愿受洗所一处。（金尼阁《远征中国史》，二三七页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，一一〇页以下。）

时两广总督狡而贪，命人至澳门谕澳门长官及主教，用欧罗巴商人首领之名义来肇庆晋謁。是加辱于葡萄牙人也，然无敢违命者，缘澳门甫兴，违之则有碍于澳门之将来。葡萄牙人乃取一折衷办法，以罗明坚神甫代主教，以一富商代澳门长官，责贵重物品往，以贖足总督之贪心。遣使抵肇庆，受盛仪之款接。总督见所呈之异物甚喜，许罗明坚神甫居留内地。（前引金尼阁书，二四六页以下。前引汾屠立《历史著作集》，卷一，一一二页以下）① 17

①罗明坚神甫居肇庆时，菲律宾参事会及总督于一五八二年遣桑切斯（Alphonse Sanchez）神甫赴澳门，宣示西班牙葡萄牙两国合并，同隶菲利普二世（一五八〇）事。此神甫善于游说，澳门长官达尔迈达（don Juan d'Almeyda）诸管理员暨主教萨阿（L'conard de Saa），并承认新主而表示服从。至是桑切斯神甫遂赴广州，欲与中国官吏议中国与菲律宾群岛自由通商事。彼曾与罗明坚神甫会商，然两广总督拒见西班牙使臣，此神甫遂返马尼刺，旋归西班牙，于一五九三年五月二十七日歿于阿耳卡拉。其人以一五四一年生于蒙德加特拉（Mondejartra），一五六三年入修院。马德里图书馆藏有此神甫所撰抄本一部，题曰《中国特殊事项记录》，一九二页。〔阿勒甘布

《作家书目》，四一页。科林（Colin）《历史》一七一页以下。〕

会利玛窦新抵澳门，携自鸣钟一架来。总督陈某欲得钟，致书罗明坚，延之至肇庆，嘱携钟与俱。一五八二年十二月十八日明坚偕巴范济神甫，又修士一人，中国青年数人，于十二月二十七日抵肇庆，得许居东关某佛寺，是为中国内地之耶稣会第一会所。（金尼阁《远征中国史》，二三七页以下。）

当是时也，总督黜职，二神甫被迫重返澳门。范济入中国内地之望既绝，遂奉视察员命登舟赴日本。明坚、玛窦因建设房屋及礼拜堂各一所事，请命于新总督郭某^①，皆未获准。已而新总督意转，二神甫于一五八三年九月首途赴肇庆。（上引金尼阁书，二五页。巴尔托利《中国耶稣会史》，一七二页。）

①钩案：《明史》卷一二一：郭应聘字君宾，莆田人，嘉靖二十九年进士。万历中进右都御史，兼兵部右侍郎，总督两广军务。前总督多受将吏金，应聘悉谢绝。又考《广东通志》应聘总督两广，事在万历十一年（一五八三年）至十四年（一五八六年）间。

先是明坚居肇庆时，有附生Kin Ni Ko^①者研究教理，习诵祷文，明坚曾建一神坛于某家。明坚等重返肇庆时见神坛如故，附生某并大书“天主”二字于上，并逐日跪坛前致祷词。（金尼阁《远征中国史》，二六六页。汾屠立《历史著作集》，卷一，二七页以下。）

①此名译写应误，利玛窦作 Cin Ni-Co（汾屠立《历史著作集》，卷一，一二六页）或 Cin nico（卷二，一四九页）。其姓为陈、为郑、为秦，皆未可知，然不得为朱。其人受洗

名若望。(德礼贤神甫补注。)

其人虽有志信教，然非受洗之第一人。一日诸传教 18
师行城墙下，见一病者衣襟褴褛卧地上。罗明坚神甫悯其苦近前慰之。其人言得不治疾，为亲属弃于此。诸神甫悯其苦。接之至寓所为之诊治。逾数日，询其人是否欲奉耶稣基督之教。其人答曰：“我愿为基督教徒。我为一无识之人，固未习此教，然观教中人发如是善心，其为真教无疑。”由是其人遂受洗，安然病终。此大帝国之第一受洗人；盖一为人所弃穷而无告之人也。（金尼阁《远征中国史》，卷一，二八二页。汾屠立《历史著作集》，卷一，一三三页。）

肇庆总督善遇诸传教师，曾莅其寓所访之。城中其他官吏及重要士人亦皆过访。诸神甫于晤谈中借述教理，然金尼阁神甫云：“此事虽获赞许而无成绩。过访之官吏虽见所言之教理完善，无可驳诘，然别后仍淡漠视之。但诸神甫利用此种谈话练习华语，罗明坚神甫并撰一教义纲领，嘱诸文士润色之。总之，彼等虽屡经困难，幸微有成绩，堪自慰也。”（金尼阁《远征中国史》，二八三页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，一三六页以下。）

时为澳门会团道长者是卡布拉尔（Cabral）神甫^①。一五八四年十一月二十一日，彼赴肇庆为二志愿受洗人公开授洗。其一人是福建士人，另一人是上述保存神坛之某附生。卡布拉尔神甫以是事报告视察员，范礼安神甫喜 19
甚，求印度区长遣派二新神甫来，一名孟三德（Edouard de Sande），一名麦安东（Antoine d'Almeydao）。（见

前引金尼阁书,二八八页以下。汾屠立《历史著作集》,卷一,一八六页、一五一页以下。)

①卡布拉尔约在一五二八年生于葡萄牙之科维拉诺(Covillano),一五五四年在果阿入会,一五六九年发愿。历任果阿、巴塞姆(Baçaim)、柯枝等处会团长,日本副区长,澳门会团长,视察员,印度区长,最后为果阿誓愿修院管理员,歿于一六〇九年四月十六日。(阿勒甘布《作家书目》,二一九页)。撰有《一五八三年以来中国年报》。别有致范礼安神甫书,作于一五八四年十二月五日。(汾屠立《历史著作集》,卷二,四二七至四三五页。)

一五八五年两广总督奉朝命购进欧罗巴异物,乃托罗明坚神甫在澳门采办。已而总督升他官,约携明坚至其故乡绍兴府,明坚许之,偕麦安东神甫同往。一五八六年一月抵绍兴城。总督父延二神甫于其家,接受洗礼。城中官吏常宴请二神甫,二神甫逐日对众人解说基督教义。(金尼阁《远征中国史》,三二〇页以下。汾屠立《历史著作集》,卷一,一五一页以下。)

明坚辟此新区,意犹未足,欲在湖广建设一第三传教所,然迄未能成。嗣后赴广西桂林,其初获善待,已而受诬谤而被驱逐。明坚遂返肇庆,有若干不良基督教徒诉耶稣会士于官府,人民群起攻之。会水灾起,民众掠其居宅。(金尼阁《远征中国史》,三二五页以下。汾屠立《历史著作集》,卷一,一六二页以下。)

时诸神甫之地位颇不安定,随官府之喜怒为转移。则欲地位巩固,势须请求宗座正式遣使于北京。罗明坚神甫久居中国,熟知人情风俗,视察员遂以此重大任务委之。(金尼阁

《远征中国史》，三五三页。汾屠立《历史著作集》，卷一，一七二页以下。）

明坚于一五八八年自澳门登舟，一五八九年安抵里斯本，复由里斯本抵菲利普二世宫廷，以此事告此国王。会罗马四易教宗，西克斯特五世(Sixte V)，一五九〇年；于尔邦七世(Urbain VII)，一五九〇年；格雷戈里十四世(Grégoire XIV)，一五九一年；英诺森特九世(Innocent IX)，一五九一年，此事因之延搁甚久，明坚见其事无成，且疲劳甚，遂归萨勒诺，于一六〇七年歿于此城。（见上引金尼阁书，上引汾屠立书。）

罗明坚神甫之著述列下：

20

（一）《圣教实录》一卷。是为欧罗巴人最初用华语写成之教义纲领，于一五八四年十一月抄刻于广州。

（二）一五八三年以后作于中国之信札，经《日本近况》（乔里蒂收集出版，威尼斯，一五八六年）著录者计有四通。（1）在一五八三年二月七日作于肇庆；（2）在一五八四年十月二十一日作于澳门；（3）在一五八四年五月三十日作于肇庆；（4）在一五八四年十月二十一日作于澳门。别有一第五书系致会长者，作于一五八六年十一月八日，见《印度大事记》，安特卫普，一五九〇年，一五七页以下著录。上引汾屠立书，卷二，三九五页以下，搜集有罗明坚书数通，始一五七八年，终一五八六年，编号为一、二、三、四、一〇、一三。

索默尔沃热尔《书目》，卷七，三〇七栏以下，著录有 21
书二部，一名《教要》，一名《天主圣教》，殆为《圣教实录》

之别名，非别有二书也。该《书目》补编（卷九，八二六栏）著录有罗明坚神甫抄本一部，现藏罗马维托利奥—伊曼纽尔图书馆（耶稣会士手稿，1185号（3314），标题作《中国的人事机构》）。

八 巴范济 意大利人

一五五一年生——一五七二年入会——一五八二年入华——一五九一年发愿——一六二二年八月三十日歿于澳门。

巴范济(François Pasio)神甫字庸乐，生于博洛尼亚。一五七八年赴印度。原被遣赴日本，然范礼安神甫离澳门时，留有训示，谓利玛窦神甫专为办理志愿受洗人事务时，巴范济应往辅助罗明坚神甫；但若其不能入居中国，则可往日本。（金尼阁《远征中国史》，二四七页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，一二〇页以下。）一五八二年十二月范济随明坚至肇庆，事具明坚传。已而被驱逐，遂赴日本，传教甚力。彼为副区长者数年。一六一二年受命为中国日本两国传道会之视察员，先赴中国视察。是年四月登舟，甫抵澳门未久死，时在是年八月三十日也。巴尔托利云：“其为人德行高超，全区之人感其温厚，及其死也，咸为悲泣。”（巴尔托利《中国耶稣会史》。）

22 彼除撰有一五九七、一五九八、一六〇一诸年《日本年报》及各种信札外，一五八三年撰有《中国年报》（Lit-

terae annuae Sinenses),一六〇四年前后撰有《教皇克肋孟八世纪念册》(Memoriale ad SS.D.N.Papam Clementem octavum)。(宗教部分,附件,五三页。参看索默尔沃热尔《书目》,卷六,三八七页以下。)汾屠立在其《历史著作集》,卷二附录五、六、七中著录有一五八二及一五八四年巴范济神甫信札三件。

九 利玛窦 意大利人

一五五二年十月六日生——一五七一年八月十五日入会——一五八三年发愿(?)——一六一〇年五月十一日歿于北京。

利玛窦(Mathieu Ricci)神甫字西泰,彼生于安科纳州马切腊塔城之时,几适在圣方济各沙勿略病歿上川之际。初就学于一教会职员名本奇文尼(Nicolas Bencivegni)者,其人后入耶稣会。马切腊塔城之耶稣会学校创设以后,玛窦就学于中亘七年。玛窦研究文学毕,一五六八年时被遣送至罗马肄习法学。罗马会团新建圣母会,彼曾入会,已而自觉适于教会生活,乃入耶稣会。以一五七一年八月十五日入圣安德修院〔诺琴蒂尼(Nocentini)《第一个汉学家利玛窦》,七页。汾屠立《历史著作集》。〕

玛窦修士在修院中立愿赴印度传道,掌院许之。彼 23
留居罗马之余时,仅从事于此种事业必须之研究。一五七七年五月十八日赴里斯本。一五七八年三月二十四日

附圣路易斯舟赴印度,时神学研究未毕而未晋司铎位也。(弗兰格《耶稣会的新兴年》,一一六页。前引汾屠立书。)同年九月十三日抵果阿。在柯枝毕业后,开始教授修辞学。(诺琴蒂尼《第一个汉学家利玛窦》,八页。汾屠立《历史著作集》。)

一五八〇年七月二十六日授司铎。一五八二年四月范礼安神甫召之赴澳门,是年八月抵澳门,立时研究华语,次年随罗明坚神甫赴肇庆。(一五八三年九月。)玛窦居肇庆时,因民变几受害,然能乘时研究认识中国之精神与性质。不久感觉传道必须先获华人之尊敬;以为最善之法莫若渐以学术收揽人心,人心既附,信仰必定随之。(一五八〇年及一五八一年柯枝及果阿信札;一五八三年二月十三日澳门信札,并见前引汾屠立书,卷二附录。)

初玛窦就学罗马时,受业于著名之克拉维乌斯(Clavius)神甫,因精于数学及地理,至是遂制一地球全图。华人初以中国居世界之大部分,周围皆小国,又以大地方形而中国居天下之中,及见玛窦所制之图,始憬然自明其误。(聂雷姆堡《英雄传记》,卷一,五九六页以下。《传教信札》卷十四,前言七页。)

其学术既为华人所器重,所制之地图复为华人赞赏,玛窦遂进而制造天体仪与地球仪,并制造计时之日规以赠中国大吏。由是玛窦遂以精于天学或天文学而得名。罗明坚神甫赴绍兴府,玛窦独处,善收揽人心,中国文士辄来过访与之订交。(金尼阁《远征中国史》,二八七页以下。汾屠立《历史著作集》,卷一,一二三页以下。《一五八四年以后书信》,卷二附

录。)

至是麦安东、孟三德二神甫至，玛窦遂变欧罗巴姓名 24
为华姓名，嗣后诸传教师皆从之。已而又有风波起，玛窦
幸得脱，而石方西(de Petris)之援至。至是入教之官吏
开始接受基督教理大义，有要族数家受洗，新教徒人数增
多，公教礼仪遂能举行。(金尼阁《远征中国史》，三六
〇页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，一三三页以下。)

一五八七年新总督某羡玛窦所建之欧罗巴居宅之
丽，而夺取之。诸神甫等被迫返澳门。比至澳门，总督
遣使召之回肇庆，盖总督欲居廉吏名，虽不愿以宅归之，
而欲偿其价也。诸传教师不受价，只望能在别一城中居
住。总督遂指定韶州为其居所，韶州接近江西边界。玛
窦在韶州城内购地建屋，然有鉴前事，不复用欧罗巴式，
而用华式建筑居宅及礼拜堂各一所。(金尼阁《远征中国
史》，三九三页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，一七
二页以下。《一五八九至一五九四年间玛窦诸信札》。)

有名士瞿太素者，初识玛窦于肇庆，至是至韶州，愿
奉玛窦为师。太素初冀从玛窦得仙丹，然所肄习者为宗
教真理，与夫数学、几何、重学等课目。太素得玛窦之薰
陶，颇有心得，迨至其受洗(一六〇五年)后，玛窦之名遂
以大彰，盖太素学者而兼名士，影响舆论实深也。(金尼
阁《远征中国史》，四一八页以下。汾屠立《历史著作集》，
卷一，一七九页以下。)

玛窦乘暇游南雄，为若干志愿受洗人授洗。当是时
也，麦安东神甫死，继任之石方西神甫亦相继去世，玛窦

- 复为孤身一人矣。“其同伴钟巴相(Sébastien Fernandez)
- 25 修士,华籍人也,见其布种多而收获少,一日语之曰:“神甫,吾辈可离中国而往日本,其地信者之多,受洗之众,不如赴彼以终余年。……然神甫信念深而希望固,遂以先知之语答之,谓所种植之葡萄将来必定丰收。”(曾德昭《中国通史》,二五八页。)

一五九四年郭居静(Lazare Cattaneo)神甫至,适当其时,玛竇遂能履行其谋赴北京之计划。次年携入会之二青年,皆澳门人,随起复之大吏某北行。玛竇曾为大吏子诊病,冀缘此随之入都也。时玛竇因居静之请及日本主教切尔奎拉(don Louis de Cerqueira)暨视察员范礼安之许可,已易僧服为儒服。此种易服嗣后经耶稣会长及教宗追认之^①。(前引巴尔托利《中国耶稣教会史》,二五六页。金尼阁《远征中国史》,四七三页。汾屠立《历史著作集》,卷一,二四一页。)

①此种习惯后此诸神甫中皆保存之,然前在欧洲曾受严厉之批评,观洪若翰(de Fontaney)神甫之一信札足以证也。罗文藻(Mgr Lopez)主教曾经核准此种习惯。(《传教信札》,卷三,五九页。)

玛竇逾梅岭后,溯赣江而上,此江素以滩险名,玛竇所乘之舟触滩沉没,舟中人皆落水,随从之青年名巴兰德(Jean Barradas)者溺毙,玛竇得主佑获救。“彼坠江头没水中,不知游泳,无复生之望也,忽手触一船绳,得脱此厄。”(曾德昭《中国通史》,二五九页。)孰意祸不单行,同行之大吏恐携一外国人入境而获咎,欲遣之回广州。玛竇

力请，始许偕其行李至南京，而大吏本人则遵陆北行。（金尼阁《远征中国史》，四八三页以下。）

至是玛竇复除主佑外无他助。遂过南昌府城，渡鄱阳湖，循大江而下至于南京。既抵南京，不为官吏所容，复还江西，重买舟就来途，“既逆流，复逆意也。”（金尼阁《远征中国史》，五〇〇页。）彼似在此行中梦见救世主持十字架慰而语之云：“我将成尔志于罗马。”^①（一五九五年十月及十一月信札，汾屠立《历史著作集》，卷一，一七七页以下。）

①“彼似见一素所未识之人与之共语云：汝流荡此国，盖为废止旧教，输入新教欤？玛竇答云：此我心事，从未对人言，汝既知之，非邪魔即天主。入梦者答云：我非邪魔，乃天主也。玛竇投其足下，哀诉曰：主既知我心愿，缘何不助我成此大业？主于是慰之曰：我将助尔于两京。已而玛竇似觉进入京城，往来无阻。后来事果应梦中言。”（金尼阁《远征中国史》，五〇〇页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，二五二页以下。）

南昌有医士某先识玛竇于韶州，见玛竇至厚待之。赖其先容，得识城中士人。全城中人争欲识此须垂及腹之泰西人。迨至其《西国记法》、《交友论》二书刊行后，其名愈重。江西巡抚欲见之，玛竇上所撰书，并以分析太阳光色之三棱镜一面献之。巡抚许其居南昌，会苏如望（Jen Sueri）神甫携金至，因租一小屋居焉。自是以后过访者多，有人劝其托词不在宅中，以谢宾客。玛竇答云：“天主

不容我作伪言，事虽微亦然；宁愿过客倍增，不愿言行背道。”因是识玛竇者愈重其人其教。（金尼阁《远征中国史》，五一八页。汾屠立《历史著作集》，卷一，二五八页以下。）

17 迨于是时，中国各处传道之所并归澳门会团长管理。顾韶州、南昌距离澳门甚远，为会团长管理所不能及。于是视察员决定设一会督（权限视区长，综理中国一切教务。一五九六年玛竇初任是职，执行至于歿年。（一五九六及一五九七年信札，汾屠立《历史著作集》，卷二，二二二页以下；参看卷一，二七八页以下。）玛竇入京之愿从来未歇，既为会督，愈欲作北京之行，因与省中大吏及明代宗王订交，俾能助成此事。适有其旧识名王忠铭者新授南京礼部尚书，入京觐见。忠铭过韶州，见郭居静后赴南昌，居静先行，以此好音告玛竇。

一五九八年玛竇、居静遂偕忠铭同赴南京。（汾屠立《历史著作集》，卷一，二八五页以下。）尔时中国正与日本搆兵。二神甫遂买舟北上，盖忠铭已先行矣。

及抵北京，客忠铭家。宫内宦官首领曾来访，颇羡慕其贡物，然见彼等无炼金术，不为上达。时有流言，谓此种外国人得为日本间谍，彼等为慎重计，复返南京。（金尼阁《远征中国史》，五三四页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，二九四页以下；卷二，二四八页以下，载一五九九年八月十八日信札。）

玛竇使居静先行，径返南京，本人则往苏州见其弟子瞿太素。太素劝其在苏州建一住所，然玛竇久病新愈，宁

赴镇江居数日，已而还南京，时在一五九九年二月也。先此未久，王忠铭抵南京，见玛窦至，为介绍其他官吏与之订交。（金尼阁《远征中国史》，五八〇页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，三〇一页以下。）

先是玛窦在南京购一小宅，即前此梦见天主之所，至是遂为南京士大夫聚谈之处。士人视与玛窦订交为荣，官吏陆续过访。所谈者天文、历算、地理等学。凡百问题悉加讨论。有著名道士某曾被折服而去。（金尼阁《远征中国史》，五八八页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，三一—一页以下。）28

其后未久以善价购一官廨，盖相传廨有魔鬼，无人敢居其中也。玛窦购得后，偕居静居焉。人见玛窦等安然无恙，由是“我辈圣教之名大彰”。（金尼阁《远征中国史》，六三九页。汾屠立《历史著作集》，卷一，三三一—一页以下。）

诸士大夫中首先奉教者，乃一七十岁之武官，受洗后名称保禄。“其子文士也，后至大官，未久亦随之入教，全家之人皆相率从之。”（曾德昭《中国通史》，二六六页。）其后入教者日众，奉教之人开始在此新住所之礼拜堂中公然高声祈祷。（金尼阁《远征中国史》，六四一页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，三四〇页以下。）

成绩既佳，玛窦遣居静赴澳门报告，并请继续遣辅助之人来。未久，居静偕庞迪我(Didace de Pantoja)神甫携异物甚多至南京^①。玛窦遂复欲作北京之行，贡此异物于朝。都御史某赞其事。一六〇〇年初，玛窦偕迪我

依某权阉之庇，首途入京。（汾屠立《历史著作集》，卷一，三四四页。）

- 29 ①据雅利克(du Jarric)神甫书《在印度发生的最令人难忘之事》，卷三，九三六页：“贡品中有大小自鸣钟各一，油画三幅，内圣母像一幅，圣子耶稣偕施洗约翰像一幅，救世主像一幅，镜数面，三角玻璃两件，圣课日祷书一册，手琴一具。”

权阉某狡诈人也，行至山东，嗾使其党马堂截夺贡物。送诸神甫至天津，扣留六月。有幸臣某以其事上闻，会帝亦闻有外人贡进自鸣钟事，遂命人召诸神甫入京（金尼阁《远征中国史》，六五一页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，三五二页。）

一六〇一年一月，玛竇等抵北京，进呈贡物，见者称赏，帝尤爱自鸣钟。赖有此事，玛竇等遂获留居北京，盖当时无人能修理自鸣钟也。宫中内官出达帝意，命此二外国人留居京师，并赐月俸①。

- ①诸内官数言于帝，帝欲召见，唯与例未合，乃命二画师将此二西洋人图像绘呈，然其所绘甚劣。时诸神甫等已易欧罗巴服衣儒服，头戴网巾。（雅利克《在印度发生的最令人难忘之事》卷三，九八一页。）

- 30 玛竇志在留居京师，故亦不辞。朝中大小官吏争来过访。玛竇赁屋以居，往来颇自由。偶亦对众宣言彼等之来中国，盖为传扬天地主宰正教，不愿受皇帝官爵赏赐，只求生居死葬中国足矣。（金尼阁《远征中国史》，六七八页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，三六三页以下。）

玛窦于每日接见宾客时辄言其至北京之理由，因言及天主、灵魂、天堂、地狱等教理，同时编辑关于宗教学术之新书。

自是以后玛窦不复离开北京。从事规定未来一切事项^①，培养新教徒，预备新皈依。入教之人有数人为名公巨卿，翰苑中人亦有人教者。著名之徐光启即其中之一人，彼于一六〇三年在南京从罗如望神甫受洗，一六〇四年入翰林，一六三二年入阁。一六〇五年时，北京奉教者数逾二百。是年六月玛窦与开封之犹太教徒艾某接谈，三年后曾遣一中国修士赴开封调查圣经及崇拜十字架之信徒。北京首先受洗之人歿于一六二四年，洗名本笃。（金尼阁《远征中国史》，六七八页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，三六三页以下。）

①彼在是时与若干神甫议决持身规律。其中有若干点关于中国礼仪者，为后来争论之起源。然在当时范礼安业经核准之。巴范济在一六一一年之江西会议，并核准之。（巴尔托利《中国耶稣会史》，一一九页以下。）

一六〇六年鄂本笃(Benoit de Goëz)修士病在肃州。玛窦遣钟鸣礼修士往慰之。一六〇九年在中国首创信徒团体，名曰天主圣母会。在会之人皆应以德行范世，常临圣事，应养穷人，殡葬死者。每日晨会听指导者之训示。有疑则问之。各种慈善事业则分担之。（一六〇五至一六〇九年信札，《历史著作集》，卷二，二五〇页以下。金尼阁《远征中国史》，八六七页、九一七页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，四九四页、五四九页以下。）

- 32 玛竇以北京为中心，指挥诸传教师，本人亦勤劳不倦，为众人先。其日常事业则为志愿受洗之人讲说教义，鼓励新人教者，劝导未入教者。此外则编辑书籍，并建筑一大礼拜堂，亲自督理工程。事务已繁，益以不断与同僚信札往来，兼入宫廷任事，遂促其年。一六一〇年五月三日卧疾不起，自知末日已至矣。（金尼阁《远征中国史》，一〇三五页；《一六一〇年年报》，三一页以下。）

“虽病甚衰弱，见圣体入室，尚力疾下床跪领圣体，翌日领终傅油，曾对临视之神甫留遗言，嘱彼等对于新自欧洲来者，务必施以仁爱。”（金尼阁《远征中国史》，一〇四一页。）

五月十一日夜间安然而逝。寿五十七岁，遗命龙华民(Longobardi)继承后任。皇帝赐葬地，后遂为北京葡萄牙教师公葬之所。在场之诸大夫多参加葬礼。南京、南昌、韶州及新开发之上海皆遣人会葬。诸基督徒负棺，十字架前导，经行都城而至葬所。（金尼阁《远征中国史》，一〇四六页以下）。——一六一〇年五月二十日熊三拔(Subbatino de Ursis)神甫在北京致书述利玛竇病终及殡葬事，汾屠立《历史著作集》，附录二四，四八三页以下。）

- 33 玛竇未病前数日，曾致书于其同僚云：“我尝思在中国传播基督教之良法，莫若我死。”（金尼阁《远征中国史》，一〇四六页。）古伯察(Huc)神甫云：“皇帝赐葬地，显为优待基督教之证明也。”

奥尔良(d'Orléans)神甫云：“天主特选利玛竇以任

此困难事业。勇不畏劳，贤明谨慎，周致迟缓，而使之更为有效，小心而不使之僭事，欲为一锐敏多疑排外成性之民族之宗徒，必须具有此种性质也。”（参看《传教信札》，一九一八年，卷十四，前言XXII页。）必须有此豁达度量，始能重整屡经破坏之事业。必须有此博学天才，始能使习于自尊之人尊其学识。

“然亦须有一与学识相侔之谦恭和平，始能使此自尊之民族，感受此知识之优越而不自觉。最后必须有一伟大德行，始足当此满布危险之重任也。”

玛窦遗著甚多，泰半皆为汉文作品：

（一）《天主实义》，一名《天学实义》，一五九五年初刻³⁴于南昌，一六〇一年校正重刻于北京，凡二卷。重刻本有李之藻序，（之藻字我存，号凉庵，歿于一六三〇年。）一六〇四年重刻于北京，一六〇五或一六〇六年重刻于杭州。一六三〇年及以后屡有重刻本。曾经《天学初函》收入。（参看《几何原本》条附注。）有若干刻本前有徐光启、冯应景等撰序。土山湾重印数次。（一九一七年目录第八二号。）

此书在一六〇四年译为日本文。奥尔甘廷（Organ-³⁵tin）神甫称此本为一宝库。范礼安神甫曾将此本三次重刻于澳门。一六三〇年巴尔迪诺蒂（Baldinotti）神甫二次重刻于柯枝。〔雷慕沙（A. Rémusat）《亚洲新杂纂》，卷二，二一三页。〕后又转为高丽语。雅克（Jaques）神甫曾将此书转为法文，载入《传教信札》，一八一八年刊，卷十四，六六页以后。〔参看伟烈亚力（Wylie）《中国文献注释》，一三八

页。〕

(二)《交友论》一卷,一五九五年刻于南昌,一五九九年刻于南京,一六〇三年刻于北京,前有冯应景序。《天学初函》亦收入其中。一九一四年五月二十五日以后之《神州日报》有翻印本。(参看上引伟烈亚力书,一三八页,前引金尼阁书,五一六页以下。)—玛竇本人曾将此本译为意大利文,一八八五年有新刻本,在马切腊塔城出版。

(三)《西国记法》一卷,一五九五年刻于南昌。

36 (四)《二十五言》一卷,一六〇四年刻于北京,前有冯应景、徐光启序。亦经《天学初函》收入。(金尼阁《远征中国史》,八二〇页,上引伟烈亚力书,一三八页。)

(五)《畸人十篇》二卷,一六〇八年刻于北京,一六〇九年刻于南京及南昌,亦经《天学初函》收入。一八四七年有上海重刻本,后又有土山湾重刻本。(一九一七年目录第四〇三号。)是书设为问答,大抵驳释氏之说。(参看上引伟烈亚力书,一三九页。)

(六)右书博辨,颇足动听。杭州僧人袜宏因作论以攻天主之说,玛竇复作说以辟之,合成《辩学遗牍》一卷,一六〇九年刻于北京,有李之藻跋,亦收入《天学初函》。遣使会印刷所有重刻本。(一九二四年目录第八八号)一九一五年有天津《大公报》活字版本。一九一九年有英敛之刻本,前有陈垣、马相伯序,题曰《辩学遗牍》。

(七)《畸人十篇》后附有《西琴八曲》一卷。玛竇所献品中有小瑟,庞迪我神甫善音乐,以授中宫。此乃其曲意八章也。

(八)《斋旨》一卷,后附《司铎化人九要》一篇。 37

(九)《畸人十规》,是为玛窦在一五八四年刻于肇庆之第一部教义纲领,时在罗明坚《圣教实录》刊行之后未久。

(十)《奏疏》,是为一六〇一年玛窦入京进呈贡物请许留居北京之表文。〔参看顾福格(Couvreur)《文献选编》,河间,一八九四年,八〇页以下。汾屠立《历史著作集》,卷二,四九六页以下。〕

(十一)《几何原本》六卷,徐光启笔述,欧几里得书前六卷之译文也。一六〇五年刻于北京。嗣后屡经重印,曾节录入方中通之《数度衍》中。康熙帝曾将此书转为满文。前有玛窦及光启序。今日此书尚风行。同治四年(一八六五年十一至十二月间)两江总督曾国藩重刻于南京,国藩作序称《海山仙馆丛书》本,错讹甚多,故重刻之。书中并言及一六二九年李之藻所辑之《天学初函》^①。

①伟烈亚力(上引伟烈亚力书,二七七页)云:《天学初函》所辑书凡十九种。一、《西学凡》,艾儒略撰;二、《畸人十篇》;三、《交友论》;四、《二十五言》;五、《天主实义》;六、《辨学遗牍》,并利玛窦撰;七、《七克》,庞迪我撰;八、《灵言蠡勺》,毕方济撰;九、《职方外纪》,艾儒略撰;十、《泰西水法》,熊三拔撰;十一、《浑盖通宪图说》;十二、《几何原本》,并利玛窦撰;十三、《表度说》,熊三拔撰;十四、《天问略》,阳玛诺撰;十五、《简平仪》,熊三拔撰;十六、《同文算指》;十七、《测量法义》;十八、《圆容较义》;十九、《勾股义》,

并利玛窦撰。

- 38 欧几里得书,十五卷,玛窦仅译前六卷,后伟烈亚力共李善兰合译后九卷,一八五七年初刻于松江,板为发匪焚毁,后重刻于南京。

(十二)《同文算指》十一卷,李之藻笔述,应用算术也,一六一四年刻于北京。《四库全书》著录本,分前编二卷,通篇八卷。亦经《天学初函》收入。

(十三)《测量法义》一卷,应用几何也,又《测量异同》一卷,并徐光启笔述,《天学初函》及《指海》并收入。

- 39 (十四)《勾股义》一卷,《天学初函》及《指海》并收入。

(十五)《圆容较义》一卷,李之藻笔述,一六一四年刻于北京。(参看上引伟烈亚力书,八八页。《天学初函》、《守山阁丛书》并收入。

(十六)《浑盖通宪图说》二卷,李之藻笔述,星经之类也,疑在一六〇一年六月至十二月间刻于北京,一八〇〇年有重刻本。(考狄《中国的中-欧印刷术》,二三七页。《艺海珠尘》、《传经堂丛书》并收入。(上引伟烈亚力书,二二〇页。)

(十七)《万国輿图》,一五八四年玛窦作此图于肇庆。金尼阁神甫云:“彼绘此世界全图,甚宽广,俾容纳汉文解释于其中。又为博华人欢心,特将中国位于图之中央。”一五九八年在南京重将此图修改,较前更大,用十二版,印于绢上,李之藻力也。其后贵州巡抚重刻小图,将解说刻于别本中。“曾寄数本于各省,吾人印本且寄至澳门、日本,闻他处尚有刻本。”(金尼阁《远征中国史》,六〇九

页。)利肖里(Riccioli)《占星新说》，博洛尼亚，一六五一年，XI 页以下。一六〇九年皇帝曾命将此图仿绘八幅，进呈乙览^①。

①《明史》卷三二六《意大利亚传》云：“利玛窦至京师为《万国舆图》，言天下有五大洲。第一曰亚细亚洲，凡百余国，而中国居其一；第二曰欧罗巴洲，凡七十余国，而意大利亚居其一；第三曰利未亚洲（利比亚，非洲），亦百余国；第四曰亚墨利加洲，更大，以境土相连分为南北二洲；最后得墨瓦腊泥加洲为第五，而域中大地尽矣。”

(十八)《西字奇迹》一卷，一六〇五年北京刻本。布瓦耶(Théoph. Boyer)《中国文法》四页称玛窦刻有汉字译写之拉丁字母名曰《大西字母》者，殆指此书。

(十九)《乾坤体义》二卷，一作三卷。《四库全书》著录。阮元《皇清经解》（共一四〇八卷，一八六〇年重刻本）《畴人传》言此书甚详。

(二十)一五九八年玛窦居南京时，曾与儒士数人辩论五行之说，辟五行之非，主张四行之是。“是编屡经印行，颇受推重。”（金尼阁《远征中国史》，六〇一页。）

(二十一)《一六〇六和一六〇七年年报》，利玛窦一六〇七年十月十八日寄自中国，八开本，一六一〇年；米兰，一六一〇年。《一五九一年、一六〇六和一六〇七年中国年报》，安特卫普，一六一一年。

(二十二)信札。一五八四年九月十三日在肇庆致菲律宾宾驻澳门经理员罗曼(J-B. Roman)信札，见罗曼撰《中

国报告，题作一五八四年九月二十八日，收入《特努—康潘旅行档案》，卷一，七七页。（考狄《书目》，卷一，七页。）

- 41 利玛窦发自中国广州信札，一五八四年十一月三十日收讫。载《日本新书简》，威尼斯，一五八六年，一七五页。《利玛窦有关一六〇八年北京住院情况书简》，北京一六〇八年八月二十二日。卡昂，一九一四年。

（二十三）金尼阁神甫曾据玛窦之记录，撰有《基督教远征中国史》。记录原为意大利文，盖致耶稣会长者。尼阁将其转为拉丁文，微补缺漏，并增入玛窦自谦而故意遗漏之若干事实。可参看汾屠立《利玛窦神甫历史著作集》序言。

（二十四）一五九三年曾将中国《四书》转为拉丁文，微加注释。（金尼阁《基督教远征中国史》，五七八页。）凡传教师之入中国者，皆应取此书译写而研究之。此书是否印行，抑尚存有写本，未详。

（二十五）雷慕沙曾云：最先编辑中国字书而附以欧洲语言之解释者，似为玛窦。此说不误。盖金尼阁神甫曾谓其与郭居静神甫、钟鸣礼修士共旅行时，曾编辑此种字书，注明五声清浊也。此写本似已无存。尼阁并谓“其曾编有其他书籍数种，以备吾人易习此土语之用”。（上引金尼阁书，五七七页。）

（二十六）吉尔切尓（Kircher）神甫（《附图中国志》，法文版，一六〇页）谓，其曾译中国古代哲理格言为拉丁文，意在辟其误也。

（二十七）刘应（de Visdelou）神甫在赫尔伯洛特

(d'Herbelot)的《东方书目》补编中写道:“玛窦在其《中国图表》中置Eyhoun都城于北纬四十四度,似误。”此处所指应是本传书录第十七条所指之《万国舆图》。

(二十八)利西一利卡尔迪(Ricci-Riccardi)侯爵在 42
一九一〇年曾将其所藏玛窦信札三件刊布:两件作于南昌,题年为一五九五年十月二十八日及一五九六年十月十二日;一件作于北京,题年为一六〇八年三月六日。(诺琴蒂尼《第一个汉学家利玛窦》,佛罗伦萨,巴尔伯拉,一九一〇年)

(二十九)一九一〇年马切腊塔城举行玛窦百年纪念时,曾将玛窦未刊著述刊行,题曰《利玛窦神甫历史著作集》,已出二卷。第一卷在一九一一年刊行,乃汾屠立神甫主编,题曰《中国纪录》,LXVIII页,六五〇页,马切腊塔,一九一一年。第二卷刊行于一九一三年,题曰《中国信札》,收集玛窦信札四十四件(三至三九五页)及前此著录之奏疏(四九六页以下)。

一〇 麦安东 葡萄牙人

一五五六年生——一五七六年一月四日入会
——一五八五年入华——一五九一年十月十七
日歿于韶州。

麦安东(Antoine d'Almeida)神甫字立修,出生于葡萄牙之特兰科索城(Trancoso)。幼纯洁,入耶稣会。一五

八四年赴澳门。一五八五年七月应范礼安神甫之请，偕孟三德神甫同赴澳门，助理罗明坚、利玛窦二神甫之事业。当时进入内地甚难，安东谋为官吏之仆役混入内地，会明坚所善之肇庆总督约明坚偕赴绍兴府（一五八五年），安东适在广东，知其事，遂与明坚等同行。（前引金尼阁书，三一六页；前引巴尔托利《中国耶稣会史》，二四五页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，一五一页以下，一九、二三页。）

- 43 此行凡四月，安东欲留居浙江未果，遂返肇庆，与玛窦共事^①。玛窦在肇庆被逐时，又与偕行赴韶州，时在一五八九年八月也。（金尼阁《远征中国史》，三六一页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，一七七页以下。）会得重病，还澳门修养，病甫愈，力请道长许之重赴韶州，未几死于新城。（金尼阁《远征中国史》，四三九页。）

①安东离绍兴后返澳门。范礼安神甫遣之赴肇庆疑在一五八八年八月。参看前引汾屠立书，卷一，一五九、一七四页。（裴化行神甫补注。）

当时诸神甫在中国内地无坟园，遂运其遗体归葬澳门。

安东遗作可考者仅有信札数件：

（一）一五八五年十一月五日致骆入禄神甫书，述其赴广州事。（汾屠立《历史著作集》，卷二，四三六页以下。）

（二）一五八五年十一月二十日书，述其赴广州及绍兴事。〔见何大化（de Gouvea）神甫撰《耶稣会在远东传布信仰》，卷一，二、八页。〕（未刊本）

(三)一五八六年二月十日孟三德神甫书,作于韶州,意大利译文载《中国报导》,罗马、威尼斯、安特卫普,一五八八年;米兰,一五八九年。拉丁译文载海神甫辑《日本、印度与秘鲁札记》,安特卫普,一六〇五年,九〇二页。

(四)一五八六年九月八日孟三德神甫书,作于肇庆。

此二书意大利文本,刊于罗马、桑奈蒂(Zannetti),一五八八年。西班牙文本,刊于萨拉戈萨,一五九一年。法文本见《日本和中国信札》,里昂,一五九三年。

(五)一五八八年九月八日孟三德神甫书,作于韶州,见《日本和中国信札》,罗马、桑奈蒂,一五九一年,布雷夏,萨表(Sabbio),一五九二年。(参看索默尔沃热尔《书目》,卷一,一八九栏以下。)

一一 孟三德 葡萄牙人

44

一五三一年十一月四日生——一五六二年六月
入会——一五八五年入华——发愿(?)——一
六〇〇年六月二十二日歿于澳门。

孟三德(Edouard de Sande)神甫字宁寰,出生于葡萄牙之吉马朗伊希。幼入耶稣会。毕业后在科英布拉学校教授辩学。一五七二年赴印度^①,历任巴卡伊姆(Bacaim)和澳门两地会团长。三德在职时,视察员范礼安神甫命往中国辅助罗明坚、利玛窦二开教人^②。明坚赴澳门为中国皇帝采办异物时,约三德同还肇庆。越数日,肇庆

总督询三德是否思乡欲归。答曰：“永与华人共处，是我之愿也。”此愿虽未终偿，然于传道颇尽力也。（金尼阁《远征中国史》，卷一；汾屠立《历史著作集》，卷一，一九至二四页。）

①一五七七年三德晋司铎。一五七八年三月二十四日，在里斯本偕罗明坚、利玛窦同附圣路易斯号舟东迈。（汾屠立《历史著作集》，卷一，一五二页注。）

②三德于一五八五年五月一日离果阿（汾屠立《历史著作集》，卷二，四四三页），一五八五年七月杪抵澳门。（汾屠立《历史著作集》，卷一，一五二页。）（以上并裴化行神甫补注。）

三德居肇庆若干时，见不可留，遂返澳门^①。会范礼安归自日本，复任其为会团长兼为传道会道长。彼即以此资格数赴新开教之韶州劝化数人入教^②。及年事已高，李玛诺(Em. Diaz)被派继其后任，时在一五九六年也^③。一六〇〇年六月二十二日歿于澳门。

①一五八七年八月，三德为慎重计离肇庆府。（汾屠立《历史著作集》，卷一，一六三页。）

②一五八八年七月三德重赴肇庆，未久复出走。（汾屠立《历史著作集》，卷一，一六九页。）自是以后，除在一五九一年一至韶州留居不久外，常驻澳门。（汾屠立《历史著作集》，卷一，二一八、二一九页。）

③一五九七年终，三德卸澳门道长职，专任教养青年华人事。（汾屠立《历史著作集》，卷一，二七九页；卷二，一〇二页。）（以上并裴化行神甫补注。）

其遗作留存者列下：

(一)一五八九年九月二十八日在澳门致耶稣会长书报告中国新传道会事，载《日本和中国信札》（八开本，罗马、桑奈蒂，一五九一年）及诸译本中^①。

①此函并载入《日本和中国信札》（一六八九年和一六九〇年），威尼斯，一六九二年，二〇〇页以下。（裴化行神甫补注。）

(二)《日本使节赴罗马教廷日记所载对话记要》，用 45 拉丁文及日本文写成，四开本，载《中华帝国的澳门商埠》，一五九〇年。据大英博物院藏本提要云：是为欧罗巴人在中国首先印行之书。并转录于《日本三王使节》，安特卫普，一五九三年。（参看索默尔沃热尔《书目》，卷七，五四六栏。）考狄《中国的中-欧印刷术》（以下简称《印刷术》）四五页云：“是为澳门刊行之第一书，极罕见。”

(三)有人谓其撰有汉文教义纲领一册（索默尔沃热尔《书目》，卷七，五四六栏。）

一二 石方西 意大利人

一五六三年生——一五八三年八月十五日入会
——一五九〇年至华——一五九三年十一月五日
歿于韶州^①。

石方西 (François de Petris) 神甫字镇宇^②，出生于罗马阿巴蒂阿·法尔法 (Abatia de Farfa)，名族也。

初在罗马学校肄习哲理，即以文学、科学、德行见称于时。修业毕在公开辩论中，人皆惊其敏慎。初敬奉圣母甚笃，入圣母会。当其择业时，似闻圣母言，命其人耶稣会。方西在韶州语二修士之言如此。（金尼阁《远征中国史》，四六七页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，二三六页。）

①一作一五九三年十月五日，参看本传注。

②北平图书馆藏抄本作石芳栖，字镇予。

• 46 由是彼曾在一五八三年八月十五日入罗马修院。一五八六年，请偕日本使臣东迈，时尚未晋司铎也。范礼安神甫派其在中国传教。一五九〇年遣之至澳门。次年麦安东神甫歿于韶州，遂命方西代其职。（见一五九二年十一月十五日阿奎维瓦(Aquaviva)神甫信札，载汾屠立《历史著作集》，卷二，四六二页以下。）

方西抵韶州未久，有盗持械，夜入其室，伤仆役二三人，并以斧砍方西首，受重伤。（金尼阁《远征中国史》，四五四页。汾屠立《历史著作集》，卷一，二二九页。）利玛窦神甫诉于官，捕诸盗，为首者断死罪，余判徒刑，然二神甫共请宥盗罪，由是各杖二十释之。（金尼阁《远征中国史》，四六三页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，二三五页以下。）

方西以其祈祷与德行辅助玛窦传布宗教。彼虽壮健，然自知不寿，曾预告玛窦言其应得某疾死，一五九三年十一月五日果以疾终^①。以舟载彼与麦安东之遗骸归葬澳门公墓，道长孟三德为死者作吊辞，并命郭居静神甫代其职。（金尼阁《远征中国史》，四六九页。汾屠立《历

史著作集》，卷一，二三六页。）

①或作一五九三年十月五日，见汾屠立《历史著作集》，卷一，二三六页，汾屠立神甫补注。

方西留有信札三件：一作于一五八九一年一月八日，一作于一五九二年十一月十五日，一作于一五九二年十二月十五日，并见汾屠立《历史著作集》，卷二，四五六、四六四、四六五页。）

一三 钟巴相 中国人^①

45

一五六二年生——一五九一年一月一日入会^②
——一五九一年至传教区——一六一七年十一月一日任在俗辅佐人——一六二二年歿于杭州。

钟巴相 (Sébastien Fernandez) 修士字念江，第一华人之入耶稣会者也。广东新会人，富家子兼良家子。谙西方语，欲自磨练，愿偕诸神甫入内地，故利玛窦携之与俱。(曾德昭《中华大帝国志》，一六二二年，载《往事记录》，二〇三页。)

①念江原名鸣仁(艾儒略撰《利玛窦行迹》作铭仁)，巴相乃洗名 Sébastien 之对音。

②薛孔昭《名录》误作一五九五年一月一日。

巴相在韶州作修士之练习，得偿素愿。巴尔托利神甫云：“若欲将此修士因传道所受之苦一一笔之于书，则其文甚长，而难于着笔也。其为人正直，度量宏大，品行纯

洁，未入教时已然，既入教后，兼具有一种劝人入教之强烈热心。彼为开教，曾不惜其时间，亦不惜其血汗。（出处同前。）

- 48 一五九六年，巴相在韶州受刑负枷，被驱逐后，旋在杭州又被土人告发，受杖而被禁于狱。“利玛窦神甫救出，遂随玛窦赴北京。既至北京，复受第三次之禁锢与虐待，盖因其传布福音也。”（曾德昭《中华大帝国志》，一六二二年，载《往事记录》，二〇四页。）

最后在南京虐待事件中（一六一五年），曾受刑讯，并遭民众之种种侮辱；已而被判流刑，罚往关外为奴，赖有一基督教徒之仁慈而获免^①。

①此基督教徒西名 Matthieu Gham，汉姓或为康，自愿代巴相出关，旋因朝中一强有力之新入教者之救而获免。其人后赴澳门入耶稣会而歿于会中。（巴尔托利《中国耶稣会史》，六八二页。吉勒尔梅《耶稣会圣徒节日历》，卷二，一八八页，葡萄牙文版。）

巴相居北京时，勤于布教，常赴教徒家讲演基督教理，人皆乐闻其言。（出处同前。）终其身执传布教义者之职，熟练汉语，不断往来于所属诸教区中，并辅助诸神甫执行教务。诸神甫信任之，且令其教导中国妇女代为受洗。每年巴相辄犯冒险阻，往澳门取钱财及其他必须之物，俵散于诸区中。一六二二年歿于杭州，计入教有三十二年矣。据曾德昭神甫云：“巴相过南京时已得疾矣。”（出处同前。）

一四 黄明沙 中国人^①

49

一五七三年生——一五九一年一月一日入会
——一五九一年至传教区——一六〇六年三月
三十一日歿于广州。

黄明沙 (François Martinez) 修士, 在旧记中写其名作 Mis 或 Miz (Martinez 之略写)。生于澳门, 偕钟巴相修士同入会。作修士练习后, 偕传教师入内地传教。一六〇五年在南京时, 曾说瞿太素入教。先是太素有妾, 无意入教, 会妻死无所出, 乃从明沙言, 娶妾为妻, 而受洗礼。罗如望神甫授以洗名曰纳爵 (Ignace)。(金尼阁《远征中国史》, 八六〇页以下。汾屠立《历史著作集》, 卷一, 四三八页以下。)

①参看艾儒略撰《利玛窦行迹》(本书第三十九传)。北平图书馆馆藏抄本写其名作黄方祭字明沙。据范礼安神甫撰一五九三年一月一日之一名录云: “黄明沙修士, 中国籍, 生长于澳门, 与葡萄牙人有亲谊; 时年二十五, 具中人力, 肄习(修士)二年毕。未入会前曾习拉丁文。熟知中国语言文字, 居韶州时, 仍研究不辍。”(见汾屠立《历史著作集》, 卷一, 二〇七页注。)则其出生年为一五六八年, 而非一五七三年矣。一五九五年十二月二十四日明沙曾偕苏如望神甫至南昌。(汾屠立《历史著作集》, 卷一, 二六八页。)又

据耶稣会士诸名录称一六〇三年十月明沙人在韶州。(以上并裴化行神甫补注。)

一六〇六年,明沙在南昌,会视察员欲入内地,乃召之南下,及至广州,患热疾,甚剧。时有流言谓葡萄牙人将来侵,明沙息于一同教人之宅,有新入教之背教人某告讐于官,时在圣周中,明沙方偕诸基督教徒举行祈祷讲演及特别悔罪等务也。

时两广总督他出,背教人告讐于代理总督,谓明沙是郭居静神甫之间谍,盖有流言谓居静将谋为不轨也。明沙方卧病在床,隸役捕之出,并其居停锁押到官,用夹棍拷问。(见前引金尼阁书八九七页,汾屠立书卷一,五〇七页以下。)

50 明沙受此酷刑,仍辩其无罪。顾彼有特许文书,既无罪可望释出,乃告讐者又诉其买有火药,遂被禁于狱。手足皆带刑具,病中渴甚,数日未得滴水饮。已而移付“海道”,受重笞,体无完肤。翌日又拘至代理总督前,复受刑。刑甫下,明沙晕绝。

问官恐其刑重致毙,命人以板舁之入狱未及抵狱即死。时年三十三岁,与救世主受害年正同,且亦为同教人所陷害也,时在一六〇六年三月三十一日。(金尼阁《远征中国史》,八九八页。汾屠立《历史著作集》,卷一)葬其遗骸于一已废之石矿中,仍衣罪服带刑具。其后不久龙华民神甫请于官,获许迁葬于澳门。(金尼阁《远征中国史》,九一五页。汾屠立《历史著作集》,卷一,五二三页。)

其遗笔现存者有一五九一年十一月二十一日自韶州

致孟三德神甫书，述麦安东神甫之事业与病故事。
（汾屠立《历史著作集》，卷二，四五七页以下。）

一五 郭居静 意大利人

51

一五六〇年生——一五八一年入会——一五九
四年入华——一五九六年五月二十六日发愿
——一六四〇年一月十九日歿于杭州。

郭居静（Luzure Cattaneo）神甫字仰凤，名族旧家之后裔，生于热那亚城附近之萨尔察纳。既入耶稣会，即力请派往远方传道，一五八八年始得会长之许可。他曾研究文学一年，哲学三年，神学二年。（《档案目录》1622。）居果阿若干时，任会团宣教师，继在波舍利（Pécherie）沿岸为道长者二年，已而被召至澳门，研究华语。

石方西神甫卒，利玛窦神甫独居韶州，乃遣居静神甫往助。玛窦第一次赴南京时，居静管理教务，会有流言起，教堂被暴民抄掠。其后不久，玛窦赴北京，召居静偕行，居静在途中助玛窦编纂音韵字典^①。及还南京，居静 52
被遣还澳门报告此第一次旅行事。居静事毕，携庞迪我（Jacques de Pantoja）至南京。玛窦最后离南京时，留居静管理南京教务，并兼管南昌、韶州两地教务。（金尼阁《远征中国史》，五二六页以下，五四六页以下，六五一页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，二八五页以下。）

①则共玛窦编纂者，乃居静而非庞迪我，佩尼（Per-

ny) 在其《汉文文法》中谓欧罗巴人最初思及辨别中国五声者为迪我, 误也。“彼等用五种音标分别中国语言中之五声。”(金尼阁《远征中国史》, 五七七页。汾屠立《历史著作集》, 卷一, 三〇〇页。)

一六〇四年, 李玛诺 (Emmanuel Diaz Senior) 神甫归自北京, 居静偕之共赴澳门, 盖应视察员范礼安神甫之召也。居静留此养疾。先是礼安选居静为会办。会礼安卒, 居静遂留澳门。居静视察马六甲会团及传道会盖在斯时也。(金尼阁《远征中国史》, 八八一页以下。汾屠立《历史著作集》, 卷一, 五〇四页。)

当是时也, 有大祸起, 侨民全体为之不安。荷兰人嫉葡萄牙远征印度之得利, 乃遣海盗扰乱巽他群岛与摩鹿加群岛。所获甚富, 意犹未餍, 复谋据台湾, 进取澳门。葡萄牙人因设防以备, 不意华官疑其有异心, 以此辈外国人谋据中国, 遂筑堡垒数所, 调兵防御。时有流言谓外人已共推居静为帝^① (金尼阁《远征中国史》, 八八六页以下。汾屠立《历史著作集》, 卷一, 五〇七页以下。)

①曾德昭神甫云: “郭居静神甫时由中国内地抵澳门, 其人身体魁伟强健好容色, 兼有长须, 不识者必以其为武夫, 而非传道人也。”(曾德昭《中国通史》, 二八二页。)

又一方面, 澳门有若干不良基督教徒, 恚诸神甫在讼事上不庇彼等, 又从而煽动, 故流言甚炽。民众因暴动, 掠葡萄牙教堂, 并纵火焚之。(金尼阁《远征中国史》, 八八八页、八九〇页以下。汾屠立《历史著作集》。)

有士人某撰一小说, 诬居静欲窃据大位; 约日本人马来人

共举事，内地党羽甚多，只待战船之至即发动。其书流行甚广，人心因大惶惧：澳门之华人尽徙居大陆；广州城聚战船调民壮以备。（金尼阁《远征中国记》，八九二页以下。）

葡萄牙人所处境地甚为危殆，盖彼等有饿毙之忧也。 53
澳门官吏遣使者赴广东疏解；及其归也，两广总督亦遣一聪明华官至澳门察验情形。此官至澳门，先召居静来见；居静延之往视其武库，所谓武库，即其书室也。官入室，居静语之云：“我持以谋据中国之武器，即此是也。”继导华官至学校，而语之云：“是为我将率以侵据贵国之士卒。”华官见流言不实，而诸神甫皆属传教之人，意遂安而其事遂解。（金尼阁《远征中国史》，九〇九页。汾屠立《历史著作集》，卷一，五一七页以下。巴尔托利《中国耶稣会史》，四四九页以下。曾德昭《中国通史》，二八二页。）

其事之经过皆在一六〇六年，同年居静偕熊三拔神甫同还教所，然至南昌，三拔径赴北京，居静则奉命留止南京。一六〇八年，著名阁老徐光启丁父忧，还上海，道经南京，延居静至上海开教。当时上海因商业之盛，已成一重要城市^①，光启居大厦，是为嗣后传布信仰之中心。居静首先劝化光启全家入教，已而光启建一华丽教堂，城中士大夫常聚于此。光启位高而名重，其家因之为传播宗教之中心，而教务日形发达矣。

①“上海城墙周围有二哩，然城内与附郭之民户相等。

……全境约有四万户，人口三十万人，每年纳国课金钱十五万枚，粮米称是。此地产米甚丰饶，产棉亦多，织为数种布……人聪敏，多学子士人。……气候甚

良,居民寿较他处为长:年六十者不得称老人,常有寿八、九十;且有数人过百岁者。(金尼阁《远征中国史》,一〇一五——一〇一六页。)

- 居静居上海二年,受洗者二百人。设立一圣母会,所遵行之规则,与利马窦在北京制订者同,对于资深者且命其作圣纳爵圣务(Exerciced de St. Ignace)八日。(金尼阁《远征中国史》,一〇二〇页以下。汾屠立《历史著作集》,五九六页以下。前引巴尔托利书,四九〇页以下。)

新会督龙华民神甫遣居静往杭州开教,并命新莅华未久之金尼阁神甫与钟巴相修士偕往。有进士凉庵(Léon)者,曾在北京受洗,丁忧在籍,劝其友杨弥格(Miehei)^①入教,其人亦名宦大官也。自是杭州新入教者之众与上海等,两地教务皆由居静主持。(金尼阁,一六一二年报告,二一九页以下。)

①钩案:进士凉庵即李之藻,之藻字振之,又字我存,杨弥格即杨廷筠,廷筠字仲坚,别号淇园,皆杭州人。

盖二人与徐光启为中国开教之三大柱石。

一六一六年,仇教之事起,居静深居简出。一六二〇年,又辟新教区于嘉定,进士纳爵(Ignace)^①之故乡也。纳爵入教未久,曾建筑房屋一所,内设礼拜堂,并附设学校一处。其地甚幽静,有园林鱼塘,于奉教讲学皆宜。费奇规(Ferreira)神甫即在其中为邓玉函(Jean de Terentio, Terrenz)、傅泛济(François Heurtado, Furtado)二神甫授华语。讲学之暇,兼事传教,时受洗者有六十人。(金尼阁,一六二一年报告,载《往事记录》,第一二一页。)

①进士纳爵即孙元化，乃举人，非进士。〔徐允希 (Simon Zi) 神甫注。〕钩案：元化字初阳，嘉定人，附见《明史》卷二四八徐从治传。

一六二二年杭州受洗者一百九十一人，中有儒士数 55 人。(曾德昭《中国通史》，一六二二年。)一六二七年杨弥格在杭州建筑教堂一所，住所一处，居静晚年即居其中，居静晚年弱甚，步履须倩人扶持。然神志甚清，手亦能执笔，劝人入教始终未辍。一六三四及一六三五年中，受洗者一百四十八人及一百七十六人。〔苏查(Faria y Souza)重订曾德昭《中国通史》，一六四二年马德里刊本，一六三四及一六三五年下。〕

居静最后二年，瘫痪不能动作，伏若望(Jean Froes)神甫见其状，信其不久于人世，预为之购一棺木，不意若望先死，即用此棺盛殓。一六四〇年一月十九日居静卒，春秋八十，杭州、上海两地之教徒，盛其丧仪，葬于一名方井之地。(巴尔托利《中国耶稣会史》，一一四一页。)

居静遗作列下：

(一)《灵性诣主》一卷。

(二)《悔罪要旨》一卷。(赖之原作《悔罪要记》，似误，“记”应改作“旨”或“指”。艾儒略亦撰有《悔罪要指》一编，见本书第三十九传。)

(三)柏应理(Couplet)神甫谓《迎接战斗：论来世》， 56 凡二卷，然未见刊本。

(四)柏应理神甫又谓，居静撰有标明重音按照西欧字母顺序编写的词典，是即居静与利玛窦合撰之《音韵字

典》。(参看金尼阁《远征中国史》，五七七页。)

(五)金尼阁(出处同前)又云:玛竇、居静“二人别撰有著述数篇以供吾人易习中国语言之用”。(参看汾屠立《历史著作集》，卷一，三〇〇页以下。)

(六)华文稟帖一件，一六〇六年澳门刊本，此乃上呈中国官吏之文，自辩其无谋逆行为者。(金尼阁《远征中国史》，九一二页。)

(七)麦大成(Cardoso)(《圣人传记》，卷三，七三四页)谓其撰有《中国年鉴》，一六三一年。(参看索默尔沃热尔《书目》，卷二，八九六栏以下。)

一六 苏如望 葡萄牙人

一五六六年生——一五八四年入会——一五九五年
入华——一六〇七年八月歿于南昌。

苏如望 (Jean Soerio)^① 神甫字瞻清，出生于葡萄牙科英布拉教区蒙特马约 (Montemayor) 之旧城。入此城修院，后请赴印度，在印度完成其一切学业。被派至中国，先至澳门，后在一五九五年十二月杪抵南昌。与黄明沙修士独居南昌时，曾肄习中国语言文字，能执笔为文。虽体弱常多病，仍传布宗教不倦。(金尼阁《远征中国史》，九六二页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，四八〇页以下。)

①一八九〇年之薛孔昭《名录》作如望。伯希和(一九三二年《通报》，一一四及一一五页)曾见有《天主圣教约言》

(疑为十七世纪中叶刻本)一部,上题撰人名亦作如望。惟赖之原文与北平图书馆藏抄本片作如议。

第一年劝化一年七十岁之老人入教;第二年受洗者⁵⁷有三百人,以后每年如是。新入教之人中有明朝宗亲数人。有福建林姓士人,妻在世时曾纳妾,宗室女也;不忍出之,致未能受洗,然命其三子入教。(雅利克《印度发生的最令人难忘之事》,卷三,一〇二四页。)

如望信教之初,不为世人所认,极感贫乏之苦,复受不在教之邻人与士人之欺凌,然因新入教者之日增,乐苦足以相偿也,如是五十年,病愈甚,诸道长欲送之至澳门养疾,会病剧,遂卒,时在一六〇七年八月^①。

①如望卒年一作一六〇七年八月。(汾屠立《历史著作集》,卷一,五五九页;卷二,三一一页。巴尔托利《中国耶稣会史》,四三七页。)

如望遗著列下:

(一)如望曾撰有《天主圣教约言》一部,一六〇一年顷初刻于韶州,一六一〇年及一六一一年龙华民神甫重刻于南昌、湖州两地。土山湾印书馆曾重印数次。(一九一七年书目九五号。)一六三一年译为安南文。(巴尔托利《中国耶稣会史》,一〇〇四页。)

(二)相传如望曾用汉文撰有《十诫》。

一七 龙华民 意大利人

一五五九年生^①——一五八二年入会——一五九七年入华——一六一七年十二月二十四日发愿——一六五四年十二月十一日歿于北京^②。

龙华民 (Nicolas Longobardi) 神甫字精华, 贵家子也, 出生于西西里州之卡耳塔吉罗内城。入墨西拿城修院研究文学二年, 哲学三年, 神学二年。任教习三年后, 于一五九六年偕皮蒙塔 (Nicolas Pimenta) 神甫等至里斯本东迈。时范礼安神甫专理中国日本教务, 印度视察员职务则新委皮蒙塔神甫任之。同行者有后来受难之斯皮诺拉 (Ch. Spinola)、安格斯 (Jérôme des Anges) 神甫二人及传教师多人。(弗兰格《卢西塔尼亚省年鉴概要》, 一五九六年, 一六三页。)

①布鲁克尔 (Brucker) 作一五五六年九月十日。

②布鲁克尔作一六五四年九月一日。杜宁-茨博特 (Dunyn-Szpot) 作一六五五年。

华民于一五九七年抵中国, 自是以后留居中国凡五十八年。范礼安神甫先遣华民至韶州传教, 时与共事者仅有修士一人。华民当赴城乡传教, 入教者甚众, 其中兼有士人, 如是者数年。僧人嫉之, 因是仇教之事起。(古伯察《基督教在中国》, 卷二, 一八六页。)

其谋未遂。是年四月二十日，华民在靖村首建中国之第一教堂，其成立尚在利玛窦所建北京教堂之前也。会大旱，诸偶像教徒虽祷天禁屠而无效，因怒华民欲谋杀之，忽大雨，谋遂寝。（金尼阁《远征中国史》，七八六页。汾屠立《历史著作集》卷一，四一七页以下。）

一六〇六年有人诬告华民于韶州长官，并诬以奸罪。⁶⁰ 华民闻之，立赴公庭请质对，问官知其无罪，释之。华民乘势辩明郭居静谋逆事之子虚^①。（金尼阁《远征中国史》，七七一页以下。）

①事具本书第十五《郭居静传》。

一六〇九年华民被召赴北京，次年利玛窦神甫于未死前，任华民为中国全国之会督^①。其着手之第一事，则编纂洗礼用语，至今尚宗之。（巴尔托利《中国耶稣会史》，五三八页。）

①事具本书第九《利玛窦传》。

应在此处追忆者，华民盖为引起中国礼仪问题之第一人。当其仅为传教师时，对于其道长利玛窦之观念与方法，已不能完全采纳，但为尊敬道长，不便批评。一旦自为会督后，以为事关信仰，遂从事研究，而在理论与事实上所得之结论，有数点与前任会督之主张完全背驰。其他神甫作同一研求者，意见亦有分歧。顾凡事皆以协合慈爱精神进行，又在服从指挥之下，意见虽分，而未形于外，于传教事业尚未感何种障碍也。（巴尔托利《中国耶稣会史》，一一八页以下。）

一六一六年南京仇教之事起，华民适在巡历各省，闻

讯立即回京，图谋挽救。虽得徐光启、李之藻、杨廷筠、孙元化等之热烈赞助，然不能免朝旨之降下。将南北两京甚至中国全境以内之神甫等一并押解出国。然有传教士数人，隐藏于外省友人家中而获免。嗣后仇教之事渐息。仅一六二二年南京一案，一教徒名安德（André）者以身殉教^①。（曾德昭《中国通史》，三四六页。）

①曾德昭（前引书，二五七页）神甫云：“传教师等所经危难之多，几出人意想之外。我曾调查南京仇教以前教案之数，共有五十四案。要以传教初年发生于广东者为多；当时广州为入中国各地之孔道，得谓其为另一好望角，然亦得谓其为一风暴岬也。”

一六一八年耶稣会长威特勒斯奇（Vitelleschi）命将中国分区与日本教区分判为二。分配其公共财产，惟日本教区每年须付五百金，供给中国传教士之费用，并给付葡萄牙与果阿间之路费。迄于一六三五年时皆如是办理。惟至是年视察员将津贴取消，致使中国传教会大受损失。

万历帝崩（一六二〇年），天启帝继位，朝中信教官吏奏请召回诸传教士，改良军备，蒙谕允。盖时与满洲战起欲利用西洋人也。华民偕阳玛诺（Emmanuel Diaz Junior）于一六二七年同入京，赴兵部报到。时朝中事平，华民等辞以未习武事，遂仍传教并接待朝官如故。（曾德昭《中国通史》，三四八页。）

至是华民不常出京，或在京内培植新入教之人，或在京外四日八日十日程途之地开辟新区，年岁虽高，力行不懈。一六三六年赴济南为光启诸孙聆受告解，因是有官

吏数人入教。

归者既众，僧人嫉之，诉于布道城中之长官。长官拘之至公庭，见其老，悯之曰：“脱非悯汝长须白发，将杖六十。”语毕，挥之去，不愿聆其词。其同伴则被投于狱，华民得济南友人助，救之出。（巴尔托利《中国耶稣会史》，一〇五八页。）

自是以后，华民每年中必有数周或数月赴诸新开教之区传教，足迹渐至泰安。华民迄于七十九岁时，常步行，至此年不复能耐三四日步行之劳，始乘马，迄于死时皆如是也。（出处同前。）

一六四一年华民从北京赴青州，途中遇盗，尽丧所有。青州有宗王某，闻华民名，延之至其家。宗王深通文学，与之论道，并延回教博士与之辩论，回教博士词穷。宗王乃尽拼诸妾而受洗，教名保禄。全家悉从而入教，青州① 济南及其他山东诸城官吏数人亦入教。山东最著名之文士某至王府谒见华民，闻其说，甚倾心，亦受洗，名纳札尔(Nazaire)。（杜宁一茨博特《中国历史》，一六四二年部分。）② 63

①传教山东东部之曼兹(Kilian Menz)神甫谓非青州，而主张为直隶之定州。然高龙肇(Colombel)《江南传教史》(卷一，四一二页)及肖神甫之《天主教传行中国考》(卷四，二一三页)并作青州也。

②本书时常征引之杜宁一茨博特神甫，曾撰有关于中国之书数部，其抄本现藏耶稣会档库。

华民传教山东时，受洗者甚众，有时受洗者五百人，

有僧人,有官吏,传教万安时,在两月间受洗者有八百人。山东生活甚苦,民食粟与草,无盐无油,亦无其他作料。华民年岁虽高,亦食此营养不足之食物,安之若素。且守斋律,每日辄自鞭策。彼持己虽严,待人则宽厚温和,口中从不出恶声。彼虽严守贫乏之戒,然其身常清洁也。(杜宁—茨博特《中国历史》,一六五五年部分。巴尔托利《中国耶稣会史》,一一一六页。)

- 64 华民年九十五岁时受跌伤,自知不起。命人诵耶稣《受难记》,泣曰:“死时获闻我主死难之事,我之幸矣。”一六五四年十二月十一日卒^①。顺治帝素重其人。华民生时,曾命人图其形状;及华民卒,乃赐葬银三百两,并遣官祭奠。〔聂仲迁(Greslon)《中国历史》,一四页。〕

①杜宁—茨博特谓其卒在一六五五年,享年九十六岁。

然墓碑及诸史家所载卒年并作一六五四年,兹从之。

华民遗著列下:

(一)《圣教日课》一卷,一六〇二年初刻于韶州。其后刻本颇有增删:有一七九三年北京刻本,一八〇〇年北京改订本,此本经汤亚立山(A. de Gouvea)主教核准刊行;一八二三年刻本,出版地未详;一八三七年北京刻本。土山湾印书馆重印数次。(一九一七年书目,四七〇号。)

我曾有一本,似即此书之改订本,其改订人应是华民之同时人,抑为华民本人,皆未可知也。此本分二篇,各有三、四百页,标题作《总腋汇要》^①。刻于一七五五年,乃从南怀仁、利类思二人核准印行之本翻印。而怀仁等核准

之本又从一较古之本翻印。比较古本上题核准及同订之人有阳玛诺、傅泛际、费乐德、郭居静、费藏裕诸人，其刻年最晚应在一六三八年。

①殆为《经族汇要》之误。

(二)《死说》。

65

(三)《念珠默想规程》一卷。

(四)《圣人祷文》。

(五)《圣母德叙祷文》。

(六)《急救事宜》。

(七)《圣若瑟法行实》一卷，一六〇二年刻于韶州。

(八)《地震解》一卷，一六二四年同一六七九年刻于北京。

(九)《灵魂道体说》一卷，原刻年未详，今有一九一八年土山湾重刻本。（一九一七年书目，附目第九十一号。）

(十)《答客难十条》一卷，因有儒士驳主宰降世天堂地狱童贞等说，华民撰此以答，一六四二年刻于定州。我未见有刻本，仅在杜宁一茨博特《中国历史》一六四二年下见其节译文。

(十一)《丧葬经书》一卷，一六〇二年顷刻于韶州，拉丁文，附有汉字。（金尼阁《远征中国史》，七七六页。）

(十二)一六〇六年呈广州水头稟帖，辩郭居静谋逆、黄明沙死难及其同伴下狱事。（金尼阁《远征中国史》，九〇八页。）

(十三)关于中国宗教若干点之记录，一七〇一年巴黎刻本。此文原为西班牙文，载于闵明我（Navarrete）神

- 66 甫所撰《论中国君主制的政治策畧》一书中，经西赛（deCicé）主教^①译为法文。法文译本重刻于莱布尼茨（Leibnitz）集中，（日内瓦，一七六八年，卷四，一七〇页以下。）附有注释。亦有葡萄牙文译本。（参看索默尔沃热尔《书目》，卷四，一九三二栏。）

①西赛院长隶巴黎外方传道会，汉姓罗，晋萨布拉主教，一六八四年至华。（据傅圣泽《在华传教士及中国现有教堂名录》，六二页。）一七〇一年晋圣职，一七二七年卒，〔加姆斯（Gams）《主教名录》，一三二页。〕

〔参看本书第一五二罗历山（Ciceri）传。〕

（十四）《中国年报》，一五九八年，十二开本，莫贡蒂埃，阿尔比尼，一六〇一年。此书曾经海神甫书（《日本、印度与秘鲁札记》，九一三页以下）及他书转录，附有瞿太素自苏州致利玛窦书译文。

（十五）穆林德（Von Möllendorff）（《中国书目指南》，一五八页）引有一书标题作《中国简报》，八开本，曼托瓦，一六〇一年。殆为前条所著录《年报》之意大利文译本欤？

（十六）一五九八年十月十八日，华民在韶州致耶稣会长阿奎维瓦书，载《中国近况》，巴黎，夏佩莱特，一六〇四年。即第十四条著录本之法文译本。

（十七）用意大利文写之亲笔信札，十月二十二日的信，谈广东韶州，一六〇〇年，现藏巴勒莫图书馆。（考狄《书目》，一〇八一栏。）

(十八)《四库全书》著录有《新法算书》一百卷，徐光启等与龙华民等同修，参看本书第四十六《邓玉函传》。

(十九)毕嘉(Gabiani)神甫《中国政治礼仪之辩论》，(列日，一七〇〇年及其他诸护教论写本中，引有华民撰关于汉文天主名称之论文数篇，与夫高一志、艾儒略、费藏裕、曾德昭诸神甫之驳论。(索默尔沃热尔《书目》，卷三，一〇七七栏；卷四，一九三三栏。)

(二十)信札四件，三件作于一五九八年，报告韶州教务，第四书作于一六一〇年十一月二十三日，致耶稣会长阿奎维瓦，报告利玛窦神甫病故事。(汾屠立《历史著作集》，卷二附录注一九、二〇、二一、二四页。)

一八 罗如望 葡萄牙人

67

一五六六年生——一五八三年入会——一五九八年入华——一六〇四年发愿——一六二三年三月二十三日歿于杭州。

罗如望(Jean de Rocha)神甫字怀中，出生于葡萄牙教区之拉梅古城。在科英布拉城入会。一五八六年赴印度，时距卒业修院后未久也。在果阿习哲学三年，在澳门习神学四年。

一五九八年始派至韶州，已而被派至南昌与苏如望共处。利玛窦赴北京时，又被派至南京，与郭居静共处。南京，中国之陪都也，如望曾在此城为瞿太素授洗；一六〇

三年徐光启丁父忧回上海守制，路过南京时，亦经如望授洗。（金尼阁《远征中国史》，七九三页以下、八六二页以下。）

- 68 如望管理此城教会数年，信徒入教者甚众。一六〇九年如望在南昌。一六一六年南京仇教时，如望偕丘良厚(Mendez)修士避难至建昌，偕其他神甫二人匿居一教民宅。（巴尔托利《中国耶稣会史》，六二二页以下、七八四页以下。）

建昌首先授洗之人乃一姓万(Wan)者，洗名玛竇，其人先在北京试第一，入翰林，至是全家入教，妻子父母悉皆受洗。（巴尔托利《中国耶稣会史》，六二六页。）

如望从江西建昌至福建漳州开教，已而又被派至江苏嘉定，曾在此城建筑第一教堂，其后未久，被迫而避难杭州杨廷筠家。如望在杭州曾与徐光启草疏，辩明南京礼部侍郎沈淮之诬陷。疏未上，沈侍被劾，不自安，致仕归。（一六二二年）仇教事遂解。

- 会如望受命为会督，而天启帝又许诸传教师回北京，此二事之发生几在同时也。次年一六二三年三月如望卒，
69 光启闻讣，全家持服，如遭父丧。如望葬杭州方井南。柏应理《中国基督徒许太夫人贵府史》（即《许母徐太夫人事略》，清徐允希译注）。巴尔托利《中国耶稣会史》，七八〇页。）

如望遗作列下：

- （一）《天主圣教启蒙》一卷，是编原为乔治（Marc George）神甫而以卡尔蒂拉(Cartilha)名者所撰之葡萄牙

文教义纲领,如望仅将其转为华言。

(二)《天主圣像略说》一卷,一六〇九年本,克拉普罗特(Klaproth)撰柏林汉文抄本书录卷二,五四页有著录。(索默尔沃热尔《书目》,卷六,一九三一栏。)

一九 庞迪我 西班牙人

一五七一年生——一五八九年入会——一五九九年入华——一六〇三或一六〇四年发愿——一六一八年一月歿于澳门。

庞迪我^①(Didace de Pantoja)神甫字顺阳,出生于塞维利亚教区中之瓦德莫拉城(Valdmora)。十八岁入托勒多州之修院。卒业后请赴外国传教。一五九六年遂龙华民神甫东迈。迪我原被遣赴日本,然于一五九九年抵澳门时,范礼安神甫遣之至南京,与利玛窦神甫共处。玛窦第二次赴京时,携迪我同行。

①抄本《辨揭》(见本传后书录)作迪峨,北平图书馆藏抄本作迪莪,然《明史》卷三二六及《正教奉褒》皆作迪我。

迪我至北京之初数年,玛窦大得其助。玛窦与士夫 70
应接或编撰书籍时,“迪我则以教义授于应受洗礼之人。盖其曾习华语,善于言词也”。(雅利克《印度发生的最令人难忘之事》,一〇一九页。)一六〇五年时,“彼曾至近畿若干村庄传教,在一远距二十四哩之地为十人或十二人

授洗。次年至别一地为十三人授洗。人皆争延之至”。(同上书,一〇六二页。)

玛竇死后,迪我时在担任外间事务,因与诸士夫计议,拟奏闻朝廷,请旨赐葬地一区。玛竇能在城外获钦赐葬地,盖得迪我力也。

迪我同熊三拔同奏请旨,得阁老叶向高^①力,下部议,奏上准如所请。(曾德昭《中国通史》,二九五页。)

①向高字进卿,谥文忠,《明史》卷二四〇有传。

71 向高等以葬地四所示迪我,命自择之。迪我选择城外之佛寺一所,乃宦官某之产业。宦官得罪下狱,此寺籍没入官,玛竇即葬于此。

葬地有园林,有礼拜堂,上圆顶,下六方形,外有两半圆墙以护之。玛竇墓用砖砌成,砌时不用石灰,破偶像之泥以代之。

诸圣瞻礼日,作乐,举行第一弥撒,教友毕至。此礼拜堂专奉天主,诸神甫复在其附近别为圣母建筑礼拜堂一所。第一礼拜堂上高悬钦赐二字匾额。(曾德昭《中国通史》,二九五页以下。金尼阁《远征中国史》,一〇七七页以下。一六一二年年报,一四〇页以下。)

葬后迪我以余时编纂华文书籍,以为训练新志愿罗洗人之用。一六一一年迪我、三拔奉朝命改正历书。

一六一一年迪我被暴民殴击几濒于死,复数攫若干大吏之怒,亦几濒于危。(一六二二年年报,九一页以下,一六〇页以下。)

一六一六年仇教之事起,迪我虽屡经奏辩,仍不免陪

京内外诸神甫同被遣逐。甫抵澳门得疾死，时在一六一八年之一月也。（巴尔托利《中国耶稣会史》，六六七、六六八页。）

迪我遗作列下：

（一）《七克大全》，七卷，一六一四年北京刻本。此书屡经付印，后有一六四三年北京刻四卷本；一七九八年北京刻七卷本；一八四三年泗泾（Se-King）刻本；一八四九年上海刻二卷本；一八七三年土山湾刻四卷本。此书曾经《天学初函》收入。同一书经遣使会士转为官话，凡二卷，题曰《七克真训》，一八五七年刻本，前有浙江代牧达尼科尔特（Danicourt）序；土山湾有一九二二年重刻本。（一九一七年书目，附目一八六号。） 72

一七七八年乾隆帝修《四库全书》时，公教司铎所撰基督教义之书被采录者三种^①，此其一也。

①此据一七七八年七月三十一日北京之一信札（疑出钱德明神甫手），见《传教信札》，先贤祠，卷四，二四六、二四八页。然公教司铎等所撰关于教义之书经《四库全书》采录者计有八种，不只三种。此外尚有关于科学之撰述十六种，不在数中。参看《四库目录答问》。

此书颇为士夫所重，康熙帝族某王名若望（Jean）者，深通文学，曾记其入教始末，有云，使其入教之要因，盖《七克》一书有以启之。（《传教信札》，巴多明神甫一七三六年十月二十二日信札；卷三，四八二页。）

（二）《人类原始》。

(三)《天神魔鬼说》。

(四)《受难始末》一卷。一九二五年土山湾有重刻本。(一九一七年书目,附目八号。)

(五)《庞子遗铨》二卷。(参看伟烈亚力《中国文献注释》,一三九页。)

(六)《实义续篇》一卷,玛竇《天主实义》之续编也。

(七)《辨揭》一卷,一六一六年仇教时所上之辨揭也,疑在一六一八年刻于广州或澳门^①。

①徐家汇藏书楼有手抄本,题曰《庞迪峨熊三拔具揭》。

Ⅶ (八)庞迪我神甫所撰关于中国基督教之意见书,乃一六〇二年三月九日作于北京,致托勒多区长居斯曼(Louis de Gusman)者,有一六〇四年及一六〇五年西班牙文本,一六〇七年法文本,一六〇七年意大利文本,一六〇七年拉丁文本,一六〇八年德文本。

(九)迪我曾为中国皇帝绘有四大洲地图,每洲一幅,复由倪雅谷(Jacques Néva)修士装饰甚丽,图之四围附以说明,略志各国之地理、历史、政治、物产。徐光启并以教义之说明附焉。皇帝及诸近臣见图,颇赏其绘事之精。

柏应理及巴尔托利谓迪我曾用华文撰有一书,说明天主及其特性。此本今未见。(柏应理《耶稣会神甫名录》,十一页。巴尔托利《中国耶稣会史》,六八〇页;参看索默尔沃热尔《书目》,卷六,一七二栏以下。)

二〇 李玛诺 葡萄牙人

74

一五五九年生 —— 一五七六年十二月三十日
入会——一六〇一年入华——一五九五年七月
十日发愿——一六三九年十一月二十八日歿于
澳门。

李玛诺 (Emmanuel Diaz Senior) 神甫字海岳，别号老玛诺，盖其名与阳玛诺同，故加老字以别之。出生于葡萄牙波塔雷格里教区中之阿斯帕罕小城。入会后九年，尚未晋司铎时，在一五八五年四月十日附圣雅各号船赴印度。是年八月十五日在非洲之索法拉 (Sofala) 沿岸，遭难船沉，幸得生，然在此酷热气候之下，备受卡弗雷斯 (Cafres) 部落之窘迫。饥饿、裸体、烈日，诸苦备尝。然较之目睹诸同伴百物皆缺，而死于此种广大荒野之情形，此苦不足道也。

玛诺仅与后晋日本主教之马尔廷斯 (Pierre Martins) 神甫^①独获免，赴果阿完成其学业，即在此城发四愿。管理此教区中之塔纳及乔尔两城之教务，并为视察员范礼安神甫之会办者三年。曾任澳门之会团长两次。中国日本传道会视察员两次。

①原作 Pierre Martinez 误，今改正。为一五四一至一五九八年间人，参看索默尔沃热尔《书目》，卷五，六五四栏。）

一五九六年玛诺奉命为澳门会团长，任职期满，卡瓦略 (Valentin Carvalho) 神甫代之。至是玛诺被派入中国内地，视察韶州、南昌、南京三处教务所，并奉命不得逆中国会督利玛窦神甫之意而行。诸神甫“见其至，喜甚，共上书，于视察员，请留此勤良耕夫，垦此新田”。(金尼阁《远征中国史》，七九九页。汾屠立《历史著作集》，卷一，四四〇页以下。) 75 玛诺昔在澳门时，即始终鼓励传教事业。一六〇四年，遂欣然携倪雅各修士同赴北京。抵京后与玛窦共议两月，复偕郭居静神甫南下执行其职。

会视察员归自日本，召玛诺回澳门。玛诺向视察员作最有利之报告。于是范礼安神甫乃命中国传道会之会督对于澳门会团长完全独立，纵关于允许中国修士入会之事亦然，且在澳门设置主计员一人，主持传道会之会计事务。复指定数人，于以后诸年中陆续进入中国内地，且许再从印度、欧罗巴两地加派人员来华。(金尼阁《远征中国史》，八一二页。汾屠立《历史著作集》，卷一，四五二页以下。)

布置既毕，玛诺于一六〇五年携丘良厚 (Pascual Mendez) 修士重返南昌，传布宗教。次年入教之人倍增，逾二百人。南昌有一明朝宗王受洗，洗名约瑟 (Joseph)。王之兄弟或从兄弟三人亦于诸王瞻礼日受洗，洗名即以三慕阁 (Mages) 国王之名 (Mélchior, Gaspar, Balthasar) 名之。王之幼子，洗名玛诺 (Emmanuel)。王的老母，虽笃信佛教，亦有皈依之意：“所以丘良厚修士赴其家说教，顾中国男女之界严，良厚乃隔帘为之讲说，然至授洗之

日,不意至者六人,即其女一人,侄女一人,婢女四人。”(金尼阁《远征中国史》,八四二页以下。汾屠立《历史著作集》,卷一,四六七页以下。)

新入教之人日众,城中士人嫉之,一六〇七年祸几发生。玛诺因旧修院小,乃购置一较适宜之房屋。诸士人遂诉于官,谓诸欧罗巴人禁人敬奉祖先遗像,不留后嗣,使寺庙荒寂,城乡骚扰,其敬奉者乃一判处极刑之人。城中长官殆曾阅玛竇护教之说,且知初来南昌传教之利玛竇神甫,在京颇受宠遇,不受其词,并出示保护教士,且为之辩诬。(金尼阁《远征中国史》,九六二页以下。汾屠立《历史著作集》,卷一,五五九页以下。) 76

一六〇八年三月修院开办,有修士四人,并澳门籍,父母皆教徒,主院事者骆入禄(Jérôme Rodriguez)神甫也。此外别有辅佐教友三,亦皆华人。耶稣降诞之日,玛诺举行教堂开幕礼,堂中设二坛,一奉救世主,一奉圣母。坛前置二灯,日夜燃之。(巴尔托利《中国耶稣会史》,四七三页。金尼阁《远征中国史》,九八七页。汾屠立《历史著作集》,卷一,五七五页以下。)

一六〇九年玛诺被召至澳门,重为会团长。嗣后其任务吾人几完全不明,仅知其在一六一九年时尚在澳门。一六二二年奉命视察一切传教处所。一六二六年曾至嘉定。一六三〇年目录中无其名,殆在视察别一传教所。一六三六年会长擢之为中国、日本、安南南北圻、暹罗、阿瓦(Ava)、柬埔寨、老挝等处视察员。

一六三七年玛诺曾上书于威特勒斯奇(Mutius Vite-

Heschi)神甫,言其居东方五十一年,而任道长或咨议之职逾四十九年。习练会内外之人与事,用特恳请会长于遣赴中国、日本传道会之人员时,不必仅限葡萄牙人,务盼将欧洲各教区之神甫一并遣发,并期其为会中训练良好之司铎,各具一艺,如画师,数学者,天文学者之类。由是可免久居澳门,盖澳门之气候不适于研究也。“至若华人,虽许其入会,顾此辈奉教之时不久,似不宜以关涉会中名望。若誓愿之遵守,圣事之举行等务委之。”(巴尔托利《中国耶稣会史》,一〇五五页。)

一六三九年十一月二十八日玛诺殁于澳门,继其后为视察员者,乃卢安东(Rubino)神甫。

77 玛诺遗作甚少,列举于下:

(一)一六〇七年上南昌官吏书,辩士人诬陷事。(金尼阁《远征中国史》,九六八页。)

(二)一六三〇年上会长威特勒斯奇书,关于天主是否可称上帝问题,主张上帝名称可用。巴尔托利《中国耶稣会史》,一二一页。)

一六三七年三月十日上会长书,陈述遣赴中国之传教师必具之资能事。(上引巴尔托立书,一〇五五页。)

阅明我神甫《中华帝国史》著录有玛诺之信札两件:一为一六三九年七月二十六日在澳门致菲律宾群岛罗萨尔·圣多明我(Rosaire de St. Dominique)教区区长甘(Charles Gan)神甫书;一为一六三九年六月四日致多明我会士莫拉勒斯(de Morales)神甫书。兹二书皆答书,盖二神甫关于中国之礼仪问题,曾致书于玛诺也。

(三)有人谓一六一九年十二月七日作于澳门之《中国年报》及一六二六年三月一日作于嘉定之相类年报,并出玛诺手笔。〔阿勒甘布-索特威尔(Sotwell)《作家书目》,一八九页。〕一六一九年年报,见《中国大事记》,罗马,一六二六年,一至六一页,具玛诺名。一六二六年年报,意大利译文为 *Lettere dell'Ethiopia 1626 e della Cina 1625* (一六二六年埃塞俄比亚及一六二五年中国的来信),罗马,扎奈特,一六二九年;法文译文为 *Histoire de ce qui s'est passé au royaume d'Ethiopie*, 马肖尔 (du P.de Machault) 译,巴黎,一六二九年版。(索默尔沃热尔《书目》,卷三,第四二栏以下。)

(四)缪尔 (Christophe de Mürr)《公开的书信》,第六页引有玛诺致会长阿奎维瓦书,一六〇九年十一月十一日作于澳门。

(五)南昌信札二件:一作于一六〇四年十一月二十二日,一作于同年同月二十九日,并言其事业与其计划。〔汾屠立《历史著作集》,卷二,二二、二三页)。

二一 费奇规 葡萄牙人

78

一五七一年生——一五八八年入会——一六〇四年入华——一六一二年十一月二十一日发愿——一六四九年十二月二十七日歿于广州。

费奇规 (Gaspard Ferreira) 神甫字揆一,出生于葡

葡萄牙之卡斯特罗—朱尔诺城。修行后，习辩学一年，哲学三年，一五九三年赴印度，尚未晋司铎也。教授文学四年，已而赴澳门完成其神学。一六〇四年范礼安神甫遣之赴北京。在途颇受导引之闽人虐待，不意祸不单行，于抵港前舟沉于河中。失资逾二百金，并供献皇帝朝廷之美丽贡品，皆沉于水。惟圣经八册，乃枢机员圣赛维林(San Severin)赠诸神甫者，得救出，未经河水浸透。(金尼阁《远征中国史》，八一五页。汾屠立《历史著作集》，卷一，四六三页以下。)

- 79 利玛窦神甫欲其练习语言及传教事务，除委之训练修士亘六年外，并以庞迪我神甫新在近畿建设之诸教所数处委付之。时有入教者甚众。奇规乃分其人为三部，男子命徐必登(Leitao)修士讲授教义，妇女年老者奇规自任讲授之责，幼妇少女则命业经训练之儿童为之解说。是年受洗者一百四十人，复往其他村庄说教，有一处经一妇女劝化七家之人而领之受洗。(雅利克《印度发生的最令人难忘之事》，一一一页、一〇六四页。)

嗣后奉命与阳玛诺管理韶州教务，曾用一切可能方法谋复以前事业。然其辛勤枉费，韶州之儒士、僧人及城中多数居民，皆反对教士。彼等于一六一二年四月十三日被逐出城，时距利玛窦开教之时已有二十三年矣。但教敌胜利之时甚暂，会河水漫溢，全城皆受水灾。

诸神甫等遂乘舟溯流而上，抵于河水发源之梅岭，南雄县城即在岭下。彼等抵此，时在七月三十一日。在此城中赁屋而居，将水灾时所能救出之少数什物移置屋中，并

于其中布置礼拜堂一所。城民闻外国人至,争来观之,传布福音之门户遂启。是年终受洗者三十八人。(曾德昭《中国通史》,二八七页。巴尔托利《中国耶稣会史》,五七七页以下。)

万历帝降旨驱逐传教师出境之时,南雄官吏曾以上意通知奇规,然许其待同伴至而后行,奇规为慎重计即出走。自是以后,奇规事迹吾人不甚详悉。柏应理神甫谓其曾赴江西建昌建筑教堂一所,此事曾经一六三〇年目录证明,一六三四至一六三五年间,奇规尚在建昌。奇规曾至河南,然其年代未详。清兵入关时,奇规退还广州。一六八四年目录志其在广州传教。杜宁一茨博特神甫《中国历史》(一六四九年部分)明言其一六四六年后与毕方济(Sambiasi)同在广州。清兵下广州,奇规赖葡萄牙人之救,得不死。嗣后毕方济临危时,他曾临视。无奈本人亦疾终,时在永历四年或一六四九年十二月二十七日也。索特威尔神甫谓其一六四四年歿于北京,并误。(阿勒甘布《作家书目》,二二六页。柏应理《耶稣会神甫名录》,十二页。)

奇规遗作列下;

(一)《周年主保圣人单》。

(二)《玫瑰经十五端》一卷,土山湾有重刻本。(书目四四八号。)

(三)《振心总牍》一卷,刻于奇规死后。考狄《中国的中-欧印刷术》(一九〇一年),书目一一四著录有《振心诸经》,殆为同一书也。

(四)安文思(de Magalhaens)神甫书(《中国新志》，一〇一页)谓其撰有汉葡字书一部及各种汉文著述二十余部。

(五)奇规曾撰论驳龙华民汉文天主名称之非。(索默尔沃热尔《书目》，卷三，六八三栏。)

(六)信札，见一六〇六至一六〇七年年报，一七八至一九四页。

二二 黎宁石 葡萄牙人

一五七二年生——一五九〇年入会——一六〇四年入华——一六一二年十一月二十一日发愿^①——一六四〇年歿于杭州。

黎宁石(Pierre Ribeiro)神甫字攻玉，出生葡萄牙之佩特罗高城(Petrogao)。晋司铎后，于一六〇〇年东迈。在澳门修业完毕后(柏应理《耶稣会神甫名录》，一六〇三年，载《耶稣会历史档案》)，一六〇四年被派至南京学习语言。居南京数年，又居上海数年，往返于江南、浙江二省传布宗教。一六三〇年时居上海。一六三四年在上海为四百一十四人授洗，一六三五年在南京为三百二十人授洗。后重赴杭州，于一六四〇年歿于此城(据墓碑)。葬于方井南。

①薛孔昭《名录》作一六一六年九月十八日。兹从一六二六年《名录》作一六一二年十一月二十一日。一

六二一年《名录》作一六一七年二月二十四日；一六三六年《名录》作一六一六年九月十八日。

二三 杜禄茂 意大利人

一五七二年生——一五九四年十一月六日入会
——一六〇四年入华——一六〇九年七月二十
五日歿于韶州。

杜禄茂 (Barthélemy Tedeschi) 神甫^① 字济宇，出生于佛罗伦萨州之菲威查诺城。就学于罗马学校。嗜读印度诸传师之信札，因有传道外国之志。于是请入安德修院，研究哲学毕，一六〇〇年东迈。在澳门完成其神学，范礼安神甫器其人，一六〇四年遣之赴韶州，为龙华民神甫⁸² 伴侣。禄茂居韶州五年^②，疲劳致疾，歿于圣雅各之瞻礼日，人皆惜之。

①北平图书馆藏抄本作禄亩，别据他书字潜字，夏鸣雷(Havret)神甫《西安府景教碑》第二篇五三页，已将此名字殊异之点检出矣。

②一九二五年四月刊《圣教杂志》引《道学家传》，谓其亦曾传教江西。

李玛诺、骆入禄神甫运其柩归葬澳门。(金尼阁《远征中国史》，一〇二六页以下。汾屠立《历史著作集》，卷一，六〇页以下。)

二四 骆入禄 葡萄牙人

一六〇五年入华——一六三〇年前后 歿于澳门。

骆入禄 (Jérôme Rodriguez) ① 神甫字甸西, 似出生于葡萄牙之蒙福尔特城(?)。一五九六年赴印度, 在印度完成其学业。一六〇五年被派至韶州, 与龙华民神甫共处。一六〇八年南昌设修院, 入禄为院长。修士七人皆华籍, 并用欧罗巴姓名。(巴尔托利《中国耶稣会史》, 四三〇、五七一页。)

① 鈎案: 北平图书馆藏抄本作尺禄。

一六〇九年, 入禄病, 偕李玛诺共还澳门, 时玛诺被任为澳门会团长也。入禄等共运杜禄茂神甫柩而行。舟至广州, 易小渔舟, 安抵澳门。(金尼阁《远征中国史》, 一〇二九页。汾屠立《历史著作集》, 卷二, 六〇四页以下。)

一六二一年, 入禄为东亚一切传教区之视察员。同年集资深学优之传教师七人, 共议中国礼仪问题, 及天与上帝名称问题。一六二七年诸神甫重在嘉定集议, 主持其事者乃入禄之后任班安德 (Palmeiro) 神甫也。一六二六年时, 入禄曾遣巴尔迪诺蒂 (Baldinotti) 神甫与皮亚尼 (Piani) 修士赴柯枝建设传道会一所。马利尼 (Martini) 《日本与安南东京耶稣会神甫传教区》, 一七〇页》和曾德昭神甫 (《中国通史》, 一四二页) 谓其曾历游中国各

地。数年后歿于澳门。

二五 林斐理 葡萄牙人

一五七八年生——一五九三年十二月十五日
入会——一六〇五年入华——一六一四年五月
九日歿于南京。

林斐理 (Félicien da Silva) 神甫字如泉, 出生于葡萄牙布拉加教区之普里威罗·弗拉德雷斯。曾入科英布拉修院。一六〇一年赴印度, 即在其地完成学业, 晋 84 受司铎。一六〇五年被派入华, 管理南京教务凡有九年。

一六〇九年时, 因南京气候不适, 得重病, 还澳门诊治; 疾甫愈, 即赴南京。(金尼阁《远征中国史》, 一〇〇三页。汾屠立《历史著作集》, 卷二, 五八八页以下。) 一六一二年曾偕郭居静神甫、钟巴相修士共赴杭州, 最后巡历之地是处州府, 斐理曾与石宏基 (de Lagea) 修士在此为七十八举行洗礼。〔朱万西 (Jouvancy) 《耶稣会史》, 五六一页。〕会病重还南京, 歿于一六一四年五月九日。(巴尔托利《中国耶稣会史》, 五九七页。)

一六一七年南京仇教时, 沈淮曾破斐理棺, 其尸未腐, 亦无臭味。诸教友重葬之于聚宝门外雨花台下。(巴尔托利《中国耶稣会史》, 五九八页以下、六七二页以下。弗兰格《耶稣会的新兴年》, 二六三页。高龙鞞《江南传教史》, 卷一, 二二八页。)

二六 高一志^① 意大利人

一五六六年生——一五八四年入会——一六〇五年入华——一六〇六年八月十五日发愿^②——一六四〇年四月十九日歿于绛州。

高一志 (Alphonse Vagnoni) 神甫字则圣, 贵族裔, 生于都灵教区中之特罗法雷洛。修道后教授古典及修辞学亘五年。据闻布雷拉学校盛仪接待萨沃伊公爵查尔斯一埃马努尔 (Charles-Emmanuel) 时, 高一志修士担任颂接待词。所致词沉着美妙, 公爵颇器重之。已而在米兰教授哲学三年。后请派往外国传道, 遂于一六〇三年偕同日本殉道人科斯坦佐 (Camille Costanzo), 锡兰殉道人迈特拉 (Jean Metella) 二神甫及其他神甫数人同舟东迈, 而一志为道长。一六〇五年派往南京, 次年八月十五日发四愿。(巴尔托利《中国耶稣会史》, 一一四四页以下。)

①一志初冠姓名王丰肃, 字一元, 一字泰稳, 后改高一志, 字则圣。参看本传注。

②一六二四年《名录》作一六〇六年; 一六二六年《名录》作一六〇九年。

初入中国之四年, 一志精研中国语言文字, 欧罗巴人鲜有能及之者, 因是撰作甚多, 颇为中国文士所叹赏。一

86 六〇九年时城中人被劝入教者甚众。有大吏某因徐光庭

之介，与诸传教师订交，然其人辄鄙视教中书籍。一志曾为之制天体仪、地球仪，并附以说明。其人渐与一志亲昵，感情为之一变，终入教受洗，教名若望（Jean）。（金尼阁《远征中国史》，一〇〇七页。汾屠立《历史著作集》，卷一，五八八页以下。）²

一六一一年五月三日彼在南京为真主建筑第一教堂，是为全国所建之第二堂。壁上用汉文大字题曰：“一六一一年五月三日耶稣会诸神甫在中华古国之南京建筑之第一教堂。”（巴尔托利《中国耶稣会史》，五五一页以下。）一志（时名王丰肃）留居此城。迄于一六一六年教案之起，时入教者甚众，中有士大夫数人。

据龙华民神甫之证明，南京传教所乃当时中国全国最发达的传教所之一。是为种种德行灿烂之园圃。入教及受洗者甚众，其中有士大夫，城乡居民不少，亦有外国人。一志为妇女设圣母会一所，其实行默诵与永远守贞之赎罪方法者，为数甚多。（巴尔托利《中国耶稣会史》，五五四、六三一页。）

一六一五年，万历皇帝命沈淮为南京礼部侍郎。此人不喜基督教徒，而有私怨，缘其在宗教辩论中数为人所窘也。南京僧人曾以银万两賄之，怂其驱逐传教师（一六一八年年报）。一六一六年五月沈淮上疏请逐教士，其大意谓：其人潜入中国，变乱历法，诳惑小民，合将为首者依律究遣，其余立限驱逐。（曾德昭《中国通史》，三〇八页。）

其词尚有彼等“自称其国曰大西洋，自名其教曰天主教。夫普天之下，薄海内外，惟皇上为覆载炤临之主，是

以国号曰大明，何彼夷亦曰大西，且既称归化，岂可为两大辞以相抗乎？”“丰肃神奸，公然潜住正阳门里，洪武冈之西。……城内住房既据洪武冈王地，而城外又有花园一所，正在孝陵卫之前。……狡夷伏藏于此，意欲何为乎？”（出处同前。）

疏既上，虽经徐光启^①、李之藻、杨廷筠、孙元化诸人上疏辩护，然终不免一六一六年八月二十日及此后之屡降上谕，将诸传教师下狱，并押解出国。一志（王丰肃）明知其事，然与谢务禄（后改名曾德昭）神甫仍守其居宅，而待吏役之至。及吏役来，守其门，清查其财产，封其箱笼，务禄已病，闭置于一房中，用椅舁丰肃至沈淮前，淮立投之狱^②。（曾德昭《中国通史》，三一一页。）

①光启曾上二疏以驳沈淮之说，其一疏今题《辩学疏稿》。其他诸人亦曾上疏辩护。

②此案文件全载《破邪集》中，集八卷，初刻于万历末年，前未久日本及安南南圻有重刻本。据此集卷一载，会审王丰肃等呈文云：“会审得王丰肃，面红白、眉白长、眼深鼻尖、胡须黄色。供称：年五十岁。大西洋人。幼读夷书。繇文考理考道考得中博士，即中国进士也。不愿为官，只愿结会，与林斐理等讲明天主教。约年三十岁时，奉会长格老的恶（Claude Aquaviva）之命，同林斐理、阳玛诺（Em. Diaz Junior）三人，用大海船在海中行走二年四个月，于万历三十七年（一五〇九年）七月内前到广东广州府香山县香山澳中。约有五月，比阳玛诺留住澳中。是丰肃同林斐理，前至韶州府住几日，又到江西南昌府住四月，于万历三十九年（一六一一年）三月内前到南

京西营街居住。先十年前利玛窦、庞迪我、郭居静、罗儒望等已分住南京等处。”

沈淮欲置诸人于死，然会审者仅遵北京来命，将诸传教师押解出国。然在屡次鞠讯中，侮辱备至。“有足踢者，有拳击者，有批颊者，其势之来，有同暴风雨；有推击者，近类波浪；有唾吾人之面者；有拔吾人之毛发者；挫辱甚至，未能毕书。”（曾德昭《中国通史》，三一七页。）

当此时间，诸教徒之表示，皆无愧于其神甫，无谋自救或轻其缙继而自辩无罪者。有数人且欣然受拷讯，惟愿为信仰而受苦刑，惟恐不能殉教而死。（同上书，三一八页。） 88

中有二人被瘐死。一名 Pierre Hia，南京人，年二十二岁，入教已五年，德行素著，是为宗教而死于狱中之第一人。次名 Guillaume Vem，已婚，服役诸神甫所，死时较后。又有一教徒名姚如望(Jean Yao)，好学而深思，曾制四旗，上书其姓名、籍贯、职业，以一旗插头上，被捕后，口称愿为天主死。尚有军官二人，一名 Ignace Tsen，一名 Lue Tchang；铁工一人，名 André Hiang；教授诸神甫华语者一人，名 Philippe Sin，其人因此被褫夺功名，又有生员某，自北京来，看护教徒数月，为之裹创，常人狱慰之。在教之妇女，聚其所得之工资送狱中，以济最苦之教徒。（同上书，三二三页。）

①钩案：此节所记华人姓名仅有姚如望一人见诸会审钟鸣仁案牍，此外见诸同一案牍者，有曹秀、游禄、蔡思命、王甫、张元、王文、刘二、周可斗、王玉明及幼童

五名；见诸钟鸣礼案牍者，有张案、余成元、方政、汤洪、夏玉、周用、吴南诸人。参看《破邪集》卷二。

- 89 拘禁数月，出二神甫于狱，重提至沈淮前。一志（丰肃）衰甚，不能立，以板界之行。淮予杖十，判押解出境，务禄因病得免杖责。一志（丰肃）受杖，创甚，月余始愈。彼等之房屋、器具、书籍概被没收。

“将我辈囚置于一狭小之木笼中，项手带链，发长，衣服不整，示我辈为外来蛮夷。一六一七年四月三十日如是囚置，从狱提至法堂，加贴封条。……三桌前导，上陈上谕，禁止一切华人与我辈交通。如是离南京，囚处木笼三十日。”抵于广东省之第一城。数日后抵澳门。书籍、仪器、器具皆被没收；教堂居宅皆被折毁而以材料供其他建筑之用。（同上书，三二八页以下。）

后至一六二四年，一志始能重入中国。是年以前，则从事于编撰后来印行之汉文著作；并在澳门教授神学两年，任学校教习一年。南京识一志者多，乃遣之至山西^①。一志至绛州，为两名宦受洗，其一人名韩云（Etienne），其一名韩霖（Thomas），两兄弟也。既得此二人助，第一年中入教者二百人，内有士人六十，宗室数人；一六二六年入教者五百人；一六二七年其数同；嗣后每年加增。由是金尼阁神甫首先开教之时仅有教徒二十五人之地，至一志歿时，有教徒八千，中有二百人乃为有功名之士夫也。其后未久，一志另辟别一教区于同省内之蒲州府，至若其他城乡经其开教者尚未计焉，则谓一志为山西省开教之宗徒，洵不为过。（巴尔托利《中国耶稣会史》，一一

四五页。)

①至是彼始改王丰肃之名曰高一志。

彼虽在别一地方开教,然不曾将其他教所付与他人, 90
不惮跋涉山谷,寻求信徒,逐家访问,安慰苦人,救济弱者。一六三四年副区长傅汎际神甫致会长书有云:“高一志神甫有教徒数千人,散布于五六城市及五十余乡村中,每年不惮劳苦,周巡两次,而安居时则编撰汉文书籍,无时或息也。”(同上书,一〇三九、一一四五页。)

一六三四年时,绛州大饥,人民死者以千计;饥民为求生,至杀生人掘死尸以为食;母杀其子,致令人忆及耶路撒冷城被围时之惨象。

一志在此时尽力救济灾民。留方德望(Le Fèvre)神甫及陆有基(Emm. Gomes)修士于绛州,本人则犯冒险阻,到处救济难民,为病危者授洗。是年绛州及蒲州府受洗者有一千五百三十人。〔同上书,一〇四一页以下。苏查(Fariay Souza)对曾德昭《中国通史》的补充。〕

又立育婴堂收养弃儿,未久得三百人,诸儿饥半死,获生者鲜,然皆受洗礼而终。官民见其慈善济众,甚德之。妇女争施首饰以助。

有信教官吏段袁(Pierre Toan)者,为圣母会监督,中有士人四十人;感一志之行谊,曾以其房屋施贫民,施食食之,导之入教。或拾弃儿,或卑躬助人。闻活埋婴儿者辄驰往救之。(巴尔托利《中国耶稣会史》,一〇四四页以下。)

当此时间,绛州大火,教民房屋独免。当时灵迹不 91

仅此也,用十字架圣水等法愈病之事,时见有之。(同上书,一〇四五页以下。)

一六三七年,蒲州府教民之数日增,一志不得已请郭纳爵(Ignace da Costa)神甫管理此城教务。阁老韩爌者,绛州人也,曾力助之。爌谓宗教之正者莫若天主教,愿全国人皆信奉之。因劝导士夫及宗室入教,故一志抵绛州甫数月,所设之教会,其会中人纯为官吏及阁老之戚属。(同上书,一〇四九页。)

一六四〇年四月十九日一志得疾卒^①。中国传教会中诸神甫深为教内教外人同倾服爱敬者,除利玛窦外,无能逾于一志者也。(同上书,一一四五页。)

①《圣教会刊》,卷四,三〇六页谓一志歿于江南,误也。一志确歿于山西之绛州。徐神甫在一九二五年四月《圣教杂志》中所刊布之《道学家传》谓一志葬于杭州南门外,亦误。杭州传教师在一九二六年曾告吾人,杭州毫无高一志神甫踪迹可寻。

其遗作列下:

(一)《教要解略》,一作《圣教解略》,二卷,一六二六年初刻于绛州;一九一四年重刻于土山湾。(一九一七年二四二号书目。)是编撰于澳门。

(二)《圣母行实》三卷,一六三一年刻于绛州,一七九八年刻于北京,土山湾有重刻本。(一九一七年三六号书目。)初刻本有罗雅谷(Jacques Rho)序。

92 (三)《天主圣教圣人行实》七卷,一六二九年刻于绛州,亦为谪居澳门时之撰述。一八八八年土山湾印书馆重

刻是编第一卷，题曰《宗徒列传》，编入《道原精粹》第七册中。《道原精粹》共八册，四开本。（一九一七年一六一号书目；一九二六年有第二版。）

（四）《四末论》四卷。

（五）《终末之记甚利于精修》，凡六页，一六七五年北京刻，附于柏应理神甫《四末真论》后。土山湾有重刻本。（一九一七年一九〇号书目。）

（六）《则圣十篇》一卷，一六二六年后刻于福州，卷首有孙元化序。

（七）《十慰》一卷，刻于绛州。

（八）《励学古言》一卷。

（九）《西学修身》，一名《修身西学》，十卷，一六三〇年刻于绛州，第四次刻本为土山湾一九二三年本。（一九一七年书目补目八〇一号。）

（十）《西学治平》四卷。（鈎案北平西什库天主堂刻有《民治西学》二卷，题高一志撰，疑即《西学治平》之节本，闻巴黎国家图书馆藏有《西学治平》等编，今未见。）

（十一）《西学齐家》五卷。

（十二）《童幼教育》二卷，一六二〇年刻本。

（十三）《寰宇始末》二卷，无刊刻年月处所，曾经文士数人重订，阳玛诺、傅汎际、罗雅谷三神甫核准印行。

（十四）《斐录汇答》二卷，斐录者，西语哲学之音译也。巴黎国家图书馆藏中国书籍新藏三二〇八号。〔库朗（Courant）所编书目三三九四号。〕

（十五）《譬学警语》二卷，卫匡国神甫书（《中国基督 94

教徒数量及素质简述》，三十一页。）曾述及是编。鈎案陈援庵先生藏有旧抄本，前有譬学自引，综论譬喻，卷上题《譬式譬语》卷之上，而无下卷，卷后题耶稣会中同学黎宁石、费奇规、费乐德订，值会阳玛诺准，与其他耶稣会士著述卷末题例正同，似为全帙，而传写者漏抄原题卷之下一行也。末有三次看详方允付梓，兹并镌订阅姓氏等语，应有刻本，刻年应在天启四年以后，崇祯十三年以前。李玛诺（第二〇传）、黎宁石（第二二传）、费奇规（第二一传）、乐德（第四七传），本书并有传。

（十六）《神鬼正纪》四卷，一六三三年顷刻于绛州。

（十七）《空际格致》二卷。（参看伟烈亚力《中国文献注释》，一四〇页。）

（十八）《一六一六年中国年报》，作于澳门，题一六一八年十一月二十日，刻于诸汇编及《日本、中国、果阿和埃塞俄比亚信札》中，曾经波泽（Laurent delle Pozze）神甫转为意大利文，共八卷，米兰，一六二一年，一五八至二五三页。此年报叙述一六一七及一六一八年间南京仇教事甚详。别有一六一九年一月六日自澳门致耶稣会长之意大利文记录，作为年报附录，亦述南京仇教事。有旧抄本，三十六页，藏耶稣会档，比利时档。（布鲁克神甫补注。）

（十九）《达道纪言》一卷，巴黎国家图书馆中国书籍新藏三一三四号。（考狄《中国的中-欧印刷术》，五二页。）

（二十）一六二四年五月致罗马之葡萄牙助理员信札，述罗如望神甫在建昌开教及中国传教事业。（巴尔托利《中国耶稣会史》，七八四页。）

（二十一）金尼阁《远征中国史》，一〇〇八页）神甫谓一

志曾在利玛窦神甫所撰之《教义纲领》中附加四注。索特威尔(《作家书目》,四三页)神甫从巴尔托利神甫说,谓一志尚撰有他书数种,然此数书不见于柏应理神甫的《耶稣会神甫名录》,而在他书中亦未见征引。故吾人仅据柏应理、卫匡国二神甫所著录者,及中国若干抄本著录者录存于编。

(二十二)别有《推验正道论》一卷,未著撰人名,序题 95
王一元、泰稳,顾一志旧名王丰肃,且同署名之徐光启,乃一志之同时人,并为其友,吾人以为是编亦属一志撰述。

(二十三)索默尔沃热尔《书目》(三六三栏)尚著有一六〇六至一六〇七年间信札一件;我以为此信札首见于格里罗(Ferd. Guerrero)之一六〇六至一六〇七年报告中,缘其见于德文译本《历史报告》第七六至七九页也。

二七 鄂本笃 葡萄牙人

一五六二年生——一五八八年入会——一六〇
五年入华——一六〇七年四月十一日 歿于 肃
州。

鄂本笃(Benoît de Goës)修士,特赛腊群岛中圣迈克尔岛威拉一弗兰卡地方人。初隶军籍。当时青年,尤其是士卒,多耽于赌博及其他过失,本笃亦沉溺于其中。迨至马拉巴尔沿岸之特拉万科尔,忽悔悟,入一圣母堂,泣求圣母向圣子耶稣基督请许其悔过。(雅利克《印度发

生的最令人难忘之事》，卷三，一六〇页。）

96 彼忽见耶稣显形，泣泪如乳，呼其同伴观之，诸人所见与己同。本笃因痛悟其以往之放逸行为，遂为全部之告解而入教，进耶稣会。 出处同前。）

修院肄业完毕，诸道长见其具有一切必须之品质，欲其进修而晋司铎。然本笃谦辞，以其过去劣行，不足当此，愿终身为修士。会中遣之至莫卧儿国，与哈维尔（Jérôme de Xavier）神甫为伴。本笃在其地习波斯语，并助理诸神甫数年，精勤过于回教徒、异教徒及新入教之教徒。贤明而有德，人皆钦之。因是为莫卧儿国王阿克巴（Akbar）之挚友，阿克巴遣使至果阿，命本笃与使偕行，待遇同使臣。（金尼阁《远征中国史》，九五七页。）

当时印度虽闻回教商人种种异闻，谓有契丹大国，及马可波罗称誉不止之汗八里都城。此契丹与支那是否为一地，此汗八里与北京是否为一城，尚疑而未决也。利玛窦神甫在其信札中虽曾是认，然世人尚未敢遽认为真。相传“此国有基督教徒，有教堂，有司铎，有天主教礼仪”。此国或者沦于若干谬误，必须纠正；传说若虚，则差异教民族，而必须使之皈依；传说若实，是为入中国最短而最易之道途。总之，势有调察明白之必要也。（金尼阁《远征中国史》，九〇七页以下。）

印度总督萨尔达格纳（don Arias de Saldagna），果阿大主教梅尼赛斯（Alexis de Menesses）^①，会中视察
97 员皮门塔（Nicolas Pimenta）神甫^②，因决定探访亚洲高原路途，寻求陆地通北京之道路。为此探险事业，遂属意

于鄂本笃，缘其体力，其毅力，其贤明，其坚忍，与其虔笃之信心，皆是办此；且其熟习印度数种语言也。〔威塞尔斯(Wessels)《早期耶稣会士中亚旅行记》，七页以下。〕

①梅尼赛斯，奥斯定会士也，为果阿之第七任大主教。一五九五年九月至任所，后调至布拉加。第一任主教为梅洛(François de Mello)，其人一五三六年在埃武腊登舟前病歿。第二任为阿布奎基(don Juan d'Albuquerque)，一五三七年就任，一五五六年二月歿。嗣后升主教区为大主教区，总管印度全境教务。〔加姆斯(Gams)《主教名录》，一一五页。〕

②皮门塔神甫生于圣塔伦城。一五六二年入会，时年十六岁。教授文学五年，神学五年，为科英布拉学校监督八年。一五九六年派赴东印度为视察员，在果阿及马拉巴尔任职垂二十年。一六〇四年三月六日歿于果阿。一五八六年时曾发四愿。(阿勒甘布《作家书目》，六三三页。)

发足亚格拉城之前，哈维尔神甫手书训示付之为旅行便利，而不启土人猜疑计，乃变服，矫装为阿美尼亚人，衣短袍，戴小帽，腰插弯刀，负弓矢，留长发，须垂至腹。总之，形貌服式皆类阿美尼亚之商人也。(雅利克《印度发生的最令人难忘之事》，卷三，一四六页。)取名曰奥都刺爱薛(Abdullah Isai)，此言基督师。此种矫装可以使之通行无阻，若识其为葡萄牙人，则难于通行矣。彼在印度购买种种商货，以为沿途交易之需。

偕行者有希腊司铎或副司铎一人名格利马诺斯(Léon Grimanos)，商贾一人名德梅特利乌斯(Démétrius)，阿美尼

亚籍一人名依撒克(Isaac)。算端阿克巴,其他诸印度国王、总督、大主教、诸道长等皆付以介绍书。本笃于一六〇二年十月二日发足亚格拉,十二月八日抵拉合尔。(布鲁克尔《鄂本笃传》,巴黎,1879,十三页。)是行也,费用由总督付给,阿黑巴并以四百金为贐。(雅利克《印度发生的最令人难忘之事》,卷二,一四六页。)

吾人之旨趣不在详细叙此无比旅行之一切行程,可别参考金尼阁《远征中国史》,九一九页;汾屠立《历史著作集》,五二六页以下;威塞尔斯《早期耶稣会士中亚旅行记》,十三页以下。兹仅节述其大事而已。

一六〇三年二月六日离拉合尔,历行全国,路遇盗劫,本笃逃林中获免。商队抵莫卧儿国之极边卡包尔城。格利马诺斯不复能任道路疲劳,遂还。德梅特利乌斯留此城贸易,不愿前行。本笃与其友依撒克留此城亘八月,待新商队之结合,与之同行。

93 其始也,道路困难较少。第愈前行,危险与疲劳渐增,前途所经者无非险峻之山岭,宽大之河流,与湍流之泉水,皆须犯险而渡。如是经行,结幕于撒马儿罕城附近,道路既危险,复有盗贼之虞。“一日本笃稍停留,忽有四盗出袭,本笃取其波斯帽向诸盗掷去,诸盗惊愕,本笃鞭马疾驰得脱走,与商队合。诸盗发矢射之,已无及矣。”(金尼阁《远征中国史》,九二九页。)

商队之前进也,始终与盗贼、水灾、山岭、风雪相争斗。行抵喀什噶尔以前,越荒寂无人之帕米尔高原,攀登奇奇克里克高山,凡六日,冻死及埋于雪中有数人。本笃

敕其忠仆依撒克于死地。其后不久依撒克亦以相类之义举报之。历尽未闻之辛苦，而抵喀什噶尔国之都城叶尔羌，时在一六〇三年十一月底前后也。

本笃先经拉合尔时，和阗王母名 Agéhanem 者，奉伊斯兰教，巡礼麦加还至此城，适金尽，本笃出金贷之，而不取利息。既抵叶尔羌，王母厚赐之，并以玉块偿其借款，是为携往中国最宝贵之货物。

本笃留居此城一年，城中人尽奉回教，本笃有数次几丧其生。“一日偕回教徒数人行，有彼教之教师某以刃胁其胸，强之诵摩诃末名而为真主之祈祷，否则杀之。本笃终不为屈，赖有诸外国商人夺其刃而获免。犯冒如是险阻不只一次，终获天主之佑。”（雅利克《印度发生的最令人难忘之事》，卷三，一五四页。）

又一次“被召至喀什噶尔国王前，备诸大臣与文人号摩刺辈之询问。初询其信奉何教：信摩西教欤？信大卫教欤？抑信摩诃教欤？并询问何方祈祷天主。本笃答言所奉者是耶稣之教（其人名曰耶稣），天主无往不在，祈祷时任向何方。诸人闻此言自相争辩，缘彼等祈祷其伪主时，面向西方也。最后决议吾辈宗教之良或如彼教”。（金尼阁《远征中国史》，九三七页。）

叶尔羌会有新商队结合，本笃愿与同行，遂于一六〇四年十一月半间首途。历城市甚众，其名曰：Egriaz, Thalec Horma, Capétalcol, Zilan, Cambaso, Ciacer, Aksou, 迄今尚未能完全考订其今地。（钩案第五名疑指齐兰，第八名应指阿克苏。）并经行哈刺契丹（Karakat-

thay) 沙漠之一部,抵于库车,旋至 Cialis (疑为哈刺沙尔所属之库尔勒;布鲁克尔《鄂本笃传》,三五页)。抵后一城时,有一商队适从契丹来,此商队在一六〇一年时曾至汗八里也。(威塞尔斯《早期耶稣会士中亚旅行记》,三二页以下。)

本笃闻商队首领言,汗八里城有一博学教师名利玛窦者居彼,“曾以自鸣钟、西琴、绘像及其他欧罗巴异物进献皇帝,而朝中贵人咸敬重吾辈”。(金尼阁《远征中国史》,七四四页。)并出示玛窦所写葡萄牙文信札,盖扫除此神甫居室而得者也。本笃及其同伴喜甚:契丹确为支那,汗八里确为北京,无可疑也。

本笃至是离商队前行,至 Pucian 稍停,遂抵于中亚高原名城土鲁番。会商亦至,留数日,预备粮食,领取护照。此城君主,信奉回教,见奥都刺爱薛名,乃询本笃曰:应否将此基督教名写于护照中。“答曰:我既用此爱薛名历经诸地,决用此名旅行所余之程途。”(金尼阁《远征中国史》,九四五页。)
 100 “有一老回教师闻此言,脱其缠头巾置于地曰:此人是真奉教者,盖彼在一异教君主及众人前不
 100 惮自言其耶稣名。我辈则不然,盖人谓改地不久即改教也。语毕向本笃特致敬礼。”(金尼阁《远征中国史》,九四五页。雅利克《印度发生的最令人难忘之事》,卷三,一五七页。)

复从土鲁番首途,进至Azamuth,一六〇五年十月十七日抵哈密,停留一月,已而下中亚高原,进向中国边界。未久入戈壁,不见寸草点水。畏鞑靼盗贼,辄夜行。一

夜本笃坠马下昏绝，同伴不知，及抵宿地方悉，其伴依撒克乃回途觅之。夜暗不见人，久之，闻唤耶稣声，始救之赴宿处。（金尼阁《远征中国史》，九四七页。）

在道数日渴甚，终抵嘉峪关，中国长城之尽境也。至是本笃不复鞅鞞地域之盗贼、饥饿、寒冷及旅行中之其他灾难；然不意将遭之难，险恶有百倍于前者之所经：盖官吏之掊克及刁难，俨同盗贼也。本笃重赂之，始得前行，于一六〇五年终达肃州。在肃州见回教商人，亦言中国都城有欧罗巴司铎数人在彼。于是作书寄北京致利玛窦，然其书未达，而至一六〇六年北京尚未得此冒险远征队之消息也。

最后在十一月始得一书，玛窦遣华籍修士 钟 鸣 礼（Jean Fernandez）（钩案应改作钟鸣仁，参看本书第三四《钟鸣礼传》注二）赴肃州，一六〇七年三月杪方至^①。时本笃已不复能久与此长期困苦争，卧一弊床中，阿美尼亚人依撒克忠诚护伺。闻有人作葡萄牙语来慰问，遂醒。¹⁰¹“彼见有一教友远来慰问，心中大慰，视其如同天使。及闻诸神甫在中国都城之佳音及其成绩，尤慰，取诸神甫书吻之，举手向天，诵圣歌，悲泣终夜，持来书不舍。”（雅利克《印度发生的最令人难忘之事》，一五九页。）

①参看本书第九《利玛窦传》。

未死前语鸣礼曰：“四年以前曾作告解：兹欲再为告解而未能，自念过去诸年似无大过，天主仁慈，必能宥我。”（金尼阁《远征中国史》，九五八页。）一六〇七年四月十一日气遂绝。（雅利克《印度发生的最令人难忘之

事》，一六一页。）

本笃死后，其遗物为人攫夺，最可惜者，其旅行日记亦为人夺去撕碎。此日记记载旅行中本笃借给同行伴侣等之财物。然鸣礼与依撒克获得若干残叶归呈利玛窦神甫。玛窦之能叙述本笃之行迹，盖赖此残叶与依撒克之报告。此外余存本笃始终悬于胸前之十字架，其宗教愿词，果阿大主教与哈维尔神甫之信札，暨喀什噶尔与 Cialis 等地国王发给之护照三纸。此种遗物概携归北京保存以作纪念。（金尼阁《远征中国史》，九六一页。前引布鲁克尔《鄂本笃传》，四〇页以下。威塞尔斯《早期耶稣会士中亚旅行记》，三九页。）

至其同行之忠诚伴侣依撒克曾为诸回教商人投诸狱。鸣礼与回教商人讼五月，始将依撒克释出。及至北京，玛窦与诸伴侣待之如同兄弟。依撒克欲归里，乃遣之至澳门，复由澳门会团诸神甫资助其归国。金尼阁神甫记录付梓时（一六一五年），其人尚存，居于孟买附近之乔尔城中。（金尼阁《远征中国史》，九六一页。）

102 近代之旅行家，曾循鄂本笃行程全部或一部者，对此勇敢的先驱莫不表示钦敬。（威塞尔斯《早期耶稣会士中亚旅行史》。）本笃之故乡威拉一弗兰卡曾为之建立遗像。

此次旅行之纪录，曾经金尼阁神甫载入其《基督教远征中国记》，旋经巴尔托利、吉尔切尔（Kircher）等节译其文；今泰沃奈（Purchas Thévenet）等之行纪汇刻皆见收入。古伯察院长之《基督教在中国》，想象过于丰富，未足据也。

本笃遗笔现仅留存信札数件：一六〇二年十二月三十日自拉合尔致印度区长书；旅行开始时致平海罗(Pinheiro)神甫书；一六〇三年二月十四日自拉合尔致哈维尔神甫书；一六〇四年二月二日自叶尔羌致同一神甫书。兹四书皆见节录于格雷罗(Fernandez Guerreiro)神甫书(里斯本，一六〇五——一六〇九年)及雅利克神甫书。(索默尔沃热尔《书目》，卷三，一五二九栏以下。)

二八 游文辉^① 中国人

一五七五年生——一六〇五年入会——一六〇五年入内地——一六一七年十二月二十五日为在俗辅佐人——一六三〇年歿于杭州^②。

游文辉(Emmanuel Pereira)修士字含朴，澳门人。一六〇五年入耶稣会；先曾与诸神甫相随，一五九八年与利玛窦、郭居静二神甫同在南京。一六〇三年重莅其地。范礼安神甫下命许其为修士。(巴尔托利《中国耶稣会史》，二九九、四二二、五九六页。)其作修士之练习似在北京。利玛窦临危时，彼在其侧，曾闻玛窦鼓励之言曰：“亲爱之教侣，鼓汝之勇气，不必悲泣，如天主许我入天堂，我请求之第一事，则祈天主施汝以坚忍，并许汝歿于会中。”(金尼阁《远征中国史》，一〇四一页。)

①原缺华姓名，兹从北平图书馆藏抄本补入。

②薛孔昭《名录》作一六二九年。

文辉曾为画师，同时为讲授教义人。一六二八年尚存，然在一六三〇年名录中不复见其名。据苏查(Faria y Souza)说，彼在是年歿于杭州。

二九 徐必登 中国人

一五八〇年生——一六〇五年入会^①——一六〇五年入内地，在俗辅佐人——一六一一年六月十日歿于海中。

徐必登(Antoine Leitao)修士，亦澳门人。在北京入耶稣会。年十五岁即入内地，而为讲授教义人。常偕庞迪我神甫赴近畿各地传教。专任启迪男子，虽事业繁重，然堪自慰也。体弱多病，甘受劳苦而不辞。其为人持己严而对人谦恭。嗣后为费奇规神甫之伴侣。遣至韶州休养，已而自韶州赴澳门，未至，歿于舟中。其遗体葬广州。(巴尔托利《中国耶稣会史》，五七四页。雅利克《印度发生的最令人难忘之事》，一〇六二页。)

①据一六〇四年一月二十二日名录，是年必登年二十二岁，然则其生年为一五六二年，入会年为一六〇三年矣。(汾屠立《历史著作集》，卷一，四四九页注三。)

三〇 熊三拔 意大利人

一五七五年生——一五九七年入会——一六〇

六年入华——一六一七年发愿——一大二〇年
五月三日歿于澳门。

熊三拔 (Sabbathin de Ursis) 神甫字有纲,生于那不勒斯国之累切城。名族之裔也。初入罗马学校肄习,年尚幼即有志为同类救赎而为牺牲。(阿勒甘布《作家书目》。)一六〇八年^①请赴远方传教,获准,时肄习神学尚未完毕也。晋司铎后,一六〇六年派往北京,乘郭居静神甫还南京教区之便,与之同行。留居北京迄于一六一七年押解出境之时。

(①钩案:一六〇八年应为一六〇三年或一六〇五年之笔误。

利玛窦神甫使之精研中国语言,见其温和谦恭过人, 104
兼守苦行,病危时命之为驻在所之道长,不以其新至为嫌也。(巴尔托利《中国耶稣会史》,五〇七页。)

一六一一年变更历法之议起,钦天监官自认推算差谬,请命外国学者若利玛窦之伴侣等参订修改,由是朝命庞迪我与三拔修历,三拔因撰书成帙。三拔又与徐光启共译拉丁文之行星说为汉文,并就前在欧洲印度及在中国所测日蚀之比较结果,测量北京经度。迪我亦从事于测量自广州达北京诸重要城市之纬度。(同上书,五四四页以下。)

官吏嫉之,致使其计划未成。三拔乃改而研究水法,制造取水蓄水诸器。皇帝与廷臣皆赏其器之新奇。往观者不免经过教堂,赞美绘像。礼部尚书某因名教堂曰天主堂,自是以后遂为罗马公教教堂之通称。(同上书,五

四六页。)

三拔既博万历帝之欢心，因取得传教师传教中国之许可。然为时不久南京仇教之事起，三拔、迪我被谪而赴澳门。三拔等行后，徐光启命一忠实教徒看守教堂与利玛窦神甫之坟墓，缘其为钦赐之物，他人不得强夺，故得保存，迄于一六二二年诸神甫之召还。(同上书，六六八页。)

三拔虽多病常发热，然犹于特别工作之外，为幼年教士授哲学，为儿童授华语，而以中国语言与书籍之秘密传授未来传教师，因此积劳而歿。(同上书，七二〇页。)

其遗作列下：

- 105 (一)《泰西水法》，六卷，一六一二年北京刻本，前五卷言水法，第六卷为诸器之图式。一六四〇年徐光启奉敕撰《农政全书》六十卷，曾将此本采入。后有陈之龙重刻本四十六卷，版最劣，不为世所重。一七四二年乾隆时奉敕撰农书七十八卷，题曰《授时通考》，一八四三年有重刻本。(参看伟烈《中国文献注释》，七〇页。)

(二)《简平仪说》，一卷，一六一一年北京刻本，前有徐光启序。一八四四年钱熙祚辑《指海》曾将是本收入。(参看同上书，二七页。)

(三)《表度说》，一卷。

以上三书均收入《四库全书》及《天学初函》。阮元(一七六四至一八四九)辑《皇清经解》《畴人传》曾有著录。

(四)《中国俗礼简评》，载入一六一一年中国逐年信札中。此文殆为改修历法时所撰巨帙之节录。(索默尔沃热尔《书目》，卷八，三五一栏。)

(五)巴尔托利神甫谓三拔曾与徐光启、李之藻共译关于行星说之书籍数种。

(六)龙华民神甫引有三拔撰关于中国人对于天主、天使、灵魂等说之见解,写以拉丁文。〔一六一七年龙华民神甫写给视察员方济各·维埃拉(Vieiram)有关指导教务备忘事项的解释。(参看索默尔沃热尔《书目》,卷四,一九三三栏;卷八,三五一栏。)或者即是一六一六年在澳门用拉丁文撰写的一部士大夫论述真天主的详细著作。〕

(七)与(八)毕嘉神甫(《有关北京神甫们的几点疑问》。参看索默尔沃热尔《书目》,卷三,一〇七七栏;卷八,三五一栏)引有三拔撰述二编,并手抄本。一名《类似原则》(一六一〇至一六一五年北京传教会),一名《上帝说》,写以汉文,题年一六一四,撰于北京。三拔以为上帝之称不足代表真主,立说与龙华民同。三拔为此曾致一拉丁文记录于视察员维埃拉(Vieira)神甫。〔参看柏应理神甫一六八〇或一六八一年之记录,此记录曾经佩帕尔(Pieper)在下一论文中研究:《导致中国礼仪之争的新见解》,载《传教学杂志》,明斯特(Munster),一九一四年,七、九页。〕 106

(九)《陆若汉神甫著述注释》。(索默尔沃热尔《书目》,第一章。)

(十)一六〇六年二月一日信札,述范礼安神甫病歿事,见巴尔托利《日本耶稣会史》,五六九页。

(十一)一六一〇年五月二十日在北京致耶稣会诸神甫信札,述利玛窦神甫之事业,病歿及殡葬事,见汾

屠立《历史著作集》，卷二，附录二四号，四八三页以下。

(十二)一六一一年四月二十日自北京致马斯卡伦哈斯(Antoine Mascarenhas)神甫书，所述同前，此函业经考德罗(Cordeire)神甫刊行(凡六七页，八开本，罗马，一九一〇年)。

三一 阳玛诺^① 葡萄牙人

一五七四年生——一五九二年入会——一六一〇年入华——一六一六年九月十八日发愿——一六五九年三月一日歿于杭州。

阳玛诺(Emmanuel Diaz Junior)^①神甫字演西，出生于葡萄牙之卡斯泰尔夫朗科，于一六〇一年至果阿完成其学业。已而赴澳门，教授神学六年。一六一一年与费奇规神甫共至韶州，传教颇有成绩。当地土人、僧人嫉之，被逐退居南雄，不久一种热心信教之新教所因以建立焉。

①阳玛诺(幼)与李玛诺原名同，故增老(Senior)与幼(Junior)二字以别之。

一六一四及一六一五年时，中国日本区长卡尔瓦略命玛诺巡视当时业已存在之诸传教所，宣布不久撤消之
107 戒条，以算术或其他科学教授华人，惟福音不与焉。一六一六年南京仇教之事起，谪居澳门。一六二一年被派至北京，初居徐光启之郊外别墅，嗣居进士纳札尔(Nazaire)^②

宅，每八日赴都城一次，为新入教之教徒举行圣礼，并举行弥撒。（见一六二一年报告，载《中国历史》，第六〇页。）

①钩案：此人中国姓名未详，与第十七《龙华民传》之纳札尔同为一入。

朝臣之奉教者，谋召诸神甫还北京，乃举西士制造枪炮，部议许可，玛诺与龙华民神甫同被选。二人既至，向兵部明白陈明，关于战争火器诸事非彼等之所知，而彼等职在教世人谋救赎，质言之，认识并崇拜天主也。

彼等虽有此言，未被遣回。盖当时方待澳门遣葡萄牙兵携带枪炮来京效力，由是许彼等自由传教。

兵部欲彼等居官舍，诸神甫谢之，辞以无功，不足当此。其实不愿受羁绊也。在教之人劝彼等回居旧所，由是重返故居。盖旧日教堂为一教徒购买，至是以赠诸神甫，重建新堂之费遂省。孙元化适在朝中，担任为之修理。（曾德昭《中国通史》，三五页以下。）

由是传布宗教，接待朝官如故。全国诸传教所渐得安处。（同上书，三五一页。）

一六二三年罗如望神甫卒。玛诺被命为中国副区长。自是以后，中国教区与日本教区分离，各有区长，直属会长。玛诺温厚和霭，知人善事，人皆爱戴，如是为副区长 108 或视察员者十八年，为驻所道长者十年。益以其精谙神学，熟习语言文字，由其论道之说与其刊行之著述，虽教外人亦甚重视之。（毕嘉《中国天主教之发展》，卷一，第七章。杜宁一茨博特《中国历史》，一六五九年部分。）

一六二六年时，玛诺与黎宁石神甫同在南京。一六

二七年被逐，避居松江。官吏欲投之狱，遂走上海，居徐光启宅。顾上海亦属松江辖境，彼等不自安，欲回松江辩诬。光启阻之，劝其赴杭州杨廷筠宅暂避，玛诺等从之，不久事平。〔科尔达拉(Cordara)《耶稣会史》，卷二，一五九页。〕

廷筠出资在杭州建一美丽教堂，并设一修院；已而发展宁波教务，一六三九年玛诺重返宁波。

一六三四年吾人知其江西之南昌；一六三八年在福建之福州。从前经艾儒略神甫开教之所逐渐发达，至是为诸省最。不意祸乱又起，新入境之传教师被攻揭，遂被谪居澳门。(巴尔托利《中国耶稣会史》，一一一二页以下。)

玛诺在福州时，曾收容被逐之传教师凡七日。中有一人患病，势不能留，乃为之举行临终授餐礼，命亲信教徒一人护送彼等赴澳门。诸人甫行，新被逐者又至，亦厚待之。(同上书，一一一三页。)最后玛诺本人亦被迫而离福州。其后重还福建。盖据一六四八年名录，玛诺时在延平府传布宗教编撰书籍。最后重被任为视察员。一六五九年三月一日歿于杭州，葬大方井。

109 其遗作列下：

(一)《圣经直解》，一六三六年北京刻本十四卷；一八六四二年、一七九〇年北京刻本八卷；一八六六年土山湾重刻本八卷；一九一五年刻本二卷，(一九一七年十五号书目。)十九世纪初年宁波亦有刻本。别有官话节译本，题曰《圣经浅解》。(参看伟烈亚力《中国文献注释》，一

四〇页。)

(二)《天主圣教十诫直诠》，二卷，一六四二年、一六五九年、一七三八年、一七九八年北京刻本；后一刻本经主教汤亚立山核准刊行。一九一五年上山湾有重刻本。(一九一七年书目，二五六号。)

(三)《代疑编》一卷，一六二二年北京刻本。参看古兰 (Courant)《国家图书馆中国书籍目录》，七〇九三至七〇九九号。富尔蒙 (Fourmont)《中文文法和目录》CCXLVII 号和CCXLVIII 号。(以下为补注。)是编似全出杨廷筠手笔，吾人所见旧抄本，未提阳玛诺名。廷筠并撰有《代疑续编》，曾经华籍遣使会士康神甫转为官话，题曰《代疑俗解》，一九一六年刻于北京。北堂一九三四年书目，二〇〇号。布朗德 (Van den Brandt) 书目，四三四号。本传第十五号书，又第九十《卫匡国传》第四号书，皆同一撰述而别见者也。

(四)《景教碑诠》，一卷，一六四四年杭州刻本，一八七八年土山湾重刻本。(一九一七年书目，一〇八号。)是编后附一六三八年泉州发现之十字架三具摹本。

(五)《圣若瑟行实》，一卷，一六七四年刻本。

(六)《圣若瑟祷文》。(以下是补注。)一九〇九年后在《周主日祷文》中改用罗马新审订文，玛诺译文不复再用。

(七)《天神祷文》。此祷文与前一祷文土山湾有合刻本，题曰《周主日祷文》。(一九一七年书目，四四七号。)

(八)《轻世全书》，克利斯蒂 (Imitatione Christi)之译文也，似仅将原书第一及第三卷全译，文仿谟诺。一六 110

四〇年北京初刻本二卷，不全；一七五七年、一八〇〇年、一八一五年北京刻本四卷；一八四八年上海刻本四卷；一八五六年、一九一〇年、一九二三年土山湾刻本四卷。（一九一七年书目附目，三九五号。）一七五七年本有李若翰序，称是编由蒋弥格尔续成，赵类思为之注。案蒋弥格尔疑指蒋友仁（Nichel Benoit），赵类思疑指赵圣修（Louis desn Roberts）二神甫。北京主教田类思（Delaplace）有别译本三卷，题曰《遵主圣范》。又有译本四卷，微有讹误，阙译人名，一九一三年土山湾刻本，（一九一七年书目，三九六号。）一九〇三年有香港刻本一卷。（纳撒勒书馆一九二四年三九〇号书目。）钩案：献县张家庄有刻本四卷，题曰《师主编》，李友兰译，用白话体，序题光绪三十一年。阙译人名，殆指《遵主圣范新编》。尚有译本题曰《神慰奇编》，今未见。此外注译《轻世金书》者，有道光二十八年（一八四八年）顺德吕若翰之《轻世金书便览》，仿日讲书经解义体为之注解。又有王保禄之《轻世金书直解》，王序称《轻世金书》与现行西文本繁简迥殊云。

（九）《默想书考》。

（十）《避罪指南》一卷。

（十一）《天问略》一卷，一六一五年北京刻本，《四库全书》著录。《天学初函》、《艺海珠尘》并收入。《畴人传》亦曾征引及之。（参看伟烈亚力《中国文献注释》，八七页）。

（十二）（十三）考狄《中国的中-欧印刷术》（二二、二三页）著录有二书，现藏巴黎国家图书馆：一名《天学举要》一卷，抄本，中国书新藏三二二一、三二二二号；一名《袖珍日

课》，中国新藏三〇九三号。

(十四) 索默尔沃热尔(《书目》，卷三，四五页)神甫 111F 谓在巴黎圣热纳维埃尔学校藏有一小八开本，据布鲁利昂(Broullion)神甫跋，内容是《受难记》及若干祷文。(似即第十三号著录之袖珍日课节本。)

(十五) 索默尔沃热尔神甫(出处同前)尚引有《代疑论》，未著明出处。(钩案：此书应是《代疑编》之误引，参看本传第三号书。)

三二 金尼阁 法兰西人

一五七七年三月三日生——一五九四年十一月九日入会——一六一〇年至华——一六一五年一月一日发愿——一六二八年十一月十四日歿于杭州。

金尼阁(Nicolas Trigault)神甫字四表，出生于杜埃城，曾在此城耶稣会士主持之学校修业。一五九四年得文艺硕士。数星期后请入耶稣会，而于十一月九日^①在法比教区之上尔内城修院开始受业。见习后被派至里尔城习修辞学及哲学。嗣后在根特城教授修辞学两年。彼在当时业已从事研究有裨于传教师之语言及地理、天文、数学、医学等科。如是任教习者八年。

①据德哈斯奈斯(Dehaisnes)《金尼阁传》十四页，二一八页，亦作十一月二十二日。

研究神学后,获得会长之许可,于一六〇七年登舟赴
112 印度,十月九日抵果阿。当时“舟中多病人,吾人不仅为
看护人,且为医师,盖舟中医师只知理发,余皆未悉也。
……每日我以教义授卡弗雷斯(Caffros)黑人,每二日以
教义授葡萄牙人。此辈黑人之语言,颇类佛刺明语,而
较德意志语柔和,韵母较多,气音较少,我虽略知一二,然
授教义时,势须传译也。此辈黑人约有八十人,隶奴籍,教
授久之,皆知画十字,诵天父、万福玛利亚等祷词”。

最大之工作,乃在接受斋节之告解,盖舟中人自海军
将官以下,皆愿向尼阁为之。有时尚有余暇观察事物。
舟行圣洛朗(St-Laurent)马达加斯加岛与莫桑比克沿岸
间,“吾人见有种种鱼类甚众,最奇者中有近类鲑鱼之小
鱼,人名之曰飞鱼,有软骨翅,与蝙蝠同,飞行海面,捕他
鱼为食。第出水飞行时,空中常有鸟伺其后也”。(德哈斯
奈斯《金尼阁传》,二八页以下。)

抵果阿,所译《加斯帕利斯·巴尔则神甫传》脱稿。在
城与近郊传教两年余。一六一〇年中,被召至澳门。一六
一一年初被派至南京,在王丰肃(高一志)、郭居静二神甫
指导下学习华语,未久龙华民神甫命偕居静同至杭州,盖
李之藻新丧父,召居静等赴杭也。彼等留居未久即行。

尼阁赴北京,以会务报告会督,复还韶州。已而重至
南京肄习语言。尼阁于所经诸城,抽暇测量其经纬。华
民见其能,命之赴罗马,谒教皇及会中诸道长,陈明必须
增加新教区事。

一六一二年尼阁自南京赴澳门,一六一三年³初登舟

抵柯枝，遵陆赴果阿，乘阿拉伯船赴霍尔木兹，其地距地中海尚有五、六百哩；必须经行荒原及仇视基督教的 113
蛮人所居之地；或为阿拉伯之游牧部落，或为波斯突厥
无纪律之军队；并应渡大河，经沙碛，犯冒热风、猛兽。尼
阁体弱，囊中既无行资，而且孤身一人也。

但彼不因之畏阻。既经罗耳（Louristan）、曲儿忒
（Kurdistan）^① 两部之地，抵弼斯罗（Bassorah），与一商队
合，历游古巴比伦之比尔斯—耐罗德（Birs—Nemrod），诣
哈里发之都城巴格达，而抵摩苏尔。复经行流沙亘四十
日，抵阿莱普港（Alep）。当时此港有意大利、英吉利、法兰
西、佛刺明诸国人甚众。

①钩案：曲儿忒（Kurdistan）部非此行所历之地，殆为库
吉斯坦（khuzistan）之误。

尼阁赖乡人之助，得在亚历山大勒达港登舟赴塞浦
路斯岛，复历罗德岛、克里特岛、赞提等岛而抵奥特朗托；
一六一四年终抵罗马，距离南京时二年余矣。（同上书，一
〇八页以下。）

尼阁立时进行其所任之要务，获得教皇保罗五世
（Paul V）前此从未颁布之教谕，许在弥撒之举行与圣务日
课之祈祷中用华语；设置本地神职班；教皇据其请求，许
译圣经，并于举行弥撒时不必脱帽，（一六一五年三月二
十日礼仪部令。）而以重量藏书颁给新传教会。此外教皇
命尼阁以教皇之祝福与新近颁布之大赦转达中国。耶稣
会长阿奎维瓦同时将中国传教会与日本教区分离，并遣
派优秀之耶稣会士多人前往助理。

尼阁至是刊行其《基督教远征中国史》，题献教皇，是为欧洲人叙述中国比较完备无讹之第一部书，当时颇具声誉也。（同上书，一二〇页。）是为利玛窦神甫之意大利文纪录，经尼阁转为拉丁文，而增入两章，叙述玛窦之病故及殡葬者。（汾屠立《利玛窦历史著作集》，卷一、序言XXXIV页。）

诸务既毕，选举威特勒斯奇神甫为会长之大会后，尼阁决游欧洲各国，历说诸基督教之国王与民族，俾其关心新辟教区之教务。默迪西(Cosme de Médicis)以无比之自鸣钟一具赠之，钟上雕一人首羊身之怪物，持弓发矢，每时发一矢以报时。法国王后默迪西(Marie de Médicis)赠以弗朗德勒地方之贵重毛毡。尼阁居其故乡杜埃与家
 114 人团聚数星期^①（一六一七年二月及三月），已而至里尔，至布鲁塞尔谒西班牙公主伊萨伯拉(Isabelle)，历访特利夫斯与科伦两城大主教，继至慕尼黑与奥格斯堡二城。巴伐利亚国诸公爵以所藏最贵重之绘画与异物赠之，并许每年馈以五百盾。一六一七年终至里昂；一六一八年二月重返里斯本，与传教师二十二人会，此皆尼阁率往中国者也。先是尼阁得国王菲利普三世之许可，遣西班牙耶稣会士东行，并供给必需之经费以为建设十五驻所之用，同行者有邓玉函、罗雅谷、汤若望诸神甫。（德哈斯奈斯《金尼阁传》，一二六页以下。）

①在杜埃时有人为尼阁绘像，尼阁衣华服。

一六一八年四月，诸人在里斯本附布诺·格苏(Buono Gesu)号舟出发。迄于热带，旅行平安愉快。每日举

行日课，并安慰病人。星期一及星期四库赞（Ouentin Cousin）神甫理功过；星期二及星期五邓玉函神甫教授数学；星期三及星期六尼阁教授华语。日日研究天文。然至六月初间经行非洲沿岸时，舟中人患热疾，传染甚速，尼阁乡人库赞神甫先死，德籍阿尔伯里克（Jean Albéric）神甫继之，其戚圣洛朗神甫又继之（一六一八年六月八日），赛斯勒斯（Jean de Sesles）神甫及意籍卡瓦里纳（Paul Cavallina）神甫^①皆相继病歿。其他诸人几尽可危。

①圣洛朗神甫系以一五八八年三月十日生于杜埃。一六〇三年文艺硕士。一六〇五年博士。一六〇六年入耶稣会。库赞神甫系以一五八二年七月二十六日生于土尔内。赛斯勒斯或德赛勒斯（Decelles）神甫系以一五七八年七月二十日生于惠伊（Huy）。（《历史纲要》，一八八〇年，一九六页）

卡瓦里纳神甫染病时，曾告尼阁，言不久必死，在抵果阿前，彼将为最后病故之人。染病之第六日，果口诵对耶稣的甜蜜回忆之章而终。病者相继死，尼阁痛甚，因亦得疾，发热五十余次，几濒于危。

七月二十五日过好望角，十月四日抵果阿。至是又遭新丧，金尼阁兄金埃利（Elie Trigault）亦患病数日死。其人撰有行记尚未完成，末一字且笔写未全，印刷人跋其后曰：“此记未全，盖因埃利教友死而辍笔。”其人生于一五七五年，一五九六年入土尔内修院。其名作金菲利（Philippe Trigault）。同伴中有六人身体尚弱，学业亦未完毕，乃留印度，尼阁仅携余伴四人于一六一九年五月二

十日登舟，一六二〇年七月二日抵澳门。（德哈斯 奈斯
《金尼阁传》，一四二页以下。）

诸传教师见尼阁至，携来诸基督教君主之赠品，教皇所
赐之书籍，枢机员伯拉尔明(Bellarmin)致徐光启之书札，宗
座颁赐之祝福与大赦，皆大欢欣。光启答枢机员书，信心激
烈，思想高超^①。一六二一年初，尼阁偕曾德昭神甫赴南昌，
留数月，旋巡历建昌、韶州诸传教所。顾在此省中，仇教之事
尚未平息，非安居地，乃于一六二二年避居杭州。

① 枢机员伯拉尔明之致书与徐光启之答书并载一六二一年
《诸年信札》(Lettres annuelles) 中，一六二五年巴黎刊
本，二三九页以后。

一六二三年尼阁入河南，居开封省会。传教三、四月，其地
学者文人对其所言科学与地理皆钦佩，惟对于宗教问题则不
愿闻其言。尼阁乃用他法：以其余资施济贫民，并为穷不能
致医者治病。已而自得疾，乃以此新教所委付费乐德(de
Figueiredo)神甫管理，而在一六二四年赴山西。

抵山西后，劝化宗室之曾服官者二人入教，其一人有族
众千余人，而彼为族长，别一人之为城中之第一长官；因此二
人之入教，其他具有名望者数人亦从而皈依。绛州传教所渐
发达，乃委付于高一志神甫而赴陕西之西安。是亦待辟之新
传教所，尼阁乃于其地购一大宅，开始设立教堂。进士王徵
(Philippe Wang) 和秀才张某(Paul Tchang) 信教甚笃，曾
赞助甚力。一六二五年尼阁以教务委之曾德昭、汤若望二神
甫。

尼阁虽热烈劝人入教，开辟此类新传教所，诸道长决定召

之赴杭州，俾其有暇编撰书籍。华人曾言词理文笔之优，¹¹⁶ 欧罗巴诸司铎中殆无能及之者。其远非常人所能及之记忆力，其好学不倦，虽疾病而不辍，其时常从事之译业，或译拉丁文为汉文，或译汉文为拉丁文，使之谙练语言文字，故言谈写作均佳，无论文言或俚语也。

彼之能大有功于宗教者，不仅编撰书籍而已，且将书籍印行。曾在绛州、西安设立广大印书工厂，每年所印汉文书籍甚多，拉丁文书籍亦有数种。益以其为会计员，往来江南、江西、广东三省为传教师，往来山西、陕西、河南三省，或传布教义，或与士夫辩论教旨，有时因之疲劳病卧数月，其最后六年间之勤奋，盖非言语笔墨所能形容者也。（同上书，一六七页。）

一六二八年尼阁曾为四个月之旅行，引导视察员帕尔梅罗(Palmeiro)神甫入中国，并偕之至嘉定参加会议。尼阁在会议中，曾辩护利玛窦神甫采用礼仪之是，而驳龙华民神甫立说之非。其后未久患热疾甚剧而还杭州。一六二八年十一月十四日，似有所感，乃作告解，一如临危者然，升祭坛，跪伏谢圣宠，以手托面。人见其届时未出，往呼之，无声息，近视尼阁灵魂已归天主矣^①。杭州传教所视其为开教人之一：当其生也，容其避难，及其死也，葬其遗骸，与同教数人葬于方井。（同上书，二一〇页以下。汾屠立《历史著作集》序言，XXXIV页注。）

①一九二五年《圣教杂志》载《道学家传》谓金尼阁神甫歿于一六二九年。（崇祯二年己巳。）又据赫克曼(Heckmann)神甫（一八九三年歿于杭州）之注释（手

抄本未著出处)亦作一六二九年。日本学者稻叶君山之《清朝全史》(一九一五年本第一册一七九页)作一六二八年二月十四日,显误。

尼阁遗作列下:

(一)《推历年瞻礼法》一卷,一六二五年西安刻本。

- 117 (二)《西儒耳目资》三卷,一六二六年杭州刻本。(鈎案近年北京大学有影印本。)

(三)《况义》一卷,一六二五年西安刻本,《伊索寓言》之选译本也。一八四〇年香港英国人增订而重刻之,题曰《意拾喻言》。

- (四)《利玛窦札记》五卷,谈耶稣会士在华传教情况,奥古斯特一六〇五年版。是编刊有数版,并经译为法、德、意西班牙等国文字。(参看索默尔沃热尔《书目》。)尼阁侄
118 弥格(本书第七十传)曾谓:“全欧皆赞美倾服。”此书之佳不在其叙异闻而已,后来数百年间之撰述引证其文,今读之尚觉其簇新而颇富兴趣。其内容不仅为近代基督教输入中国之最完备的叙述,而记满洲入关以前明末事者,只此一编也。(参看本书第九《利玛窦传》第二十三号书。——汾屠立《历史著作集》,序言,XXXIV。)

(五)金尼阁神甫信札抄本,此信札系在一六〇七年耶稣诞生节前自果阿致荷兰教区区长弗劳隆(François Fleuron)神甫,言中国、印度及附近诸地公教发达事者。(十二卷,安特卫普,沃尔比特,一六〇六年。)并见上引德哈斯奈斯书。

(六)《比利时耶稣会士加斯帕利斯·巴尔则传》,八开

本,安特卫普,一六一〇年。森巴尔则神甫乃荷兰泽兰德州耶稣会士,尼阁将其拉丁文传记转为法文。(八开本,杜埃,瓦尔达沃尔,一六一五年。)

(七)《一六一〇和一六一一年中国耶稣会士书信》,八开本,奥格斯堡,一六一五年。此信乃致会长阿奎维瓦者,一在一六一一年十一月作于韶州,一在一六一二年八月作于南京,言诸新教区传教师之生活,及十七世纪初年中国风俗,颇多异闻。

(八)《一六〇九——一六一二年耶稣会士通讯中有关日本教务报道》,八开本,奥格斯堡,一六一五年。

(九)一六一八年十二月二十九日发自果阿之信札,言欧洲赴印度之航程及中国日本之教务:拉丁文本,科伦,一六二〇年;法文本见《众教士遇难史》(五八——一六九页)八卷,瓦朗西安,一六二〇年。

(十)《一六一二——一六二〇年日本严重教难中教友取得的胜利》,四开本,慕尼黑,一六二三年。是编言十七世纪初年日本教务状况。尼阁因巴伐利亚国诸公爵曾有恩于己,并资助新教区,特于卷首题公爵名以献,题于一六一八年,时在里斯本。

119

(十一)《一六二〇年耶稣会士年报报道在华功绩》,八开本安特卫普,沃尔杜森(Verdussen),一六二三年。是皆一六二一年八月二十一日作于南京致会长威特勒斯奇者,首述中国政治状况,次述鞑靼战争,而传教师在各传教所之事业,亦得于此类信札中见其崖略焉。

(十二)《一六二一年中国报导》,一六二二年八月

十五日作于杭州，下一汇刻中载之：《一六二二年日本教会新进展》，载《一六二一和一六二二年中国》（四开本，慕尼黑，一六二七年）。一六二二年之年报乃出曾德昭神甫手。法文本题《日本和中国的历史》，八开本，巴黎，克拉莫伊西（Cramoisy），一六二七年。

（十三）未刊信札有：一六一五年三月七日，一六一六年六月四日，一六一七年一月二日自罗马上托斯卡诺（Toscane）大公书；一六一八年十二月二十七日自果阿上科斯莫二世默迪西（Cosme II de Médicis）书；一六二四年十月二十三日自绛州上巴伐利亚诸王书；一六二七年九月十三自杭州上蒙特莫伦西（Florent de Montmorency）神甫书，叙述中国状况，本人事业，及其自中国赴欧洲之行程，并见上引德哈斯奈斯书著录。

（十四）《中国年鉴》四卷。尼阁自云曾读遍一百二十卷之中国史书。一六二四年曾将自远古迄公元前五六〇年史事笔之于篇。一六二六年写至纪元时，一六二七年写至纪元后二百年。凡四卷，第一卷二开本，卷帙之巨与巴罗米乌斯之编年书同，已刊行；余三卷应在其后未久付梓。据尼阁云：“将来有会计员先赴印度者，将携带我之一切撰述以行。”第一卷在一六二八年携至欧洲，余三卷不知所在。沉于海欤？毁于何种兵燹欤？深藏于某图书馆而未经人发现欤？皆未可知也。

（十五）《中国五经》一卷，一六二六年。中国《五经》之译注本也。利玛窦前有《四书》译注本^①，尼阁又取《五经》译为拉丁文，附以注解。吾人不知此译本之归宿，且不知其是否已寄达欧洲。副区长又曾以校刊《四书》译注之任委之。

①参看本书第九《利玛窦传》第二十四号书。

(十六) 尼阁似曾续撰或改订其《基督教远征中国史》。本传第四号书。)“第一卷应为一册，余卷拟将利玛窦神甫卒后之事增入。”然因尼阁之死而中辍。

(十七) 别有《中国》(八开本，阿姆斯特丹，埃泽维 120 尔，一六三三年)和《中国志》(里昂，一六三二年)者，盖为《基督教远征中国史》之节本。(索默尔沃热尔《书目》，卷八，二三九栏。)

(十八)《上呈教皇保罗五世之记录》，涉及礼拜仪式中用华语及本地神职班事，抄本。

(十九)《我们皇帝的追忆》涉及传教事，抄本凡九页。

(二十)《宗徒祷文》，徐宗泽神甫《明末清初灌输西学之伟人》(土山湾一九一七年书目附目，八〇六号)二十三页引之，所本出处是稻叶君山《清朝全史》，见焘译本第一册一七六页。考狄《中国的中-欧印刷术》，一九〇一年，三〇八号书录亦作金尼阁撰。然据伯希和说，(《法兰西远东学院学报》，一九〇五年刊，一一五页。)巴黎国家图书馆藏汉文书籍新藏三三四五号，原题金弥格撰。〔参看鲍格拉斯(Bouglass)书目一〇五页。〕然则原撰人应为金弥格，而非金尼阁，且据本目第七十《金弥格传》，弥格亦撰有《宗徒祷文》也。

三三 丘良厚 中国人

一五八四年生——一六一〇年入会——一六一

○年入内地——一六二四年十二月二日为在俗
辅佐人——一六四〇年七月二十六日歿于北
京。

丘良厚 (Pascal Mendez) 修士字永修, 澳门人。幼入教, 缘其父母皆为基督教徒也。在传教会为讲授教义人十年, 而后为辅佐教师。巴尔托利《中国耶稣会史》一一四三页云: “其人之足重, 或因其具有一完备教士之一切德行, 抑因其传教不倦之热忱, 皆未能决也。” 偕罗如望神甫^①居南昌、建昌数年。一六一六年南京仇教之事起, 如望留良厚在南雄安慰教众。(曾德昭《中国通史》, 三二七页。)

①参看本书第十八《罗如望传》。

良厚居留北京之时较长。一六二一年时与毕方济神甫同在北京, 因其为华人, 对众传教事常由彼任之。是
121 年时局虽乱, 尚得入教者二十一人, 其中有若干高年, 若干文士, 及官吏一人。有贫寒青年, 因恶行而倾家, 得疾卧于道, 良厚悯之, 告以此世无可冀, 天主所赐之天堂尚可入, 其人感动, 乃受洗, 未几病终。(一六二二年报告, 载《往事记录》。)

其后良厚为龙华民神甫之勤劳伴侣。当时北京受洗之人固无多, 然在良厚在生最后二十年间, 劝人信奉本教精勤不息, 人皆受其感化。兹举一例以证, 前经龙华民神甫^①授洗之太监庞天寿, 而教名亚基楼 (Achillé) 者不但忠于教, 而且忠于其出亡之君主, 未始非良厚感化之功也。

①钩案: 原作汤若望, 兹从伯希和说改作龙华民, 参看

一九三四年《通报》，九六页以后。

良厚语言流利，文人学士皆乐闻其说，阁老叶向高尤喜与之言。

一六四〇年七月二十六日歿于北京，人皆惜之，下葬时士夫至者甚众。（前引巴尔托利书，一一四四页。）

三四 钟鸣礼 中国人

一五八一年生——一六一〇年入会——一六一〇年入内地——一六二〇年病歿。

钟鸣礼(Jean Fernandez)修士字若翰，钟鸣仁^① (Sebastien Fernandez)之弟，亦广东新会县人。与父念山、兄鸣仁同在澳门入教，服役于诸神甫所，朝夕不离。鸣仁偕利玛竇、庞迪我二神甫赴北京时，鸣礼留居江西南昌，一六〇四年从王丰肃(高一志)神甫于南京。其入耶稣会即在居南京时。玛竇遣往肃州迎鄂本笃修士者，乃鸣仁而非鸣礼^②。玛竇歿，鸣礼兄弟同往北京会葬，葬毕仍回南京，为志愿受洗人讲授教义，而后为之授洗。

①参看本书第十三《钟巴相传》，巴相即鸣仁也。

②汾屠立《历史著作集》，卷一，五五一页以下和五五二页注，明著其为鸣仁而非鸣礼，费赖之神甫原误鸣礼，伯希和曾纠其误，（《通报》一九二六年刊，卷二十四，三九三页威塞尔斯书评。）兹为改正如上文。

其后鸣礼往杭州与郭居静神甫会话，闻王丰肃(高一

志)、谢务禄(曾德昭)二神甫及兄鸣仁俱被拘拿,即回南京。见张采持有北边书揭,开封视,内有揭帖,鸣礼欲刊刻投递,为被拘者救解,不意事泄,亦被捕。鸣礼云:“平日受天主大恩,无以报答,今日就拿也不怕。”^①

①钩案:此节并出《破邪集》卷二会审钟鸣礼等案牍,原译文微有讹误,兹为节录如上文。

鸣礼两次受杖,被投入狱,手亦受刑,后经沈淮提讯,鸣礼不为屈。淮怒,复杖之,重投于狱。鸣礼卧地上,凡一月,寝食皆废,然信心不减,同狱一青年感动,因在王丰肃神甫前受洗。(巴尔托利《中国耶稣会史》,六五三页以下。)

创愈后,被罚为奴三年,在南京附近某地执牵船役。同教人聚金赎之出,然身已残废矣。凡人之德行,其始
123 能如此,其后必更佳,孰意人生蒙昧:一六二一年时不知何故,鸣礼被会中除名,盖据一六二一年名录,其姓名下有 dimissus (开除)字样也。

三五 石宏基 中国人

一五八五年生——一六一〇年入会——一六一〇年入内地——一六二六年四月十二日为在俗辅佐人——一六四四年后歿。

石宏基 (François de Lagea) 修士字厚齐^①, 澳门人。为画师及讲授教义人,语言便捷。修院肄业后,一六一二年随郭居静神甫至杭州,一六一三年随林斐理神甫至

处州,时受洗者七十人。一六一四年至南京。一六三〇年吾人知其偕高一志神甫在绛州。一六三四年随费奇规神甫在建昌。一六四五年其人尚存,此外事迹无考

①原阙华姓名,兹从北平图书馆藏抄本补入。

三六 丘良稟 中国人

一五八一年生——一六一〇年入会——一六一〇年入内地——一六三一年后歿。

丘良稟(Dominique Mendez)修士字完初,生于澳门,于一六一〇年入会^①。当其在韶州修院肄业时,已被拘入狱,居狱八月卧于地,所食仅能苟延残喘,无物以裹杖创。良稟日夜默思耶稣受难事,顾其为人性刚烈,辄自制,务求温和。曾致书于其道长云:“我宁死而不愿犯一戒。”某次有事于广州,人以其为司铎,然无据而被投入狱,受重杖始被释出。(曾德昭《中国通史》,二五七页。)嗣后为讲授教义人,曾在各省与诸神甫为伴,一六二一至一六二六年间且曾被派至安南之南圻。

①原误作生于浙江,并阙华姓名,兹从北平图书馆抄本改正。又据一六〇四年一月二十五日名录,其入会似一六〇三年在北京时。钩案良稟与第三三传之丘良厚疑为兄弟。

良稟语言流利,善于讲解教理,曾劝多人入教。一六三二年马尔克兹(Pierre Marquez)神甫传教海南岛时,

良稟被选为其伴侣。在海南岛时，劝官吏王某 (Paul Wang) 全家入教，已而王某亦自受洗。一六三五年时，岛中已有传教所四处。(马利尼《日本与安南东京耶稣会神甫传教区》，四三五页；嘉尔定《日本教省报告》，一二一页；巴尔托利《中国耶稣会史》，五七二、九八七、一一二一页。)

三七 倪雅谷 中国人

一六一〇年入会——一六一〇年入内地。

倪雅谷(Jacques Néva)修士字一诚^①，华人而生于日本者也。早服役于中国传教会诸神甫所。金尼阁神甫(《基督教远征中国史》，八〇〇页。汾屠立《利玛窦神甫历史著作集》，卷一，四四〇页以下)谓其人在日本修院我辈同僚中为善习绘画者，视察员范礼安神甫遣之至中国，一六〇四年偕李玛诺神甫至北京^②。一六一〇年入耶稣会。一六一二年会督龙华民神甫致书会长阿夸维瓦神甫，奖其德行昭著，守戒耐苦。(巴尔托利《中国耶稣会史》，五一四页。)雅谷居北京若干时，其后事迹无考。

①原阙华姓名，兹从北平图书馆抄本补入。

②参看本书第二〇《李玛诺传》。

三八 〔附一〕

一六一一年会中有教师数人在福建海岸被海盗屠杀。巴莱多(Ruiz Barreto)神甫自日本返澳门,复以澳门率新伴侣数人赴日本,海中遇风暴,所乘舟漂至 Tchín-tcheou(疑指泉州)河中。遇海盗,舟中人皆遇害。除巴莱多神甫外,别有贡札勒斯(Diego Gonzalés)、阿布若(Antoine Abreu)、安徒奈斯(Simon Antunez)、奥伯托(Jean Alberto)四神甫,平托(Emmanuel Pinto)、科斯塔(Antoine Costa)二辅佐修士。〔帕热(L. Pagès)《日本基督教》,一九五页。〕

〔附二〕

又据一旧抄本,一六一一年入中国者有日本修士一人名 Louis Rozitto,其人事迹无考。

〔附三〕

一六一二年入中国者尚有 Vincent Caun或 Cafioye 修士。其人高丽籍,贵家子也,一五七八年生,一五九〇年为日本人所掳,次年受洗。留有马(Arima)修院四年,查拉(Zala)神

甫遣之还高丽,未能入境,拟假道中国而还,然未能如其愿。留居中国七年,其中四年在北京,传教鲜成绩。后奉区长命重还日本。有暴君(Cambacondano)者,知其谙华语,召之为译人,命改教,不从,先施以酷刑,一六二六年六月二十日在长崎被焚死。一八六四年七月七日教皇皮埃五世(Pie V)宣告其为真福。〔博埃罗(Boero)《耶稣会圣徒传》六月二日。嘉尔定《日本教省报告》,三一三页。弗兰格《耶稣会的新兴年》,三四六页。吉勒尔梅(de Guelhermy)《耶稣会圣徒节日历》,葡萄牙文,卷一,五五一页。帕热《日本基督教》,六一二页。〕

三九 艾儒略 意大利人

一五八二年生——一六〇〇年入会——一六一三年至华——一六二四年四月二十一日发愿^①
——一六四九年八月三日歿于延平。

艾儒略(Jules Aleni)神甫字思及,生于布雷西亚,长于威尼斯。肄习哲学完毕,教授文学二年。晋司铎后,一六〇九年派赴远东。一六一〇年抵澳门。一六一一年偕史惟贞(de Spira)神甫谋入内地,然为船家所卖,在距广州数日程之地被拘,纳金一百四十两始得重还澳门。儒略曾在澳门教授数学二年。并为修士教习三年,然未详何年何地也。

①此据一六二六年名录。一六四八年名录作四月二十二日,又一名录作三月十二日。薛孔昭《名录》采后

一说。

一六一三年儒略始得进入内地，初被派至北京^①。其后未久偕徐光启赴上海，奉命至扬州为某大吏讲授西学。儒略善诱，为此大吏言西士之优，迷信之伪，如是凡四月，其人遂入教，教名伯多禄（Pierre）。彼在此一六一五至一六一六年间，同时说听众数人人教。（巴尔托利《中国耶稣会史》，七二七页以下。）

①此下应增：一六一三年，儒略被派至开封访求犹太教经典，然人拒不出示。〔曾德昭《中国通史》，二二三页。布雷蒂尔（Bretier）《忆艾儒略》，载《传教信札》，庞特翁编，卷四，一四〇页。〕

伯多禄还陕西任要职，携儒略与俱。儒略居陕时，嘱之种葡萄，俾能获有诵弥撒必需之葡萄酒。盖在此边远省区中常缺此酒。若从澳门运输葡萄牙所酿之酒来，¹²⁷耗费极多，而且烦难也。试种结果甚佳，人皆满意，诸教师尤甚。（前引巴尔托利书，七三一页。金尼阁《一六二一年中国报告》，三〇六页以下。）

其后不久，伯多禄受命为福建总督。儒略至是遂赴山西为韩氏^①兄弟全家举行洗礼。（前引金尼阁报告，三三四页以下。）儒略居山西未久，即于一六二〇年前后赴杭州，盖为李之藻母预备后事也。居杭时受洗者有数人。（同上书，二七〇页以下。）

①案 Etienne 之姓，不能必其为韩，盖巴尔托利与金尼阁等记载各殊也。肖神甫《天主教传行中国考》，二〇七页云：韩姓官疑是段姓之误。

当时杭州除李之藻、杨廷筠二进士外，尚有进士教名马尔廷(Martin)者信教虔笃，儒略常往见之。儒略记有云：“其人之特行，未便略而不书。某日彼往迎同僚某，在道见一人体无寸缕，缩为一团。询其故，则为一兵官遇贼，贼尽剥其衣服，因而裸露。马尔廷降舆脱自衣之短皮袄给之，侍从卫士皆惊其仁慈。彼每出外常施给贫民也。吾敢谓是年杭州教会足以自给。”(上引金尼阁报告，载《往事记录》，八五页。)

一六二三年瞿太素子名玛窦(Matthieu)者，召儒略赴常熟开教，玛窦从兄进士式耜(Thomas)曾经儒略受洗。教务发达，颇赖其力。数星期中新入教者有二百二十余人，中有式耜之诸父某护教尤力。式耜受洗后，曾以僧道无缘字条揭示门外，伪神偶像悉皆易以耶稣圣名。(上引巴尔托利书，七七二页。)

一六二四年阁老叶向高罢归，道经杭州，儒略入谒。向高奇其言，延之至福建，儒略许之。向高虽未入教，然常善遇教士，一六一六年南京仇教案起，向高常维护之。

儒略有志传教福建久矣，惟因居民风俗放逸，山道崎岖，语言难晓，因是未果。至是遂为开教福建之第一人，而于一六二五年中赴福州。

福州有著名文士名 Melchior Tcheou，乃全国最有名望之人，官吏皆敬重之。二年前在杭州时业已受洗，颇愿宗教之传布也。

儒略既至，彼乃介绍之福州高官学者，誉其学识、教理皆优，加之阁老叶向高为之吹拂，儒略不久遂传教城

中。第一次与士夫辩论后,受洗者二十五人,中有秀才数人。(同上书,八〇五页以下。)

儒略见城中官吏优遇,乃留居福州四月,游行外府八月。如是者数年,成绩甚佳。一六三四年时赴泉州、兴化两地,受洗者二百五十七人。

会有一异迹发现,入教者愈众。一六三八年泉州附 129
近有人掘地得古石数块,皆雕作十字架形^①。(科尔达拉《耶稣会史》,四一五页。)华人酷好古物,争往观之,中有数人始因好奇而来,终乃入教。(前引巴尔托利书,九六三页以下。)

(1)本书第三一《阳玛诺传》第四号书《景教碑颂正诂》,后附有万历乙未(一五九五年)崇祯戊寅(一六三八年)泉州出土十字架之图三,又加亚尔(Gaillard)撰《十字架与记字》,一五二至一五三页亦有著录。此种十字架似为十四世纪时之遗物。一三一三年第一任泉州主教是哲拉德(Gérard),继之者是佩鲁斯(André de Pérouse)旋辞职,继其后乃波莱格林(Pèrègrin),其人歿于一三二二年七月六日。佩鲁斯重在一三二三至一三二六年间为主教。最后主教是佛罗伦萨(Jacques de Florence),其人在一三六二年被害。(加姆斯《主教名录》,一一六页。)

数年以后在各府建教堂八所,并在诸小城建小堂十五所。助理之人继来,儒略遂跋涉山川赴永春及其附近传教:所至之处皆留有热心传教痕迹。每年新入教者八、九百人。(前引巴尔托利书,九七五、一六六六页。)

一六三八年风波突起，诸神甫被逐。当时教堂甚多，
130 仅泉州一府有教堂十三所，至是全省教堂除一所外皆没收，移作俗用。教徒被迫缴纳巨额罚金，有数人被投诸狱，其他皆大受窘苦。诸传教师尽还澳门。儒略不因此而气沮，密入福建求助于阁老张(Tchang)某，其人盖儒略之挚友，而为福建总督垂十五年矣。儒略上辩揭，为教师教徒辩护，教产遂被发还，传教如故。（同上书，一一一二页以下。）

武夷山有庙宇三所，颇著名于世，儒略改其二所为教堂，惟第三庙宇之施主乃奉食斋教者，独拒之。儒略许此辈仍食斋，持苦行如故，惟不许奉偶像而敬天主，诸人遂尽入教。此辈持身严，原始宗徒，殆不是过，一六四七年瞿西满(Simon de Cunha)神甫已有证明矣。（杜宁一茨博特《中国历史》，一六四七年部分。）

一六四七至一六四八年间鞑靼入关时，儒略同阳玛诺神甫、范有行(Paschai Fernandez)修士^①暨志愿入会之青年教名查理斯(Charles)者避难延平。延平僻处山中，不受兵祸，然生活必需之物皆缺。儒略仍旧编撰书籍，传布宗教。（出处同前。）

①此人见本书第七七传。

会中因其贤明温厚，熟悉中国风俗，擢之为中国副区区长，在位凡七年（一六四一至一六四八年）。嗣后历任各驻所之道长共二十三年。儒略语言辩捷，华人名之曰“西方孔子”。儒略接见宾客或教徒时，常衣礼服，为徽章祝福抑俵散念珠十字架，必衣白服，冠祭巾。

未死以前，曾使兴化之名士某及阁老叶向高之二孙¹³¹入教，名士教名托马斯(Thomas)。向高孙有子得疾，医治不愈，儒略为之诵弥撒毕，持天主圣像入病者室，其疾遂愈。此子之母感此灵验，乃尽毁偶像而受洗礼。此子后来以慈善见称于时，海口^①毁于鞑靼兵燹之时，彼取资赎取被虏之幼妇幼女还之本夫本父。(同上书，一六四八年部分。)

①案原书作 Hayechou，应是卫匡国书之 Haikou，盖指福州、兴化两府间之海口，兹为改正。

一六四九年儒略歿于延平，遗体葬福州北门外之十字山。

其遗著列下：

(一)《天主降生言行纪录》八卷，一六四二年、一七三八年、一七九六年北京刻本，末一刻本经何大化主教核准刊行；一八五二年徐家汇刻本，马雷斯卡(Maresca)主教核准刊行；一九〇三年土山湾重刻本。(一九一七年书目第七号。)最初刻本为木刻附图画本，八开本，刻于福州，时在一六三五至一六三七年间。别有一节本题曰《耶稣言行纪略》，疑出新教徒手。

(二)《出像经解》一卷，一六三五年本，即前书初刻¹³²本之附图也。一六六三年杨光先即据此图厚诬耶稣为罪人。

(三)《天主降生引义》二卷，一八七二年刻本，一九二二年土山湾重刻本。(一九一七年书目附目一六三号。)

(四)《弥撒祭义》二卷，一六二九年福州刻本；一九

○五年土山湾重刻本。(一九一七年书目一七九号。)

(五)《涤罪正规》四卷,一八四九年重刻本,马雷斯卡主教核准刊行。(土山湾一九一七年书目一八四号。)

(六)《悔罪要旨》一卷,乃前书之一卷别出单行者也。考狄(《中国的中-欧印刷术》,一九页)题作《悔罪要指》。卫匡国、柏应理二神甫谓郭居静神甫撰述中有一书与此标题同。参看本书第一五传第二号书。

(七)《万物真原》,一名《万有真原》,一卷,初刻本疑刻于杭州,年月未详;一六二八年、一六九四年、一七九一年有北京刻本;一九〇六年、一九二四年有土山湾刻本。(一九一七年书目附目八十一号。)(参看《传教信札》卷三,五九页。)

- 133 (八)《三山论学记》一卷,儒略与叶向高论学之篇也。一六二五年杭州刻本;一六九四年北京刻本;一八四七年未详何地刻本,此本经司教马热罗^①核准刊行;未详年月,徐家汇刻本,马雷斯卡主教(此主教在位始一八四七年,终一八五五年)核准刊行,一九二三年土山湾重刻本。(一九一七年书目附目一四三号。)钧案北平图书馆藏明刻本,前有苏茂相、段裘二人序,未题年月,段序有:《三山论学》书艾先生既刻于闽,余何为又刻于绛,从余兄九章命也等语。九章名袞,绛州人,尚有弟名宸,并奉天主教,袞教名伯多禄,见本书第二六《高一志传》。据裘序尚有闽刻本、绛刻本,一六二五年之杭州刻本,疑即福州刻本之误。

①案一八四四至一八六二年间澳门主教名 Jérôme

de Matta〔莫德賚 (de Moidrey)《中国天主教之体制》,一四页〕,司教马热罗疑指此人。

(九)《圣梦歌》,亦题《性灵篇》,一卷,一六八四年北京刻本。

(十)《利玛竇行实》,亦题《大西利先生行迹》,一卷,一六二一年北京刻本。一九一九年有马良、英华二人合校本,后有陈垣跋。

(十一)《张弥克遗迹》一卷,弥克,一九二五年六月《圣教杂志》刊《道学家传》作弥格。弥克,张庚子,名识,字见伯。

(十二)《杨淇园行略》一卷,一九三三年五月三十一日《我存杂志》第三号二三至三三页有徐景贤刊本。钩案淇园乃杨廷筠别号,《代疑编》后附有《杨淇园先生超性事迹》,应即是编,笔受者晋江人丁志麟。《代疑编》首有天启辛酉(一六二一年)闽中后学林起序,但据本传,儒略是年在杭。

(十三)《熙朝崇正集》四卷,福州刻本,是编辑关于天主教之文字若章疏序跋之类。南京教区司铎黄伯禄曾选此集之文,并补辑新事,编为二卷,题作《正教奉褒》。 (一九一七年书目一〇五号。)钩案伯禄别有《正教奉传》二册,汇辑诏敕奏章告示为一卷,与《正教奉褒》内容各别,本书补注谓《正教奉褒》近合为一卷,题作《正教奉传》,误也,补注删。

(十四)《五十言》一卷,据卷首张庚序,书题实作《五十言余》,一六四五年刻于福建。考狄(《中国的中-欧印

刷术》)谓是编合刊利玛窦之二十五言为一书,误也。

(十五)《圣体要理》一卷,一六四四年福州刻本;一八八一年土山湾重刻本。(一九一七年书目二七一号。)

(十六)《耶稣圣体祷文》,初附刻于前书之后,其后土山湾本与《周主日祷文》合为一卷。(一九一七年书目四四七号。)

(十七)《四字经》一卷,一六四二年、一六五〇年、一七八九年北京刻本;一八五六年徐家汇刻本;一八六一年未著地名刻本,一九一三年土山湾刻本。(一九一七年书目二四九号。)瓦瑟尔(Vasseur)神甫在一八六九曾为之加绘图画,刻于土山湾,题作《圣教圣像全图》。

(十八)《性学概述》八卷,一六二三年杭州刻本;一八七三年、一九二二年土山湾重刻本。(一九一七年书目附目八三号。)

135 (十九)《玫瑰十五端图像》。

(二十)《景教碑颂注解》。(补注云:本书第三一《阳玛诺传》第四号书《景教碑颂正论》,曾在一六四七至一六四八年经儒略核准刊行,费赖之神甫未察,误以儒略撰有注解,其实为一书,此条应删。)

(二十一)《西学凡》一卷,一六二三年杭州刻本,前有四名宦序,收入《天学初函》。

(二十二)《几何要法》四卷,一六三一年刻本。柏应理神甫谓儒略别有《几何法概要》,今未见。

(二十三)《西方答问》二卷。考狄《中国的中-欧印刷术》(一九〇一年),二十三号。古朗《国家图书馆中国书

籍目录》，一八一六年，一八一七号。

(二十四)《职方外纪》六卷，一六二三年杭州刻本，前有李之藻、杨廷筠、瞿式谷序及儒略自序。(钩案：尝见一旧抄本，自序前尚有钱唐许胥臣序。)先是利玛窦进《万国图》，庞迪我、熊三拔奉命撰为图书，迪我卒，儒略更增补以成之。前五卷记亚细亚、欧逻巴、利未亚、亚墨利加、墨瓦蜡尼加五洲，末卷为四海总说。已收入《天学初函》及《守山阁丛书》。

(二十五)《一六一二年十一月八日日蚀之观测》，见《科学院论文集》卷七，七〇六页。是编撰于澳门。(索默尔沃热尔《书目》卷一，一五六栏。)

(二十六)艾儒略一六三九年十一月写给福刚 (Fogam) 关于中国问题的信，(藏威勒纳(Villena) 侯爵图书馆。(考狄《书目》，一〇四〇栏。)

(二十七) 圣马利 (Antome de Ste-Marie) 神甫致视察员帕尔纳 (de Parna) 神甫书，引有儒略撰汉文本关于中国祭祀祖先说。

(二十八) 柏应理神甫更著录有《论灵魂》三卷：探讨灵魂及其功能的哲学。今未见此本，而汉文抄本皆未见著录。殆为第十八号之《性学粗述》。

(二十九) 索默尔沃热尔(《书目》卷一，一五七栏) 神甫 136 引有儒略致克拉维乌斯 (Clavius) (一六〇九年) 神甫书之一节，载《吉尔切尔神甫的功勋》(一六五四年，三一五页) 暨一六一一年一月二十八日在澳门致马吉尼 (Magini) 书。

(三十) 据毕嘉神甫说, (见索默尔沃热尔《书目》卷一, 一五九栏。) 儒略有驳龙华民神甫言论, 见《关于中国对天主不同称呼的见解》(一六三三年)。

(三十一) 《口铎日抄》, 与卢安德(Rudomina) 神甫合撰, 参看本书第五六《卢安德传》。

(三十二) 关于创世诸编, 载《道原精萃》中, 此丛刊共八册, 一八八八年、一九二六年土山湾刻本。(一九一七年书目附目一六一号。)

(三十三) 据杜利兹(Duriez)书录, 巴凯(De Backer)《耶稣会士著作书目》(卷一, 六六栏)引有《弥撒初义》, 一六二九年福州刻本, 似儒略曾将罗马弥撒祷文转为汉文。此书今未见, 亦不见汉文书目著录。儒略殆有译文, 否则利类思(Buglio)神甫不致有重译本。(《弥撒经典》, 见本书第八〇传第二号书。)

巴黎国家图书馆, 汉籍新藏列号二七五三及三〇八四之本, 题曰《艾先生行述》, 即《儒略传记》, 内有木刻隕纹儒略遗像。(考狄《中国的中-欧印刷术》, 五页。)

四〇 毕方济 · 意大利人

一五八二年生——一六〇三年四月三十日入会

——一六一三年入华——一六二五年二月二日

发愿——一六四九年一月歿于广州。

勒斯国之科森察(Cosenza)。曾在会中作各科教习,而于一六〇九年赴印度。一六一〇年抵澳门。原应赴日本,视察员以其尤宜居中国,遂留之澳门,因在澳门教授数学一年。

一六一三年被召至北京,一六一六年南京仇教之事起,被逐南还。山东巡抚教名纳爵(Ignace)^①者留之居嘉定,不听还澳门。纳爵为之预备礼拜堂一所,居宅一处。此宅井用以作青年研究之所,足容十一、二人。(曾德昭《中国通史》,三三六页以下。)

①钩案:此纳爵指孙元化。元化字初阳,嘉定人,附见《明史》卷二四八《徐从治传》。元化天启间始举于乡,任登莱巡抚,乃以后事。万历四十四年(一六一六年)尚在籍,此云山东巡抚,误也。

仇教之事未息,方济潜入北京,匿居阁老徐光启宅,(一六二一年报告,载《往事记录》,二五一页。)当是时也,光启上疏,主遣大臣赴朝鲜征兵以讨势力日盛之鞑靼。前此未久朝鲜人曾以勇武建功绩。朝廷报可,光启拟亲行,并延方济偕往传教。国主如受洗,人民将必从之。遂作种种预备,并多携利玛窦神甫之撰述。将行,朝臣献议,以为遣一阁老往,有妨朝政,宜遣他人行,其事遂寝。(巴尔托利《中国耶稣会史》,六七九页。一六二一年报告,载《往事记录》,二〇六页以下。)

朝中猜忌日甚,方济不能留,遂离北京。一六二二年至上海,管理附近一带城乡教务。其为人仁厚俭朴,和蔼可亲,教外人多归心焉。

- 138 方济有时至松江,为一家九十人授洗,同时有秀才二十五人入教;数月后又为八十九人授洗,已而在邻近一小村中为十二人授洗。(前引巴尔托利书,八二二页以下。)

一六二八年方济勤劳过度,在松江得疾,诸道长遣之赴山西。道经河南省会开封府,有天主教商人名伯多禄(Pierre)者,正忧其故乡无教师,留方济居开封,为租一小宅,租期三月。时有方济旧在北京认识之官吏数人,在开封居高位,方济赖其介绍,声望遂起,新教所遂以成立,在开封传教数年。第一受洗人即此商人之弟,教名保禄(Paul)。(科尔达拉《耶稣会史》,卷八,二三六页。)

旋赴山东,复至南京,据苏查(Fariay Souza)说,一六三四年时南京经方济授洗者有六百人。南京教区经一六一六年及一六二二年两次仇教之难,颇受摧毁,虽有杨廷筠、李之藻、王征、瞿式耜诸人挽救,然未足消沈淮之怨。则在斯时,不仅未能使教务发达,且难保存旧状也。

方济竟将此教区复兴,是皆由其正直贤良,精通文学、数理,善于诱导人心之所致也。后有朝旨至,命其测量北极高度,观察日蚀,改良历法,是亦与官吏接交之良法也。方济预测某日某时有日、月蚀,其后果验,由是人愈重之。(巴尔托利《中国耶稣会史》,卷一,一〇四九页。)

- 自是以后,信徒信心愈坚。有名僧某竟谓方济学识
139 与己埒,复有全省最高之官吏某入教。方济时赴旧日教区巡历,某次赴瞿式耜之故乡常熟为三百人授洗。脱非僧人愤方济之绝其食,群起反对,其在附近诸乡村中之成绩必佳。(同上书,一〇五三页以下。)

一六三八年徐日升(Fiva)、万密克(Walta)二神甫至南京,方济以教务委之,而赴淮安府。缘有淮安二青年人士因事至南京延方济赴淮安也。士人一人之母颇信偶像,夜梦一长须儒服之长者,告其应离伪神,而奉真主。及方济至,识是梦中所见之人,因同其子及另一士人人教。方济离淮安时,官吏受洗者三人,中有一人是宗室,绅耆三十人,士人二十七人,妇女八十人,平民称是。方济迄于一六四四年,传教扬州、苏州、宁波诸府,及其他江浙城市,成绩皆类此。一六四〇年一年间入教者有七百人。(同上书,一一〇九页。)

一六四一年方济在南京城内某山上为天使建一教堂,题堂门曰护守山,盖以护守天使之名名是山也。堂内用西洋画法绘一图,附以说明,右为善天使图,分天使为九种;左为堕入地狱之恶天使图。教内教外人见图新异,争往观之,因而不乏受洗者。方济又传教江苏各府,亦颇有成绩。(杜宁一茨博特《中国历史》,一六四一年部分。)

方济并教导童贞女数人,后皆以虔诚而显于世。中有一人歿于一六三七年,迨至一六五二年发现遗骸,丝毫未变,虽逾十五年,其貌如生。

一六四四年崇祯帝崩,鞑靼兵入据北京,南方忠于明朝诸官吏迎万历帝孙福王于淮安,即位于南京,年号弘光。弘光帝立,一面与鞑靼议和,一面命方济为使臣赴澳门求援。澳门会团长阿马拉尔(Gaspard de Amaral)集会中人共议,中国日本视察员阿则维多(Emmanuel de Azevedo)为主席,议决处此情势之下,方济得受此职,盖

其与本教及本会皆无妨碍，而且有利于本教及澳门也。

- 141 由是方济允为使臣，但求事成之后，允许传教，并许教徒建设教堂。一六四五年三月杪，方济带领官吏、文士、兵卒甚众发自南京，前往广州。离南京时以教务委之潘国光(Brancati)神甫。在途闻南京不守，弘光为臣下所卖，在芜湖附近江中溺死。〔冯秉正(de Mailla)《中国史》，卷十，五二九、五三〇页。〕然仍前行赴澳门。澳门官吏盛仪接待之。方济留居澳门若干时，会唐王立于福州，年号隆武。唐王初识方济于常熟，至是仍以弘光委任之事委之，并作书召之至，其书略曰：

“臣民强我监国；汝识我已二十年；我誓恢复祖业而竭力为吾民谋幸福。盼我老友速来以备咨询。我作书召汝已三次，今欲任汝为武职大员，然后任汝为使臣，愿汝有以慰我。隆武元年正月初四日。”

方济既至，隆武信任甚切，至欲命之为大臣。时隆武帝位颇危，方济劝之信教，隆武许其建教堂及居宅一所于广州。已而方济偕太监庞天寿同奉使至澳门。（杜宁一茨博特《中国历史》，一六四五年部分。）

一六四六年唐王被害，桂王继立，年号永历。从者有五省。因庞天寿之进言，永历帝仍以隆武帝所付之特权授之，并授以国中最大四种官职之一。方济赖天寿之助，在广州建筑教堂居宅各一所，在鞑靼未取广州前落成。（同上书，一六四六年部分。）

- 142 鞑靼兵取广州，方济时在城中，几濒于危。鞑靼至其门，有一人呼曰：“有须人何在？”方济出，其人执刀欲断

其首，方济手抱其人与之争，别有鞑靼二人用刀斫其面，幸有一仆人力大，负之至一穷家得免，其伴费奇规神甫及辅佐修士一人亦因葡萄牙商人之救，得免屠杀。

宅中物有一部分被劫掠。会有城中长官及总督某闻方济名，命之觅之至，以礼待之，并其伴侣送还教堂，禁止侵犯。鞑靼军将中有一人名巴雷托(Didace Baretto)出生于新西班牙，尝为南京教区耶稣会之辅佐修士，出会后投鞑靼为武将，与方济为旧识，至是护之尤力。(同上书，一六四七年部分。)

方济仍在广州及其附近诸村传教，迄于一六四九年之歿，永历帝命以盛仪葬于隆武帝之赐地中，其地遂为澳门会团之产业^①。

《圣教杂志》(一九二五年六月刊)所刊《道学家传》谓方济卒于广州府，墓在省城北门外金坑。案隆武帝赐地在澳门对岸 Lappa 岛之银坑村中，方济墓殆在此处。一九三四年二月十五日德礼贤(D'Elia)神甫补注。

方济遗作列下：

(一)《灵言蠡勺》二卷，一六四二年上海或嘉定刻本；重刻入《天学初函》。是编曾经徐光启校订。(伟烈《中国文献注释》，一四〇页。)

据吴君(Foureau)神甫说，皇族有三公爷者，即因读是编而入教。其人不解亚尼玛(灵魂)之义，乃阅是书及他书，因而入教。(考狄《中国的中-欧印刷术》，四三页。)

(二)《睡答》。

(三)《画答》。此二编合刻，题曰《睡画二答》，前有李之藻序。

(四)一六三三年上崇祯皇帝奏疏，盖因陆若汉神甫是年歿于广州，方济上疏请赐墓地。先是澳门遣公沙的西劳 (Gonzalvès Texeira) 领兵往御鞞鞞，若汉曾随军而至辽东，事具本书第七一传。

安文思 (de Magalhaens) 神甫谓方济曾撰有灵魂不死、道德、画、声四短编，并为世所重。(一六二一年报告，载《往事记录》，一〇一页。)

四一 曾德昭^① 葡萄牙人

一五八五年生——一六〇二年四月三十日入会
——一六一三年入华——一六二四年六月十日
发愿^②——一六五八年七月十八日歿于广州。

曾德昭 (Alvare de Semedo) 神甫字继元，生于葡萄牙国波塔莱格里教区之尼泽 (Nizea) 城。年十七岁入修
144 院。当其肄习哲学时，请赴印度，时在一六〇八年也。在果阿完成其学业，而于一六一三年派至南京，初冠汉姓名曰谢务禄，开始肄习语言。一六一六年仇教之事起，彼为高一志 (时名王丰肃) 相依不离之伴侣，与一志同入狱，同受苦，惟未受杖，缘其病不能兴也^③。

① 鈞案：原误鲁德照，南怀仁《道学家传》(一九二五年六月刊《圣教杂志》) 作曾德照，北平图书馆藏抄本作曾德昭，今据以改正。

②此据一六二六年名录；一六四八年名录作一六二六年六月十日。

③参看本书第二六《高一志传》。

与一志同被谪居澳门，至一六二〇年始得重入内地，遂改谢务禄名为曾德昭。《破邪集》卷一载会审王丰肃等案牍云：“审得谢务禄，面红白色，眼深，鼻尖，黄须，供年三十二岁，大西洋人，曾中博士，不愿为官，亦只会友讲学。于先年失记月日，自搭海船前到广东澳中，约有三年六个月。”复入内地后，留居浙江数年，居杭州时为多，杨廷筠曾助之开辟新教区。德昭亦曾赴江西、江南，并历居嘉定、上海，迄于前赴西安之时。（一六二一年报告，载《往事记录》，一二〇页以下。）

一六二五年西安发现景教碑时，彼盖为首先目击此碑之欧罗巴人。“当时有人在此城附近建屋，工人掘地得一石，长九掌（合一九〇公分），宽四掌（合八四公分），厚一掌有奇。其一端作三尖塔形，上刻十字架，其下刻百合花形，与梅利亚波尔（Meliaper）宗徒圣多默（Saint-Thomas）墓上所刻者无异。石上全勒碑文，且勒有若干时人尚未认识之外国文字。”（《往事记录》，二二七页。）根据此碑，六三五年时有大秦国人名阿罗本曾将基督教输入中国，时在唐太宗时也。后至七八一年有司铎名宁恕者 145 建立此碑^①。德昭居陕西、江西（一六三〇年）数年，至一六三六年时以中国副教区会计员名义被派至罗马，陈述传教会之需要，并请多派会士至中国。视察员阳玛诺至请派六十人来。

①关于此碑之沿革及其译文,可参考夏鸣雷(Havret)神甫之佳作,现编《中国杂纂》第七、一二、二〇册。

德昭遂于一六三七年在澳门登舟出发,一六三八年在果阿完成其《中国通史》,旋于一六四〇年安抵葡萄牙,一六四二年至罗马。“人闻其至,并悉其旅行之目的,乃在征求会士东行,应者甚众,每教区中之函求者人数甚多,仅科英布拉和埃武腊两教区,教师签名者九十余人,至有刺血签名者。”(曾德昭《中国通史》,二四五页。)

但据弗兰格神甫之记录,一六四四年德昭首途时,偕行者仅有意大利籍西纳莫(François Sinamo)神甫,弗刺明籍拉戈特(Ignace Lagote)神甫。同时莫拉(Louis Moura)神甫固率领六人出发,然能行抵中国者仅穆尼阁(Smogolenski)神甫(本书第九一传)一人。其余五人及德昭之同伴二人皆不知所终。德昭抵中国,任副区长数年。时鞑靼之战正炽,须有一谨慎贤明之人如德昭者任此职。盖其为人坚忍,善言词,持身寒苦,德行昭著,虽教外人亦甚重之也。

一六四九年毕方济神甫死,德昭至广州主持教务,复偕瞿安德(Köffler)神甫至肇庆,在永历帝后及全宫人员前举行弥撒,已而举新抵中国之卜弥格神甫以自代。一六五一年十二月鞑靼重取广州,德昭避居教堂。有信教士卒数人劝其逃,然德昭忆及有一信道之回教徒尚未受洗,急往觅之,为授洗。旋为一切避难之教徒举行赦礼。

比曙,举行弥撒后,为诸人作圣体之受领,将祭器深藏,衣白祭服,燃烛,跪祭坛前以待死。鞑靼兵一队至,其

一队长捕之，冀得赎金，他人虽促其“杀此无用老人”，其人不肯也。

处此苦境凡五日，鞑靼主将有閩人名弥格（Michel）者识之，告其主将，谓其是汤若望之兄弟，主将早识若望名，遂命释德昭，放还教堂。其后不久德昭还澳门养疾。（杜宁一茨博特《中国历史》，一六五二年部分。）

其后数年皆居广州，颇受主将孔王（Kon-Wang）之优遇。一六五八年卒。巴特利格纳尼（Patrignani）神甫谓其卒于是年七月；吉勒尔梅（Guilhermy）神甫谓其卒于是年十月。

德昭遗著列下：

（一）《字考》，内葡萄牙汉文字书及汉文葡萄牙文字书各一卷，是否刊行未详。

（二）《中国年报一六二二——一六二三》，后题一六二三年六月三日作于杭州。八开本，米兰，一六二七年，载《往事记录》，八开本，巴黎，克拉莫西，一六二七年，一四七页以下。

（三）《中华大帝国志》或《中国通史》，四开本，一六四五年巴黎刻本。原为葡萄牙文，其标题作《中国及其邻国的传教报告》，四开本，马德里，一六四一年。苏查（Faria y Souza）书曾将此本重订，标题作《中华帝国和耶稣会士的传教工作》，四开本，马德里，一六四二年。是书有数版，并译有数国文字。书凡二卷，上卷述中国之政治、风俗、语言、衣服、迷信、战争、商业。欧罗巴人详述茶叶之制法及用法之书，当首数是编。下卷述基督教输入中国之起源，147

南京仇教之经过,李之藻之传记。

(四)索默尔沃热尔(《书目》,卷七,一一一三栏)引有《中国仇教实录》,谓本曾德昭神甫信札,巴黎,一六一九年;波尔多,一六二〇年。

(五)及(六)索默尔沃热尔神甫(《书目》,一一一四栏)引有德昭信札数通,现藏蒙彼利埃和布鲁塞尔二城,并引有驳龙:华民神甫汉文天主名称及礼仪问题等主张之文一篇。

四二 史惟贞 法兰西人

一五八四年生——一六〇三年入会——一六一三年入华——一六二四年六月十日发愿——一六二七年十二月二十日歿于江中。

史惟贞(Pierre Van Spiere(Spira))神甫字一览,生于杜埃,其父斯皮尔(Jean Van Spiere),法学博士,曾为本城大学校长。一六〇三年入布鲁塞尔城之耶稣会,越数年被派至罗马。仿其乡人金尼阁神甫先例,亦请派赴远方传教。会长许之,遂于一六〇九年登舟赴印度^①;在果阿肄习神学毕,受司铎,被派至中国。一六一一年抵澳门。

①吉肯斯(Kieckens)神甫《历史概要》(一八八〇年,一九六页)著录有一名德列维业(Jean Delevigne)者,以一五八二年六月一日生于里尔城,曾偕惟贞同行,于一六〇七年歿于海航中。弗兰格神甫无著录。

当惟贞欲密入内地时,曾在距广州数十里之地,同艾儒略

神甫遭盗劫，折还澳门，而待良机之至。然至一六一三年前其愿未达。迨至是年，始被派至南昌，传教二年，沈淮仇教之事起，惟贞隐伏数年。一六一九年始莅湖广居一信教官吏名Thaddée者家，已而赴南京。（德哈斯奈斯 148《金尼阁传》，一〇四页以下、一五七页以下。）

新入教之教民皆贫乏，而仇教事未全息，惟贞辄来往各城村间，藏伏贫民宅中，不能常得一适当处所举行弥撒圣礼。众教民虽贫，乃聚钱在城中购一广厦，穷苦工匠居外宅，内宅设一礼拜堂，并为惟贞布置卧室一所。有军官名Lue Tchang^①者又为之在城中别建驻所一处，而进土伯多禄(Pierre)^②亦为建一第三驻所扬州。（同上书，一五八页以下。）

①其人似姓张，别见《高一志传》。

②其人似姓马，一六一五年受洗，别见《艾儒略传》。

惟贞德行最著者，莫过于收养弃儿一事。华人或因贫苦，或因迷信，或因其他原因，不欲留养婴儿者，若不毙之，即弃于道。一六二〇年惟贞命本区教民拾诸弃儿收养，由是弃儿得活者甚众。（同上书，一五九页。）

一六二八年湖广有一信教官吏姓潘(P'ang)或姓彭(P'eng)教名洗满(Simon)者，时为通山县令，曾求惟贞许其全家参与圣诞瞻礼。惟贞适从远道归，虽甚困苦，许之，携同伴二人登江舟。船夫见惟贞所携盛祭器之箱甚重，度其中满盛金银，十二月二十夜召集群盗与之约，夺取宝箱，惟不得害教师生命。孰知群盗系执神甫及船中人手足，一并投之江流。神甫尸后发现于上流，运葬

于南昌。(巴尔托利《中国耶稣会史》，九〇四页以下。)

四三 邬若望 达耳马威亚人

一六二〇年入华——一六二一年四月二十二日
歿于南昌。

邬若望(Jean Ureman(Uremon))神甫字瞻宇，达耳马威亚(Dalmatie)人也。生年未详。何时入会，亦无考。仅知其已晋司铎而已。金尼阁神甫抵罗马，延之同赴中国，会长经其力请，不得已许之。

巴尔托利神甫云：其为人多材艺，尤长于数学，兼为热心传道之人。(巴尔托利《中国耶稣会史》，七二〇页。)

若望立赴葡萄牙，于一六一五年在里斯本登舟。一六一六年抵澳门，时仇教之事未息，乃留居澳门三年，教授青年会士科学。

一六二〇年十二月遇一机缘，遂赴南昌。在道恐为
150 人识，伏处舱底。若望已患胃痛之疾，既困处舱底，足浸水中，饮食不充，睡卧不宁，疾病加剧。舟行四日始抵南昌，有一中国修士来迎，见其骨立。(同上书，七二一页。一六二一年报告，二二九页。)

一六二一年四月二十二日若望疾遂不起，遗体葬于南京雨花台。

其遗著有一六一五至一六一六年之《日本年报》，十

二月十三日写于澳门，见《那波利选集》，八开本，一六二一年。

四四 法类思^① 中国人

一五九五年生——一六二〇年入会——一六二〇年入内地。

法类思 (Louis de Faria) 修士一五九五年生于澳门，父母皆华人，幼年即为会中之讲说教义人。

①钩案：此人原阙汉姓名，法类思乃新译名。

南京仇教时，类思曾入狱受杖，会中道长见其坚忍不挠，于一六二〇年许其入会。一六二二年名录有其名，嗣后不知所终。盖一六三〇年名录已无名矣。

[附一]纳爵^① 中国人

一五九五年前后生——一六二〇年入会——一六二〇年入内地。

据诸传师之古记录，偕钟巴相修士（本书第一三传）同入狱受刑者，除法类思修士（本书第四四传）外，别有一青年讲授教义人名纳爵 (Ignace)，会中因其罹难不屈，许之入会。

①钩案：此人汉姓名原佚。

纳爵受杖凡三次。余无考。一六二二年名录未列名。

〔附二〕康玛竇^① 中国人

一六二〇年前后歿。

此老人见钟巴相修士被判徒刑（参看本书第一三传），愿代服役，巴相遂得释。

① 鈎案：此人原阙汉姓名，康玛竇乃新译名，不能必其为康姓也。

其后未久，赖有一朝中重臣之新入教者为之关说，玛竇亦被释，后寿终于澳门。

金尼阁神甫曾将康修士献身天主之遗迹保存。（吉勒尔梅《耶稣会圣徒节日历》，卷二，一九〇页。）

四五 傅汎际 葡萄牙人

一五八七年生——一六〇八年入会——一六二一年至华——一六二六年五月二日发愿——一六五三年十一月二十一日歿于澳门^①。

傅汎际(François Furtado(Heurtado))神甫字体斋，出生于亚速尔群岛之法亚尔岛。一六〇八年入修院。曾
152 在会中肄习哲学神学，旋晋司铎，愿赴远方传教。一六一八年乘金尼阁神甫重还中国之便，与之偕行。一六二〇年

抵澳门。初派至嘉定肄习语言^②。已而赴杭州与李之藻相随,似留杭止于一六三〇年之藻之死。汎际除布教外,曾与之藻编撰哲学书籍。(曾德昭《中国通史》,三六五页。)

①《澳门大事报导》三十四页谓其歿于四月十二日。

②参看本书第一五《郭居静传》。

一六三〇年汎际自杭州赴陕西,在西安府城建立教堂一所。被任为副区长后,历游各传教所,在位凡六年。

当是时也,有方济各派神甫二人不听同僚之劝告,欲赴北京劝化皇室入教,终被捕,押解至福州,投于狱。汎际救之出遣之避居山中诸传教所。(费兰多《菲律宾、日本、中国多明我会传教史》,马德里,一八七一年,卷十一,三八六页。)

一六四一年因鞑靼之侵入,益以内乱饥馑及盗贼横行,视察员等不得已将中国副教区析为二部:北部包括京畿、山西、山东、陕西、河南、四川,命汎际主之;南部包括南京、福建、湖广、浙江、江西、两广,命艾儒略主之。(杜宁一茨博特《中国历史》,一六四一年部分。)

一六五一年汎际被命为视察员,于困难境况中重返澳门,巡历广东全省。此外并曾任各地驻所道长垂十三年。后卒,葬于澳门。

其遗著列下:

(一)《寰有论》六卷,一六二八年杭州刻本。此书乃亚里士多德所撰《宇宙论》之译文。此书与《名理探》皆由李之藻之笔受,卷首皆有之藻序文。

(二)《名理探》十卷,一六三一年杭州刻本;一九三一 153

年土山湾有重刻本。(钩案:尚有辅仁大学影印陈援庵先生藏抄本,仅五卷。)是为科英布拉大学之论理学。

(三)《一六三九年写给教皇的关于中国教会情况报告》,汉诺威图书馆藏有抄本,编列一八一一号,题作《就一六三九年中国传教情况写给教皇的报告》,二开本,十四页,后有莱布尼茨手书二页,不知是否为同一书。是编先由罗萨利奥号(N. D. de Rosario)船从澳门载赴葡萄牙,在中途被荷兰人劫取。巴黎有抄本。(参看索默尔沃热尔《书目》,卷三,一〇六九栏。)

(四)傅汎际神甫在一六三六年和一六四〇年《从中国发布的关于耶稣会士具体执行中国礼仪的最早报告》,八开本,巴黎,一七〇六年。是编内载一六三六年十一月十日致会长威特勒斯奇书,及汎际致莫拉勒斯(de Morales)神甫之十二答案,而于一六四〇年二月八日致视察员鲁比诺(Ant. Rubino)神甫者。(索默尔沃热尔《书目》,卷三,一〇六九栏。)汎际答文在辩论礼仪问题时,曾用各种语言重刻多本。(索默尔沃热尔《书目》,卷三,一〇六九栏。)

(五)一六三四年致会长威特勒斯奇书,陈述传道会之概况,及高一志、龙华民二神甫之德行。(巴尔托利《中国耶稣会史》,一〇三九页曾节录其文。

(六)《天主教要》一卷,阙撰人名。

四六 邓玉函 德意志人

一五七六年生——一六一一年十二月一日入会^①

——一六二一年至华——一六二六年九月二日

发愿——一六三〇年五月十一日歿于北京^②。

邓玉函〔Jean Terrenz(Terentio)〕^③神甫字涵璞，出生于巴德大公国之康斯坦次城，以医学、哲学、数学著名 154 于德意志全境。谙悉犹太、迦勒底、拉丁、希腊等文字，除本国语外，并熟知法、英、葡等国语言。既善医术，当时王公贵人颇重视之，不难跻高位也。然在三十五岁时舍身入会，不久即赴海外传教。一六一八年四月十六日偕金尼阁神甫在里斯本登舟东迈。

①薛孔昭《名录》作十二月四日。

②薛孔昭《名录》作五月十三日。

③布鲁克尔《名录》谓其姓 Schreek。

玉函在舟中得重疾，此疾时识为不治，赖有青年神甫卡瓦利纳(Cavallina)愿舍己身以救之。后其愿果遂。舍身者死，而玉函之疾得痊。〔麦大成(Cardoso)《圣人传记》，卷三，二三一页。德哈斯奈斯《金尼阁传》，一四七页。〕当其居留果阿、榜葛刺、满刺加等地，苏门答腊及安南南圻沿岸，澳门及中国时，曾以其熟练之博物学识，采辑异种植物、矿石、动物、鱼类、爬虫、昆虫，顾玉函兼善绘，并图其形。此外并研究上列诸地之气候人物。(吉尔切尔《附图中国志》，一一〇页。)

上述一切记录凡两册，题曰 Plinius indicus。一六二一年抵澳门，初派至嘉定研究华语，继至杭州执行教务。未久，朝廷闻其博学，召之至北京修历。

一六一一年熊三拔修历，始因官吏之嫉，旋因南京仇

教之事起，修订未成。语见本书第三三《熊三拔传》。已而监官推算多误，崇祯皇帝命徐光启督修新法，光启奏请征召西士修改。一六二九年九月二十七日下诏报可。

- 155 (巴尔托利《中国耶稣会史》，九〇九页以下。汤若望《在华耶稣会传教区的创建和发展史》，一〇页以下。)

时欧罗巴人在北京者，仅玉函与龙华民二人，乃召玉函主其事，徐光启、李之藻、李天经辅之，三人皆信教官吏也。同时帝命制造仪器。

一六三〇年五月十一日玉函卒，命汤若望、罗雅谷继续其未成之业^①。

- ①《明史》卷三二六《意大里亚传》记载其事甚详，其文略曰：万历中利玛窦同中官马堂至京师，绘有万国全图，以万历三十八年（一六一〇年）卒于京。赐葬西郭外。其年十一月朔日，历官推算多谬，朝臣推庞迪我、熊三拔会同测验，从之。自玛窦入中国后，其徒来益众，有王丰肃传教南京。万历四十四年（一六一六年）礼部官以王丰肃、阳玛诺煽惑群众不下万人，朔望朝拜动以千计，一如白莲无为诸教，帝令遣赴广东，听还本国。其国善制炮，视西洋更巨，既传入内地，华人多效之而不能用。天启、崇祯间，东北用兵，数召澳中人入都，令将士学习，其人亦为尽力。崇祯时历法益疏舛，礼部尚书徐光启请令其徒罗雅谷、汤若望等以其国新法相参较，开局纂修，报可。久之书成，即以崇祯元年戊辰（一六二八年）为历元，名之曰《崇祯历书》，虽未颁行，其法视大统历为密，识者

有取焉。其国人东来者，大都聪明特达之士，意专行教，不求禄利。其所著书，多华人所未道，故一时好异者咸尚之，而士大夫如徐光启、李之藻辈首好其说，且为润色其文词，故其教骤兴。

其遗著列下：

(一)玉函所修新历，一六三四年书成，凡一百卷^①，156题曰《崇祯历书》，康熙时改名《西洋历法新书》。其书凡十一部，曰法原，曰法数，曰法算，曰法器，曰会通，谓之基本五目，曰日躔，曰恒星，曰月离，曰日月交会，曰五星，曰五星交会，谓之节次六目。书末附《历法西传》《新法表异》二种，则汤若望入清后所作而附刻以行。哥白尼(Copernic)、第谷(Tycho-Brahé)、克普莱(Képler)诸氏及其发现，亦附见焉。《四库全书总目》改题曰《新法算书》，而以属徐光启、李之藻、李天经、龙华民、邓玉函、罗雅谷、汤若望等。阮元《畴人传》以属汤若望，其实诸人皆与其事也。(参看伟烈亚力《中国文献注释》，八七页。)

①汤若望神甫《在华耶稣会传教区的创建和发展史》，十三，十四页云有一百五十卷，修订五年始成。分三编，首西洋天文学理，次行星，恒星，日月蚀诸说，与夫测算之方法，次便利测算诸表。

(二)《人身说概》二卷。钩案今所见旧抄本题作《泰西人身说概》，首有东莱、毕拱辰序，称译于武林李太仆家。李太仆即之藻，是玉函此书之作，当在居杭州时。又称初无刊本，崇祯八年(一六三五年)拱辰识汤若望于京，得见此书，以玉函译说时，乃一疵漏侍史从旁记述，恨其笔

俚而不能挈作者之华，语滞而不能达作者之意，因为之通其隔碍，理其棼乱，文其鄙陋，凡十分之五，而本来面目，宛然俱在，遂付诸梓。其时当在崇祯季年。又案罗雅谷有《人身图说》二卷，亦为最初输入之生理学，然编次与玉函《说概》异。俞正燮《癸巳类稿》卷十四有《书人身图说后》一文，混玉函、雅谷二书为一，殆二书并行，俞氏不知，致有此误。本书第五五《罗雅谷传》未著录有《人身图说》，则费赖之未见其本矣。

(三)《奇器图说》三卷，一六二七年北京刻本，玉函口授，王徵笔述。一六二八年南京刻本，前有玉函弟子张杅 (Tchang Yong-yu) 序。一八四四年收入《守山阁丛书》⁵⁷。徵与玉函别撰有《诸器图说》一卷，皆言力学及各色器具之书也。(前引伟烈亚力书，四一六页。)

(四)《大测》二卷。

(五)《测天约说》二卷。

(六)《正球升度表》一卷。

(七)《黄赤距度表》一卷。

(八)《浑盖通宪图说》三卷，之藁刻于北京。

(九)从中国寄给欧洲数学家们的简信，附波普勒利 (Jean Poppleri) 的介绍，四开本，一六三〇年。

(十)玉函未入会前刻有《新西班牙药物宝库》两册，罗马，一六三〇年。

(十一)玉函留有一部未成之大著作，即上述之 Plinius indicus，二开本，二册，自一六一八年迄于死时，凡所采集观察，并录于其中，颇有刊行之价值也。

(十二)一六二二年四月二十二日法布罗(G. Fabro)从苏州寄给罗马的书信,现藏蒙彼利埃医科大学图书馆,抄本编一〇四号。

(十三)一六二九年八月二十七日玉函自北京致费奇规神甫书,抄示西安景教碑上刻叙利亚或阿美尼亚籍诸主教暨司铎名录,现藏巴黎国家图书馆。(参看考狄《中国的中-欧印刷术》,卷一,三二五页。)

(十四)许多不明确的词语,散杂在菲利普、巴拉切索的著作摘要中,立表加以说明。四开本,现藏蒙彼利埃医科大学图书馆,编四六一号。

(十五)致克普莱书,询中国年表事。玉函曾以其测算日蚀之方法告之。克普莱有答书,然宋君荣(Gaubil)神甫云此类信札已佚。《论中国编年史》,二八五页。)

(十六)一六二一年八月三十日致克勒尔(Jacques Keller)神甫书,现藏比利时都城之布尔戈业图书馆;又 158
一六一八年十二月十六日致博兰杜斯(Jean Bollandus)神甫书,现藏博兰迪斯特斯图书馆。(索默尔沃热尔《书目》,卷三,一二二九栏。)

四七 费乐德 葡萄牙人

一五九四年生——一六〇八年二月十七日入会
——一六二二年六月二十二日至华——一六二
六年四月十六日发愿——一六四二年十月九日

歿于开封。

费尔德(Rodrigue de Figueredo)神甫字心铭，生于葡萄牙埃武腊教区中之科鲁切小城，而在一六〇八年入此城修院。乐德性喜拉丁文，遂遣其赴罗马肄习神学。乐德甚喜，盖既可获见古都，兼可请求派往中国传道也。会长可其请，一六一八年命其偕金尼阁神甫同行。在果阿完成学业，晋司铎后，而于一六二二年抵澳门。

首先传教杭州。一六二七年至宁波，受洗者八十人，志愿受洗者数百人。最后十二、三年间乐德居河南。开封之有壮丽教堂之建筑，赖其力也。有信教之翰林某归乡里，邀请乐德同往武昌府，许助其在武昌建筑教堂一所。然始因仇教，继以鞑靼之取此城，其愿未达。后来穆迪我(Jaques Motel)至始将此教区恢复。(巴尔托利《中国耶稣会史》，一一三七页。杜宁一茨博特《中国历史》，一六四二年部分。)

乐德既还开封，时城乡共有教徒数千人。会李自成
159 率群盗至，攻城不下，蹂躏四乡，复还围城，欲待城内缺粮时取之。已而城内粮将罄，米一升易银一两，甚至腐烂皮革亦计量售银；且有人公然买卖人肉，或掷死尸于道中以供人食。

教众或死或逃，仅余五十人。乐德恃以为食者，或水煮一勺面粉，或一小块腐烂面饼而已。

至是傅汎际神甫遣费藏裕（第五八传）修士持书往教，劝其离去开封。教众亦促其行；教外之人亦约其出走。乐德答汎际，谓其义在留慰教众，虽死不辞。

既而教众尽死，饥馑日甚，仅余仆役二人与澳门青年名罗拉札 (Lazare Rodriguez) 者。当此时间有官兵来援，驻黄河堤上。统将欲水淹群盗，乃决堤放水，时值秋雨，后，河水涨时，水流奔放，平地尽成泽国。被围者虽免盗围，然河水从城墙缺口流入；城内最高房屋只余屋顶可见。据闻死者三十万，得脱者不及万人。乐德不知所终，或淹死，或压毙于教堂下，皆未可知，时在一六四二年十月九日也。〔聂仲迁 (Greslon) 《中国历史》，一二三页。〕

乐德生前曾设立贞女会一所，命一有德行之嫠妇主之。其后此会在南京赖杨廷筠女教名阿格奈斯 (Agnés) 者之力延存数年。

其遗著列下：

160

(一)《圣教源流》四卷，用名宦某之名在开封刊行。

(二)《总牍念经》二卷。

(三)《念经劝》一卷。

(四)一六二七年对陆若汉著作的两种答复。陆若汉〔第七一传〕神甫于一六一八年在澳门刻一书，评驳利玛窦神甫传教方法，乐德特撰此文以答。

(五)毕嘉(第一一八传)神甫在其手写本《论中国礼仪》中引有《对十一条规定》的答复。(索默尔沃热尔《书目》，卷三，七二六栏。)巴凯 (de Backer) 神甫等误以为亚里士多德《宇宙论》之译文出乐德手，其实非是，译者实为傅汎际(第四五传)神甫也。(参考上引《书目》。)

四八 祁维材^① 波希米亚人

一五八六年生——一六〇四年入会^②——一六二二年入华——一六二六年五月二十二日歿于澳门。

祁维材 (Wenceslas Pantaléon Kirwitzer) 神甫出生于波希米亚之卡登城，而在布隆城入修院。肄习哲学神学毕，在格拉茨城学校教授数学。金尼阁神甫返欧洲，维材遂决意赴中国传教。而在一六一八年与尼阁偕行。一六二〇年同抵澳门。维材在澳城内外及广东沿岸传教数
161 年，盖其以此作入内地之预备也。巴凯神甫谓其曾赴日本，似误。盖在一六二四年名录中，其名与汤若望并列作中国传教师也；又一方面维材是否已入内地，亦无迹可寻云。

①钩案：原阙汉姓名，此乃新译名。

②一五八六及一六〇四年皆从一六二四年名录转录。

索默尔沃热尔《书目》无出生年，而以入会在一六〇六年。

其遗著列下：

(一)《在华耶稣会几位数学家一六一八年在东印度航海中的彗星观察》，四开本，阿沙芬堡，里普，一六二〇年。

(二)耶稣会莫查多 (G. B. Mochado) 神甫一六一七

年在日本殉教事迹报导，八开本，一六二二年。

(三)《一六二〇年中国报导》，一六二〇年十一月二十二日写于澳门，署名作祁维材，一六一九、一六二〇、一六二一年中国大事报道，一六二四年。法文本见《往事记录》，一五八页。

(四)《一六二四年中国书信》，一六二五年十月二十七日写于澳门，见《一六一六年西藏书信》和《一六二四年中国书信》，八开本，罗马，科尔伯洛蒂。

(五)尚有信札数件，现藏阿波尼图书馆：1.一六一六年五月六日及二十六日致拉莫尔迈尼(Lamormaini)神甫书，作于敦克尔克，述自格拉茨抵敦克尔克行程。2.一六一七年三月八日书，写于科英布拉，报告传教会消息。3.一六一九年一月七日致德克尔(Deker)神甫书，作于果阿，述天文、地理及传教会事。4.一六二〇年二月二十一日致拉莫尔迈尼神甫书，作于果阿，报告传教会若干消息。(参看索默尔沃热尔《书目》，卷四，一〇八四栏。)

(六)一六二四年一月二十日从东印度寄给奥古斯都(Ferdinandum Augustum)的信及其他简报；又比利时首都布尔戈尼(Bourgogne)图书馆藏抄本，编列四一六九至四一七一号中，尚有节录其他信札之文。(同上引《书目》。)

四九 汤若望 德意志人

167

一五九一年生——一六一一年十月二十一日

入会——一六二二年六月二十二日至华——一六二八年七月三十一日发愿——一六六六年八月十五日歿于北京。

汤若望 (Jean Adam Schall Von Beli) 神甫字道未^①，乃欧洲与耶稣会有功于中国的诸大伟人之一。一五九一年生于科伦。其先信奉公教之望族也。初在此城耶稣会立学校肄习诸科并修辞学，即以才识虔信见称于时：历为圣天使会及圣母会会员。校长列昂 (Jean Léon) 见其才能堪为宗徒，遣之至罗马就学于德意志学校^②。

① 诸旧抄本作道味，似误。北平图书馆藏抄本，〈正教奉褒〉，〈中国人名大辞典〉，均作道未，较雅，今从之。

② 其名列德意志学校名录，次一一三八号。

若望以一六〇八年七月二十四日入校，成绩德行超著，如在科伦学校时。由是以最优等评语入圣母会。肄学哲学后，放弃俗世虚荣，以一六一一年十月二十一日入耶稣会。卒业后偕金尼阁神甫同赴中国。一六二二年抵华，遣赴北京肄习语言。初抵京时测算月蚀三次皆验，由是声望遂起。

已而会中委其管理陕西省教务。居西安数年，传布宗教，研究天文，无时或息。当时侮谤者众，且被人诉之于法庭。受平民之侮辱，士大夫之轻视，外受毁谤，内感艰辛。若望曾云：南京之牢狱较优于西安之自由，可以见其遭际也。嗣后反对者皆服其坚忍，侮谤之风遂息。信教者日众，士大夫渐善遇之，建筑壮丽教堂一所，其费用

几尽出于布施。开堂之日，受洗者五十人。（巴尔托利《中国耶稣会史》，九六三页。）

一六三〇年五月邓玉函神甫卒，朝廷征召若望偕罗雅谷神甫至京师，继玉函修历未竟之业^①。

①事具第四六《邓玉函传》。

若望任事之初，历官嫉西士者众，因生毁谤。徐光启等颇左右西士，请命中国历官与西士各推日蚀，及期，若望等推算毫厘不爽，反对者推算皆差，因是历官尤恨西士。（同上书，一〇九五页以下。汤若望《在华耶稣会传教区的创建和发展史》，十页。）

若望至是制造浑天球一具，平面地图一具，附赤道线，上列十二宫。球体大而适当，用青铜熔铸，其上镀金。又制中国前此未见之地平日晷一具，用白玉石为之，¹⁶⁴长五尺，其针金龙负之。复为朝中贵人制造便于携带之日晷，用象牙为之。又为诸天文家制大小望远镜、球仪、罗盘、观象仪等器，俾利观测。（同上书，二三、二五页。）

当此时间，阁老徐光启卒，得年七十二岁，时在一六三三年十一月八日^①。临终时若望在侧。至是若望遂失一强有力之保护人，盖光启殆为当时华人中最开明者，亦为中国最热烈虔诚之天主教徒。光启未死前，曾以若望及一切传教西士托付于朝中重臣一人，其人亦信教者。然皇帝已知爱敬若望；若望因宠遇，传教益力。

①崇祯六年十月初七日，原误作西历十一月九日，今改。

有老中官名若瑟(Joseph)者，曾经若望授洗，若望

赖其力，获入宫禁。一六三二年遂在禁中举行第一次弥撒。一六三一年重要中官受洗者十人，中有庞天寿，教名亚基楼^①，后以忠勇辅卫明末诸王，见称于世。天寿与另一中官名奈莱(Nérée)者，曾延其老母至若望前受洗。先是此二妇曾经丘良厚(第三三传)修士为说教义也。又有一中官名普罗特(Prote)^②者，品行为人所重，因谗被逐出宫，依龙华民神甫为讲说教义人，而开教于其故乡大城县。(上引巴尔托利书，九七二页。科尔达拉《耶稣会史》，五四二页。)利玛竇神甫所创设之天主母会^③，若望更扩而张之，推及于信教妇女。(上引汤若望书，二三九页。)

①钩案庞天寿之授洗人似是龙华民，而非汤若望，参看《西域南海史地考证译丛》，三编，一〇八页。

②此名巴尔托利作 Proto；科尔达拉作 Protus；原误 Protais，今改。案罗马殉教名录九月十一日下与圣亚森特(St. Hyacinthe)并列之中官，似即此人。

③见第九《利玛竇传》。

先是巴伐利亚国诸公爵曾将天主事迹图一册赠金尼阁神甫携来中国，至是若望用汉文附以说明，进呈皇帝，又附蜡质摹阁王(Rois Mages)朝觐像一座，外施彩色甚丽。崇祯皇帝爱之甚，置设御几，许后妃临视。中官若瑟乘机为诸后妃解说，有数人感动，因欲入教；若望许若瑟代为授洗。入教者有三人居后妃位，教名阿加特(Agathe)、烈纳(Hélène)、西奥多拉(Théodora)。(上引汤若望书，二五——三九页。)

皇室信教者一百四十人。当时朝野以为崇祯帝亦有信心，特未敢入教耳。（巴尔托利《中国耶稣会史》，一一〇五页。卫匡国《中国基督教徒数量和素质的简述》，二四、二七页。）

鞑靼势力日盛，渐有进迫京师之势。一日朝中大臣某过访若望，与言国势颠危，及如何防守等事。若望在谈话中言及铸炮之法，甚详明。此大臣因命其铸炮。若望虽告知其所知铸炮术实得之于书本，未尝实行，因谢未能，然此大臣仍强其为之。盖其以为若望既知制造不少天文仪器，自应谙悉铸炮术也。（上引汤若望书，六三页以下。雷慕沙（Rémusat）《亚洲新杂纂》，卷二，二一七页。前引巴尔托利书，一一〇五页以下。）

一六三六年在皇宫旁设铸炮厂一所，若望竟制成战炮二十门，口径之大，有足容重四十磅炮弹者。已而又制长炮，每一门可使士卒二人或骆驼一头负之以行。所需铸炮之时亘两年。（上引汤若望书，六六页。）明朝末帝为奖若望勤劳，赐金制匾额二方，上勒文字，一旌其功，一颂其教。（上引汤若望书，七三页。）

当时除鞑靼外，尚有群盗甚众，进逼京师。崇祯帝见中官多叛去，将士多逃亡，不欲生为群盗得，以三幼子托之一忠臣某，在一树上自缢死，时在一六四四年也。（冯秉正《中国史》，卷十，四九二页。上引汤若望书，七五页以下。）

盗首名李闯（李自成），陷京师，肆抄掠，然不犯若望 166 之身及其居宅。若望日夜往慰诸教民，不遗一人。（上

引汤若望书，八九页。)

全国官吏未尽降贼也，有吴三桂者率重兵退守辽东。李闯进攻，面三桂杀其父；三桂仍不降，招满洲鞑靼来援。李闯败走北京，焚掠城市而走陕西。(上引冯秉正书，五〇〇页。上引汤若望书，九二页以下。)

诸教徒共劝若望出走，共推一向导，并献一马，促其速离北京，若望不允。强之行，亦严拒不从。盖其以此教区开辟不易，不愿弃之也。况其职在援救不能逃亡之教众欤？教中妇女及幼年贞女皆匿教堂中，宁死不愿受辱。(上引汤若望书，九一页以下。)

当时宫殿寺塔尽焚，惟若望居所无恙，其避匿之所，亦天文仪器及前在陕西所刻书籍印版贮藏之处，火至即灭，盖得天主佑也。若望处此全城尽罹兵燹之时，仍外出慰问援救未死之人。据其记载云：“耳所闻者无非房屋倒塌声，难民呼号声，火爆声，火药炸裂声。北京近类一广大火场。热度之大，昔在城外可以远瞩之大树，叶干尽焦。城外附近植物尽枯死，与严冬荒凉景象盖同。”(上引汤若望书，一〇〇页以下。参看古伯察《基督教在中国》，卷二，三七页。)

满洲人取此已成灰烬之城，遂在此废基之上建设新朝。(君临止于一九一二年。)新君年号顺治，见城中空虚，不足安插鞑靼部众，乃命城内汉人迁居城外。若望闻讯，立即缮折趋朝启奏。新朝既悉其在前朝曾管钦天监事，礼待之，许其安居旧宅。

已而在一六四五年后，新朝幼帝授若望钦天监监正。

加太常寺少卿衔，此乃朝中一重职也。若望经区长核准后始受职，赖若望之宠遇，可以保护散在外省之教侣，故提及若望之名，可以出龙华民神甫于狱，可以自谪所召李方西（第八七传）神甫还，可以免安文思（第八八传）、毕方济（第四〇传）二神甫之死。

若望受职时曾附以条件，只能管理关于星宿、日月蚀、季候循环等事，至旧历吉日凶日之判别，事涉迷信，则不能为之。若望曾以其意遍函传道会中诸神甫。彼并请免行其官职所系之礼节，盖其不能与教士职分相调和也。所有应得薪给一概不受，前任奢荣一概屏绝^①（聂仲迁《中国历史》，四页。上引汤若望书，第二章。杜宁一茨博特《中国历史》，一六四五年部分。）

①暂时受任高官，同参订涉及迷信历书两点，曾经当时耶稣会神学家之争辩，或以为若望宜辞职，或以为若望宜在位。最后会长奥里瓦（Olive）于一六六四年四月三日取得教皇亚历山大七世之许可，耶稣会士虽在发愿后，亦得为中国官吏及钦天监人员。（布鲁克尔《天主教百科全书》汤若望条，卷十三，五二一栏以下。）

皇太后曾养一皇族女于宫中，将以备顺治帝正宫之选。此女得重疾，群医束手，太后遣一人向若望索药，仅言病者为某大臣女。若望答己非医师，不能治病。侍女固请，乃以一神羔付之曰：“以此物置病者身，祈天主愈其疾。”太后如法治之，其病果痊，越数日宫女数人以赐品赛若望，若望拒不受。侍女曰，汝救太后侄女及皇上正宫，

若不受则侮太后矣。若望惊，乃遵汉人习惯受之。（上引汤若望书，一二〇页。）

当时朝鲜国王^①在京师，因识若望，曾过访，而若望亦曾赴其馆舍谒见，冀天文、数理之学赖其输入朝鲜。若望且盼教理浸入王心，乃赠以耶稣会士所撰一切关于宗教之书籍，又赠浑天球仪一具，天主像一幅，并以讲说教义一人嘱其携带回国。王曰：“余宁愿延君之欧罗巴同伴一人至国，讲授西学；然不论所遣者何人，将待之如同君之代表。”（上引古伯察书，卷二，三九三页。上引汤若望书，第十二章。）

①钩案：此朝鲜国王应是朝鲜王世子之误。

顺治帝宠眷若望，迥异常格，与长谈时，乐闻其言。若望因请求关于传教之种种恩惠。皇叔阿玛王（Amawang）拟在北京外建一新城，若望请于帝，仍将原有城郭宫殿修复；又请释于俘虏数百；阻止僧人建大庙塔于京师；请勿以帝王独享之尊荣授鞑靼地域之一著名喇嘛；帝皆许之。

顺治帝品性本良，惟生活放逸，左右不尽端人。若望常献替忠言，帝亦从其言而待之若父，称之为玛法（Ma-fa），满洲语犹言父也。帝且欲其谏臣，朝臣之有过失者，命其往训诫之。若望以此职足以使人嫉恨，辞不受，帝不允，由是嫉恨树立，后日不免为怨家所陷。

顺治帝有时语诸大臣曰：“汝曹只知语我以大志虚荣，若望则不然，其奏疏语皆慈祥，读之不觉泪下。”帝又云：“玛法为人无比；他人不爱我，惟因禄利而仕，时常求恩；朕常命玛法乞恩，彼反以宠眷自足；此即所谓不爱利

禄而爱君亲者矣。”(上引聂仲迁书,八页。)若望每入觐时,人皆言曰:“若望与主言民疾苦事。”赞词之优有逾此者欤?

顺治帝每有咨询,随时宣召其玛法入宫。并且不拘礼节,常幸天主堂,历览礼拜堂、书房、花园等处,与诸幼望学生及诸传教师叙谈,询其课程,习惯,例规。帝与若望言,历久不倦。

若望乘机进言教理,有时为讲十诫及宗教史略,有时为讲天主受难诸事。上引若望书第十四、十五、十六章记之甚详。帝与若望欢洽,有如家人父子。诸传教师皆祈天,冀帝入教,盼其为一未来之君士坦丁云。

若望致书欧洲,请速派新会士来华助理;彼曾获得皇帝许可,会士可以自由入境;帝并降敕许其自由传教。由是新入教者日增,一六五〇至一六六四年,共十四年间,170 华人受洗者逾十万人。(参看上引古伯察书,四二四页。)

一六五〇年帝赐地一方,建筑天主堂一所^①。堂高大,制逾旧有诸堂,形用拉丁十字架式,中有主祭坛一,侧坛四。壁上书十诫八福及诸信条。堂前悬金字匾额,中为御书,左为第六十六代衍圣公书,右为阁老书,词皆颂扬天主教。(上引汤若望书,第十八章。)

①御制有天主堂碑记,其文载吉尔切尔(《附图中国志》,一〇五页)和杜宁一茨博特(《中国历史》,一六五四年部分)二书中,原文乃帝亲笔,多表彰公教语,嗣经文臣改纂,仅余赞扬若望之文。〔鲁日满(Rougemont)《鞑靼中国史》,一五三页以下。〕

171 先是阿玛王擒永历太后烈纳(Hélène)及其他妃主送京师,锢居一处。永历太后最后诸年,常经若望慰问。帝室有一幼年儿童曾经受洗者,若望曾为之预备善终。荷兰国及莫斯科(Moscovie)大公所遣入觐使臣,若望曾为之担任翻译^①。

①一六五六年莫斯科大公是阿列克赛·米哈伊洛维奇(Alexis Michae lowitch),使臣名未详。荷兰国使臣名杯突高啮(郭佑)(Pierre de Goyer)和若诺皆色(Jacques de Keyser),一六五五——一六五六年〔纽霍夫(Nieuhoff)《教会东方联合省遣使中国记》,二〇三页〕,坎彭(J.V.Campan)和诺伯尔(C.Nobel),一六六一年,荷恩(Van Hoorn),一六六四年。

帝赐若望号曰通玄教师^①,又在一六五一年敕封若望祖父母、父母官职^②。后又降诏,以若望效力年久,原无妻室,不必拘例,其过继之孙着入监肄业,盖异数也^③。

①钧案:后避讳改通微教师。

②诰封用满、汉文,现藏根特城大学及布拉格、柏林、里昂等城图书馆。诸诰封译文见上引汤若望书,三四七页以下。

③南怀仁《熙朝定案》载有一奏疏,涉及若望之义孙。其人名汤士弘,原姓潘,曾为钦天监员,足证若望有子之诬。诬其有子之说,盖出于枢机员铎罗(de Tournon)之书记安格里塔(Mareel Angelita)。一七五八年安格里塔死后,其说始布。据云:若望晚年不与同会士往来,在赐第中蓄有一妻,生二子。乃

在礼仪问题辩论之中，若望之敌未见有一人举此事，而在诸会士中，亦无有人在私函中提及此事，足证其出于安格里塔之臆测也。案若望义孙乃其门下潘尽孝子，其人盖姓潘。同会士在一六六五年七月二十一日信札中曾言尽孝颇见信用。若望临危时曾言其对尽孝过于宽容，致有取其子为继孙事。此固为若望之一缺点，然距诬罔之说远矣。布鲁克尔神甫在《天主教百科全书》汤若望条中（卷十三，五二二页以下）曾将关于此事之一切未刊文件节录刊布。此种文件又经同一著者在一九〇一年七月五日巴黎《研究》六四页以下《今昔之公教传教师》一文中完全征引。安格里塔之记录曾经前嘉布遣会会士诺尔伯特（Norbert）采入《关于宗教与耶稣会士事件之历史纪录》第四册中。后又重载于枢机员铎罗之《历史纪录》（威尼斯，一七六一年，卷一，二〇九页。）

不幸帝宠爱一幼年嫠妇逾常，此妇诱其不信正教，不理国政，而迷信佛说。此妇有一子，帝许此子将来承继大位，不意此子夭殇，而此妇亦逾六月死。顺治帝悲甚，¹⁷²得痲疾，已而发热甚剧，至于大渐。（上引汤若望书，二九九页以下。上引鲁日满书，一四二页以下。）

帝临危时，若望仍上疏固谏，并感谢恩遇。顺治帝览疏，感激泪下，谢若望，复回首呻吟曰：“朕诚有过，然今悔已晚，朕疾已不治矣。”一六六一年二月六日驾崩。

帝未崩前，召诸重臣议，拟传位于其长兄。皇太后不许，诸臣未尽附太后意。太后乃召若望决之。若望称诸 ¹⁷³

国传世之法，皆父死子继。帝由是立皇二子为皇太子，是为康熙皇帝；皇太子年幼，命大臣四人为辅政大臣，凡要政皆取决于皇太后（杜宁—茨博特《中国历史》，一六六一年部分。）

先帝既崩，新帝继位，依例须祀天。钦天监正亦在陪祀之例。若望以其教无此礼，请与同教人祀于天主堂中。（上引杜宁—茨博特书，一六六一年部分。上引汤若望书，三三五页。上引鲁日满书，一五八页。）

辅政大臣等初尚敬重若望，授以少保之号。郑成功^①子经抗满官兵，朝命（一六六三年）削平沿海一带诸城，澳门亦在削平之列，若望同刘迪我神甫（第一〇二传）历陈澳门有功于国，葡萄牙人遂免驱逐。是为若望对于宗教之最后功绩，盖若望表面虽受优遇，奈积怨已深，风波
174 将起矣。（上引鲁日满书，七三页以下。）

成功，芝龙子，世称为国姓爷者也。芝龙泉州南安县贫户子，幼至澳门入教受洗，教名尼古拉斯（Nicolas）。为人聪敏干练，经商而致富，多有海舶，初与盗为敌，后自为海盗。取一日本妇人生成功，成功幼年或偕西班牙人至马尼刺，或偕荷兰人至台湾，然从未受洗。品性与其父同。满人杀芝龙后，成功往来海上，抄掠沿海诸城，至入长江围攻南京。一六六二年二月十二日夺台湾于荷兰人手。同年七月二十三日死于台湾。关于成功事迹，可参看上引鲁日满书，第一编。

先是顺治末年有人散布谤书攻击天主教，诸神甫不

以为意。至是满、汉、佛、回、儒士合谋欲将天主教名屏绝于中国之外。其首领吴明烜，回回历官，曾经若望援其死，乃忘恩，受礼部尚书某之嗾使，而与若望为敌。更有中国士人名杨光先者，徽州人，聪敏狡诈^①，一六六四年上疏攻讦天主教与诸传教人。诸辅政大臣不喜天主教，且有与若望为敌者，遂可其奏。

①关于杨光先者，可参看上引聂仲迁书，三五——四六页。

其后不久拘捕诸神甫问罪，时在京神甫被拘者四人。并命将全国诸传教士拘送来京；禁华人奉教，时在一六六五年一月四日也。夺若望诸职，与南怀仁（第一二四传）、利类思（第八〇传）、安文思（第八八传）三神甫银铛入狱。信教官吏五人皆拿问待罪。

若望被劾之款凡三：（一）邪说惑众，不合中国忠孝礼法；（二）潜谋造反，聚兵械于澳门；（三）历法荒谬，采用足为中国羞。（上引杜宁一茨博特书，一六六三年部分。上 175 引聂仲迁书，九三页以下。）

诸人对此三款皆答辩甚详，而对于第三款剖析尤力^①。然无益也。问官已有主见，案已早定，对于答辩皆若充耳不闻。此七十四岁高年老人身患痿痹，口不能言，跪地受讯，如同罪人，见之诚可悯也。南怀仁为之代辩，冀代为受难，然终不免断若望刚罪，至信教之中国官吏，则拟处斩，诸传教师押解出京。

①此事亦无足异。当时欧洲天文学与传教师之莅华，皆有相连之关系。若无天文，则并传教之事亦无矣，

后一七六六年九月二十四日刘松龄(Hallersten)神甫书札犹云:“艺术在朝廷固为人所喜,然天文、历算尤有功用,而不可须臾离也。”百年以后情形尚且如此,当时诸神甫对于历算力为辩护,其故不难知之,殁于一八三八年之毕学源(Pires-Pereira)主教得留居北京者,亦赖其数学家名义有以致之。

中国信教官吏五人遂被斩决,妻子流放鞑靼地域。诸人作数次告解后,安然受刑。(上引聂仲迁书,一七五页。)其余拟处罪刑诸人,幸遇天变获免,盖时有彗星见,地大震,火灾及其他灾害继起。既见上天示惊,始知诸神甫无罪,乃开释诸神甫,除若望外,俱遣发广东^①。

①外省教士拘送北京者共三十人,内方济各会士一、多明我会士四、耶稣会士二十五。留京者仅四人,其名列下:(参看上引鲁日满书<序言>。

利安当(Antoine de St.-Marie),西班牙人,方济各会士。科罗纳多(Dominique Coronado),西班牙人,(钩案此人原名闵明我。)一六六五年五月九日殁于狱。

纳瓦莱特(Dominique Navarrette),钩案:即前一闵明我,西班牙人,后一闵明我乃意大利人,盖顶替其名者,参看第一三五传注^①。

萨尔帕特里(Dominique Marie Sarpetri, St.-Pierre)西里人。

略纳尔多(Philippe Leonardo),西班牙人。以上四人皆隶多明我会。

汤若望(留北京) 聂伯多 郭纳爵 利类思(留北京)

李方西 刘迪我 汪儒望 穆格我 毕嘉 张玛诺
 柏应理 恩理格 殷铎泽 何大化 金弥格
 潘国光 安文思 陆安德 瞿笃德 成际理
 穆迪我 洪度贞 南怀仁(留北京) 鲁日满
 聂仲迁

辅政大臣以汤若望罪案奏请太皇太后懿旨定夺。太 176
 皇太后览奏不悦，掷原折于地，责诸辅臣曰：汤若望向为先帝信任，礼待极隆，尔等而欲置之死地耶？遂命释放。（上引冯秉正书，卷十一，一〇二二页。）多明我会中国区长利西(Victorius Ricci)一六六六年五月十五日信札述此案甚详，此信札刊在缪尔(Christ Von Murr)之日记中。（载《艺术史和一般文学日志》，卷七，二五二页以下。）

若望遂脱锁链，被释出狱，听其回堂。教内外人争往慰之。诸辅政大臣与礼部恚甚，封闭教堂，取御赐碑文碎之，命若望、怀仁与利类思、安文思二人同居一处。（上引杜宁一茨博特书，一六六六年部分。）

若望自知死期已至，作末次书札致诸会士，请恕不足为诸人模范之罪。（阿勒甘布《作家书目》，三九八页以下。）若望虽受诬，实光荣，于一六六六年圣母升天日弃世。

吾人得视若望为中国传教会之第二创建人。盖公教 177
 在前朝受恩宠，并得南明王朝诸王之爱护，得畏新朝之加罪也。若望虽不忘明帝恩，然视教务尤重，所以不惜迎合新主之心，遂获得顺治帝之爱敬。外省诸传教师赖此得不受内讧外侵之害。能维持教务于不坠，盖若望之功也。

若望熟习天文、历算，并谙练华语，与利玛窦神甫同，皆为其他欧罗巴人所难跂及。其临事镇定，遇难坚忍，亦与玛窦同。置身于一外教及腐败之朝廷中，仍以学识勤劳温和无私受人钦敬，是皆不可及也。

兹引一事，以例其余。孙元化、张焘^①二人失机下狱问斩，若望不惜矫装作煤夫负煤入狱，而聆其告解。〔帕特利格纳尼(Patrignani)《耶稣会殉教者传》，卷三，一三五页。上引聂仲迁书，三二二页。〕

①元化教名纳爵(Ignace)，焘教名米切尔(Michel)与张赓子张识教名同。焘与孙学诗合撰有《西洋火攻图说》，曾经伯希和在一九二六年《通报》一九二页中指出。

- 178 若望撰述以关于天文、光学、几何者居多，皆在一六三五年前修历时刻于北京。中有数种曾经徐光启校订。惜吾人所知未广，有若干编言之未能详也。

(一)《进呈书像》。是编乃进呈天主事迹图及慕阁王朝觐像之说明书也。参看《通报》一九三二年刊一一五及一一六页伯希和说；《正教奉褒》三版十九页；《天主教传行中国考》第一卷一九五页。

(二)《主制群征》二卷，一六二九年初刻于绛州，乃勒西乌斯(Lessius)之《论神的智慧》和《论灵魂不灭》两书之译文。若望仅译第一卷，卫匡国神甫接译第二卷，参看本书第九〇传匡国书录。(参看索特威尔《作家书目》，三九九页。卫匡国《中国基督教徒数量和素质简述》，XXXIV页。据索默尔沃热尔(《书目》，卷四，一七四一栏)说，若

望亦译有勒西乌斯(Lessius)之《论至善》，盖误读索特威尔及卫匡国二人之书。若望撰译实无是本也。

(三)《主教缘起》四卷，一六四三年刻于北京。近见有一新刻本，阙标题。

(四)《真福训谕》一作《真福经典》一卷，刊刻年月处所并阙，盖言八福之书也。

(五)《浑天仪说》五卷。

179

(六)《古今交食考》一卷，一六三三年刻于北京。

(七)《西洋测日历》一卷。一六四五年若望奉阿玛王命修历，第一历本，拉丁文标题作《奉旨按西洋新法修订之历书》(或《西洋新法历书》)，汉文标题未详。满人得此本甚喜，以之颁行全国。先是若望曾上疏奏，言旧历所载时、日、吉、凶等事非彼所能测，故将迷信四十条，屏于历本之后，按后列第十号书或即此本。(上引杜宁一茨博特书，一六四五年部分。)

(八)《学历小辩》一卷。

(九)《民历补注解惑》一卷，一六八三年南怀仁神甫刻于北京，首有监官胡某邵某二人序。若望又曾参订《钦定七政四余万年书》。(参看伟烈亚力《中国文献注释》，一〇三页。)

(十)《新历晓惑》一卷，参看第七号书。

(十一)《大测》二卷。

(十二)《远镜说》一卷，一六三〇年刻于北京。

180

(十三)《星图》，参看第二十六号书。

(十四)《恒星历指》四卷。

(十五)《恒星出没》二卷。

(十六)《恒星表》五卷。

(十七)《交食历指》七卷。

(十八)《交食表》。

(十九)《测食说》二卷。

(二十)《共译各图八线表》。

(二十一)《测天约说》二卷。

(二十二)《奏疏》四卷。

(二十三)《新法历引》一卷。

(二十四)《新法表异》二卷。

(二十五)《历法西传》。

(二十六)《赤道南北两动星图》，克拉普罗特 (Klaproth)《克拉普罗特藏书目录》一八三页引之。疑即第十三号书之别一版本。

(二十七)《西洋新法历书》三十六卷，徐光启、汤若望、罗雅谷等合撰，刊刻年月处所并阙。要在一六三三年光启去世之前。其子目列下：

甲、《日躔表》二卷，罗雅谷撰。

乙、《月离表》四卷，罗雅谷撰。

丙、《交食表》九卷，汤若望撰。

丁、《五纬诸表原叙目》十一卷，罗雅谷撰。

戊、《五纬表》十卷，罗雅谷撰。

一六四五年若望进呈顺治皇帝之历书，而顺治皇帝因魔回回历，而用西历新法，疑即是编也。（上引冯秉正书，卷十一，六一页。）

(二十八)《汤若望及主持钦天监工作的耶稣会上书信所提供的在华耶稣会传教区的创建和发展史》，弗雷西(Jean Foresi)出版，二六七页，八开本，一六六五年。是编止于一六六一年顺治皇帝之崩，其中颇有异闻，而顺治宠眷若望之事亦散见焉。

(二十九)《一五八一——一六六九年耶稣会士在中国创建与发展教会史》，弗雷西另出增订本，三九三页，十六开本，一六七二年，是编止于杨光先之狱，附件三：(1)《一五八一——一六六九年中国教务情况简介》；(2)《三十位神甫名册》；(3)《异象录》。(1)(3)两件并出殷铎泽神甫(一二〇传)手。以上二条皆经裴化行(H. Bernard)和凡·赫(Van Hée)二神甫改正。(参看索默尔沃热尔《书目》，卷三，八七七栏。)

(三十)《崇一堂日记随笔》一卷，一六三七年刻本，王徵辑。

(三十一)同上第二十七号书注，二六〇页谓若望上疏甚多，顺治帝选其中七十件下部议。

(三十二)上罗马书言中国编年事。缘有传教师数人以中国编年载尧在纪元前三五七年即位，虽得与七十子希腊文《圣经·旧约》之计算合，然与圣经之说异。若望因上书询问耶稣会长。一六三七年得答书，称中国纪年可用，惟必须一致，且称勿使华人知其编年已有证明，而经教会决定云。(宋君荣《论中国编年史》，一八三页。)

(三十三)通知中国传教会诸神甫书，辩解历书附载迷信及本人出仕事，见《某些神甫和教友对中国新历的

看法》，北京，一六四八年十二月十六日，四页，四开本。国立图书馆藏稿本，法国，第 9173 号。（布鲁克尔《天主教百科全书》汤若望条，五二三页。）

（三十四）索默尔沃热尔（《书目》，卷七，七〇七栏以下）引有若望未刊著作数种，如《关于争议问题的答复》，（作于一六二八年十一月八日，反对中国礼仪。）《上顺治皇帝奏疏》，一六四四年。（作于一六六三年，拉丁文。）

（三十五）艾儒略《四圣经》（第三九传十七号书）要略。（土山湾一九一七年书目二四九号。）

（三十六）《则克录》三卷，焦勛纂，赵仲订，首题一六四三年阴历四月；一六四七年《海山仙馆丛书》有重刻本，上中二卷别题《火攻挈要》。一九三三年五月三十一日《我存杂志》有徐景贤提要。并参看《通报》一九二八年刊一九二页伯希和撰文。

五〇 费玛诺^① 葡萄牙人

一五八九年生——一六一〇年入会——一六二二年至华。

费玛诺 (Emmanuel de Figueredo) 修士生于葡萄牙之拉莫戈 (Lamogo)，一六一八年偕金尼阁神甫至中国。一六二二年抵澳门，自一六二二迄一六五〇年间为看护士，兼理中国副教区俗家事务，凡二十八年。

① 钩按：原阙汉姓名，费玛诺是新译名。

一六五五年，尚在澳门学校为闾者，余无考。

五一 黎若望^① 葡萄牙人

183

一五八六年生——一六〇一 入会——一六二二年六月二十二日至华——一六四二年九月二十九日为在俗辅佐人——歿于安南南圻。

黎若望(Jean Melchior Ribeiro) 修士出生于葡萄牙之布拉冈萨(Bragança)教区,偕汤若望神甫至中国,任看护士若干时。若望居华不久,即于一六二四年被派往安南南圻;一六三〇年尚在其地。已而为日本区长伴侣十四年,又为澳门中国传教会会计员五年。一六五四年尚存,后复还南圻歿。

①钩案: 此人原缺汉姓名,北平图书馆藏钞本西名作 Belihior Ribeiro, 汉名作黎伯度,则原名应是 Pedro Ribeiro,殆与第二二传之黎宁石同名矣。疑误,今暂从费赖之著录之西名译作黎若望。

五二 嘉尔定^① 葡萄牙人

一五九五年生——一六一一年二月二十四日入会——一六二三年至华——一六五九年四月三十日歿于澳门。

嘉尔定(Antoine François Cardim)神甫一五九五

年出生于维亚纳城，即是久拟晋为真福之嘉尔定（Jean Cordim）神甫之弟也。一六一一年二月二十四日与其兄同入会。志愿传道远方，乃取印度宗徒之名而自名曰方济各。一六一八年力请获准，偕日本主教瓦伦斯（Valens）同舟东迈。在果阿完成其神学，授司铎，于一六二三年蒞澳门，拟赴日本。唯此传教区之道路遇绝，遂于一六二三年至一六二五年在广东省服务。

①钩案：原缺汉姓名，嘉尔定是新译名。

一六二六——一六二九年间在暹罗凡三年；旋重还澳门，于一六三一年赴安南北圻（东京），继又重赴暹罗；
184 曾欲入老挝而未能，遂又还澳门，为修院教习三年，任该校校长四年。一六三八年被选为代理人，代表日本教区而赴罗马。居欧数年，于一六一四年又重附东迈。舟行至非洲沿岸距莫桑鼻克二十哩之海中遭海险，旋赴果阿，转赴澳门。在途被荷兰海盗劫持约三年。终抵澳门，歿于一六五九年四月三十日。

传教广东省两年之详细情形未悉，而其余年与中国传教会无涉，兹略。其撰述涉及中国传教会者亦只一种。

（一）《日本殉教者赞词》，四开本，罗马，一六四六年。附图八十七。

（二）《驻日本帝国修士与世修殉教者名册》，四开本，罗马，一六四六年。

（三）《日本皇帝仇教，葡萄牙四使节及随员殉难》，四开本，罗马，一六四六年。

（四）《日本教省报告》，八开本，罗马，一六四五年。

是编曾经马绍特(de Machault)神甫转为法文同年在乔尔纳伊(Journai)城刊行。内容有关系海南岛、澳门、南圻、北圻、老挝等处传教会事,当时诸区皆隶日本教区也。

(五)《耶稣会在光荣的日本教省叙事诗》,四开本,钞本。补注云:是编不复为钞本,业于一八九四年在里斯本国家印刷局出版,八开本。

五三 罗历山^① 法兰西人

一五九一年三月十五日生——一六一二年四月十四日入会——一六二三年至华——一六二六年发愿——一六六〇年十一月五日歿于波斯之伊斯法罕。

罗历山(Alexandre de Rhodes)神甫不属中国传教会,仅在广东省传教数年,与嘉尔定神甫同。出生于阿维尼翁城,肄修后赴罗马肄业。原被派赴日本,曾于一六二三至一六二四年间在澳门等待机会一年有半,然无机可乘,视察员马托斯(Gobrial de Mattos)遣之赴安南南圻。居南圻十八月,于一六二二年重还澳门。次年赴安南北圻,留居至一六三〇年。是年被安南国王驱逐,重蒞澳门。一六四〇年赴菲律宾。一六四二年重被派至南圻。后还澳门两次,附舟还欧洲。

①钩案:原缺汉姓名,罗历山乃新译名。

中途被荷兰人虏而投诸巴达维亚狱中,已而获释,历

印度、小亚细亚而至罗马，旋归法国，参加建设外方传教会事。及聚集会士甚众，遂于一六五五年被派至波斯，建设新传教会。一六六〇年歿于伊斯法罕城。

当其在—六三〇年至—六四〇年居留中国时，曾竭力劝化华人入教。其记有云：“在华传教诚不如南圻之易。考其原因，一因我语言未熟，虽解华语而不善华言。次因华人傲慢，自信为世界最优之人。虽然经我劝化之人已逾千矣。”（罗历山《旅行与传教》，三七页以下。）

其遗著甚多，然皆间接关系中国，兹仅著录数编于后：

（一）《安南文葡萄牙文辞典》，四开本，罗马，一六五一年。

（二）《慕道者八日要理》，准备受洗者八日应学的教会基本道理，四开本，罗马，一六五一年。是编每页双行，一行拉丁文，一行安南北圻文。有暹罗文译本。

186 （三）《安南东京传道成绩报告》，四开本，罗马，一六五〇年，有拉丁文译本及法文译本。

（四）《耶稣会士五人在日本受难记》，八开本，巴黎，一六五三年。

（五）《交趾支那传道人安德肋光荣殉难》，巴黎，一六五三年。安德肋是在此新开教会第一个为耶稣基督流血牺牲者。

（六）《旅行与传教》，巴黎，四开本，一六五三年；八开本，一八五四年；书分为三编。记罗历山神甫在中国和东方诸国游历传道及从波斯、亚美尼亚返欧事。

(七)《罗历山神甫游历传道摘要》，这是前书之节本。

(八)《日本教区耶稣会士一六四九年传教诸国纪略》，八开本，巴黎，一六五三年。

(九)《波斯国耶稣会士传教纪录》，马绍特神甫刊行，八开本，巴黎，一六五九年。

(十)《安南和安南东京语简介》，四开本，罗马，一六五一年。

(十一)《一六四一年致耶稣会长书》，嘉尔定(《日本教省报告》，一〇六页)曾节录此书。

五四 伏若望 葡萄牙人

一五九〇年生^①——一六〇八年入会——一六二四年至华——一九二八年四月二十三日发愿——一六三八年七月十一日歿于杭州。

伏若望(Jean Froes)神甫字定源，葡萄牙之波塔累格里人。一六一八年同金尼阁神甫东迈，居果阿二年，任誓愿修院教士。一六二四年得遇机缘，偕罗雅谷神甫入中国。初派至杭州肄习语言。似几在杭州终其生，惟屡赴江南、浙江两省诸城镇传教而已。任道长九年，修院教习二年。

①薛孔昭《名录》作一五八八年，此与巴尔托利《中国耶稣会史》著录之年同。兹从一六二六年名录作一五九〇年。据索默尔沃热尔《书目》(卷三，一〇二九

栏),其出生年为一五八一年,入华为一五九八年。

若望品行纯洁,善演讲,守苦行,待人温和,虽教外人亦甚敬之。其同伴郭居静神甫(第十五传)得疾,似垂危,若望为之预备棺木。孰知居静疾渐愈,而若望病不起,歿于一六三八年七月十一日,即以其为居静预备之棺木殓之。

教众哭临八日;送葬者二百人,葬方井南;出城时,守城之人虽不在教亦跪拜致敬。(巴尔托利《中国耶稣会史》,第一一一七页。)

若望熟练中国语文,遗著有三,皆刻于杭州:

(一)《助善终经》,土山湾曾重刻数版,(一九一七年书目四六四号)。

(二)《五伤经礼规程》。

(三)《苦难祷文》。

(四)索特威尔引有《帮助临死教友》;汉文标题作《善终助功》,是编与巴黎国家图书馆中国图书新藏编二七六八号之一卷本疑为同本,亦即本传第一号书也。(考狄《中国的中-欧印刷术》,第二页。)

五五 罗雅谷^① 意大利人

一五九三年生^②,——一六一四年入会^③——
一六二四年至华——一六二八年八月二十八日
发愿——一六三八年四月二十六日歿于北京。

罗雅谷(Jacques Rho)神甫字味韶,出生于米兰,旧贵族之裔也。其父以考据及文学有名于当时。雅谷幼年资钝,习文法,成绩不佳,研究哲学神学,亦同常人,惟对于数学敏慧异常。毕业修院后,在故乡教授数学,迥异余子。(巴尔托利《中国耶稣会史》,一〇九五)其兄若望曾被派往中国传教,未能与金尼阁神甫偕行,雅谷自请代往。一六一七年经枢机员伯拉尔明(Bellarmin)授司铎,已而在果阿完成其神学,遂于一六二二年抵澳门,待机进入内地。

①雅谷亦作雅各,然据旧抄本、北平图书馆藏钞本、明史卷三二六,并作雅谷,今从之。

②薛孔昭《名录》作一五九〇年。

③薛孔昭《名录》作一六一六年。

当是时也,有荷兰军舰十七艘,辅以英吉利军舰四艘,进围澳门。荷兰海军统帅赖益崇(Kormlis Van Reyerszoon)率部众八百人登陆。时葡萄牙人居留地形势坚固,三面傍海,有堡垒,置炮以守,一面与大陆接近,进攻之地,此方最为利便。所以荷兰统帅决定由此进兵。

六月二十五日登陆者八、九百人,携毛瑟枪及炮二门,进向澳门城,破其前哨。攻者自以胜券可操,不守行列,奔向堡垒。会雅谷在学校附近山岗上发现旧置之炮四门,待敌近,发炮击之,荷兰人大骇。同时城中集葡萄牙士卒、印度人、非洲人,将率其兵,主率其奴,分数队出城奋击。荷兰人弃其兵械,仓促奔还舟中。(马尔克《澳门大事报导》,五七页)死者六百,余众三百,未及登舟。有

大舰二号炮击城堡，而葡萄牙人用手榴弹及其火器还击，沉敌舟。先是华人不许葡萄牙人筑城，自是以后始许葡萄牙人筑城以守。（嘉尔定《日本教省报告》，七页。巴尔托利《中国耶稣会史》，七四四。）

雅谷待机二年，于一六二四偕高一志神甫同赴山西传教，并从一志学习语言。如是五、六年，虽有疾，终未懈怠。雅谷曾云：“我腿足不良于行（缘其患风湿疾），尚无碍也。幸天主尚为我保存两手与舌，赖以劝化偶像教徒；赖有此手能作书，传布教义于中国全国，我足不能履之地。”（同上引巴尔托利书，一一〇〇页以下。）

一六三〇年与汤若望神甫同被召至京师修历，一切艰难及成功，雅谷皆与若望共之。彼等为此所受之长期辛苦，颇难一一笔之于书。日夜观察恒星之距离，测算其方位。不但刊刻书籍，制造仪器，进呈皇帝，而且须对于诸大臣之毁谤予以答辨也。二神甫虽经此种种困难，竟能于一六三四年将所撰天文、历算之书一百三十七卷进呈御览。崇祯皇帝甚悦，虽有士夫谗谏，不为之动，下诏。自是以后历书改用西洋算法。（见本书《汤若望传》。同上引巴尔托利书，一〇九五页。）

190 雅谷未能久享此光荣成绩，于一六三八年四月二十六日徒得疾死。其得疾之促，邱良厚修士（第三三传）仅及以受难十字架付雅谷吻之。

雅谷卒后，教中之中官宫女官吏等欲盛其葬仪，龙华民神甫始而拒之，终因彼等力请，许之。（同上引巴尔托利书，一一〇一页），葬于滕公栅栏利玛窦神甫之侧。汤

若望神甫云：“其为人也，高尚慈祥，视祸难艰苦如无物。”
（《在华耶稣会传教区的创建和发展史》，二七页。）

其遗著甚多，皆属宗教历算类：

（一）《哀矜行论》三卷，一六三三年北京刻本。一八七三年及一八七七年土山湾重刻本。（一九一七年书目第一七四号。）

（二）《斋克》二卷。

（三）《圣记百言》一卷，一六三二年北京刻本。土山湾重刻数次，（一九一七年书目第四〇〇号）。

（四）《天主经解》一卷，一六二八年绛州刻本。

（五）《圣母经解》一卷，一六二八年绛州刻本。

（六）《求说》一卷，似在一六二九年初刻于绛州，后有一六七六年北京刻本。

（七）《周岁警言》一卷。

（八）《圣母行实序》，参看第二十六《高一志传》。第二号书。

（九）《测重全义》十卷。伟烈云：首先以纳白尔（Napier）之算法^①输入中国者，盖为罗雅谷神甫。一七四四年戴震撰《策算》，即本是编。（参看威礼《中国文献注释》九八页。）

①钩案：纳白尔（Napier 或 Neper）男爵，苏格兰人，乃发明对数表者。

（十）《五纬表》十一卷，参看第四九《汤若望传》第二 191 七号书，第四六《邓玉函传》第一号书。

（十一）《五纬历指》九卷。

(十二)《月离历指》四卷。

(十三)《月离表》四卷,参看第四九《汤若望传》第二七号书,第四六《邓玉函传》第一号书。

(十四)《日躔历指》一卷。

(十五)《日躔表》二卷,参看第四九《汤若望传》第二七号书,第四六《邓玉函传》第一号书。

(十六)《筹算》一卷。

(十七)《黄赤正球》。

(十八)《历引》一卷。

(十九)《比例规律》一卷,一六三〇年北京刻本。

(二十)《日躔考昼夜刻分》。

(二十一)《人身图说》二卷,参看第四六《邓玉函传》第二号书①。

①钩案:原误列《天文历法国师》,应删,而雅谷有《人身图说》未经本书著录,特补志于此。

(二十二)书札二件,一写于海上,言航行事,一作于果阿,述印度事,八开本,米兰,一六二〇年。

(二十三)《耶稣会士罗雅谷神甫书信抄本(一六二一年二月二十七日寄自东印度果阿)》,四开本,奥格斯堡,一六二二年。

(二十四)《三位可敬耶稣会神甫论印度种族》,四开本,奥格斯堡,一六二〇年,一——二八页。是集载有雅谷信札五件,皆作于一六一八年。

(二十五)据毕嘉神甫(第一一八传)一手写本,雅谷在一六二三年撰有一书,题作:《证实利玛窦的不同见解与在华耶

稣会士的行径》(索默尔沃热尔《书目》，卷六，一七一—一栏。)

五六 卢安德 立陶宛人

一五九四年生^①——一六一八年五月三十一日入会——一六二六年至华——一六三二年九月五日歿于福州^②。

卢安德(André Rudomina)神甫字磐石，立陶宛之贵家子也。年二十四，既卒业，与一贵家幼女订婚，婚之日忽得感应，不别家人宾客而至威尔纳(Wilna)城，请入修院练习。一六一八年五月三十一日入院，开始以德行见称于时。其仆从某随入院。安德于厨下见之，而语之曰：“亲爱教友，已往在俗之事，愿彼此互相忘，各执其事可也。汝在此可以指挥我，而我应服从。盖我既因爱天主而开始，决终身如是也。”(阿勒甘布《作家目录》五六页。)

①薛孔昭《名录》作一五九六年。

②据比札诺斯基(Biezanowski)神甫撰《蒙辛斯基(Mensinski)传》所引蒙辛斯基之一信札，谓安德歿于一六三一年。

安德在威尔纳时，人以天使别号奉之。习神学毕，赴罗马，勿感梦与圣方济各同，遂请派往中国传教。一六二四年附舟至果阿，以无比之热忱看护病人及俘虏，并举

行圣礼。一六二六年至澳门。

初赴福州，为艾儒略神甫(第三九传)之伴侣。旋得急性肺疾，澳门会团长召之赴澳门学校养疾，然安德不从，宁愿殉其职。

由是静以待死。曾预告儒略，谓其死时儒略必不在侧，当以灵感应之。

一六三二年九月五日，儒略距福州一日程，夜半后二时，忽睹光亮，迨至忆及安德预言时，光始灭。安德适于是日是时歿于林本笃神甫(第六八传)怀抱中。葬福州北门外一小山下，教众为之建立一美丽礼拜堂，并以白石建立碑文云。(巴尔托利《中国耶稣会史》，九七六页以下。)

遗著列下：

(一) 安德在赴华前，曾用波兰文撰有《在华耶稣会士卢安德神甫已往受统治者抬举，如今因有声望遭受威尔嫩(Wilnensi)耶稣会士的磨难》，四开本，威尔纳，一七三八年。将下一著作译为波兰文：《统治者的更替、消亡，他们因若望·柯基(Joan Chokier)获永生》，四开本，克拉科威，一六五二年。(索默尔沃热尔《书目》，卷七，二八七栏以下。)

(二) 《口铎日钞》八卷，一六三〇年辑于福州；一六七二年及一九二二年土山湾有重刻本，(一九一七年书目补目第一四四号)。是编乃艾儒略、卢安德二神甫语录，所言不仅发挥教义，兼及科学。前有李九标、张赓、林一僊序。——钧案今所见上海慈母堂重刻本，凡八卷，前有

总目。五卷以后皆注有嗣刻二字，则随录随刻，初刻本或仅四卷。所记儒略、安德语，始崇祯三年（一六三〇）正月，终崇祯十三年（一六四〇）五月。九标小引后题崇祯四年（一六三一），则全书之汇集当在一六四〇年以后。

（三）余在一汉文手钞本中见有二图亦出安德手：（甲）《十八幅心图》，土山湾常有刻本。

（四）（乙）《十幅勤怠图》。

五七 庞类思 葡萄牙人

一六〇七年生——一六二七年入会——一六三〇年六月十七日歿于杭州。

庞类思(Louis Gonzalez)修士字克己，生于澳门，父 194 葡萄牙人，母澳门人。童年即有恶恶怜贫之心。每见贫人辄施舍，严冬时至脱己衣而衣之。善演讲，守苦行，持己虽严，待人则慈善温和。

在学校初级肄业完毕，即请入会，时在一六二七年也。初派至杭州，从伏若望神甫(第五四传)习修士业，并肄习语言。颇善劝导志愿受洗人及新入教人，甚谦卑，虽贱事亦不惜为之。后得暴疾死。澳门人皆云：“澳门人脱有加圣谥者，幼年修士庞类思当为第一人。”（巴尔托利《中国耶稣会史》，九七六页以下。）

195

五八 费藏裕^① 葡萄牙人

一六〇四年生——一六二七年入会——一六二七年入内地——一六四八年为在俗辅佐人——歿于一六六三年前。

费藏裕(François Ferreira) 修士字尔归,生于澳门,父葡萄牙人,母华人,几以讲说教义人终其身。一六三〇年至一六三四年间与傅汎际神甫(第四五传)同在西安府。一六四二年开封之围,汎际遣之往援费乐德神甫(第四七传)。一六四八年至一六五〇年间与卫匡国神甫(第九〇传)同在杭州。一六六三年名录无其名^②。

①原缺汉姓名,据北平图书馆藏钞本补。

②据布鲁克尔(《传教区记实》)说,歿于一六五二年。

五九 徐复元 中国人

一六〇〇年生——一六二七年入会——一六二七年入内地——一六四〇年七月二十日歿于北京。

徐复元(Christophe Siu)修士字善长。据北京墓碑,知其人生于广州,一六二七年入修院,似与庞类思费藏裕同时在杭州习修士业。

〔附〕 戈泰思^① 西班牙人

一五七八年生——一五九五年入会——一六二九年歿于马尼刺。

戈泰思(Adrien de Las Cortes)神甫阿腊贡地方人，传教菲律宾之米沙鄢群岛。一六二七年被派赴中国，在中国海岸遭海难。海岸居民夺其舟，尽掠泰思及其同伴之衣物。泰思流离诸省，百物皆缺，常受人侮击，待遇如同盗贼。越两年歿于马尼刺。

泰思生于一五七八年，于一五九五年入会。

①钩案：原缺汉名，戈泰思是新译名。

泰思曾将经历及一切见闻笔之于书，书题曰《中国之面貌》(大英博物馆藏手稿；参看索默尔沃热尔《书目》，卷二，一四八七栏以下。)

六〇 班安德^① 葡萄牙人

一五六九年生——一五九四年一月十四日入会——一六二八年至华——一六三五年四月四日歿于澳门。

班安德(André Palmeiro)神甫，里斯本人，曾在科英布拉学校教授古典学六年，哲学四年，神学十二年，颇有声于时。继为布拉加学校校长，后于一六一七年赴印 196

度。历任马拉巴尔中国日本诸教区之视察员；又任果阿马拉巴尔教区区长八年。

①钩案：原缺汉译名，班安德是新译名。

一六二七年为中国视察员时，谋入中国内地，曾在广州舟中藏伏二月。既而得良机，遂赴嘉定，蒞前任视察员骆入禄^①（第二四传）召集之会议。此会乃因讨论中国礼仪、上帝或天主名称等问题而召集。与会者传教师十一人，徐光启、杨廷筠及进士 Zénou, Ignace（此二人中国姓名不详。——校者注）等皆列席^②。安德以为欲判断中国之事物，须亲历而目击之，遂决赴北京。其行程屡遭险阻。已而命高一志神甫代往视察较远之山西、陕西、河南诸省，其余诸省则亲往巡历。一六二九年十月还澳门，作报告书致耶稣会会长。

①钩案：北平图书馆藏钞本作骆尺禄。

②一六二九年时安德命将此事重加讨论。一六三三年又在江西开会，曾德昭神甫曾蒞会（《论中国礼仪》，致一名人书信，二四九页。）

其报告书始言诸传教师之合衷共济：“我曾见彼等心中毫无芥蒂，感情亦甚融洽，相处如同挚友。此传道会中固有意大利、葡萄牙、德意志、佛刺明、波兰等国籍之别，然诸人从未存有爱本国逾于他国之心。至若对于意见纷歧久议未决之问题，虽意有不合，然在寻常交际中，从未表现有之。此诚不可思议之事也。”（巴尔托利《中国耶稣会史》八九八页）安德旋主张必须常与官吏相过从，赞成三十年来习用之士夫风俗。（同上引巴尔托利书）

一六三一年重返安南南圻，未行时命在海南岛中重立教

会，次年教会成立。最后复还澳门而歿于一六三五年。
 (嘉尔定《日本教省报告》，一二一页)临危时有一神甫问
 其是否感有痛苦，安德答曰：“只有一苦，即不能代耶稣
 基督死于火中。”(吉勒尔梅《耶稣会圣徒节日历》，葡萄牙 197
 文版，卷一，三二一。)

六一 郭玛诺^① 马来人

一六〇二年生——一六二八年入会——一六二
 八年入内地——一六四四年歿于江西。

郭玛诺(Emmanuel Gomez)修士生于澳门，父巽他
 岛马来人，母华人。终其身为讲说教义人。一六三〇年
 肄修毕，初至福州，继至绛州，与高一志(第二六传)、方德
 望(第六五传)二神甫相随。一六三四年陕西大饥，玛诺
 收养孤儿甚众，并任诊治看护之责，因之染疾，几濒于死。

①钩案原缺汉姓名，郭玛诺是新译名。

嗣后被派至南昌辅助谢贵禄(第六六传)梅高(第八
 六传)二神甫传教。一六四四年鞑靼破南昌，玛诺与二神
 甫逃难至邻镇，遇匪，皆被害。(卫匡国《鞑靼战纪》，四三
 三页。)

六二 颜尔定 法兰西人

一六二九年至华——一六二九年歿于南昌。

颜尔定(Martin Burgent)神甫字务本,生于杜埃,传
198 教墨西哥十四年,颇著劳绩。冀赴日本传教,会中许之。
至马尼刺,见日本道路遏绝,乃取道澳门,亦不能往。日
本既未能去,遂被派至南昌。甫抵南昌未久死,时在一六
二九年也。其遗骸葬南京聚宝门雨花台。

吉肯斯(《历史概要》,一八八〇年,一九六页。)神甫
著录尔定入华之年在—六二三年,歿年在—六六〇年,而
谓其名曰Barthélemy。此说与柏应理和巴尔托利二神甫
之记载不符。而且—六二三年至—六六〇年间之名录毫
无踪迹可寻也。弗兰科神甫在—六二三年下固著录有一
比国神甫名Bathélemy Bergencio,然未言其至中国也。
吉肯斯—五八九年生于布鲁日,—六一六年赴墨西哥,—
六二九年至中国,—六三二年歿。年代虽有未合,此名或
为尔定之真姓名,盖得由Bruges—转为Brugensis,再
转为Burgensis,又转为Burgent也。

六三 瞿洗满 葡萄牙人

—五九〇年生———六〇六年一月十三日入会

——一六二九年至华——一六二六年十二月
二日发愿——一六六〇年九月歿于澳门。

瞿洗满(Simon de Cunha)^①神甫字弗溢，科英布拉旧家贵族子，弃俗入会，既而被派至中国。当其偕金尼阁神甫东迈前，曾晋司铎，为艺术师，任教习五年。一六二四年抵澳门，传教澳门城中。一六二九年入内地，辅助艾儒略神甫，先至建宁，嗣至福州。一六三五年福州经其授洗者五百六十人。

①原作瞿西满，今从北平图书馆藏钞本改。

洗满曾劝化浦城县长官及其全家人教，此长官导之游Tsen-ngan(疑即崇安)附近之某名山。洗满乘其山居民众迎长官之际，对众演讲教理。忽有一僧人呼曰：“此正教也，四十年前先师曾预言其至。”僧言遂言其幼时习规律于某老僧所，老僧病歿前曾言曰：“我辈所奉之教非真教，四十年后有人传其教来，今计其时恰四十年。”由是人教者甚众^①。

①费赖之神甫原注谓出上引巴尔托利书，今检此书无此。

鞞鞞既据北京，旋下诸省；福建亦降。然有一僧人不忘故主，拥明宗室鲁王为主。鞞鞞守建宁之兵甚少，明兵遂取建宁城，洗满与穆尼阁(第九一传)皆被俘。明兵视其为鞞鞞间谍，拟将彼等处死。

绑赴刑场，将授首，忽有教外二匠人呼曰：“此二人非鞞鞞，乃博学西士。”刑者释之还教堂。长官付以文状，保其以后安居无事。(杜宁-茨博特《中国历史》，一六四

七年部分。参看卫匡国《鞑靼战纪》，四二八页。）

鞑靼兵大至，围城一月，陷之，大肆焚掠，教堂毁于火，然二神甫得脱走。一六五二年洗满授洗者一百四十
200 二人。一六五六年总督助其在延平建筑新教堂一所及天神堂一所。（上引卫匡国书。上引杜宁-茨博特书，一六三二年部分）

嗣受命为副区长，数月后汤玛诺（第三一传）神甫歿，继之为中国日本视察员。一六五九年赴北京，同汤若望神甫而请于顺治帝，凡神甫抵澳门者许入内地，通历算者得资送赴京。洗满还澳门，未几歿，时在一六六〇年也。（汤若望《耶稣会传教区的创建和发展史》，二九三页。）

其遗著有：

（一）《经要真指》一卷

（二）国王约翰四世即位时，洗满在澳门发表之演说。

六四 聂伯多 意大利人

一五九四年生——一六二二年入会——一六三〇年十月至华——一六三七年五月十日发三愿——一六七五年歿于南昌。

聂伯多（Pierre Cunevari）神甫字石宗^①。热那亚人。入会时业已研究教会法及民法。自以宜赴远方传道，一六二九年附舟东迈，次年抵华。始至杭州肄习语言，继

赴开封。曾在浙江省内传教，并在兴化建筑教堂一所。一六三五年福建教务发达，乃入闽辅助艾儒略神甫，担任泉州、延平两府教务。

①北平图书馆藏钞本作字举家。

伯多用洗礼及圣水治疾，成效昭著，信徒日增。一六二四²⁰¹一年受洗者二百三十人。有某官恶葡萄牙人，迁怒伯多，命吏役殴之并驱其出境。信教之黑人不愿为奴而从澳门逃出者，尽匿海盗尼古拉舟中，闻伯多受窘，欲为复仇，伯多止之。已而伯多还泉州，夜中迷途，行于荆棘泥泞中，力竭仆于道。翌晨有人见之舁之归。（上引杜宁-茨博特书，一六四一年部分。）

明末清初之乱，郑成功所部之黑人，皆散居海边岩石中，伯多避难于其处。事平后还泉州，（上引杜宁-茨博特书，一六四八年部分。）一六五二年成功进围泉州城，残破附近诸地时，伯多尚在此城也。清兵在海上常为成功所败，遂尽削沿海一带城镇村庄以防之。因是教区全毁，教民尽他适。（鲁日满《鞑靼中国史》，七〇页。）伯多既失教众，乃于一六五二年赴江西南昌。

伯多年近七十，热忱未减，仍传教如故，官吏咸尊敬之。一六六五年，禁教之事起，书物被查封，伯多下狱。已而与殷铎泽（第一二〇传）神甫同被解入京。在途二月，备受解者虐待。一六六五年六月二十八日抵京。（聂仲迁《中国历史》，二二〇页以下。）

已而与其他诸教师同被解赴广州，然于一六七一年重回南昌。一六七五年歿，年八十一岁，葬南昌城外。

202 遗著有关于殉教之汉文著作一编，书题未详。

六五 方德望 法兰西人

一五九八年生——一六一八年入会——一六三〇年十月至华——一六四〇年三月二十九日发愿——一六五九年五月二十二日歿于汉中。

方德望 (Etienne Faber, Le Fèvre^①) 神甫字玉清，阿维尼翁附近莫利埃雷 (Maurieres) 村之寒家子也。幼年就一微业，博工资以供耶稣学校学费。其发终身守鰥之愿，即在斯时。服粗布衣，深夜在圣堂灯下习课程，写课题。同学皆钦其为人。(吉勒尔梅《耶稣会圣徒节日历》法文版，五月二十二日)

①同时人书其名作 Feber, 至若 Le Febre 乃近日流行之写法。

毕业后入阿维尼翁修院。教授拉丁文三年。请赴日本传教，遂于一六二七年陆行至里斯本^①，而于一六二九年偕殉教于日本之著名神甫魏埃拉 (Lebestien Vieira) 同舟东迈。及抵澳门，诸道长改派之至山西，佐理高一志神甫教务。一六三四年大饥时，于一志共赈灾民。一志死而继其位。

①其行程经其同伴列茹奈浩姆 (Dominique Lejennehomme) 神甫记录，今载卡拉云 (Carayon)《未刊布的文件》，第4号。

约在一六三五年顷赴陕西,在洋县、城固县、汉中府等地开教,盖应韩姓官之召也^①。韩姓官受任为北方诸要塞长官时,约德望同往,德望仅许偕行至西安府。既抵西安重兴教区,建筑新堂,入教者甚众^②。

①钩案:《天主教传行中国考》卷四云:韩姓官圣名斯德望(Etienne),疑是段姓之误。

②钩案:以下所言皆属德望灵迹,如驱蝗、伏虎等事,无关考证,概从删削。

一六四一年德望以陕西教务委之梅高(第八六传)和 205
郭纳爵(第七五传)二神甫,而赴北京,依汤若望神甫。一六四四年鞑靼入北京,此二神甫并受优礼。德望似居北京不久即行,盖在一六四七年时,吾人知其同郭纳爵神甫 206
同在陕西招待利类思(第八〇传)、安文思(第八八传)二神甫。盖鞑靼自四川携类思、文思还也。(杜宁-茨博特《中国历史》,一六四七年部分。)

德望有时居西安,有时居汉中,纳爵则传教其他城市。此一六四七年虽经兵燹,汉人满人受洗者犹有四百六十人。一六五二年受洗者有二千六百九十九人。(同上书,一六四八年部分,一六五二年部分。)

德望一六五九年五月二十二日歿,葬小寨子,德望开教之地也。先是汉水流经其墓不远,相距不过十公尺,忽改道,小寨子、丰家营、余家营、王浦子等处皆免陆沉, 207
未始非此墓之一灵迹也。其后不久教徒筑方墙以围之。

方德望神甫晋真福案已在罗马提出。一九〇三年陝西南部主教帕赛利米(Passerimi)曾亲蒞其地调查遗物。

请愿人罗以礼(Rossi)神甫曾搜辑文件成编，题曰《方德望神甫案》，并曾用意大利文撰有《方德望神甫传》，一九〇九年土山湾本。

艾葆德(Gain)神甫曾取怀道所撰传记转为法文，汉文译本题曰《方德望神甫小传》，一九二六年土山湾刊行。（一九一七年书目补目第六六号。）

德望遗著列下：

（一）柏应理（第一一四传）名录第三十六号著录有 *Tractatus de Viae maritimae ex Europa in Sinas Laboubus et Periculis*，此书似即汉文本《杜奥定先生渡海苦迹纪》，杜奥定（第七二传）本书有传。考狄（《中国的中-欧印刷术》）误以此书为二书，实一本也。

（二）一六四七年德望曾将《环球志大观》重写一本，篇幅较大，附以满文说明。盖为顺治帝之弟（钧案殆指肃王豪格）而作。帝弟取蜀还，欲观此本也。利类思、安文思二神甫之护救，颇赖帝弟之力。（上引杜宁-茨博特书，一六四七部分。）

德望居北京时曾学习满文。

六六 谢贵禄 意大利人

一五八八年生——一六一八年入会——一六三〇年十月至华——一六四〇年六月二十九日发愿——一六四四年歿于江西。

谢贵禄(Tranquille Grassaetti)神甫字天爵，马德奈(Ma-

dene)人。赴华前曾教授文法三年。一六三〇年抵华,似居江西终其身。以南昌为主要驻所,而从南昌赴各地传教。鞑靼南侵,赖郭玛诺(第六一传)修士乞食以给,得全活。一六四四年鞑靼破南昌,贵禄同梅高(第八六传)神甫、郭玛诺修士避难至一邻镇,遇匪,皆被害。一六四七年年报谓其获免,一六四八年名录谓其在南昌,但他书皆无著录。兹从卫匡国(第九〇传)神甫说,断其已被难。(杜宁-茨博特《中国历史》,一六四五年部分。)书两说并采,无所取舍。其墓在南昌。

六七 卢纳爵 葡萄牙人

一六〇三年生——一六三〇年至华^①——歿于印度。

卢纳爵(Ignace Lobo)神甫字亮贵,科英布拉人。赴华前曾教授文法四年。弗兰科神甫在赴印度诸传教师之名录中未载其名,然一六三〇年名录谓其在福州学习语言。有一说谓其曾经出会,而未详其理由,然为时甚暂,盖一六三六年名录中载其居留中国三年,一六三四年在南昌,一六三五年还福建,与阳玛诺(第三一传)神甫共管闽北教务也。(巴尔托利《中国耶稣会史》,一〇六六页。)

①薛孔昭《名录》作一六三六年;汉文钞本作一六三七年。

已而被派至上海^①，复由上海赴广州，又从广州赴印度歿。

①高龙鞏《江南传教史》，卷一，五九页谓其时在一六三八年前后。

六八 林本笃 葡萄牙人

一六〇〇年生——一六一五年入会——一六三〇年十月至华——一六四一年十二月二日发愿——一六五二年溺于海南岛附近^①。

209 林本笃(Benoît de Mattos)神甫字存元，葡萄牙威迪吉拉城人。早赴印度，然发足之时不详，似居印度数月，历安南南圻，而后在一六三〇年入华。根据是年名录，本笃业已谙悉华语。在一六三〇年至一六三五年间居福建，卢安德(第五六传)神甫病终时，本笃在侧。一六三五年马多禄(第七三传)神甫被迫离海南后，诸道长属意本笃，命往代之。

①薛孔昭《名录》及汉文钞本并作一六五一年。

本笃德行过人，经验丰富，熟习中国语言文字，足以发展此岛教务而有余。既抵琼州，在府城中赁一住宅，其友告以此宅为凶宅，不可居，本笃不顾也。(嘉尔定《日本教省报告》，一二二页以下。)

第一年入教受洗者三百三十五人。次年即一六三六年，林本笃分其传教区为四区：曰琼州，曰Jing-hoang，

曰Pankao,曰 Long-mo。每区建一教堂,本笃在Pankao时,日夜勤劳,结果全镇人皆入教。一六三七年受洗者三百三十人,僧人及若干士人嫉之,谮之于琼州长官。长官曰:彼从远地渡海而来,冒险阻,衣华服,而为我辈求真福;则其教乃真教,吾辈应信从之,而留之居本岛也。(嘉尔定《日本教省报告》,一四三页。)

已而教外人愈愤,本笃从长官及教中绅耆言,于一六四〇年还澳门避祸。行时以教务委托一讲授教义人,其教名马尔赛尔(Marcel),福州人,父教名马尔赛尔(Marcel),亦教徒也。此人二十三岁时受洗,曾在圣母像前发愿,终身鳏居。每星期五誓守斋戒,仅在星期日及瞻礼日食肉,后守戒不违。(上引嘉尔定书,一五〇页。)本笃赴南海时请与偕往。其后为僧人所毒害。

一六四一年罗历山神甫还南圻,携本笃往入谒国王于新化。国王优礼之,许其往游各省。时经本笃授洗者五百七十二人。越三年被逐重返澳门,已而复莅海南岛,后终于此岛。一六五六年后任神甫抵岛时,检受洗者表册,见列名者二千二百五十三人。〔马利尼《日本与安南东京耶稣会神甫传教区》,四三六页。〕

鞑靼取广东时,总督率残卒乘舟逃海南。同时郑成功部将某进取琼州,未能下,遂陷儋州。本笃在福建时曾识其人;乃往与之议和,俾本岛免兵燹害。其人视本笃为间谍,不愿聆其言,而投之狱,禁锢三月,命纳银二千两以赎。已而见总督屡进攻,遂投本笃于海,时一六五二年四月也^①。总督获其遗骸,葬之琼州城外。(杜宁-茨博

特《中国历史》，一六五二年部分)数月后鞅鞅取海南。

①据巴尔托利说时在一六五一年。

本笃撰有《卢安德传》(第五六传)。安德乃本笃传教福建时之伴侣也。此传有波兰文译本(四开本，威尔纳一六五二年)。拉丁文译本见毕札诺夫斯基(Biezenowski)神甫所撰《梅辛斯基传》中。参看索默尔沃热尔《书目》，卷一，一四七〇栏、一四七一栏；卷四，一二七八栏；卷七，一八八栏。

六九 努纳爵^① 葡萄牙人

一六三〇年十月至华。

努纳爵(Ignace Nuñez)神甫吾人仅在罗马档库中所藏之一名录中识其名，知其于一六三〇年在江西建昌府学习中国语言。据弗兰科神甫说，纳爵于一六二九年在里斯本同方德望(第六五传)、金弥格(第七〇传)、聂伯多(第六四传)三神甫同舟东迈。

①钩案：原缺汉姓名，努纳爵是新译名。

七〇 金弥格 法兰西人

一六〇二年生——一六一七年入会——一六三〇年十月至华——一六四〇年十月九日发愿——一六六七年九月三十日歿于广州。

金弥格(Michel Trigault)神甫字端表，杜埃人。金尼阁

【第三二传】神甫之侄也，感其诸父传教中国成绩，请继 212 往。一六二九年在里斯本登舟东迈。一六三〇年至陕西西安肄习语言，已而赴山西传教三十五年。当时山西有教堂三十余所，而经弥格建设者二十有二。山西有名士韩霖(Jhomas) 韩云(Vital) 韩霞(Pierre) 兄弟三人皆良教友，传教时颇得其助。

传教区域长百哩(lieues) 宽九十哩，弥格习居绛州，指挥所管全区教务。赖其力，兼赖高一志、方德望、神甫力，所有教堂皆附设有适当之住所，以备传教士及其一切随从人员居留之用。(毕嘉《中国天主教之发展》，第一编，第六章。)

一六三七年或一六三八年，弥格所管教区中受洗者五百六十人；一六五二年有四百零七人。弥格得太原中学优长的老人之助，得开教于太原。其人之侄入教，因得阅览教中书籍，遂亦入教。为受洗故，乃遣一妾，偕其妻同赴距离十日程之绛州。已而约弥格至，十二日间受洗者不下二百人。(聂仲迁《中国天主教》，二〇〇页。)

明末清初之乱，官吏中有仇教者毁绛州教堂。顺治帝偿其失，以明宗王之广大宫室赐之，昔日金尼阁、方雅谷、高一志诸神甫旧刻书刻即贮藏于其中。(上引聂仲迁书，一九九页。上引毕嘉书。)一六六五年禁教案起，弥格与恩理格(第一二六传)神甫同被捕，押赴省垣解复由省垣解赴北京。有人欲毁书版，绛州长官不允，赖得保存。(上引聂仲迁书，一九九页。)

213 二神甫抵北京，即被投于狱。狱甚破陋，两面有墙，两面即席与栏。狱所甚小，人处其中不能立，亦不能卧；尤可嫌恶者，并有他囚招致之荡妇淫女往来于前。在狱二十二日，被传讯数次。已而改押一更陋之狱中，其先居僧寺，最后居东堂，一六六六年，由东堂押赴广州。（同上，二〇六页以下。）

次年九月三十日弥格疾终于广州。葬于城外河南（见《道学家传》钞本。）

（一）弥格撰有宗徒祷文，旧误提金尼阁撰，参看第三二传、第二十号书。

（二）一六三九年四月三十日弥格发往中国之信札，一六四四年列日刊本。

七 · 陆若汉¹⁾ 葡萄牙人

214 一五六一年生——一五八〇年十二月入会——
一六一四年至华——一六〇一年发愿——一六
三四年三月二十日前歿于澳门。

舒尔哈默尔(Schurhammer)神甫曾明言其考订此神甫之传记止于一六二七年，然其后诸年事迹未详。

1) 钩案：陆若汉传完全经裴化行神甫改订，译文采改订文。费赖之神甫原文有一段关系公沙的西劳(Gonzálves Tex eida-Correa)事者，特为译载于附注中。

案前一神甫与费赖之神甫尚有不少学者(如索默尔

沃热尔、雷慕沙、巴热(Bagès)皆混两 Jean Roduguez (约翰·罗杜格兹)神甫为一人。殊未知 Jean Roduguez Giram (约翰·罗杜格兹·吉拉姆)神甫虽在一六一四至一六二七年间居留澳门,然不隶中国传教会。

别一神甫名 Jean Rodriguez Tçuzzu,乃日本传教会史上著名之人,曾偕葡萄牙军人公沙的西劳率澳门兵北上,汉名陆若汉者即此人也。

若汉以一五六一年生于葡萄牙拉梅古(Lamego)教区之塞南赛勒(Sernancelle),年十六岁即在日本为信教藩主 Don Francisco du Bungo 所雇用,藩主用兵时辄从行。一五八〇年入耶稣会。其请练语言,在翻译及编辑日本文法中,自堪首屈一指。

一六一四年被逐后避居澳门,曾与龙华民神甫通信札,讨论汉文天主教名称事。同年入内地,抵南京,采辑中国载籍所志之镇江景教遗迹^①。

(1)参看夏鸣雷神甫撰《西安府景教碑》第二编,三八五——三八六页。

其后诸年参加上帝、天主等类名称之讨论,颇不以利玛窦神甫采用之习惯为然。当此时也,若汉仍继续研究日本语文,开始编纂日本教会史。

彼在一六二六年十一月二十一日信札中,曾利用西安新发现之景教碑文,以证利玛窦神甫所采汉文天主教名称之伪。

又在一六二七年十一月三十日致耶稣会驻罗马之葡萄牙助理员马斯卡伦哈斯(Nuno Mascarenhas)之信札中言及彼之撰述。

殆因其谙练中国语言，所以遣之随从公沙的西劳入内地^①。（《澳门档案》，一六三〇年，第一号，五至六页。）

①费赖之神甫原文云：“一六三〇年满洲据遼东之一部，渐迫京师，澳门公民公沙的西劳率军卒若干，携炮十门，北上援助明帝。澳门参事会命陆若汉神甫为译人。若汉隶日本教区，曾见日本之偶像教皆传自中国，乃于一六一二年蒞华研究佛教秘说。公沙兵至涿州，满洲兵退。公沙请复召澳门兵四百。明帝许之，遣若汉率领新兵自澳赴京。统领新兵者是考狄埃(Pierre Cordier)与坎波(Antoine Rodriguez del Campo)二人。一六三〇年十月有新到之传教士五人，欲利用时机随军进入内地，是为谢贵禄(第六六传)、聂伯多(第六四传)、林本笃(第六八传)、方德望(第六五传)、金弥格(第七〇传)五神甫。(上引巴尔托利书，九六一页。)兵至南昌，帝有诏，命退还澳门，仅许少数人北上，时总兵者乃登莱巡抚孙元化也。不幸元化部众衣饷皆缺，一六三二年初遂溃散。元化、公沙及其他葡萄牙人因此皆死。仅有三人偕若汉越城墙坠壕中，逃北京得免，旋受赏还澳门。”

一六三二年六月十九日褒奖之诏敕有堪注意者，盖自是不名传教士曰西士，而曰耶稣会士也。（巴尔托利《中国耶稣会史》，卷四，一四七章，二八二。）

一六三三年若汉重还澳门，于二月五日致耶稣会长信札，又于十一月三十日致葡萄牙助理员信札，皆驳利马窦神甫所采汉文名称天主之非。（舒尔哈默尔(Schurhammer)《日本耶稣会的教堂语言问题》，三〇——三一页。）一六三四年三月二

十日视察员信札言其已死^①。

①钩案：本书《毕方济传》第四号书著录一六三三年方济奏疏，言若汉是年歿于广州，请赐墓地，则若汉歿年似在一六三三年，费赖之原文亦作一六三三年。

遗书列下：

（一）其巨作《日本教会史》尚未完成，然观其篇目，知是编并及中国事，第一编第二分细目为：

第八章 数学之在中国和日本。

第九章 中国和日本之天文。（以下诸章言细节） 215

第十五章 中国和日本时节之区分。

第十六章 星术迷信。

第二编第一分细目为：

第一章 圣多默之传道中国与现存基督教徒蒞华之遗迹。

第二章 中国现存十字教之起源。

第三编之细目为：

第一章 中国传教会史：

一五八二年至一六一九年日本传教会时代；

一六一九年至一六二三年与日本传教会分离时代；

一六二三年后中国副教区附属日本教区时代。

关于陆若汉神甫反对汉文天主名称的书目，可参考索默尔沃热尔《书目》（卷六，一九七六——一九七五）或

本书《龙华民传》、《高一志传》。(以上并出裴化行神甫补注。)

(二)《公沙效忠纪》，是编记公沙的西劳事迹。(一六三二年刻之《圣记百言》前有汪秉元序，称是编撰者是西士陆司铎。)

(三)毕嘉(第一一八传)神甫谓陆若汉神甫曾于一六一八年在澳门发表一文，辨驳利玛窦神甫等劝导华人入教方法之非。标题作《只懂日语，不顾种种困难泛学汉语》。时庞迪我、高一志二神甫曾奉命作答辨。

此外又引有《驳澳门编写的一部雄辩著作，它反对利玛窦及其在华追随者的行动，并反对费乐德神甫对原著的注释》。索默尔沃热尔《书目》，卷六，一九七四年。考狄《西洋人论中国书目》(以下简称《书目》)，八〇六——八〇七页。索默尔沃热尔《书目》，卷八，三五二页，并参看《熊三拔传》遗著书目(九)。

七二 杜奥定 意大利人

一五九八年生——一六二二年入会——一六三一年至华——一六四三年在福州附近溺死。

杜奥定(Agustin Tudeschini^①)神甫字公开，出生于热那亚之萨尔察纳城，学习民法、教会法五年，然后入耶稣会。一六三一年至中国，初在上海肄习语言，并于一六三一至一六三四年间兼在其地传教；一六三七年至一六三九年间传教陕西、山西。曾偕方德望(第六五传)神甫开教于十五城。一六三八年在西安府为四百人授洗，中有士人、有权阉、有宗王。

一六三九年受洗者更众，共有一千二百四十人。至是被派至福建。其所受之苦难，诚未能一一笔之于书。

①在上引巴尔托利书中写作 Todeschini。

有一次从建宁还，所乘小舟渡激滩，水流甚急，舟几覆，奥定力持牵船之缆而获免。福州有官吏某欲纳其戚之女，女不从，欲入教，其人即迁怒及于艾儒略、聂伯多二神甫。二神甫时不在福州，而奥定至。某官遣人役夺教堂之祭品，殴击奥定，拔其须发，剥其衣服。

诸教徒见其气未绝，抬之回居宅，赖以得生。居无何，被夺之祭器送还，奥定入谒某官，某官命其赴澳门解决其戚女事，（盖当时奥定对于此事实一无所知）奥定许之。舟甫离岸，即遭盗劫，群盗举火焚其舟；奥定投水中溺死。诸教徒得其遗骸葬之福州城外海滨，其弃世时在一六四三年之年初数月。（杜宁-茨博特《中国历史》，一六四一年部分。）

相传奥定撰有《渡海苦绩记》，然此记似出方德望神甫手。参看本书第六五传遗著书目（一）。柏应理（第一一四传）神甫《耶稣会神甫名录》（以下简称《名录》第四十一传未言奥定有遗著。

七三 马多禄^① 葡萄牙人

一六三二年至华——一六七〇年顷在海南岛附近溺死。

马多禄(Pierre Marquez) 神甫初被逐于日本，继被逐于

安南之南北圻。一六三〇年避居澳门^②。有官吏教名保禄者，其父某曾首荐利玛窦于朝，至是还海南乡里。道经澳门，谒视察员班安德(第六十传)神甫，请携带一神甫还
 217 乡，传布宗教。“安德以教团中神甫无一能作华言者，谢未允，然许将来不久遣居留内地之神甫一人赴海南岛。保禄力请，派一澳门神甫往，并求丘良稟修士(第三六传)为通译。视察员喜，乃选曾往各处传教之马多禄神甫往”。(嘉尔定《日本教省报告》，一二一、一二二页。参看巴尔托利书，九八七页。)

①钩案：原缺汉姓名，马多禄是新译名。

②帕热似曾将一同名之神甫与此马多禄混而为一。别一马多禄在一六四三年偕欧洲神甫三人，日本修士一人同在日本受难死。(《日本基督教》，八七八页。夏勒瓦(Charlevoie)《历史》，卷二，四三〇页。)

补注云，薛孔昭神甫《名录》，六五号似曾采帕热之说亦以多录于一六一七年被派至柬埔寨，一六二七年被派至安南北圻。亦谓其一五九二年出生于马拉加(Malaga)城，而在一六一〇年入会。此说已早见下书著录：嘉尔定《耶稣会在光荣的日本教省叙事诗》，二三〇、二三一、二五二页。

反之高龙鞏(《江南传教史》，卷一，四二〇页。)神甫则采费赖之神甫说。

多禄盖出生于长崎，父葡萄牙人，母日本人。一六四三年偕鲁平(Rubino)神甫殉教日本的马克兹(François Marquez)是其兄弟也。一六三二年抵海南岛，赖邱良稟

修士之通译,为保禄全家讲说教义,未几,全家皆受洗。是为此岛开教之始。多禄继而肄习语言,后得疾,于一六三五年被召还澳门。林本笃(第六八传)神甫继其任。(上引嘉尔定书。上引马利尼书,三七八页以下,四三五页。)

嗣后重赴安南南圻(约在一六三七年顷)、北圻,备受禁锢流逐之苦。马利尼(上引书)神甫对其一六三八年及一六六一年之事业略有记述。多禄传教诸地,约五十二年,至一六七〇年顷,在海南岛附近海中遇盗溺死。(吉勒尔梅书,葡萄牙文版,卷一,一九七页。)

《耶稣会士卢安东(Antonio Rubino)与四位同会会士在长崎殉难概况》,四开本,罗马,一六四二年。此书原马多禄神甫撰,并经罗历山神甫(第五三传)转为法文。(索默尔沃热尔《书目》,卷五,五九八栏。)

七四 谭玛兰^① 葡萄牙人

一五九四年生——一六〇八年六月一日入会——一六三三年至华——一六三八年发愿——一六四六年二月二十六日歿于海中^②。

相传此神甫曾在中国传教若干时,然吾人实未详此说之所本。唯有一事,确无可疑,即谭玛兰(Gaspard D'amral)神甫曾在上川岛圣方济各墓前建十字架一事也。(参看帕热《日本基督教》,第八八一页。)

①钩案:原缺汉姓名,谭玛兰是新译名。

②薛孔昭《名录》作一六四五年十二月二十三日。

- 玛兰是葡萄牙维森教区人，曾在科英布拉、埃武腊、
218 布拉加等城教授古典学。一六二三年赴印度。传教安南
北圻，饶有成绩，受洗者约四万人。一六四三年视察员
鲁平神甫召之来澳门，命为日本教区区长。然玛兰不能
往，决重返最初传教之区。一六四六年二月二十三日（或
二十二日）偕同伴数人在澳门登舟，同月二十六日在海南
附近遇险沉没。（嘉尔定《日本教省叙事诗》，九九页。）

七五 郭纳爵 葡萄牙人

一五九九年生——一六一七年入会——一六三
四年至华——一六四〇年十一月发愿——一六
六六年五月十一日歿于广州。

郭纳爵(Ignace da Costa)神甫字德旌，亚速尔群岛
中之法耳亚岛人。赴中国前曾教授修词学二年。一六三
四年至中国，初习语言于福州，旋赴陕西传教。在数城
中建筑新堂数所。一六三八年与金尼阁(第三二传)神甫
共为五百六十人授洗。一六四〇年与方德望(第六五传)
神甫共为千余人授洗。纳爵尤注重兵卒。盖处此内乱之
时，此辈时常更易戍所，驻守无数城市，每至一处，得为传
教之中心也。是以在陕西经纳爵授洗之兵卒移驻广东
者，曾为开辟若干传教区域。（毕嘉《中国天主教之发展》，
第一编。）

一六四三年李自成陷西安时，纳爵与梅高（第八六传）神甫同在城中。共被擒送至自成所，自成严词诘问二神甫来此何为。二神甫答为西士，来华传布唯一真主之教。自成释不问，并谕所部，不得侵犯西士之身体财物。一六四八年至一六五〇年间，纳爵尚与方德望神甫同在西安府。（杜宁-茨博特《中国历史》，一六四三年部分。）

已而重至福建，至于四辅政大臣仇教之时。（一六六四年）²¹⁹时隶延平之教堂共有大堂七所：即建宁府、邵武府、长乐县、清流县、Wei-chan（? “Vui Xan”）沙县、建宁县等处之教堂。延平有教堂三：天主堂一、圣母堂一、天使堂一。此种教堂几尽毁坏，或毁于鞑靼，或毁于海盗。此外有修道会八所，受劫亦同。（上引毕嘉书。）

一六六四年北京反对汤若望神甫之事起，次年纳爵与何大化（第七八传）神甫同被拘，幸总督某念其年高德重，善待之，且与馈赠，许其自定行期。纳爵等遂与多明我会诸神甫同被解送至京师，被禁于东堂。（聂仲迁《中国历史》，二四〇页以下。）其后同押解至广州。纳爵抵广州无多时病歿，时在一六六六年五月十一日也。（根据一六六九年书目，载《耶稣会历史档案》）纳爵曾为副区长，凡三年，（上引聂仲迁书，三〇九页。）葬于广州“河之内”。（据《道学家传》。）

其遗著列下：

（一）《原染亏益》二卷。

（二）《身后编》二卷。

（三）《老人妙处》一卷。

(四)《教要》一卷。

(五)《论天主教圣三》二卷。(柏应理)此书今未见。

(六)拉丁文《大学》译本。雷慕沙云：《四书》译文首经欧罗巴人刊行者即为是本。一六六二年间殷铎泽(第一二〇传)神甫刻于江西建安府。此本极罕见，后此别有说。(参看第一二〇传。)

七六 李范济 葡萄牙人

一六〇七年生——一六二二年入会——一六三三年至华——歿于印度，歿年未详。

李范济(François Pereira)神甫字仁旌，出生于里斯本，曾在河南省传教若干时。据苏查说，一六三四年时在福州，又据柏应理(第一一四传)神甫说，后被召赴印度，而歿于印度。(据手写札记。)

七七 范有行^① 中国人

一六〇九年生——一六三四年入会——一六三四年入内地——一六四七年后歿。

范有行(Paschal Fernandez)修士字勉致，一六〇九年生于澳门^②。一六三四年入会。一六四八年与阳玛诺(第三一传)神甫同在福建延平。(据手写札记。)

①原缺汉姓名,据北平图书馆藏钞本补。

②薛孔昭《名录》谓其为中国人。

七八 何大化 葡萄牙人

一五九二年生——一六一一年入会——一六三
六年至华——一六四〇年七月十四日发愿——
一六七七年二月十四日歿于广州。

何大化(Antoine de Gouvea)神甫字德川,出生于²²¹葡萄牙维森区之卡萨尔小城。学习完毕后,于一六二三年偕埃塞俄比亚总主教蒙德兹(Alphonse Mendez)同赴印度。中间留居马斯喀特数月。一六二四年终始抵果阿。在果阿城教授文学,并执行他种职务垂四年。一六三六年至华。

大化在杭州学习语言时,有官吏二人教名雅克(Jacques)和马蒂亚斯厄森(Mathias)者,湖北武昌府人也,向区长傅汎际(第四五传)神甫请派一会士偕彼等还乡传布宗教,大化被派偕行。

沿途行程艰苦,在江中数经盗贼舟子之劫,几濒于死,日久抵武昌。顾大化于天算之学不甚精通,不为士夫所重视,独居城外山上茅屋中数月。然贫民经其授洗者约三十人。越二年入教者逾三百,并赖官吏雅克之助建立小教堂一所。(巴尔托利,一〇六三页。)

此堂在大化行后(约在一六四三年前后),似为鞑靼

所毁，至一六六〇年始修复。大化被派至福建，管理福州所属八堂。时届鞑靼南侵之时，大化请总督及本城长官出示禁止鞑靼搜索教堂，由是教内外人在一六四七及一六四八年间匿居教堂者尽获免。然至是福州无新入教者，大化遂赴连江县。其地被劝化入教者凡九十人，并在附近 Ki-Ken 及 Ngan-hang 两地各建教堂一所。（杜宁-茨博特《中国历史》，一六四七年部分。）

一六五二年时，大化始被派至江南之苏州，是年受洗者有二千三百五十九人，已而重莅福建，目击此省及沿海一带，经鞑靼与海盗之残破，而在福州被围时，几死于饥饿。（鲁日满《鞑靼中国史》，七〇页，二三四页。）

- 222 事平之后，大化鼓励教众修复教堂。一六五六年省会有教徒二千人。总督佟某为立一碑，赞扬天主教，后来佟某亦入教。大化虽年七十，仍往来兴化、连江等处传布宗教，有举人贡生数人助之。（毕嘉书，第一编，五章。）

一六六五年与郭纳爵（第七五传）神甫同被解至北京，已而解赴广州。（聂仲迁《中国历史》，二四〇页。）一六六九年受命为副区长。谪限既满，重还福州，所属二十四教堂悉皆发还。致是大化作书致南怀仁（第一二四传）神甫，嘱代转请许多明我会 François Varo^① 神甫重返福建。礼部初不准，怀仁力请，始许之。（上引杜宁-茨博特书，一六七二年部分。）大化逾五年歿，时在一六七七年二月十四日，葬于福州城外。

①此神甫汉名似为万济国，西班牙人，于一六一四年或

一六五四年至中国,曾为云南、两广之代主教。一六八七年歿于福建之福安。似撰有《圣教明徵》(徵或作证)。傅圣泽《在华传教士及中国现有教堂名录》。莫德赉《中国天主教之体制》,一五三、二八六页。伟烈亚力《中国文献注释》,一四二页。(钧案:万济国名见《正教奉褒》第六九页。)

其遗著列下:

(一)《蒙引》一卷,佟总督刻于福州。

(二)《无罪获胜》,记一六六九年中国大臣会议宣告天主教无罪。一六七一年奉副省会长何大化神甫指令,用拉丁文汉文写于广东省会广州。一六七一年是为康熙十年,礼部提奏,将通晓历法之西士起送入京,不晓历法者,令各归本省本堂。

(三)呈福建总督之《圣经颂碑刻》。

223

(四)对一六六九年十月三日闵明我神甫在广州发表的两份论中国礼仪书面材料的答覆,见一七〇〇年鲁汶出版的《为教皇亚历山大七世通谕辩护书》。法文译文附见郭弼恩(Gobien)《中国皇帝敕令史》,二八四页。

(五)《中国六阶段分期史》,摘自中国与葡萄牙书籍,备有清朝附录(索默尔沃热尔《书目》,卷三,一六三七栏),是为大化所撰之中国史,撰写凡二十年,至一六五四年始脱稿。

(六)《耶稣会在远东传布信仰、宣传天主律法》,是编历述耶稣会传教东亚之经过。(索默尔沃热尔《书目》,

卷三，一六三七栏。)

七九 潘国光 意大利人

一六〇七年生——一六二四年入会——一六三
七年至华——一六四九年四月四日发愿——一
六七一年四月二十五日歿于广州。

潘国光(François Brancati)神甫字用观，一六〇七
年生于西西里，一六二四年入会。

一六三七年至华，传教江南沿海诸地似至于死。一
六三九年经国光与贾宜睦(第八一传)神甫同在上海及其
附近授洗者共一千一百二十四人；次年共有一千二百四
十人。相传此一六三九年，国光应名医徐启元之请，首至
崇明。启元者，乃先一年在上海受洗之人也。至崇明后，
224 为启元家属及诸亲友授洗，是为崇明岛诸教区之始基。

一六三三年阁老徐光启歿，运柩回上海原籍。一六
四一年营葬事，国光曾为撰一拉丁文墓铭。(杜宁-茨博
特《中国历史》，一六四一年部分。)

一六四四年江南大乱，上海乱尤炽，盖当朝代更易
之时，暴徒乘机而动也。复有释教一新派谋奉一人
为主，上海县官风闻其事，捕诸主谋。此县官与国光友谊
甚密，因乘势保护天主教民(上引杜宁-茨博特书，一六四
四年部分。)

鞑靼之战，国光未他往，仍传教如故。一六六五年

仇教时，松江一府共有教堂六十六所，教徒五万余人。而至国光歿时，教堂之数增至九十，别有小堂四十五所。（上引巴尔托利书，一一五〇页。柏应理《中国基督徒许太夫人贵府史》，三一、三二页。） 225

国光任上海道长时甚久。曾在上海建筑新堂一所^①。徐光启孙女教名甘弟大(Candidé)，适许氏，信教甚虔，柏应理(第一一四传)曾为之传。甘弟大托其父〔教名雅克(Jacques)〕(光启之独子)及其子〔教名巴西尔(Basile)〕介绍国光于南京、苏州、松江、上海等地重要官吏，并时常资助国光^②。一六五八年国光得甘弟大及一 226
武官之资助，在松江、苏州各建教堂一所^③。（毕嘉《中国天主教之发展》，第一编，五章注十五、十六。）

①康熙《上海县志》(四册七卷三六页)载有关系此教堂之文。上海县令在此文中首言西安碑之发现，徐光启之入教，龙华民、邓玉函、罗雅谷、汤若望诸神甫之入京修历次言国光来见，言旧堂太小，请许购仁安里潘氏旧宅建立新堂，时在崇禎十四年（一六四一）也。此文之后复载有一六六五年县官徐某文一件，一六七一年县官康某文一件。康文中言先在京师曾受南怀仁神甫之托，诸神甫运潘国光神甫之柩至上海时，请予保护。康某曾为布置停柩之所，葬时曾亲临并将旧居修理，以供柏应理、毕嘉二神甫之用。黄柏禄神甫撰老天主堂事略，写本现藏徐家汇。并参考史式徽：《江南传教史》，卷二，三二页。

②许太夫人一日闻诸传教士无以自给，甚感动，即赴其

礼拜室，跪于十字架前发愿，愿赠每人金钱二百伊库斯（écus），则教士二十五人所得之赠金计有二万五千余镑（livres）。恐诸神甫不受，乃作书致国光曰：“众神甫等切勿以此金为诸子物，此乃我与诸女手工之所积。我与诸女等作手红三十余年，积有数千金，以此命家仆二人经营商业，得天主佑，所获甚富，勿以此金来历不明，盖其非吾子之产业，亦非其薪给也。”（上引柏应理书，二七页。）

⑧顺治帝曾赐苏州教堂匾额，文曰“钦崇天道”，又降上谕，褒扬诸传教士之学术德行，刻之于石，其中即有国光名，此二文皆盖有御玺。文两旁一书景教碑文，一书徐光启赞扬天主教词。一七二四年雍正帝将此教堂没官，改为孔庙。天津条约立，一八〇九年以今教堂所在地调换旧址。（黄伯禄神甫注。参看上引史式微书，卷二，二〇一页。）

一六六四年时，上海设有修道会六所^①：（一）耶稣苦会，此会为男子设立，内有会团三十三；（二）天神会，此会为儿童设立，内有会团四十；（三）圣母会，此会为女子设立，内有会团一百四十；（四）圣类思会，此会为学生设立；（五）圣依纳爵会，此会为文人设立；（六）圣方济各会，此会为讲说教义人设立；后三会每会仅有会团一。（上引毕嘉书。上引柏应理书，三二、三三页。）

①据康熙二十二年（一六八三）之一汉文写本著录上海有修道会九所：（一）圣母会；（二）耶稣苦会；（三）圣依纳爵会；（四）圣方济各会；（五）圣类思会；（六）天

神会；(七)神功会；(八)圣母无原罪会；(九)圣若望会。同一写本并著录耶稣会诸神甫之经过或传教上海者，始开教人，止于一六八〇年抵上海之潘玛诺（第一五三传）神甫。

上述各会得国光之力，使上海成为全中国诸传教区之首位。

一六六五年一月四日朝命押解诸神甫赴京，国光时 228 在上海，官吏颇敬其为人，许其自定行期。国光遂在行前举行圣母洁净瞻礼，后留松江二十日为百人授洗，旋赴苏州与省内诸传教士会合，计共五人。六月二十一日总督遣官解送，一六六五年七月十八日抵京。讯问后命押解广州安置。（九月七日）（聂仲迁《中国历史》，二五九、二六〇页以下。）

一六七一年诸教士各归本省本堂之命下，国光将返上海，然患痛风之疾已十八年，至是病遂不起，于一六七一年四月二十五日歿于广州。刘迪我（第一〇二传）神甫运其柩至上海，葬于南门外之圣墓堂。（上引杜宁-茨博特书，一六七一年部分）

其遗著列下：

（一）《圣体规仪》一卷，原刻本似刻于上海；一八八一年上山湾有重刻本。（一九一七年书目二七二号。）

（二）《十诫劝论圣迹》一卷，一六五〇年刻于河南；一九二七年第六版刻于上山湾（一九一七年书目补目二五五号。）

（三）《圣教四规》一卷，末一刻本似刻于绛州；一六四

九年有上海重刻本。

(四)《未来辩论》一卷。

(五)《天阶》一卷,一六五〇年上海刻本;一八七一及一九一五年土山湾重刻本。(一九一七年书目补目四二〇至四二一号。)

- 229 (六)《天神会课》一卷,一六六一年上海刻本,一八六一、一八八二及一九一四年土山湾重刻本。(一九一七年书目二五三号)俄国驻北京传道会长比丘林 (Hyacinthe Bitchourin)曾节采此本之文,刻于北京,以供希腊宗之用。

(七)《瞻体口铎》一卷,一六六二年撰,今见写本题曰口铎合钞,系周于道和吴兴开二人合辑。(参看伟烈亚力《中国文献注释》,一四一页。)

(八)《论中国礼仪,耶稣会士潘国光神甫用他在华传教三十四年的实践对多明我会士闵明我的答覆》,二册,十二开本,巴黎,一七〇〇年。卷首有撰者小传。闵明我颇悔未早知潘国光神甫所辩护之传教方法。普雷《中国礼仪之争史》,二八页。

(九)一六五一年作于上海之信札,附卫匡国(第九〇传)神甫之《中国地图》后。此信札略言当时之若干政闻。

(十)一六四一年徐光启下葬时所撰墓铭。据杜宁-兹博特(上引书,一六四一年部分)说,用汉文写,然用西方文体。

(十一)国光订有诸修道会汉文规则。

- 230 (十二)国光曾参订殷铎泽(第一二〇传)神甫之撰

述:《中国礼仪证信》,写于一六六八年,八开本,巴黎,一七〇〇年,又曾将礼仪争论中所引中国经典译为拉丁文(索默尔沃热尔《书目》,卷二,八二栏。)

(十三)《圣安德助宗徒瞻礼》,写本现藏巴黎国家图书馆,汉文新藏,编列二七八五号。(考狄《印刷术》,八页。)

(十四)国光有附注之手写本一册,现藏圣热内维夫(Sainte-Geneviève)学校图书馆。(索默尔沃热尔《书目》,卷二,八三栏。)

八〇 利类思 意大利人

一六〇六年生——一六二二年一月二十九日入会——一六三七年至华——一六四九年三月二十五日发愿——一六八二年十月七日歿于北京。

利类思(Louis Buglio)神甫字再可,出生于西西里之莫诺城。十六岁入耶稣会,莅传教所前曾教授古典学三年。始至中国,肄习语言,并在江南执行传教职务,一六三九年轻其授洗者约七百人,次年派至四川,欧罗巴人之入川者,类思盖为第一人。既抵川,寓阁老刘宇亮⁽¹⁾家,宇亮致书与川省官吏为之先容。类思居宇亮所八月,始置有教堂住宅各一所。当此时间,并与成都主要官绅订交。

(1)钩案:宇亮附见《明史》卷二五三张至发传,绵竹人,万历四十七年(一六一九)进士,崇祯十年(一六三七)擢礼部尚书入阁。

- 231 此一六四〇年中受洗者三十人,皆经类思精选,后遂成为此地教会之基石。就中有明宗室教名伯多禄者,深通文学,全家入教。

自是以后,省会及附近信徒日增;然类思病,安文思(第八八传)神甫适抵杭州,愿入川助类思,区长许之。文思抵川后,与类思患难相随。二人在保宁、重庆设立教堂,并且在附近城镇设立小学多所。受洗者日增,有武官姓阎名 Jen-tou 者入教,教名多默,合家随之受洗。

阎某既入教,复其他官吏数人随之入教;然中有数人纳妾,二神甫不允为之授洗。由是诸纳妾者怨,唆使僧徒攻讦。僧徒聚众四千人,告二神甫于官,同时散布谤书鼓动民众。

官得诉状不受理,诸纳妾者便唆使他人告诉,官为所动,将拘捕二传教师。阎多默闻其事,一面遣士卒护二神甫,自赴官署,为辩其诬。同时有官名吴继善^①者新自京师来,携汤若望神甫致类思书,亦至官署,言京师颇优待西士,事遂寢。

(1)吴继善,《四川通志》卷一八九页四四有传。钩案:继善太仓人,字志衍,崇祯进士,知成都县。《四川通志》称为张献忠所执,被害,未言其降献忠受伪职事,殆有所讳。

- 232 阎多默遣部骑搜察城中,毁诸揭示谤书,易以徐光启后,杨廷筠护教之文。主犯三人,杖流有差。人心遂安,然历时亦不久也。一六四三年残暴可畏之张献忠即率重兵至,献忠残酷,先声夺人,所到之处,官民震慑。成都遂

不守，人民逃亡山中。类思、文思二神甫逃刘阁老故乡绵竹，绵竹亦非安静，欲下江而赴江南，然沿江献忠皆置守兵，二神甫不得已逃入山内。

献忠初得成都，人心归之。盖献忠才具性情实有过人之处。其为人公正，慷慨聪明，练达、爱好学术，然此种良好品格，皆为盛怒时之残酷行为所掩。吴继善受献忠命礼部尚书，进言二西士之能于献忠，献忠立命人求得之，馆之于官舍。（一六四四年。）

献忠强以官职、衣服、俸禄授二神甫，并大宴以享之，坐二神甫于其侧。时教堂已毁，献忠许为另建一所；命二神甫制造天体仪、地球仪、平面日晷各一具。一六四五年二神甫制诸仪，丑八月成。天体仪上著录恒星、行星、黄道之部位，中国之二十八宿附焉。地球仪分五大洲，著录城国山河诸名，并附诸重要异迹之说明于上。

献忠及其诸臣见之甚喜，厚赏二神甫。二神甫受赏后即散施他人。

二神甫之不欲得其赏者，盖见残酷暴虐之状：献忠官吏之被杀、被绞、被生剥、被刖之事几逐日有之。献忠稍有所疑，即杀人。其最可怖之威胁，虽继之以无可比拟之宽厚，终常处人于死地。献忠自谓天地之主宰遣之人川惩罚恶人与僧徒。因是成都城内僧人无一免者；外府僧人得逃往省外者，数亦无几。

献忠又谓蜀人为叛逆、为不信真主之人，顾彼既为天子，义宜屠之。是以命所部将卒尽杀成都城内居民，不

分男女老幼贵贱，四万余人尽死。安文思神甫曾目击此惨状：见幼童、青年、壮年、老年、男女群集于广场之中，跪地祈免。“我辈为王之民；我辈常遵王命，从未开罪于王，缘何置我辈于死地？我辈孱弱，手无兵刃，尚何所畏于我辈乎？乞悯无罪之民，而许其生。”此种乞怜语，虽猛虎亦有所动于衷，然献忠不为动，下命屠杀。血流成河，江水为赤，江中积尸万千，舟船为之不通。

二神甫努力，始将其仆从及若干教民之生命保存。安文思神甫在此如同地狱之屠场中，为卧于血泊命尚未绝之十余幼童授洗。献忠屠城后他去，留部将守此空城。其将残酷，不下于其主，复搜索残余之民屠之。始二神甫救免者至是尽死，仅一澳门青年获生。

一六四六年献忠复还成都，自立为帝。彼在精神错乱之中，自以曾见天空有弓箭刀矛，遂以为天命其侵略世界。设有疑此说者必遭不幸。二神甫之忧苦诚非笔墨所能形容者矣。性命悬于一发，必须兼具谨慎勇敢才足以应付之。虽在此危难中，尚有一百五十人授洗。其中有献忠之妾父，适携其女自南京来，偕其子同入教，教名柏多禄及保禄。已而其别二子、其母、其二女，全家三十二人悉随之入教。

- 234 四川既经屠戮，献忠将往略陕西，行前大祭老子。祭时二神甫独不跪拜，伪官某诘之曰：见此伟人像缘何不拜？二神甫答曰：此世之人，无一能受我辈之崇拜者，其能受崇拜者，只有创造天地之天主而已。献忠闻言不罪之。盖在仅有的安静之时，似对其残暴行为有所悔也。

此仅电光一现而已。翌日有官吏三人，因在宴中语声稍大，被处斩刑，已而侍从一人、阍者七人亦因同一理由处死。献忠仍以旧语语二神甫曰：“天主命我赏善罚恶；然中国人不能解汝教。脱以汝曹之须假我，我将亦为天主教徒如汝曹。固知汝曹之教为真教，只应拜一天主。第应在汝辈域中传之，我辈自有本国习俗；况且汝辈之天主似不甚欲此土之人崇拜也。可保存汝曹之经典，我征服全国时将遣汝曹回欧罗巴。”

献忠见其军大减，愤甚，又大杀官吏，即位时左右官吏千余，至是仅存二十五人；馀官或死于刀杖，或从首至足生剥全皮，或被刎死。每次死者数百人，盛怒时即为之，几日日如是也。既而焚成都，进兵陕西。二神甫以为请其放还澳门，斯其时矣。迄于是时，献忠妻父常阻 235 之，命勿请；然其人亦被处死，遂以此事告献忠。

献忠闻言似甚悲，二神甫甫出，即命人尽剥二神甫诸仆役头皮而杀之。澳门人安东独免。已而献忠命二神甫入，责其忘恩。二神甫谦词以辩，献忠忽暴怒，呼曰：贱奴应死。安文思神甫高应曰：“我辈为教中人，只崇拜一天主。我辈无罪，而汝欲处我辈死；汝应知此天主不久将以大罪降汝身。”献忠闻言，如受雷击，遂迟疑不决。

二神甫遂准备就刑。献忠复招之入，备辱詈之，释而不杀，然迁其居所，命人守之，翌日又招之入，且詈尤甚，继詈利玛窦神甫，献忠左右尽和之。二神甫自身受詈，皆置不答，闻开教人受詈，不能不辩，虽死亦不惜也。献忠闻其言不以为忤，气遂和，又命二神甫重制天体

仪一具，位置一切恒星部位于上。

类思劳作既久，遂病，文思独任其事。献忠常往视之，怒时辄詈之，且有侦者察其行动。二神甫夜读《圣务日课》，为侦者所察悉，命以后不许再读，二神甫不从。

天体仪既成，以呈献忠。有一无知官吏见仪上昼夜平分线之倾斜，指摘其误，以为制者故意为之，欲使国亡君死。献忠多疑，遂不欲闻二神甫之解说，遣之出，决杀之，唯杀之之法尚未决耳。

一六四七年一月三日谍报鞑靼四五骑驰来，献忠不知此为敌兵前哨，不以为意。敌骑愈近，献忠似为恶魔所驱，忽登骑，手执小矛，随从卫士七、八人，疾驰出营。

236 是为天罚之时矣：敌骑发矢，一中献忠左肋，贯心坠马死。其众得凶信，皆溃。

二神甫逃邻近山中；为鞑靼所获，见其长须，识为异国人，俘之还帐。有二卒至，将杀之，有第三卒至，命稍待。诸卒既去，有衣襤褸之匪一人来，剥其衣，文思拒之，匪以箭镞伤其臂，继以箭簇洞类思脑，后用钳始取出。二神甫负伤流血，被领至一下级将校前，此校复领之至主将所，主将即顺治皇帝兄肃王豪格也。

肃王识汤若望神甫，而颇钦其为人，见二神甫至，闻其为若望之兄弟行，善遇之，嘱诸部将看护。二神甫重获其书籍并仪器数具，馀皆散失，而最不幸者，其唯一《圣务日课》亦失。因甚痛惜，盖两年来，无葡萄酒，彼等未能举行弥撒也。后在汉中有一回教徒，以文思之《圣务日课》交还，盖其人得此本，见上有外国字及圣像，疑其

为欧罗巴人所有，故见还。

二神甫在军所受待遇各异。看护文思之部将性仁慈，文思凡有所需，必厚为供给。类思所遇之部将则不然，遂致饥不足食，全身骨立。

军事既终，二神甫重获相见，文思既受优遇，身体复原。澳门人安东为别一部将所得，知为二神甫从人，欣然还之。

一六四七年抵汉中，方德望(第六五传)、郭纳爵(第七五传)二神甫见其至，甚欢。彼等留汉中约两月，方德望神甫等赖其力，教堂及教众等未受兵祸。肃王来见，许回京后保护之。

一六四八年抵京师。二神甫请回四川，皆未获允²³⁷。先居肃王邸，王死，迁居外人居留之所。汤若望神甫为之请，始获得自由，惟不许离京。一六五五年皇帝赐银米房屋^①。建筑教堂一所，即为后之东堂，盖由一名 Justa Tchao 之妇女及宗室一人出资所建也^②。

①原作一六五三年，则为顺治十年，然《正教奉褒》作顺治十二年十月，应在一六五五年阳历十月十八日前，今据以改正。东堂建于一六六二年，参看毕嘉《中国天主教之发展》，第二编，二章，XV 页。

②此妇杜宁-兹博特书作 Judith Tchao，又毕嘉书作 Justa Siao，其姓亦有作 Chao、Gias、Ciao 者，盖肃亲王之侧福晋而西门(Simon)之母，王死后入教。参看上引杜宁-兹博特书，一六五七年部分(徐家汇藏写本第五四二页)；上引毕嘉书，出处同前。

萧神甫《天主教传行中国考》，卷六，二七三页。《卫匡国传》(第九〇)、《张玛诺传》(第九四)、《毕嘉传》(第一一八)。

类思偶一赴城外传教；当时近畿有大堂七所，小堂十四所。馀时皆在北京，与好西学之官吏应接。

杨光先参劾汤若望，攻击欧洲历法及天主教之案起，类思及其伴侣安文思曾在一六六二年撰《天学真詮》，揭明教理，许之渐为之序，李祖白为刊行。（聂仲迁《中国历史》，九四页以下。）

杨光先见之，作《不得已》以驳之。据谓天主教为邪教，西士之入中国旨在侵略，澳门屯兵不少，待机而动。

类思作《不得已辩》，力辞其诬。然若望被劾后，四辅政大臣命下礼部会审，拘在京诸神甫及信教官吏数人赴
238 部候审，又传谕各省将一切传教西士解京申办。当时四辅政大臣必欲入诸人于罪，其未行刑者，因天变有以致之，语具第四九《汤若望传》，然李祖白等五官吏并处斩。

诸神甫押送广东后，许留京者仅汤若望、南怀仁、安文思及利类思四人。教堂尽被封闭，图像尽被摘取。康熙帝亲政以后，诸神甫希望渐增，于是同谋解除禁令。类思曾在一满汉大臣聚会时，力辞杨光先之诬谤，其事始明。

类思以其余暇作汉文书籍。此外并以西方绘画之法教授华人，宫内颇赏其画法。南怀仁神甫曾在《欧罗巴天文学》一书中，称其曾以画三帧呈康熙，其画全守透视之法，并绘副本三帧陈列于其居宅园中。各处官吏来京

者见此画皆惊赏。彼等皆不明缘何能在一平布上将一切室廊门户及道路皆能一一绘出。（杜赫德《中华帝国全志》，卷三，二六一页。）

类思性甚温和，德行超著，深通神学及满、汉文学，语言尤其流利。对于宗教，虽在皇帝大臣前不惜抗辩，其生平，读其拉丁文墓志可慨见矣。（杜宁-茨博特《中国历史》，一六八二年部分。）

其遗著列下：

（一）《超性学要》三十卷，目录四卷^①，是编为圣多玛斯(S-t. Thomas Aquinatis)之《神学纲要》，译文未全，目录则已全译，凡已译未译篇目并载其中。已译诸篇列下：

①参看一九二七年十一月刊《圣教杂志》。

1. 《天主性体》六卷，此编与目录四卷并在一六五四年刻于北京。

2. 《三位一体》三卷。

3. 《万物原始》一卷；别有单行本题曰《物元实证》。

4. 《天神》五卷，一六七六年刻于北京。

5. 《形物之造》一卷，一六七六年刻本。

6. 《人灵魂》六卷，一六七七年刻于北京。（考狄《印刷术》，一九〇一年）第五五号著录巴黎图书馆汉文图书新藏，编号三一〇八之《性灵说》，殆为别行之本。

7. 《人肉身》三卷，一六七八年刻本。

8. 《总治万物》二卷。

9. 《天主降生》四卷，分四子目：曰天主降生，曰圣母

之圣论，曰耶稣降诞，曰耶稣行实之宜论。

钩案：现行本尚有《复活论》二卷，是安文思（第八八传）补译。文思传所附书录第一号曰《超性学要》，第二号曰《复活论》，盖同一译本，费赖之误将总题与子题别为二书。《超性学要》卷首有顺治十一年（一六五四）序，称多玛斯详考《圣经》，暨古圣注撰，会其要领，参以独见，立为定论，若一学海然。书成，命曰《陡禄日亚》（Theologia），义据宏深，旨归精确，自后学天学者，悉禀仰焉。是书有三大支，支分为论，论分为章，章分为引，为疏，为驳，为正，学者推为群言之折衷，诸理之正鹄云云。实为当时欧洲人对此书之定评，非虚誉也。是书三大支，类思所译甲至辛编，为第一大支之全文；第三大支仅译《降生论》四卷；合安文思译之《复活论》二卷，共为三十二卷。第二大支哲理、论理诸编概未续成。总目四卷，亦类思译笔。见有凡例二十余条，所译新名，一一标出，间用李之藻《名理探》之旧译名，可以考见当时之译例。

- 240 （二）《弥撒经典》五卷。此本与后二本封面皆有拉丁文大字标题，盖前此教皇曾许金尼阁神甫用华语举行弥撒，（参看第三二传）兹译此三本，于一六八〇年托柏应理（第一一四传）神甫进呈，重申前请，故用拉丁文标题，然此次请求未蒙许可。《罗马圣务日课》，此本已译全^①。

①参看德礼贤《天主教中的中国籍主教》二四页以下。

（三）《七圣事礼典》一卷，一六七五年译本。余曾见

有一本，题曰《圣教礼规》，为一八四〇年顷江苏泗泾重刻本。是为婚丧礼典要略。

(四)《司铎课典》一卷。补注云：类思所译罗马《圣务日课》标题不止一种，全题曰《司铎日课概要》，简提曰《司铎日课》或《日课概要》，参看本卷第二四号书题。又别题曰《司铎课典》。

(五)《司铎典要》二卷，一六七五年北京刻本。

(六)《圣母小日课》一卷，一六七六年北京刻本；上山湾常有重刻本。（一九一七年书目四九九及五〇〇号。）

(七)《善终瘞莹礼典》一卷。

(八)《已亡日课》上山湾常有重刻本。（一九一七年书目四六三号。）

(九)《圣教要旨》一卷，一六六八年北京刻本。 241

(十)《天主正教约微》一卷，一六六九年刻本，是编与第十七号之《西方要纪》，并为进呈康熙皇帝之书。

(十一)《圣教简要》一卷，一六六五年刻本，一八四七年马热罗主教^①核准刊行本；一九二六年上山湾重刻本，（一九一七年书目补目一二四号。）是编为答辩杨光先之《不得已》而撰，事具本传^②。（参看上引伟烈亚力书，一四一页。）

①马热罗(Jérôme-Joseph da Matta)是一八四五至一八五七或一八五九年间之澳门副主教。参看莫德赉《中国天主教之体制》，十四、三二、二七五页。

②除类思是编以外，尚有辟回回历官杨光先之说之书数种，并出信教官吏手。一题曰《鵝离并记》。一题

《宗正必辩》三卷,何世真撰,一六六九年刻于北京。

(十二)《不得已辩》一卷,一六六五年刻于北京。

(十三)《天学传概》一卷,一六六二年刻于北京。盖
242 答辩第一次杨光先谤书之篇也。(上引聂仲迁书,一六六
二年,八五页。参看夏鸣雷《西安府景教碑》,一〇二、一
八二页。)

(十四)利类思、安文思、南怀仁一六六九年请赐昭雪
之奏疏。拉丁文一部份见普雷《中国礼仪之争》,三一页。
拉丁文及汉文全文见何大化《无罪获胜》,三——九页。)

(十五)一六七〇年类思等请召还拘禁广州四年诸
神甫疏。(上引普雷书,三二、三三页。)

(十六)《昭纪经典》三卷,一六七九年刻于北京。

(十七)《西方要纪》一卷,利类思、安文思、南怀仁三
人合撰,一六六九年刻于北京。此本与第十号之《天主正
教约微》,并为进呈康熙皇帝之书。(参看伟烈《中国文献
注释》,五二页。)有满文译本。(上引聂仲迁书,十九页。)

(十八)《狮子说》一卷,一六七八年刻于北京。澳门
使臣佩雷拉(Benoît Pereyra)贡狮子,请入内地贸易,经
南怀仁转请获准,类思为撰此论。(上引杜宁-茨博特书,
一六七八年部分。)

(十九)《进呈鹰说》,一六七九年北京本。(上引杜
宁-茨博特书,一六一九年部分。)钧案:清圣祖曾询西士
西国驯养鹰鹞之法,因纂译是编进呈。尝见一旧钞本题
曰《鹰论》,一作《进呈鹰论》,分上下二卷,下卷残缺不
全,然全文已经《图书集成·禽虫典》收入。

(二十)《西历年月》一卷，一六七九年北京本。

(二十一)《安文思传》，附安文思《中国新志》后（一六八八年法文译本），（第八八传第三号书）⑥。

①类思曾将此传转为汉文，题曰《安先生行述》，巴黎图书馆汉文图书新藏，编二七五四号。（考狄《印刷术》，一五页。）

(二十二)信札二通，现藏意大利巴勒摩图书馆，一作 243 号，于一六三七年十二月，一作于一六三九年十月五日。

(二十三)相传类思曾采托莱特 (Tolet) 及其他作者之说，撰有《托莱作品摘编——伦理疑难摘要》。

(二十四)《日课概要》，参看本传第四号书。

(二十五)《主教要旨》，巴黎图书馆汉文图书新藏，编三一九二至三一九五号。（考狄《印刷术》，五二号。）丁保禄曾将此本转为朝鲜语。（古兰《国家图书馆中国书籍目录》，朝鲜文，一七〇〇号。）

八一 贾宜睦 意大利人

一六〇三年生——一六一八年入会——一六三七年至华——一六四八年四月十八日发愿——一六六二年九月四日歿于常熟。

贾宜睦 (Jérôme de Gravina) 神甫字九章，名族之长子也。生于西西里之卡耳塔尼塞塔城，弃绝世荣，入耶稣会。毕业后请赴印度传教，一六三五年偕马斯特利里

(Marcel Mastrilli)神甫及同伴三十一人东行。一六三七年派至杭州学习语言，其后不久管理扬子江邻近诸地教务。一六三九年与潘国光(第七九传)神甫在上海为一千一百二十四人授洗，次年为一千二百四十四人授洗。(巴尔托利书，一一一七、一一三七页。)

自一六四四迄一六四八年间经其授洗者三千人，然
244 已艰苦备尝矣。有一次无以自给而濒于死，赖卫匡国(第九〇传)神甫供其所需之物至，始获生全，工作如常。其教堂为偶像教徒焚毁，广西巡抚瞿式耜之子若望以己之施之作新堂。教中人于新堂之侧建一小屋以居宜睦。
(杜宁-茨博特《中国历史》，一六六二年部分。)

宜睦喜贫乏是为其死因，亦得谓其殉身于寒苦也。
时内乱，澳门之救济不时至；而宜睦又不愿受教民一物
之供给：有时饥饿不能起。只须其通知汤若望神甫即不
245 难获有所需之物，然宜睦不欲也。迨诸道长闻悉其窘
苦状，遽以资助，然已无及矣。一六六二年九月四日^①
歿。葬常熟虞山铁拐亭之北。(上引杜宁-茨博特书。一
六六二年部分。)

①毕嘉神甫谓歿于九月十五日；杜宁-茨博特和索特威
尔并作九月四日。

宜睦于学习语言方面虽较拙钝，但曾用苦心撰有汉
文著作一种，今尚为世所重：

(一)《提正编》六卷，一六五九年本；一八七〇年有土
山湾重刻本。(一九一七年书目一六四号，参看前引伟烈
亚力书，一四一页。)

钩案：今所见上海慈母堂重刻本有顺治己亥（一六五九）佟国器序。国器字汇山，辽东人，顺治中官浙江巡抚，其妻奉教甚笃，与徐光启孙女许氏同为闺阁中有功于布教之人。后国器全家入教，国器居江宁时常与成际理（第九五传）过相从。是编前列同订人中即有际理名。

（二）阿勒甘布-索特威尔著录有《论教友训导及圣经诸奥秘》，中文三卷；毕嘉著录有《论宗教名著》。二书今皆未见。

（三）考狄《印刷术》，二三页著录《辩惑论》一卷，巴黎图书馆汉文图书新藏，编三〇五七号。

八二 孟儒望 葡萄牙人

一六〇三年生——一六二〇年入会——一六三七年至华——一六四〇年十一月二十五日发愿——一六四八年殁于印度。

孟儒望(Jean Monteiao)神甫字士表，出生于葡萄牙波尔图教区之迈加姆夫利奥(Mejamfrio)，一六二五年赴印度。在果阿完成其学业后，历任果阿修院教习，澳门哲学教习三年，神学教习二年，修院院长。一六三七年赴江西。一六三九年赴浙江。次年在宁波为六百人授洗。传教数年，颇有成绩。一六四一年大旱，僧人求雨无效，儒望言于官，谓应祈祷真主，始可致雨。官命儒望祈祷，果降

大雨，继之以雷，雷降某大庙中，诸偶像尽毁。人民见此灵异，入教者甚众。（杜宁-茨博特《中国历史》，一六四一年部分。）数年后派至澳门管理华人教务。一六四八年歿于印度。

其遗著列下：

（一）《天学略义》一卷，疑在一六四二年顷刻于宁波，笔受者名士朱宗元也。

（二）《辩敬录》一卷。

（三）《天学四镜》一卷（徐家汇藏钞本），一作《照迷镜》，一六四三年有宁波刻本，前有张能信、姚胤二人序。

（四）《圣号祷文》。

（五）《炼狱祷文》。此二祷文土山湾尝有合刻本，题曰《周主日祷文》（一九一七年书目四四七号）。

八三 徐日升 瑞士人

一六〇九年生——一六二八年入会——一六三八年至华——一六四〇年歿于杭州。

- 247 徐日升(Wicolas Fiva)神甫字左恒，出生于瑞士弗里堡(Fribourg)。一六三五年赴中国，时尚未晋司铎也。一六三八年晋司铎后赴南京，辅助毕方济(第四〇传)神甫，已而至杭州。有某閤老者，爱敬天主教，日升赖其助，数周中得入教者一百五十四人，中有士人数人，及以文学著名之官吏一人；其人教名儒略(Jules)，常随日升为讲

说教义人(巴尔托利《中国耶稣会史》,一一四〇页。)

不幸一六四〇年日升得疾歿,葬方井。

八四 万密克 德意志人

一六〇六年生——一六二三年入会——一六三八年
至华——一六四三年歿于蒲州。

万密克(Michel Walta)神甫字潜修^①,慕尼黑 人。肆习
哲学、神学全部课程毕。教授文法四年,数学一年,然后在一
六三五年赴中国。一六三八年与徐日升(第八三传)神甫同被
派至南京,已而赴山西,建一新堂于蒲州府。旧堂为高一志
(第二六传)神甫所建立,至是因金弥格(第七〇传)神甫及密
克劝化入教之人甚众,不足以容,故建新堂。(杜宁-茨博特
《中国历史》,一六四三年部分。)

①钩案:北平图书馆藏钞本作万密格,字一实。

一六四三年群盗陷蒲州,纵火焚城。密克受重伤,逾三日
死。教众葬之某门附近。(卫匡国《中国新地图志》,二六页。
上引杜宁-茨博特书,一六四三年部分。)然亦有人谓其未死,
创愈后重兴教堂,尚在世若干时,盖一六四五年《名录》尚著录
其在蒲州也。

八五 卢安东^① 意大利人

一五七八年生——一六四三年歿。

- 248 一六三九年视察员李玛诺(第二〇传)神甫歿, 卢安东(Antoine Rubino)神甫继其任。安东从未至中国, 然初隶中国副教区之海南岛传教区, 改隶日本副教区, 则出安东之命。缘澳门会团隶属日本教区, 传教海南者得易受澳门之供给也。安东自赴日本, 而在一六四三年三月二十二日偕同伴四人殉教于长崎, 受难前受土窟刑凡六日, 于七个月中受水刑凡一百零五次。

①钩案: 原缺汉姓名, 卢安东乃新译名。

同伴四人中一名曼辛斯基(Albert Mencinski), 波兰人, 受土窟刑七日, 而于三月二十三日殉难; 一名卡派西(Antoine Capecci), 意大利人, 一名莫拉莱斯(Jacques Morales), 葡萄牙人, 一名马克兹(François Marquez), 其母系出藩主(Fraçois de Bungo), 此三人皆于受刑后九日死。

曼辛斯基神甫曾被荷兰人俘留台湾六月, 曾遗有一本记事及卢安德(第五六传)神甫传。〔参看德卢兹比基(Druzicki)神甫所撰此人传记, 九〇、九四页。〕

安东死后, 继其后任者是阿则维多(Emmanuel de Azevedo)神甫, 其人曾在一六四四至一六四六年间为中国日本视察员, 驻澳门。

其遗著列下:

(一)《耶稣会士在华培养新教友之方法》。马尔提尼(Phil. de Martini)神甫将此书译为葡萄牙文,四开本,里昂,一六六五年。(索默尔沃热尔《书目》,卷五,五八三、六四五栏。)

(二)萨罗格里亚(Saroglia)神甫所撰《卢安东传》载有安东信札多件。

(三)别有信札若干,藏布鲁塞尔的勃艮第图书馆(参看索默尔沃热尔《书目》,卷七,二八〇栏。)

八六 梅高 葡萄牙人

一六一一年生——一六二八年入会——一六四

〇年至华——一六四四年歿于南昌附近。

梅高(Joseph-ÉtiEnne d'Almeida)神甫字允调^①,葡²⁴⁹萄牙埃斯克伊拉(Ezqueirra),修业未毕东迈。在果阿抑在澳门完成其学业,教授数学二年。一六四〇年派至陕西。一六四三年内乱起,避居江西。乱时曾与郭纳爵(第七五传)神甫同被李自成俘获,已而释还,语具纳爵传。一六四四年鞑靼陷南昌,高与谢贵禄(第六六传)神甫、郭玛诺(第六一传)修士同在南昌附近遇匪,皆被害。葬南昌城外。(参看《谢贵禄传》)^②

①钩案:北平图书馆藏钞本作字月清。

②高龙鞞神甫补注云:罗马名录著录其在澳门,一六五

○年名录无其名。

八七 李方西 意大利人

一六〇八年生——一六二四年入会——一六四〇年至华——一六四九年五月九日发愿——一六七一年歿于安庆。

李方西 (Jean-François Ronusi de Ferrariis) 神甫字六字, 培蒙特城人。在米兰完成学业后, 一六三七年偕马斯特利里神甫在里斯本同舟东迈。一六四〇年抵中国, 初在陕西传教。一六四九至一六五七年间则传教山东及淮安等地。江西有老善人名周方济 (Francis Tcheou) 者, 曾经方西劝化入教, 全家皆受洗。一六五三年作大布施, 方西以其金在济南购大地一方, 建筑教堂一所, 传教师住宅一所。某次官厅谓其传布邪说, 拘之
250 至, 欲予杖, 旁有人呼曰: 此汤若望友。问官闻言惊起, 致歉词, 礼送之归, 足见当时若望声誉之大也。(汤若望《……耶稣会传教区的创建和发展史》, 一四八页。鲁日满《鞑靼中国史》, 一二九页。)

一六五七年方西因北方传教会财务, 代表赴澳门, 而在澳门任会计员。居澳二年, 于一六五九年还陕西。是时陕西省有教民一万二千人, 一六六三年增至二万。所居之西安府有教堂二所, 诸属县有教堂八所, 诸村镇有教堂五十所, 小堂无数, 别有传教师宿站十三处。(聂仲

迁《中国历史》，二四五页。)

教众有会团四十，竞相劝化教外人入教，且有舍己业而专事传教者。方西日夜勤劳，几无暇时，然未能遍至各处，较远之地则由曾经训练之教民代之。有一人曾劝化三百人入教，又有赵姓者在西安北四百里之三水、宜君两县，为多数人授洗，而志愿受洗人之数尚有一百三十人。(毕嘉《中国天主教之发展》，第一编，第六章。)又有一人远至甘州劝化三百人入教。(同上，第四章。)

适在教务发达之际，四辅政大臣禁教拿问教师之旨下。方西时不在西安，可以避免也，诸教民皆劝其逃，并为其预备藏伏之所，方西不听，还西安，自投于官，五日后下狱。狱狭甚，居二十余人，处其中者几难动转。方西居其中亘四月，内二月与穆格我(第一〇七传)神甫共处。(上引聂仲迁书，二四五、二四六页。)

教民处此教难之时，皆表示其诚笃信心，与其神甫 251 共患难。方西在狱中劝化狱囚，并以教民所赠之财物饮食施之。官恐其得狱众心，禁不许。方西之讲说教义人名伯多禄，颇忠诚，曾随之入狱，随之至京师，随之谪广东，而歿于广州，年五十岁。(同上，二五〇、二五一页。)

方西、格我在一六六五年中解京师，复由京师与诸神甫同解广州。越六年事解，方西将还陕西，而在一六七一年歿于安庆。毕嘉(第一一八传)神甫运其柩葬西安城东南三里之沙波村。(《道学家传》。柏应理《中国基督徒许太夫人贵府史》，八六、八七页。)

八八 安文思 葡萄牙人

一六〇九年生——一六二四年入会——一六四〇年至华——一六六〇年二月五日发愿——一六七七年五月六日歿于北京。

安文思(Gabriel de Magalhaens)神甫字景明,葡萄牙大航海家麦哲伦(Magellan, 一四七〇——一五二一年)之后裔也,出生于科英布拉州之佩特罗加斯村。诸父某为主教参议会会员,文思幼养于其家。嗣后在科英布拉大学肄业,年十六岁入耶稣会。肄习修词学及哲学毕,赴印度。一六三四年抵果阿,教授修词学二年。肄习神学毕,得艺师号。又在澳门教授哲学一年,应赴日本,然视察员留之,而在一六四〇年遣之随华官某同往杭州。(利类思《安文思传》,后附安文思著《中国新志》。)

会利类思(第八〇传)神甫病于四川,无伴侣慰劳,文思乃请于副区长,愿赴蜀为类思伴。一六四二年八月二十八日抵成都。随类思肄习中国语言文字,未久遂精通。嗣后历经僧人之陷害,张献忠之俘虏,语具利类思传。

满兵攻献忠,二神甫逃山中,为满兵所获,类思头受箭伤^①,文思臂为箭穿。

①类思撰文思传则谓其腿为箭穿,箭镞深入。

是日之夜见主将,肃王见其长须,询其是否识汤若望。文思答曰:“是我长兄也。由是被善待,命部将妥为

看护，已而送之至京师。未至京师前尚受劳苦垂一年也。

（参看第八〇《利类思传》。）

文思等抵京师后，迄于受知皇帝时，中间凡七年，皆 253
从事于传教。受知后帝赐房屋银米，文思为报知遇之恩，
曾制若干奇器进呈，然于从事制作中，未尝废弛教务也。

文思与其相随不离之伴侣利类思神甫，同管京师及
近畿教务。当时正定府有教区七所，保定府二所，河间
府一所，山中一所。此外诸城中有驻所十四处，数处各有
教堂一所，其他村镇尚未计焉。一六六三年京师受洗者
五百人，近畿受洗者千人。次年受洗者七百人。据利类
思神甫云：若无禁教之事起，受洗者人数可逾二千。（上
引毕嘉书，第六章。）

顺治皇帝卒（一六六一年）后，辅政大臣执政之初，文
思有仆役数人，诬告文思，谓其对于某革职官吏有所馈
赠，此在中国为大罪也。一六六二年文思受鞠讯，受夹棍
二次，拟绞。辅政大臣等释不问，盖欲为一网打尽之计
也。（利类思撰《安文思传》。）

已而仇教之事起，京中诸神甫皆被拘，头、手、足各带
锁链三具，居狱中凡四月。后各杖四十，拟流关外，会地
震及其他天灾起，诸神甫皆获免，然仅许文思及汤若望、
南怀仁、利类思四人留京师，余发遣广东看管。自是以后，
文思遂不复能尽其传教之职，而执工匠之业，为幼帝康
熙制造器物，盖欲以此博帝欢，俾能继续传教也。（同上）

文思因此有一次献一人像于帝，像内置机械，右手
执剑，左手执盾，能自动自行，亘十五分钟不息，又有一

- 254 次献一自鸣钟,每小时自鸣一次,钟鸣后继以乐声,每时乐声不同,乐止后继以枪声,远处可闻。(南怀仁《欧洲天文学》,九二页以下。)

文思自一六四八年入京,居京二十九年,未尝远离,仅有一次奉帝命赴澳门。〔伯农(Bernon)《中国新志》序言。〕文思持戒严,慎守教会规则,然有时过严,南怀仁神甫因是常受其窘。文思以为怀仁受钦天监正职务,则为违背教规,故常诉怀仁之过于会中高级职员,而会中人特为怀仁调解。文思判断虽有错误,然笃守会中规律,有足多也。(杜宁-茨博特《中国历史》,一六七七年部分。)

文思弃世前三年,两足夹棍伤发,痛甚,继之以肿,夜不成眠,如是者三年,终于一六七七年五月六日歿。康熙帝降谕赐银缎,以助殓葬。

其遗著列下:

(一)《超性学要》二卷。钩案是编即《复活论》之总名,费赖之误以其别为一书,详见第八〇《利类思传》《超性学要》条。

- 255 (二)《复活论》二卷,多玛斯原作之译文也。

(三)《中国十二优点》,是为文思一六六八年手写本之标题。柏应理(第一一四传)神甫携此本至罗马,以授伯农,译为法文,并加注释,题曰《中国新志》。利类思神甫撰《安文思传》附此编后。(参看第八〇《利类思传》二十一号书。)文思是编历述中国之古事、文学、风俗、宫室、商业、工场、航务、政治诸门。中有一章记宫内事,述各级

官员甚详。文思久居中国，娴悉语言，常与朝中要人相过从，所记故较他人为正确，至今尚不失为佳作也。（索默尔沃热尔《书目》，卷五，三〇七栏。伯农《中国新志》序言。）

（四）一六六九年二月二日作于北京之信札，历述一六六四年以来仇教事，附殷铎泽（第一二〇传）神甫所撰《中国教会状况概述》（罗马，一六七二年）后。

（五）《一六五一年中国著名大盗张献忠暴行记》。是编记张献忠事。卫匡国（第九〇传）神甫曾采其文作《鞑靼战记》。原写本现应藏罗马耶稣会档案中。杜宁-茨博特神甫记利类思、安文思二神甫事曾大采其文也。

（六）《江南四川行纪》，此本在一六四三年寄回欧洲。见《中国新志》，五五页。

（七）文思应曾着手于中国历史之纂辑，盖《中国新志》三八页引其说云：“前中国副区长，后中国日本视察员傅汎际（第四五传）神甫，命我撰此国历史及教务发展史，至今有十八年矣。我曾从事撰述，然因仇教之事起，未能续成之。”

（八）文思曾言尚撰有中国文字语言。他说：“我曾采辑诸神甫所撰诸书中所用一切汉文的神学和哲学术语；又曾撰有孔子书注，以备新莅此国者之需；又用汉文撰有《复活论》一编。”此数书今皆未见。（参看索默尔沃热尔《书目》，卷五，三〇七栏。）

八九 费藏玉^① 中国人

一六一五年生——一六三八年入会——一六四一年入内地^②——似在一七〇〇年歿。

费藏玉(Louis de Figueredo)修士字尔成,一六一五年生于澳门。一六三八年在澳门入会,修业毕在一六四一至一六四二年间派入内地。据一六四八年目录,著录其上海,与潘国光(第七九传)神甫为伴;居十九年为会计事务赴澳门。一六六三年、一六七三年和一六九二年名录皆著录其为会计员。似歿于澳门,歿年不在十七世纪末年,即在十八世纪初。

①钩案:原作费类思,北平图书馆钞本作费藏玉,字尔成,据改。疑是第五八传费藏裕之弟。

②薛孔昭《名录》作一六七三年。

九〇 卫匡国 意大利人

一六一四年生——一六三一年十月八日入会——一六四三年至华——一六五四年发愿——一六六一年六月六日歿于杭州。

卫匡国(Martin Martini)神甫字济泰,意属提罗耳首府特兰托城人。在罗马学校肄业,并从吉尔切

(Kircher) (《附图中国志》，前言)神甫特别肄习数学。一六四〇年由洛波 (Jérôme Lobo) 神甫率领，与同伴二十一人，附印度总督阿维拉斯 (de Aveiras) 伯爵统率之舰队赴印度。(弗兰科《一六四〇年卢西塔尼亚教省年鉴概要》)十一月六日抵果阿。同行者仅匡国一人于一六四三年独至中国；余人仅有数人在数年后继踪而往。

初至浙江之数年中，适当朝代更易之时。因鞑靼侵略，内乱，不忘旧主者之举义兵，地方不靖，未能久居一地。匡国在《中国新地图》题词中曾言其游历若干省，北至京师，抵于长城。所经数省一一图而测之，定其经纬。一六四六年还杭州，在兰谿建立新教堂一所。居此两地四年，传布宗教。尝至福建，在漳州一老士人家见犛皮书一册，上书峨特 (gothique) 体字，大半是拉丁文圣经。匡国出重资购之，老士人以此书传有数代，不允。〔格鲁贤 (Grosier)：《中华帝国概述》，一卷，九八页。〕

鞑靼取杭州时，匡国在距杭不远之 Wen-Choei，寓一大宅中。尚有数人避难此宅，或求生，或待死。及闻鞑靼兵至，匡国题其门曰“泰西传布圣法士人居此”。将所携之书籍，望远镜及其他诸异物陈列桌上，于中设坛，上挂耶稣像。鞑靼见之惊异，未加害，其主将召匡国至，礼接之，去其汉人衣，易以鞑靼服，遣回杭州教堂，出示禁止侵犯。

一六四八年为二百五十人授洗，中有士人数人，又有云南著名进士一人教名保禄。时杨廷筠女〔教名阿格奈

(Agnès)亦率诸贞女布教杭州。(前引杜宁-茨博特书,一六四八年部分。)

一六五〇年被选为会计员赴罗马。自福建登舟,赴
258 菲律宾群岛,转附海舶赴欧洲。舶主荷兰人,经望加锡(即乌戎潘当)^①西迈,海行顺利,惟至英、法海峡遇逆风吹至爱尔兰、英吉利之北而抵挪威。匡国遂绕道,经行德意志、比利时,沿途备受各国学者欢迎^②。抵荷兰之阿姆斯特丹,即从事于《中国新地图志》及其他诸书之刊行,然会中命令至,促其赴罗马。

①时荷兰人占领望加锡未久。匡国以中国新近革命事语荷兰人,荷兰公司遂决于一六五五年遣使赴北京。(《北京传教士记录》,卷 II,一九页。)

②参看巴耶(Bayer)《中国博物志》,序言,二〇页。

一六五四年抵罗马,发四愿。经五越月之长期讨论,始获得教皇亚历山大(Alexandre)七世与枢机省之许可,降谕许用中国礼仪。此谕颁布之时在一六五六年三月二十三日^②。

①关于此问题,可参看普雷《中国礼仪之争史》。

匡国事毕赴葡萄牙,于一六五七年在里斯本偕选派之教士多人乘舟东迈。此次海行不及前次之顺利。始为海盗俘,备受虐待,继受风波之苦,数濒于危。据毕嘉(第一一八传)说,同伴十七人死者十二^①。然匡国虽历经艰险,尚不以为苦。(前引索特威尔书,第一章。)

(1)参看第一二一《陆安德传》附注,其中列有歿于海上数人名。

顺治帝闻汤若望神甫言，知匡国从泰西还，特为颁给凭证，许匡国及其同伴入境，并召之赴京师。命广州官吏供给舟船，及旅行必需诸物。赖此凭证入境者，计有神甫十四人，沿途颇受优待。（聂仲迁《中国历史》，一三页。）

一六五八年至杭州，得浙江巡抚佟国器之助，建筑新堂，修理旧堂，诸堂为之焕然一新。杭州教堂在其后任洪度贞（第一〇一传）神甫时落成，为中国全国最美丽之教堂，后毁于火^①。匡国一六六一年六月六日歿。

①此堂在一名天水之地，由佟巡抚之妻 Agathe 与肃王妃 Judith Tchao（见第八〇《利类思传》注④）出金建造，在一六五九年动工，一六六一年洪度贞神甫布教时代落成。然匡国曾在一六六〇年举行开堂礼，时受洗者二百零七人。（前引杜宁-茨博特书，一六五九年部分。）

匡国为人谨慎、温和、仁慈而博学，教内外人皆重之，病危时官吏常来视疾。葬杭州城外方井南。

葬后十八年，即一六七九年时，其尸未变，殷铎泽（第一二〇传）、柏应理（第一一四传）、白晋（第一七一传）诸神甫并言之矣。殷铎泽神甫改葬其遗体时，启棺视之，尚未腐坏，毫无臭味，容貌如生，衣服亦未缺损，教内外人争往瞻视。（前引杜宁-茨博特书，一六七九年部分。前引柏应理书，八九页。）嗣后迄于最近时代尚保存如故。瞻礼日教民辄赴墓所，坐遗骸于椅上，为理其须发，而后为之祈祷。崇拜偶像之人亦奉之为神，在墓前焚香祀之，其尸忽化为灰^①。

①北京代主教田类思(Delaplace)先为浙江代主教时目击此事。(费赖之注)——一八七六年至一八九三年间传教浙江之赫克曼(Heckmann)神甫亦曾手记其事。

260 其遗著列下:

(一)《天主理证》一卷。

(二)《灵魂理证》一卷。

上二书土山湾有合刻本,(一九一七年书目附目九〇号)前有马相伯序。钩按是本题曰《真主灵性理证》,相伯先生序称:“匡国刊述之书颇多散失,即如《灵性理证》第二十二篇,所见本亦全缺。兹补缀而重刊之。”则今本已有所补,非原帙矣。

(三)《述友篇》一卷,一六六一年杭州刻本,前有张安茂、徐尔学(光启孙字顺之)、祝石(字子坚,兰谿人),三序。今见本缺安茂序。是篇与利马窦神甫之《交友篇》性质相同。

(四)匡国曾用汉文撰有《辟轮回说》,今未见。按阳玛诺(第三一传)神甫之《代疑编》已有此说。

(五)《中国新地图志》两卷,阿姆斯特丹,一六五五年。是书曾译成数国语言。凡图十七,附说明一七一页:中国总图一,直隶,山西,陕西,山东,河南,四川,湖广,江西,江南,浙江,福建,广东,广西,贵州,云南。十五省, 261 每省一图,附日本图一。诸图于十五省之重要城市,皆绘有经纬度数,以北京经纬线为主。其后刊行人附以戈略斯(Golius)之《附录》及匡国之《鞑靼战记》(后第七号

书)。前有绪言二十六页,略述东亚大势,与夫中国各省之疆界,人民,贡赋,民俗,土产,稀见之草木,城市之古今名称,工业,名胜,山川。所本者疑是十七世纪初年之广舆记。当时识中国之舆记,要以是编为最完备正确,尚可备今日之参考。杜赫德神甫在一七三五年所撰之书,虽晚出,然后来未能居上也。〔索默尔沃热尔《书目》,卷五,六四七栏。劳弗尔(M. B. Laufer):《中国之名称》,载《通报》,二辑,卷八,一九一二年,七一九页。〕说,以支那之对音本于秦(公元前二四九年至公元二〇六年)者,即首先见于匡国之《中国新地图志》,今人大致皆采其说①。

①劳弗尔误以是编在维也纳出版,其实在阿姆斯特丹出版,而维也纳乃为一六五五年一月七日核准刊行之地也。参看曾德昭《中国通史》,四五五页。

(六)《中国先秦史》,记述中华民族伊始至基督诞生,四开本,慕尼黑,一六五八年。曾经佩尔蒂埃(Pelletier)道院长译为法文,巴黎,一六九二年。在冯秉正(第二六九传)神甫之《中国史》出版前,记公元前中国古代史之书,只此一本足备参稽。

(七)《鞑靼战纪》,记述鞑靼人通过战争侵占全中国,及鞑靼人习俗简介,八开本和十六开本,安特卫普,一六五四年;十二开本,科隆,一六五四年;十二开本,罗马,一六五四和一六五五年;十二开本,阿姆斯特丹,一六五五年。法文译本一六六七年在里昂出版,附曾德昭(第四一传)神甫《中国通史》后。(索默尔沃热尔《书目》,卷五,六四七栏。考狄《西洋人论中国书目》,六二三页。)

262 (八)《中国基督教徒数量和素质的简述》，四开本，罗马，一六五四年。此书乃递呈传教省诸枢机员者。

(九)致吉尔切尔书，其中有许多令人注目的观察资料，见吉尔切尔《磁铁术》。

(十)帐房卫匡国去传信部的行动，手稿。

(十一)《耶稣会士卫匡国交安德肋·阿贝琪(Andréan Aperger)带来的中华帝国新世界报》，四开本，八页，奥格斯堡，一六五四年(考狄《书目》，一〇八三页)。

(十二)匡国旅行欧洲时，曾以所撰《中国文法》赠戈林斯(Golins)。此书颇有助于蒙采尔(Mentsell)和巴耶二人。(巴耶《中国博物志》，卷一，七〇、八八页。)

(十三)匡国曾将苏亚雷兹(François Suarez)之著述与一宁波人名 Tchou Cosma 者^①着手翻译，工作垂二年(一六四八至一六五〇年)，旋因派往罗马，译事中止。(上引杜宁-茨博特书，一六四八年部分。参看索默尔沃热尔《书目》，卷五，六四六——六五一栏。)

①钩案：此人疑是朱宗元。

九一 穆尼阁 波兰人

一六一一年生^①——一六三五年入会^②——一六四六年至华^③——一六五六年九月十七日歿于肇庆。

穆尼阁(Jean-Nicolas Smogolenski(Smoguleki))神

甫字如德，其家与波兰诸望族为姻娅。以纳克斯克(Nakelsc)州让弟而入耶稣会。曾在罗马学校肄习一切学业，并肄习法律两年。一六四四年自请派赴中国^④。一六四六年传教江南。一六四七至一六五一年间在福建，始与 263 艾儒略(第三九传)神甫共事，继与瞿洗满(第六三传)神甫相随。汉人据建宁^⑤，鞑靼复攻陷之，纵火焚城，教堂驻所尽毁，尼阁、洗满走建阳。

①薛孔昭《名录》作一六〇九年。

②薛孔昭《名录》作一六二五年。——补注云：据巴黎《传教史杂志》一九二九年刊三四五页引波兰教区名录，入会时在一六三六年十二月十四日。

③前引杜宁-茨博特书(一六四七年部分)作一六四三年，与汉文钞本著录之年同。

④弗兰科〔《一六四四年卢西塔尼亚教省年鉴概要》〕神甫云，时与尼阁同行者尚有神甫六人，皆是派往中国者。其名曰：穆拉(Louis Moura)，葡萄牙人；拉法尔(Jean Rafael)，意大利人；菲诺卡罗(Jérôme Phinocar)，籍贯未详；赛开拉(Barthélemy Sequeira)，卡斯提拉人；汪夫卢登(Henri Vanvlurden)一六〇八年四月十八日生于马斯特利奇城。兹数人行踪皆未详。补注云：意大利籍神甫拉法尔在未抵爪哇前抵于舟中，质言之，在一六四四年十月以前，见巴黎《传教史杂志》一九二九年刊三四七页。

⑤时在一六四七年。尼阁、洗满二人被绑赴刑场获免，语具第六三《瞿洗满传》。

尼阁至建阳又经他险。洗满赴乡传教时，尼阁适与县官谈论算术。民众疑此二人为间谍，一人出外通敌，一人将以城献，群赴县署拟执而杀之。有教外人某冒险奔告尼阁，尼阁避居其人之家。所有衣物及算学器械皆失。（上引杜宁-茨博特书，一六四七年部分。）

福建省历经内战饥馑，艾儒略神甫恐尼阁居危地，召之赴南京。居未久，教务发达。（同上，一六五六年部分。）

一六五三年顺治帝欲见之，召之赴京师；尼阁请往关东一带传教，帝以关东一带危险，勿庸前往，如以居京不便，可随意往来内地各省。尼阁于是持有凭照，历行数省，所至之地，备受官吏优待。（上引鲁日满书，一九八页。汤若望《一五八一——一六六九年中国教务情况简介》，二二五页。）

云南无传教师，尼阁拟往，然因永历与鞑靼战，未果
264 行。一六五五年至广东，得总督之介绍书，托利马第（第九九传）、王若翰（第一〇〇传）二神甫，俾往海南。尼阁随往，居数月，介绍二神甫于要吏，已而至定安，索还林本笃（第六八传）神甫房屋。（马利尼《日本与安南东京耶稣会神甫传教区》，四三八页。上引杜宁-茨博特书，一六五五年部分。）

尼阁居海南时，有官吏某久事永历，曾经瞿安德（第九二传）神甫授洗而入教，至是未见尼阁。据说永历子当定（Constantin）朝中有一耶稣会神甫名巴波萨（Michel Barbosa）两年前在海南湾中与其他共载之葡萄牙人沉于

薄，被诸小舟救出，现皆在此王朝中服务，而此王现尚据有中国南部数省也。当定王室多人教，而指导者乃太监庞天寿也。此海南官颇受汉人鞑靼人之敬重，对于尼閣深致敬礼，言时必跪于前。（上引马利尼书，四三九页以下。）^①

①钩案：此节疑出传闻之误，当时永历子年七岁，正随永历奔走流离，曷从有此当定朝？疑是永历朝之误。至巴波萨殆是卜弥格（第九三传）之误传。可参看《西域南海史地考证译丛》三编一三八至一三九页注二十一。

已而尼閣觉大限将至，于离海南前，向二神甫之一人作全部之告解，然后赴两广总督驻在之肇庆。既至肇庆，寓其友某大吏家，忽得暴疾死，时在一六五六年九月十七日。教内外人皆惜之，其传教之伴侣尤甚。（上引杜宁-茨博特书，一六五六年部分。上引马利尼书，四四一页以下。）

其遗著列下：

（一）尼閣居南京时，授泰西天算之学于士人薛凤祚，凤祚因刊刻下列二书：（一）《天步真原》，推算日月交食 265 之书也，三角之输入，似以此书为始；一题《天学会通》，亦言推算交食之法，将中西法融合为一。《四库全书》并收入。阮元《皇清经解畴人传》皆题为尼閣撰。（参看伟烈亚力《中国文献注释》，九〇页。）

（二）《人命部》一卷，附《天步真原》后，乃言星命之书也。旧题尼閣撰，伟烈亚力（同上，一〇六页。）亦题尼閣

撰，然谓尼阁撰此诞妄之书，理不可解。余以为此书出薛凤祚手，盖柏应理、卫匡国之书录以及诸汉文钞本，皆未言其为尼阁之撰述也。鈎案《守山阁丛书》本，书题作《天步真原人命部》，三卷，西洋穆尼阁撰。前有凤祚叙称壬辰（一六五二年）余来自下，暨西儒穆先生闲居讲译，详悉参求，益以愚见，得其理为旧法所未及者有数种云云。则是编出于凤祚甚明，旧题尼阁撰，误也。昔日治历数者，兼治子平星命之术，西法中亦为星命之术，疑凤祚曾质西法星术于尼阁，得其说，参以此土星命之说，而成是编。又考温葆琛《春树斋丛说》云：“国朝康熙年间西士穆尼阁氏著《天步真原》数种，隐然与《汉志》说合。其一曰性情部，则日月七政与在天经星性情咸备。其二曰世界部，谓七政之会冲，方可知晴雨寒暑也。其三曰人命部，选择部，则此星命术之妙用。近与舒继英、于兰林不同，远亦与蒋大鸣氏有径庭矣。原书薛北海凤祚为叙刻之。”后云：“选择部原本仍题曰回回历选择。”知尚有选择部一编尚佚而不传，而《天步真原》盖为全书之总题也。

（三）世界椭圆图。

九二 瞿安德 德意志人

一六一三年生——一六二七年入会——一六四六年
至华——一六五一年十二月十二日歿于广西。

瞿安德(André-Xavier Koffler)神甫一名纱微，字体泰，凯姆斯城富家子，世奉路德教者也。父为商人，丧妻，携

褚子居拉提斯邦城，改奉天主教。安德幼名沃夫格兰德（André-Wolfgang），改教后名安德纱微（André Xavier）。一六二七年入耶稣会。就学时精研神学、数学。一六四〇年^①在里斯本登舟赴中国，比至，即与明朝最后诸王共患难。

①钩案：其登舟年似应从伯希和说，作一六三九年，参看《西域南海史地考证译丛》三编，一二四、一二五页。

澳门曾遣葡萄牙兵三百人援助永历，安德尝与其主将弗雷拉（Nicolas Fereira）相随。永历（在位年始一六四七——一六六三年）被广州官吏所弃时，太监庞天寿（教名亚基楼）亦有求去意，曾取决于安德，安德答曰：“一天主教徒处大事时，不可计生死，应崇天主而忠于其君。广东官吏之拥戴永历为帝，公为主谋，由是应患难相随，助其复国。与其走，勿宁死，使后人知君为忠臣，以身殉主。”（前引杜宁-茨博特书，一六四七年部分。）

天寿意遂决，不复求去。遵安德意为幼主、太后、皇后讲说天主教义，冀渐诱之入教。广西巡抚瞿式耜^①与总兵焦璉（Luc Tsiao）^②皆天主教徒，安德赖其力，在桂林建立教堂一所。又劝式耜助其传教安南，式耜致书于安南王，优礼诸传教士，由是一六四六年内六个月中入教者一万二千人。（孟戴宗（de Montézon）《交趾支那与交州教区》，五五页。）

①式耜名见艾儒略（第三九传）、毕方济（第四〇传）二神甫传。

②补注云 Luc Tsiao 亦作 Lu Tchéu 或 Tsin, (杜宁-茨博特作 Cin) 与焦琰似为二人, 参看《明史》卷二八〇《瞿式耜传》。萧神甫《天主教传行中国考》(第一卷, 二三三、二三四页) 则谓此二人为一人。

太监庞天寿荐安德于朝, 宫中后妃对天主教义知之愈审。皇后尚游移, 天寿进言曰: “昔有不少帝后入地
267 狱, 后如不入地狱, 则应受洗守诚。” (《维尔特-博特》, 二一九号。)

诸后妃经安德、天寿劝化后, 遂在一六四七年^①四月于永历及全宫人在场时受洗。受洗者五人。永历嫡母教名烈纳(Hélène); 永历生母教名玛利亚(Marie); 永历后教名亚纳(Anne); 永历嫡母之母教名朱丽(Julie); 皇女教名阿加斯(Agathe)。朝中颇有非议者, 诸后主不顾也; 烈纳太后且命其子, 入见时须先礼救世主像。

①钩案: 据伯希和考证, 应作一六四八年, 参看《西域南海史地考证译丛》三编, 一三六页至一三七页。

永历帝耽于逸乐, 未从诸后入教。永历妃先生一子早夭, 至是正后产生一子。皇子病, 永历始从诸后言, 许其受洗, 遂由安德举行, 教名当定。皇子疾瘥, 永历帝遣使赍重礼自肇庆赴澳门, 以赠教会。诸后别物赠视察员, 日本教区区长, 会团长。使臣于一六四八年十月十七日抵澳门。又命卜弥格(第九三传) 神甫往使罗马^②。

②昔有疑诸后妃入教及卜弥格奉使之不实者, 诚无理由。马利尼神甫后数年抵澳门, 曾为辩证其事云: 永历经安德劝化, 是否入教虽不可知, 然太后烈纳、皇

后亚纳、皇子当定之入教，盖事实也。除当时之人证外，尚有太后及庞天寿致教皇及耶稣会长书，今尚存也。二后遣使赍厚礼赴澳门举行弥撒，亦一公开事实。致卜弥格奉使事，语具第九三传。

数月后永历帝命安德赴澳门求援，澳门参事会及澳门总督遣兵一队炮二门赴援。（上引杜宁-茨博特书，一六四八年部分。）²⁶⁸

澳门兵盖助防广州者，缘鞑靼复又进兵围广州也，永历又弃肇庆，走广西，闻广州陷（一六五〇年）又逃贵州。安德遁他道，欲往从帝，所乘小舟在广西贵州交界处被鞑靼兵追及。

安德登岸欲逃，鞑靼兵至，遂遇害，时在一六五一年十二月十二日也。太监庞天寿命人寻其尸，葬于被害之地。（上引毕嘉书，第二章。上引杜宁-茨博特书，一六五二年部分。）

其遗著列下：

（一）《维尔特-博特》，第十号载有信札一件，系在一六四二年十二月三日从巴达维亚致奥国区长卢莫尔（Jeam Rumer）者。此书述巴达维亚城事，且言荷兰人对彼与其同伴待遇甚厚。末言是年有耶稣会士四（应作五）人在日本受难。

（二）别有信札两件藏亚庞伊（Apponyi）图书馆；一件作于一六四一年十一月十九日，是自苏拉特致苏莫拉克尔（Sumeraker）神甫者；一件作于一六四二年一月二十七日，是自果阿致奥国区长者。皆言行程。²⁶⁹

(三) 安德曾将长崎商业主席戴斯德拉奇 (d'Els - dracht) 所撰关于卢安东神甫被害之记录, 由佛刺明文译为拉丁文。〔参看坦奈尔 (Tanner) 《不惜流血牺牲的耶稣会士》, 四一二页以下; 法文译本后附嘉尔定《六十一位基督徒殉教记》(里尔, 鲁昂, 一六四三年。)〕

(四) 佛刺明语信札数件, 并作于一六四八年。

(五) 一六四四年十一月二十七日致阿勒甘布神甫书。(参看索默尔沃热尔《书目》, 卷四, 一一三六栏。)

〔附〕阿则维多 葡萄牙人

阿则维多 (Emmanuel de Azevedo) 神甫, 葡萄牙人, 一六四六年至华 (薛孔昭《名录》, 八二号)。余无考。

九三 卜弥格 波兰人

一六一二年生——一六二九年入会——一六四九年至华^①——一六五〇年发愿——一六五九年八月二十二日歿于广西边境。

卜弥格 (Michel Borm) 神甫字致远, 父为波兰国王西吉斯蒙德 (Siggismond) 医官。弥格幼年殆亦习是业, 270 观其后来在其著作中表现之医学知识, 迥异常人, 可以知之。然竟弃世修行, 而于一六二九年在波兰教区入耶

稣会。卒业后，于一六四三年在里斯本附舟，一六四五年抵安南北圻之传教会。居数年，于一六四七年赴海南岛。（杜宁-茨博特《中国历史》，一六四七年部分。）一六五〇年还澳门，发四愿，曾德昭（第四一传）神甫遣之至广西，在永历朝辅助瞿安德（第九二传）神甫。

①薛孔昭《名录》作一六五〇年。

新近受洗之明朝皇后欲遣使至罗马，谒见教皇，初拟命太监庞天寿往，然天寿未能远离，兹见弥格至，欲命弥格往使。安德、弥格请命于澳门诸道长，诸道长许之，弥格乃受命。

弥格持有烈纳太后致教皇及耶稣会会长尼克尔（Goswin Nickel）书各一件，又庞天寿致教皇及耶稣会会长书各一件。两书后题年月，可当一六五〇年十一月一日，余两书则题同年同月四日，皆汉文，并译为拉丁文^①。书意大旨在求教皇代求天主保佑，更冀多遣耶稣会士来华。天寿遣其左右二人随行，一人名罗若瑟，一名沈安德^②。（上引杜宁-茨博特书，一六四九年部分。）

①拉丁文译文见马利尼《耶稣会神甫传教区》，五四一页；吉尔切尔《附图中国志》，一〇〇页；上引杜宁-茨博特书，一六四九年部分。汉文原文曾经上海商务印书馆总经理张元济在教廷档库发见，转载于《圣心报》一七二七年八、九月刊。

②钩案：罗若瑟原作 Joseph k'o，沈安德原作 André Sin, kin，兹从伯希和考证之名改正，而假定其汉姓为罗为沈。原注云：据上引吉尔切尔书，若瑟作玛竇（Matthiën），疑其人有二名。案此玛竇是白乃心（第一一九传）神甫之伴

侣,亦经伯希和考出,非一人也。参看《西域南海史地考证译丛》三编,一四一——一四四页。

弥格抵澳门,由其同伴在主教区教会管理人前,证明
271 弥格有太后致教皇书,并在教会公证人前证明。中国日本视察员马雅(第九八传)神甫付与许可证,许其赴罗马商议某种事务,并亲见会长。莫里亚波尔(Méliapor)城大主教致教皇英诺森十世书,埃塞俄比亚总主教致耶稣会会长书,皆证明命使节之事非伪;盖以所持国书,其事毫无可疑也。

一六五一年一月一日,弥格自澳门登舟赴果阿,行经莫卧尔帝国、波斯、阿美尼亚、小亚细亚而抵士麦拿。又在一六五二年终附舟至威尼斯。弥格持庞天寿名帖入谒威尼斯共和国总统,而受使臣之优待。然耶稣会会长不赞成此种举动,盖依会中精神习惯,凡因事务而赴罗马者,非得会长许可,不能有所作为也。

一六五三年二月二十一日弥格在洛雷特(Lorette)致书耶稣会会长,自为辩解,且云:“由于这些理由和枢机员之赞成,余故将使命公开。如此事不惬会长心,一经示意,我或径至罗马,或立返中国,虽有损于声誉健康,无所惜也。弥格遂至罗马,甫抵罗马即有人疑其使命非真,嗣后历经种种烦恼。

有教中人某且谓此事为耶稣会士伪造之骗局,且疑弥格非本人。此事不难证明:凭证固甚多也。弥格尽出其凭证,诬者遂无言。英诺森死,亚历山大七世继立,始于一六五五年十二月十八日作答书二通付弥格,转呈烈

纳太后及庞天寿。(上引杜宁-茨博特书,一六四四年和一六五三年部分。)

弥格奉使欧洲时,中国发生巨变。万历帝后人悉被鞑靼征服,逐永历于云南。太监庞天寿死(一六五三)。云南将帅不和,永历不能制。

永历又败,走依白古(Pégu)国王。白古国王昧于道义,以永历献敌。一六六二年举族被害,皇子当定亦死,时年十五岁。有人以皇子未死,其后裔尚存。永历二后及诸妃主被执送北京,居于一邸,终其残年。(鲁日满《鞑靼中国史》,一七九页。)

诸后妃锢居之邸舍,属钦天监,防守甚严,只许一老嫗出入。此嫗是天主教徒,汤若望诸神甫等常赖其通声息,藉知诸后妃等奉教,至死不变。(上引鲁日满书,一八四页。上引杜宁-茨博特书,一六六二年部分。)

弥格奉使事毕,于一六五六年初数月中偕同伴八人在里斯本登舟,其能至中国者,仅柏应理(第一一四传)、鲁日满(第一二二传)、葛安德(第一三六传)神甫三人。弥格离罗马前,曾为吉尔切尔神甫翻译西安景教碑文,(本传书录二号)。一六五八年抵暹罗。澳门参事会遣人劝其不必回澳门,免增澳门困难。弥格遂附中国海舟赴安南北圻。领海者是荷兰人,水手皆教外人。海行遇逆风,舟有破损,诸水手欲执弥格投之海,然未果行,遂取其经像等物掷海中。

是年六月抵北圻,得噩耗,求一领赴广西之向导而不可得,盖无人敢冒死偕往也。弥格决独行,然境上皆

有鞑靼戍守,不能入,乃求安南王许其重还北圻。北圻传道会长遣教中青年三人往卫之还,然已无及矣。

弥格历经远行之疲劳,至是遂不能支持,得重疾。一六五九年八月二十二日歿于广西北圻边界。相从至罗马之中国青年安德,至是仍相随,为之营葬,树立十字架与一碑于其墓前。事毕,偕一从中国境内逃出之官吏,与来迎之青年三人,共还北圻都城。(上引马利尼书,三四八、三四九页。毕嘉《中国天主教之发展》,第一编,第一章,IX 页。)

其遗著列下:

(一)《中国植物》,耶稣会士卜弥格神甫作为鲜花和果实,一六五六年公开献给强盛的匈牙利至仁大能君主良波尔多·依纳爵(Leopoldo Ignatio),奥地利维也纳,一六五六年。是编是七十五页的一个小册子,列举中
274 国的植物约二十种,奇异动物数种。附图二十三,皆不完善,然旁注之汉文名称虽模糊,尚能辨识。(雷慕沙《亚洲新杂纂》索默尔沃热尔《书目》,卷二,七〇栏以下。)

(二)《中国植物》一书后附一六二五年发现之西安景教碑文。原刻图一面,仅刻碑首十字架与碑题九字。译文与说明书载吉尔切尔著作(《附图中国志》,七页以下。两册,阿姆斯特丹。)弥格在其说明书中历述基督教之入中国,西安碑文之发现,并言翻译碑文时得二华人助:一人名沈安德,一人名玛竇。

(三)致托斯坎(Toscane)大公书,一六五八年十一月二十日作于北圻。弥格以二石寄赠大公,谓此石可解蛇

毒。石之叙述见上引吉尔切尔书，八〇页。此信札一七八〇年在佛罗伦萨重刻于《塔尔乔尼·托尔则蒂（Targioni Torzetti）成长记》，卷二（1），二四四页。

（四）《在华耶稣会士卜弥格神甫谨将埃及爱底布（Oedipus egyptiacus）的汉文赞词献尊敬的费迪南三世》。这是吉尔切尔神甫所撰《埃及爱底布》篇前之第二十五赞。第二十六汉文赞在前赞之后。（索默尔沃热尔《书目》，卷二，七一栏。）

（五）耶稣会士卜弥格神甫以明廷派往教廷使节身份所作《中国皇室成员入教及教会情况简报》，八开本，巴黎，一六五四年。是编盖为一六五二年九月二十九日在士麦拿发表之演说。始用波兰文刊行。德文本颇有删节改窜，载上引《维尔特一博特》书，十三号。略言鞑靼入关前基督教流行中国之经过，继言瞿安德神甫为烈纳、玛利亚、亚纳诸后等授洗事。

（六）《中医脉诀》，在华耶稣会士卜弥格神甫著。此书埋没二十年，经东巴达未（Batavo-Orientoli）首席医师安德肋·克罗叶鲁（Andreas Cloyerus）收集残本，公开发行，为欧洲医药界所欢迎。后承耶稣会士账房柏应理神甫从中国寄回完整的校正本。

《中医规范》或《中医手册》。后收集于《风趣杂记》中，其内容有：1. 从汉文书籍翻译的脉诊四卷；2. 精通中医的西士所作脉诀汇集；3. 精通中医的西士所辑中 275 医著作拾零；4. 辨舌色苔特征及金木五行论病症。四开本，一六八六年。钩案是编乃弥格撰之中国医诀，费赖之

误引雷慕沙说将是编与克拉耶 (Andreas Claye) 前在一六八二年刊行之《中国药物标本》混而为一, 今从伯希和说, 将此条后之文删除。可参看《西域南海考证译丛》三编, 一七九页以后。

(七) 吉尔切尓《附图中国志》, 第六册, 二二五页引有《中国事项简介》, 并谓弥格貽有《论文学创作》一篇, 今收入其书第六辑中。

(八) 在利玛窦《改编地理学》中的中国版图, 卷七, 第二十七章。

(九) 《中国皇室成员入教及教会情况简报》卷后之告读者文, 弥格尚撰有未刊著作数种, 今刊其目录于下:

1. 在华耶稣会士宣传基督福音, 感化工作中所遇主要问题。

2. 中国要理问答, 即在华耶稣会士宣传宗教信仰采用的主要方法。

276 3. 只在中国或印度发现的果和树, 有绘图及特性简介。

4. 中国占星术。

5. 公元前五十多年已风行的中国伦理哲学, 中国人的祖师孔子书。

6. 中医, 独特的诊脉术, 能预告症状及病的精神状态。传授自公元前数世纪。

7. 中华帝国——旧称丝国或大契丹——地图。附中西文简介。

8. 中国动物学史。

(十)《中国事项简要介绍》，钞本现藏巴黎邮局街耶稣会士图书馆。

(十一)《耶稣会士卜弥格神甫受烈纳皇太后、皇太子当定与皇后赴教廷奏称皈依圣教文件》，钞本现藏卡尔庞特腾斯(Carpentras)图书馆。

(十二)自威尼斯致布鲁塞尔书二件，并作于一六五二年十二月二十三日。(索默尔沃热尔《书目》，卷二，七三栏。)

九四 张玛诺 葡萄牙人

一六二一年生——一六三八年入会——一六五一年至华——一六五八年十一月十二日发愿——一六七七年九月二十八日歿于南京。

张玛诺(Emmanuel Jorge)神甫字仲春^①，葡萄牙人。一六四三年赴印度，修业毕赴澳门。教授文法和文学二年，传教六年。入内地后先传教上海，旋至南京。一六六〇年教民集资建筑教堂一所，赵(simon)^②出资尤多，盖其人历任显职，至是罢归也^③。

① 钩案：北平图书馆藏钞本仲春作仲金。

② 钩案：此人名见第八十《利类思传》^④。

③ 玛诺居南京时，巴达维亚东印度公司一六五五年遣派之使臣抵南京，纽霍夫(Nieuhoff)记有云：“吾人见一耶稣会士名里斯本(Emmanuel de Lisebon)来船欢迎使臣，欲延使臣赴其舍宴饮。使臣以公务解，然遣我偕书记官拜

伦(Baron)往。我所见耶稣会士之柔和坦白,从未有逾斯人者。彼愿尽其全力为我辈效劳。”(纽霍夫《教会东方联合省遣使中国记》卷一,一三九页。)

- 277 一六六二年被派管理淮安教务。其地教民信心渐懈,玛诺乃振作之,教民遂参加瞻礼祭式祈祷如故。(上引毕嘉书,第一编,第五章,XII。)

已而押解教师入京之朝命至,总督素重玛诺,留之数日,然后遣兵卒护送赴京。抗京后锢东堂。(聂仲迁《中国历史》,一九七页。)后同诸神甫共解广州,越六年,至一六七一年时,重还淮安。一六七七年九月二十八日歿于南京,葬雨花台下。

玛诺撰有《一六五二——五三年、一六五四年中国年鉴》,一六五五年五月七日,一八页,抄本。〔《法国国家图书馆书目,f. fr., 9773.布鲁克尔(Brucker)注〕

九五 成际理 葡萄牙人

一六二二年生——一六四一年入会——一六五一年至华——一六五七年五月二十日发愿——一六八六年三月三十日^①歿于淮安。

- 278 成际理(Félicien Pacheco)神甫字竹君 葡萄牙人。一六四一年入会。练修毕,赴印度,在印度完成一切学业,教授文法二年。一六五一年派往江南,历管上海、松江、淮安、南京等处教务。勤劳不息,致染重病。赴松江

修养，而劳作如故，往来上海附近所属二十五驻所间；一月中得新入教者三百人。复得疾，还南京，而杨光先仇教之事起。

①薛孔昭《名录》作一六八七年。此一六八六年见杜宁-茨博特书。然墓碑作康熙二十六年四月，则应当一六八七年五、六月矣。

初解至苏州，旋解至北京，已而与诸神甫共被押解至广州看管。际理有管理才，为人贤明温和，遂被命为区长，一六六六至一六七六年间两任区长，并一任视察员。

诸神甫居广州时，曾在际理领导之下，开一六六八年一月二十六日之著名会议，各派传教士皆列席签名。会议之目的在谋行动之一致，凡关于礼仪问题，与夫祀孔祀祖，皆在会中取决。余若妇女领受圣体，抹临终油、婚仪，异教人尤其是食斋人之入教，背教人之悔而来投等事，皆有决定。订立规章凡四十二条。一月二十六日际理在此末次会议中请诸神甫共为中国传教会推举一护教圣者，会众一致推举玛利亚(B.V. Marie)之夫圣若瑟(St. Joseph)。殷铎泽(第一二〇传)神甫赴罗马时，以推选之结果呈教宗座，业经宗座正式核准。〔杜宁-茨博特《中国历史》书，一六六九年部分。瓦坎(Vacant)《辞典》，中国(礼仪)，二三七二页。〕

铎居广州诸神甫共谋救护中国传教会之方法。彼等不知何日再能获入内地，却见新至者入境之艰难。以为部分挽救之法，不如养成中国传教士，即用华人劝化华人人教；罗文藻(Grégoire Lopez)神甫在教难时独自维

护宗教于不坠，有先例可证也。然则用何法养成华籍教士欤？在澳门训练青年，授以拉丁文，然后遣之入内地欤？此澳门诸神甫之意见也。抑选年高有学识之士人为之欤？广州、北京两地诸神甫皆赞成此说。教皇保罗五世(Paul V)教翰许用华语举行弥撒，斯其实行之时矣。此二法各有利弊，莅会者未能权衡轻重，遂决定由宗座决之，乃遣殷铎泽神甫代表赴罗马，请命于教皇及耶稣会会长。(上引杜宁-茨博特书，一六六九年部分。)

际理谪后重还南京。一六七四年为著名巡抚佟国器授洗。国器妻阿加斯(Agathe)先已入教，与许夫人同为女界信教者之楷模，至是劝化其夫、其子、其亲属悉皆入教。国器历任四省，素以保教为己任，传教士皆敬爱之。仇教事起，辅政大臣忌之，遂罢官，退居南京。在家建礼拜堂一所，际理及在南京诸神甫常莅此举行弥撒。国器后歿于一六八四年。(上引杜宁-兹博特书，一六七四年部分。柏应理《中国基督徒许太夫人贵府史》，一六三页。)

其后毕嘉(第一一八传)神甫来南京，代际理，际理在一六八三年顷赴淮安，一六八六年歿，葬于城外五里之教会坟园。

九六 汪儒望 法兰西人

一五九九年生^①——一六三二年入会——一六五一年至华——一六五〇年十二月二日发愿

——一六九六年十月七日^②歿于济南。

汪儒望(Jean Valat)神甫字圣同,法兰西人,在图卢兹入会。其初诸年事迹未详。一六四五年自里斯本登舟赴印度,在此传教四年。当时从澳门进入中国内地甚难,儒望似从印度陆行,假道邻国而入境。其始传教杭州,继至南京,后居上海若干时,未几赴直隶。一六五二年在山东。

①有一名录著录其一六一三年生,又一名录著录其一六一一年生。其墓碑谓其在一六九六年十月七日歿,春秋九十有七。则其出生之年应在一五九九年兹从之。

②薛孔昭《名录》作一六九七年十月七日。

一六五六年被召至北京,辅助汤若望神甫,缘当时不许利类思(第八〇传)、安文思(第八八传)二神甫出城,则鞑靼入关后开始在直隶省内诸城村传教者,儒望盖为第一人。顺治帝临幸汤若望神甫宅时,儒望偶亦在侧。有一次驾至,未经通报,即入,二神甫仓卒出迎于教堂门。帝历视教堂、花园、祭器、书房,赐二神甫坐,欲聆其拉丁语。如是垂一小时,而扈从之王、大臣二、三人则待于户外。(鲁日满《鞑靼中国史》,一编二六页。)

儒望赴正定劝化七百六十三人入教,六年后复至正定,见教民信心仍笃,入教者增加四百九十人,次年增加七百人。龙华民(第十七传)神甫卒后,一六六〇年顷儒望被派至济南管理教务。儒望既至,教务日见发达,每年入教者约五百人。(上引毕嘉书,第一编,第五章,XXII。)

又由济南传教邻近诸地,远至直隶边境,当时新增圣母会八所,天神会一所,礼拜堂十所,泰安教堂一所,皆儒望之

成绩也。(同上)儒望与多明我会神甫科罗拉多(Dominique Cororado)和方济各会神甫利安当(Antoine de Ste-Marie)同管全省教务,合衷共事。如有赴外巡视教区者,必留一人居济南。(聂仲迁《中国历史》,一九〇页。)

一六六五年一月二十日吏役来捕,未经讯问,即投之狱,居狱一月,备受窘苦。其书籍经吏役发现者尽没收,然所有祭器、弥撒祷文、圣经、徽章等物,皆得及时隐藏。解至北京,锢于东堂。已而投于狱,与恩理格(第一二六传)、金弥格(第七〇传)二神甫同禁狱内。(上引鲁日满书,二五八页。)

其后礼部提讯时,诸神甫皆项被绳系,牵拽而往,挫辱备至。科罗拉多已得疾,至是疾愈甚,送还东堂。南怀仁、利类思、安文思急为诊治,然已无及矣,一六六五年五月九日歿^①,得年五十岁。计在教三十四年,传教中国
282 十年。十五日后,禁诸神甫于一大庙中,已而复迁回东堂,至于押解之时。(上引聂仲迁书,一九〇、二〇六页。)

①科罗拉多神甫出生于昆萨教区之兰德拉特城,在萨拉曼克入多明我会。一六四八年在菲律宾,继在柬埔寨,一六五五年至中国,传教福建、浙江、山东三省,颇有成绩。

儒望谪后还济南,遂留济南,至于死时,唯每年作传教之巡历,若干次而已。儒望虽高年,历经牢狱迁谪之苦,而其志不懈。一六七八年时在江苏徐州建设教堂一所。缘有官吏侯姓,年近八十,妻死入教,越一年病故。在生时无子嗣,遗留七百金以供建筑教堂之用。儒望即

以此金在徐州建筑天主堂一所。（杜宁-茨博特书，一六七四年部分。）

一六七九年山东直隶交界暴民殴击教民，而官吏置教民于狱。儒望乞南怀仁神甫作书，狱遂解。（同上，一六七九年部分。）一六八五年山东临清有官吏某尝习算学及教义于怀仁，至是在临清建教堂一所，劝化六百人，作书致儒望，请其莅临清授洗。（同上，一六八五年部分。）一六八八年冬儒望巡历直隶诸堂，经其授洗者七百人，次年有官吏传讯儒望，罪其传布天主教也。一六八三年儒望任副区长，康熙南巡时，儒望与毕嘉（第一一八传）神甫同在南京，被传见，语见《毕嘉传》。

一六九六年十月七日儒望歿，葬济南，春秋九十有七。其遗著列下：

（一）自济南致图卢兹区长书，作于一六八五年五月十九日，言康熙南巡抵南京，恩理格（第一二六传）神甫病故，安多神甫蒞华事，见《威尔特-博特》书，一六号。

（二）巴拉(Balat)(原文如此)和聂仲迁两神甫的精湛著作《论中国之斋戒》。〔亚历山大(Noël Alexandre) 283《多明我会会士关于中国礼仪问题之辩护书》，科隆，一六九九年，《文件》，一五七页。〕

九七 客方西^① 法兰西人

疑在一六五五年至华——一六五八年歿于西里

伯斯岛。

据索默尔沃兹尔《书目》，(卷三，一二二八栏)神甫云：客方西(François Clément)神甫隶东印度传教会。其始末未详。据下列二篇，其人似在一六五五年至中国：(一)客方西神甫《一六五五年五月七日寄自中国的信，记述耶稣会士龙华民的生平与逝世》，四页，八开本；(二)东印度耶稣会神甫记录有客方西神甫所撰的《果阿见闻及中国行记》(八开本，巴黎，一六五九年)。毕嘉(第一一八传)神甫曾著录有客方西神甫名，谓其为法兰西人，被派赴中国。一六五八年歿于西里伯斯岛。哥第兰科神甫说，彼在一六五七年离里斯本。昔有一神甫曾至中国某港，未能入境，而在一六五六年或一六五七年初还欧洲，不知与客方西神甫是否为一入。

①钩案：原缺汉姓名，官方西是新译名。

九八 马雅^① 葡萄牙人

一五九九年生——一六一三年入会——一六六四年六月十六日歿于澳门。

马雅(Sébastien de Maya de Amaga)神甫似未入中国内地，一六五五年顷尝为中国日本视察员。一五九九年生于葡萄牙，一六一三年入会。在马杜拉传教数年。一六四〇年因教务而入狱。一六六四年歿于澳门。索特威尔和卫匡国二神甫书并写其名作“d'Amaga”。

①钩案：原缺汉姓名，马雅是新译名

其遗著列下:

(一) 一六四〇年自马杜拉致马拉巴尔区长阿则维多(d'Azevedo)书,载伯特兰德(Bertrand)著《马杜拉传教团》,卷二,三〇八页。

(二) 写本一种题曰《印度教会》,内载对印度教友所遇伦理难题的指示。(索特威尔《作家书目》,二三二页。) 284 又有三种著述皆未涉及中国。(索默尔沃热尔《书目》,卷五,七七二栏。)

九九 利玛弟 葡萄牙人

一六一六年生——一六二九年入会——一六五
六年至华——一六五〇年三月二十五日发愿
——一六七〇年前后歿于海。

利玛弟(Mathias de Maya)神甫字圣先,出生于葡萄牙之阿塔拉亚城。一六四〇年赴印度。在隶属日本教区诸传教会中服务十年。教授文学三年,哲学一年,神学三年。一六五一年任澳门副团长。越五年陆安德(第一二一传)神甫被派赴海南岛,因障碍横生未果往,会中命玛弟代之。玛弟与王若翰(第一〇〇传)、穆尼阁(第九一传)二神甫偕往,由尼阁介绍于海南岛官吏,语具尼阁传。海南岛自林本笃(第六八传)神甫歿后,迭经兵燹,教民散走。玛弟等至,招集流亡,得教民三千人,分隶琼州、临高、定安三传教所。

- 285 一六六二年玛弟被命为副教区长，巡历中国南方诸省。仇教事起，玛弟适在江西赣州，意欲留中国，与诸道侣同共患难。然有人进言，中国皇帝禁与澳门往来，玛弟既自澳门来，恐中国以此罪玛弟，玛弟遂还澳门。

会中命刘迪我(第一〇二传)神甫代玛弟为会督，玛弟携瞿笃德(第一二三传)神甫赴广州。(聂仲迁《中国历史》，二一五、二七七页。)中国区长任满，玛弟又第二次被任为日本区长，遂赴马来群岛开辟新传教会。中途遇海盜，被俘留八月，最后遇海险歿于海中。

其遗著列下：

(一)《中国皇帝与皇后接受信仰报告》十六页，四开本，里斯本，一六五〇年。

(二)鲁日满(第一二二传)神甫的《中国鞑靼史》题词中引有一手写本，记载一六五九至一六六二年间的中国事变，亦为玛弟手笔。

一〇〇 王若翰 意大利人

一六一〇年生——一六二七年入会——一六五六年至华——一六五〇年三月二十五日发愿——一六八二年歿于澳门。

王若翰(Jean-Baptiste Brando)神甫字振先，那不勒斯人。一六四〇年赴印度；教授文学四年，嗣后在各地工作亘十六年。一六五六年偕利玛弟(第九九传)神甫赴

海南岛。玛弟行后，若翰尚留居此岛数年。一六六六年被召还澳门，任会团长，一六八二年歿于斯城。（马利尼《日本与安南东京耶稣会神甫传教区》，四开本，罗马，一六六三年。）

—〇— 洪度贞 法兰西人 286

一六一六年生——一六三四年入会——一六五六年十一月至华——一六七三年七月七日歿于杭州。

洪度贞(Humbert Augery)神甫字复斋，法兰西人，一六五四年出发时，已为在教辅佐人。曾为文法、文学修辞学等科教员。其赴中国盖取波斯、印度、暹罗一道。同行者刘迪我(第一〇二传)聂仲迁(第一〇四传)二神甫，别有高伯特(Paul Gobert)和佩罗莫尔(Pierre Peyromere)二神甫在抵果阿前歿于道中。三神甫于一六五六年十一月初抵中国。度贞被派至杭州，卫匡国(第九〇传)神甫建筑之教堂在度贞任内落成。度贞贡贡品赴京，受伤还杭州后疾稍愈。有在教之老人某无子嗣，举其财产赠教会，在杭州附郭建筑教堂一所。（毕嘉《中国天主教之发展》，第一编，第五章，VIII节。）

已而仇教事起，度贞被拘，知县事者初善待之，旋投之狱。度贞带足镣，痛甚，既不能行，亦不能立。足旋肿延至腿，既而全身皆肿，见者莫不悯之。县官恐其毙于狱，

迁之至县署，然对门居者是一武官及其妻妾，度贞见之颇为不欢。（聂仲迁《中国历史》，二三二页。）

- 287 度贞居狱时，吏役捕多明我会士瓦伦斯（Philippe Leonardo de Valence）和萨尔帕特利（Dominique-Marie Sarpetri）（西西里人）二神甫；同会之闵明我（Dominique Navarete）神甫亦自投狱；此三人居别一狱中，未与度贞同居一处。已而吏卒多人押解四神甫入京。

行五、六日抵苏州，登舟至山东，然后登车。车簇甚，度贞肿反消，后数月遂能行。以一六六五年六月终抵京。（同上）

居谪所六年，度贞于一六七一年重回杭州，复居杭州二年。未死前，殷铎泽（第一二〇传）神甫适自欧洲还，度贞幸得以教堂付彼管理。

一六七三年二月七日卒，葬杭州城外大方井。

一〇二 刘迪我 法兰西人

一六一〇年生——一六二七年^①入会——一六五六年^②十一月至华——一六四五年五月二十八日发愿——一六七六年^③一月二十八日歿于上海。

刘迪我（Jacques le Favre）神甫字圣及，生于巴黎，巴黎法院推事之子也。既成年，虽经其母与家庭之

反对，然在一六二七年毅然入修院。练修后在冈城(Caen)授古典学、修辞学各二年；在布尔日及巴黎授哲学四年，288最后在布尔日大学授神学六年，德高学博，一时无两。

①墓志云天启乙丑年十六岁，则其入会，似在一六二五年。

②墓志云顺治丁酉年四十八岁，则似在一六五七年至一六五八年。柏应理《中国基督徒许太夫人贵府史》第四四页。)亦作一六五七年。

③墓志云康熙乙卯正月三日卒，年六十六岁，(居中国十八年，在教五十年)则其歿于一六七五年一月二十八日矣。(高龙麟神甫补注)

罗历山(第五三传)神甫归自交趾，痛惜欧洲耶稣会士可作各人数颇多，而中国须待传教士救赎者，人数何止亿万。迪我闻言特请赴中国。耶稣会会长倪格尔先奉允教区之诺，嗣后稟传，乃予同意。迪我于一六五四年出发，时年四十四岁，同行者四人。(参看第一〇一传所记)其经行之地为叙利亚、幼发拉底河流域、波斯、印度、暹罗，沿途历经艰苦，同伴二人歿于中途。(参看《交趾支那和交州教区》，七九页。吉勒尔梅《耶稣会圣徒年历》，法兰西，一月二十七日。)

一六五七年迪我偕洪度贞神甫从澳门赴江西，中途遇盗匪七十人，尽劫其物。迪我记有云：“群盗始以我罪显示，而集众怒于我一身，我头上受二枪伤，一刀伤；伤后掷我于溪水中。”幸遇许夫人援救，命人舁接之至其家，诊治三月始愈。许夫人是迪我之忍耐、谦卑、温和。

因奉之如同圣者，嗣后常援助之。（上引柏应理书，四四页。）

既至赣州，巡抚佟国器待之如友，其友谊历久而不变。国器为建教堂一所，又为购置宽大驻所一处。一六五八年教堂落成，国器亲临，并招群官至，参加开堂典礼。先作乐开堂，礼毕聚宴。迪我时于华语尚未熟习，国器乃代之宣教，首言天主教之优良，次励群官保护，并劝彼等人教，复刻一碑记置迪我客室中。（聂仲迁《中国历史》，五一页。杜宁-茨博特《中国历史》，一六五七年部分。）

迪我虽年事已长，然于中国语文进步甚速。尝集士夫三百人讲说教义，并引中国古籍之文，以证天主之存在，聆其说者无一人对之持异议。一六五九年迪我赖佟巡抚之助，修葺建昌教堂住宅，并在距赣州十月程之福建汀州建筑新堂一所。次年又在其地建筑圣母堂一所。一六六二年，得群官助在吉安建筑教堂一所。（上引杜宁-兹博特书。毕嘉《中国天主教之发展》，第一编，第二章，XIV节。）

一六六三年迪我受命为南京驻所道长。时鞑靼欲驱葡萄牙人出澳门，禁与外人贸易。顾澳门为传教士入中国境之唯一门户，迪我因急赴北京，与汤若望神甫谋挽救策。居数月，事解，一六六四年五月还抵南京，时佟巡抚已移抚江南矣。（鲁日满《鞑靼中国史》，七四页以下。上引毕嘉书，第五章，XIII节。）

南京旧有教堂，虽经张玛诺（第九四传）神甫修饰，佟巡抚嫌其小，拟建大堂一所，嗣后因仇教之事起，未果行。

然迪我已得教民之巨资，建筑大堂一所，有 Chim^① 姓者出资尤巨。城外亦有教堂一，小驻所二。（上引毕嘉书）

①高龙鞏（《江南传教史》，卷一，一一四页；卷二，九六页）神甫云：“近代撰述写作 Cin；盖本意大利人笔录。疑其姓秦，然未能必其是也。”

四辅政大臣下诏押解诸教师入京，副区长利玛弟（第九九传）神甫适在江西，闻讯立召迪我至，以中国传教会之事委之，而赴广州。（参看第九九《利玛弟传》）迪我时与新抵赣州之方玛诺（第一二九传）神甫同行，至是乃以方玛诺神甫托穆迪我（第一〇八传）神甫，而还南京。（上引聂仲迁书，二一四页以下。）

知江宁县事者素与诸神甫友善，未即拘拿，命诸神甫留教堂中待期出发。其意欲径解诸神甫赴京，会苏州巡抚遣人至，提迪我、毕嘉（第一一八传）、成际理（第九五传）三神甫赴苏，与柏应理（第一一四传）、鲁日满（第一二二传）、潘国光（第七九传）三神甫一同解京。（上引聂仲迁书，二六九页以下。）

一六六五年六月半间，大吏一人，官卒多人押解诸神甫离苏。迪我在道甚窘苦，盖其胃甚弱，加以头创复裂，发热几濒于死，赖天主佑获生。（上引聂仲迁书，二七五页。）

一六六五年九月六日四辅政大臣降旨，除留京四神甫外，余俱解往广东看管，并谓天主教为邪教，不许奉行。

诸神甫同具公呈，辩其教乃正教而非邪教，不特未有害于国，且有益于公私，彼等愿舍身流血以卫之。（普雷《中国礼仪之争史》，二七页。）法官受杨光先贿，（光先曾 291

纳贿七万两)，不受理，是月十三日解诸神甫出京。

用牛车八辆送诸神甫至运河登舟，遣役卒押送。大舟三只载诸神甫，小舟一只载押解官。押解官颇吝啬，然待诸神甫颇知礼貌，在一定限度内任其自由。

行四月抵南京，易小舟，载至南昌；复易舟行至南安，登岸陆行，踰高岭至南雄，又登舟，而在一六六六年三月二十五日抵广州，在道凡六月。（上引聂仲迁书，二九二页以下。）

广东总督安置诸神甫于一教堂中。有奉教绅耆李百瑞（原名百里者，先曾助杨普慈（第一三〇传）、罗儒伯（第一二二传）、方玛诺（第一二九传）三神甫及图区长利玛弟（第九九传）神甫等送中国教士二人还澳门，报呈因为所知自任人而任看管之责，在总督于总督，不用更待看管，故在总督衙门一室，于门外告示。聂仲迁（第一〇四传）书，（上引聂仲迁书，二九二页）记有云：“吾人每在二月初至中全行出城，可出外游行城中，然不得至城外，吾人可出城外以我之衣衣之。”

诸神甫原由官家供给，然诸下级官吏延不发给，许夫入问之，寄一万二千金以供衣食需。总督与其长子亦各赠二千金，然总督于别有用意也。一日总督子召迪我、总理南（第一二六传）、利儒望（第九六传）三神甫聚食，欲征等言总督短，因以陷之。诸神甫不从，总督子乃拘诸神甫，以迎我为其长，缚两于手背，命人批其颊，拔其须；捶辱备至，而后放三神甫归。（上引聂仲迁书，三〇〇页以下。上引杜宁-获博特书，一六六五年部分。）

迪我居谪所六年，还上海时，运载潘国光(第七九传)神甫枢而行，乘官船，船上悬大牌，上刻奉旨归堂四字。上海附近七十村镇之教徒闻讯驾八十余舟至上海欢迎。舟至黄浦，诸教徒执旗作乐以迎迪我。许夫人之兄弟三人亦至。地方长官遣人献礼物并教堂门钥以付迪我。(上引柏应理书，五九、六〇页。)

迪我见崇明岛民数来上海受洗，乃决往此岛布教，藉口往访崇明新官及素识之武官龚某，遂赴崇明。许夫人特赠旅行必须之物，及赠送官吏诸物，以备在崇明购置房屋一所用于建设教堂之用。迪我赖武官龚某之助，在崇明建筑教堂一所，是为此岛六新教所之母堂。(上引柏应理书，六八页。上引杜宁-茨博特书，一六七二年部分。)

一六七六年一月二十八日歿于上海，葬合中圣母 293 堂墓地。

其遗著列下：

(一)《论中国礼仪之争》或《依据中国敬祖祀孔的历史事实，从神学作说明》，八开本，巴黎，一七〇〇年。是编前有著者小传及答闵明我神甫书，抄本现藏斯特-热奈维埃学校图书馆。(索默尔沃热尔《书目》，卷三，五七二栏以下。)

(二)一六五七年九月八日自上海致书，述其抵华及中国现状事，八开本，巴黎，一六六二年。

(三)一六六四年八月三日自南京致弗拉古耶 (Fraguer) 神甫信札节文；同致驻巴黎会计员夏胡 (Chahu) 神甫信札节文；一六六四年十一月九日自南京致同一神

甫信札载《中国基督教近况》，十二开本，巴黎，一六六三年。（考狄《书目》，八三〇页。）

（四）一六五四年十一月一日自果阿致戚某信札，载《国外书信》，巴黎，一六六三年（参看考狄《书目》，八三一页。）又有传抄信札一件，一六六八年十一月一日写于广东，抄本十八页，现藏巴黎图书馆（参看考狄《书目》，八二六页。）

（五）《钦天监事件辩护书》，是编为汤若望神甫作辩护，现藏斯特·热奈维埃学校图书馆。

（六）《论钦天监正职》（参看索默尔沃热尔《书目》，卷三，五七一栏以下。）是编亦为刘迪我或方德望（第六五传）神甫手笔。

一〇三 傅沧溟 法兰西人

一六〇六年生——一六二五年入会——一六五六年至华^①——一六六〇年十月九日歿于琼州。

罗历山（第五三传）神甫归法国时，曾以其动人的叙述备言中国及安南南北圻传教之进步，而此种新兴教区须要教师正切。闻其言而有感于哀者甚众，教中人尤甚，因是会中有会士数人请求会长派往远东。

①前引柏应理书：一六五七年；前引毕嘉书，第二章，VI节，一六五七年。

会葡萄牙国王若望四世亦请派会士至少七十人赴东

力传教，许用葡船载往，不取船资。一六五四年会长许十八人东行，就中由刘迪我（第一〇二传）神甫率往者四人：即聂仲迁（第一〇四传）、洪度贞（第一〇一传）、佩罗莫尔四神甫。一六五四年八月三十日自波尔多登舟由狄若瑟尔（Tissanier）（第一三三传）率往者五人：即阿比埃（Jacques Albier）、穆迪我（第一〇八传）、穆尼阁（第一〇五传）、克罗切（Cloche）、毕嘉（第一一八传）五神甫；同年十月四日自瓦纳出发者庞赛特（Poncet）、包德特（Beaudet）、弗西蒂（Fuciti）、方玛诺（第一二九传）神甫四人；一六五五年二月自拉罗舍耳出发者沧溟、乐类思（第一〇六传）、穆格我（第一〇七传）神甫三人。十八人中列法国籍者十六人；中有数人原被派至北圻，亦入中国，语具后此诸传。（孟戴森《交趾支那和交州教区》，六六、六七页。）

傅沧溟（Jean Forget）神甫字遐及，香檳人，东渡前曾发四愿，两任会团长。一六五六年抵澳门，派往海南岛。年事虽高，语言未谙，然其为人慈善、贤慎，教内外人皆敬爱之。一六五九年在海南岛都会琼州建筑教堂一所，并将海南岛官吏前此歿收之驻所索还。

沧溟越四年歿，时在一六六〇年十月九日，葬琼州城外。

〔附〕巴莱笃 西班牙人

295

巴莱笃（Didace Baretto）修士，侨居新西班牙（墨西

哥)之西班牙人之子也,毕方济(第四〇传)神甫居南京时(一六三四至一六四一年),为辅佐修士。

当时泉州颇有台湾、菲律宾之西班牙人侨居,巴雷笃疑自泉州来。

一六三五年名录无其名。似在一六三六至一六四六年间隶耶稣会,似在一六三六至一六四〇年间在杭州练修;从杭州派至南京。一六四二至一六四五年间解除誓愿还俗,而服务于鞑靼,一六四七年在广州援救毕方济神甫时,其人已为武官。(参看第四〇《毕方济传》。高龙鞑《江南传教史》,卷一,四八四页。)

一〇四 聂仲迁·法兰西人

一六一四年生^①——一六三六年十一月六日入会^②——一六五六年至华^③——一六五五年六月二十一日发愿——一六九五年歿于赣州。

聂仲迁 (Adrien Greslon) ^④ 神甫字若瑞,出生于佩里格,于一六四七年八月十四至一六五〇年八月二十三日间,传教加拿大休伦 (Hurons) 部落中凡三年,已而在各学校教授文学、神学。一六五四年首赴中国,一六五六年抵澳门。仲迁长于算术。澳门与华官发生纠葛,特遣其僭李方西(第八七传)神甫同赴广州谒总督,冀总督重其学而敬其人也。然总督不愿聆其言,加镣铐而投之狱。汤若望(第四九传)神甫闻其事,上疏请释,上

神甫始出狱。(杜宁-茨博特《中国历史》一六五六年部分。)

①薛孔昭《名录》作一六一八年。

②薛孔昭《名录》作一六三七年。

③上引柏应理书作一六五七年；上引毕嘉书，第二章，VI节著录之年同。

④其自署名作 Grelon，而不作 Greslon。〔马尔定(F. Martin)神甫注〕。案其名写法 Grelon同(Greslon并用，亦有时作Grellon，然在当时文件中常作 Greslon。

仲迁被释后，与傅沧溟(第一〇三传)神甫同被派至海南岛。一六六〇年沧溟死后赴南雄，欲在其地新辟一传教会，然因有困难而未果。继入江西担任赣州教务。时福建之汀州，江西之吉安等处传教所并隶焉。(聂仲迁《中国历史》，七九页以下。上引毕嘉书，第一章，第五节，X节。)

已而护教者渐疏远，仲迁地知划中有不利消息，而凤潮将起。一六六四年终，值吏命其与翼笃德(第一二三传)、方玛弟(第一二九传)二神甫同去赣州。笃德时抵赣州三月，玛弟仅甫三日。仲迁等将行，利玛弟(第九九传)、刘为我(第二二传)二神甫至，互商之结果，玛弟与笃德同赴广东，刘为我偕同往南昌。仲迁则赴吉安，时吉安有教堂一所，小驻所也。(上引聂仲迁书，二一一页以下。)

“吾人流滴之讯传布(赣州)城中，教内外人来教堂者，不可胜计。教内人之来，乃因此恶耗而表示忧郁；教外人或好奇之心之驱使而来，或因唾骂吾辈而来，余则唯搜夺教堂中诸物，竟至盗及树木。”(同上，二一四页)。

仲迁至吉安，将经书及堂中器物隐藏，进至南昌时聂伯多

297 (第六四传)、殷铎泽(第一二〇传) 二神甫已入南昌狱矣。仲迁记有云:“知县待我甚善,然曾询我经像等物何在,我答以二月前在赣州被逐时,堂中诸物皆被掠矣。”(同上,二二一页)。

仲迁下狱后,与伯多等同禁一处,然伯多、铎泽二人先起解,至五月一日,仲迁始取道南京赴京师。一六六五年六月十三日抵京,锢东堂,已而与诸神甫同谪广州。谪后于一六七一年重还江西。一六七四年吴三桂举叛旗,讨伐三桂之鞑靼军取吉安、南昌,时仲迁居南昌。据仲迁所记,南昌居民被杀者逾十万,而被掳之七万五千人尚未计焉。鞑靼军将待仲迁甚厚,交还其居宅,遣人护守,并出令不许侵害省内所有教堂。(同上,二二二页和《中国历史续编》)

颇有人以为仲迁曾返法国,其实不然。仲迁留居江西,而至一六九五年歿于赣州,月日未详。

其遗著列下:

(一)《古圣行实》四卷。

(二)《一六五一至一六六九年间鞑靼统治时代之中国历史》〔十二开本,巴黎,一六七一年〕。是书分三编,上编记顺治年间事,中编记康熙初年事,下编记康熙亲政前后诸年事。所记杨光先在京内外仇教之事颇详,盖仲迁得诸目击耳闻者也。书后附《中国历史续编》。

(三)《关于中国礼仪之记录》。

(四)巴拉(Balat)和聂仲迁合著《论中国之斋戒》,参看第九六《汪儒望传》第二号书。

(五)《一六六九年北京朝中关系诸神甫及算术之大事记》。是编经波斯曼(H. Bosmans)神甫刊行,题曰:《有关南怀仁文献》,布鲁日,一九一二年。

(六)《对多明我会士闵明我神甫所著一书的该注意之点》,钞本现藏巴黎邮政街图书馆。

(七)一六五四年十月三十日发自果阿之信札,钞本七页,也藏邮政街图书馆。

(八)手钞信札,布罗蒂埃(Brodier)神甫藏。

(九)一六六九年及一六七〇年所寄信札。

(十)《神甫们发配广州后之遭遇》,奥尔良(Orléans)神甫引自《明清两代争雄史》一七〇页。(索默尔沃热尔《书目》,卷三,一七三九栏。)

一〇五 穆尼阁 法兰西人

一六一七年生——一六三七年入会——一六五六年至华^①——一六五四年二月二十二日发愿——一六五七年^②歿于南昌。

穆尼阁(Nicolas Motel)神甫字全真,穆氏昆季三人之长也,皆出生于贡比涅,皆在香槟区入耶稣会,皆自此区赴华,而三人死后同葬一处。尼阁赴华前,尝教授文学六年。哲学二年。一六五四年终发足。一六五六年终抵澳门而入内地。抵江西甫三月歿于南昌,时在一六五七年初,(毕嘉作一六五六年),柩停南昌二十余年,至一六

七八年其弟穆迪我(第一〇八传)神甫始运枢与别一弟穆格我(第一〇七传)神甫同葬武昌。

①柏应理作一六五七年。

②毕嘉作一六五六年。

现存有尼阁一六〇六年作于果阿之信札若干件，藏巴黎国家图书馆。(索默尔沃热尔《书目》，卷五，一三三六栏)。

499. 一〇六 乐类思^① 法兰西人

一六〇九年生——一六五七年至华——一六六三年十一月二十二日歿于南昌^②。

乐类思 (Louis Gobbé) 神甫字能虑，名见傅沧溟(第一〇三传)神甫传，请求赴华传教时，年事已长矣。以一六〇九年生，教授哲学数年，颇有成绩。刚至澳门，即被派往内地，一六五七年初数月至福建，旋至江西。一六六三年十一月二十二日歿于南昌，葬南昌。

①布鲁克尔作 Jobéc。北平图书馆藏钞本，汉姓作罗，未著汉名。

②布鲁克尔作一六六一年，与一六六三年名录著录之年同；《圣教信证》作一六五九年

一〇七 穆格我 法兰西人

一六一九年生——一六三七年入会——一六五
七年至华——一六七一年歿于赣州。

穆格我 (Claude Motel) 神甫字来真，乃穆氏三神甫之年最幼者。一六五五年自法国首途，一六五七年初抵中国。(毕嘉书第一编，第二章，VI 节)。初派至陕西，管理汉中、城固等地教务。习居城固，常至小寨，小寨者，方德望 (第六五传) 神甫乐居之地也。许夫人子 300 纘曾 (Basile) 赴四川任所，请首长派一神甫同行，穆迪我 (第一〇八传) 神甫被派往。迪我至湖广，许夫人留之传教武昌，改派其弟格我入川。

格我于一六六二年离汉中，赴重庆，纘曾馆之官署，并给一适当处所为教堂。居七、八月，经其授洗者一百七十人。

已而赴保宁府开辟一新教区。(上引聂仲迁书，七三页以下。)

新受洗者有现任知县数人，前任知县若干人，生员甚众。南江知县某受洗后，宣传教义甚力，不仅合家入教。一六六四年格我再入川，授洗之一百五十人，皆其人宣传之果也。曾在南江建筑教堂一所。(上引毕嘉书，XIII 节。)

格我除四川教务外，兼管汉中、城固、小寨及陕西诸

荒山中传教所数处。教民在小寨共建广大美丽教堂一所，每届中国新年，聚附近教外之人来堂观礼，礼毕聚食，由是教民日增。

301 一六六四年终，格我闻仇教消息。格我适在城固，闻讯即赴县署自投。越若干日始下狱，手足带锁镣，腕皆伤破，居狱十余日，解赴京师。（上引聂仲迁书，二五一页以下。）

其仆某相随不离，随之至京师，至广州。格我在解途中，解役索贿未得，颇虐待之。已而与李方西（第八七传）神甫会，于一六六五年七月同抵京师。（同上，二五四页以下。）

谪后六年许还本堂，乃赴陕西，未至，于一六七一年歿于赣州。一六七八年其兄穆迪我（第一〇八传）神甫运其柩，与其兄穆尼阁（第一〇五传）神甫之柩合葬武昌。一八五二年其墓毁于长毛之乱。一八六二年湖北代主教徐类思（Célistin Spelta）为之修复。

格我有一六六八年十一月一日信札一件，现藏巴黎国家图书馆。（索默尔沃热尔《书目》，卷五，一三三六栏。）

一〇八 穆迪我 法兰西人

一六一八年生——一六三七年入会——一六五七年至华——一六九二年六月二日^①歿于赣

昌。

穆迪我 (Jacques Motel) 神甫字惠吉, 穆氏昆季三 302
人, 迪我居次。赴华前曾教授文法、古典等学六年、修辞
学一年。一六五七年初抵中国, (毕嘉书, 第一编 VI 节。) 派往江西。迪我至南昌, 教堂驻所皆渐倾圯, 迪我得许缙
曾助, 悉皆修复, 并于一六六〇年扩而张之。次年缙曾擢
官四川, 欲携迪我同行, 然其母与妻留迪我, 迪我遂止武
昌。(上引聂仲迁书, 六二页以下。)

①布鲁克尔作八月二日。

许夫人为购房屋一所, 并建教堂一处, 仇教者闻之
不安, 有一小官阻止迪我入居新屋; 僧人亦具呈于官扼
之, 幸许缙曾行前曾以迪我托诸官保护, 诸官常左袒之。
越四年有教民二千二百人, 省中最高武官冯某 (Fong
Tsang-ping) 亦入教, 许在所辖二大城中建筑新堂, 然仇
教事起, 未果成。(上引聂仲迁书, 六五页。上引毕嘉
书, XIII 节。)

解诸教士入京之朝旨至武昌, 副区长适因要务偕迪
我赴南昌。事毕迪我欲还, 南昌教民固留之, 迪我不从,
冒风波渡鄱阳而还武昌。时有方玛诺 (第一二九传) 神
甫私入内地, 脱事发祸不可测。迪我颇为之焦急, 幸有一
教民仗义援救, 匿玛诺于一安全处。(上引聂仲迁书, 二
二六页以下。)

迪我于是藏其经像祭物, 遵陆北行, 冒风沙, 越二十 303
三日行抵京师。(同上, 二二九页以下。)

谪居广州六年后还武昌, 继续传教。有退職显宦某

年已高，阅读教中书，因入教，合家四十人暨亲友五十人悉皆随之受洗，其人在原籍建筑教堂一所。（上引杜宁-茨博特书，一六七四年部分。）

太皇太后弟佟国正奉命讨吴三桂，行次武昌，迪我晋谒。国正表示优礼，率诸大官入教堂礼救世主像，并嘱巡抚妥为保护。（同上，一六七五年部分。）

- 304 一六七八年迪我赴南昌运其兄厄阁（第一〇五传）、弟格我（第一〇七传）二神甫遗骸归葬武昌，并在墓旁自营生圻一所。一六八五年湘潭新任官名 François Fiang 者，南怀仁（第一二四传）神甫之挚友而兼为门弟子者也，甫至任所即建筑堂一所，以践宿约。教外人愤，诬其动用公帑，诉之京师。其人辩枉，事遂白。越一年升任他省官。其后任某受贿金百五十两，拟毁教堂，迪我赴官诉辩，事遂解。（同上，一六八五年部分。）

一六八六年迪我在德安府城建一新堂。曾入谒知府，知府喜，为出示保护。数月后入教者五百人，而知府亲至堂礼救世主像。（同上，一六八六年部分。）

最后六年事迹未详。后于一六九二年歿于武昌，据墓碑歿于是年六月二日，然据王石汗（第一七九传）神甫信札，则谓其歿于是年八月二日。

又据王石汗神甫说，迪我十年以来未见欧罗巴人，石汗抵武昌时，已未及接受告解矣。（布鲁克尔神甫注）

其遗著列下：

（一）《成修神务》三卷。

（二）《圣洗规仪》二卷，一六八九年武昌刻本。

一〇九 林公撒 葡萄牙人

305

一六一九年生——一六三七年入会——一六五
七年至华——一六五七年歿于南京。

林公撒 (Emmanuel Gonzalez de Oliveira)^① 神甫, 葡萄牙人。一六五五年在里斯本登舟, 一六五七年初抵中国, 即派至南京, 越数月歿。

①余疑本传之林公撒与后传之林玛诺同属一人。当时文件从未见有并举此二人名者, 有公撒则无玛诺, 有玛诺则无公撒。惟在后来文件中始将此二名合列。所指者盖为一葡萄牙神甫, 其人在一六三七年顷入中国, 居未久歿于江西, 葬于南京。意者柏应理(第一一四传)神甫之一编辑人, 因其人姓 Silva, 故译其汉姓作林, 又以林斐理(第二五传)神甫之名 Félicien 属之, 遂致一人两传歟。(高龙辇神甫注)

一一〇 林玛诺 葡萄牙人

一六五七年至华——歿于南京, 年月未详。

林玛诺 (Felicien da Silva) 神甫字能定。吾人仅据柏应理(第一一四传)神甫^①《耶稣会神甫名录》略知其事迹。一六五七年至华, 派往江西南昌传教。已而由南昌

至南京，未久歿，葬雨花台下耶穌會墓地。

①参看第一〇九传注。

306

一一一 冯公撒^① 葡萄牙人

一六一三年生——一六五七年至华——一六六〇年歿于澳门。

冯公撒 (Gonzalve Fonseca) 神甫，葡萄牙人，一六一三年生，一六四三年赴印度。在印度完成其学业，晋司铎。曾任中国副教区会计员数年，或居印度，或居澳门。其为人性情温和，有才智，教内外人皆乐近之。继为澳门副会团长，亦为人所爱敬。既而调日本教区，忽在一六六〇年得暴疾死，人皆之惜。歿年四十有七。

①钩案：原缺汉姓名，冯公撒是新译名。

一二二 郭巴相^① 中国人

一六五七年顷入会——一六五七年顷入内地。

郭巴相 (Sébastien Correa) 修士生于澳门^②，一六五七年顷入会，同时入内地。一六六〇年在延平与郭纳爵(第七五传)神甫相随，一六六三年和一六六九年在澳门，余未详。

①钩案：原缺汉姓名，郭巴相是新译名。

②薛孔昭《名录》著录其为中国人。

一一三 郭玛诺^① 中国人

一六五七年入会——一六五七年入内地。

郭玛诺 (Emmanuel a Costa) 修士, 亦生于澳门^②, 与前人同。一六五七年入会, 同时派入内地。一六六〇年及一六六三年在江西与聂伯多(第六四传) 神甫相随; 一六六九年还澳门。

①钩案: 原缺汉姓名, 郭玛诺是新译名。

②薛孔昭《名录》著录其为中国人。

一一四 柏应理 比利时人

307

一六二四年五月三十一日生^①——一六四一年入会——一六五九年至华——一六五九年二月五日发愿——一六九二年^② 五月十五日歿于果阿附近海中。

柏应理^③ (Philippe Couplet) 神甫字信末, 出生于马林 (Malines), 入弗朗德勒-比利时教区之耶稣会。热心传道, 请赴中国, 后遂成为最著名传教士之一。先是卜弥格(第九三传) 神甫奉明朝末代帝后书使教廷, 至一六五六年返华, 应理偕往。抵华后陆续传教于江西、福建、湖广、浙江、江南等省, 而在江南之松江、上海、嘉定、苏州、

镇江、淮安、崇明等地传教时为最多，惜其详情不明。

①巴斯蒂安（Bastien）神甫之《历史纲要》。（一八八〇年刊，一九七页。）瓦达克（Waldack）神甫作一六二三年；索默尔沃热尔神甫作一六二八年；另一名录作一六二二年，薛孔昭《名录》同；杜宁-茨博特神甫书似作一六二〇年。

②薛孔昭《名录》作一六九三年，未言何月；汉译日文《清朝全史》作一六九三年（康熙三十二年）五月十六日歿于果阿。

③北京图书馆藏钞本作斐理而不作应理。

应理居江南时得许太夫人之助，曾建筑并修复教堂甚众。应理盖从湖广被召至江南，而在一六六三年时主持南京教务，时南京有信徒六百人。一六六四年仇教之事起，应理适传教诸乡，为四百四十人授洗还。潘国光（第七九传）神甫遣之至镇江避难，比闻诸神甫被逮讯，遂亲赴苏州投案，而与诸神甫共解至北京，已而谪广州，至一六七一年重还江南传教。（上引聂仲迁书，二五七页以下。）

一六七六年刘迪我（第一〇二传）、鲁日满（第一二二传）二神甫歿后，应理于一六七七年蒞崇明，教务赖以发达。应理离此岛后，教务由常熟太仓、无锡等地诸神甫主持，一六九六年时，分为九个传教所，共有教徒三千人。（上引杜宁-茨博特书，一六七四年部分。）

一六八〇年被选为中国副教区之代理人，奉派赴罗

马接洽会务,请求增派教师,并请许用华语举行教仪。一六八一年十二月五日在澳门附荷兰舶,而于一六八二年十月抵荷兰。用华语举行教仪事固未获准行,顾因刊布其著述,留居欧洲甚久,影响人心实深。

应理赴罗马时,许太夫人曾以金爵一及圣饰品若干嘱其代献于圣依纳爵礼拜堂中。松江信教妇女争以戒指、手镯购制此类饰品。许太夫人别以献物嘱其供献果阿城圣方济各墓前,并以本人及其诸女所制之刺绣分赠各教堂。罗马、马林两地之耶稣会教堂,巴黎之修士院,曾受有此类绣品若干。许太夫人知应理必须进谒教皇,曾嘱其购取诸传教士之华文撰述四百余种以献(内有利类思神甫之《弥撒经典》)。圣座得之甚悦,命藏教廷图书馆中。(柏应理《中国基督徒许太夫人贵府史》,一二五页。)

应理在华首途时,南怀仁(第一二四传)神甫曾作书致洪若翰(第一七〇传)神甫召之来华,以书付应理,嘱其面交;后应理居巴黎时与若翰接洽者不止一次。夏斯(*de la Chaise*)神甫曾介绍应理于国王路易十四,并言若遣派具有智慧德行之人赴华,其成绩伟大可预睹也。〔见尚特劳斯(*Chantelauze*)撰《夏斯神甫传》中,载有夏斯神甫致诺耶(*de Noyelle*)神甫书。〕国王已知前偕罗历山(第五三传)神甫赴华之法国耶稣会士几尽歿于各传教区中,而309现在急须补充,遂以重金赠偕应理赴华之诸传教士。〔塔夏尔(*Tachard*)《暹罗行记》,卷一,三页。〕会有遣使赴暹罗之举,行期因以延展。事具洪若翰神甫传(第一七〇传)。

旋因罗马教廷与葡萄牙国王争夺保教权之事起，应理留居欧洲卅十年。葡萄牙国王对于凡未在国内宣效忠之誓者不许登舟；而应理视此举违背教廷规约，因是致稽其行。行期既展，应理遂返其故乡马林省视家人。时其父尚存，年逾八十，诸弟无恙。应理除赴法数次外，曾赴荷兰与柏林，备受选帝侯弗雷德里克-吉劳姆（Frederic-Guillaume）优待。诸国研究华事之学者若克莱耶（Andre Cleyer）、蒙采尔（Mentsell）、穆勒（Muller）、泰沃奈（Thevenet）、皮克特（Louis Picquet）等应理皆与缔交。至是将其《西文四书直解》刊行，并拟附以汉文，然因铸字不易遂止。

已而罗马和葡萄牙之争息，应理取道比、英、西班牙等国而至葡萄牙，偕斯皮诺拉（Spinola）神甫^①及同伴十余人^②在一六九二年三月登舟。此行颇不幸，应理与同伴之神甫修士共十五人，能行抵中国者，樊西元（第一九三传）、法安多（第一九四传）、万惟一（第二〇三传）三神甫，费某（第二〇一传）、鲍仲义（第二〇二传）二修士而已^③。舟距果阿三百公里，海中遇大风暴，舟运巨箱倒，伤应理首，一六九二年五月十五日伤重殁于舟中。〔《瓦达克文集》，卷九，二一三页。《柏应理传》所引万惟一（Van der Beken）神甫一六九四年十月信札〕。

① 斯皮诺拉持有教皇亚历山大八世及后任教皇英诺森十二世致康熙皇帝书，第一书作于一六九〇年七月二十四日，第二书作于一六九一年九月二日。此二书皆未送达，盖斯皮诺拉神甫在一六九三年七月七

(六)《週岁圣人行略》。

(七)《圣若瑟祷文》。

(八)《徐光启行略》，一六七八年应理与张星曜合撰，巴黎国家图书馆中国图书新藏手钞本三一一二号。——古兰《国家图书馆汉文书籍目录》，〇二三。考狄《中国的中-欧印刷术》，四一页，二三四号。有以是编误属利玛窦者，见上引索默尔沃热尔《书目》，卷六，一七九三栏；《清朝全史》，卷一，一七六页；《清代通史》，卷一，五八四页；《明末清初输入西学之伟人》，六四页。（刻于一九三四年六月《圣教杂志》。）

(九)《中国基督徒许太夫人贵府史》，法文译本，十二开本，巴黎，一六八八年；西班牙文译本，八开本，马德里，一六九一年；弗刺明文译本，八开本，安特卫普，一六九〇年；汉文有许采白神甫译本，颇多改订，题曰《许太夫人传略》，一八八二年土山湾刻本，一九二七年由沈锦标神甫重订，仍刻于土山湾（一九一七年书目补目七四〇号）。

(十)《一六七一年流放广州传教士获释返回内地后中国教区情况汇报》。

(十一)《中国传教区现状简报》。此手钞本作于一六八三或一六八四年间。观其标题，此本似即前号书之意大利文译本。惟观其第一篇之第一第九两节，其文较繁，似未付修改；第九节志许太夫人德行及病亡事。

(十二)《耶稣会神甫名录》。此编是从圣方济各·沙勿略一五八一年去世之时到一六八一年止，所有在华传

扬耶稣基督的会士名录,四开本,巴黎,一六八六年,附载于南怀仁神甫《清帝国的欧洲天文学》书之后,可参看本书第一二四怀仁本传第三十六号书。汉文亦有译本,题曰《圣教信证》。

(十三)《中国哲学家孔子》,巴黎,一六八七年。此书汉文标题为《西文四书直解》,乃应理与殷铎泽(第一二〇传)、恩理格(第一二六传)、鲁日满(第一二二传)诸神甫合撰。书分五篇:(一)题献路易十四世词;(二)绪说;(三)孔子传,疑出殷铎泽神甫手;(四)《大学》、《中庸》、《论语》译文;(五)应理撰年表数篇,一六八六年及一六八七年刻有单行本:第一表始纪元前二九五二年迄纪元初;第二表始纪元元年迄一六八三年;第三表三皇世系表,载二千四百五十七年间黄帝以下八十六帝王世系。

(十四)《中华帝国历史年表》,一七〇三年。(参看索 312 默尔沃热尔《书目》,卷二,一五六六栏。)

(十五)考狄《书目》,五五九页,著录有巴黎国家图书馆藏钞本四九页题曰:《中华帝国历史年表引言》,后题一六六六年十二月二十四日作于广州。

(十六)信札(见瓦达克神甫撰《柏应理传》,载《比利时教会史资料选集》,鲁文,一八七二年,卷九,一——三十一页):一六五四年十二月十四日在安特卫普致区长德肯斯(Dekens)书;一六五四年十二月十九日致同一区长书;一六五九年二月四日在澳门致某神甫书;一六六六年十一月十日在广州致某神甫书;一六七一年九月七日在广州与鲁日满(第一二二传)神甫致区长书;六七一年九

月十一日致区长书。(参看考狄《书目》，一〇六二页。)

(十七)一六七〇年十一月二十三日在广州致亨舍纽斯(Godefroid Henschenius)神甫书，见威斯切尔斯(Visschers)《未公布的神甫书信》，十二开本，阿纳姆，一八五七年。

(十八)致蒙采尔数书。(巴耶《中国博物志》，卷一，六三页)。

(十九)应理携归有《汉文文法》一册，以贻文学院皮克特(Picquet)，后巴耶(Bayer)即据此书而撰《汉文文法》。(《中国博物志》，卷一，六八页。)

(二十)应理并将所撰《汉文字典》一部留在巴黎。雷慕沙以为蒙采尔之字典(九卷)应出诸传教师手，尤应以属应理也。

(二十一)波蒂埃(Pauthier)藏书出售时，其中有关
313 于中国礼仪问题之文件一册，多有应理手迹，卷前应理撰有手序。(考狄《书目》，一〇六二页。)

(二十二)一六八六至一六八七年致帕波布罗克(Papeb-roch)(Papenbroek)书十件，现藏波兰迪斯兹图书馆。(索默尔沃热尔《书目》，卷二，一五六六栏。)

一一五 苏纳 德意志人

一六一九年生——一六三八年入会——一六五九年
九年至华——一六六〇年九月十三日^①歿于济

南。

苏纳 (Bernard Diestel) 神甫字德业, 德意志人, 十九岁入耶稣会。其为人也, 作事勤而有恒。一六五六年携白乃心神甫(第一一九传)同至中国。行前德意志帝利奥波德一世曾以国书共礼品嘱其进呈顺治皇帝。汤若望神甫(第四九传)恐朝廷视礼品为贡物, 命勿进呈。

已而入钦天监, 然不受官职。顾北京气候与彼不相宜, 乃请赴山东; 抵济南未久, 得赤痢歿, 时在一六六〇年九月十三日。葬于济南, 南怀仁神甫(第一二四传)为作墓志。

①上引毕嘉书作九月十七日, 兹从墓志。

其遗作现仅存有信札数件, 见布鲁塞尔图书馆藏《威尔舍姆 (Wilchem) 神甫著作集》, 卷二, 六八二八至六八三十四号。(索默尔沃热尔《书目》, 卷三, 五七栏。)

一一六 吴尔铎^① 比利时人

一六二二年生^② ——一六四六年十月三十日或十一月二日入会 ——一六五九年至华 ——一六六二年四月八日^③ 歿于印度。

吴尔铎 (Albert d'Orrille) 神甫字绍伯, 生于比京布鲁塞尔, 为人聪明、温和、刚毅、仁慈, 抵华后传教陕西。时耶稣会长尼克尔 (Gosutin Nickel) 以赴印度与中国, 假道于好望角, 危难既多, 需时亦久, 欲使传教师试求一

较稳捷之陆路，乃命汤若望神甫（第四九传）选人探路。若望请于顺治皇帝，取得护照，以付尔铎与白乃心（第一一九传）二神甫，俾任探路之责。

一六六一年六月^①二神甫携带通晓语言熟习地理之回教翻译一人，从西安出发。渡哈刺契丹沙漠，凡三阅月，而至西藏之 Barantola，此地即拉萨也。后逾山而至尼泊
315 尔，又经孟加拉、贝那拉斯，而抵亚格拉城。在道凡二百一十四日，停留之时尚未计焉。尔铎抵此未久歿，时为一六六二年四月八日。亚格拉城传教师罗斯（Henry Roth）熟悉印度语及波斯语，遂同白乃心神甫偕行而至罗马。

①布鲁克尔书记作 Dorville 或 d'Orville；薛孔昭《名录》作 de Dorville；毕嘉书作 d'Orville；威塞尔斯（Wessels）《早期耶稣会士中亚旅行记》，一七六页云：是为多尔威尔（d'Orville）诸侯康特（Louis Le Comte）之第三子。

②上引威塞尔书，一七八页作一六二一年八月十二日或二十日。

③同上，一九七页，据白乃心传及尔铎墓志，作一六六二年四月八日。

④同上，一九八、二〇三页，作四月十三日。

一一七 郎安德^⑧ 葡萄牙人

一六二一年生——一六三九年入会^①——一六

五九年至华——一六六一年^②歿于福建。

郎安德 (André Ferran) 神甫字骏生, 葡萄牙人。为人温和厚重, 明敏而有决断。传教福建, 甫三年^③患天花歿, 葬福州。未至闽前, 先传教于江苏淮安, 一六六一年徙闽也。

殷铎泽 (第一二〇传) 神甫所译《论语》, 前有安德手序, 作于福州。

①北京图书馆藏钞本题其名作傅德业。

②前引毕嘉书作一六六二年。

③毕嘉书作甫四年。

一一八 毕嘉 意大利人

一六二三年生^①——一六三九年入会——一六五九年至华——一六五九年二月五日发愿—— 316
一六九六年歿于扬州。

毕嘉 (Jean-Dominique Gabiani) 神甫字铎民, 彼芒 (Piemont) 之尼斯城人。十六岁入罗马圣安德修院; 继授古典学和修辞学三年。虽然身弱多病, 力请派赴中国, 遂于一六五四年偕狄若瑟神甫 (第一三三传) 自波尔多赴里斯本 (参看本书第一〇三《傅沧溟传》)。继在一六五五年共狄若瑟、方玛诺 (第一二九传)、穆格我 (第一〇七传)、穆尼阁诸神甫自里斯本登舟赴印度, 八月二十一日抵果阿, 一六五六年抵澳门。初传教江南, 得信教妇女赵氏

(参看第八〇《利类思传》^①)布施,于一六六〇年在扬州建筑教堂和住宅各一所。一六六三年又得Monique Min之助,在镇江建筑教堂和住宅各一所。(毕嘉《中国天主教之发展》,第一编,第二章,XIV节。)

①据罗文藻(Grégoire Lopez)主教一六九〇年八月二十八日致宣教部书,谓毕嘉神甫得年六十九,则其生年应在一六二二年。(参看一九二五年二月刊《宁波简讯》。)

毕嘉仿潘国光(第七九传)神甫先例设置会团。一六六四年,扬州计有会团五所。其第四会团则供收养弃儿之需。嘉常赴南京、常州、仪征等处传教,兵、商及其他各界之人入教者甚众。(上引毕嘉书,第一编,第五章,XVI节。)

仇教事起,毕嘉适奉道长命赴南京,闻耗急返扬州教堂,然教堂已经先被封闭,继被劫掠矣。毕嘉受讯数次,317 继留镇江一月,已而解赴苏州,转解北京,而谪广州。(上引聂仲迁书,二七四页以下。)

毕嘉在谪所中(一六六五至一六七一)任会计员四年。一六七〇年九月八日始被释,次年还传道所。一六七二年李方西(第八七传)神甫歿,毕嘉恐陕西传教缺人,乃请南怀仁(第一二四传)神甫转请于朝,许其运方西柩赴西安,为之守墓。时陕西诸城镇共有教堂二十二所,毕嘉因以守墓为名,而继方西传布宗教于陕西(柏应理《中国基督徒许太夫人贵府史》,八六页以下)。

其后毕嘉似重返江南。一六七三年扬州长官李某慫

恶僧，杖之八十，僧毙杖下，长官因论抵^①。嘉入狱为之授洗，其人遂为基督教徒而歿。（前引杜宁-茨博特书，见一六七三年。）

①钩案：嘉庆扬州府志卷三八，江都县知县康熙十一年任李时灿，十二年任文谟，此扬州长官疑指时灿。

一六八〇年毕嘉授命为副区长，巡历数省，而常居澳门。一六八四年授命为南京道长，自是以后常居南京。康熙皇帝南巡至南京时，曾召见毕嘉于行宫，蒙恩赐物。适继毕嘉任副区长之汪儒望（第九六）神甫亦在南京，并蒙召见，垂询久之。帝询毕嘉等有无天主像物在身，毕嘉即以十字架呈献，帝视毕还毕嘉^①。后帝南巡自南京赴扬州，毕嘉赶至扬州接驾，亦蒙召见，慰谕有加。（郭弼恩《中国皇帝敕令史》，七九页。）

①参看加亚尔（Gaillard）：《南京史地概貌》，二四三页。（上引杜宁-茨博特书，一六八四年部分。）

毕嘉在南京设置一小修院，延在教士人教授品行端正之青年；又设置士人与讲说教义人之修道会教所。

一六八七年毕嘉赴扬州，迎接自宁波赴北京，初次遣派之法国耶稣会士。次年洪若翰（第一七〇传）神甫至南京，与毕嘉同居二年。同时罗文藻主教偕莱奥尼萨（de Leonissa）、康和之（d'Argolis）二主教、叶宗贤（de Glemona）神甫^①亦蒞南京，与二神甫同处。（《传教信札》，卷三，九八页，一七〇五年二月十五日。）

①钩案：此数人非耶稣会士，故本书无传。

一六八九年康熙皇帝南巡至南京时，召毕嘉、若翰二

人至行宫，垂询甚久。会浙江禁教事起，殷铎泽(第一二〇传)神甫受胁迫，毕嘉乘进呈气管等仪器入京之便，为之营救。毕嘉至京，帝留之三年，频荷宠贲。一六九三年重回南方主持淮安、镇江、苏州等地教务。一六九六年得疾，数日歿于扬州，春秋七十有四，葬西门外金匱山下。

其遗著列下：

(一)《鞑靼人入关后中国天主教之发展》，四开本，维也纳，一六七三年。是书撰于谪居广州时，分三编。第一编记满人入关后各省教务状况。一六五〇年至一六六四年间全国受洗者共有十万五千人，而在一五八
319 一年至一六〇五年间受洗者仅有十五万人。第二编记四辅政大臣仇教及诸神甫在京内外受虐待，迄于押解广州事。第三编记谪居广州事，并及汤若望(第四九传)神甫之歿。

(二)《中国礼仪问题之辩论》，十二开本，七七页，列日，一七〇〇年。

(三)《对中国礼仪可以沿用之申辩》，九六页。此本现藏巴黎邮政街耶稣会图书馆，不知与第二号书是否同为了一本。

(四)上一图书馆还藏有《对北京几位神甫的怀疑》(参看索默尔沃热尔《书目》，卷三，一〇七六栏)。

一一九 白乃心 奥地利人

一六二三年十月二十八日生^①——一六四一年十月十八日入会——一六五九年至华——一六八〇年九月三十日歿于匈牙利^②。

白乃心(Jean Grueber)神甫字葵阳^③，一六二三年十月二十八日生于奥地利国之林茨城。精研数学，自请派赴中国。一六五六年同苏纳(第一一五传)神甫发自罗马，历小亚细亚，阿美尼亚，波斯，而抵霍尔木兹。自是附舟，而于一六五八年七月抵澳门。后未久被召至北京，³²⁰居二年。〔《阿斯特莱(Astley)旅行记》，三〇一页。〕

①前引薛孔昭《名录》误作一六二〇年，应以本书所志生年为是。参看上引威塞尔书，一七二和二〇三页。

②薛孔昭《名录》作一六六五年。至若柏应理神甫谓其在一六八四年歿于德国，并误。

③钩案：北平图书馆藏钞本作阳葵。

已而受命同吴尔铎(第一一六传)神甫探询赴欧陆道，至亚格拉，尔铎歿；复偕罗斯(Henry Roth)神甫历印度、波斯、土耳其，而抵士麦拿，附舟至墨西哥。乃心至罗马报告旅行成绩后，首途还中国，仍循陆道，惟此次则经行北欧。至君士坦丁堡得疾还佛罗伦萨，已而历德国，而歿于匈牙利之帕塔克(Patak)，时在一六八〇年九月三十日。(上引威塞尔书，二〇一、二〇三页。)

其遗著列下:

(一)《中国至莫卧尔之行》,见吉尔切尔《附图中国志》,六四页以下。是编附图画二十有七,皆记所历诸国的宗教、风俗。泰威诺所辑行记引有“白乃心神甫从中国探寻去欧洲之陆路”,并著录有法文译本及拉丁文译本。《阿斯特莱旅行记》(一七四五——四七年),载《平克尔顿(Pinkerton)文集》,伦敦,一八〇八——一四年有重刻本;在马克哈姆(Clements R. Markham)所撰《波格尔教团赴西藏记》(八开本,伦敦,一八七六年)中附有刻本。

(二)《简单明确的答覆》,这是乃心对托斯坎(Toscane)大公一切询问之答词,见上引吉尔切尔书法文本,阿姆斯特丹,一六七〇年。

(三)信札有:一六五八年三月七日在苏拉特致格拉兹大学校长哈弗奈克尔(Jean Hafenecker)书,见斯托克林(Stocklein)《威尔特-博特》,三四号,报告行程。一六六四年五月十日在威尼斯致吉尔切尔神甫书,言北京大钟。一六六四年在维也纳致格拉曼斯(Grammans)神甫书。一六六四年十二月十一日书,此书作于丹兹格。一六六五年三月十四日书,此书作于西里西亚。后四书见泰威诺所辑行记第四编,修道院长普雷沃特(Prevot)所辑行记卷七。

(四)《中华帝国杂记》,佛罗伦斯,一六九七年。是书盖据乃心所述中国事编撰而成,本文八十页,又信札四件,凡四十二页,后以《孔子传》及《中庸》选译文附焉。

(五)一六七〇年一月十三日在图尔纳威埃(Tyrna-

vix)致吉尔切尔神甫书,见上引威塞尔书,三三七页)。

(六)其他信札见上引威塞尔书,二〇四页。(参看索默尔沃热尔《书目》,卷四,一八八四、一八八五栏。)

一二〇 殷铎泽 意大利人

一六二五年生——一六四二年入会——一六五九年至华——一六五九年二月五日发愿——一六九六年十月三日歿于杭州。

殷铎泽(Prosper Intorcetta)^①神甫字觉斯,出生于西西里岛之皮亚扎(Piazza)城。初在卡塔尼亚学校肄习法律,然其志愿传教,年甫十六岁,从校中逃出,投墨西哥城之耶稣会。会中诸道长非得其家属之许可不愿收留,一六四二年始获入修院。肄习神学毕,于一六五七年派赴中国;卫匡国(第九十传)神甫适还中国,遂随行。(上引雷慕沙书,二二九页。)

①钩案:北平图书馆钞本作笃恻。

其始传教江西。一六六〇年在建昌府建筑住宅一所,并将其地教堂修复,两年间受洗者两千人。建昌以外诸城镇之传教所经其主持者尚有七处。建昌长官某初与铎泽善,继受属吏谗,与教士为仇,诬报于省,谓铎泽为匪首,并以教堂太高,有碍风水,欲拆毁之。虽经人关说与汤若望(第四九)神甫之致书,教堂仍不免于拆毁,修复者三次,拆毁亦三次。然铎泽藏伏不出,该长官尚未敢逮 322

捕铎泽也。(聂仲迁《中国历史》，七六页以下。)

地方仇教之事甫息，阅二月，全国仇教之事继起，一六六五年铎泽与聂伯多(第六四传)同被逮送赴京，在道备受虐待。(同上，二一八页。)

一六七〇年^① 谪期(一六六五至一六七一)届满时，其伴侣从澳门召一教士来粤，代其居狱，而遣铎泽赴罗马，以会务报告耶稣会长。当时中国教区资产空乏，仅以金钱二十枚付之作旅资。一六七一年铎泽抵罗马。

①阿勒甘布书未著何年，亚历山大(Noël Alexandre)《多明我会士关于中国礼仪问题之辩护书》，六三页)谓在一六六八年。

②据本书九五《成际理传》，铎泽之赴罗马，盖因报告广州会议结果。

铎泽抵罗马，一面请求教廷宣教部诸枢机员救济在华教士，一面请求耶稣会长派遣新会士赴华。

已而铎泽重还中国，一六七四年抵粤，始知诸教师皆被释，各归本堂^①。其道长遣之至杭州，训练中国修士。一六七六年被选为中国日本传教会视察员。铎泽于一六七八年在杭州近郊之大方井购地甚广，建设传教师公墓及礼拜堂一所。

①随铎泽赴华者共有十二人。据南怀仁(第一二四传)神甫一六七八年自北京致欧洲耶稣会士书，知有十人先后病歿于道。弗兰格《卢西塔尼亚教省年鉴概要》一六七二年下著录有八人姓名。

一六七九年杭州有土豪兄弟三人嫉卫匡国(第九〇

传)神甫所兴修,洪度贞(第一〇一传)神甫所落成之教堂过于閔丽,唆使民众仇教。铎泽一方嘱诸教众逆来顺受,一面诉之于官,官捕三土豪杖之,并枷号示众。铎泽反为请于官,释之。(上引杜宁-茨博特书,一六七九年部分。)

一六八七年铎泽被推为副区长。洪若翰(第一七〇传)、张诚(第一七三传)、李明(第一七二传)、白晋(第一七一传)、刘应(第一七四传)诸神甫赴京,路过杭州,铎泽时在杭州,遣人慰问之。(《传教信札》,洪若翰神甫信,八九页以下。)

康熙皇帝南巡至杭州,回銮日铎泽欲远送,帝云:“汝 324: 年高不能任远行之劳,应留堂静养。”

帝待遇虽优,然不能免一六八八至一六九二年地方官吏之仇视。有讼事起,一造为天主教民。浙江官吏多为杨光先旧友,故仇教,巡抚尤甚,在讼事中故入铎泽名。

铎泽年高,可免对理,然铎泽不愿,请人昇赴法庭,面诉其枉,问官莫不钦而直之。〔李明 (Le Comte) 《中国现势新志》卷二,三〇四页以下。〕

杭州教堂在中国最为閔丽^①,浙抚欲毁之,诸属吏 325: 皆谏止,乃改之为尼庵;毁铎泽所藏书版。(上引李明书,卷二,三页。)铎泽急致书在朝诸耶稣会士谋转圜。内大臣索额图(Sosan)重张诚神甫之为人,颇为左右之。故朝议初虽不准,终于一六九二年三月二十二日奉旨将各处天主堂照旧留存,入教之人仍许信奉。(上引李明书,三五六页。郭弼恩《中国皇帝敕令史》,一六一、一九〇页。)

(1) 杭州教堂郭弼恩神甫已有记述,可参考所撰《中国皇帝敕令史》,六五页以下。)

铎泽感恩入朝,帝慰劳之,命安多(第一六三传)送之还杭州。既至杭,安多传帝,命浙抚重修教堂。(同上)

教堂甫修复,即毁于火,时在一六九二年八月二日。铎泽颇痛心。阅四年,得疾歿,时在一六九六年十月三
 326 日,葬杭州大方井公墓;得年七十二岁,计入会年已有五十四年矣。(上引郭弼恩书,五一页。上引雷慕沙书,二三四页。)

其遗著列下:

(一)《耶稣会例》一卷,一六六八年刻本。

(二)《圣依纳爵之神功》汉文译本(柏应理《耶稣会神甫名录》)今未见。

(三)《一五八一——一六六九年中国教会状况概述,附上帝当时所行奇迹和寄自北京宫廷的书信,还有令人非常高兴消息》,八开本,罗马,蒂佐尼,一六七二年。

(四)《中国礼仪证信》,一六六八年著,三百一十八页,四开本,巴黎,一七〇〇年刊,(考狄《书目》,八八四、八八五页。)疑即前一号书。

(五)《铎泽答闵明我神甫书》,前有副区长成际理(第九五传)神甫核准文字及印章。此手钞本引有一切汉文成语,似出铎泽手写。一八七三年波蒂埃藏书出售时,其有《中国礼仪之信札记录汇编》一册,此手钞本即在其中。(考狄《书目》,一〇六三页。)

(六)《殷铎泽神甫答闵明我神甫问摘要》,四开本,

黎版。雷慕沙(前引书二三二页)跋《论语》译本云:“译共三十八叶,末页叶题 Libri Lun-in pars 4, 足证其后文有续译文,始未刊行”。吾人在上海曾见此《上论》译本,共三十六叶,合七十二面。参看索默尔沃热尔《书目》,卷328 四,六四三栏。吾人记得曾见此本二编,然后来苦寻未得。案《论语》尚有郎安德(第一一七传)神甫序,作于福州,此三十六叶本佚其序文,可参看本书第一一七传。

(八)《汉语语法》,现藏里尔图书馆,手钞本编八四〇号。据雷慕沙一八三二年一月跋,此《汉语文法》曾在十七世纪印行,应附在铎泽所译《中庸》译本后。

(九)索特威尔谓铎泽撰有《孔子遗作全解》一部留在罗马。案毕嘉(第一一八传)神甫一手抄记录中引有《四书释义》不知是否此书。(索默尔沃热尔《书目》,卷四,六四三栏。)

一二一 陆安德 意大利人

一六一〇年生——一六二九年入会——一六五九年至华——一六四九年八月十五日发愿——一六八三年歿于澳门。

陆安德(Andre-Jean Lubelli)神甫字泰然,出生于那不勒斯之勒斯(Lecce)城。毕业后请赴东方传教,一六四〇年至印度,居萨尔赛特(Salsette)城三年,旋赴澳门,居329 六年。一六四六年二月二十二日或二十三日,偕康斯碧

丁(Antoine Constantin) 和诺古埃拉(Valentin Nogueira) 二神甫附舟赴海南岛, 别有赴交趾之传教士四人亦附舟行。中间一泊上川, 已而遇风暴触礁。水手登小舟, 大船共船长乘客尽沉没。安德浮水面, 攀断桅, 遇水手所乘小舟, 获救登岸。其赴交趾之神甫四人, 中有谭玛兰, 本书有传(第七四传)^①。(孟戴宗《交趾支那和交州教区》五三、五四页。嘉尔定《耶稣会在光荣的日本教省叙事诗》, 九九页。)

①传教士自欧赴华而殁于中道者, 其数过半。据普雷(《中国礼仪之争史》, 二五〇页。)之统计, 始一五八一迄一七一二年, 耶稣会士东迈者, 二百四十九人, 能抵中国者一百二十七人, 余皆殁于中道。

一六四七年, 安德偕卜弥格(第九三传)、努若翰(本传附传)二神甫赴海南岛。(上引杜宁-茨博特书, 一六四七年部分。上引孟戴宗书, 五三页。)然鞑靼侵入海南岛, 未能久居。林本笃(第六八传)神甫遣之赴交趾, 已而还澳门。至若重返海南岛之计划, 至一六五五年始见实行^①。安德与王若翰(第一〇〇传)同舟往, 遇风暴, 几沉溺。穆尼阁(第九一传)神甫与广东总督善, 为求介绍书, 会安德未果往, 乃以利玛弟(第九九传)神甫代之。(马利尼《鞑靼中国史》, 四三六页。)

①钩案: 原注谓弥格于一六五〇年还澳门, 应有误, 应从伯希和说作一六四九年。诸传教士重还海南岛, 事在一六五〇年七月, 此云一六五五年, 亦误。可参看《西域南海史地考证译丛》, 二编, 一一七至一二〇

頁。

一六四六年至一六五九年间,安德数度传教交趾,惟其详情未悉。自一六五九年始,主持广东教务^①,自一六五九迄一六九三年,凡十四年,惟在一六六五年中与瞿笃德(第一二三传)神甫同被押解赴京,严暑时在小舟中被锁械,因得锢疾,始终未痊。(上引聂仲迁书,二七七页以下。)

当时广东仅有广州住所一处,隶属中国副教区。至是中国会长将其改隶日本教区,俾澳门会团易于遣派会士。决议于一六五九年到达,遂派安德赴广州。

安德在广州、佛山两地建置住宅一处,教堂一所,并收养孤儿。此外,韶州、清远各有教堂一所。韶州为全省军队屯驻防御海寇之地,兵卒渔夫颇有信教者。(上引毕嘉书,第一编第五章,II、III节。)

- 331 一六七三年安德被推为中国日本视察员。曾在直隶、陕西、山西、湖广、两江作两次巡历;留居北京若干时,已而重返澳门,被任为日本教区区长。一六八三年殁于澳门。

其遗著列下:

(一)《真福直指》二卷,一六七〇至一六七三年刻本;一七三八年北京刻本;一八七三年土山湾刻本(一九一七年书目一七一号)。

(二)《圣教略说》一卷,一六七四年广州刻本。

(三)《圣教问答》一卷。

(四)《万民四末图》。

(五)《教要撮言》。

(六)《善生福终正路》二卷,一六五二年刻本;一七九 332
四年北京刻本,汤士选(de Gouvea)主教核准;一八五二
年上海刻本,赵方济(Maresca)主教核准;一九一二年上
山湾重刻本(一九一七年书目一七〇号)。

(七)《圣教要理》一卷,未著刊刻年月,佚撰人姓名,
光方济各(François de Luz)主教核准。

(八)《默想大全》一卷。

(九)《默想规矩》一卷。

(十)《讲道规矩》一卷。

(十一)《无辜者必胜,或阐明中国天主教教义的纯
正》,一六七一年刻于广州。是编奉副区长何大化(第七
八传)神甫之命编纂,由安德刊行。(索默尔沃热尔《书
目》,卷三,二六三七栏;卷四,一八九二栏。)

(十二)《安德答书》,手写本,见波蒂埃所辑汇编,参
看第一二〇传第五号书。(考狄《书目》,一〇六三页。)

(十三)索默尔沃热尔《书目》,卷四,一八九二栏。
引有安德于一六八二年致圣托马斯(Salvador de Santo
Thomas)文,现藏美国博物院。

(十四)安德致宣教部记录八页,手写本,现藏巴黎
研究图书馆。

〔附〕努若翰^① 西班牙人

努若翰(Jean Nunes)神甫隶日本教区，于一六四七年偕林本笃(第六八传)、卜弥格(第九三传)、陆安德三神甫同赴海南岛。(高龙鞏神甫补)

①钩案：原缺汉姓名，努若翰是新译名。

333

一二二 鲁日满 比利时人

一六二四年四月二日生——一六四一年入会——一六五九年至华——一六五九年二月十六日发愿——一六七六年十一月四日^①歿于太仓。

鲁日满(François de Rougemont)神甫字谦受，一六二四年生于迈斯特利奇(Maestricht)。幼入马林修院。在卢万修业毕，旋在库尔特雷、伊普雷、马林等城教授古典学和修辞学六年。欲赴中国传教，固请会中派往。会中诸道长以其为比国世家贵族，须得其家族之许可，不允所请。日满遂请求家属致书耶稣会会长，会长始许之。(上引柏应理书八三页。)

①墓碑作十一月六日。《友好信使》一〇二页载一六八二年四月信札作十一月九日。(索默尔沃热尔《书

目》，卷六，二三〇栏。）

一六五六年卜弥格（第九三传）神甫率往中国之传教士，日满即其中之一。抵果阿后，步行历经马拉巴尔、波切利埃、特拉凡哥尔等地，在暹罗登舟，一六五八年末或一六五九年初抵澳门。在澳门发愿毕，始而派往浙江，已而派往江南，除中间谪居广州外，终其身皆在江南传教。

苏州驻军中有信教者若干，此辈其先行为暴戾，自经受洗后变为和善，与民相安。（上引毕嘉书，第一编，第四 334 章，XXX节，XXXI节。）

昆山教徒信教虔笃，共积资建筑教堂一所。太仓亦有一所，盖许太夫人购置者也。常熟教民则以布教热心而显于世。分为十四会团，以士人十人统率之，劝化入教者甚众。一六六二年时，有秀才某请赴崇明传教，阅三月得志愿受洗人二百，其一例也。（同上，第五章，XVII节。）

一六六五年一月四日四辅政大臣仇教之命下，日满即赴苏州投到。常熟知县觅之不得，以其在逃，日满闻讯即回常熟投县署。常熟知县感其诚，颇善遇之，并许代其保护教民。日满重赴苏州，被拘留于一佛寺中。诸教徒恐其受虐待，日夜看护，迄于转押至潘国光（第七九传）神甫所居教堂之日。（聂仲迁《中国历史》，二六二页以下。）后与诸神甫同解北京，转解谪所。

谪限既满，一六七一年重返江南，在太仓、常熟等处建筑新堂，本人则长驻常熟。（上引杜宁-茨博特书，一六 335 七六年部分。）

日满所管理之教堂共有十四所,礼拜堂二十一所,并蒋潘国光(第七九传)神甫在上海所建设之天神会,圣母会,圣依纳爵会,圣方济各会大为发展。以所得布施建设学校,延在教士人为教员,每人年修银三十两。(同上)

一六七六年日满拟赴崇明,会得疾,十一月四日歿于太仓。柏应理(第一一四传) 殷铎泽(第一二〇传)神甫运其遗体葬常熟虞山之北。

其遗著列下:

(一)《圣教要理》一卷,一八六六年土山湾重刻本^①。

(1)案此书今未见,费类思神甫殆将陆安德(第一二一传)神甫之《圣教要理》(第七号书)误属日满。(参看索默尔沃热尔《书目》,卷六,二三一栏。伟烈《中国文献注释》,一四四页。)

336

(二)《问世编》一卷

(三)《教要六端》,土山湾重刻本(一九一七年书目四四〇号)。别有白话本,出萧子云(Speranza)神甫手,一八八四年刻于土山湾。(一九一七年书目补目四四一号)

(四)《领洗及领圣体对话》,汉文本,见柏应理《中国基督徒许太夫人贵府史》,八二页。

(五)关于救赎格言及鼓励信仰与良善风俗编成之歌词,盖备乡民之用者,亦见上引柏应理书。

以上两书今皆未见。

(六)《鞑靼中国新史》,此编始一六六〇年,迄一六六六年,盖为日满谪居广州时编纂而成,在一六六八年十

二月十六日脱稿；刻于卢万，八开本，一六七三年，马加拉安(Sebastin de Magalhaens)神甫有葡萄牙文译本；题作 *Relacao do estado politico e spirituae do imperio de China*, in—4, Lisbonre, 1672。

(七)提倡中国本地神职班及中国教会之记录，一六六七年手钞本。

(八)瓦达克(卢万，一八七二年)神甫《柏应理传》(第一一四传)引有信札数件；其他信札现藏比利时档库。(索默尔沃热尔《书目》，卷六，二三一栏。)

(九)鲁日满之未刊信札，波斯曼神甫刊行，(卢万，一 337 九一三年)。

一二三 瞿笃德 意大利人

一六一六年生——一六三三年入会——一六五九年至华——一六五一年五月七日发愿——一六八一年三月三十日歿于海南岛。

瞿笃德(Stanislas Torrente)神甫字天斋，生于奥尔维托(Orvieto)城。十七岁在罗马入耶稣会。一六四〇年请派赴印度。一六四一年至一六四六年间居印度。一六四六年传教马六甲及附近各地，时此地被荷兰人管理已五年矣。同年派往交趾，被逐出境，后于一六五九至一六六四年间隶属广东及海南岛传教会。

傅沧溟(第一〇三传)神甫死，聂仲迁(第一〇四传)

神甫离海南岛后,此岛仅存笃德一人,管理教堂二所,小堂七处。

嗣后笃德获入内地,偕聂仲迁(第一〇四传)神甫居赣州府甫三月,仇教之事起。副区长利玛弟(第九九传)神甫适在江西,乃携笃德还广州。笃德至广州患重病,然(一六六五年)仍不免于其陆安德(第一二一传)神甫押解赴京。(上引聂仲迁书,二一五、二七七页。)

- 338 谪居广州六年后,一六七三年重返海南岛。一六八一年三月三十日歿,葬琼州府城外。

其遗著列下:

《圣教豁疑论》。

一二四 南怀仁 比利时人

一六二三年十月九日生^①——一六四一年九月二十九日入会——一六五九年至华——一六五九年二月五日发愿——一六八八年一月二十八日^②歿于北京。

- 南怀仁(Ferdinand Verbiest)神甫字敦伯^③,一六二三年出生于比利时库尔特雷城附近之皮塞姆小村,几与汤若望(第四九传)神甫同时。在布鲁日研究一年,在库尔特雷研究四年^④,在卢万研究哲学一年。(威斯切尔斯《宋公布的神甫书信》,五页注。)

①据佛兰德尔——比利时教区修士《图录》作一六二三

年十月二十九日。(波斯曼《南怀仁传》，四页。)

- ②徐家汇藏墓志作“卒于康熙二十七年戊辰十二月二十六日”，下注西年作一六八八年一月二十九日，则汉文年代错误，盖戊辰为西历一六八九年也。综考西文著述皆作一六八八年，所异者二十八日或二十九日之不同耳。补注云：汉文碑志年代错误不止一见。方德望(第六五传)神甫〔罗以礼(Rossi)《方德望神甫传》，一九〇至一九三页〕、刘迪我(第一〇二传)神甫等墓志皆有此误。钩案徐日升(第一四二传)神甫撰南先生行述作终于康熙丁卯十二月二十六日申时。

- ③据若干著作，怀仁初字勋乡(钩案勋乡疑是勋卿之误)，后改字敦伯。

- ④怀仁母名赫克(Anne Van Hecke)，父名沃尔比斯特〔Jodoc(Josse) Verbiest〕，为塔拉索纳各(Tarraqona)侯爵家令，管理皮塞姆等地财产。(索默尔沃热尔《书目》，卷八，五七三栏。波斯曼《南怀仁传》，五页。)

怀仁志切修道，请入耶稣会，于一六四一年九月二十九日入马林修院。授古典学、修辞学亘五年。在比利时、罗马①西班牙②等地完成其学业。志切传教远方，自布鲁日赴西班牙两次，拟赴美洲，然其道长于一六五七年遣之偕卫匡国(第九〇传)神甫同赴中国，附印度总督泰勒斯-梅内泽斯(don Antoine de Telles-Menezes)之舰队而往。抵澳门未久，发四愿，时在一六五九年二月五日也。(柏应理《中国基督徒许太夫人贵府史》，九六页。波斯曼《南怀仁传》，七页以下。杜赫德《中华帝国全志》，卷三，八六五页。)

①怀仁自云：曾于一六五四年在罗马研究神学。（致宣教部枢机员书。）杜宁-茨博特《中国历史》，一六八四年部分。

②一六五五年四月在塞维利亚公开进行神学论文答辩。（索默尔沃热尔《书目》，卷八，五七三栏。）

怀仁学艺优长，德行过人，与利玛窦（第九传）、汤若望（第四九传）二神甫同。自二神甫建设传教会于中国以来，当时有功于宗教者，无逾怀仁者也。

在华二十九年，几常居京，纯为宗教服务。诸教师在
34) 长期谪居后，得各回本堂者，怀仁力也：泯仇教之事于未萌，亦其力也。所以教皇英诺森十一世特颁一六八一年教翰以奖之。（上引柏应理书，九九页以下。上引杜赫德书，卷三，九五页以下。李明《中国现势新志》，卷五，一八一页以下。）洪若翰（第一七〇传）神甫云：“吾人得入中国，而得免浙江巡抚之留难，皆赖其力，此德吾人永世不忘也”（《传教信札》，洪若翰之第一封信，卷三，九二页；参看八九页。）

一六五九年怀仁初至中国，被派至陕西传教，与李方西（第八七传）神甫共事凡十月。一六六〇年五月九日奉召入京，纂修历法。时汤若望（第四九传）神甫已老，特引之为助也。（上引杜赫德书，卷三，八六页。鲁日满《鞑靼中国史》，一二八页。范埃（Van Hee）《汉学家南怀仁》，二页。）一六六四年杨光先仇教，与四辅政大臣倾陷汤若望（第四九传）神甫之事起，若望已中风疾，身体残废，带锁链受讯，如同罪人，对于诬陷事，皆未能答辩。

怀仁毅然为之代辩。若望每次受讯，怀仁必在其侧，辩论甚明，足以白若望枉。乃当局者故欲入若望罪，禁天主教，致未能发生效力。然有王公大臣数人已钦其义，曾云：“汤马法已拟死罪，他人将趋避之不暇，而怀仁仗义为之辩护，诚忠友也。”

在京四神甫身带锁链，居狱凡六月。（参看第四九《汤若望传》）怀仁年较幼，体力较强，锁链较重。诸人负锁链，皆卧地而不能兴。每人有十卒看守，中有数人系锁链于大木，故窘苦尤甚。

其初三月，日日传讯，讯后送狱。怀仁在狱阅数学书籍，预谋答词。（聂仲迁《中国历史》，一三二、一四三、一五一页。）最后拟杖流，然未执行。

若望既得罪，免钦天监监正职。历法推算遂多疏差。有人推举西士详定，怀仁因证明杨光先辈推算之误，处心之恶，光先等遂被革职。

一六六九年奉上谕，出怀仁、利类思（第八〇传）、安文思（第八八传）三神甫于狱。时若望病卒已三年，其他诸传教师仍谪居广州。帝追念若望前劳，将抄没若望之房屋与教堂发还，并在若望墓前建立碑文（一六六九年十二月七日），且欲怀仁继若望钦天监监正职^①。（南怀仁：《清帝国的欧洲天文学》（以下简称《欧洲天文学》），四页。波斯曼《南怀仁传》，二八页以下。）

①当时怀仁欲测量北京纬度，然无仪器，仅在一六六八年十二月用日時計作数次观测，得数三十九度五十七分四十一秒，较今日测验之三十九度五十四分

二十三秒，相差仅三分十八秒而已。

顾怀仁受职不无困难，盖以在教之人弃绝世荣，乃具疏请辞。帝不准，益以被谪诸神甫之恳求，始就职。帝不
343 仅授以官职，且授以其他官号^①，尤使怀仁局促不安。有神甫数人以为此种官爵有违所发之第四愿，盖末一思其为名誉职，毫无实权；尤要者，怀仁若受此职有裨传教匪浅也。由是有人诉之于耶稣会会长谓其慕荣华而欲自弃于同辈。（杜宁-茨博特《中国历史》，一六七三年和一六八二年部分。）

①怀仁曾历受太常寺卿、通政使司通政使等职。

地方诸道长始而遏止此类责难，然不能阻止其达于耶稣会会长也。一六八〇年，会长奥里瓦(Oliva)神甫命怀仁除钦天监职外，谢绝一切官职。第经其道长毕嘉（第一一八传）神甫之恳嘱，暂不从命。怀仁致书新会长诺耶自辩，并以奥斯定会、多明我会、方济各会诸神甫对于本人受职而教会赖得保障陈谢诸函寄呈。且云愿将一切职官辞谢，非有所恋也。会长遂决定，自是以后，关于此事，由怀仁自决，不受北京会团道长之约束。（上引杜宁-茨博特书，一六七三年和一六八二年部分。波斯曼《南怀仁传》，四〇页以下。）

怀仁就钦天监职之始，即上书请废下年闰月，因其与
344 天象不合也。（南怀仁《欧洲天文学》，二〇页。古伯察《基督教在中国》卷三，六八页。）是年（一六七〇年）葡萄牙国王遣使玛讷撒尔达聂(don Emmanuel de Saldagna)至京议澳门事，怀仁任通译。自是以后康熙皇帝对于西

士日见信任。

怀仁利用此时机谋被谪诸神甫之开释，与天主教传布之自由。会帝降诏，帝未亲政时受害者咸得昭雪。怀仁遂共同伴二神甫上疏，言谪居广州诸教士之受诬陷，天主教之被禁止。下部议，议七日，始蒙核准。

部议天主教无害于国家，由是许谪居广州诸教士各归本堂，奉行其教。汤若望(第四九传)神甫得昭雪，给还封号，赐卹，建墓。允许诸教士各归本堂。部议奏准之日，在一六七一年一月七日。虽然未完全获得信教自由，然此年受洗者达二万人；(郭弼恩《中国皇帝敕令史》，九页。上引杜赫德书，卷三，九二页。)次年即一六七二年，帝舅某与八旗都统某入教。(奥尔良《暹罗国首席大臣康斯坦斯传》，第一六三页。)

自是以后，怀仁愈得康熙皇帝信任。帝虽年幼，甚明敏，好学不倦，尤酷嗜西学。日召怀仁入内廷，如是凡 345 五月，(莱布尼茨(Leibnitz)《中国近讯》，一五一页。)辄留之终日，使之讲授数学、天文。帝欲怀仁为之解说利玛窦(第九传)神甫所译欧几里得《几何》前六卷，以及其他耶稣会士所译天文、风俗等书；并遣臣下一人授怀仁以满洲语。帝有时命怀仁讲授哲学及音乐。(上引南怀仁书，四页以下，九六页。上引柏应理书。上引古伯察书，卷三，七一、七二页。)

居京三神甫行为正直，亦足以得人之重视。“帝遣一青年满洲人至怀仁所，伪言学习哲理，实为侦探秘密。逾年，帝召其人，询以侦察所得。其人辄言怀仁无他。

帝因此杖之屡。然怀仁者终不为违心语”。由是帝始明怀仁之忠正无他。(上引李明书,卷二,一九五页以下。)

怀仁之子康熙,犹之汤若望(第四九传)之于顺治,于教授学术之余,并欲默启帝爱护宗教之心。始言偶像教诸迷信之诞妄;然后逐渐说明天主教之道理与秘迹。(上引南怀仁书,五七页。)威斯切尔斯神甫(《未公布的神甫书信》,第九页。)曾据怀仁一六七一年七月一日在北京致汪多玛(第一四三传)神甫书,保存有怀仁与帝谈话之一节也。

- 346 钦天监人员钦佩怀仁学识优长,不特毫无嫉妒,反请帝命怀仁重新制造仪器^①。怀仁于众目蔑视之下,制造
- 347 种种仪器,现尚存也。李明(第一七二传)神甫记有云:诸器铸造精工,饰以龙像,观其细件精巧相等,欧洲制造之仪器当无与相作者,惜中国工匠制造不能尽如怀仁意旨^②。(上引李明书,卷一,一一三页以下。)

①参看蒙图克拉(Montucla)《数学史》〔见梅纳尔德(Maynard)《耶稣会士的教导,证明文件》,第一号,二五九页。〕

②莱布尼茨(《中国近讯》,一五一页)云:怀仁曾制造仪器五十五件,中有数件专供帝用。怀仁并制造有起重机及八级引水之水道。(上引南怀仁书,六一页以下。)此种仪器中有数件在一九〇〇年经德国人运至柏林,一九一九年和约规定归还中国。〔参看吉隆(Fr. Guillon)信,载《宗教研究》,卷四,十七—三〇页。〕

吴三桂叛，满兵不能克，帝命怀仁改铸汤若望（第四九传）所铸旧炮，怀仁铸炮一百五十尊，然多重炮，不易转运山中。又奉命铸小炮，由是又铸各种口径之炮三百二十尊。

阅一年工成，怀仁设祭坛，著司铎品服，行祝圣礼，每一炮位各命以圣名。（上引南怀仁书，六一——六八页。上引古伯察书，卷三，八六——八九页。上引杜赫德书，卷三，八九——九四页。）后经试放，百弹中的者九十，帝大悦，面加褒奖，授通奉大夫。前此已追赠其父母，晋怀仁为工部侍郎矣。（上引南怀仁书，三四页以下。上引波斯曼书，一〇〇页以下。）

除此之外，怀仁不断为有益于皇帝与公众之事业^①，每年编定满汉历书。虽在勤劳之中，未忘传布教务。曾为恩理格（第一二六传）神甫转请离京赴晋；又为毕嘉（第一一八传）神甫转请护送李方西（第八七传）神甫之丧赴陕；又为方济各派神甫巴内斯（Bonaventure de Banhez）请准赴鲁；又为多明我派神甫瓦罗（Varo）转请许其入境随何大化（第七八传）神甫赴闽。（上引杜宁—茨博特书，一六七二年部分。）

①近畿有泉源甚多，怀仁为辟一水渠，汇聚其水，以资灌溉，田亩因以肥饶。（上引南怀仁书，六九页。）

一六七六年俄国专使至，怀仁为任翻译，遂拟从莫斯科辟一新道而通中国，然此愿未达。怀仁且欲耶稣会士为居京俄人之翻译也^①。〔波斯曼《南怀仁与俄国宫廷之关系》（以下简称《俄国宫廷》）五页以下。加恩（Cahen）

《彼得大帝时代俄中关系史》，二一页。〕

①加恩(《彼得大帝时代俄中关系史》，二九页。)对于耶稣会士为中俄两国居间翻译事，曾发表意见云：“十七世纪末年，俄人不通汉、满语文，而华人亦不解俄语，其外交语文应用何种语言欤？蒙古人与中国人习近，又与贝加尔湖外之布里亚特部落相接，似可用蒙语为仲介，然或因蒙人不解俄语，或因耶稣会士之策谋，竟用拉丁文。由是耶稣会士居两大国间为其译人而得其秘密云。”

349 一六八四年暹罗使臣入朝，怀仁请于帝崇其礼数；盖欲其王感德而优遇国内基督教徒也。（上引杜宁-茨博特书，一六八四年部分。）澳门在政治与商业方面，与中国发生纠纷，怀仁曾为之调解，葡萄牙国王彼德罗（don Pedro）三世在一六八四年曾致书怀仁以谢其劳。（波斯曼《俄国宫廷》，十页。《南怀仁传》，第六九、一三七页。）

怀仁袭汤若望(第四九传)神甫例，凡外省长官之往来京师者，怀仁辄往谒见，有时赠以礼物，嘱其善遇教师教徒，因此诸传教师颇得其助。（上引杜宁-茨博特书，一六七二年部分。）

一六七六年受命为副区长，综天文、宗教、钦天监、授帝西学诸事于一身。怀仁对于葡萄牙之保护中国传教会固甚感激，然以独受葡萄牙保护，其力容有未足，因谋召法国传教会来京。（波斯曼《南怀仁传》，一五五页以下。）

350 全国视怀仁为当时学识最为鸿博之人；惟怀仁愈受人钦重，愈自谦抑，对于无益之应接与谈话皆不为之。

其精神伟大，凡人有所需，无不尽力，然自奉则甚俭，乐处贫乏；床榻器具之陋，皆不足以称彼之官位。（上引杜赫德书，卷三，九八页。）

“彼常自言曰：脱非将来或有新仇教案件发生，自冀首先受祸，绝不受诸官爵。入朝或外出，必带一苦行带或一铁链于身，而常言曰：以世俗服装见天神，而不同时着耶稣服装，教士之耻也。”（同上）

世人得谓其终生皆在求天主之光荣。为求此光荣，怀仁俨若具有一种簇新精神者：其容貌、语言、情绪皆表现之，帝因此似畏之，而不易召之至前。帝曾有言曰：“怀仁似将有过度行为，朕虽不愿责之，然将必有表示不满之一日也。怀仁临终前，因此曾奏帝曰：“臣死无不满之心，盖臣以在生之年几尽用之于尽臣职；然祈皇上于臣死后忆及臣之所为，惟在求帝保护公教，无他意也。”（上引李明书，卷一，七五页。）

吾人不应忘者，当时之皇帝总理万机，传教自由系焉。脱意有不悦，发一语即足驱一切传教师于国外。朝中诸耶稣会士所行所为，无非在阻止此语之发出，而保障国内会士传教之自由。

至若怀仁之个人行为，可以言者，虔心奉教，严守戒律，服从道长，好学而尤嗜退隐。（上引李明书。）热望为教受难，因此常祈祷天主，俾此愿得达。（上引李明书，八四页。）

以一六八八年一月二十八日歿，春秋六十有五，入会四十七年，居华二十九年。康熙帝自撰祭文，赐帑金营葬

事。(《传教信札》，卷三，九二页以下。)

其遗著列下：

- (一)《教要序论》一卷，一六六九年，一六七七年，一七九九年北京刻本；一八四八年涑泾刻本；一八七五年，一九〇三年，一九一四年土山湾刻本（一九一七年书目二三六号）。别有官话本题曰：《教要刍言》（土山湾书目二三七号）；又有上海方言本题曰《方言教要序论》（土山湾书目二三八号）；法文本（土山湾书目二三九号）；怀仁
353 自译满文本刻于北京（参看伯希和文章，载《通报》一九二八年一九二页。）此本业经一八〇五年上谕列为禁书。并有朝鲜语本，刻于一八六四年前后。（参看伟烈亚力《中国文献注释》，一四二页。）

(二)《告解原义》卷一，初刻于北京，刻年未详，一七三〇年、一七九六年有北京重刻本；一八四〇年似有涑泾刻本；一八四九年上海刻本。

(三)《圣体答疑》一卷，初刻于北京，一八四九年上海刻本。

(四)《善恶报略说》一卷，一六七〇年北京刻本；土山湾重刻本（一九一七年书目补目八七号）。（范埃《汉学家南怀仁》，五四、五六页。）

(五)《妄推吉凶之辩》一卷，一六六九年北京刻本。（上引范埃书，三七页以下。）

(六)《妄占辩》一卷，北京刻本。（范埃《汉学家南怀仁》，四三页。）

(七)《道学家传》一卷，一六八六年北京刻本；一九二

五年二月至十一月《圣教杂志》节录本。（《传教信札》，卷三，四八五页。上引范埃书，五六页。）

（八）《仪象志》十四卷，一六七三年北京刻本。阮元《畴人传》题作《新制灵台仪象志》，分十六卷。〔波斯曼《关 354 于南怀仁之中文文件》（以下简称《中文文件》），六页以下。上引范埃书，六页。〕

（九）《仪象图》二卷，一六七三年北京刻本。

补一 《御览简平仪新式用法》。（考狄《中国的中-欧印刷术》，三六五页。）

补二 《预推纪验一卷》。（同上书，三五九页。）

（十）《康熙永年历法》三十二卷，刻于北京，一六七八年竣事。（上引杜宁-茨博特书，一六七八年部分。南怀仁《欧洲天文学》，三四页。上引范埃书，七页。）吾人曾见一部四卷本，一六七八年刻于北京，经闵明我（第一三五传）神甫核准刊行，不知是否此书之别本。卷一《序文》，卷二《立日躔永年表法》，卷三《立金星永年表法》，卷四《立水星永年表法》。

（十一）《历法不得已辩》一卷，一六六九年刻于北京。

（十二）《简平规总星图》。

（十三）《熙朝定案》三卷，北京刻本。是编新旧刻本 355 内容不同，新刻本多删旧文增益新文。（上引范埃书，四页以下。）

（十四）《坤輿全图》。

（十五）《坤輿图说》二卷，一六七二年北京刻本。《指海》有重刻本。（同上，第二九页以下。）

(十六)《坤輿外纪》一卷,《说铃》有重刻本。

(十七)《赤道南北星图》,一六七二年北京刻本。

(十八)《测验纪略》一卷,一六六八年北京刻本。别有拉丁文节本。(波斯曼《欧洲天文学》,十六页。)

(十九)《验气说》一卷,一六七一或一六七二年刻本。

(二十)《康熙十年历书》,一六八六年北京刻本。(上引范埃书,十四页。)

(二十一)《康熙十三年历书》,一六七三年北京刻本。

(二十二)《康熙十五年历书》,一六七五年北京刻本。

(二十三)《康熙十八年历书》,一六七八年北京刻本。

(二十四)《康熙二十六年历书》,一六八六年北京刻本。前录诸历本仅就所知者而言,其数当不只此。后二条所录满文历书,当亦不限于此二本也。(上引范埃书,十四页。)

(二十五)《康熙二十三年满文历书》,拉丁文标题作《一六八四年满文历书》,一六八三年北京刻本。

(二十六)《康熙二十六年满文历书》,一六八五年北京刻本。

(二十七)《一六七四年天象》,此本二卷,一六七三年作于北京,传本甚稀。乃推算康熙十三年月与行星之会、行星交会、行星与诸星交会之本也。(南怀仁《欧洲天文学》,二三页。上引范埃书,十六页。)

(二十八)《康熙十年十一月十五日月食图》一卷,满汉文合璧本,作于一六七〇年,盖月食年之前一年也。(索默尔沃热尔《书目》,卷八,五七七栏。上引范埃书,十

九页以下。)

(二十九)《康熙八年四月初一日癸亥朔日食图》一卷,钞本现藏布鲁塞尔城。

(三十)《月食测验》,钞本,题一六七一年,现藏巴黎气象台图书馆(达尼埃尔(Daniel)《耶稣会创建者》,七五页。

(三十一)《各种天文研究》,现藏巴黎气象台图书馆。(索默尔沃热尔:《书目》,卷八,五八四栏。)

(三十二)《吸毒石原由用法》(古兰《目录》,五三页注二一、二二)。伯希和文章,见《通报》。一九一六年刊,三八〇页;一九二八年刊,一九一页。

(三十三)欧几里得《几何》前六卷,满文译本,案此书已经利玛窦神甫译作汉文,题曰《几何原理》。(见本书第九传第十一号书。)伯希和文章,见《通报》一九二八年刊,一九二页。

(三十四)《满语语法》,怀仁在所撰之《欧洲天文学》³⁵⁸五五页言及是编。杜赫德神甫谓其刻于北京。一八七〇年时其钞本藏罗马会团。特夫诺在其辑本中刊布而佚撰人名者,即是编也。昔人多误以属张诚(第一七三传)。(索默尔沃热尔《书目》,卷八,五八三栏。)雅热(Karel de Jaegher)神甫在其《第一部〈满语语法〉之作者南怀仁》(载《通报》一九二三年刊,一八九——一九三页。)研究中疑出怀仁手。伯希和则谓确属怀仁。(伯希和文章,见《通报》一九二五年刊,六四——六七页,一九二八年刊,一九三页。)

(三十五)卫匡国(第九〇传)神甫所撰中国文法,曾经怀仁改订;收入上引特夫诺辑本中。(伯希和文,见《通报》一九二八年刊,一九三页。)

(三十六)《康熙亲政后在清帝国一度遭受遏抑的欧洲天文学又大放异彩》,是编经柏应理(第一一四传)神甫刊行,四开本,迪林根(Dillingen),一六八七年。今颇罕见。内附有北京观象台图。书末附有始方济各殁迄当时传教中国诸耶稣会士传,即前第七号书。吾人现藏一本,缺观象台图。前十一章与本书标题合,皆述与中国历家争持事。第十一章附康熙帝追赠怀仁祖父母、父母文。第十二章即本书也。第十三章至第二十八章历述诸传教师实验物理、数学各门,若日時計制造法,弹道学、引水法、机械学、光学、反射光学、透视法、静力学、流体静力学、动水学、气体学、音乐、時計制造法、气象学等科之成绩。(上引范埃书,四页以下,五七页。)

(三十七)《康熙皇帝时代中国重新采用欧洲天文学综述》,一六六八年,北京。内有图画一百二十五叶,盖关于数学,天文学,地理学,机械学,光学,水力学,农业及其他应用方法之图画也。每图附以汉文说明,序文九叶写以拉丁文。吾人现藏一本,不幸残缺,仅一百一十七叶,别有观象台图,居全编首。前有汉文序两叶,题曰《诸仪象并言》,后题康熙甲寅(一六七四)。各图无说明,除数图外,并汉文或拉丁文名亦缺。诸图皆怀仁所制之仪器,据《大清会典》可考其名曰黄道经纬仪,赤道经纬仪,地平经仪,地平纬仪,纪限仪,天体仪。

(三十八)《对天文观测一书后附 十二幅图片及综述一书前八幅图片的拉丁文简介》，是编为前号书之节本，存序九叶，图画十九叶。（上引范埃书，四页。）

(三十九)《进呈铸炮术》，汉文原题未见，内理论二十六款，图画四十四叶，皆发炮描准之法也。（上引杜赫德书，卷二，四三页。上引范埃书，二六页。伯希和文章，见《通报》。一九二八年刊，一九二页。）

(四十) 怀仁有奏疏甚多，巴黎国家图书馆藏有数本。（上引范埃书，五九页以下。）杜宁-茨博特神甫曾著录数件：

康熙十一年（一六七二）题请准恩理格（第一二六传）回晋，毕嘉（第一一八传）回陕^①疏。

① 钩案：前疏题请事在康熙十一年闰七月十六日；后疏题请事在康熙十二年八月初二日。参看《正教奉褒》，七二至七五页。

康熙十一年题请准万济国回华^①，伊巴内斯(Ibanez)^②神甫回鲁疏。

① 钩案：康熙十年九月礼部题请万济国应仍留香山澳。奉旨何大化既愿带万济国往福建居住，准其往福建居住。参看《正教奉褒》，六十九页。

② 案伊巴内斯神甫是方济各会士，西班牙巴伦西亚城人。一六四九年至华，曾赴欧洲菲律宾数次，并曾将仇教时已毁教堂多所修复。殁于一六九一年，春秋八十有六。西维札（Civezza）《方济各会史》，卷一，五五四页。赖德烈（Latourette）《中国基督教会史》一一七页。〕

历年题请行取闵明我（第一三五传）、徐日升（第一四二

传)、安多(第一六三传)及路易十四世所派诸法国神甫来京诸疏。

康熙八年(一六六九)请辞钦天监副疏及废闰疏。

360 康熙二十六年(一六八七)五月三日请不禁天主教疏。(上引范埃书,六三页。波斯曼《中文文件》,二六页。)

(四十一)帝命怀仁撰哲学进呈,怀仁辑傅汎济(第四五传)之《名理探》,艾儒略(第三九传)、毕方济(第四〇传)之《万物真原》、《灵言蠡勺》,利类思(第八〇传)之《超性学要》、王丰肃(第二六传)之《斐录汇答》等书,录其概要,参以己意,都为六十卷,书成进呈,帝留中阅览^①。(上引杜宁-茨博特书,一六八四年部分。冯秉正《中国史》,卷十一,六二页。上引杜赫德书,卷四,二四八页。上引范埃书五八页。)

①钩案:今见有怀仁撰《进呈穷理学》旧钞本,已残缺不完,计存《理推之总论》五卷,《形性之理推》三卷,《轻重之理推》一卷,《理辩之五公称》五卷,应是此书。惟考狄著《中国的中欧印刷术》书目,有《形性理推》五卷(三六〇号),《光向异验理推》一卷(三六一号),《目司图说》一卷(三六三号),《理推各图说》一卷(三六四号),《理辩之引启》二卷(三六二号),应皆为是编之子目。则是编所述形上形下诸学皆备,可谓集当时西学之大成,惟所钞《名理探》凡论及天主诸节,胥予删润,殆进呈之书未敢涉及教理耳。又考《癸巳类稿》卷十四,书《人身图说》后,曾引怀仁是编,谓一切知识记忆不在于心而在头脑之内。是《穷理学》中或

辑有邓玉函(第四六传)、罗雅谷(第五五传)之著述矣。

(四十二)《康熙二十一年(一六八二)扈从康熙帝巡幸关东和次年巡幸北塞记》，十二开本；巴黎，一六八五年。

(四十三)怀仁一六八三年十月四日信札，言是年帝巡幸塞北事。四开本，巴黎，一六八四年。

(四十四)怀仁随驾巡幸纪事，见上引杜赫德书，卷四，七四——八七页。著录第一次巡幸在一六八二年，第二次巡幸在一六八三年，后一次闵明我(第一三五传)并随行；一六八六年译为英文。(考狄《书目》，六三六页。)

(四十五)一六七六年赞成设立本地神职班纪录。
〔参看贝特朗(Bertrand)《传道会历史记录》，第二号。〕

(四十六)信札——一六六〇年七月十六日信札，言汤若望(第四九传)奉召入京事，载哈札特(Hazart)《克尔克里克史(Kerklyke Histoire)》卷一。

一六六一年顷，自北京致西安白乃心(第一一九传)神甫书，言北京钟事(时乃心已离京)。载吉尔切尓《附图中国志》，二二三页。

一六六七年九月三日自北京致佛兰德尔-比利时区长书，此书作于狱中。载《瑞典宫廷的腓利普·努蒂乌斯》八开本，布鲁塞尔，一八五六年。此书之后，尚有用弗刺明文自京致柏应理(第一一四传)神甫书，作于一六七〇年一月二十五日。

一六六九年怀仁、利类思(第八〇传)、安文思(第八八传)三人同作之信札，言西方诸国事，现藏巴黎国家图

书馆。(索默尔沃热尔《书目》，卷八，五八五栏。上引范埃书，二八页。)

一六七一年一月自京致鲁日满(第一二二传)神甫书，弗刺明文；同年七月自京致视察员汪多玛(Valgarneira)神甫书，葡萄牙文，载威斯切尔斯《未公布的神甫书信》，八开本，阿纳姆，一八五七年。

一六七八年八月十五日召欧洲耶稣会士书，拉丁文。

一六七八年九月七日自京致葡萄牙国王阿丰斯(Alphonse)六世书，谢其保教也，已刊行。

一六八一年答闵明我神甫书，现藏圣热内维夫学校图书馆。(索默尔沃热尔《书目》，卷八，五八四页。上引范埃书，六七页。)

一六八五年八月一日致阿万西尼(Avancini)神甫书，见波斯曼《南怀仁传》，一三〇页。

一六八六年九月二十一日致耶稣会会长诺耶书，言澳门事。(同上，一四七页。)

杜宁-兹博特神甫录有信札数件：

一六七七年致耶稣会会长奥里瓦(Paul Oliva)神甫书，言传教师甚少，请速派新人来助，尤应派遣供事朝廷之人来。

一六七八年致视察员书，言欧洲几不复有人来华，请在内地及澳门各设修院一所。

一六八二年九月致耶稣会会长诺耶书，对于受官职自办事。

362 一六八三年一月十五日自京致罗文藻主教^①书，关

于要求传教师对于主教及代主教发誓事。

①罗主教西名 Gregoire Lopez, 一六一〇年顷生于福建, 初经方济各派 利安当 (Antoine de Ste-Marie) 神甫授洗, 后在一六三九年偕安当同谪澳门, 已而赴菲律宾求学, 人多明我会。一六五五年还国, 于四辅政大臣仇教而诸教士流徙广州时, 颇为教中尽力。一六七四年二月四日受命为巴西莱 (Basilée) 主教及南京代主教, 在一六八五年始在广州行就职礼。一六九〇年二月二十八日歿于南京, 年八十岁, 葬南京教会公墓。〔费兰多 (Ferrando) 《菲律宾、日本和中国多明我会传教史》, 卷三, 六一一页。德礼贤《天主教中的中国籍主教》, 三〇——三五页。〕

一六八四年二月致宣教会诸枢机员书, 言对于新代主教发誓之不合时宜。

一六八五年八月二十九日致耶稣会会长诺耶书, 请派通晓医术之神甫或修士一人入朝供职事。

比利时京城布鲁塞尔 现存有信札数件。(索默尔 沃热尔《书目》, 卷八, 五八一栏以下。)

波斯曼神甫诸著述中亦刊有数件, 散见下列诸书中: 《南怀仁传》, 《关于南怀仁之中文文件》, 《南怀仁与俄国宫廷之关系》, 《比利时天文学会纪念南怀仁文集》。此神甫并拟将怀仁一切信札编辑刊布, 不幸在一九二八年二月三日疾终, 其志未遂。

加恩《彼得大帝时代俄中关系史》, 三八、一七三页。谓俄国档案库藏有怀仁信札数件: 盖其曾致书于沙皇及所识商队长, 愿为尽力也。

一二五 甘类思 葡萄牙人

一六七一年顷歿于澳门。

甘类思 (Louis de Gama)^① 神甫常居澳门，在一六五九至一六六三年间任视察员，因此吾人将其列入中国传教师之内。

① 钩案：原缺汉姓名，甘类思是新译名。

363 一六三〇年时曾赴印度，尚未晋司铎也。一六七一年顷歿于澳门。

一二六 恩理格 奥地利人

一六二四年生^①——一六四一年入会——一六六〇年至华——一六五九年四月十三日发愿^②——一六八四年七月十七日歿于绛州^③。

恩理格 (Christian Herdtricht)^④ 神甫字性涵，生于格拉次城。一六四一年十月二日入奥地利区之耶稣会，授文学、修辞学四年。一六五七年赴印度，传教于西里伯斯岛之马卡萨尔。会金弥格（第七〇传）神甫教区太广，佐理需人，一六六二年乃派理格至山西。省中有大员三人敬佩其德行和学识，对其传教颇力助之。

其一人是平阳总兵官，驻平阳府，曾为理格在府城中

建筑新教堂一所。已而声名远播，附近大镇名万安，居民相率入教。

①范埃（《汉学家南怀仁》）作一六二五年六月二十五日。

②一六七三年名录谓其已为在教辅佐人。

③原作一六二四年，兹从南怀仁神甫一六八四年十月二十五日致阿万西尼神甫书改正。《正教奉褒》八五页亦作七月十七日。

④柏应理、聂仲迁、索默尔沃热尔诸氏写其名并作 Herdrich，葡萄牙人写作 Enriquee。

第二人是三省盐运使，从其记室某得悉教义，因常与 364 弥格、理格往来，为之作书致省中诸大吏，传教颇得其力。

第三人是省之长官，其人为理格重修教堂及住宅，并为介士人不少入教。不仅太原如是，邻近之静乐亦然。一六六四年理格居此城一月，得受洗者八百二十八人。脱久居此地，入教者必众。（聂仲迁《中国历史》，一二四页。毕嘉：《中国天主教之发展》，第一编第六章，II—XII 节。

副区长应许太夫人子纘曾之请，派理格至开封兴复教堂。纘曾先购置广厦一所，理格至，遂赠之，并介绍往谒省中官吏。（聂仲迁：《中国历史》，第一二五页。上引毕嘉书，XVIII 节。）

嗣后入教之人甚众，教务颇为发达。不幸仇教之事 365 起（一六六四年九月十四日），理格如受霹雳，寝食俱废，如是数日。（上引毕嘉书，XXI 节。）痛稍定回绛州。与金

弥格神甫同被逮送京师，已而押赴广州。（上引仲迁书，一九八页。）

一六七一年事平，康熙帝以其通晓历法，召之赴京。理格赴京以前，经南怀仁（第一二四传）神甫奏请，先赴山西搬取仪器，安顿房屋。理格遂赴太原、绛州，收回教堂，整理教务，一六七三年六月抵京。（杜宁-茨博特《中国历史》，一六七二年部分。）

顾京师气候不适于理格病体，一六七五年请假复回山西。先至绛州、太原，后至蒲州，韩阁老子伯多禄前此所建之教堂，已为教外人占居，乃索还。并将太平县、平阳府及其他十余处之教堂修复。

一六七六年自山西赴开封。以奥地利皇帝利奥波德所赠望远镜转赠河南长官，因得将开封教堂修复。又得长官助，将费乐德（第四七传）神甫祠宇修复。

一六八四年七月十七日歿，葬绛州王丰肃（第二六传）神甫墓侧。

理格既歿，南怀仁（第一二四传）神甫奏闻，蒙帝悯恤，御赐海隅之秀匾额，差闵明我（第一三五传）神甫送往绛州。（奥尔良《两位鞑靼征服者之历史》，三〇四页。）

一八八一年有中国司铎王玛竇，曾将丰肃、理格二墓发现，墓在绛州城西五里段家庄附近之西坪南垠，其旁有吴主教（J-B de Mandello）墓。（据山西代主教莫卡加塔（Moccagatta）信札。关于吴主教名，可参考莫德赉《中国天主教之体制》，五二、五三页。）

其遗著列下：

(一)理格曾参加《西文四书直解》翻译工作，可参看第一一四《柏应理传》。

(二)聂仲迁(第一〇四传)神甫《中国历史续编》，五十六页后附有理格自广州致米勒尔(Miller)神甫信札，言四辅政大臣仇教事件，未著年月。

(三)致殷铎泽(第一二〇传)神甫书，附铎泽所撰《中国信件撮要》后。(索默尔沃热尔《书目》，卷四，二九五栏。)

(四)柏应理(第一一四传)神甫在一六八二年曾谓理格所撰汉文拉丁文大字书，题曰《文字考》者，行将付印。然今未见此本，不知是否尚存于世。

一二七 穆亚立 葡萄牙人

367

一六六四年至华。

穆亚立(Alexis Coelho)神甫以一六六四年至广州，仇教事起，迫之至澳门。(参看柏应理《耶稣会神甫名录》。)

其后踪迹未详，有一同姓名者于一六七二年派往柬埔寨，后在一六九四年歿于暹罗，不知是否同为一。(据弗兰格《耶稣会的新兴年》，一七四页。)神甫说，后一人一六二四年生，一六四三年十一月二十日入修院，一六七二年发四愿后赴东印度。

如同为一人，则必在一六六四至一六七二年间返回

葡萄牙矣。

一二八 罗雅各 葡萄牙人

一六六四年至华。

罗雅各 (Jacques Lopez) 神甫事迹未详。有一旧钞本著录其名,谓其在一六六四年至中国。

一二九 方玛诺 法兰西人

一六二〇年生——一六三七年入会——一六六四年为在教辅佐人——一六七六年九月四日歿于福州。

- 368 方玛诺 (Germain Macret) 神甫字允中,于一六五四年自瓦纳赴里斯本,次年从里斯本赴印度。曾授文法及文学九年,修辞学一年。比至澳门,谋入的摩尔群岛中之萨文 (Savin) 岛,此岛距马卡萨尔甚近。欲与萨卡诺 (Saccano) 神甫在此岛建一新传教会;已而得悉荷兰人占据此岛,二神甫乃转赴苏姆巴 (Soumba) 岛,盖此岛民曾请求耶稣会派遣神甫来岛传教也。(孟戴宗《交趾支那和交州教区》,八二页。马利尼《日本与安南东京耶稣会神甫传教区》,四二二页。)

一六六四年顷重回澳门,在聂仲迁(第一〇四传)神

甫被逐（一六六四年十二月二十六日）前三日抵赣州府城。刘迪我（第一〇二传）神甫率之至南昌；已而玛诺自南昌偕修士一人赴湖广。一六六五年一月二日抵武昌，穆迪我（第一〇八传）神甫匿之于对江一信教居民宅中。如是独居凡八月；每日与居停交谈，华语日益进步。（聂仲迁《中国历史》，二一三页以下，二二六、二二七页。）

迨至诸传教师押解出京以后，视察员恐其不能安居，召之还澳门。（同上，二二七页。）留居澳门两年，惟据闵明我神甫之说，当时似曾一赴安南南圻，未知审否。一六七一年吾人知其至福建、江西两省传教五年。一六七六年歿于福州，葬城外墓地。

一三〇 杨若瑟 葡萄牙人

一六六四年至华——一六七二年后歿。

369

杨若瑟 (Joseph de Magalhaens) 神甫字伯和，一六五七年自里斯本东迈。一六五九年抵澳门。一六六四年遣之至广州为陆安德（第一二一传）神甫助。先是黑奴多有从澳门逃出，娶华女为妻，而为广州总督及广东武官役使，至是若瑟专司布道于此种黑奴中。仇教时其道长召之还，罗阁伯（第一三二传）神甫同被召。至香山具皆被逮，将押解广州，有教民某与县官善，为营救得释而还澳门。一六七三年若瑟在澳门为学监，其歿年歿地未详①。

① 薛孔昭《名录》著录葬在澳门。

一三一 罗迪我 葡萄牙人

一六五〇年二月十六日入会——一六六四年
至华——一六九四年三月三十日歿于澳门。

罗迪我(Balthasar-Didace de Rocha)神甫字天佑,出生于埃武腊教区之威米埃罗(Vimieiro)城,一六五五年赴印度。修业毕,一六六四年至广州,次年因诸传教士被逮,乃还澳门。一六六九年闻交趾仇教而无教士,因赴交趾被逮,居狱数月。然得遣其同伴二人乔装入安南内地。既还澳门,诸道长选其为代表员,代表日本教区而赴罗马。一六八三年还澳门,以其余年传布宗教,解说神学。一六九四年三月三十日歿。

370

一三二 罗阁伯 葡萄牙人

一六六四至华——一六七二年后歿于果阿。

罗阁伯(Jacques de Sotomayor)神甫亦于抵澳门后,于一六六四年共杨若瑟(第一三〇传)神甫被派至广州,次年与若瑟同被召还。一六七三年被派至果阿,为副教区之代表员,后歿于果阿。

一三三 狄若瑟 法兰西人

一六一八年生——一六三四年入会——一六六
五年至华——一六五二年发愿——一六八七年
后歿。

狄若瑟(Joseph Tissanier)①神甫出生于阿让(Agen),
因其在—六八四年为中国日本教区视察员,故亦有传。离
法以前,曾授古典学、修辞学九年,哲学四年。一六五四年
自波尔多赴里斯本,次年自里斯本登舟,一六五六年抵澳
门。一六五八年入交趾,留居至一六六三年。居交趾
时,共传道者仅有博尔热(Onuphre Borges)神甫一人,
而教民有三十余万。若瑟在交趾时曾被捕下狱。一六六
三年被逐,走暹罗。次年为暹罗道长。一六六五年还澳
门。一六七三年重为暹罗道长,旋又还澳门。一六八〇
年为澳门会团长,一六八四年为中国日本教区视察员。
一六八八年尚存。

①钩案:原缺汉姓名,狄若瑟是新译名。

其遗著列下:

(一)若瑟除留有行记,一六六三年初刻于巴黎,重刻
于上引孟德宗神甫书以外,尚有一种记录,作于一六七
七年,记述中国、日本、安南等地传教会状况,钞本现藏里
昂图书馆。(参看索默尔沃热尔《书目》,卷八,五三栏。)

(二)一六八二年四月刊《友好信使》(Marcure Gal-

ant)曾据一六八一年一月二十七日若瑟发自澳门之信札,登载中国消息。

(三)一六八四年信札三件,现藏巴黎圣热内维夫学校档案。(索默尔沃热尔《书目》,卷八,五三栏。)

(四)有一论文题曰:《宗教谈判者》(Religiosus negotiator)言传道会诸教师所得经营之商业事,见阿诺尔德(Anault)《耶稣会上的实际道德》(《阿诺尔德著作集》,卷三五,第五五四页。)(索默尔沃热尔:《书目》,卷八,第五三编。)

一三四 石嘉乐 意大利人

一六一二年生——一六二七年入会——一六六八年
至华——一六四九年八月十五发愿——一六六八或
一六六九年^①歿于广州。

石嘉乐(Charles della Rocca)神甫字乐天,出生于皮埃蒙特之萨卢赛斯城。授古典学七年,然后于一六四三年赴印度。已而抵澳门,从罗历山(第五三传)神甫学习安南语,旋在一六四六年传教安南南圻一年,又在一六四七至一六五八年间传教交趾十一年。

①薛孔昭《名录》作一六六八年。

既被逐出安南,偕传教师四人附舟还澳门,舟至海南附近,触礁沉没,然乘客皆脱险。诸神甫皆经海南岛道长傅沧溟(第一〇三传)神甫接待。一六五八年嘉乐被派至柬埔寨,次年被逐出境,后又重莅此国。一六六六年时外方传教会凯夫

若(Chevreul)神甫路经此国得疾,曾蒙嘉乐诊治,后重还澳门,似在海南岛工作数月,已而至广州,其后未久歿。歿年在一六六八或一六六九年,葬广州城外。

一三五 闵明我 意大利人 372

一六三九年生——一六五七年一月十四日入会
——一六六九年至华——一六七五年八月十五日发愿——一七一二年十一月八日歿于北京。

闵明我(Philippe-Marie Grimaldi)^①神甫字德先,皮埃蒙特之科尼城之氏族也。一六五七年一月十四日弃绝一切世荣而入耶稣会,年甫十八岁也。学业未滿,请赴中国。一六六六年至里斯本附舟至澳门完成其学业。当时中国之传教师皆在广州禁锢。

①高龙鞞神甫补注云:闵明我殆为(Dominique Navarrete)之汉姓名,Grimalai神甫顶替其人,因而承袭其名。

一六六九年多明我会闵明我(Navarrete)神甫^①从拘禁诸神甫所逃出后,明我乘机欲代受拘禁,俾人数无缺,不为华官所觉,乃矫装由两教民率领入拘禁所。(杜宁·茨博特《中国历史》,一六六九年部分。)

①多明我会闵明我(Dominique Navarrete)神甫,西班牙人,生于佩尼亚菲埃尔,入此城多明我会修院。一六四八年赴菲律宾。一六五五年入中国。一六六

九年离中国。一六七七年为圣多米尼格 (St-Dominigue) 大主教，一六八九年殁于此城。

一六七一年被释出，始而传教广州，继而南怀仁（第一二四传）神甫奉命召明我偕恩理格（第一二六传）神甫入京修历。

广东总督预备官船五艘送诸神甫各回本堂。马道纳多 (Jean-Baptiste Maldonado)（上引威斯切尔斯书）神甫记有云：最美官船由闵明我、恩理格二神甫乘坐，因其
373 奉召入京修历也。郑玛诺（第一四一传）神甫随行。船上旗帜大书“举取进京”字样。余四舟旗帜书明“奉旨回堂”字样。此外广东总督给付每神甫凭照各二纸，一纸命沿途官吏护送供给，一纸命将各该天主堂交还各神甫管领。诸神甫离粤之时，在一六七一年九月八日。（上引威斯切尔斯书，十二页。杜宁-茨博特《中国历史》，一六七一年部分。）

明我在获得皇帝护教之意以前，曾用种种方法博取帝宠与其好奇心。“曾将在当时为新发明之水力机进呈。机上有常喷不已之喷水一道，准确报时钟一具，天体运转器一具，准确报晓钟一具。”（南怀仁：《欧洲天文学》，八二页。）“有一次在园囿四壁上绘人面各一，壁高五十尺，面长如之。正面视之，只见山林游猎诸景，第若位在一定地点观之，则风景没有人面见焉”。（上引南怀仁书，七六页。杜赫德《中华帝国现全志》，卷三，二六八页。）杜赫德神甫还记载云“所绘一切图画，表面视之，似模糊不明，若在一定地点或用圆锥形，圆柱形，角柱形之镜视之，图画毕见，如是之类，举不胜举。朝中贵人见之者，咸惊羨不

已。”(参看一六七〇年八月二十日南怀仁信札,载波斯曼《南怀仁传》,七二、七三页。)

帝对明我宠眷甚隆,一六八三及一六八五年携之出塞外,已而命其继南怀仁治理历法,并在一六八六年命其出使俄国。明我出使后,治理历法事由安多(第一六三传)、徐日升(第一四二传)二人代理。(郭弼恩《中国皇帝敕令史》,一〇八页。莱布尼茨:《中国近讯》,九一页。)明我行前陛辞,帝赐金镶宝石带一、荷包三、佩刀一,从满洲俗也。杜宁-茨博特:《中国历史》,一六八六年部分。)

沿途经过,待遇如同钦使,在江西南安府为方济各会士解困;在南雄以奥斯定会士利伯拉(Nicolas Ribera)托付地方官吏;在韶州数为西斯(Cisa)和奎莫奈(Quemener)二人尽力(上引杜宁-茨博特书,一六八六年部分)前一年明我赴澳门时,曾将一反对广东方济各会士及一代主教之案件平息,并在澳门为漂流至澳之十二日本国人说情,释放还国。(上引杜宁-茨博特书,一六八五年部分。)

明我为何事奉使至俄,交涉是否顺利,吾人不知。惟知其抵欧后先赴罗马、法国,留居德国甚久。

莱布尼茨自是与明我订交,彼此时常通信(巴耶《中国博物志》卷一,七页。)明我事竣后,莱布尼茨曾为作书致俄皇大彼得,请许明我经历俄罗斯西伯利亚而还中国。俄皇严拒不允。(加恩《彼得大帝时代俄中关系史》,一七五页以下。)至是明我乃持德意志帝利奥波德一世、波兰国王约翰三世苏比斯基及其他德意志诸侯致波斯国王苏

利曼二世书，从马赛附舟赴士麦拿湾，而嘱诸同伴别从里斯本出发^①。

①据明我赠与其同伴普卢罗 (Charles Joseph Pluro) 之一绘画，吾人知明我一六九〇年时在克拉科威 (Cracovie)。此绘画署马尔斯 (Jean-Ignace de la Mars) 名。别有一人跋其上曰：“莫斯科沙皇拒绝通过。”此绘画乃由范特奈 (Jos. de Fontenay) 神甫寄来。

从士麦拿至波斯；一六九二年二月五日偕德意志神甫乔特 (Chout) 至埃尔泽鲁姆 (Erzeroum)，此人原派往中国，后在自伊斯法罕赴海之途中病故。明我在此城见威洛特 (Villotte) 神甫，此人在四年前被派探测陆地通中国之道路，未能成功而留居波斯。此外尚有法国神甫三人名贝泽 (de Bezé)、阿尚博 (Achambau) 和博沃里埃 (de Beauvollier) 尚在伊斯法罕城拟赴萨马尔罕及布哈拉亦欲觅取从土耳其斯坦通北京之道路。(威洛特《一位传教士在土耳其、波斯、亚美尼亚旅行记》，二一〇页。上引加恩书，三九页以下。)

明我见此种事业无成功之望，乃赴果阿附舟往澳门。离华已七年矣。明我不待来迎之官吏来，偕法安多 (第一
375 九四传) 神甫乘驿疾驰赴京，二、三月之路程，于二十五日
中驰达。(一六九五年普罗瓦纳 (Provana) 神甫果阿信札)，
一六九四年既还京，康熙帝召见甚喜，盖前此询其行踪者
屡矣。复命其奉命赴澳门，迎接从里斯本附舟来中国之
传教师来京。明我被命为北京主教，徐日升 (第一四二
传) 为副主教，似在此时 (一六九五年)。罗耶神甫 (一

为九六年未刊信札)云:教令已达澳门,明我应往行就职礼,然未举行,其故未详。

明我后在一六九五(乾隆五年)六月二十九日任副区长。一七〇〇年任北京会团长。一七〇二至一七〇七年任中国日本视察员。一七〇〇年时奏请在内城为法国神甫建筑教堂一所,帝许之。后在乾隆三十九年(一七七四)焚毁,得以修复者,赖有此旧案也。(《传教信札》,卷三,二七、一四三、一七〇页。)教堂落成后,明我在一七〇三年十二月以视察员资格行祝圣礼。

大主教铎罗(de Tournon)决意赴京时,明我为之力谋待遇优厚。诸传教师对于中国礼仪纷争问题,公请明我吁请教皇专使明示教廷决断,且言宗座之命绝对服从,虽牺牲会中利益,教士生命,并离开中国,亦所不惜。(冯秉正:《中国史》,卷十一,三〇〇页。《传教信札》,三卷,一七〇页。)

明我最后数年之事未详,似仍居北京。一七一二年十一月八日歿,年七十三岁,计在华四十一年矣。

其遗著列下:

(一)《威尔特·博特》第八七号著录信札一件,一七〇三年九月作于北京,言一七〇二至一七〇三年度事,并详述崇明岛教务,与上海附近七宝地方仇教事件。据云上海附近有教民三万,松江二万,太仓、嘉定各三千。

(二)《方星图解》一卷,一七一一年北京刻本。(雷慕沙:《亚洲新杂纂》,卷二,二五三页。)

(三)《康熙永年历法》,是编原出南怀仁手,惟首题

明我名,盖经明我校订也。参看第一二四传第十号书。

(四) 一六九三年十二月六日自果阿致莱布尼茨书,见《中国近讯》,九一页。

(五) 一七〇五年明我与徐日升(第一四二传)、安多(第一六三传)、张诚(第一七三传)同请准教皇专使铎罗入朝疏。(上引冯秉正书,卷十一,三〇〇页。《正教奉褒》,一二四页。)

(六) 为北京会团长时,曾撰一文,题曰:《北京耶稣会神甫对康熙皇帝有关敬天、祀孔和敬奉祖先谕旨之简述》,四开本,一七〇一年,北京。

(七) 《答闵明我神甫书》。南怀仁(第一二四传)神甫曾谓明我对于葡萄牙专使玛讷撒尔达聂(Emmanuel de Saldanha)奉使事撰有记录,寄呈葡萄牙国王。(索默尔沃热尔《书目》,卷三,一八三五栏。)

〔附〕皮方济^① 葡萄牙人

疑在一六六八年至中国。

皮方济(François Pimentel)^②神甫出生于科英布拉教区。一六四八年二月一日入会。(上引弗兰格《耶稣会的新兴年》,五一八页。)葡萄牙专使玛讷撒尔达聂(Manoel de Saldanha)赴京交涉通商、传教事宜时,方济为随行教师。使臣留居广州一年,(杜宁-茨博特《中国历史》,一六七〇年部分。伦格斯特德(Ljungstedt)《葡萄牙人侨居中国史略》,九五、九六页。)一

六七〇年一月初始成行。六月三十日抵通州，时帝巡幸 377 塞外。至七月三十一日（阴历六月十五日）^③或八月十四日始能入觐^④。南怀仁（第一二四传）神甫曾为之奏请，并自任翻译。

①高龙鞶神甫云：此传本书原缺。

②钩案：原缺汉姓名，皮方济是新译名。

③康熙《东华录》卷十：“九年庚戌六月甲寅，西洋国王阿丰肃遣使玛讷撒尔达聂进贡，得旨，西洋国地极远，初次进贡，著从优赏。”

④此次使臣入觐之年，伯希和曾在一九二八年《通报》一九五页讨论。旧谓在一六六七年（上引冯秉正书，卷十一，六〇页。）似误，盖是年康熙尚未亲政，（辅政迄于一六六七年八月二十五日）而四辅政大臣尚在仇教也，高龙鞶神甫所考一六七〇年较有根据，且可以波斯曼《南怀仁传》六三，六九——七二、七六页所引一六七〇年八月二十日南怀仁信札三件证之。

此次使臣待遇较优，沿途并未张“进贡”旗帜。（上引杜宁-兹博特书，一六七〇年部分。蒙塔托·赫苏斯（Montalto de Jesus）《澳门史》，第二版，一二一页。）在北京时帝允许保护澳门。使臣留京数月，殁于归途^①。

①玛讷撒尔达聂殁年在一六七〇年终以前，或在一六七一年十二月前，要在殷铎泽（第一二〇传）神甫赴罗马后。〔据马道纳多神甫于一六七一年十二月十日自澳门致殷铎泽神甫书，见威斯切尔斯《未公布的神甫书信》，第十四页。〕

方济还澳门为修士教习，一六七三年九月二十一日离澳门赴交趾。一六七五年九月五日歿于趾交。（参看吉勒尔梅：《耶稣会圣徒节日历》，葡萄牙文版，卷二，二〇六——二〇九页。）

一三六 葛安德 葡萄牙人

一六二三年生——一六三九年七月十一日入会——疑在一六七〇年至华。

葛安德 (André Gomes) ① 神甫，据马夏多 (Machado)《书目》，谓其出生于兰德罗尔 (Landroal) 城，在埃武腊教区入会，一六五六年偕卜弥格 (第九三传) 神甫赴中国。在一六七〇年传教中国。案传教之年应误：是年诸神甫尚谪居广州，传教内地似不可能。一六七三年一名录著录是年安德在柬埔寨。索默尔沃热尔 (《书目》，卷三，一五四九栏) 神甫仅谓其在一六七〇年获许前赴中国传教而已。

① 钩案：原缺汉姓名，葛安德是新译名。

一三七 金百炼 葡萄牙人

一六三六年生——一六五四年入会——一六七一年至华——一六八一年五月十八日歿于上海。

金百炼(Emmanuel de Pereira)神甫字玉纯,修道四年,一六五八年离葡萄牙而赴印度完成学业。一六六九年至澳门,等待机会进入内地。一六七一年刘迪我(第一〇二传)神甫运潘国光(第七九传)神甫之柩赴上海,百炼随行。留居上海,传教十年歿,葬城外耶稣会墓地。

一三八 方济各 意大利人

一六三一年生——一六五〇年入会——一六七一年至华——一六七六年八月十五日发愿——一六九二年八月十五日歿于澳门。

方济各(François-Xavier Philipucci)神甫字以智,初名亚力山大(Alexandre),因得疾,诸医束手,得印度宗徒佑,其疾忽愈,乃改用此圣者名。(纳达西《耶稣会的光荣年》,三六三页。弗兰格《卢西塔尼亚教省年鉴概要》,三二八页。)越二年,一六六〇年,(上引弗兰格书)晋司铎后离欧洲东迈。济各感圣方济各恩,在里斯本、果柯、澳门等地将此圣者未刊信札数件钞录副本寄送波西努斯(Possinus)神甫,盖此神甫适在预备刊布圣方济各信札新编也。曼夏达(Menchada)《序言》,载《圣方济各》XXXVI 页。)

当其居澳门时,请派往别一教区凡两次,皆因病而 379
未果往,乃请留居中国,其疾遂愈。如是任修士教习二

年,文学教习三年。自一六七一年始,传教广东,开辟新教区数所。

一六七六年广州耿氏叛起,乱民掠其住宅,济各藏其祭器,急脱走,获免。(杜宁-茨博特《中国历史》,一六七六年部分。)

一六八二年受命为日本教区区长。一六八八年为中国日本视察员。一六八五年任区长时,澳门捕获荷兰船舶一艘,华人某谓船属己有,由是广州总督与澳门之争端起,几肇祸。旋闻闵明我(第一三五传)将至粤,总督囑济各往清明我调处,事遂解。(上引杜宁-茨博特书,一六八五年部分。)一六九二年八月十五日济各殁于澳门。

380 其遗著列下:

(一)《中国礼仪事件》或《对祀孔、祭祖仪式的深入了解》八开本,里昂,一七〇〇年。是编作于一六八二年,乃中国礼仪问题争辩时辨诬之文也。

(二)一六八八年十月十九日自澳门致耶稣会会长信札。

(三)帕热(L. Pages)之圣方济各信札,卷一,一九五至二〇九页所辑诸文题作《致热衷于永生之心灵》,盖圣方济各传道之文而经济各搜集者也。又同书二一〇至二一三页致讲说教义人之文是否亦为所辑,未详。(参看索默尔沃热尔《书目》,卷三,七三五栏。)

一三九 冯思嘉^① 中国人

疑在一六七一年还国——歿年不详。

冯思嘉(Nicolas Fonseca)修士,中国人,吾人仅据弗兰格《卢西塔尼亚教省年鉴概要》后附名录,知其人于一六六六年从葡萄牙出发,时尚未晋司铎也。

①钩案:此人姓名里贯皆未详,兹从其西文名音译。

一四〇 范方济 葡萄牙人

一六七一年至华——一七〇三年歿于澳门。

范方济[François de Vega(Veiga)]神甫字而各,一六六六年与闵明我(第一三五传)神甫同舟赴中国。一六七一年抵澳门。传教海南岛,在一六七三至一六七八年间设传教所新数处。(柏应理《耶稣会神甫名录》,八八页。)后还澳门任道长。据罗耶神甫(一六九七年未刊信札)说,方济在一六九七年为日本教区区长,命艾未大(第一七六传)神甫自交趾赴中国者,即此人也。后在一七〇三年歿于澳门^①。

①补注云,海南岛传教师梅费特(Maifait)记琼州附近 Kiu-tea 坟地事,除傅沧溟(第一〇三传)、瞿笃德(第一二三传)、金玉敬(第一五八传)三神甫墓外,别有

二墓石漫漶不明,“其一石殆为林本笃(第六八传)神甫墓石,别一墓石殆为范方济神甫墓石”。见《传教年鉴》,一八五二年,四七页。引自吉勒尔梅主教一八五一年五月二十日香港信札。案第一墓石得为林本笃神甫墓石,第二墓石似有误会,盖据一九三三年《传教会历史杂志》二九页德斯波本(Desperben)神甫之说:“一六八二年时范方济神甫为七传教师之独存于海南岛者。……”(出处未详)又三一页云:“此基地名 Ngan-li-deng, 此二墓石并属林本笃云。”

一四一 郑玛诺 中国人

一六三五年生——一六七一年返华——一六七三年五月二十六日歿于北京。

郑玛诺(Emmanuel de Sequeira)神甫字维信,澳门人,幼从卫匡国(第九〇传)神甫赴罗马,入耶稣会,晋司铎,是为耶稣会华人晋司铎之第一人。在罗马学校完成其哲学、神学课程后,一六七一年返华。仇教案件平息后,随闵明我(第三五)、恩理格(第一二六)二神甫入京。越二年歿,年三十八岁。

一四二 徐日升 葡萄牙人

一六四五年十一月一日生——一六六三年九月二十

五日入会——一六七二年至华^①——一六八〇
年八月十五日发愿——一七〇八年十二月二十
四日歿于北京。

徐日升(Thomas Pereira)神甫字寅公，葡萄牙布拉 382
加教区马尔蒂诺·瓦亚(S. Martinho de Valle)城贵族
科斯塔-佩雷腊(Costa-Pereira)之裔也。初在布拉加学
校肄业，已而在一六六三年离校，入科英布拉修院。至
是改旧名桑切(Sanche)而用新名托马斯(Thomas)。一
六六六年二十一岁，请赴印度，在卧亚或澳门完成其学
业。(弗兰格《耶稣会的新兴年》，七〇八页。)

①据罗文藻主教云：(一六九〇年八月二十八日信札，
见一九二五年二月刊《宁波简讯》)一六九〇年日升
年五十，在一六七四年入中国。又据别一说一六七
三年至中国。(一九〇六年《通报》第四三八页考狄
说，然未著明出处。

南怀仁(第一二四传)神甫以其谙练音乐，荐之于康熙帝，帝命二使者召之至京师。使者至澳门，宣帝命，视察员汪多玛(第一四三传)神甫命日升随使者入朝。一六七三年一月抵京师，所经州县皆以礼待。初入觐，即博帝欢，自是亘三十六年，宠眷不衰。(杜宁-茨博特《中国历史》，一六七二年部分。)

怀仁记有云：一六七六年彼与日升暨闵明我(第一三五传)同侍帝侧，帝命日升弹翼琴(Clavecin)，怀仁继弹中国曲。日升静聆之，接弹此曲，毫厘不失原调。帝甚惊异，命复弹，仍如前。帝讶而指日升曰：“是人诚天才

也。”赏诸神甫贡缎二十四匹曰：“汝辈袍已敝，可易以新者。”（南怀仁《欧洲天文学》，九〇页。）

一六八五年帝出塞，命日升与安多（第一六二传）随扈。一六八八年南怀仁病故，命闵明我顶补怀仁遗缺。明我出差，又命日升、安多二人代理。同年命日升与张诚（第一七三传）二人随使往尼布楚订中俄边界条约。（一六八九年《尼布楚条约》）（《传教信札》，卷三，一七〇页。）二神甫还，帝赐锦衣貂褂以劳之。（冯秉正《中国史》，卷十一，一一一页。）

383 一六九二年三月二十二日朝议许奉行天主教，盖日升、安多、张诚三人之力也^①。

①康熙三十一年二月初三日礼部尚书顾八代等十七人，“题为钦奉上谕事，臣等会议得：查得西洋人仰慕圣化，由万里航海而来。现今治理历法，用兵之际，力造军器火炮，差往俄罗斯；诚心效力，克成其事，劳绩甚多。各省居住西洋人，并无为恶乱行之处，又并非左道惑众，异端生事。喇嘛僧等寺庙，尚容人烧香行走。西洋人并无违法之事，反行禁止，似属不宜。相应将各处天主堂，俱照旧存留，凡进香供奉之人，仍许照常行走，不必禁止。俟命下之日，通行直隶各省可也。臣等未敢擅便，谨题请旨。二月初五日奉旨：依议，钦此。”（郭弼恩《中国皇帝敕令史》一八三页。）

得旨后通行各省，转行各府州县，钦遵奉行。（上引冯秉正书，二一一页。）

此诚殊恩，北京诸传教师皆感帝德。日升于朝会时曾对诸王公大臣言曰：此诚吾人之唯一志愿，唯一目的，日夜盼祷者也。我辈弃家离国，犯冒危难，来事皇上者，无非为此。圣眷虽频，然无逾此次之隆，致使吾人无从报答。（普雷：《中国礼仪之争史》，三五页。莱布尼茨《中国近讯》，一四四页。）

日升几终其生于北京。一六九一年任视察员。一七〇六年任副区长^①。一七〇八年歿。先是利玛窦（第九传）神甫得万历帝赐地，汤若望（第四九传）得顺治帝赐地，建筑天主堂，至是日升更建新堂九所，将旧堂广而大之，俾成欧式。除主坛外，别建小坛三，各有坛场。惟基础不固，一七二〇年及一七三〇年受地震害，至一七四三年始修复。（刘松龄《轶事信札》。）

①日升似曾被任为北京副主教，参看第一三五《闵明我传》。

日升谙练音乐，曾在天主堂中装置大风琴一架，式样之新、节奏之调，华人见之者莫不惊异。同一堂上并安置大报时钟一架。铸有小钟多口，置于中庭，每一钟槌以铁丝系之。庭内置一大鼓，平时用齿轮鞣之，鸣时轮脱鼓自动，周围有锐齿，轮系诸钟，合鸣成华乐，其声悦耳。朝野贵贱争往观之，莫不惊异。（杜赫德《中华帝国全志》，一一二、二七〇页。南怀仁《欧洲天文学》，九二页。）

其遗著列下：

（一）《南先生行述》一卷，一六八八年北京本。巴黎国家图书馆中国图书新藏编三〇三三三三。（考狄《中国的

中-欧印刷术》，三〇页。）

(二)《律吕正义》五卷，前四卷，康熙皇帝御定，续编一卷，取日升及意大利人遣使会士德理格^①所讲声律节奏而成，一七一三年北京刻本。

①德理格西名 Théodoric Pedrini，一六七〇年生。一七一〇年至北京，为朝廷乐师。一七四六年歿于北京。参看包世杰《栅栏天主教墓地和墓碑记录》，一三九页。

385 (三)《实用音乐与欣赏音乐》(Musica practica et speculativa)原为汉文，一卷，刻于北京。曾奉敕译为满文。(索默尔沃热尔《书目》，卷六，五一四栏。)是编疑即前一号书。

(四)一六九二年自北京致耶稣会会长书。

(五)一六九一年日升、安多因浙江巡抚毁教堂，破书版，欲逐殷铎泽(第一二〇传)神甫出境，奏请昭雪疏。

(六)一六九二年奏请准予传教疏。

一四三 汪多玛 意大利人

疑在一六七二年至华——歿年在一六七二年后。

汪多玛 (Thomas Valgarneira)^① 神甫，西西里人，据一六七三年名录，曾在一六七二至一六七三年间为中国日本视察员。一六四〇年离欧洲。一六五五年从澳

门派至暹罗。

①钩案：原缺汉姓名，汪多玛是新译名。

一六五九年居暹罗时曾撰有一條语或暹罗语字书。

一四四 李西满 葡萄牙人 385

一六四五年十月二十四日生——一六五九年十月十五日入会——一六七五年一月二十日至华①——一六八二年发愿——一七〇四年十月歿于苏州。

李西满(Simon Rodrigues)神甫字受谦②，授文学三年始赴东方传道。一六七三年殷铎泽(第一二〇传)神甫重赴中国，西满随往。既至，初派往上海，继派往福建。一六七八年洪度亮(第一四八传)、何纳爵(第一四九传)、鲁日孟(第一四七传)三神甫自菲律宾来福建，西满密与教民数人谋，送之潜入内地。一六七九年被召入京修历。(墓志。)

①墓志作康熙十三年。(是年始一六七四年二月十六日，终一六七五年一月二十七日。)

②墓志及《正教奉褒》皆作字守谦。

一六八〇年帝赏赉之，授以官，西满固辞；因请帝赐以敕旨，许其传教。帝亲书“奉旨传教”四字授之。(墓志)一六八二年还福建，顾教堂甚多，难以兼顾，精力日渐衰颓。(杜宁-茨博特《中国历史》，一六八五年部分。)

如是重返江南，常驻常熟、苏州（一六九〇年在苏州）。每年受洗者五、六百人。（《传教信札》，卷三，七三页。）无锡、崇明两地教堂亦属管领。一六八五年罗文藻主教赴崇明时，西满随往，主教见崇明教务发达，甚喜。（同上，一六八五年部分。）

- 387 一六九六年六月二十九日大飓风，崇明岛向陆一部分尽为海水淹没。据闻死者六十万，房屋、塔、庙淹没者不可胜计；而基督教教堂仅毁一所，教民丧失仅五十人。

一七〇四年十月歿于苏州，葬白鹤岭。一七〇五年立墓石^①。一八四七年阴历十月贝西（de Besi）主教为重营其墓。

①墓志载，此墓为同会恭日所建。吾辈不知其为何人。墓志云：十五岁入教，五十九岁歿，计在教四十六年，计年似有舛误。南怀仁主教（此为另一南怀仁，见本书三五二传）。墓地亦在此岭上。此岭属长洲县，而墓地在白马涧，属吴县，今尚为苏州教民殡葬之所。

一四五 张安当 意大利人

一六四〇年四月三十日生^①——一六五七年（亦作一六五六年）十月二十二日入会——一六七六年十一月四日至华——一六七四年三月十二日发愿——一七〇五年一月十八日歿于太原府。

张安当 (Antoine Posateri) 主教字静斋，一六四〇年（一六三〇年）生于巴勒莫，年十七（或二十七）入此城修院。毕业后任教职四年，然后请赴中国。一六七四年三月十二日发愿，其后未久附舟东迈。既至，初派赴广东，继派赴江南，留上海迄于一六九一年。杜宁-兹博特神甫云：一六八二年时安当独管此传教所，而教民多至八万，勤劳可知。一六八八年八月一日乃自澳门遣会中中国司铎三人往助之，即吴历（第一五六传）、万其渊（第一四六传）、刘蕴德（第一六二传）三神甫是已。（杜宁-茨博特《中国历史》，一六八二和一六八五年部分。）

①薛孔昭《名录》作一六三〇年四月三十日。

②其名亦作 Pussateri, Possatero。

一六九一年赴山西、陕西、甘肃三省创设新传教区。一六九九年还松江，其后未久复至北方诸省。一七〇二年被命为山西代主教，然未及举行受职礼。莫德赉《中国天主教之体制》，五六页。）一七〇五年一月十八日歿于太原府城，汤尚贤（第二六四传）神甫为营葬事。（一七〇五年十一月十三日张诚神甫致坦布利尼(Tamburini)神甫书。又见布鲁克尔神甫补注。）

遗书有一七〇四年十月十五日北京信札一件。（上引莫德赉书，五六页。）

一四六 万其渊 中国人

一六三五年生①——一六七六年入会——一六七六

年入内地——一七〇〇年十月八日歿于上海。

- 389 万其渊(Paul Banhes)^② 神甫字三泉, 本姓万, 江西建昌府人。一六七六年在杭州入耶稣会, 从殷铎泽(一二〇传) 神甫修行。研究神学毕, 于一六八〇年和一六八四年在上海、南京、淮安等处, 随各神甫为讲说教义人。一六八八年罗文藻主教晋授为司铎。(参看一九二四至一九二五年《宁波简讯》, 《罗文藻传》。)嗣后传教浙江、福建、广东、江南等省, 以居江南时为最久。一六八九年得忧郁疾, 逃湖广山中隐居, 次年刘蕴德(第一六二传) 神甫往觅之。后疾愈仍传教如故。

一七〇〇年十月八日歿于江南, 葬上海西门外圣墓堂。

- ① 薛孔昭《名录》作一六三四年。墓志作一六三五年生, 一六七六年入会。一六九七年名录作一六三一年生, 一六七八年入会。

- ② 其名亦作 Vanhes。

一四七 鲁日孟 西班牙人

一六四六年生——一六六二年入会——一六七八年至华——一六七九年八月十五日发愿——疑在一六八八年后歿于菲律宾。

鲁日孟(Jean de Yrigoyen) 神甫字裕斋, 出生于庞普洛纳。教授文法一年, 哲学三年, 先赴菲律宾传教十有

一年,然后偕二神甫(第一四八及第一四九两传)赴中国,时欧洲派往中国之教师日见稀少也。初传教于苏州常熟,后传教于福州。一六八五年还菲律宾^①。

①据吴历(第一五六传)一画跋,知日孟一六八八年尚在中国,将西行。

日孟、洪度亮(第一四八传)和何纳爵(第一四九传)三神甫乃经菲律宾区长利切尔米(Andre Richelmi) 390

神甫遣派赴华。自马尼拉附荷兰舶而至厦门,历经危难,幸得李西满(第一四四传)神甫及教民数人之助得潜入内地。其复还马尼拉之理由未详。杜宁-茨博特神甫谓其故在不愿从宣教部令而对新代主教发誓,并谓其目的在建设一葡萄牙独立教会,目的未达故退^②。

②据罗文藻主教一六八六年九月十日书,《宁波简讯》,一六二三年,十七页。)日孟、洪度亮二神甫已发誓,惟离华之原因不明。按出走之原因殆因独立传教会未能成立,而其道长何纳爵(第一四九传)病故。

一四八 洪度亮 西班牙人

一六四七年生——一六六五年入会——一六七
八年至华——疑在一六八四年后歿于菲律宾。

洪度亮(François Cayosso) 神甫字方济,一六四七年出生于卡斯提尔。一六六五年入会。初传教菲律宾,又传教马利亚纳群岛二年。至中国后传教福建、陕西两

省亘七年。一六八四年时曾偕闵明我(第一三五传)神甫参加恩理格(第一二六传)神甫葬事。一六八五年还菲律宾。

一四九 何纳爵 瑞士人

一六一二年生——一六二八年入会——一六七八年至华——一六四八年一月六日发愿——一六八二年歿于福州。

何纳爵(Ignace de Montes) 神甫字古修, 出生于卢塞恩, 至菲律宾改今名。传教菲律宾三十六年。至华时年事已高, 不服水土, 越四年歿于福州。

一五〇 张儒良 中国人

一六五一年生——一六七九年入会^①——一七三〇年三月二日歿于广州。

张儒良(Sjulien Gonzaga) 修士, 据罗马耶稣会档案, 知为中国人。生于江西。一六七九年在杭州从殷铎泽(第一二〇传)神甫修行。一六九一至一七〇一年间在湘潭为樊西元(第一九三传)、聂若望(第二四七传)二神甫伴侣。

一七三〇年歿于广州, 年八十一岁。

①据一六九二年名录,作一六四三年生,一六七三年入会。

一五一 齐文思 意大利人 392

一六八〇年顷至华——一六九一年歿于印度。

齐文思(Louis Azzi)神甫字类斯,托斯卡纳之卢克斯城人。一六六六年赴印度。(弗兰格《卢西塔尼亚教省年鉴概要》,四六七页)据名录,一六七三年在澳门为视察员汪多玛(第一四三传)神甫伴侣。吾人知其传教中国为时不久,一六八〇年(柏应理《耶稣会神甫名册》,一〇四页。杜宁-茨博特《中国历史》,一六八〇年部分。)传教广州及其附近诸城。已而还印度,歿于一六九一年。

一五二 罗历山 意大利人

一六三七年五月二十七日生——一六五五年入会——一六八〇年至华——一六七二年八月十五日发愿——一七〇四年十二月歿于南京。

罗历山(Alexandre Ciceri)主教字肋山,科摩(Côme) 392人。一六七四年赴印度,(弗兰科《卢西塔尼亚教省年鉴概要》,四六七页。)为果阿和马拉巴尔两教区区长与视察

员之伴侣。一六八〇年隶日本教区而传教广东。一六八六年为代理人而赴果阿、罗马。

一六九二年重莅中国,与李国正(第一八五传)神甫同随苏霖(第一六一传)神甫赴京师,盖霖时奉帝命来接二神甫也。既至京,帝待之优渥。(郭弼恩《中国皇帝敕令史》,一二一页。)似居京数年。一六九六年教皇英诺森十二世减南京教区为江南、河南二省,同年十月十五日命历山为此新区主教,时历山已被命为萨比拉(Sabula)^①主教,而在澳门行就职礼矣(一六九六年二月五日)。其在主教任内之事未详。一六九九年因教区事赴澳门。后在一七〇四年终,殁于南京,葬雨花台下,其地亦名主教坟园,盖有主教三人葬此^②。

①谓历山为萨比拉主教,仅见加姆斯(Gams)《主教名录》一二七页。参看龙华民传(第十七传)^⑩。此二主教姓名时代多相类,殆属一人。

②考加亚尔:《南京史地概貌》(二四页),《开放港口南京》(三六一页。)仅著录有罗历山、罗文藻二主教墓。其家属曾保藏其信札若干件。

一五三 潘玛诺 意大利人

一六四六年五月三十一日生——一六六〇年十一月十一日入会——一六八〇年至华^⑨——一六八五年二月二日发愿——一七〇三年三月十七日殁于广州。

潘玛诺(Emmanuel Laurifice)神甫字国良，西西里 393 人。一六七四年(前引弗兰格书，四六七页)赴中国，然在一六八〇年(上引柏应理《耶稣会神甫名录》。上引杜宁-茨博特书，一六七六年部分。)始莅传教所。先至上海，继至松江，继至杭州。一六八四年，恩理格(第一二六传)神甫歿，玛诺赴山西接办山西、河南两省教务。至山西颇受官吏礼待。然河南教案起，会闵明我(第一三五传)神甫捧御赐恩理格匾额过汴，事得解，玛诺始得传教河南。(上引杜宁-茨博特书，一六七六年部分。)一六八六年赴西安。一六八八年还松江。(一六九〇年在松江)。一六九三年在南京。一六九七年至一六九九年则在浙江。

①有一名录谓其在一六七九年至华。罗文藻主教一六九〇年八月二十八日信札与柏应理和杜宁-茨博特二神甫书皆作一六八〇年。

一七〇〇年任中国日本视察员。一七〇三年三月十七日歿于广州。

柏应理(《耶稣会神甫名录》一三八页。)神甫云：抵华六月，在上海被召赴松江，为许太夫人行终傅礼。及至，见许太夫人病尚未危，授圣体后欲归；许太夫人曰“请待至星期四，神甫应于于是日行”。至期，许太夫人果疾终，时为一六八〇年十月二十四日也。

一五四 穆若瑟 葡萄牙人

一六四六年八月九日生——一六六一年十二月十七日入会——一六八〇年二月至华——一六八〇年八月十五日发愿——一七一八年十二月三十一日歿于澳门。

穆若瑟 (Joseph Monteiro) 神甫字德我^①，里斯本人。一六七七年赴中国。(弗兰格《卢西塔尼亚教省年鉴概要》，三六三、四六七页。一六七七年。) 一六八〇年至中国，派往武昌府。一六八三年迁江西。一六八七至一六九三年在福建。一七〇〇年在镇江。一六九三年果阿大主教命之为福建副主教，(普雷《中国礼仪之争史》，九五页。) 然因代主教严嘉乐 (Charles Maigrot)^② 之教令引起纷争，若瑟不得已自引退。一七〇七年任副区长，后重任一次。

①薛孔昭《名录》作字文我。

②严主教并附见第一七四传与第一九五传。

若瑟在澳门，葡萄牙政府命之接罗历山 (第一五二传) 主教，后任主持南京教务，然未经宗座核准，教令未降。(威斯切尔斯《未公布的神甫书信》，一二九页。) 一七一五年在广州。王石汗 (第一七九传) 神甫谓若瑟为当时传教师之年最尊者。后任日本区长，而在一七一八年歿于澳门。

一五五 都加禄 意大利人

一六四四年生^①——一六六〇年三月二十五日
入会——一六八一年至华——一六八五年二月
二日发愿——一七〇六年十月十五日歿于贵
州。

都加禄(Charles Turcotti)^②主教字天受，米兰人。 395

一六八一年传教广东，在百余万人口中心之广州、佛山两地各建教堂一所。（《传教信札》，卷三，七二页。）教外人以堂丽而近佛寺，愤而诉诸总督。总督语诉者曰：“皇上建教堂于禁城，较此更为壮丽，我焉能毁此堂？”（同上，四九页。）佛山教民万人，信教虔笃。加禄居佛山十六年，又在新会建新堂一所。

① 薛孔昭《名录》与莫德赉《中国天主教之体制》一一一〇页并作杜加禄。

② 据一九三二年十二月刊《耶稣会历史档案》二五三页。威赛尔考证：加禄出生于一六四三年十月九日；一六七七年为荷兰人俘；一六八〇年自巴塔维亚赴澳门。

一六九七年顷，为中国日本视察员。上川岛圣方济各纪念石室之奠基，乃加禄与利国安（第二二一传）神甫之力，时在一七〇〇年三月十九日也。（《威尔特-博特》，三〇六号。）

一七〇一年宗座命为贵州代主教，并加安德烈维尔(Andreville)主教衔。加禄在贵州终其余年，以一七〇六年十月十五日歿^①。

①据王石汗(第一七九传)神甫一七一五年十一月致雅南(Janning)神甫书(上引威斯切尔斯书，十二页)谓其不愿行就职礼。而歿于广州。有一日本名录谓其歿于佛山。赫纳兹(Hernaez)神甫所辑之《布拉文集》中国诸主教名录中无加禄名；然卫方济(第一六九传)称之为安德烈维尔主教。(《传教信札》，卷三，七二页。)而《圣教会刊》(一八六八年，十七页。)则目之为贵州第一任代主教云。

一五六 吴历 中国人

一六三一年生——一六八二年入会——一六九五年八月十五日在教辅佐人——一七一八年二月二十四日歿于上海。

吴历(Simon-Xavier a Cunha)神甫字渔山，以一六三一年出生于常熟。父为明代显宦，历幼时，为精选诸师。授画者为当时著名画家，然后来其名反为其弟子所掩，而历画迄今尚为人所保藏。授诗者钱某，为清代三
396 大诗人之一，对于历所作诗颇奖赞。历已婚，有二女；妻歿，以二女属家人而赴澳门，拟偕柏应理(第一一四传)神甫赴罗马。历曾辑是时所作诗，题曰《三巴集》，盖在澳

门圣保罗天主堂所作，三巴者，圣保罗之别译也。

已而未能偕应理西行，乃在澳门入耶稣会，改其名曰 Simon-Xavier a Cunha。毕业后，在一六八八年八月一日晋司铎，而还上海，传教嘉定附近多年。一六九九至一七〇二年间成绩尤著。

先是历未入教时所绘诸画，间有涉及迷信者乃访求之，得之辄投诸火为赎前罪，乃作赞美天主圣母、天神、圣体诸诗歌。年事虽高，常步行传教，热心不减于前。一七一八年二月二十四日歿于上海，葬南门外耶稣会墓地。

其遗著列下：

(一)《三巴集》，收入《墨井集》中。《墨井集》，李问渔神甫所辑历诗文全集也，有马相伯序，一九〇九年土山湾刻本。（一九一七年书目七四三号）。

(二)未入教前所作诗，其数甚少。

(三)《天乐正音谱》，收入《墨井集》。

(四)《暂永篇》，收入《墨井集》。

(五)《续口铎日抄》，乃出讲说教义人赵某笔录，收入《墨井集》。

(六)《画谱》，历所绘诸画现存者，由张(M. Tchang)和普鲁内勒(de Prunelé)二神甫搜辑影印于二神甫所撰《吴历传》，上海，一九一四年（《汉学杂集》，三七号。）

397 一五七 奚安当 葡萄牙人

似在一六八三年至华^①——一七一〇年后歿。

奚安当(Antoine de Simoens)^② 神甫,葡萄牙人,至华时最早似不过一六八三年。曾传教正定。一六九六年时尚在正安,是年受洗者千人。(《传教信札》,卷三,七三页。)一七一〇年至一七一一年间传教南昌。其余事迹无考。

①薛孔昭《名录》作一六八二年。

②钩案:原缺汉姓名,奚安当是新译名。

一五八 金玉敬 德意志人

一六五二年生——一六七八年入会——一六八四年至华——一六八六年十月九日歿于海南岛。

金玉敬(Joachim Calmes) 神甫字若亚,汉堡人,家富而奉新教。玉敬经商而至里斯本,偶入修道院,聆诸修士颂扬天主歌声,有所感,遂在一六七八年入耶稣会,进科英布拉修院修业。

越四年东迈,一六八四年抵中国。初至广东传教一年;继至海南岛。于一六八六年十月九日歿于此岛,葬

琼州府城外教会墓地。

一五九 孟由义 葡萄牙人 398

一六五六年一月一日生——一六七三年三月十六日入会——一六八四年十月二日至华——一六九〇年八月十五日发愿——一七四三年十二月歿于澳门。

孟由义(Emmanuel Mendes)^① 神甫字居仁，科英布拉教区人，入此城修院。一六八〇年修业未毕，附舟东迈。一六八四年至华，先赴上海，肄习语言一年。一六八五至一六九一年间传教江西。当其至 Yang-fou (?) 时，此城长官是天主教徒，在京时曾从南怀仁(第一二四传)学，闻由义至，躬率役卒迎之至署。自出资为建教堂一所，而自任讲说教义人，入教者日众。(上引杜宁-茨博特书，一六八五年部分。)

由义旋赴淮安，然其常驻之地则为松江、上海。所管教堂凡三十所。一六九九年、一七〇四年、一七二八年尚在松、滬。似在一七二一年时任副区长。惟其事业多无考。雍正仇教，起初数年，由义藏匿。一七二九年被发觉，走广州，继走澳门。后歿于澳门，年八十八岁，计居中国五十九年矣。

①本书第四五五传之孟神甫，疑与由义同为一入。

一六〇 马玛诺 葡萄牙人

399

一六三一年生——一六五八年二月二十三日入会——一六八四年十月二日至华——歿于南京，歿年未详。

马玛诺(Emmanuel Rodrigues) 神甫字允承，出生于埃武腊教区之苏雷尔，入此城修院。一六六七年赴印度。传教迈苏尔教区卅十七年，曾建医院一所。

玛诺精通神学，曾将教中著述数种译为卡纳拉语(Canara)。迈里阿帕尔(Meliapore)主教对其德行事业大加褒奖。已而至中国，一六八四至一六九二年间传教上海、南京。继被召还果阿，偕印度视察员巡历果阿教区。一六九四年至北京，旋还南京，歿葬雨花台下，歿年未详。

一六一 苏霖 葡萄牙人

一六五六年二月十五日生——一六七三年三月二十三日入会——一六八四年十月二日至华①——一六九〇年八月十五日发愿——一七三六年九月十四日歿于北京。

苏霖(Joseph Suarez)② 神甫字沛苍，科英布拉人。

十七岁入修院,学业未毕,一六八〇年赴中国。(弗兰格《卢西塔尼亚教省年鉴提要》,三六七、四六七页,1680年)一六八四年至华,传教江南、广东凡四年。

①一六九〇年八月二十八或二十九日罗文藻主教信札(《宁波简讯》,一九二五年二月)作一六八七年。

②上引弗兰科书写其名作 Soares。

一六八八年被召赴京师,自是迄于身死之日(一七三 400 六)。居京共四十八年。一六九二至一六九七年间为会团长。一七一一年为副区长。一六九〇年康熙帝遣之往广东探询闵明我(第一三五传)神甫回华信息,并采办帝所嗜爱之西洋枪及历算仪器。(杜赫德《中华帝国全志》,卷四,二四二页。)

霖还,携罗历山(第一五二传)、李国正(第一八五传)二神甫同至京师。

霖传教热心,上自朝廷显贵,下至街市弃儿,鲜不受其感化。一七一九年以来,宗室苏努(Sourniama)全家几尽入教;其后虽全家充发西宁,仍死不背教,具见霖劝化感人至深。(《传教信札》,卷三,三九一页。)

一七〇四年山东水灾后继以饥馑灾民多逃京师。帝出内帑二千两,命霖与巴多明(第二三三传)神甫设厂施粥。二人自捐五百两,施放时布置有序,来领者鱼贯而入,食毕各退。施粥凡四月,每日领粥者千余人,秩序井然,碗箸清洁,朝官内监观者莫不惊叹。(《传教信札》,卷三,一四八页。)

一七三六年九月十四日霖歿于京师,春秋八十有 401

一。计入会六十三年。居华五十二年，乾隆帝赐葬银二百两，王公贵人多往祭奠。（《威尔特-博特》，五八二号。）

其遗著列下：

（一）《圣母领报会》一卷，一六九四年北京刻本。

（二）一七二七年十月十三日信札两件，述宗室苏努全家入教受祸事；见《威尔特-博特》，三八〇和三八一号。

（三）《北京会团年报》，北京一六九七年七月三日，八开本，巴伦西亚，一六九八年。

（四）《一六九二年三月二十二日奉旨准许传教自由记》，见莱布尼茨《中国近讯》，来比锡，一六九七年，一——一四九页；又见柏应理《中华帝国历史年表》，维恩斯，一七一三年，二〇二——二三四页。此《……传教自由记》有西班牙文译本，八开本，巴伦西亚，一六九六年。

402 （五）一本小册子，其中记述传教士们的苦学精神和面临的困难，以及可喜的收获。见莱布尼茨《中国近讯》，来比锡，一六九七年。

（六）一七二一年一月七日及八日致徐日升（第一四二传）神甫信札两件；见《中国宗教轶事》卷四，一七〇页以下。（索默尔沃热尔《书目》，卷七，一六八七栏。）

一六二 刘蕴德 中国人

一六二八年生^①——一六八四年入会——一七〇三年八月十五日为在教辅佐人——歿年末

详。

刘蕴德(Blaise Verbiest)神甫字素公,生于湖广。未入会前,曾任钦天监右监副,因与诸传教师常共往还,派往山西采矿,有人进谗于帝,致被免职。蕴德因鉴世俗荣华之虚,乃在南怀仁(第一二四传)神甫前受洗,请入耶稣会。一六八四年入会,其西名与怀仁同;一六八八年八月一日罗文藻主教为之晋司铎。

①据一六九二年名录作一六二一年生。

蕴德屡奉道长命,作有益于本会之旅行。一六九〇 403 年自南京赴湖广寻觅万其渊(第一四六传)神甫,并赴武昌探视穆迪我(第一〇八传)神甫时,迪我年高病发,一人独居武昌也。旋由武昌赴广州为新到之诸神甫作向导,并为罗文藻主教所管教区诸神甫领取经费。(一六九〇年八月二十八或二十九日文藻自杭州致宣教部书,见一九二五年一月二日刊《宁波简讯》,十三页以下。)

后在一六九二至一六九七与一六九八至一七〇一年间,往来上海、南京传布宗教。江西主教白某(Alvare de Benavente)言其品行纯洁,学识优长;罗文藻主教言人皆识而敬之。

其歿年歿地未详。

一六三 安 多 比利时人

一六四四年一月二十五日生①——一六六〇年

九月二十四日入会^②——一六八五年至华——
一六七三年二月二日发愿——一七〇九年七月
二十八日歿于北京^③。

安多(Antoine Thomas)神甫字平施,纳缪尔人。博
学而尤精数学。一六七八年耶稣会会长奥里瓦许其赴远
东传教。先是曾在杜埃城教授哲学二年。既至葡萄牙,
留科英布拉若干时,请命于会长,派其往日本传教。会长
许之,惟附以条件。一六八〇年四月三日在里斯本登舟,
次年抵果阿。(杜宁-茨博特《中国历史》,一六八五年部
分。波斯曼《南怀仁传》,一四〇页。)

①上引波斯曼书一四〇页作三月二十五日。

②同上,一四〇页作八日。

③薛孔昭《名录》作二十九日。墓碑拉丁文歿年作一七
〇九年七月二十八日,而汉文歿年作四十八年己丑
六月二十六日。(一七〇九年八月一日);中西文年
月日不合,此又一例也。

404 在海行中威勒尔斯(Theodore Villers)神甫道死。
至果阿不欲人知其赴日本传教,易俗装,自称为数学师,
奉命来测量诸城经纬度数。如是历经科摩林与伯切利埃
(Pechoric)沿岸,皆受荷兰人优待,然始终未能附载前往
日本之海舶。殆因其庄重严肃,似于其所业不相称,而启
人疑也。(上引杜宁-茨博特书,一六八五年部分。)

谋既未遂,乃持总督介绍书,拟赴柬埔寨,盖由此国
赴日本较易也。顾于一六八一年八月三日抵暹罗,此道
又因战事而中梗。留居暹罗时,暹罗首相康斯坦斯·弗

尔孔 (Constantin Phaulkon)^① 原为英国国教徒,得安多劝导,因皈依天主教。其人至死为护教及保护传教师之人。安多于1682年5月20日登舟赴澳门,拟以赴日本事商之于视察员陆安德(第一二一传)神甫。

①首相原为沃尼田(Venitien)人,1647年出生于克法利尼亚岛之库斯托德镇,父为此岛长官。年十岁附英国舟至英国,从英国国教,而服役于英国印度公司。在马拉巴尔沿岸遭遇海险二次,尽丧所有。已而暹罗国王闻其能,遂渐信任。安多至暹罗,与之接谈,乃在1682年5月2日于暹罗之葡萄牙耶稣会教堂皈依天主教;数日后与日本信教之贵女结婚。其人不受首相官号,而执行一切职权。路易十四世遣使至暹罗,颇得其助。法国第一批赴华传教师路经暹罗时,曾蒙其接待,而留塔夏尔(Tachard)神甫居暹罗。1688年暹罗变起,首相被害,时年四十一岁。奥尔良神甫曾为之传。(新版,十六开本,里昂,1754年。)

当时日本道路尚未完全遏断。两三年前同会有一神甫偕一修士乔装为水手,乘荷兰舶至长崎,忽登岸失踪迹。其后未久有一中国船载嘉布遣(Capucin)会士一人 405 与奥斯定(Augustin)会士一人,近日本岸,中国水手杀嘉布遣会士而投其尸于海;奥斯定会士负伤,游泳登岸,逃入内地。安多在暹罗时闻兰诺(Lanneau)主教之侍者西班牙古铁雷斯(Jean Gutierrez)言,有荷兰船长名阿奇托斯(Pierre de Archtos)者,天主教徒也,曾向主教宣

誓,言前至长崎有一基督教徒,向其求祭铁,第二次赴长崎时即以祭铁赠之。最近又有一船长言曾见一小舟载乘客二人自马尼拉抵长崎,乘客登岸即逃入山中;人咸以其人为司铎。(上引杜宁-茨博特书,一六八五年部分。)

安多闻上述诸说,故初志不变,迄于被召赴北京而后已。一六八二年七月四日安多抵澳门,澳门诸神甫颇不愿以有用之人材作无益之牺牲。(同上。)

然安多尚欲一试,曾上书印度总督,请派使臣赴日本,此书现尚保存。总督得书集诸僚属会议,虽赞成遣使,然不知日本国王是否接待使臣;拟先致书探听日本意旨,乃以此书送达澳门,嘱澳门转递。然澳门无人敢作邮使,中国商人亦不愿往,虽许以重赏亦未能觅得其人。安多无奈,遂留澳门传教。(一六八四年)(同上。)

南怀仁(第一二四传)神甫年事已高,拟求后任之人。先属意于闵明我(第一三五传)神甫,而明我体弱多病。闻安多抵澳门,拟召之入京。乃荐安多于帝,帝命明我偕礼部差官二人赴澳,召之入京。(上引杜宁-兹博特书。波斯曼《南怀仁传》,一三四、一三五页。)

一六八五年十一月七日抵通州,旋入京,嗣后尚得与其同国人南怀仁神甫共事三年。继怀仁职,授帝以几何
406 算术与夫仪器用法。怀仁荐之为钦天监监副;闵明我神甫出差时,曾代为监正。一六九二年与一七〇三年时任北京道长与副区长。一六九二年上谕允许传教自由,盖得其与徐日昇(第一四二传)、张诚(第一七三传)二神甫之力。曾奉帝命送殷铎泽(第一二〇传)神甫返杭州,命浙抚将

天主堂修复。(李明《中国现势新志》，卷二，四三九页。)

一六九五年八月十五日安多任区长时，北京耶稣会士公呈教皇，请许在礼拜中用中国语言。此文在一六九八年一月十二日递呈教皇。(贝特朗(Bertrand)《传道会历史记录》，三九九页。)

一六九六年安多随康熙帝巡幸塞外。一七〇二年测量地球一度之长度；阅时凡一月，皇三子亲视测量。一七〇五年与白晋(第一七一传)、雷孝思(第二三六传)、巴多明(第二三三传)等诸神甫测绘北京附近两河泛滥地域，越七十日而竣事。并将京师及诸行宫雕刻成形附于图上。见于图者凡城镇千有七百，村庄无数。(《传教信札》，卷三，一五七页。)

诸传教师乘此于所过之处联络绅耆，传布宗教。是行也与其谓为绘图，无宁谓之传教。(同上。)

一七〇九年七月二十八日歿于北京。

其遗著列下：

(一)《数学概要》两卷，八开本，杜埃，一六八三年。 407

(二)《一六八八年十二月三日自澳门致葡萄牙驻印度总督塔沃拉(Francisco de Tavora)书》，建议与日本建交，派遣使节赴日，并列举当时建交的有利因素。该书为四开本，一六八四年，澳门。

(三)《为耶稣会传教事受诬告申辩书》，四开本，科隆，一六八四年。(索默尔沃热尔《书目》，卷七，一九七七栏。)是编作于澳门，题一六八二年十二月二十日。缘宣教部有若干传教师散布诬枉之说，特撰是编而自辩也。

(四)《一六七八年十月二十九日月蚀观测》，时在科英布拉，见《学者日志》，一六七九年，五六页。

(五)《居印度与中国时之观测》，载古耶《物理观察》第一二〇——一九六页。

(六)《一六八六年十月七日自南京寄送之观测》，见士占耶书，一九七页以下。又见《科学院文集》六九五页。

(七)《一六八一年在印度观测之彗星》，是编刻于印度。(杜宁·茨博特《中国历史》，一六八五年部分。)

(八)《对于康熙皇帝有关祀天、祭孔、祭祖礼仪涵义的御批、中国历代帝王和著名学者的观点以及悠久民间传统习惯的扼要汇报》，北京耶稣会传教士合辑。书后题一七〇一年七月二十九日，副区长安多；闵明我(第一三五传出使俄国)、徐日升(第一四二传)、张诚(第一七三传)、苏霖(第一六一传)、白晋(第一七一传)、纪理安(第一九八传)、雷孝思(第二三六传)、南光国(第二三四传)、巴多明(第二三三传)同署名；四开本，一七〇一年刻于北京；现藏巴黎国家图书馆。(参看后第三十七号书。)(索默尔沃热尔《书目》，卷七，一九七八栏。)

(九)《关于一七〇六年教皇专使铎罗奉使事寄送欧洲之记录》，见《传教信札》，一八二九年，卷三，一六七——一八一页。

(十)《教宗钦使铎罗大主教在北京期间和耶稣会士相处经过汇报》，四开本，二八页，见巴黎国家档案，K. 一三七五，十四号。

(十一)《请在礼拜中使用华语记录》，此文作于一六九五年，乃诸神甫公呈。然安多时任区长，故题名在前，见真

特朗《传道会历史记录》，巴黎，十二开本，一八六二年，三九九页。

(十二) 安多遗有礼记不少，见上引杜宁-茨博特书，一六八五年部分。

(十三) 《耶稣会传教东印度辩书》，藏巴黎国家图书馆，编九七七〇号，并藏圣热内维夫图书馆。(索默尔沃热尔《书目》，卷七，一九七一栏。)

(十四) 《一七〇五年中国传教区发展概况》，北京，一七〇五年九月八日。(《耶稣会士著作目录》卷一，四〇七页。)

(十五) 《反耶稣会士实践神论札记》，八五页，北京，一六八八年十月十三日，藏研究图书馆。

(十六) 《一七〇三年中国传教区概况》，藏研究图书馆。(索默尔沃热尔《书目》，卷九，一八七四栏。)

(十七) 《南怀仁神甫赞》，作于一六八八年三月十一至五月三十日间。参看后第二十七号书。(波斯曼《南怀仁传》，一六一页。伯希和的文章见《通报》一九二八年刊，一九三页。)

(十八) 《南先生行述》，徐日升(第一四二传)和安多合撰，手钞本。(上引波斯曼书，一六五页。)

(十九) 一六八〇年十月十二日果阿信札及同年十二月十三日塔诺尔(Tanor)信札；见《友好信使》一六八二年四月刊，一〇七——一一五页。

(二十) 一六八〇至一六八七年信札三件，藏比利时档案库。

(二十一) 一六八二至一六八九年北京、澳门信札数件,藏圣热内维夫学校图书馆。

(二十二) 一六八三年一月六日及一六八四年十二月三日自澳门致亚历山大(Alexandre)神甫信札二件,藏比利时档库。波斯曼《南怀仁传》,一四二页。

(二十三) 一六八五年一月二十日自澳门致耶稣会会长诺耶信札。(同上,一四四页。)

(二十四) 一六八五年七月十日自澳门致南怀仁(第一二四传)神甫信札。(同上,一四一页。)

(二十五) 一六八五年致会长诺耶信札,述自广州至南京旅程事。

(二十六) 致阿维罗(Aveiro)公爵夫人信札。此一信札同前一信札皆作于抵京以前。(上引杜宁-茨博特书,一六八五年部分。)

(二十七) 一六八八年九月八日北京信札,述南怀仁神甫生平及其在是年一月二十八日病故事;经波斯曼神甫刊行卢万,一九一三年;有西班牙文译本,附许太夫人传后,八开本,马德里,一六九一年;德文译文见《威尔特-博特》,三八一号;博埃罗(Boero)(《耶稣会圣徒传》卷一,五二〇页以下。)所撰南怀仁传曾采其文。参看前第十七号书。

(二十八) 一六九一年十二月八日信札,一七〇三年九月二十八日信札,一七〇八年十一月十八日信札,藏研究图书馆。(索默尔沃热尔《书目》,卷九,八七四栏。)

409 (二十九) 一六九二年十一月十二日自北京致莱布尼

茨信札,见《中国近讯》,一五八——一六三页。

(三十) 一六九五年十一月十六日北京信札。

(三十一) 一六九六年十二月二十日自北京致代理会长贡扎勒兹(Thyrsum Gonzalez)神甫信札。

(三十二) 一六九七年八月十五日北京信札。

(三十三) 一六九八年一月二十四日自北京致贡扎勒兹神甫信札,德雷斯德(Dresde),(*耶稣会士著作目录*卷一,四〇〇页,注一三五。)

(三十四) 一七〇〇年十二月三日致贡扎勒兹(Thyrse Gonzalez)神甫信札,手稿(公用文献局,国外通讯, XVIII, 中国。)

(三十五) 一七〇一年通行信札。(维也纳图书馆,《中国杂集》),卷一,第一一三——一一六页。)

(三十六) 一七〇一年通行信札,经卫方济(第一六九传)、庞嘉宾(第二二〇传)二神甫在一七〇二年一月从中国出发时携归欧洲者;现藏研究图书馆(索默尔沃热尔《书目》,卷九,八七四栏。)

(三十七) 一七〇二年在华耶稣会神甫呈罗马教宗克莱芒十一世书,附《康熙皇帝答覆有关中国礼仪问题御批》后。此书署名与前第八号书同;有法文译本,一七〇二年列日出版;并载入《中国皇帝敕谕》,五——一二页。

(三十八) 一七〇四年自北京致贡扎莱兹神甫信札,见《威尔特-博特》,五〇七号。

(三十九) 一七〇六年十一月一日致会长书,藏罗马巴贝利尼图书馆,XXXII,一四七。

(四十) 一七〇六年十二月二十八日北京耶稣会士致中国全国各会道长之通行信札; 见《中国宗教状况轶事》, 卷二, 一六九——一七四页。

(四十一) 一七〇六年十二月三十日致多明我会士信札, 此信札与张诚(第一七三传)神甫同署名, 见贡扎勒斯·圣皮埃尔(François Gonzales de St-Pierre)《中国新教难简述》九〇——九四页。

(四十二) 一七〇七年四月二十日致枢机员铎罗信札, 见《中国教会现状》一八三——二八〇页。此书甚为重要。耶稣会诸神甫辨正其诬。请停止教令之执行, 否则中国仇教风潮必起。

(四十三) 此外现尚存有安多信札记录数件, 皆手写本, 现藏圣热内维夫学校图书馆。(索默尔沃热尔《书目》, 卷七, 一九七九栏。)

410 安多曾与南怀仁(第一二四传)神甫合撰书籍数种(参看《澳门大事记》; 范埃《汉学家南怀仁》, 十五页。)又曾为怀仁司书, 怀仁有信札数件, 盖出安多手笔。

一六四 何天章 中国人

一六六七年生——一六八五年入会——一七〇〇年十一月一日为在教辅佐人——一七三六年五月十一日歿于北京。

何天章 (François-Xavier a Rosario) 神甫字起文,

生于澳门，父欧洲人，而母华人也^①。一六八五年入会，修业毕，一六九〇年授司铎。初传教于南京，与张安当（第一四五传）神甫同处者数月。一六九二年顷派至陕西。一七〇一年派至山西。与艾逊爵（第二〇五传）神甫同传教于绛州、太原，管领大堂十六所，小堂甚众。留晋时似甚久，盖在一七一七年曾劝化 Ku-lo?（疑是栲栳之对音）村，全村之人入教也。（何国贤《圣家会创建史》，卷一，四八六页。《威尔特-博特》，五七九页。）

①雷诺(Reynaud)主教曾据一旧钞本刊布之附录，见一九二五年二月刊《宁波简讯》，二四页)谓其出生于一六六七年，父母皆华人。（高龙肇《江南传教史》，第二部分，五七三页。）

一七一八年被总督驱逐出境，而返京师。复自京历游邻近诸省，足迹曾至边外，访问雍正帝遣发边外之宗室诸王，并以北京诸神甫拯助之财物赠之。（一七二七）（《传教信札》，卷三，四四七页。）一七三一至一七三五年间复还山西，又劝化二百人入教。一七三六年五月十一日歿于北京。

一六五 龚尚实 中国人

一六六六年十二月十八日生^①——一六八六 411
年入会——一七〇九年二月二日为在教辅佐人
——歿于一七三四年后。

龚尚实(Pierre-Thomas da Cruz)^②神甫字观若,父某拟入耶稣会,然因满洲入关,离京赴杭,在杭结婚而生尚实。尚实年十二岁丧父,柏应理(第一一四传)神甫抚育之。应理将赴欧时,携之至澳门,俾习拉丁文。尚实遂在一六八六年在澳门入会,修业毕,在一六九四年授司铎。

①据旧刻《炼灵通功经》其名作尚宾似误。

②一九二五年二月刊《宁波简讯》二五页谓其生于一六六八年。

传教南京、松江、上海等地甚久,一六九九至一七〇一年间尚在上海。

一七二五年雍正仇教之事发生,尚实适在福建。一七二八年曾访被遣发之宗室诸王于边外。一七二九年还福建,据传教士李安德之一信札^①,尚实曾下狱。一七三四至一七三五年间重还江南。陈善策(第三一八传)神甫记有云:龚神甫年事虽高,而尚康健。一七三四年时尚传教江南、浙江两省,饶有成绩。(《威尔特-博特》,五七九号。)其歿年未详^②。

①据考狄在《远东杂志》一八八二年第一卷,一九一页以下所刊布之一七二九年十一月十三日信札。

②一九二五年二月刊《宁波简讯》二五页刊载之《附录》云:“或曾派至安南南圻。”苏州白马涧墓地有一碑题曰:清故司铎龚公之墓,不知是否尚实。(参考黄伯禄神甫手写本。)

尚实曾助利国安(第二二一传)神甫撰有《炼灵通功经》,土山湾尚有重刻本。(一九一七年书目补目四六二号。)

一六六 庞若翰 西班牙人 412

一六六〇年三月二十一日生——一六七四年六月十三日入会——一六八七年或一六八八年至华——一七一五年三月三十一日歿于海中。

庞若翰(Jean-Antoine de Arearnedo)神甫字安当,阿拉贡人。一六八四年东迈。一六八七年抵澳门。嗣后吾人知其一六九一年尚在广西。一六九五年派往安南南圻。一六九九年派往交趾。一七〇〇年与贝蒙特(Belmonte)康多内(Candone)朗格洛瓦(Langlois)三神甫同被逮投狱。三神甫负枷,若翰独免,且因其为国王之历算师而被释出。(《传教信札》,卷三,二八页。《威尔特-博特》,四四号。)

一七〇一年、一七〇八年、一七一二年、一七一四年历充南圻传教会道长。因其治理历算,安南国王禁止传教,不如前此之严(孟戴宗《交趾支那和交州教区》。)一七一二年安南国王命其赴澳门与葡萄牙人议订商约。据一七一三年四月十三日澳门参事会答安南国王书,若翰似不虚此行。(上引威斯切尔斯书。伦格斯特德书《葡萄牙人侨居中国史略》,一二七页。)

据孟戴宗和索默尔沃热尔(《书目》,卷一,五六一栏。)二氏之说,谓其歿于一七二〇年前后,然据弗兰格(《卢西塔尼亚教省年鉴概要》,四五〇页。)神甫说,则谓

共在一七一五年三月殁于好望角海中，时若翰奉南圻安南国王命赴葡萄牙征求西土也。

其遗著有一七〇〇年七月三十一日作于南圻都城新化之信札，详述仇教事。见《威尔特-博特》，四四号。《传教信札》有宋若翰（传第二四四）神甫节录文。

一六七 陆若瑟 西班牙人

一六五九年十一月七日生^①——一六七四年五月十七日入会^②——一六八七年至华^③——一六九三年二月二日发愿——一七一一年歿于西班牙。

陆若瑟(Raymond-Jeseph Arxo)神甫字石失，出生于阿拉贡州之贝纳斯克(Benasque)。一六八四年附舟东返。一六八七年至华。始而传教山西。一六九一至一六九九年传教湖广、湘潭、长沙、永州等处。一七〇一年在桂林。传教细情未详。若瑟似曾精研中国文学，盖据普雷神甫说，若瑟曾在铎罗大主教前与刘应（第一七四传）神甫对辩，卒使应无词以答也。一七〇七年受命为中国日本视察员，次年为中国礼仪问题代表而赴罗马；同时且与艾逊爵（第二五〇传）神甫携有中国皇帝致教皇诏书^④。抵罗马，事竣后还故里，将登舟赴中国，而在一七一一年得疾歿，歿地似在阿利康特。此城会团长莫格莱斯(Paul Ingles)次年曾为之传。

①今所采年月乃据薛孔昭《名录》与一七一二年名录。

至若一六九七年名录则作一六六〇年十一月七日生；一六七四年十一月十七日入会；一六八一年至华。其至华年显有讹误，故宁取一七一二年名录所载年月。

②先是龙安国(第二一八传)、薄贤士(第二四一传)二神甫奉命携诏书赴罗马，不幸一七〇八年二神甫在里斯本附近遇险溺海。艾逊爵、陆若瑟二神甫所持者乃诏书副本也。

其遗著有若干小册子。英格莱斯神甫所撰传记曾节录其文。并留存有手写本数种。

一六八 罗斐理 意大利人

414

一六四六年生——一六六五年入会——一六八七年至华——一六九五年十二月二十五日歿于澳门。

罗斐理(Philippe-Félix Carossi (Caroccio)) 神甫萨瓦(Savoie)人。一六八七年至中国，次年传教广州。上川岛圣方济各墓碑倾圮，斐理曾为重新建立之。一六八九年在江西。一六九一年在海南岛。嗣后传教别一省中(疑为广东)。一六九五年教务发达，须人助理，适樊西元(第一九三传)神甫新至中国，召之来助。已而赴澳门修养，即于是年十二月二十五日歿。

一六九 卫方济 比利时人

一六五一年八月十八日生——一六七〇年九月入会——一六八七年至华——一六八六年二月二日发愿——一七二九年九月十七日歿于里尔。

卫方济(François Noël)神甫，出生于埃诺州之赫斯特鲁德(Hestrud)。一六七〇年九月在戈尔-比利时(Gaulle-Belgique)教区之土尔内城入修院，而于一六八四年在里斯本偕同国神甫赛洛塞(Philippe Selosse)在里斯本登舟赴华，然赛洛塞神甫歿于中道。(弗兰格《卢西塔尼亚教省年鉴概要》，三七七页。)

先是方济在比国教授文学、修辞学凡七年，颇有成绩，并撰有不少拉丁诗，若干拉丁戏曲与戏剧技术一部。(雷慕沙：《亚洲新杂纂》，卷二，二五二页。索默尔沃热尔：《书目》，卷五，第一七九三栏。)初受阿维罗(d'Aveire)
415 公爵夫人所赠之旅费，应赴日本传教，旋因不能入境，乃改赴中国，其经过与安多（第一六三传）神甫同。

初至中国，传教江南，盖自成际理(第九五传)神甫歿于淮安以后，接办教务需人也。方济既至，遂被派往淮安。方济居淮安时，许太夫人之子侄某召之至五河县城，以所建之教堂赠之，嗣后教务极为发达。(杜宁-茨博特：《中国历史》，一六八六年部分。《传教信札》，卷三，七五

页。)

方济居淮安、五河若干年月,吾人未详,然确知其并曾居留上海^①。十八世纪初年传教江西、南昌、建昌、南丰等处。(《传教信札》,卷三,七三页。)

①布鲁克尔神甫补注云:据一九二五年二月刊《宁波简讯》十五页载罗文藻主教信札,一六九〇年其驻所在淮安城中。又据一六九二年十月三日方济自赣州致比利时大主教信札,是年方济在江西赣州。

一七〇二年方济被派阶庞嘉宾(第二二〇传)神甫为 416
传教会事务同赴欧洲;是行也代表南京、澳门、艾斯卡伦、安德烈维尔四地主教与中国全国之耶稣会教师。(《传教信札》,卷三,七〇页。)一七〇七年七月二十二日二神甫同还澳门,然方济未能重返传教区所。次年又偕陆若瑟(第一六七传)神甫重赴欧洲,中道曾在巴伊亚城停留。方济此次重返欧洲,不复再归中国。居布拉格城若干时,刊布其著作,旋还其原隶教区。一七二九年歿于里尔城。方济谳练中国语文,昔有传教师若干人,以为曾在中国古籍中发现基督教网,而为热烈辩护者,方济盖为其中之一人也。

其遗著列下:

(一)《人罪至重》三卷,一六九八年北京刻本,一八七三年土山湾刻本。(一九一七年书目一八三号。)

(二)一六八四——一七〇八年在印度和中国所作的《天文观察》,四开本,一七一〇年,布拉格大学版。据雷慕沙(《亚洲新杂纂》,卷二,二五二页。)云:是书甚重

要，其中包括对日月蚀木星诸卫星之测验，此种测验皆在中国、印度，尤其在江南、淮安等地为之，附有中国多数城市之经纬度表。馀若诸中央星座之名录，中国天文学之异说，中国之年、月、日、时，诸恒星之汉名。南怀仁（第一二四传）、闵明我（第一三五传）二神甫所绘天体图与利肖里（Raccioli）和帕尔迪斯（Pardies）二神甫所绘天体图之比较，中国度量衡说，磁针偏差之观测，皆各见于417 是编。其中最为宝贵者盖为诸星宿之汉名名录。

（三）《中国六部古典文学：大学、中庸、论语、孟子、孝经、小学》，由卫方济从中文译成拉丁文，四开本，布拉格大学版，一七一一年。此为五经外之六经译本，所谓六经，盖指《大学》、《中庸》、《论语》、《孟子》、《孝经》、《小学》。方济不但翻译本文，而且选译注疏，得谓孔子与孔门诸子之说，翻译较为完备者，诚无过于是编。但亦有弊，方济对于本文不明者，辄以己意解释，隐讳者为之补充，有时反失原意云。（雷慕沙：《亚洲杂纂》，卷三，三〇〇页；《亚洲新杂纂》，卷二，一二八页。）

此书曾经普鲁克（Pluquet）道院长在一七八三至一七八六年间转为法文，题曰《中华帝国之经典》七卷，十八开本，巴黎。参看杜赫德《中华帝国全志》卷二，三八九页。

圣彼得堡图书馆藏有方济《论语》译本三册，乃一七〇〇年南昌手写本。（考狄《书目》，一三九五页。）

比京图书馆藏有《孟子》、《中庸》译本，（附原文）各一册，（编一九三〇号，一九三一号），乃一七〇〇年南安

手写本。

(四)《中国哲学》，四开本，布拉格，一七一一年。是为中国诸著名哲学家学说选录。惟太注重当时之礼仪问题，致碍本书之传布。(雷慕沙：《亚洲新杂纂》，卷二，二五六页。)

(五)《中国作家关于追悼已故祖先和亲友礼仪之记述》，四开本，布拉格大学版，一七一一年。是书记述中国礼仪问题讨论史。波蒂埃的笔记云：“此书甫出版即奉上级人员命令禁止，故出版后不久即经原著者将所刊书本收回。”因此现在留传甚稀。

(六)方济在中国所为之测验，见《科学院文集·VII》，一七二九年，七七八页。

(七)《一七〇二年中国传教状况记录》，一七〇三年呈报耶稣会长，见《传教信札》，卷三，七〇页。德文本见《威尔特-博特》，八三号。

(八)《诗歌小册》，分四部分，八开本，法兰克福，一七一七年。

(九)《怀念玛利亚诗歌》，八开本，瑞士的弗赖堡，一七五六年。

(十)《贺王储生日歌》，英苏里斯(Insulis)，一七二九年。由蒂罗(Thiroux)译成法文。参看索默尔沃热尔《书目》，卷九，七二二栏。

(十一)《耶稣会著名神学家苏亚雷(Francisci Suarez)《神学大纲》摘要》，两开本，马德里，一七三二年。

(十二)宋君荣(第三一四传)神甫所译《唐书》(北

京回忆录》，卷十五，四八〇页。）注有云：“老子所撰《道德经》，卫方济神甫曾有译文，当时曾将译文寄送法国。

- 419 （十三）《中国哲学简评》，手稿，藏巴黎国家图书馆，Rec.Fr.一七二三九；参看考狄《书目》，一〇八四页。

（十四）方济与庞嘉宾（第二二〇传）神甫合撰有《关于教宗亚力山大七世批准实行中国礼仪诏书之记录》，一七〇三年，四开本，罗马。

（十五）《对有关中国礼仪问题言论之答覆》，一七〇四年九月呈教宗克莱芒十一世，四开本，罗马。

（十六）《对中国学者关于礼仪问题之论证的摘要》，一七〇四年八月呈教宗克莱芒十一世，四开本，罗马。（索默尔沃热尔《书目》，卷二，八五三栏；卷五，一七九一栏。）

（十七）《论戏剧艺术》（索默尔沃热尔《书目》，卷五，一七九三栏。）

（十八）《一七八三年在印度与中国所作之天文测验》，藏布鲁塞尔布戈尼图书馆，三八八九号。

（十九）《一六七四至一六八六年中国内战史略》（法文），撰于南昌，藏巴黎国家档案馆，K. 1375, n 1.

（二十）《有关中国礼仪之争杂录》，藏罗马维多利奥-埃马奴厄图书馆，耶稣会手抄栏 I257(3586), n. 35.

（二十一）一六八五年十一月四日澳门信札，藏圣热内维夫学校图书馆。

（二十二）一六八八年六月二十二日自上海致其兄

诺埃尔(Nicolas Noël)神甫信札,藏巴黎国家图书馆,法文书编号一七二三九。先是方济在上一次信札中述其自里斯本至果阿之行程,此信札盖续言前札所未尽之事也。

(二十三) 一六九二年十月三日广州信札,藏比利时档库。(参看索默尔沃热尔《书目》,卷五,一七九一页以下。)

一七〇 洪若翰 法兰西人

一六四三年二月十七日生——一六五八年十月十一日入会——一六八七年七月二十三日至华——一六七六年八月十五日发愿——一七一〇年一月十六日歿于拉弗累舍(LaFlèche)。

洪若翰^① Jean de Fontaney^② 神甫字时登,一六四三年二月十七日出生于布列塔尼州之圣波尔德莱翁(St-Pol-de-Leon) 主教区。一六五八年十月十一日入巴黎教区修院。一六七六年八月十五日发愿。守戒严,爱主诚,乃一模范教士也。其为人谨慎贤明,而于事业则勇敢有恒。

①《正教奉褒》九〇页以后写其名并作洪若翰。

②塔夏尔写其名作 de Fontenay, de Choisy, 即 Fonteneio。

一六七一年谪居广州诸神甫被释各回本堂后。南怀仁(第一二四传)神甫见余存壮健教士之人数颇少,

引以为忧。盖一方面原有传教士死者无法补充，又一方面中国各省与关外高丽等地堪以传布教义区域日见广大也。因是屡作感动人心之信札送致欧洲，延召教友来华分担教务。其中有一信札专呈法国国王路易十四世。

当是时也，法国国王适命人作广大的舆地调查，科学研究院乃遣派能人往大西洋、地中海沿岸各港，及英吉利、丹麦、非洲、美洲诸岛屿，分途调查。惟印度与中国之人选颇难，盖此二地在当时舆地认识较为不明，恐被派之人犯冒危险也。如是瞩目于耶稣会士，盖该会在此二国内皆设传教会所也^①。（《传教信札》，卷三，八二页。）

①当时奉命组织此种法国传教会者，盖为国王之告解人夏斯(de la Chaise)神甫。彼曾数致书于耶稣会会长，告以国王意旨，嘱其鼓励此种传教事业，并致函见尚特劳斯(R. de Chantelauze)所撰此神甫传记（八开本，里昂，一八五九年，五三页以下）中。并致函于南怀仁神甫以国王所派遣之诸神甫托之，此函见塔夏尔神甫所撰《暹罗行记》，第一册，十六页。

国王路易十四世与诸大臣容亦含有削弱葡萄牙政权之意，缘当时葡国在此种国家握有保教权也；此事颇难否认，然吾人亦不愿谴责其非。由是观之，法国驻华传教会之发生，得谓其本于三种原因：曰宗教之传布，曰科学之进展，曰法国势力之扩张。

421 若翰志有云：“已故考伯特(de Colbert)君某日曾召余与卡西尼(Cassini)君入见，面达其意旨。此贤明大臣之语，使余终身难忘。其语曰：科学不足以驱使君等渡重

洋，离祖国，别亲友，而徙居别一世界。然劝化异教人归向基督常使诸神甫作此远行。余希望彼等于传教之暇为种种测验，而谋学术之完善。”（《传教信札》，卷三，八三页。）

旋因考伯特病故，计划暂止实行。然其后任大臣路瓦(Louvois)承其遗规，请求耶稣会诸道长选派博学热心堪以执行此种计划之会士数人作第一批之派遣。由是广为筹备必须之仪器，以供多数观察家之用。彼等或假道莫斯科与鞑靼地域，或取道叙利亚与波斯，或附印度公司之船舶循海道往。（李明：《中国现势新录》，信札一，三页。）海军大臣塞涅莱（de Seignelay）请将此种传教会隶属海军部。会有遣使赴暹罗之举，乃命耶稣会士六人随使臣往暹罗，然后由此国赴华；别命四人循陆路往，然循陆路者皆未能达。

若翰在路易大王学校授数学、天文学已有八年；曾于一六七四年刊布帕迪埃（Pardies）神甫之天文图凡六叶，并屡次在《学者杂志》或科学研究院《记录》刊布其种种测验。其请求派往中国日本传教已有二十余年，是以诸道长选派之始即应其请，命其挑选随行诸传教师。（《传教信札》，卷三，八三页。）

此事既公开，自愿前往者人数颇众，然获选者仅塔夏尔、张诚（第一七三传）、李明（第一七二传）、刘应（第一七四传）、白晋（第一七一传）神甫五人；是皆堪在法国任卓绝之事务者也。雷慕沙云：“是为驻华法国传教会之第一中心，东亚之足使世人识识，颇赖此会会士之力，故

传名世界已百有余年。”(上引李明书,卷二,二四一页。)

旅行计划既定,科学研究院诸院士特别延诸神甫到院,列席凡数日。国王授诸神甫数学士之号,赐仪器,定年金,赠物甚厚。(塔夏尔:《暹罗行纪》,卷一,六页以下。)

- 423 任命各神甫之任命状,内含有下述之词云:“吾人对于筹谋海航之安全,学术之进步,乐于赞助,但以为欲确期其必成,势须遣派精于测验之学者若干人,前往中国、印度;兹有耶稣会士某学有专长,堪应斯选,特用王权任命其为吾人之数学士”之云。下署路易王名,由考伯特副署,后书一六八五年一月二十八日。(前引塔夏尔书,卷一,一三页以下。)路易十四世并由王库拨给年金九千二百里夫尔(Livres),以供居留中国、印度耶稣会传教师二十人之用。(杜赫德《中华帝国全志》,卷三,一一四页。)

诸人于一六八五年三月三日在布勒斯特港乘瓦索(Oyseau)号军舰出发,时使暹罗专使尚芒特(de Cham-mont)亦在舰中。同行者尚有舒瓦齐(de Choisy)道院长,彼对于诸神甫赞扬备至:“诸耶稣会士皆为一时之选。六人皆聪慧贤明;有所言皆良言,足以启发他人智识。……洪若翰性尤温和,不与人辩,其言脱为他人反驳,辄舍己意而从之。”(舒瓦齐《暹罗旅行日志》,一三、二八页。塔夏尔《暹罗行纪》,卷一,二三页以下。)

舟行经好望角,曾为数次测验,已而安抵巴塔维亚。一六八五年九月抵暹罗,若翰曾在此国测验月之全蚀^①。

暹罗国王惊悉诸人之学识，挽留不令其行，后经诸人力请，许派塔夏尔神甫回法召致同会数学家十二人来暹罗，国王始放行。

①此次测验以及后来测验皆寄回法国科学研究院，刊载于《记录》第七册中。

诸传教师受暹罗首相弗尔孔^①之隆重接待后，于一六八六年七月自暹罗首途赴澳门。同行者仅四人，盖塔夏尔神甫偕专使返法，李明神甫独留暹罗。是行也因领海者之无能，所经诸海，风波之大，航行之难，又遇可怖之飓风，几濒于险，终在柬埔寨沿岸搁浅，既苦饥渴，复缺百物，不得已重回暹罗。（上引李明书，信札一，八页以下。）

①其人事迹参看本书第一六三传注④。

既抵暹罗，闻葡萄牙人决定阻止诸神甫从澳门入中国内地之讯，乃决定改取他途。此次李明神甫亦偕行，于一六八七年六月十九日^①乘华商王某之商船往宁波；航行三十五日，历经酷热、饥渴及其他种种危险，始于一六八七年七月二十三日抵宁波。（《传教信札》，卷三，八七页以下。上引李明书，信札一，一四页以下。）

①李明之信札作十七日。

至是困难又发生焉。浙江巡抚金铉不乐诸神甫之至，欲遣之回印度，遂以此意商之于朝，朝议是之。浙抚并欲没收诸神甫之行李，幸而若翰先致书于居杭之殷铎泽（第一二〇传）神甫与在京之南怀仁（第一二四传）神甫。

怀仁进言于帝，帝许召之入朝。上谕云：“此辈非应

驱逐出境之人，皆起送来京候用，通历法者可留用，余人听其随便居住。”（《传教信札》，同上。上引李明书，信札一，五二页以下。）

当礼部寄送上谕之时，殷铎泽神甫先已致书慰问，并道讲说教义人某秀才与仆役二人往助诸神甫。浙抚既奉帝命，乃转飭宁波长官遣送诸神甫来杭。至杭时，城中奉教之人群往欢迎，牌上金字大书“奉召入京之天学西士”。（上引李明书，信札一，五八页以下。）

诸神甫留杭数日，登巡抚所备之官船，溯运河而上。过扬州尚及见毕嘉（第一一八传）神甫，后于一六八八年二月七日抵京师。南怀仁神甫先卒已十日，而帝亦遭祖母丧，守制二十七日，未即召见。（《传教信札》，卷三，九四页。）

在此时间中，安多（第一六三传）神甫先授诸人抵制攻击之法，谓应守圣保禄之遗言逆来顺受。

426 既而蒙召见，帝欲并留五人在朝。徐日昇（第一四二传）神甫知诸堂之乏人，请帝许诸神甫出京，帝谕曰：“朕与汝分配之，朕留二人，任汝选择可也。”由是留白晋、张诚二神甫居京师，若翰、刘应、李明三神甫分往各省管理教务。由是驻华之法国传教会遂以成立，而若翰为之长，迄于一六九九年。

427 一六八八年五月若翰赴南京，以此城为传教中心。留居此城两年余，与毕嘉神甫传布教义，有时亦赴上海，祈祷于刘我迪（第一〇二传）神甫墓前。“多明我会罗文藻主教与方济各会莱奥内萨（Jean-François de Léones-

sa)神甫与吾人同居此大城中。已而康和之(Argolis)主教和叶宗贤(Basile de Gemon)神甫亦至,我幸得与之晤对年余”。(《传教信札》,卷三,九八页。加亚尔:《南京史地概貌》,二四三——二四六页。)

若翰居南京时,适皇帝南巡。若翰与其他传教师被召见数次,帝亦数遣侍卫赴堂慰问。因帝之宠遇传教师,颇有助于教务之发达。(《传教信札》,九九页。)

然澳门之葡萄牙人仍用种种方法以妨害之:截留法国寄送彼等之银钱书籍。由是诸传教师穷乏不堪,若翰不得已留刘应神甫驻南京,自赴广州论曲直。

及还南京,决定遣派李明神甫为会务而返法国。当是时也,罗文藻主教歿,南京教民盛其葬仪。(同上,一〇五页。)

一六九二年终,若翰偕刘应神甫复还广州,为将至一国之新传教师购买房屋一所。布置甫就绪,即奉帝命召二神甫入京。(同上,一〇六页。)

既抵京师,皇帝适患间歇热,医药无效。若翰遣从印度寄到金鸡纳霜一磅,当时北京尚不知此药可愈此疾。诸神甫进此药,帝疾获愈。(同上,一〇七页。冯秉世:《中国史》,卷十一,一七〇页。帝奖诸神甫进药功,一六九三年七月四日以皇城内房屋一所赐四神甫居住。

顾此房屋尚不适于用,帝命内大臣饰工修整,十二月十九日天主堂成,次日诸神甫行开堂礼。

次年帝又在法国神甫居地附近赐大地一方以供建筑教堂之用,然至若翰赴法后始落成。同时并赐必须之经

费在各省建筑教堂四所。（《传教信札》，卷三，二六、一一〇页。）

- 430 若翰在华时常利用彼之权力与诸传教师之权力辅助各派教会，或助其成立，或为之解免仇教事件。（同上，一一四页。）

在一六九八与一六九九年间，教皇任命中国各省主教与代主教时尤为尽力。盖在各主教管辖之教区中脱无朝中人之嘱托，不特无教堂，且无教民也。有主教数人曾请诸神甫为之先容，若翰等辄尽力为谋。（同上，一一五页以下。）

若翰为各派尽力之事，与各派对于耶稣会之感激情形，并详若翰诸信札中。则昔有人谓诸神甫专为己谋而存嫉妒之心者，皆无根之词也。（同上，一一三页以下。）

- 431 一六九九年若翰首次还欧洲。行前，白晋神甫新由欧洲召至之新传教师适抵中国，乃派往各地传教。若翰在广州^①登舟，至一七〇一年终始附俺斐特里特（Amphitrite）号军舰返华。由法同来者新传教师八人，诸人在中国海中曾历经海险：航行四阅月，屡遇风暴，至是始达广州也。舟抵印度时，有四神甫加入，同行者共有十三人。居广州若干时，遣派新来诸传教师分居各地。若翰拟在南京设一修院，以备将来来华之传教师肄习中国语言文学。（同上，五〇页。）

①当时广州有教堂七所：计最古之葡萄牙耶稣会士教堂一所，方济各会士教堂二所，外国传教会士教堂二

所，奥斯定会士教堂一所，法国耶稣会士教堂一所，各堂有传教师一、二人。（同上，一三一页。）

然若翰未能停留南京，径赴京师。此次居京之时甚暂，似有人进谗于帝，宠待不如前时。（威斯切尔斯《未公布的神甫书信》，四四页。）

若翰见势不能留，乃赴宁波之舟山，等待海舶西行。一七〇三年三月一日附英国海船，次年抵伦敦。已而还国，以会事报告诸道长。至是遂留法国，被任为拉弗累舍城会团长。其后数年事迹未详，一七一〇年一月十六日歿于此城。

雷慕沙云：“若翰初次归国时曾携有中国书籍若干册，是为王立图书馆之最初藏本。最后一次还国时，携有满文字典十二册，此本殆为法国初见之本也。”（《亚洲杂纂》，卷二，二四三页。）

其遗著列下：

（一）一六七四年刊布之《帕迪埃神甫天文图》，是为当时最完备的天体图之一。（舒瓦齐：《暹罗旅行日志》，十三页。）

（二）一六八〇年与一六八一年在克勒蒙所为之种种彗星测验，巴黎刻一六八一年十二开本。

（三）土星之被月蚀，见一六七八年三月七日《学者日志》。

（四）一六七八年十月二十九日之月蚀测验，见一六七八年十一月二十一日《学者日志》。

（五）一六八四年七月十二日之日蚀测验，见科学研 432

究院《记录》第十册。

(六)水星经过太阳，是为一六九〇年十一月十日偕李明神甫在广州之共同测验，经古热(Gouge)神甫刊布。

(七)在西安确定经度之测验，见科学研究院《汇刊》第七册，八五五页。

(八)中国若干城市方位之测验，见一六九九年《科学院史》。

(九)一六九九年二月在北京测验之彗星，见一七〇一年科学研究院《记录》。

(十)赴华法国耶稣会士自暹罗寄送科学研究院之测验，见古热神甫撰《用以参证博物学并完成天文学地理学之物理数学测验》，附有科学研究院院士之意见与古热神甫之注释，八开本，巴黎，一六八八年；四开本，巴黎，一六九二年。此种测验出若翰与塔夏尔、卫方济、贝泽(Beza)、迪夏(Duchatz)诸神甫手。并参看科学研究院《记录》第七册。

(十一)《一六九七、一六九八、一六九九年之中国事》，是编盖为利翁纳(de Lyonne)道院长在严州府建筑某堂而撰，十二开本，列日，一七〇〇年。有人以是编出若翰手。

(十二)白晋、洪若翰、张诚、李明、刘应五神甫自宁波赴北京路程，所述所经浙江、江苏、山东、直隶诸地。见上述杜赫德书，卷一，七三页。

(十三)若翰自北京赴绛州，与自绛州赴南京之路程，见上引杜赫德书，九七页。

(十四)据宋君荣(第三一四传)神甫说：洪若翰、张诚二神甫有研究中国古天文学之举，若翰因是曾为种种测验，然因旅

致行未果成。

(十五) 尚有对于中国里值之测验。据若翰与李明神甫说,北京尺与巴黎尺乃九九与一百之比,则每中国里合二九七特瓦兹(Toises)。此种比例南怀仁(第一二四传)神甫前已得之。梅朗(de Mairan)曾将巴多明(第二三三传)神甫所寄之中国尺与法国官尺比较,算得里值为二九六特瓦兹又三分之二。德利尔(Delisle)和平格尔(Pingre)合撰之《北京志》,一七八五年巴黎刻本三七页;又廷科夫斯基(Timkovski)所撰之《北京行记》一八二七年巴黎刻本,皆曾利用若翰之测验,惟若翰原本尚未刊行。 433

(十六) 一六八六年二月二十六日若翰自暹罗致其友某耶稣会士信札。(索默尔沃热尔《书目》,卷三,八五三栏。考狄《书目》,第二版,一〇六八栏。)

(十七) 致韦朱(Verjus)神甫信札,述第一次航行未能达中国折还暹罗事,见塔夏尔《第二次暹罗王国行记》,一五〇——一九四页。)

(十八) 一六九〇年八月一日自上海致某显要信札,述中国概况,赞扬康熙皇帝才德以及天主教输入中国等事,见奥尔良《利玛窦生平》,二二〇页以下。

(十九) 一六八七年五月十二日自罗斛(Louvo)致韦朱神甫信札,述一六八六年十一月后诸神甫在暹罗之作业,并详述彼等之天文测验,见塔夏尔《第二次暹罗王国行记》,二三四——二六二页。

(二十) 一七〇三年二月十五日舟山信札,述法国传

教会之成立、旅行、抵中国、至北京，帝有疾，头批法国传教师之作业，见《传教信札》，卷三，八二页以下；德文译本见《威尔特-博特》，九七号。

（二十一）一七〇四年自伦敦致夏斯神甫信札，述为其他传教师尽力、北京教堂、日本及长崎、告未来诸教师等事，见《传教信札》，卷三，一一三页以下；德文译本见《威尔特-博特》，八九号。

（二十二）别有未刊信札数件现藏圣热内维夫学校图书馆。（索默尔沃热尔《书目》，卷三，八五三栏。）

一七一 白晋 法兰西人

一六五六年七月十八日生——一六七八年十月九日入会——一六八七年七月二十三日至华——一六九四年二月二日发愿——一七三〇年六月二十八日^①歿于北京。

- 434 白晋^② (Joachim Bouvet) 神甫字明远，一六五六年生于勒芒 (Le Mans)。一六八五年路易十四世以官帑遣送至华。六数学师之一也。行前曾列席科学研究院，国王赐给必需之数学、天文仪器，于一六八五年三月三日离布勒斯特，留塔夏尔神甫于暹罗，一六八七年七月二十三日抵宁波，一六八八年二月七日抵京师。帝许彼等自由传教，惟留晋与张诚（第一七三传）二人在京备用。

^①薛孔昭《名录》作二十九日。

②钩案：《正教奉褒》九二等页作白进。

此两神甫不久熟悉满文，获得皇帝信任，对帝讲解全部几何学。二人曾用满文编纂种种数学书籍，帝命人译为汉文，并亲作序文冠于卷首。二人并在宫中建筑化学实验室一所，一切必需仪器皆备，并着手于全部解剖学之编辑，后经巴多明（第二三三传）神甫促成之，旋译为满文。（白晋《康熙皇帝》，一三〇页以下。）

帝对于法国传教师颇为器重，特命晋返法国召致其可能召来之传教师若干人。同时并命其携带物品赠给法兰西国王路易十四世，内有北京精印书籍四十九册。晋于一六九三年离京师，一六九七年抵法国，一六九九年三月重来中国，携来传教师十人^①。法国国王以装订华丽之版画集一册付晋，嘱其转赠中国皇帝。

①其由拉罗舍尔附俺斐特里特号军舰出发者八人，即翟敬臣（第二三〇传）、南光国（第二三四传）、利圣学（第二二九传）、马诺瑟（第二三五传）、雷孝思（第二三六传）、巴多明（第二三三传）、颜理伯（第二三二传）七神甫与卫嘉禄（第二三七传）修士。舟至好望角，又附载有孟正气（第二三一传）、卜纳爵（第二二八传）神甫二人。先是此二神甫偕殷弘绪（第二四二传）、傅圣泽（第二四三传）二神甫与樊继训（第五〇传）修士共乘安吉斯（des Angus）统率之舰队东行，抵好望角，留二神甫于非洲，至是始得与晋同赴中国。（考狄《书目》，二〇八九页以下。）

帝知晋等将至，特命苏霖（第一六一传）、刘应（第一 435

七四传)二神甫往广州迎接。晋既复命,帝甚喜,命其为皇子译人。一七〇四年皇子命晋撰某书,晋疑涉及迷信,拒不奉命,群官责其固执忘恩,晋严拒如前。皇子怒,诉之于帝,帝免其职。(《传教信札》,卷三,一四四页。)

然晋之宠眷不因是而衰,一七〇五年十二月三十一日大主教铎罗入觐后,次年一月二日帝命晋往使教廷,并携带赠品多种,以赠教皇^①。晋奉命后,旋抵广州,因有困难发生,被召还京师。一七〇八年以后晋等奉命测绘全国各省地图,语具雷孝思(第二三六传)神甫传。

① 赠品中有大东珠十颗,人参一包,黑貂皮五十张,绣被十床,各色绸缎三十匹,诸物用精制之匣二盛之。帝曾命侍臣一人,官吏三人,先以诸物示铎罗大主教,然后连同锁钥付晋。帝命铎罗作书致教皇,言以晋为使臣赴罗马,召致精于数学、音乐、医术之教师来华。(《安蒂奥基宗主教铎罗奉教皇命出使中国之行实况报导》,录自马尔克·彼雷拉《澳门大事报导》第二页。)

436 晋对于教师职务亦勤劳不辍。在京设圣体会一所,一七〇六年晋记有云:此会分四班,各有其主保圣者,一班专司教导新教友,以圣依纳爵为主保;一班教导儿童,以天神为主保;一班专司死葬事宜,以圣约瑟为主保;一班专司劝化教外人人教,以圣方济各为主保。(《传教信札》,卷三,一六〇页以下。)

晋与同僚数人咸以在中国古代经籍中发现原始传说,曾在一七二九年十一月十三日一未刊信札中假定其

由最初之古圣祖传至中国，因此与莱布尼茨屡通信札^①。又谓康熙帝曾对之言“设朕决定改从基督教，全国人将尽从此教”。此诸传教师梦想已久，而难于实行之事也。马若瑟-博纳蒂 (Premare-Bonnetty)：《基督教主要教条之遗迹》，一二页以下。）

① 参看传后第七、八、十五、十七等号撰述信札。

据巴黎观象台保存龚当信(第二五六传)神甫之一信札，晋一七三〇年六月二十八日歿于北京。(参看索默尔沃热尔《书目》，卷二，五四栏。)

其遗著列下：

437

(一)《几何原理》满文本与汉文本，今皆未见。晋志有云：帝命吾人为之讲说欧几里得之《几何定理》，而自绘图形久而不倦，由是习知几何原理。吾人初用满文撰译成书；帝又命吾人撰一实用几何讲义，并附一切理论于其中。此二书颇获帝意，命人将其转为汉文，并亲制序文冠于卷首^①。(白晋《康熙皇帝》，一二九页以下。)

① 钩案：《御定数理精蕴》中之《几何原本》疑即是编。

(二) 晋等曾奉帝命编撰各种科目纲要，约有十八至二十种，诸书之成皆在一六九二年前。(同上，第一〇三页。)

(三) 晋在一六九三年奉帝命赴欧洲，自京师达广州之路程，见杜赫德《中华帝国全志》，卷一，九五——一〇五页。卷二，一〇八页。

(四)《中国现状》，是编乃吉法尔(Giffart)根据晋携还法国进呈国王之图画绘刻而成，一六九七年巴黎刻本。

(五)《康熙皇帝》，十二开本，巴黎，一六九七年。是编几完全将康熙帝与路易十四世共比较。路易十四世因此颇自豪，常对人表示钦佩康熙之意，然不愿遣使至中国而自贬其尊严。(雷慕沙：《亚洲新杂纂》，卷二，四一页。)是编赞扬康熙似乎过度；莱布尼茨曾将其转为拉丁文，载入《中国近讯》中。

(六)谈话数编，见上引杜赫德书，卷二，一一三页。书中有一编述宴会礼节事。

438 (七)《中国语言中之天与上帝》，是编证明中国古今书籍名称真主曰天曰上帝，并引古代载籍，士夫情绪与俗谚以证之。此书已经铎罗大主教禁止，并将一切刻本没收。(参看《中国天主教之现状》，十二开本，巴黎，一七一二年，二二六页以下。马若瑟：《基督教主要教条之遗迹》，十三、十四页。)

(八)《古今敬天鉴》，一七〇六年，钞本，现藏巴黎国家图书馆。吾人在直隶见是书一册，题白晋撰，前有礼部尚书韩某序，曾钞录一部藏之。

(九)《汉法小字典》钞本，法国研究院图书馆藏。考狄曾在此图书馆觅而未得。(考狄《书目》，一〇三六页。)

(十)《易经释义》，是编乃应视察员骆保禄神父之要求，根据中国经典中有关经爻象而对《易经》所加的铎释，钞本，现藏巴黎国家图书馆。(法文书类编号一七二三九。)

(十一)博纳蒂(Bonnetty)引有《诗经研究》一编，巴黎国家图书馆藏。(马若瑟：《基督教主要教条之遗迹》，

十四页。)

(十二) 据雷慕沙说,《世界人名辞典》白晋条著录有拉丁文和法文撰述若干种,其内容皆在证明晋与马若瑟(第二三五传)二人所主张中国古制与天主教理相符之说。中有数种虽为若瑟撰述,然其材料乃晋所辑。参看同一辞典马若瑟条。

(十三) 《旅行日记》钞本,一九一页,慕尼黑藏。

(十四) 《一六九一——一六九四年为虔诚的法国国王所派天文专家法国神甫和葡萄牙神甫在中华帝国所作历算成绩总结汇报》,呈耶稣会总会长,四开本,共七十二页。(藏巴黎研究图书馆。)

(十五) 未刊信札:一六九四年十二月一日信札,钞⁴³⁹本一件。马札兰图书馆藏钞本,编号二八一三,题曰《一六九九、一六七〇年中国事务》。(考狄《书目》,八七四页。)一七〇四年九月十五日自北京致比尼翁(Bignon)道院长信札。一七〇四年十月二十七日北京信札。致夏斯神甫信札。一七〇一年十一月四日自北京致莱布尼茨信札。以上诸信札现藏巴黎国家图书馆,编号一七二四。(考狄《书目》,一〇三六页。)一七二三年十一月二十三日自北京致某某信札。晋曾将其在中国书籍中所发现关于各种科学之记录,尤其关于宗教之记录,约三、四十页,寄交此人,其中言及由中国礼仪问题及天与上帝名称所引起之困难。嗣又将其在《易经》中之一种发现撰为专文,约二百页,寄达此人。(参考第十号书)晋在致莱布尼茨之一信札中,曾将其满文主祷文寄达。〔拉克罗兹《书札文

库，卷三，波佐(Pozo)。〕

(十六)《传教信札》中有信札两件：其一件一六九九年十一月三十日自北京致夏斯神甫，言旅行事；其另一件一七〇六年作于北京，言建立圣体会事，(同上书，卷三，一七、一六〇页。《威尔特-博特》，四一、一二八号。)尚有北京信札一件，作于一七一〇年七月十日。(《传教信札》，一八一九年，卷十，六四——六八页。)

(十七)致莱布尼茨信札，言中国哲学礼仪及中国传教会。《世界人名辞典》白晋条谓此信札见一七〇四年一月刊第十一号《特雷武文摘》。同号记录并载有一七〇一年十一月一日别一信札，言寻究中国古代信仰之有益。尚有信札二件见科尔托尔(Chrétien Kortholt)《哲学文集》，八开本，汉堡，一七三四年。(参看索默尔沃热尔《书目》，卷二，五七栏。)

(十八)致苏熙业(Souciet)神甫信札数件。(藏巴黎观象台图书馆，古文夹一五〇)

(十九)一六九七年在巴黎及枫丹白露所作信札若干件，藏圣热内维夫学校图书馆。(索默尔沃热尔《书目》，卷一，五八栏。)

(二十)一六九八年六月五日好望角信札，见一六九九年三月刊《友好信使》，四十九页以下。

(二十一)一七二六、一七二七、一七二八年信札各一件。见《远东杂志》，卷三，六四页以下，六七页以下；二一八页以下。

(二十二)一七二九年十一月十三日(未刊的北京信札，言中国的经书发源于基督教，见马若瑟-博纳提《基督教主要

教条之遗迹》，一二、一三页。）

一七二 李明 法兰西人

440

一六五五年七月十日生——一六七一年十月十五日入会——一六八七年七月二十三日至华——一七二八年四月十八日歿于法国。

李明(Louis le Comte)神甫字复初，出生于波尔多，贵家子也。十六岁入吉延教区修院。在学习中与在学习后，教授时或传教时，皆不能妨碍其研究数学。一六八五年遣派六传教师赴华，明亦当选。在瓦索(Oyseau)号舶上说教时，无论贤愚皆乐闻其说。（舒瓦齐《暹罗旅行日志》，一八、六三、一〇七页。）在旅行中，常为天文与博物学之测验，此事在致比尼翁道院长信札中已言之。（《中国现势新志》，卷二，四四八页以下。）在好望角、本地治理、卢沃(Louvo)、暹罗等地，曾测验土星诸卫星之初蚀与易位，一六八七年二月在卢沃城测验土星与火星之交会，一六八八年四月终在绛州曾测验月蚀，一六九〇年十一月十日在广州曾测验水星之经行太阳前，此外并测验月蚀多次。

一六八八年二月七日抵北京，未久派往山西与刘应（第一七四传）神甫共处若干时，已而派往陕西，接管方德望（第六五传）神甫之旧管教区亘二年。澳门葡萄牙人截留法国寄来之经费，致使明与刘应，洪若翰（第一七

○传)神甫等皆受窘迫,不得已各弃其传教区域徙居海港附近而求自给。一六九〇年明随洪若翰神甫赴广州与葡人论曲直,是行也曾将南京至广州诸水道绘成地图一幅。已而洪若翰神甫遣之回法国,以新设传教会之窘状报告上级人员。(《传教信札》,卷三,九七、一〇四页以下。)一

- 441 六九二年抵法国,转赴罗马,嗣后留居法国而为勃艮第公爵夫人之告解人。一七二八年歿于波尔多。关于中国礼仪问题,明曾参加讨论,其详见索默尔沃热尔《书目》,卷二,一三五七栏以下。

其遗著列下:

- (一)《中国现势新志》,两卷,十二开本,巴黎,一六
442 九六年。刻有数版,并转为各国语言。此书饶有兴味,足广异闻,惟关于华人不无溢美之词。全书按信札而分子目,第一册信札八件,第二册信札六件,皆致当时显贵者。第一书致庞特夏特兰(de Pontchartrain),言暹罗、北京行程事;第二书致内幕尔(de Nemours)公爵夫人,言皇帝之召见与京师之内容;第三书致枢机员佛斯登堡(de Furstenberg),言中国之城市房屋建筑;第四书致克雷西(de Crecy)伯爵,言气候,土地,运河,水道出产^①;第五书致托尔西(de Torcy)侯爵,言国民特性、古迹、贵族、习惯及优缺点;第六书致布荣(de Bouillon)公爵夫人,言华人之清洁华丽;第七书致兰斯城大主教,言语言,性格,书籍,道德;第八书致大臣菲利波(de Phelipeaux)言华人之才智;第九书致枢机员埃特雷(d'Estrées),言政治与政府;第十书致枢机员布荣,言华人之古今宗教;

第十一书致参政布耶(Bouille),言基督教在中国之成立与发展;第十二书致国王告解人夏斯神甫,言传教方法与新入教者之虔诚;第十三书致枢机员让松(de Janson),言上谕公认基督教;第十四书致比尼翁道院长,将在印度与中国所为之测验作概括之说明。关于英、荷、意、德等国语言之译文,可参考索默尔沃热尔《书目》,卷一,一三五七栏;卷九,九九栏。

①此信札始言中国有淡巴菰,其实烟草在十六世纪末年或十七世纪初年早已输入福建诸港矣。〔布雷特施奈德尔(Bretschneider)《欧洲人最初对中国植物的研究》,二七页。〕

(二)关于向教皇举发《中国新志》事件之辩解,一七〇〇年本。

(三)《外国传教会士关于中国礼仪问题上教皇书之答辩》,一七二〇年本。

(四)《舰队长弗尔班记事》,是编乃经拉博莱(Raboulet)神甫与明据其遗稿合编而成。二册,十二开本,阿姆斯特丹,一七二九、一七四八年。(索默尔沃热尔《书目》,卷二,一三六二栏。)

(五)自宁波至北京,自北京至绛州之详细路程:“我并将自南京至广州之水道绘成一长十八尺之地图,每一分度占一指之三分之一,水道之弯曲,宽广,岛屿,村庄皆附焉。吾人曾将科罗曼德耳、佩斯基耶腊、马六甲、墨吉、柬埔寨等地沿岸之一部分改正。我尚有二图将待刊布: 443
一为宁波港口图,暹罗至中国之路程附焉;一为大鞑靼地

域图。”(李明《中国现势新志》，卷二，四九二页以下。)

(六) 关于中国礼仪问题致梅纳(Maine)公爵信札，十二开本，列日，一七〇〇年。

(七) 一七〇二年三月十七日致外方传教会道长布利萨西埃(Brisacier)信札，见《答外方传教会士新作之信札》，一七〇二年本，九〇至九九页。

(八) 致枢机员马雷斯科图(Marescottum)信札，八开本，科隆，一七〇一年。

(九) 别有一六九七年某传教师关于中国礼仪之信札；世人以为亦出明手。(索默尔沃热尔《书目》，卷二，一三五八栏。)

一七三 张诚 法兰西人

一六五四年六月十一日生^①——一六七〇年十月六日入会——一六八七年七月二十三日至华——一七〇七年三月二十二日歿于北京。

张诚(Jean François Gerbillon)神甫字实斋，洪若翰(第一七〇传)神甫(一七〇〇至一七〇六)后任第二任外方传教会会督也。一六五四年六月十一日生于凡尔登。一六七〇年十月六日入香檳州楠西城修院。

①据一九〇六年刊《通报》四三七页考狄说，作一月二十一日或六月十一日。

六传教师来华，诚与其选，抵京后，康熙帝留诚与白晋(第一七一传)在朝。一六八八年帝遣使臣赴西伯利亚与俄罗斯

议和时，见俄国来文皆译作拉丁语，乃命张诚与徐日升（第一四二传）为译人，随同使臣北往，临行赐袍褂，授三品官^①，并命使臣凡大事皆应与二人商酌行之。（郭弼思《中国皇帝敕令史》，二〇四——二〇五页。冯秉正：《中国史》，卷一，一一一页。）

①一六八九年《尼布楚条约》缔结后，二人皆辞官爵。

〔魏继晋(Bahr):《驳莫舍姆(Mosheim)》，第六四页。〕除此二人外，耶稣会士受官职者尚有九人：(一)汤若望(第四九传)在一六四五年受顺治官职；(二)南怀仁(第一二四传)在一六六四年受康熙官职；(三)戴进贤(第二九七传)在一七二五年受雍正官职；(四)徐懋德(第二九九传)在雍正时受官职；盖博葡萄牙使臣之欢心也；(五)郎世宁(第二九三传)修士在乾隆时受三品官职；(六)刘松龄(第三五一传)在乾隆时受三品官职；(七)高慎思(第三九六传)在乾隆时受四品官职；(八)鲍友管(第三五〇传)在乾隆时受六品官职；(九)傅作霖(第三五三传)在乾隆时受六品官职。参看《正教奉褒》第二册。普雷：《中国礼仪之争史》，一七页。至若迄于耶稣会取消时诸神甫之供职钦天监者，不必受有官职。

使臣在道凡四月，道途艰难，诚云法国至北京，行程之难，不及其万一也。中国使臣抵会议地尼布楚，俄国使臣戈洛文(Fedor Alexiewiten Golowin)等已先至。双方初似不愿和解，俄人欲据黑龙江北之地，华人欲使之退处色楞格河以西；双方坚持不让，会议遂破裂。（上引

郭弼恩书,二〇六、二〇七页。上引冯秉正书,卷十一,一一一、一二五页。)

诚见战事将重开,乃进言于使臣长索额图(Sosan),愿往与俄使商酌,俾和议得以成立。中国使臣素知其能,令往俄使行辕。诚留俄使行辕数日,反复婉劝,言中国贸易之利甚厚,足以使东方之富源富裕俄国;抑况俄人现
445 在西伯利亚略有广大领土,宜乘势巩固之,不应与中国战也。(上引郭弼恩书,二〇七页以下。)

俄使等为其言所动,乃接受诚所提条件,两国使臣遂在尼布楚小教堂中签订和约(一六八九)。和约凡四份,一份俄文,一份满文,两份拉丁文,二国使臣仅在拉丁文和约上签名盖印。和议之成,皆二神甫功。全军皆喜,索额图等尤奖赞之;曾语二神甫云:将来如有需其力之处彼将助之。(上引郭弼恩书,二〇九页。《传教信札》,卷三,一〇一页。)^①

①加恩:《彼得大帝时代俄中关系史》,四七页。节录俄使戈洛文之笔记,颇与张诚之说异,俄史颇恨耶稣会士忠于中国也。

诚答索额图曰:“公应知我辈离欧来华之目的,吾人之惟一心愿,即在使人认识真主而传播其圣教。最后上谕禁止传教,斯足使吾人忧惶者也。公入觐后,恳奏请开除此禁,则吾人之感恩,较赏赐吾人任何富贵尊荣为切云。”(《传教信札》,卷三,一〇一页。)自是以后,中俄交涉常以诚为译人。(上引加恩书,八五页以下。)

诚既还北京,开始在帝前讲授欧几里德原理,实用几

何学与哲学；曾与白晋（第一七一传）奉命撰种种书籍。二人先用满文撰写，然后对帝讲授，由是帝对于西学日见信服。

二神甫逐日进讲，虽驾幸京师十余里外之畅春园时，彼等亦进讲不辍。不分阴晴，早四时入宫，日落后始出。返寓后尚须在夜间预备次日进讲之日课；往来奔走，昼夜研究，劳苦可知，然其意在回帝心，厚遇本教，故不觉其劳苦。彼等进讲时间有时始午前二时迄午后二时，讲时帝赐坐，诚等以图形呈帝，并为之解说。（《传教信札》卷 446 三，一〇一页。）

朝臣、官监见诚等日日进讲，颇以为异，进讲时仅三、四阍人侍侧，帝与诚等言，有如家人，所言者西方科学，风俗习惯，西国近事及其他种种问题。（白晋《康熙皇帝》，一六二页。）

一六九一年赖诚在朝之势力，使殷铎泽（第一二〇传）神甫在杭数年来所受之窘迫得解。索额图亦践其言，屡为之助，于是始有次年上谕，允许奉行天主教，语具徐日昇（第一四二传）、安多（第一六三传）二传。

一六九六年康熙帝亲征噶尔丹，命三神甫扈从。古伯察道院长记有云：“耶稣会士在此种艰苦远征之中，颇有自慰者在，盖其有助于宗教也：一方面既维持皇帝护教之心，一方面足以散布种子于各地也。”（古伯察：《基督教在中国》，卷三，二八三页。）因是赖讲授西学，而使教理传布于朝廷，由朝廷及于百官，由百官及于庶民。

诚自记有云：（杜赫德《中华帝国全志》，卷四，五八

页。)“余首次至塞外时,即有在其地创设传教会之意,无如其地之人尚无接受种子之心,势不宜置收获富饶之中国不顾。但其东部有若干教民曾至京师,吾人希望不久有传教师至其地也。”

诚随驾赴塞外凡八次,末次回京后,主持北京法国教堂之建筑与装饰,是为东方最华丽的教堂之一。

- 447 帝在皇城内赐大地一方,以供建筑教堂之用,并许给资建筑,事具洪若翰(第一七〇传)传。一七〇〇年^①一月二十六日,诚请主事太监转奏教堂行将兴工,帝询以何不与其他诸神甫协同奏明,盖建筑教堂,凡为传教师者应协力为之也。诚奏云:先未悉帝意,不敢冒然为之,行将偕诸神甫共谢帝恩。(*传教信札*,卷三,二六页。)

翌日诸神甫同入内递奏折,帝命太监传谕,将命人供给工料。次日帝赐各神甫每人缎二匹,银五十两,时闵明我(第一三五传)神甫年资最高,乃代表诸人陈谢。(*传教信札*,卷三,二六页。上引杜赫德书,卷三,一一五、一一六页。古伯察*《基督教在中国》*,卷三,二四三页。)

①一七〇〇年似是一六九九年之误。

教堂在一大院落后,院落广四十尺,深五十尺;教堂广三十三尺,深七十五尺,高三十尺。天花板皆加绘饰,祭坛后部亦加彩绘,华人见者咸目迷五色。(*传教信札*,卷三,一四三页。)

杜德美(第二六〇传)神甫云:“祭坛装饰极为华丽,皆路易十四世寄赠之物也。”(出处同上)百合花徽处处可见。

教堂两旁建华式厅屋二所。其一所作为会团会所与 448
训练志愿受洗人之用；别一所作为客厅之用。客厅之中
悬挂法国国王，王世子，诸亲王，西班牙和英吉利等国王
王诸绘像，并陈列数学仪器与乐器等物。华人见者莫不
惊异。（同上）

教堂落成后，于一七〇三年十二月九日行祝圣礼。
阐明我神甫时为视察员，先举行祝礼，诚继而举行弥撒，
然后为法国国王祷告，终为不少志愿受洗人授洗。（同
上）

此教堂之举行落成礼，全国皆知其事。皇子一人，皇
弟二人，诸王公贵人咸来瞻视。外省入觐之官吏，赴试之
士人，莫不来堂游观。

堂门上题奉旨建天主堂，内悬御书匾额曰万有真元，
又赐对联曰：无始无终先作形声真主宰，宣仁宣义聿昭
拯济大权衡^①。（《传教信札》，卷三，一六七页。黄：《论行
政制度杂集》，载《汉学文集》，二一号，一五八、一六四页。449
《绘画目录》，徐家汇，七八号。）

①补注云：按此匾额对联乃康熙时颁赐俗称南堂之葡
萄牙教堂者，而非赐俗称北堂之法国教堂者。可参
看《正教奉褒》，一三〇页。

自是以后诚留居北京传布宗教，同时并为外省诸传
教师谋便利。康和之（d'Argolis）主教之得驻山东临清，
方济各会士之得传教山东东昌，布兰克（de Blanc）主教
之得居云南，罗萨里埃（de Rosalie）主教与四传教师之得
入四川、江西，奥斯定会士五年来教案得以平息，皆得诚

之力也。《传教信札》，卷三，一一六页。）

一七〇七年三月二十二日歿于北京，得年五十三岁。

其遗著列下：

（一）《几何原理》，是编盖采欧几里德与阿基米德二氏之说而成，有满文本与汉文本，康熙皇帝御订，一六八九年本。（上引杜赫德书，卷四，二四五页。）

（二）《理论与实用几何学》，是编间采帕迪埃神甫之说，写以满文，后奉帝命转为汉文，一六九〇年刻于北京。（同上，二二八页。）

（三）《哲学原理》，是编多采王家研究院研究员德沙梅(Deshamel)之说，奉敕译为满文。（上引杜赫德书，卷四，二四八页。白晋《当代中国皇帝之历史》，第九九页。《康熙皇帝》，一四九页。）

（四）《使用古观象仪测日月蚀之方法》，一六八九年汉文本，（上引杜赫德书，卷四，一五七页。）是编盖为洪若翰（第一七〇传）神甫在南京献此仪器时所撰之说明书。

（五）《塞外历史观察》，上引杜赫德书，卷四，三三页以下。）

450 （六）《一六八八年至一六九九年八次塞外行记》，上引杜赫德书，卷四，一〇三页。第一次，一六八八年与徐日升（第一四二传）神甫同行；第二次，一六八九年与徐日升神甫同行；第三次，一六九一年与安多（第一六三传）神甫同行；第四次，一六九二年，第五次，一六九六年均与安多、徐日升二神甫同行；第六次，一六九六年，第七次在一六九七年，第八次在一六九八年，均与安多神甫同行。

加恩(《彼得大帝时代俄中关系史》,三二页。)对于诚所撰“宝贵的尼布楚会议日记”极为重视。加恩(一三六页)又云:“张诚神甫之说有得诸目见者,有得诸耳闻者,须分别观之。”——此种行记关于塞外之地势、人民之风俗、喇嘛之风习、土产、植物、长城、皇帝之行猎等事,皆包含有宝贵的说明。又如传教师之居京师及与康熙皇帝之关系以及天文测验等事,皆附见焉。亚洲之野驴首见欧人著录者,即是编也。格鲁贤《中华帝国概述》,卷四,二七〇页。

(七)《天文学在现今钦天监中之使用》,是编写以拉丁文,曾寄还法国。〔苏熙业(Souciet)《耶稣会士在中国和印度所作数学、天文和地理考察》,卷三,一七五页。〕

(八)《满语纲要》,见《特夫诺(Thevenot)行记》,第四册,(一六九六年巴黎刊本)。雷慕沙云:“是为当时之惟一满语文法,盖钱德明(第三九二传)神甫之满语文法,乃一不完备之译本也①。”

①案此《满语纲要》应出南怀仁(第一二四传)手,非诚撰述。一七一四年前印有千部。(一九二五至一九二六年刊《通报》六四至六七页;又一九二八年刊一九三页伯希和说。参看本书南怀仁传三十四号书录。)

(九)一六八五年十二月十五日在瓦索号舶上所撰行记写本,二四二页,别有一六八六年七月一日作于暹罗之手书一件,现藏里昂城耶稣会图书馆。

(十)一六八九年八月二十二日手书一件,载《新史》451

地杂志》，一七八〇年，第十四编，三八五——四〇八页。是书标题用德文，内容全为法文。（参看索默尔沃热尔《书目》，卷九，四〇七栏。）

（十一）一六七五年信札，述中国教务发达事，见郭弼恩《传国皇帝敕令史》，三六——三九页；一七〇五年北京信札，《中教信札》，卷三，一五七页以下。述传教会，北京周围地志及水灾等事。

（十二）一六八九年九月二日和三日信，记述中国边境和签订《中俄尼布楚条约》的经过。此信摘要见莱布尼茨《中国近讯》，一七一页以下。

（十三）伦敦公共档案局，国外通讯 XVIII 中国部（布鲁克尔神甫补），藏有信札数件：一七〇一年十月四日致弗勒里厄（de Fleuriau）、利金（Van Rhijn）、郭弼恩、阿米（Amys）诸人信札；一七〇一年十一月十九日致视察员都加禄（第一五五传）神甫信札；一七〇一年十月七日自北京致其父兄信札。此类信札中尚杂有宋若翰（第二四四传）、傅圣泽（第二四三传）、罗瓦耶（le Royer）、孟正气（第二三一传）、顾铎泽（第二五七传）诸神甫信札多件，并作于一七〇〇年。此外尚有孟正气神甫手录中国诸传教师姓名住地一览表。

（十四）一七〇五年十一月十三日致副主教坦布利尼（Tamburini）信札，拉丁文写本，现藏英国博物馆，编一六九一三号。参看索默尔沃热尔《目录》，卷三，一三四八栏。

（十五）未刊信札五件：一六八六年六月七月十二月各一件，作于暹罗，述居暹罗事；一七〇〇年九月十六日，一七〇二年十二月六日信札各一件，作于北京，述居北京事。此种信札

皆经考狄在《通报》第十七册(一九〇六)四三六页以后刊布。(参看考狄《东方史地杂纂》，卷四，一九二三页。)

一七四 刘应 法兰西人 452

一六五六年八月十二日生——一六七三年九月五日入会——一六八七年七月二十三日 至 华——一七三七年十一月十一日歿于印度本地治里。

刘应(Claude de Visdelou)主教字声闻,布列塔尼州之旧家子也。一六五六年三月十一日生^①。一六七三年入巴黎修院。

①钩案:传首作八月十二日,此作三月十一日,两者必有一误,未经原书说明。

洪若翰(第一七〇传)神甫选传教师赴华,应以德行、文学、数学、神学与选。抵京师后,分任山西教务居晋二年,颇有成绩,旋因费用拮据而赴南京^①。一六九二年偕洪若翰神甫同赴广州,次年同莅京师,应担任指导新人教之教民。

①一九二五年二月刊《宁波简讯》载有罗文藻主教一六九〇年八月二十九日(疑为二十八日之误)信札云:“刘应,法国人,一六八七年至华,驻南京,三十五岁。”

传教事业促使人终身尽力于是,然应天资高而用力

勤,尚有余暇研究中国书籍文字,且造诣甚深。康熙帝之长子,精研文学者也,颇器其才。一日面谈时,出《书经》,随手指一页令诵之。应既诵且为解说,皇子惊,再三语诸从官曰,此人大懂经义,特书奖词于绢以赐之。(《传教信札》,卷三,一〇四页以下。宋君荣:《书经》,四〇五页。)

- 453 已而应以其文学知识进而研究史学,考证亚洲南北诸民族事迹。先是欧洲人所知此类民族之古事,仅有散见希腊地理学者记述中之若干不相联络之传说;近古之事可考者,曾与罗马帝国发生关系之若干东亚民族少数事迹而已;降至中世纪时,则仅有旅行家对于成吉思汗及以后诸汗侵略之记述。此种不完备的史料,无始终亦无联络,其不足考见此种民族之历史自不待言,盖史料之原料尚未为人所识也。开始发现并利用此种史料者,应盖为第一人。(雷慕沙:《亚洲新杂纂》,卷二,二四五、二四六页。)由是撰《大鞑靼史》。

后派至福建,曾将福州背教之教民数人感化,并劝化不少新教民入教。(《传教信札》,卷三,一三七页。)

会大主教铎罗至中国,见传教师对于中国礼仪问题争论已久,拟平息之。应乃反对礼仪者也,遂集合反对礼仪之言论以献。(张诚神甫未刊信札;索默尔沃热尔《书目》,卷十三,八三九栏。)

其研究既属专门,故其意见颇有力量。自是以后,颇有助于枢机员铎罗。铎罗被囚,应亦随之。一七〇八年一月十二日教皇克莱芒十一世选应为贵州代主教,兼管湖广教务。迟至次年二月二日始在澳门铎罗囚所秘密行

就职礼。

已而被迫离华，一七〇九年六月二十四日登舟赴本地治里。既抵此城，上书教皇与法国王室以自辩。教皇颁教翰，以其说为是，然法国摄政王答书，仅告其可以留居此城。由是居此城凡二十八年，中间仅赴马德拉斯一次而未他适。末年应得瞽疾。应虽为主教，然居嘉布遣(Capucin)会士所，衣食简略，与贫苦教士同。一七三七年十一月十一日歿于此城。

其遗著列下：

(一) 戴贝洛(d'Herbelot)氏《东方丛集补编》，一七八一年，二开本，此集内容有：

1. 《东方丛集》中关于中国各条，应所发表之考证。(一页、十七页。)

2. 《鞑靼史》(一八至一三二页)，是编叙述中国诸民族之起源，两千余年之经过、其宗教风俗、战争、朝代更易、以帝王世系表与年表附焉。案上引戴贝洛之书，凡涉及只浑(Cihon)河以外之事迹皆不完备，且未免疏舛。应乃取中国史书补其阙佚，证其讹误。始而改正若干显然讹误之说，如相传鞑靼人称中国皇帝之尊号、契丹地域、回纥民族等条。嗣后将关于匈奴、突厥、契丹、蒙古之中国史文概为哀译。其主要参考书要为十三世纪之马端临《文献通考》。译文之善，可谓空前^①。(雷慕沙：《亚洲新杂纂》，卷二，二四六、二四七页。)

①“应盖为昔日居留中国耶稣会士中之最完备的汉学家，此我敢断言者也。一切译文皆表示深通汉文，明

于鉴别。应之于中国，犹克拉普罗特(Klaproth)之于西亚，在埃贝洛之文集中可谓双美。吾人得奉之为我辈中国历史的认识，尤其是中亚东亚历史的认识之第一人。”（《中亚和西亚中世纪史地评介……》，作者布雷特施奈德尔（他是北京俄国公使馆的医生。）八开本，伦敦，一八七六年，一九页。）

3. 《汗号论》。（一三二至一三三页。）

4. 《东方丛集》中凡关于中国其他各条之考证。（见一三三至一六三页。）

5. 《中国基督教碑文》，是为西安府景教碑文之解释。“其译文较之下弥格（第九三传）神甫之拉丁语译文更为正确，而其注释尤为博瞻。脱稿时在一七一九年初。”（雷慕沙：《亚洲新杂纂》，二四八页。参看索默尔沃热尔《书目》，卷八，八三九页以下。）

（二）《易经说》，附刻于宋君荣（第三一四传）神甫《书经》译文后（第四〇六至四三七页）；波蒂埃《东方圣经》第一册一三八页后亦载之。

（三）薄贤士（第二四一传）神甫对于严嘉乐(Maigrot)主教上康熙皇帝书之驳文之注释，载《简报》，一六一——一七四页。

（四）上路易十四世辩护书，及上教皇本笃(Benoit)十四世文，加的斯，一七四二年；载普拉特(Platel) (Norbert)《历史回忆录》，卷一，四一二页以下。

（五）一六八七年老挝国王使臣呈递暹罗国王之老挝国邻近诸国志，应曾将此志附以说明，寄还法国。（《传教信札》，

卷四、六六二页。)

(六) 一六八七年华人四人自云南逃阿瓦(Ava)和白古(Pégou),旋至暹罗。应曾将其行程考证,并及云南、暹罗两地之历史,曾说明缅甸之伊洛瓦底江与云南和西藏 Yang-ho-tchou 的金沙江实为同一江流。(《传教信札》,卷四,六五页。)

(七) 此外尚遗有手写本甚多:(索默尔沃热尔《书日》,卷八,八四〇栏以下。)

《中国哲学家之宗教史》四册,(宋君荣《书经》,四〇六页。)书曾寄回罗马,现不知其存佚。

《礼记》、《郊特性》、《祭法》、《祭文》、《祭统》等篇译文 456,附注释。

《书经》拉丁文译文六册,存教廷。

《论道教》,拉丁文译本,本地治理刊行,一七二五年。

中国经典之一《中庸》,拉丁文译本,附注释。

《婆罗门教简介》。

孔子第六十五代孙 Cum-san-mei 传,拉丁文译文。附注释。案此世次与《阙里文献考》所载世次微异。

《论赵松(Chao-sum)的日本史》。

《论中国婆罗门教派》,附中国-蒙古史简编。

《中国历书沿革》。

《中国〈四书〉之年代》,其中导言叙述中国和世界历史之悠久性。

中国皇帝上谕三件,附说明。

中国皇帝遗诏一件,附说明。

(八) 李明(《中国现势新志》，卷一，四五六页。)云：“应曾翻译中国《本草》，并附说。”

(九) 郭弼恩(《中国皇帝敕令史》九六页。)云：“浙江教案发生时，应适在杭州，曾将其忠实记录寄还法国。”

(十) 致阿尔杜安(Hardouin)神甫信札，言中国六千支事。(宋君荣《论中国编年史》，一四四页。)

(十一) 道院长普拉特(《历史回忆录》，卷一，三七二页。)引有手写著作若干种，据云已进呈教皇本笃十四世，藏教廷图书馆中。其目列下：

拉丁文《中国历史》六册。冯秉正(第二六九传)神甫曾在其自撰之《中国史》第一册一七八页中言及此书。第一册述古史，止于公元前四二四年；第二册始公元前四二四年迄二〇六年；第三册始公元前二〇六年迄一四〇年；第四册始公元前一四〇年迄公元二五年；第五册始公元二五年迄二一四年；第六册述当时君临中国之皇朝。

《华人之礼仪及牺牲》。

《中国七子赞》。

《中国与世界其他各国之古代》。

(十二) 纳曼(Neumann)曾撰有《刘应著述考》。(参看伯希和说，载《通报》，一九二八年，四八页。)

(十三) 《元史》译文，手写二开本，共一五九页。(索默尔沃热尔《书目》，卷八，八四二栏。)

[附]罗类思 法兰西人

据薛孔昭《名录》一六八条：罗类思 (Ludovicus Rochette)^① 神甫，法国人，一六八七年至中国。余无考。

①钩案：原缺汉姓名，罗类思是新译名。

一七五 郭天庞 中国人(一说日本人)

一六六八年三月八日生——一六八八年三月十八日
入会——一七〇五年九月八日为在教辅佐人——一
七二四年后歿。

郭天庞 (Jean Pacheco) 神甫字若汗^①，中国人，生于澳门，在澳门入修院。一六九四年晋司铎，在广州及其附近执行职务数年。一七二五年被逐后，徙居暹罗^②。

①薛孔昭《名录》作若翰。

②一九二五年二月刊《宁波简讯》载罗文藻主教一六九〇年八月二十九日(或二十八日)信札云：“第五，郭天庞神甫，汉姓郭，一六六九年生于澳门，其父母日本人也，一六八四年入会，执行职务数年。”

一七六 艾未大 葡萄牙人

一六六〇年四月二十八日生——一六七八年二月十二日入会——一六八八年至华——一六九五年二月二十四日发愿——一七〇四年五月二十三日歿于非洲几内亚湾。

艾未大 (Jacques Vidal) 神甫字雅各，里斯本教区中利奥·莫罗镇之人也。一六八四年首途赴中国。未大居澳门时，有华商数人不时侮辱天主教及其教师，未大诉之于两广总督，出示禁止，不得以恶称加诸葡萄牙人。一六八八年派至福建，传教颇有成绩。一六九〇年至一六九二年，在山西，已而至广东。至是决赴广西省城，重兴卜弥格(第九三传)、瞿安得(第九二传)二神甫建设之教区，并发现一通交趾之陆路。

一六九四年入交趾，会安南禁教之事起。一六九六年未大与张方济(第一八四传)、塞凯拉 (Joan de Sequiera) 二神甫并下狱，方济毙于狱中，后一神甫则在是年八月二十一日被逐出境。(一六九六年鲁瓦耶神甫未刊信札。) 未大亦在是年被逐出境，重莅中国。嗣后在一七〇二年为代表人被派赴罗马。事毕还中国未达，而在一七〇四年五月二十三日歿于几内亚湾。

一六九六年《交趾年报》乃由未大编辑。(索默尔沃热尔《书目》，卷八，六四五栏。)

一七七 马玛诺 中国人

一六八八年入会，在俗辅佐人。

据一旧钞本著录，马玛诺 (Emmanuel Rodrigues) 修士为生于澳门之华人，一六八八年入耶稣会。嗣后知其曾为北京驻所音乐师，余无考。

一七八 陆希言 中国人

459

一六三一年生^①——一六八八年四月二日入会^②——一七〇四年六月十九日歿于上海。

据碑志知陆希言^③修士教名 Dominique Lou，松江华亭人。一六八八年入会，殁葬上海坟园。仅知其一六九九至一七〇一年间为在俗辅佐人及讲说教义人，其余年或亦然也。

①薛孔昭《名录》作一六三〇年。

②墓志作康熙二十八年(一六八九)三月十八日入会。

③墓志作希贤。

其遗著列下：

(一)《圣年主保单》二卷，一七〇一年刻本，有重刻本。

(二)《亿说》一卷。

(三)《周年主日口铎》，一名《周年瞻礼口铎》，亦名《周主日铎音》，二卷，徐家汇藏有钞本（一八二二年）两部。

一七九 王石汗 比利时人

一六五一年三月二十五日生——一六七二年四月二十四日入会——一六八九年十二月九日至华——一六八七年八月十五日发愿——一七二七年八月十七日歿于松江，一说一七二七年十二月二十八日歿于北京。

460 王石汗 (Pierre van Hamme) 神甫字都禄，生于根特城，入马利内 (Malines) 城修院。在哈尔 (Hal) 及布鲁日二城授古典学凡五年。一六八四年赴墨西哥传教塔拉胡马拉斯 (Tarahumaras) 部落中。一六八九年赴马尼拉，是年九月二十四日乘中国商船旋抵广州。

嗣后在一六九一年传教南京。一六九一至一六九五年间传教湖广。一六九七至一六九九年管理武昌府城内教堂七所。一七〇〇年在江苏常熟卫方济 (第一六九传) 神甫谓其每年授洗人数有五六百人。(《传教信札》，卷三，七三页。)① 已而莅北京为会团长。一九〇二年在近畿各处建设新教区二所。

①补注云：根据《传教信札》，一七〇〇年在常熟者，应为李西满(第一四四传)神甫，而非王石汗神甫。

若据石汗致波兰迪斯特尔(Bollandister)派诸神甫信札考之,知其居北京迄于一七一〇年,以后赴外省。一七二〇年或一七二一年重返京师。一七一二年为副区长伴侣。一七一八年在江南受教外人侮辱。一七二五年任中国日本视察员,乃赴镇江,拟由此赴广州,会雍正仇教之事起,迫其隐伏。似在一七二七年八月二十七日歿于松江。唯据巴凯神甫说,石汗一七二七年十二月二十八日歿于北京,缘其为北京会团长也,(索默尔沃热尔《书目》,卷四,六〇栏。)然北京三墓地碑志名录中皆无其名。

其遗著列下:

(一) 一七二一年八月二十八日北京信札,言嘉乐(Mezzabarba)大主教抵北京事,见《威尔特-博特》,一九七页。

(二) 一六九〇年至一七二〇年间在京内外所作信札二十一件,散见于威斯切尔斯的《未公布的神甫书信》中,诸信札几尽为致卡兰伯格(Van Callenberghe)、让南(Conrad Janning)、帕波布罗克(Popebroeck)三神甫者。述讨论中国礼仪时代、中国传教会情形、枢机员铎罗与诸传教师之关系、康熙皇帝待遇欧罗巴人之政策。

(三) 除上列诸信札外,尚有手书信札二十三件,乃一六八五至一七一二年致波兰迪斯特尔会士及他人者,现藏比利时京城布戈涅图书馆写本,编一六六九一号。

(四) 自武昌致马利亚纳群岛传教师布万(Bouwens)神甫信札二件,一作于一六九四年十月二十七日,一作于

一六九五年十一月十一日。别有一七〇〇年十二月十八日致让南神甫信札一件。(藏比利时公学档库。)

(五) 塞吕尔 (C. P. Sorruere) 曾于一八七一年在根特城用弗拉明文撰有墨西哥及中国传教师王石汗传一编, 其取材大致以石汗致海登 (R. G. van der Heyden) 诸信札为本。(索默尔沃热尔《书目》, 卷四, 六〇栏。)

(六) 一六九七年致包曼尼 (Pbilippe Buomanni) 神甫书, 言中国漆事, 见吉尔切尔《中国博物志》, 二三三页以下。

一八〇 郭天爵 葡萄牙人

一六五〇年九月八日生——一六六六年十月二十八日入会——一六九〇年至华——一六八一年八月十五日发愿——一六九四年五月五日歿于北京。

郭天爵 (François Simois) 神甫字良贵, 出生于葡萄牙。一六六八年修业未毕, 登舟赴印度。在印修业毕教授神学七年。一六九〇年派往中国, 居上海、南京数月, 旋赴山东、直隶。传教正定两年, 已而得疾, 被召至北京。一六九四年歿。

一八一 江纳爵 中国人

一六六九年十二月二十日生——一六九〇年九 462

月三日入会——一六九八年后歿。

江纳爵 (Thomas Ignace) 神甫, 江西人。一六六九年十二月二十日生, 一六九〇年九月三日入会。修业毕于一六九九年至一七〇一年间^① 传教上海。

① 钩案: 传首著录其歿年在一六九八年后, 而此云迄一七〇一年传教上海, 两年必有一误。

一八二 金弥格 葡萄牙人

一六五六年生——一六七七年七月二日入会

——一六九一年至华——一六九一年八月十五

日发愿——一七三〇年十二月十四日歿于葡

牙科英布拉。

金弥格 (Michele de Amaral) 神甫出生于葡萄牙之朱拉拉 (Jurara) 城, 得教会法学士学位后, 于一六七七年弃绝世荣, 入耶稣会修院, 时年二十一岁也。越五年, 一六八二年时赴印度, 完成其学业, 在隶属日本教区诸传教会传教数年。一六八五年为区长伴侣, 居澳门三年。一六九一年派往山东济南, 足迹曾至直隶。一六九三

年在福建。次年任代表人而赴欧洲，一六九九年始东还。

留欧时在葡萄牙各大城中执行教务颇有成绩。一七〇〇年既还中国，又被派往广州，其年月未详，似在一七〇二年以后。此时以前，曾任果阿教区视察员，并为日本教区区长二次。一七三〇年十二月十四日歿于葡萄牙之科英布拉城。

其遗著列下：

- 463 (一) 弥格曾翻译皮纳蒙提 (Pinamonti) 神甫之《对一般教友讲的圣依纳爵神操书》，八开本，科英布拉，一七二六年。

(二) 一七一六至一七一七年信札十五件，见普拉特《历史回忆录》卷七，五九页以下。其内容皆涉及中国礼仪问题之争议。

一八三 卢依道 意大利人

一六七一年四月二十四日生——一六八九年九月七日入会——一六九一年至华——一七〇〇年二月四日发愿——歿年未详。

卢依道 (Isidore Lucci) 神甫，意大利人。据一旧钞本其抵华之年应在一六九一年。杜赫德：《中华帝国全志》，卷四，二九八页著录有一卢依道 (Lucci) 神甫，曾在一六九二年随康熙帝之皇九子旅行塞外；又据莱布尼茨

《中国近讯》一三〇页，一六九二年三月十二日康熙帝曾将新至澳门之卢依道神甫召来京师。据孟戴宗《交趾支那和交州教区》三九二页书，依道在一六九四年入交趾。其人既发愿，应已晋司铎。据弗兰格《卢西塔尼亚教省年鉴概要》，依道自里斯本赴印度时在一六九〇年，则名录所载之生年（一六七一）及入会年（一六八九）应有误，似应提前十年也。

一七〇五年依道任交趾传教会道长，据罗耶神甫一七〇六年一未刊信札，言其曾赴中国谒见大主教铎罗报告教务，未久即还澳门。嗣后似曾重莅中国。（《威尔特-博特》，一六〇号）。歿年歿地未详。

一八四 张方济 葡萄牙人

464

一六九一年至华——一六九六年歿于交趾。

张方济（François Nogueira）神甫，葡萄牙人，耶稣会之发愿会士也。据罗马档库旧案载，曾任日本区长。一六九一年曾代方济各（第一三八传）神甫为视察员而莅中国。其后在一六九四年偕艾未大（第一七六传）神甫同赴交趾。会安南仇教之事起，被投于狱，一六九六年歿于狱中。（孟戴宗《交趾支那和交州教区》，三九二页。）时有罗耶神甫之讲说教义人名Denis“Li-thang”者，前曾赴法国及罗马，至是亦随方济至交趾，同被难。（罗耶神甫一六九六年未刊信札。）

一八五 李国正 葡萄牙人

一六六三年三月五日生——一六七八年二月二日入会——一六九一年至华——一六九五年八月十五日发愿——一七一〇年八月十九日歿于澳门。

李国正 (Emmanuel Ozorio) 神甫字玛诺, 葡萄牙 维泽乌教区卡拉皮塔 (Carapita) 城人。一六八五年附舟赴日本, 时尚未晋司铎也。行前得遗产金元 (ecu) 万枚, 以赠拱北 (Lapa) 之圣母堂。(上引弗兰格书), 在澳门修业毕, 于一六九二年随罗历山(第一五二传)主教同赴北京, 曾受皇帝优待。(郭弼恩《中国皇帝敕令史》。)居京数年, 为会团长。后以气候不适, 还澳门。一七一〇年八月十九日歿于澳门^①。

①原文云歿年未详, 兹据范埃神甫所考歿年补志于此。

一八六 何大经 葡萄牙人

一六六二年五月二十九日生——一六七七年五月二十七日入会——一六九一年至华——一六九五年八月十五日发愿——一七二四年后歿。

何大经 (François Pinto) 神甫字方济, 出生于科英

布拉教区之卢萨诺(Loucano)城。年十五入此城修院。一六八一年赴印度,时尚未晋司铎也。在果阿完成其学业,一六九一年与张安当(第一四五传)神甫共派至陕西;已而至福建之延平,又历江西、杭州等地。一六九三年至直隶、山东。一六九六至一六九七年间管理 Chingting (疑指正定)教务。

一六九九年至松江,主管附近小教区二十八所。一七〇一年至河南,同年还至镇江。一七〇二年至崇明。崇明旧有小教区六所,大经至后增为十一。

大经曾为日本区长。一七〇五至一七〇七年间为澳门会团长。一七二〇年为日本教区驻澳门代表人。一七二五年在暹罗。余年事迹无考。

一八七 张方济 葡萄牙人

一六九一年至华——一七二三年后歿。

张方济(François de Silva)神甫字开圣,葡萄牙人。方济与以后诸神甫若干人事迹多无考,吾人只能著录若干年代及名称而已。

一六九〇年方济为澳门道长。一六九二年传教南京与常熟、苏州、松江等地。

张安当(第一四五传)神甫赴澳门行就职礼时,方济随行。一七二四年在江南,雍正帝仇教时(一七二四至一七三六)被逐出境^①。

- ①高龙鞏神甫补注云：张方济 (Francois de Silva) 神甫与本书第二〇六传之林安多 (Antoine de Silva) 主教疑同为一人，盖林安多传亦云一六九二年在南京并随张安当神甫赴澳门也。

一八八 陈方济 中国人

一六九一年入会。

陈方济 (François de Silva) 修士，中国人。仅知其在一六九一年入会，其他事迹无考。

一八九 成方济 意大利人

一六五〇年生——一六七四年十二月十二日入会——一六九二年至华——一六八七年二月二日为在教辅佐人——一七一三年以后歿。

成方济 (François Capacci) 神甫，意大利人。教授文学五年。一六九〇年罗历山(第一五二传)神甫返华，方济随行。一六九五年传教海南岛；一七〇一年徙广东雷州府。一七一四年为澳门修士教习，余无考。

一九〇 克森德 葡萄牙人 467

一六六二年生——一六八一年入会——一六九二年至华。

克森德 (Crescente)① 神甫，葡萄牙人。仅据名录知其在一六六二年生，一六八一年入修院，一六九二年至华，其余事迹未详②。

①钩案：原缺汉姓名，克森德是新译名。

②钩案：本传后附有贝蒙特 (Pierre Belmonte) 神甫小传，惟据补注，此神甫在一七〇〇年毙于安南南圻狱中，足迹未尝至中国，今删。

一九一 鲁伯都 葡萄牙人

一六九四年至华——一七二三年后歿。

鲁伯都 (Pierre d'Acosta) 神甫，葡萄牙人。一六九四年至华，一七二四年仇教事起，被逐出江南，谪居广州。

一九二 鲁类思 意大利人

一六五五年生——一六七六年入会——一六九 468

四年至华——一六九六年歿。

鲁类思 (Louis-Antoine-Luc-Adorno) 神甫，热那亚人，莅华二年歿。上著诸年皆本一六九五年名录。又据别一名录作一六五二年生，一六七三年入会，一六九二年至华。

一九三 樊西元 法兰西人

一六六一年二月十七日生——一六八〇年十月十八日入会——一六九四年至华^①——一六九五年发愿——一七二五年三月十二日歿于广州或澳门。

樊西元 (Jean-Joseph-Simon Bayard) 神甫字若瑟，生于贝阿尔恩。一六八〇年在阿吉泰安 (Aquitaine) 教区入会，已而教授文学七年。一六九二年在里斯本登舟。一六九四年终抵澳门。一六九五年为辅助罗斐理 (第一六八传) 神甫，似曾留广东数月；惟其常驻之所则在湖广，居晃州、湘潭等地最久，管理大堂十二所，小堂四十九所。(《传教信札》卷三，一二八页以下。)

(别一名录著录其入华年为一六九五年，又一名录作一六九二年，时已发誓愿矣。

顾铎泽 (第二五七传) 神甫一七〇九年十月未刊信札云：“一七〇七年被捕，押解七百里而至省城，因其华名含有异义，交省六吏审判。历经各官审讯二月有余。”

南怀仁 (第三五二传) 主教曾云：“此著名传教师，中国官民钦其德行学识，颇为信任，因利用以发展教务。”(《威尔特

博特》。)西元虽有此信用,然不免于一七二四年之驱逐。469
次年殁于澳门,一说殁于广州。

其遗著有信札数件,就中有一七二三年致苏熙业神甫信札一件,据中国经书考中国古俗,并论及白晋(第一七一传)、马诺瑟(第二三五传)诸神甫著作。

一九四 法安多 意大利人

一六六三年十一月三日生——一六八三年一月
七日入会——一六九四年七月十一日至华——
一七〇六年十二月十五日歿于嘉定。

法安多(Antoine Faglia)神甫字圣学,布雷夏城人。
一六九四年抵中国,偕闵明我(第一三五传)神甫共至京
师,旋与罗历山(第一五二传)神甫共得许可,传教外省。
于是传教广州(一六九五)、浙江、正定、直隶(一六九八)、
山东(一七〇〇)之济南、东昌等处^①。一七〇二年复还
浙江,其致方记金(第二五三传)神甫书,谓其在五个月
间为五百人授洗。(《威尔特-博特》,六七号。)一七〇六
年歿于江苏之嘉定,葬杭州耶稣会墓地。〔田美思(Dela-
place)主教致本书著者之未刊信札。〕

〔据一九二五年十二月刊《宁波简讯》一四七页云:法
安多神甫驻在山东 Nancheu,此地疑指安邱。〕

一九五 骆保禄 意大利人

一六四七年十二月二日生——一六七四年十月十五日入会——一六九四年十二月十九日至华——一七〇〇年十一月二十一日发愿——一七三二年八月二十三日歿于澳门。

- 470 骆保禄(Jean-Paul Gozani) 神甫出生于皮埃蒙特国之卡萨尔(Casal)城。入米兰教区修院,授修辞学与古典学凡五年。一六九四年抵中国,一六九八年在开封。一六九九至一七〇二年间在福建之福州、兴化等地。其地教民性情暴烈,常使之窘苦,尤以对于严嘉乐主教不敬事,使之难堪,故于一七〇〇年致耶稣会长信札中自为辩白。

一七〇四年重莅河南,曾与此城犹太教徒共往还,而博其信任。据保禄云:“犹太教徒确实崇拜救世主,而名之曰天,曰上帝,曰上天。其士人崇敬孔子与教外之中国士人同。其供奉死者于祠堂或祖堂之礼节,亦与华人无异。其碑刻中列举其教法,而名之曰一赐乐业法,述其起源,列举诸大教长亚伯拉罕、以扫、约伯及十二部落名,并及其律法、其摩西与旧约中之五经。”最初阐明中国犹太教徒之状况者,要以保禄为第一人。(《传教信札》,卷三,一四九页以下。格鲁贤《中华帝国概述》。)

犹太教之初入中国,远在汉代(公元前二〇六至公元

二六〇年)。其初有数家,后(一八四三年)仅存七家而已。关于此项问题者,可参考费恩(James Finn)所撰之《中国犹太人之教堂、圣经及历史……》(八开本,伦敦,一八四三年)。自此时代以后,最后之犹太教徒业已死亡殆尽。数年前仅余嫁于本地某旗人之女子一人。所有犹太教堂,以及犹太经典,皆因黄河水灾,荡然无存。〔以上皆一八八〇年河南传教师斯卡雷拉(Scarella)补志〕近年来托巴尔(Jenome Tobar)在其《开封府犹太教碑文》一书中重研究中国犹太教之一切问题。见《汉学杂集》一七号,土山湾刻本,一九一二年,第二版。

一七一〇年顷被任为中国日本视察员,已而为北京会团长。一七一六年时保禄尚在京师。旋还河南,常居开封。今日河南教务发达之鹿邑县教区,盖经保禄创立;相传彰德教区亦由保禄开辟。

一七二四年谪居广州,然尚得隐居赣州若干时,最后 471 被迫而走澳门。一七三二年歿于澳门,年八十五岁。

其遗著列下:

(一) 一七〇〇年十一月三十日自福州致耶稣会会长信札,言此城教民不敬严嘉乐主教事。此信札载入《对巴黎外方传教会会士新著述的答复》十二开本,三七页以下,一七〇二年。

(二) 一七〇四年十一月五日自开封致北京苏霖(第一六一传)神甫信札,言开封中国犹太教徒事。(《传教信札》,卷三,一四九页以下。)

一九六 罗玛诺 葡萄牙人

疑在一六五六年生——疑在一六九四年至华——一七四一年歿，歿地似在澳门。

罗玛诺^① (Emmanuel Lopes) 神甫，葡萄牙人。应在一六九四年入中国。吾人所知此神甫之事迹，盖本于费隐(第二七四传)神甫之一信札，(《威尔特-博特》，六七四号。)据云罗玛诺神甫传教上海及附近各地，坚决有恒，济以温和，教徒辈咸称之曰铁神甫，而与潘国光(第七九传)神甫并称。在传教所四十七年，劝化入教者逾四万人。

①钩案：原缺汉姓名，罗玛诺是新译名。

一七四一年歿，年八十五岁，则其诞生年应在一六五六年，歿地似在谪居之澳门^①。

①高龙鞏神甫补注云：此 Emmanuel Lopes(罗玛诺)神甫疑即本书第一五九传之 Emmanuel Mendes (孟由义)神甫，盖费隐神甫所志罗玛诺之事实皆与孟由义神甫之事实相符也。此神甫名除见于费隐神甫之信札外，未见他书著录。脱有一著名传教师之存在，不应如是沉寂。当时诸神甫习用葡萄牙人例，互称名而不及姓。费隐仅一经过江南，殆误以孟由义为罗玛诺欤？

一九七 麦雅谷 德意志人 472

一六九四年至华。

麦雅谷(Jacques Moers)神甫,德意志人。据一旧名录,知其在—一六九一年至华。然弗兰格神甫书谓其为纪理安(第一九八传)神甫之同伴,则首途于—一六九一年,抵华时在—一六九四年矣。此外事迹无考。殆抵华未久即歿。

①钩案:原缺汉姓名,麦雅谷是新译名。

一九八 纪理安 德意志人

一六五五年九月十四日生——一六七三年七月十七日入会——一六九四年七月十五日至华——一六八九年二月二日发愿——一七二〇年七月二十四日歿于北京。

纪理安(Bernard-Kilian Stumpf)神甫字云凤,生于巴伐利亚国之维尔坎堡城。一六七三年入上德意志教区修院,得文艺学士学位。授修辞学、古典学六年,授数学二年,始赴中国。弗兰格神甫云:“当此扰乱时代,此神甫盖为此时代中之柱石。”抵华后居北京时最久。康熙皇帝颇器其才能,每次巡幸辄命之扈从,授钦天监监正

职。一七〇五至一七二〇年间兼为中国日本视察员。

王石汗(第一七九传)神甫记有云: 当此礼仪问题沸腾时代, “教堂废弃者甚多。中有数堂且受教外人抄掠, 473 皈依者日寡, 背教者日多。而且到处散布谣言, 诸传教师多受诬枉。理安因此逐日记所闻见, 凡京内外之事, 皆备录焉”。此日记录有副本, 寄送于波兰迪斯特尔会诸神甫, 现尚为此会图书馆所保存。(威斯切尔斯《未公布的神甫书信》, 六二页。)时有传教师二十五人新抵广州, 请入内地, 理安曾为力请, 康熙皇帝拒绝不允。

有瑞典人名朗热 (Laurent Lange) 者, 理安曾与缔交。一七一六年其人随商队西还, 曾撰有行记。据云当时有造瓷炉之举, 曾命理安作木型, 发往制造瓷器之地按型制造。(加恩《彼得大帝时代俄中关系史》, 一〇八页。)

当时有俄国道院长名雅科夫斯基 (Jakowstki) 者, 与理安善, 其人奉俄国政府命来北京建立教堂, 曾告纪理安, 其出生非俄国人, 旧为罗马公教教徒, 来京已七年, 携有银万两, 以供建筑教堂之用。(上引威斯切尔斯书, 一三五页。)

同年教皇克莱芒十一世之一七一五年三月二十日教令与耶稣会会长坦布利尼之信札颁至北京, 命诸会士遵照教令宣誓, 否则处以重罚。理安为视察员, 首先以身作则, 遵令宣誓, 京内外会士, 悉皆从之宣誓。(上引威斯切尔斯书, 一四四、一六〇页。)

次年 (一七一七) 广东碣石总兵陈昂奏请禁绝天主教, 幸经理安居中转圜得免。(一七一七年六月五日冯秉

正神甫信札。《传教信札》，卷十，二九〇——三〇四页，一八一九年。上引威斯切尔斯书，一六二页。）

理安一七二〇年七月二十四日歿于京师，人皆惜之。
（《威尔特-博特》，二一七号，六五页。）

其遗著列下：

474

（一）关于一七〇〇年十一月三十日康熙皇帝御批事，呈大主教铎罗文。见《中国轶事》，卷二，三五页以下。

（二）理安因任视察员，曾署名于奏疏数件，并因一七一七年陈昂奏禁天主教事与苏霖（第一六一传）、巴多明（第二三三传）二神甫同上辩护疏。此疏法文译文见上引冯秉正（第二六九传）神甫未刊信札。

（三）一七〇〇年自北京致耶稣会会长信札，其节录文见〔塔巴劳德（Tabaraud）《罗马教皇与耶稣会士》（巴黎，一八一四年）一〇六页以下。

（四）《文献选集》，一七七七年。现藏维也纳帝国图书馆，编一一一七号。（《中国杂集》，第二辑，二〇四——六〇三页。）

（五）《北京文书……》，十八世纪初年写本，中国纸，藏耶稣会档案。前一千二百八十九页皆著明页数，其后乃一七一一年九月以后日记，未编页数。此重要记载乃经理安主持编辑，一二八九页后有视察员骆保禄（第一九五传）神甫署名，题一七一〇年十一月十二日。（考狄《书目》，九一六页。）

（六）《北京文书概要……》，藏罗马科尔西尼与巴尔贝里尼二图书馆。（索默尔沃热尔《书目》，卷七，一六五

七栏。)

(七) 一七一四年及一七一八年未刊信札,藏研究图书馆。

(八) 对一七〇八年四月二十七日康熙皇帝上谕之说明,藏研究图书馆。

参考索默尔沃热尔《书目》,卷七,一六五六栏以下;卷九,八六六栏。

475

一九九 沈弥格 中国人

一六九四年还中国。

沈弥格^① (Michel Alfonso) 神甫, 中国人。曾随 柏应理(第一一四传) 神甫至欧洲, 入里斯本修院。似曾就学于罗马。一六九四年随纪理安(第一九八传) 神甫还中国^②。

① 华案: 原录其人姓沈, 佚其名。据《方豪文录》(第一七八页, 上智编译馆, 民国三十七年), 其名沈福宗。

② 范埃神甫补注云: 据万惟一(第二〇三传) 神甫致其兄约翰云, 中国人沈福宗, 毕业后, 晋司铎, 随柏应理(第一一四传) 神甫还中国, 而歿于中途。

二〇〇 法方济 意大利人

一六九四年至华。

法方济神甫原名 François valla，别一写本又作 Aya。意大利人。一六九四年至中国。本书第一九四传之法安多神甫虽与此神甫同一汉姓，然非一人。

二〇一 费约理 意大利人 475

一六九四年七月十一日至华。

费约理^① (Christophe Fiori) 修士，意大利籍画师也。一六九四年至中国，居北京数年。一七〇五年十月十六日被革出会，其故未详。

①钩案：原录其人姓费，佚其名，约理乃新译名。

二〇二 鲍仲义 意大利人 476

一六五七年十月二十日生——一六八〇年八月十五日入会——一六九四年七月十一日至华——一六九一年二月二日为在俗辅佐人——一七一八年十二月二十四日歿于北京。

鲍仲义(Joseph Baudino)^①修士字质庵,出生于皮埃蒙特之科尼城,在米兰入会。一六九二年首途赴中国。终其身供职北京。为医师、药师及植物学者,皇帝出巡,数扈从。洪若翰(第一七〇传)神甫记有云:“樊继训(第二五一传)、鲍仲义、罗德先(第二四五传)三修士精于治创伤,而善于合药,帝不论昼夜,辄遣之往治宫中官吏及都中要人疾;颇善其能,出巡塞外或其他诸省时,辄命其一人扈从。”(《传教信札》。)仲义终身尽此职,尤喜为穷苦之人疗治。一七一八年十二月二十四日歿于北京。

①薛孔昭《名录》作姓包。

二〇三 万惟一 比利时人

一六五九年十二月二十二日生——一六七七年十月一日入会——一六九五年^①至华——一七〇二年发愿——一七〇二年二月二日歿于淮安。

- 477 万惟一(Guillaume Van der Beken)神甫,出生于布鲁塞尔。在弗朗德尔—比利时教区入会。修业后教授文学五年,神学一年。一六九四年抵澳门,留澳一年。次年派至江西为聂仲迁(第一〇四传)神甫助理。一六九七年在五个月中经其授洗者五百余人。(《传教信札》,一八一九年,卷 IX,三六四页。《威特尔-博特》,八三号,一七页。)已而派至淮安府,越数年歿;墓志称歿于一七〇三年;罗

马保藏之一死者名录作一七〇二年二月二日。临终时王石汗(第一七九传)神甫在侧,接受其誓愿。葬府城外五里之坟园。

①薛孔昭《名录》谓在是年十月四日,高龙肇书作十二月三日。

二〇四 郭若望 葡萄牙人

一六五八年六月二十三日生——一六八一年十一月十二日入会——一六九五年十二月三日至华——一六九二年二月二日为在教辅佐人——一七〇〇年后歿。

郭若望(Jean Baptista)① 神甫,科英布拉城教区人,入此城修院。已而授拉丁语文三年,一六九四年首途,次年抵中国。一六九九年管理南京②、镇江、丹阳等教区。一七〇一年在上海。此外事迹未详。

①有一旧抄本写其名作 Bantito。薛孔昭《名录》一九六及一九八号作 Baptista Prantila(郭)。

②薛孔昭神甫抄录罗马耶稣会所藏档案,知是年林安多(第二〇六传)神甫为南京会团长,因事他适,而由若望代其职。

二〇五 艾逊爵 意大利人

一六六二年十月二十三日生——一六七八年二月十

五日入会——一六九五年十月四日至华——一七〇二年五月二十五日发愿——一七二〇年二月七日歿于好望角附近海中。

- 478 艾逊爵(Joseph-Antoine Provana)神甫字若瑟,出生于尼萨,普莱蒙特之民族裔也。一六七八年在米兰入会。一六九三年在里斯本登舟,然因风涛险恶折回,次年始成行。一六九五年抵澳门。(弗兰格《卢西塔尼亚教省年鉴概要》,三九〇、四六一、四六七页。)一六九六至一六九七年间在江西^①为千人授洗。一六九九至一七〇一年间,会中以河南、陕西、山西^②三省教务委之。逊爵抵开封,见恩理格(第一二六传)神甫所建之教堂已被某官封闭。逊爵不畏官威,将教堂开辟。不久得受洗者三百人;在距城五十里之某地劝化三百人入教,又于其地附近劝化二十家入教。其地无教堂,逊爵乃自为工师,合诸教士力,于数月间建成教堂一所。〔博埃罗(Boero)《耶稣会圣徒传》,三九〇,四六一页。〕

①案此条所本者乃卫方济(第一六九传)神甫之一记录,原文云:“艾逊爵神甫居 Kiam-Si省之 Kiam-tcheou, 一六九六及一六九七年间为一千人授洗。(《传教信札》,一八一九年,卷九,三六四页,一八一九年。《威尔特-博特》,八二号,一七页。)此二译名,前一名可对江西,后一名应对江州,然清代无江州,疑所指者为绛州,而江西为山西之讹;否则为传写讹误。

②据冈明我(第一三五传)神甫之一信札,一七〇二至

一七〇三年间，逊爵在山西。（《威尔特-博特》，八七号，三〇页。）

已而自开封赴太原，修复金弥格（第七〇传）神甫之教堂。鼓励仇教以来散处各地的教民之信心。逾山涉水，不畏风寒、盗贼，往来各地，振兴教务。

当时山西教区所在，有太原、静乐、平遥、介休、万安、479 洪洞、襄陵、太平、蒲州、潞安、岚州、汾州、襄垣^①等处；共有驻所五，大堂十六，小堂甚众。（一六九九年名录。）

①钩案：原考地名微有讹误，误静乐为靖乐，误介休为吉州，万安无考，岚州作岚县，与原文 Lau-cheu 对音未合，而此岚州得为哥岚州之略，不能必其为岚县也。

一七〇二年被召赴京，留居京师凡五年，得皇帝之信任。一七〇八年帝命之为专使，往使罗马教廷。一七〇九年抵罗马，已而得疾，留居意大利甚久。疾未愈，欲回华复命，会友阻之，不听。行至好望角附近歿于舟中，时在一七二〇年二月七日。同行之樊守义（第三一〇传）神甫为之成殓，实以香料，运回广州。一七二二年十二月十七日康熙帝遣大臣为之营墓，并置田亩，以资修扫之费。其墓今尚存也。（《中国宗教状况轶事》，卷四，一、一四页。）上引弗兰格书，四六一页。贡札勒斯·圣皮埃尔：《中国新教难简述》，四七页。《北京及其他城内墓志铭集》。威斯切尔斯《未公布的神甫书信》一八三页。《圣教会刊》，卷五，七二页。《威尔特-博特》，二一七号，六五页。

其遗著列下:

(一) 逊爵在罗马时,就礼仪之争问题上教皇书不下五次;赞成枢机员铎罗之说者,亦上书以驳之。(索默尔沃热尔《书目》,卷五,四五五栏。)

(二)《以耶稣会诸神甫名义上教宗克莱芒十一世申请书》,一七〇九年。藏维也纳图书馆,编一一一七号。

(三) 一六九五年果阿信札,见郭弼恩论述中国宗教之发展的信。

(四) 记录数编,见罗韦尔(Mamiani delle Rovere)神甫诸著述中。(索默尔沃热尔《书目》,卷五,四五六栏;卷六,一二四七栏。)

二〇六 林安多 葡萄牙人

一六五四年一月十三日生^①——一六六九年三月十九日入会——一六九五年至华^②——一六八七年八月十五日发愿——一七二四年后歿。

林安多(Antoine de Silva(Sylva))主教出生于里斯本。得文艺学士学位。教授古典学、修辞学六年,哲学三年。抵华后传教江南数年,一六九九年为南京会团长^③。

①索默尔沃热尔《书目》,卷九,八五三栏作六月十三日。

②同书作一六九六年五月四日。

③参看第二〇四郭若望传注②。

一七〇七年大主教铎罗选之为南京主教，似已接受敕书，举行就职礼，然未久奉果阿大主教命而辞职，（加亚尔《南京史地概貌》，二四七、二七三页。）似仍留居江南。一七二五年藏伏南京城中，秘密执行教务①。

①参看第一八七张方济传注①。

其遗著列下：

（一）一七〇七年曾在杭州用汉文刻有一小册子，标题似为《上谕节解》。刘应（第一七四传）神甫曾将此书转为拉丁文，而法文译文见前引圣皮埃书，一六一页。此书似为神甫数人合编，而林安多主其事也。

（二）土山湾印书馆书目（四二二号）著录有《崇修精蕴》，亦出林安多手，乃在一七三〇年顷根据卡塔内奥（C. A. Cattaneo）神甫（1645—1705）之一意大利文撰述翻译者也。原为写本，至一八九三年始付印，前有龚古愚神甫序。

[附]冯斯嘉 中国人

一六七六年生——一六九五年入会。

481

冯斯嘉①（Cajetan de Fonseca）神甫生于广东，一七〇一年晋司铎，其余事迹无考②。

①钩案：此人原姓名未详，冯斯嘉乃新译名。

②见一九二五年二月刊《宁波简讯》载罗文藻主教信札。

引威特-埃姆 (Bibl. Vitt-Emm.) 藏拉丁文旧抄本 Fondo Gesuiti, 1254—3383。

二〇七 金澄 葡萄牙人

一六六二年生——一六八一年十一月三日入会——
一六九六年至华——一六九九年八月十五日为在教
辅佐人——一七二三年后歿。

金澄 (Emmanuel Camaya) 神甫字玛诺, 葡萄牙人。一六九六年至中国。一七〇一年传教广西柳州, 留居柳州数年。一七〇七年五月二十八日耶稣会士在南京反对铎罗大主教教令之诉愿书, 澄曾列名。(上引圣皮埃尔书, 一六〇页。)

一七二三至一七二五年间传教桂林, 雍正仇教事起, 被迫而走广州。《威尔特-博特》三一六号。《传教区记实》摘录。

二〇八 杨安德 葡萄牙人

一六九六年至华。

杨安德 (André, Carneiro) 神甫, 吾人仅知其为葡萄牙人, 一六九四年首途, 一六九六年至华, 其余事迹无考。

二〇九 闵玛弟 葡萄牙人 482

一六九六年至华。

闵玛弟 (Mathias Correa) 神甫葡萄牙人。一六九〇年赴澳门完成其学业。一六九六年传教中国。

二一〇 曾类斯 葡萄牙人

一六六五年八月二十五日生——一六八〇年十月十八日入会——一六九六年至华——一七〇一年七月三十一日发愿——一七〇八年歿于果阿。

曾类斯 (Lous de França) 神甫出生于里斯本，贵族家子也。修业毕授文学四年，已而附舟东迈。一六九六年抵澳门。在澳任中国副教区会计员。一七〇六年枢机员铎罗被囚，澳门纷扰时，类斯走印度。一七〇八年歿于果阿。

二一一 罗安当 葡萄牙人

一六六九年生——一六八四年十二月二十五日

入会——一六九六年至华。

罗安当^① (Antoine Lopes) 神甫，一六六九年出生于科英布拉。一六八四年十二月二十五日入会。一六九五年在里斯本登舟。一六九七年在澳门完成其神学，其余事迹未详。

①钩案：原缺汉姓名，罗安当是新译名。

483

二一二 李若望 葡萄牙人

一六六三年五月二十四日生——一六八〇年三月二十四日入会——一六九六年至华——一六九九年二月二日发愿——一七三一年后歿。

李若望 (Jean Pereira) 神甫葡萄牙人。在本国授文法、文学六年，在澳门授神学三年。已而传教广东并任日本教区区长。

何时重莅中国未详。一七二五年被逐，退居暹罗。一七三二年吾人又见其在澳门为修士教习，兼任学监。

二一三 高嘉乐 葡萄牙人

一六六四年十一月四日生——一六八〇年二月十八日入会——一六九六年十一月十三日至华——一六九九年三月十五日发愿——一七四六

年二月五日歿于北京。

高嘉乐^① (Charles de Rezende) 神甫字怀义，里斯本人。得文艺学士学位，授古典学二年，修辞学三年，一六九六年至中国。居中国五十年，计在正定府二十八年，在北京二十二年，曾为北京两堂堂长，一七二四年为副区长。其传教正定（一七二五年在正定。见《威尔特-博特》，四一一号）、保定饶有成绩，教内外咸识其人。所管教堂十六所，散布于一广大区域之内。

①其名亦作 de Rosende。（见《威尔特-博特》，六八八号）

雍正年仇教之事发生，被召赴北京，治理历算，而其传教事务，由一中国神甫任之。嘉乐至京师，仅居治理历数之名，仍在京师及近畿传教如故。年逾八十，热忱未减。一七四六年二月五日歿于京师。 484

二一四 杨若翰 葡萄牙人

一六七二年生——一六八八年三月入会——一六九六年六月十九日至华——一七三一年一月十一日歿于澳门。

杨若翰 (Jean de Saa) 神甫，出生于葡萄牙之萨布贾特城。一六九六年至华。一六九九至一七〇一年间传教福建之福州、兴化等地。一七〇二至一七二五年间传教江南，驻苏州。雍正年仇教事起，谪广州，继走澳门。一七二七年为中国副教区区长，越四年歿于澳门。

二一五 瞿良道 葡萄牙人

一六九六年至中国。

瞿良道 (Léonard Teixeira) 神甫, 葡萄牙人。一六九〇年首途东迈, 抵澳门后完成其学业。一六九六年入内地, 其余事迹无考。

485

二一六 戈德望 葡萄牙人

一六七四年生——一六九二年一月二十七日入会。

戈德望^① (Etienne Collasco) 修士, 一六七四出生于科英布拉。一六九二年一月二十七日入修院。一六九七年在澳门研究哲学, 其余事迹无考。

①钩案: 原缺汉姓名, 戈德望是新译名。

二一七 罗玛弟 葡萄牙人

一六七五年生——一六九四年一月三十日入会。

罗玛弟^① (Mathias Rodrigues) 修士, 一六七五年生于稀

英布拉。一六九四年一月三十日入修院。自里斯本出发时，修业未毕。一六九七年在澳门继续修业。此修士与前一修士皆预备派往中国者也。

①钩案：原缺汉姓名，罗马弟是新译名。

二一八 龙安国 葡萄牙人

一六六四年十月二十一日生——一六八一年六月十二日入会——一六九七年十月至华——一七〇一年十二月三日发愿——一七〇八年一月二十日歿于海中。

龙安国 (Antoine de Barros) 神甫字安当，出生于葡萄牙之阿尔科斯·瓦尔德沃斯 (Arcos de Valdeves) 城。全部修业毕，授古典学、修辞学四年，然后附舟赴中国。比至即奉诏入京。一七〇七年派至西安。居西安未久返京师，得康熙帝眷。一七〇六年命其偕薄贤士（第二四一传）神甫同奉使赴罗马。二人在澳门登舟；抵巴西，二人分途行，安国附一商舶赴葡萄牙。

行至葡萄牙沿岸，半夜风涛大起，安国手执十字架鼓 486 励乘客水手等咸以灵魂付托天主，然后为诸人作最后之赦罪。船忽破裂，除水手数人攀桅得免外，余尽沉没。沉没之所即在阿尔科斯·瓦尔德沃斯城附近，时在一七〇八年一月二十日也。（弗兰格《卢西塔尼亚教省年鉴概要》，四三一页。）

二一九 毕登庸 葡萄牙人

一六六六年生——一六八一年十一月二日入会
——一六九七年十月至华——一七四七年后
歿，殁地似在江南。

毕登庸 (Antoine de Costa) 神甫字安多，出生于里斯本。授文学、修辞学四年，然后在一六九五年东迈。(上引弗兰格书，附录)抵华后始而传教上海。一六九八年传教苏州。一六九九年传教常熟。一七〇〇年因疾回澳门修养。嗣后复入内地。一七二〇年大主教嘉乐赴京，登庸迎之于赣州。

一七四八年黄安多(第三二二传)、谈方济(第三七五传)二神甫在江南受难时，有一汉名毕登庸神甫者曾临视，不识是否同为一人。如为同一人，则在当时年达八十二年矣。

二二〇 庞嘉宾 德意志人

一六六五年生——一六八一年九月十八日入会
——一六九七年至华——一七〇九年十一月九
日歿于北京。

487 庞嘉宾 [Gaspard Kastner (Ou Castner)] 神甫字

慕斋，一六六五年出生于慕尼黑城。一六八一年在德意志教区入会。一六九四年修业毕，在英果耳施塔特辩论其神学论文，次年被任为雷根斯堡城之哲学教授。其数学学识与史学及神学学识并为丰赡，颇适于传教中国。于一六九六年自里斯本登舟，次年抵澳门。（上引弗兰格书，附录。）

首先传教广东，主持佛山教务。沙守信（第二五四传）神甫在一七〇一年游其地，记有云：“佛山教堂甚美丽，其式样与大小大致与巴黎吾人修院之教堂相似；其地教民甚多，在我行后数日间，主持教务之庞嘉宾神甫曾为三百人授洗。”（《传教信札》，卷三，五三页。）此教堂乃由都加禄（第一五五传）神甫建立。

嘉宾驻佛山时，曾（一七〇〇年三月十九日至六月二日）在上川岛圣方济各病歿处主持修建礼拜堂事务。已而徙驻新会。一七〇二年为代表人，偕卫方济（第一六九传）神甫同赴罗马，一七〇七年还中国。（威斯切尔斯《未公布的神甫书信》，七三页。）嘉宾在里斯本时，力主赴华航道应直航帝汶岛，不必取道马六甲峡与新加坡，盖此道较捷也。此后航行者果从其说，由是自里斯本赴澳门当年可达，较之维舟果阿须次年始达者迅捷多矣。（弗兰格《卢西塔尼亚教区年鉴概要》，四二四页。）

一七〇七年七月二十二日重抵中国，朝廷知其精于历算，召至京师，授钦天监监正（上引威斯切尔斯书）。一七〇九年十一月九日歿于京师。

其遗著列下：

（一）《上川岛建堂记》，一七〇〇年拉丁文刻本，疑刻于广

州,附礼拜堂图一。德文译文见《威尔特-博特》,三〇九号。附礼拜堂图与上川岛图。(考狄《中国的中-欧印刷术》,一二页。)

(二)《天文观察》,拉丁文本。

(三)一七〇七年九月七日自广州致德意志教区助理员韦布尔(André Wail)信札,写本,现藏维也纳图书馆,编一一一七号,节本见《缪尔日志》,卷六,一六五页以下。

(四)一七〇三年三月二十七日上教皇克莱芒十一世书,解释华语天与上帝等名称事,卫方济(第一六九传)神甫同署名。

(五)一七〇四年八月二十七日上同一教皇书。

(六)一七〇四年九月上同一教皇书。

(七)《中国礼仪之争始末》,拉丁文十二开本,六四页,一七〇五年,慕尼黑城藏有拉丁文写本。

二二一 利国安 意大利人

一六六六年四月二十八日生——一六八二年十一月二十一日入会——一六九七年至华^①——一七〇一年二月二日发愿——一七二七年二月十九日歿于澳门。

利国安(Jean Laureati)神甫字若望,出生于马切拉塔城。入罗马圣安德修院,并在罗马作部分之修业,后

在果阿完成其学业，精于文学。一六九〇年自里斯本登舟赴中国时，尚未晋司铎。一六九七年被派至陕西，热心推广教务，十个月间受洗者九百余人。一七〇〇年赴广东，主持佛山教务，并参加上川岛建堂事业。

①布鲁克尔名录作一六九三年。

已而赴菲律宾，偕枢机员铎罗重来中国，一七〇四 489 年，一七〇八年，一七一四年，一七一六年管理福建教务，常驻福州，有时驻厦门。国安颇得中国官吏心；常藉为他人谋便利，就中有法国船长数人，颇得其力。船长让蒂尔(*de la Barbinais La Gentil*)在其行记中颇称扬其德。有多明我会士二人从广州入福建内地，行至厦门被逮，亦赖国安力获释放，继续其行程。(弗兰多：《菲律宾群岛、日本和中国多明我会传教史》，卷四，一七七页。)

一七一八年被召至北京，越二年，被任为中国日本视察员。教皇使臣大主教嘉乐抵华，国安赴广州，在此大主教前宣誓，愿遵守教皇一切训令，并为使节谋种种便利。因此得罪康熙帝，加锁链而投于狱。(普雷《中国礼仪之争史》，二八八页。)但尚得使朝廷礼接教皇专使也。

专使行后，国安赴南昌，一七二二至一七二五年间尚在江西。雍正仇教事起，滴居广州，已而退居澳门。一七二七年二月十九日歿于澳门。

其遗著列下：

(一)《炼灵通功经》一卷，一七二二年后刻本；一九二五年土山湾重刻本。是编系与龚尚实(第一六五传)神甫合编，经德玛诺(第二七七传)神甫核准刊行。

(二) 一七〇四年七月二十六日信札, 作于福建, (《传教信札》, 卷 III, 二二五页以下。) 述中国植物树木, 尤特言茶、金属矿、丝、瓷、稀见动物、金鱼, 末述厦门大塔及僧人状况。

(三) 若干关于礼仪之争问题之信札, 见《中国宗教状况轶事》, 卷四; 让蒂尔在其行记第二册二七三页以后, 载有信札一件。

490 (四) 国安誓词及若干信札, 见普拉特: 《历史回忆录》, 卷六, 五七五页以下, 六〇三页以下。

(五) 未刊信札二件, 一为一七二一年三月三十日自北京上教皇书; 一为一七二二年十月十五日自南昌致卫方济(第一六九传)神甫书, 藏维也纳帝国图书馆, 编一一一七号。

二二二 瞿良士 葡萄牙人

一六六七十年十月十日生——一六八三年二月四日入会——一六九七年十月至华——一七〇一年二月二十日发愿——一七二四年后歿。

瞿良士 (Emmanuel de Mata) 神甫字友恭, 出生于里斯本。毕业后于一六九四年赴中国。(上引弗兰格书, 附录。) 一六九七年在澳门。一六九八至一六九九年在上海。一七〇〇至一七〇一年在常熟, 管理教堂十五所。(《宁波简讯》, 一九二五年十二月, 一四六页。) 后派至南

京,至一七〇七年因礼仪问题被迁谪。后似重返江南,迄于一七二四年仇教之时。一七二五年赴暹罗,其后踪迹不明。(《威尔特-博特》,卷三,十九分册,一七二五年书目。《传教区记实》摘录。)

二二三 陆玛诺 葡萄牙人

一六七三年生——一六九三年十一月二日入会
——一六九七年至华——一七二四年后歿。

陆玛诺 (Emmanuel Ribeiro) 神甫字有心,出生于埃武腊。修院修业后,赴澳门完成其学业。始而传教海南岛。一七一六年传教广东,曾专管佛山教区。仇教时,適居雷州,被迫离境,其后踪迹未详。(《威尔特-博特》,卷三,十九册,一七二五年书目。)

二二四 何多敏 意大利人

495

一六六一年生——一六九一年入会——一六九
七年至华——一七〇四年十二月八日为在俗辅
佐人——一七一三年五月二日歿于北京。

何多敏 (Jean-Dominique Paramino) ① 修士,出生于热那亚。入会前曾研究医学。自抵华后迄于歿年(一七一三年),始终在北京执行医术。康熙帝屡次行幸京

外,常命扈从。有一名录谓其在一七〇四年莅华,然一六九九年名录则谓其已在北京。又据弗兰格神甫说,则谓其偕庞嘉宾(第二二〇传)神甫同至中国,今从其说。而信其莅华年于一六九七年。

- ①薛孔昭《名录》作 Paramini,一九二五年十二月刊《宁波简讯》则作“Dominique Parramino,外科医师,耶稣会士。”

二二五 贾嘉禄 意大利人

一六六一年六月六日生——一六七七年五月十七日入会——一六九八年十月三日①至华——一六九七年二月二日发愿——一七二三年二月二日歿于澳门。

贾嘉禄(Charles Amiani)神甫出生于罗马列邦中之法诺城。曾入圣安德修院。教授拉丁文学四年,然后在一六九〇年首途赴中国,时尚未晋司铎也。(上引弗兰格书,附录。)修业完毕,派往福建(一六九八——一六九九),旋徙江西,传教赣州、Ting-tcheou②、信丰等地二年。为人谨慎、温厚,得各地官吏心,藉以发达教务。492 一七〇七年返澳门,其后事迹未详,仅知其在一七二三年二月二日歿于澳门。(《传教区记实》摘录。)

- ①薛孔昭《名录》作二十三日。

- ②考其对音殆指汀州,惟汀州在福建,然则为定南之误

欽，盖定南为赣州之属县也。

二二六 艾斯玳 意大利人

一六五六年八月九日生——一六七三年十月二十二日入会——一六九八年至华——一六九一年发愿——一七一一年一月二十九日歿于杭州。

艾斯玳(Augustin Barelli)神甫出生于尼萨城。在米兰入会，得文艺学士学位，教授哲学二年。一六九〇年罗历山(第一五二传)神甫返华，斯玳随行。(上引弗兰格书，附录。)

嗣后不知因何故离开传教会。但在一七〇三年又见其管理杭州及其附近诸堂。一七一一年歿葬杭州。

二二七 李若瑟 葡萄牙人

一六七四年十一月二十七日生——一六九三年三月二日入会——一六九八年四月十七日至华——一七三一年五月十九日歿于澳门。

李若瑟(Joseph Pereira)神甫，里斯本人。修院修业毕，附舟东迈。毕业后派至福建，一六九九至一七〇一年间传教延平、浦城。一七〇七年传教江苏镇江。同年因礼仪问题谪居澳门。一七二〇至一七二二间随大主教嘉乐为译人，自澳门赴京师并随之南还。(普雷《中国礼仪之争史》，二三七

页。)一七二四年在上海。雍正仇教事起，一七二五年赴广东，已而赴澳门。一七三一年五月十九日歿于澳门。(《传教信札》，卷III，三六五页。《传教区记实》摘录。)

493

二二八 卜纳爵 法兰西人

一六六三年九月四日生^①——一六八一年四月五日入会——一六九八年十一月四日至华——一六九八年八月十五日发愿——一七二七年六月十四日歿于广州。

卜纳爵 (Ignace-Gabriel Baborier)^② 神甫出生于多菲内州之维也纳城。在里昂教区入会。抵华后派至陕西汉中。一七〇一年迁福建，管理汀州、上杭两地教堂。

①别一名录作一六六五年十月十二日。

②其名亦写作 Barborier, (《传教信札》;《威尔特-博特》。)

494

已而开教于其他二城。因有人诬教师煮死人肠取油，用以举行洗礼，致教务未能发达。其后往来于上杭、永定两县诸村，劝化一位八十四岁老秀才入教。其人读教中书，甚钦服，乃著书立说，谓中国书籍，甚至孔子之书，皆不足与天主教之书籍相提并论；并谓不承认天主教者，非人也。

嗣后事迹未详,仅知仇教之事发生时(一七二四年),从陕西赴广州。一七二七年六月十四日歿于广州。

二二九 利圣学 法兰西人 495

一六六〇年生——一六八一年入会——一六九八年十一月四日至华——一七〇四年九月十八日①歿于临清。

利圣学(Charles de Broissia)②神甫字述古,贵家旧族之裔也。一六六〇年生于多莱(Dôle)。一六八一年入会。未莅中国前已发誓愿,愿尽其所能为天主求大名,此誓终身未变。虽处逆境,心情如常,持己严,自奉薄。每遇苦辱,皆以忍耐处之。圣学曾云:吾人之获有忍耐者,皆华人诱导之功也。(《传教信札》,卷III,一五四页以下。)

①《传教信札》作九月十八日,碑志汉文作康熙四十三年八月二十日(一七〇四年九月十八日);拉丁文作一七〇四年九月八日。中西文月日不符,此又一例。(参看第一二四《南怀仁传》,第一六三《安多传》附注。)

②碑志书其姓作羽,而不做利。

一六九八年随白晋(第一七一传)神甫抵中国,居广 496
州若干时,学习语言,已而同孟正气(第二三一传)神甫被派至江西开辟教所。在抚州、饶州、九江三处各购房屋一所,屋皆破陋不可居。二神甫不觉其陋,惟饶州、九江二

城之官吏阻挠二神甫一年有半，颇引以为苦耳。

官吏阻挠之事既解，圣学乃分派傅圣泽（第二四三传）、殷弘绪（第二四二传）、孟正气（第二三一传）三神甫于此三城，本人则奉命赴宁波重兴教堂^①。此地不但可以自由出入中国，且能谋入日本，盖日本教务迄于是时尚见发达也。一七〇一年圣学偕郭中传（第二五〇传）神甫至宁波，留三、四月历经困苦艰难，始能得一适当处所。（《传教信札》，卷III，五四、一二一页。）

①考一八六七年卡斯特罗-桑帕约（Manuel de Castro-Sampaio）在香港刊布之一小册子题曰《澳门的中国人》（Os Chins de Macao）者，颇足以资考证，兹录其五二页之文如下：“一五四五年前，葡萄牙人在宁波有一真正市场；有基督教民一万二千人，中有葡萄牙人八百，天主教堂八所，医院两所，市政厅一所，检查员、审判员等若干人。不意此富庶居留地经不及五小时之火焚毁灭罄尽，缘有检查员名帕雷拉（Lancelote Pereira）者率盗贼约二十人在附近一带杀人越货，中国官吏愤怒，遣战船三百八十艘，兵六千人，焚毁此居留地，尽逐葡萄牙人。嗣后葡萄牙人谋居漳州未成，遂赴上川，终徙澳门。——钩案：此事不见《明史》纪传，可补史文之缺。

宁波基地既定，圣学被召赴北京：盖山西代主教张安当（第一四五传）神甫召之为伴侣，并似拟推之为后任人也。圣学溯运河而上，行至山东临清得疾歿，时在一七〇四年九月十八日也。运枢至北京，张诚（第一七三传）

神甫迎之于二十里外，悲泣不已，葬北京坟园。（《传教信札》，卷III，一五六页。）

二三〇 翟敬臣 法兰西人

一六六三年生——一六八一年入会——一六九八年十一月四日至华——一七〇一年七月二十四日^①歿于塞外。

翟敬臣(Charles Dolzé)神甫字慎中，出生于梅斯城，在香槟教区入会。既至中国，身体日弱，益以肄习中国语言文字，衰弱愈甚。诸医束手，劝之养疾塞外，敬臣从之，然易地而病如故。敬臣虽病，从未卧床不起，仍艰忍自持，祈祷如常。（《传教信札》，卷三，一五九页。）

①薛孔昭《名录》作二十二日。——墓志拉丁文作二十四日；汉文作康熙四十年六月十五日。（一七〇一年七月二十日）年三十七岁。

一七〇一年七月二十四日歿于塞外。柩运北京葬于会友墓地。

二三一 孟正气 法兰西人

498

一六六六年四月七日（一作四日）生——一六八一年十月三十日入会——一六九八年十一月四

日至华——一六九七年八月十五日发愿——一七三五年十二月九日歿于澳门。

孟正气(Jean Domeneque)神甫宁若望,波尔多城人。一六八一年入此城修院。随白晋(第一七一传)神甫登舟前,曾发四愿。既抵中国,原拟派往陕西西安,顾法国诸神甫欲在诸省开辟新教区,遂属意于正气与利圣学(第二二九传)神甫二人,派之传教抚州、饶州、九江。正气居江西年余。一七〇二年与赫苍璧(第二五九传)神甫同被派至湖广,创设新教所于黄州、汉阳。此两府僧人唆使人民反对,官吏亦阻挠禁止,二神甫被迫离去。

张诚(第一七三传)神甫在京识湖广总督子,因托其作书介绍于其父。总督以书示樊西元(第一九三传)神甫。西元居湖广久,熟于一切情形,乃请总督付凭照与正气、苍璧二人,许其居住黄州。

无何正气留苍璧于湖广,自赴京师。居若干时,吾人未详。惟知其在一七一三年或此年前已至河南南阳。先是冯秉正(第六九传)、雷孝思(第二三六传)二神甫测绘河南省舆图时,已在南阳购置教堂一所。一七一四年仇教事起,南阳知府与同知出示禁止诸邪教,天主教亦列其中。

会府城有一命案同一盗案发生,有人啧有烦言,谓于劝人为善之宗教则禁止,而于人民之生命财产则不顾反。知府闻之,遂不复拘捕教民。(《传教信札》,卷III,二六七页。)

此一七一四年中,正气开教于汝宁府。一七一六年

旅行附近各地凡三月，被劝化入教者甚众。

正气居开封八阅月，在此时间内曾将开封犹太教堂图绘而为之记。先是一六四二年水灾，全城皆毁，此堂乃一犹太教官吏赵姓者于灾后重建。正气出重资欲购此堂所藏圣经，以便对照，然堂中人不允。（格鲁贤：《中国概述》，卷三，四九一、四九二页。）

惟许一观所藏圣经内容。正气检阅诸经，知犹太教教徒仅以五经为正经，其他诸经名 San-tro，犹言附经也。是为《约书亚记》与《士师记》、《撒母耳记》，《众五经》之末二卷，《诗篇》、《以赛亚书》、《耶利米书》又《但以理》之数节、《历代志》四、五章，《小豫言人经》五章，然已不全；此外尚有《尼希米书》、《以斯贴记》与《马加比书》经首二卷。附经之外有《礼拜经》，皆采之于圣经者也。末有《米示拿》四经及次序错乱名称 Tiang-tchang 之种种经解^①。

①钩案：诸经汉译名，可参看本书第四三六《贺清泰传》。

此种犹太教徒虽有诸经，而不得其解。骆保禄（第一九五传）神甫曾言此辈仅于抽签时始用此种经文。彼等尚遵行割礼、安息日、复活节等等瞻礼。然已不解救世主之义矣。（上引格鲁贤书。）

正气留居河南似迄于雍正仇教之一七二四年；是后谪广州，已而在一七三二年赴澳门。曾在一七二八年寄赠《满汉字典》一册于富尔蒙（Fourmont），又在一七三三年寄赠《满文字典》一册，盖正气精于满文也。一七三五年十二月九日歿于澳门。

其遗著列下:

(一) 一七一六年七月一日南阳信札,述仇教及传教事,见《传教信札》,卷III,二六七页以下。

(二) 《满语入门》或《满语语法》,法文本。(雷慕沙《满语研究》,九九页。)

(三) 《满文文字读音备考》,法文写本。

(四) 信札与记录,写本,见布罗蒂埃(Brotier)神甫所辑诸写本中。

(五) 开封府信札六件,述犹太教民事,现藏巴黎圣热内维夫学校图书馆。(索默尔沃热尔《书目》,卷三,一二六栏。)

(六) 信札见伦敦公共档案局,国外通讯, XVIII 中国。

二三二 颜理伯 法兰西人

一六六五年生^①——一六八二年入会^②——一六九八年十一月四日至华——一六九九年^③九月三十日歿于淮安。

颜理伯(Philibert Geneix)神甫字务本,法兰西人。

初抵中国派往淮安,居数月歿。据碑志:康熙三十八年八月初八日(一六九九年九月三十日)歿,年三十四岁。葬教会坟园,此坟园现尚为教中人丛葬之所^④。

① 薛孔昭《名录》作一六八一年。

- ②或一六六六年；薛孔昭《名录》作一六六四年。
- ③薛孔昭《名录》作一六九八年。
- ④高龙鞏神甫补注云：一六九八年十一月六日至七日附俺斐特里特号(Amphitrite)军舰至广州登岸之法国传教师十一人，颜理伯神甫似在其列。

二二三 巴多明 法兰西人

一六六五年九月一日生^①——一六八五年九月一日入会——一六九八年十一月四日至华——一七〇七年七月三十一日发愿——一七四一年九月二十九日歿于北京。

巴多明(Dominique Parrenin)神甫字克安，一六六五年九月一日出生于贝藏松主教区之大鲁赛(Grand-Russsey)镇。在里昂会立学校毕业后，于一六八五年九月一日入阿维尼翁修院。

- ①宋君荣(第三一四传)神甫信札(布鲁克尔《宋君荣神父学术通信集》，六四页)云：一六六四年九月一日生，一七四一年九月二十九日歿，年七十七岁半。——沙如玉(第三二三传)神甫信札(《传教信札》，一八一九年，XII，三二二页)云：一七四一年九月二十九日歿，年七十七岁(则应出生于一六六五年矣)。

一六九二及一六九三年曾在昂布鲁与皮涅罗(Pign-502
erol)两地教授文学。昂布鲁大主教布鲁拉尔(Brulard)

与驻军将领咸重其为人，知其具有作大事业之天才，盖在谈话中对于其物理学、文学、史学、地理、几何、国内名阀世系、甚至军事学等类知识皆甚倾服也。一六九三年经赴阿维尼翁研究神学，晋司铎后，传教饶有成绩。（宋君荣神甫致研究员梅朗信札，见上引布鲁克尔书，〈天主教世界评论〉，一八八三年十二月一日，七〇六页或单行本六一页。）一六九八年随白晋（第一七一传）神甫东迈，行十月而抵中国。

- 503 康熙帝善知人，见其体貌魁伟，器而重之，为之选良师授以满、汉文字。不久多明遂请华言，以前欧人之操华语者无人能及；其满语流利，与其操母国语言无异。帝喜与之言，辄作长谈，帝前从张诚（第一七三传）、白晋（第一七一传）二神甫所习之几何、植物、解剖、医科等学，至是逐日渐精通。多明并以世界各国之政治风俗、欧洲各朝之利害关系告帝；帝之得以重视路易十四世之为人，皆多明进讲之力也。（沙如玉神甫信札。古伯察：〈基督教在中国〉，卷四，第二章。）

多明利用进讲之便，为外省传教师代请许彼等建教堂，弛禁令，不分国际会派，皆受其庇护之益。（沙如玉信札。西尔夫斯特利（Silvestri）〈在中国如何生活〉，三九页。）欧洲商人凡有所请，设其理直，亦为之关说，而息争纷。（米肖（Michaud）：〈世界人物传记〉。）

- 504 复次多明又向诸王公大臣等讲说教义，虽不能劝化诸人入教，然至少可以使朝中士大夫为本教之友与保护人也。（沙如玉神甫信札。）

由帝之宠眷，与其谓为荣耀，勿宁谓为疲劳，盖帝不以进讲为足，有时命多明将最奇异而最感兴趣之点详细译写进呈。如是多明将科学研究院及其他作者著述中，关于几何、天文、解剖等科最新奇之说译为满文。此外多明为应皇帝、诸王公大臣、中国学者等之询问，笔录甚多，各种学科几尽涉及。（沙如玉神甫信札） 505

其尤足以表示多明之妙才者，则当难题发生须立即作答而其答词常系于本教在中国之存废者，多明亦能随机应变，以最贤慎之答词应之。（沙如玉神甫信札）

宋君荣（第三一四传）神甫在一七二九年一信札中云：“他人为一极细微之事而求人者，或须经过种种困难，或须赠与种种礼物；而多明设有求于汉人或满人之事，每求必如愿以偿，其手腕诚可佩服。”（上引布鲁克尔书，六二页。）

凡欧洲人之入朝者，若传教师，若教廷专使，若葡萄牙、俄罗斯二国专使^①常用巴多明为译人。多明担任此种危险事务垂四十年，皇帝与其对言人皆表示满意。多明所操语言有满语、汉语、拉丁语、法兰西语、意大利语、葡萄牙语，人皆惊其能。中、俄两国如有争端发生，多明辄为调停其间。一七二六年中俄和约之得成立者，（用拉丁文同满文）多明之力也。（沙如玉神甫信札）俄皇彼得大帝感其劳，特命其在华大使面达感激之情，并以皮裘及其他珍物赠之。（上引米肖书）加恩在其所撰之《彼得大帝时期俄中关系史》中，于每次俄使之至中国，皆著明多明之任务。并在本书一七五页后及附录六十页后言及耶 506

稣会士之尽力，所能获得俄国之报酬奖谢之词而已。至其所极欲之事，别言之。传教师及其通信经过俄国国境一事，俄人未尝许可也。

①自好望角发现以来，迄于中国弛海禁开港通商之时，欧洲遣使中国之次数，可以条列如下：

一五二一年葡王埃马纽埃尔(don Emmanuel)所派第一次专使皮雷斯(Thomas Pirés)被囚禁狱中。

一六五五年荷兰东印度公司所派第一次专使杯突高啮(Pierre de Goyer)与惹诺皆色(Jacques de Keyser)二人(顺治时代)。

一六五六年俄国第一次专使莫斯科大公(阿列克谢一世米哈伊洛维奇遣派之使臣也。)(顺治时代)一六六一年荷兰东印度公司所派第二次专使坎彭(J.-V. Campen)与诺伯尔(C. Nobel)二人。(顺治时代)

一六六四年荷兰东印度公司所派第三次专使荷恩(Pierre van Hoorn)。(顺治时代)

一六七〇年葡王阿尔方斯六世(Alphonse VI)所派第二次专使萨丹哈(don Manoel de Saldanha)。(康熙时代，参看本书第一三五传、第一三六传。)

一六七六年俄国阿列克谢一世或费多尔三世所派第二次专使。(康熙时代)

一六八九俄国摄政妃索菲亚(Sophie)所派第三次正式划界专使戈洛文(Féodor Alexiewitch Golowin)伯爵。(康熙时代)

一六九三年俄帝彼得大帝所派第四次专使伊兹勃兰特-

伊德斯(Isbrants-Ides)(康熙时代)。

一七〇五年教皇克莱芒十一世所派第一次专使大主教铎罗。(康熙时代)

一七一五年俄帝彼得大帝所派第五次专使加尔文(Thomas Garvin)与朗热(Laurent Lange)二人。(康熙时代)

一七一九年俄帝彼得大帝所派第六次专使伊兹麦洛夫(Léon Vassilievitch Izmailov)。(康熙时代)

一七二〇年教皇克莱芒十一世所派第二次大主教嘉乐。(康熙时代)

一七二五年教皇本笃十三世所派第三次专使邓达尔(Gothard)与伊尔方(Ildephonse)神甫二人。(雍正时代)

一七二六年葡王若望五世所派第三次专使梅内塞斯(don Alexandre Metello de Souza y Meneses)。(雍正时代)

一七二六年俄后卡特琳一世(Gatherine I)所派第七次专使萨瓦·伏拉迪斯拉维奇·拉戈欣斯基(Sava Vladislavitch Ragouzinski)伯爵。(雍正时代)划界条约于一七二六年六月七日经彼得二世批准。

一七五三年葡王若瑟一世所派第四次专使巴哲格(don Francois Xavier Assis Pacheco y Sampayo)。(乾隆时代)先是一七四二年若瑟一世已将赠品寄送中国。

一七六七年卡特琳二世(Catherine II)所派第八次专使克罗波托夫(Kropotov)修改旧约,新约于一七六八年十月十八日签字。(乾隆时代)

一七九三年英王乔治三世所派第一次专使马戛尔尼

(Macartney)。(乾隆时代)

一七九四年荷兰共和国所派第四次专使德胜(Titshing)。(乾隆时代)

一八〇五年俄帝亚力山大一世所派第九次专使戈洛文与波托基伯爵二人。(嘉庆时代)

一八〇八年俄帝亚力山大一世所派第十次专使。
(嘉庆时代)

一八一六年英王乔治三世所派第二次专使阿美士德(Amherst)。(嘉庆时代)

一八二〇年俄帝亚力山大一世所派第十一次专使提姆科夫斯基。(嘉庆时代)

如上所列遣使诸国足证法兰西、奥地利、西班牙三国当时皆未遣使至华。前表曾经夏鸣雷(Havret)神甫转载于所撰《西安府景教碑》第二编(《汉学杂集》,第十二号二五五页。(参看加亚尔《南京史地概貌》,二五四页以下。)

- 307 俄国第七次专使萨瓦之抵北京,中国政府常以西方民族情询之于多明及宋君荣(第三一四传)二人,尤注意俄罗斯人,盖其国势渐盛,中国渐引以为忧也。此种问题之答复思之易而答之难,盖一方面须具有种种认识,一方面答辞须慎重而适宜也。多明等答辞似甚适当,盖其能得雍正帝之欢心也。帝对多明固未加以宠眷,然颇敬重其为人,故多明赖以维持教务,宋君荣神甫云:多明曾挽救教务于不废盖实录也。(布鲁克尔《一七二二——一七三五年的中国传教团》,载《历史问题杂志》,一八八

一年四月，二一、三〇页。)

已而雍正帝欲遣使至俄新帝彼得二世所，诸大臣乃以遣使事询之于法国耶稣会士。宋君荣乃为记录莫斯科与圣彼得堡之行程，多明又为说明欧洲各国接待使臣之礼节，以及使臣应备之行装。诸事既已详说无遗，遂不再派一欧洲人为随员。使臣于一七二九年六月十四日离北京，一七三二年还中国。此行似甚圆满，盖使臣还国后，颇称赞俄国人及其他欧洲人也。(上引布鲁克尔书，三〇——三一页。)

中、俄两国往来公文函件常由多明翻译。中国为办理中俄交涉，设置一翻译馆，招收满人子弟，研究拉丁文字，命多明主馆事。(考狄《书目》，一六三三栏，引多明致巴耶信札两件，一作于一七二三年八月三十日，一作于一七三四年七月三十日。)中国政府计划设置翻译馆，时在一七二九年。龚当信(第三五六传)神甫一七二九年十月三十日致苏熙业(Souciet)神甫信札有云：“本年三月帝命设翻译馆，命法国耶稣会士主持馆务，授满、汉子弟以拉丁文，巴多明神甫为馆长，宋君荣神甫为副。宋君荣神甫一七三二年六月十三日致苏熙业神甫书云：“拉丁课程颇有进展：有馆生数人，说拉丁语尚属流利。”惟据钱德明(第三九二传)神甫说，此馆存在仅十五年诸馆生从未任译员。(上引布鲁克尔书，三二页注文。)

508

多明不但语言流利，而且下笔便捷，其下笔有如永泉奔放，辩才纵横，脍炙人口。其著述不论为满文、为汉文、不论为上呈康熙皇帝之撰述，抑为劝化教外人之文

字,皆表示其善于写作,博学多闻。如将其所作答中、法、俄等国学者之书词,以及对于公众撰述之文字,汇辑成编,世人将惊异一传教士任务之繁,而能有余暇用种种语言为此种种撰述也。(上引沙如玉神甫信札。)

但据古柏察道院长之记录(《基督教在中国》,卷四,八八页。)多明实非闭户研究学术之人。二十余年或随康熙皇帝游巡塞外,或随之往来诸省。其足迹所至之地,或发达旧有教务,或开辟新区,而其中最发达者,要为京师以北长城以外各地,与京师附近诸山,则不能不归功于多明传布之功也。一七一〇年居热河三月,曾聚集各省来
509 此从商之教民接受告解。多明未扈从出塞以前,已在其地设立传教所四处也。(《传教信札》,卷三,一八二页以下。)

宗室诸王公大臣之入教,尤其是苏努(Sourniama)全家之入教^①实由多明定其始基。其一手授洗者有儿童万余人,中有一人为乾隆皇帝之弟。(上引沙如玉神甫信札,宋君荣神甫信札,见上引布鲁克尔书,一三页。)

①参看本书第一六一传。

中国全图之测绘,虽出诸传教师手,要应特别归功于多明。康熙皇帝曾误以奉天省会沈阳与北京同一纬度,亦位置于三十九度五十六分。多明对帝明言其误,帝命之赴沈阳详细测验绘图进呈。复命以后,帝因疑国内诸省方位或亦有同一之误,拟绘一总图,乃命多明选择能绘图之传教师若干人往各省测绘。(沙如玉神甫信札。)多明不但主持其事,而且亲自测绘,除上述辽东地图外,一七一八年曾奉帝命赴山东登州测验此城方位,已而从

海道赴旅顺，又从旅顺至沈阳，所过之地皆为测量。（克拉普罗特《关于亚洲之记录》，卷一，三一九页。）

康熙皇帝爱重多明。多明因藉以说帝爱护其教。雍正皇帝及诸大臣决定禁教之时，亦赖多明救护其教于不废。北京壮丽教堂之获保全者，亦多明之力也。（宋君荣信札。上引布鲁克尔书，一三页。）惟至一七三二年禁教 510 时，多明之力不足以回帝意。一七三三年北京传教会几亦濒于危，盖雍正皇帝曾决定全国禁绝天主教，驱逐一切传教师也。幸赖有人进谏，而多明亦力为呼吁，仇教之事暂时得平息，帝许召回被流谪之信教王公，而许赵加彼（第三三三传）、吴君（第三三四传）二神甫赴京。当时帝曾云：所以许新来西士之入京者，盖不欲逆诸传教师之意，而尤以不愿重多明忧也。（上引布鲁克尔书，四二页）

先是数年前一七三〇年九月三十日大地震发生，地震之烈为有史以来所未见，北京有十余万居民皆被压于震毁房屋之下，四郊伤害尤烈，致有村镇全毁者。地震方向自东南达西北。葡萄牙、法兰西两国教士之住宅、教堂并毁。冯秉正（第二六九传）神甫记有云：“吾人幸赖天主之佑，吾人之時計乃据日光为准，是日忽快半小时，故地震之时，吾人已离食堂，否则皆压覆于房屋之下矣。”

十月三日帝命内监一人往慰诸西士，诸神甫聚会推举代表八人往谢，多明并上疏陈谢。帝喜诸教士之未被害，曾询地震之性质原因于多明等，赐银千两，以供修复三堂之用。此次地震诸教师之物尽毁，尤堪惜者，稿件与天文仪器，而开始修建之观众台亦全毁。（宋君荣神甫

的记述，见上引布鲁克尔书，三七页。冯秉正：《中国史》，卷十一，四九一页。）

- 511 雍正即位以后，多明入内之时较少，遂以余暇抚慰因奉教而得罪之宗室，编辑有益于本教之书籍，劝化士夫人教，此皆在前朝长期扈随时所未能为之事也。（上引沙如玉神甫信札）宋君荣神甫致苏熙业神甫信札云：“帝虽恶教，我辈在大城中，仍自由传教如故，归依人数且甚众也。有籍隶八旗之礼部大员福某者久拟入教，旋在巴多明神甫前领洗，未几歿。”（上引布鲁克尔书，四〇页。）朝鲜、琉球两国贡使入朝，多明曾以教中书籍赠给随从入朝之人。

多明曾致书于欧洲诸学者，其中充满学识教义，皆足以资参考，惜未全留存于世。多明并曾将一七二六年中俄条约之文抄寄路易十五世之告解人里尼埃尔（de Linieres）神甫，附加详细说明，俾其转达法国诸大臣。（宋君荣神甫致苏熙业神甫信札，上引布鲁克尔书，二一页。）

- 一七三七年将又有仇教之事发生，多明曾谋挽救，虽未能达其目的，然曾以诸传教师之志愿而达乾隆朝诸朝臣曰：“我辈来自八万里外，志愿不仅在请许为天主教徒，而秘密祈祷天主。朝廷与京内外皆知我辈之来盖为传布基督之教，而同时尽其所能供职于朝廷也。世人皆谓我
- 512 辈之教公正善良，然则禁之何为？自是以后我辈之教仍然未改，然则缘何拘禁奉教之人而加以惩罚欤？若谓奉教者有罪，我辈鼓励他人入教，罪应更重，然反命我辈继续供职如故，其理诚不可解。”（《传教信札》，卷 III，七三

二页。)

多明迄于末年维护宗教之诚皆可以上语概之。最后三年患疼痛疾,窘苦异常,然始终忍耐处之。以一七四一年九月二十九日^①歿,享年七十六岁。(上引沙如玉神甫信札。)

①沙如玉神甫信札作九月二十七日。(《传教信札》,一八一九年,卷十二,三三一页。)布鲁克尔(《一七二二——一七三五年的中国传教团》,一四页;《宋君荣神父学术通信集》,六四页。)引宋君荣神甫信札作九月二十九日,汉文墓志作一七四一年九月二十九日,年七十八岁;拉丁文墓志作一七四一年九月二十九日,年七十七岁。参看本传^①。

多明既卒,教内外人无问贵贱,皆深惜之。帝赐葬费,王公大臣皆亲临吊唁,送至葬所。(上引沙如玉神甫信札。)

其遗著列下:

(一)《德行谱》一名《圣达尼老各斯加本传》一卷,一七二六年北京刻本。土山湾重刻本;一八六九年二版(一九一七年书目五〇至五一号。)

(二)《济美篇》一名《圣类斯公撒格本传》,一卷,一七二七年北京刻本;土山湾重刻本,一八六九年二版。(一九一七年书目四九号。)

宋君荣神甫一七三二年六月七日致苏熙业神甫信札 513
云:巴多明、殷弘绪(第二四二传)、冯乘正(第二六九传)三神甫曾嘱在教士人编辑圣依纳爵(St. Ignace)、沙勿

略、博吉亚(Borgi²)、贡札克(Louis de Gonzague)、斯塔尼斯拉斯(Stanislas)、陈圣修(Jean-Francois Régis)、路易斯(Louis)等人传;关于天主、灵魂、天堂、地狱、中国各教等书,诸书皆甚有益。(上引布鲁克尔书,四一页。)本条各书已有数种佚而不传。

(三)《人体解剖学》,是编根据狄尼斯(Dienis)之新发明与血液循环用满文编译而成,原八卷,由白晋(第一七一传)神甫开始编译康熙皇帝御订,未曾印行。多明增译第九卷,亦为满文,内容为化学与毒药及其治法。多明因时常随驾巡幸,此卷阅五年始脱稿。此解剖学有一抄本为北京医师德贞(Dudgeon)所得,绘图甚精细;别有一钞本藏北京俄国使馆图书馆。〔布雷特施奈德(Bretschneider)《中国植物学》,一〇二页。〕

多明曾致书于科学研究院诸研究员云:“今从远道寄呈解剖学书一部,其文非公等素识之文,公等必以为异。如公等得知其内容,即为公等自己之著述,仅易以满文之外表,公等将必不以为异矣。盖其中含蓄者即是公等之思想与公等之巧妙发明也。”(《传教信札》,卷III,三三〇页。)夏托布里昂(de Chateaubriand)评此信札云:“读此书一过观其礼貌的语气,正人的文格,足证今人对此作风几尽忘矣。”

(四)《中国史》,法文译文,始伏羲迄尧,一七三〇年八月十二日脱稿于北京。梅朗曾将此本一部分刊布。多明曾云:是编原本即是司马光之《资治通鉴纲目》前编^①。

①案《资治通鉴》撰于一〇六四至一〇八六年间,撰文诚为司马光。然《资治通鉴纲目》别为一一八九年顷朱熹之撰述。一七〇七年有续编。冯秉正(第二六九传)神甫曾据

满文本译为法文。(参看威格尔 (Wieger) 《历史文献》, 十、十一页。)

(五) 《六经说》法文本, 共六卷。一七三五年多明寄 514 送六经于梅朗, 《六经说》乃梅朗对六经附加之说明也。五经益以《周礼》合为六经。

(六) 《自然典则》法文本, 多明译孔子诗篇之标题也。伦敦、巴黎一七八八年刻本。

(七) 满人某撰《哈密喀尔喀行纪》法文译本。宋君荣神甫云此本甚佳。(苏熙业《耶稣会士在印度和中国所作的数学、天文、地理考察》, 卷一, 一四六页。)

(八) 《教会口祷文》满文译本。此编乃为苏努全家信教妇女翻译。(一七二四年八月二十日多明信札)

(九) 多明曾用汉、满文字撰成奏疏数件, 进呈雍正皇帝, 用以一面谏止一七二四年之禁教, 一面答复首创禁教主谋闽浙总督满保奏折中仇教之词。诸疏皆经戴进贤(第二九七传)、巴多明、费隐(第二七四传)、雷孝思(第二三六传)、冯秉正(第二六九传)诸神甫同具名。

(十) 一七三四年上疏请许新抵澳门之吴君(第三三四传)、赵加彼(第三三三传)神甫入京。(《传教信札》, 一八一九页, 卷 XII, 一六五页。)

(十一) 郎世宁(第二九三传)修士上乾隆皇帝奏折。又一七三七至一七三八年所上奏折三件。诸折皆经戴进贤、徐懋德(第二九九传)、巴多明、沙如玉(第三二三传)诸神甫与郎世宁修士同具名。

(十二) 多明曾将达内(Danet)之拉丁文字典译为汉

文,未刊行,巴热(Bager)藏有抄本一部;英国格拉斯哥城亨特博物院亦藏有一部,不知为原写本抑为抄本。(考狄《书目》,一六三三页以下。)

- 515 (十三) 雷慕沙(《亚洲杂纂》,卷二,六七页谓多明曾撰有汉文拉丁文对照字典一部,未印行,写本现藏格拉斯哥城亨特博物院(考狄《书目》,一六三三页以下。)

(十四) 多明致丰特内尔(M. de Fontenelle)信札(见后十九号书)有云:“十年来余奉康熙皇帝命将不少满文著述译为欧文,同时并将法兰西、拉丁、葡萄牙、意大利各种文字著述转为满文。”此种译文今未详其存佚。

(十五)《驳埃弗斯登西主教费雷里指责法国耶稣会士书》,藏罗马维多利奥-埃马努厄图书馆,耶稣会士手稿,一二四七号(一三三七六)之七号。(索默尔沃热尔《书目》,卷九,七五七页。)

(十六) 多明家族藏有神学簿册若干件,其中或有信札数件存于其中。

(十七) 一七二二年六月十日致赫苍璧(第二五九传)神甫信札言德理格(Pedrini)乐师事,现藏研究图书馆。

(十八) 言宗室某家奉教获罪事信札七件,见《传教信札》,卷III,三六六页以下。诸信札曾合刊为一部,十二开本,里昂,一八三〇年,而标题曰《基督教之英杰》。诸札皆在一七二四至一七三六年间作于北京。

(十九)《传教信札》,卷III,一八二、二三六页以下,刊载有信札十一件,条列于下:

一七一〇年信札，言新入教者之热心。

一七一五年三月二十七日信札，言罗德先(第二四五传)修士之歿。

一七二三年五月一日致丰特内尔信札，言满语事。多明在此信札中述在塞外与皇长子会谈，证明欧洲语言优于汉、满语言。

一七二三年五月一日致法国科学研究院信札，言中国若干特产草根，尤偏重欧洲当时不甚认识之大黄，复次列举若干欧洲亦有之植物。

一七二七年十月八日致西班牙诸王子副教习涅尔(Nyel)神甫信札，言一七二六年葡国赴华使臣苏查·梅内塞斯(Souza y Menezes)觐见事。此信札曾重刊为英文本，一八七四年上海富雷罗(Fouresiro)(音译)书店出版。

一七三〇年八月十一日致梅朗信札中言中国政治、风俗与天文、物理、历史等学科事。并言溺婴，且驳雷洛多(Randoulet)道院长所撰《两阿拉伯人行记》记载之不实。(《传教信札》，卷III，六四五页以下。)此信札之写本有一〇八页，而经杜赫德神甫刊布者不及其半。此信札前后附有一七二九年十月十二日及一七三〇年九月二十四日信札各一件。梅朗云此种信札皆未刊布。

一七三四年十月二十九日致某氏信札，言皇帝对于教民之处置办法踌躇未决。(《传教信札》，一八一九年，卷XII，一六三一—一六七页。)

一七三五年九月二十八日致梅朗信札言在诸官前

作玻璃、炸药种种物理试验，中国文字与埃及象形文字之比较，中国前此是否已有地图，灯节之起源，中国人来自何处，中国饥谨及其救济方法。（《传教信札》，卷 III，六九八页。）此信札是否即是巴黎国民图书馆藏编一七二四〇号之一七三五年九月三十日信札写本（四三页）未可知也。（考狄《书目》，一〇八六页。）

一七三六年十月二十二日致杜赫德神甫信札言教务，雍正之殂，乾隆之即位。（《传教信札》，卷 III，六九六页。）

一七四〇年致同一神甫书，言译华人某撰之修身书，据满文本转移。（《传教信札》，卷三，七五〇页。有英文译本题曰 *Miscellaneous Pieces relating to the Chinese*，两卷，十二开本，伦敦，一七六二年（《百科杂志》，一七六三年。）

一七四〇年九月二十日致梅朗信札，答复以下问题：中国何时发现铁矿，每年所产男婴是否多于女婴，多妻制度是否妨碍教务发展，中国的许多制度、文物是否本于埃及。（《传教信札》，卷三，七三六页。）

以上诸信札，除一七三四年十月二十九日信札外，皆有德文译本，见斯托克林（Stöcklein）神甫之《威尔特·博特》。

（二十）同一辑中三一〇号尚有一七二四年十一月十一日多明致其友某信札言托马赛里（Tomacelli）神甫及加格里亚迪（Gagliardi）医师事。

（二十一）致梅朗信札三件，一作于一七三三年十月十五日，一作于一七三五年三月二十一日，一作于一七三五年十一月五日，并涉及中国之种种问题，一部分刊载于杜赫德书中，

一部分刊载于梅朗之《北京某神甫记述中国问题之信札》，巴黎一七八二年第二版。多明在此类信札中为中国编年作辩护而驳傅圣泽（第二四三传）神甫之说。（索默尔沃热尔《书目》，卷三，二八七栏。）

（二十二）致巴耶信札二件，一作于一七三二年八月三十一日，一作于一七三四年七月三十日，言拉丁翻译馆事。

二三四 南光国 法兰西人

一六六三年生——一六八一年入会——一六九八年十一月四日至华——一七〇二年十一月四日歿于北京。

南光国（Louis Pernon）神甫字用宾，仅居中国四年。出生于蒙托榜城，歿于北京，余无考。

二三五 马若瑟 法兰西人

一六六六年七月十七日生——一六八三年八月十六日（一作九月十七日）入会——一六九八年十一月四日至华——一七〇一年二月二十四日发愿——一七三五年歿，歿地疑在澳门^①。

马若瑟（Joseph-Henrg-Marie de Prémare）神甫出

生于瑟堡城。在法兰西教区入会。一六九八年三月七日在拉罗舍尔港随白晋（第一七一传）、巴多明（第二三
518 三传）二神甫出发之诸耶稣会士，若瑟亦在其列。在俺斐特里特号军舰航行七月，于十月六日抵上川岛，同月九日巡礼圣方济各墓。（《传教信札》，卷 III，七三页。）

白晋孔昭《名录》作一七三六年十二月十七日；博纳蒂（Bonnetty）《基督教主要教条之遗迹》一书作一七三四或一七三五年。

白晋神甫率诸耶稣会士赴澳门，已而抵广州，派若瑟赴江西。一七九九年若瑟抵饶州。若瑟居饶州、建昌、南昌、九江等地甚久。一七二一年大主教嘉乐北上时，若瑟尚居九江。一七二三年任法国传教会咨询员。迄于雍正仇教之时，似仍居九江，至一七二四年赴广州，一七三三年赴澳门。似在一七三五年殁于澳门，月日未详，而殁地亦不能必为澳门也。

若瑟自抵中国后，即专心于此二点：质言之，传布教务，精研汉文是也。吾能对于前一点未能详悉，而对于第二点则所知较审。

519 若瑟甫抵江西，即思收养弃儿，拟向法国募款设立医院或孤儿院一所，时与若瑟同此志愿者尚有数人。其计划拟将此类弃儿（尤以女婴为众）收养，授以技艺，至十四、五岁时安置于教民家中。（《传教信札》，卷 III，二四、二五页。）

520 若瑟之传教热忱，鼓励其研究中国语言文字。其研究与一般传教师异，盖其志不仅在肄习传教必需之语文，

而尤注重于寻究中国载籍中之传说，有裨于宗教者予以利用，发挥教理，若瑟此类研究成绩甚优，甫数年即能用优美的中国文字著书立说。（雷慕沙《亚洲新杂纂》，卷二，二六五页。）

若瑟研究中国古代史采用一特殊方法，后此有传教师数人曾采用之。其法则在中国之经书与古籍中寻求最古之传说，凡有不明之段落，历代意见纷歧之解释，《诗经》中之譬喻，《易经》中之卦爻，咸加利用，以备传教之引证。 521

此种异说之传布目的确在此，而不在满足一种好奇心也。（同上，二六五、二六六页。）

若瑟致富尔蒙信札曾明白解说云：“余作此种疏证及其他一切撰述之目的，即在使全世界人咸知，基督教与世界同样古老，中国创造象形文字和编辑经书之人，必已早知有天主。余三十年来所尽力仅在此耳。”（《传教信札》，卷III，八四〇页。上引雷慕沙书，二六六页。）

若瑟因此而被人在罗马宣教部举发者已有数次^①。一七二七年十月十八日耶稣会会长奉命立将若瑟从中国召还，但在一七二八年二月宣教部念其才能，据其一七二七年十二月五日之请求，许将处分减轻。凡假定为其所撰赞成中国礼仪之文字，宣誓否认至确为自撰之文字，应向宣教部明白否认。一七三六年十月五日召回之令重申，然若瑟已歿。举发之人吾人今识其名。

①被举发而被召回法国者不仅若瑟一人，尚有巴多明（第二三三传）神甫或有冯秉正（第二六九传）神甫，

疑亦有卜文气(第二六三传)神甫。兹四人在一七二三及一七二五年中被人举发赞成中国礼仪,蒙处分者似仅若瑟一人。(据布鲁克尔神甫引证之未刊文件)当时有同僚数人对之亦有严重批评。(格鲁贤:《中华帝国概述》,卷四,三六一页。)

若瑟虽沦入错误,然其计划庄重大,非具有若瑟、白晋(第一七一传)、傅圣泽(第二四三传)诸神甫之才智
522 不能有之也。雷慕沙云:“立说既异,而其结果重大,当然有疑之者。但若疑及素以学识正直名世之人之学识或诚实,则未免过矣。应将彼等据以立说之原文加以审查,观其是否别有较为自然之解释。此在当时鲜有人能为之。然自是以后已有人证明马若瑟神甫等确持之有故,言之成理也。盖中国古籍中确含有出于西方的教义及主张之遗迹,殆在最古之时输入中国。然同时又有人承认此种教义及主张经马若瑟神甫视为古教义遗存之残迹者,盖为东方神学之古说,而希腊哲学家毕达哥拉斯、柏拉图、整个新柏拉图派已经采用者也。(上引雷慕沙书,二六七、二六八页。)

雷慕沙又云:传教中国诸传教师中,于中国文学造诣最深者,当推马若瑟与宋君荣(第三一四传)二神甫。兹二人之中国文学,非当时之同辈与其他欧洲人所能及。(同上,二六二页以下。)

若瑟曾将不少中国书籍寄给富尔蒙交法国王室图书馆,因得收藏不少中国书籍,如《元人百种曲》,《十三经》,诗集、小说等是已。(同上,二七四页。)

其遗著列下：

(一)《圣母净配圣若瑟传》一卷，后题戴进贤(第二九七传)、白晋(第一七一传)、费隐(第二七四)三神甫同阅，视察员德玛诺(第二七七传)神甫核准刊行，应在一七二一年后出版，土山湾有重刻本(一九一〇年第三版：一九一七年书目三七号。)

(二)《六书析义》法文译本一卷。(索默尔沃热尔《书目》，卷六，二九八栏。)

(三)《信经真解》一卷，全文刊入《儒交信》一书之中。中国原文附拉丁文译文。现藏巴黎邮政街图书馆。(同上，一二一一栏。)

(四)《杨淇园行迹》，是编疑经若瑟指示中国学子撰述。(同上，一一九八栏。《明末清初灌输西学之伟人》，七八页。)钩案：是编疑即《杨淇园先生超性事迹》，晋江人丁志麟笔受，口述者似为艾儒略(第三九传)神甫。本条以属马若瑟神甫似误。可参看儒略本传第十二号书。

(五)上海美国长老会曾于一八八八年在上海刻有一书，题曰《真神总论》以属若瑟。案是编疑即《中国语言志略》(本传第九号书)二二九页后附刻之《论天主和天主之属性》，则原撰人乃若瑟之同伴某，非若瑟本人也。

(六)《圣若瑟演述》^① 汉文写本。(富尔蒙《中文文法和目录》，二七六号)

①钩案：演述二字从音译未识原文是否此二字。

(七)《书经时代以前时代与中国神话之寻究》，法文，由冉格内(de Gingnes)刻于宋君荣(第三一四传)神

甫所译《书经》译文前，四四页至一四六页；并转载于波蒂埃之《东方圣经》十三页以后。若瑟以为伏羲以下诸皇皆属故事，华人严格研究史书者仅开始于纪元前八百年。（参看索默尔沃热尔《书目》，卷六，一一九八栏。）

（八）《赵氏孤儿》，是元代一出戏，（也载于杜赫德《中华帝国全志》卷三，三三九页。）德斯夫洛特（Sorel Desflottes）刊行，附中国戏院之说明，巴黎一七五五年刊印。此书附有若瑟致富尔蒙信札二件，（见后第三十一号书）是为欧洲最初认识之唯一中国戏曲。伏尔泰所撰戏曲题曰《中国孤儿》者，即本是编。（雷慕沙《亚洲新杂纂》，卷二，三七三页。考狄《书目》，一七八页以下。索默尔沃热尔《书目》，卷六，二九八栏。）

（九）若瑟之重要撰述要为《中国语言志略》，是编于一七二八年撰于广州，久未刊行，至一八三一年始由金斯博鲁（Kingsborough）出资经新教徒刻于马六甲。此钞本现由威礼收藏，曾经布里奇曼（Bridgeman）译为英文，略有删改，一八四七年刻于广州。

524 若瑟似将此书三部寄归法国：第一部寄交富尔蒙，系从一七二八年十二月十日寄出，一七三〇年二月十一日寄达。第二部寄达之时富尔蒙已故。第三部中含有《中国礼仪》一书。第一部似已遗失，纵存亦不知在何处。雷慕沙曾在王室图书馆发现此书三册殆为第二次寄送之本。此本前题卫方济第一六九传）、郭中传（第二五〇传）、孟正气（第二三一传）三神甫同阅，赫苍璧（第二五九传）神甫核准刊行。案卫方济神甫应是聂若翰（第二六

二传)神甫之误。盖方济在一七〇二年已离粤,仅在一七〇七年一莅广州,然居留之时甚暂。考克拉普罗特(Klaproth)一九一一年目录第二编录有《中国语言志略》,二册,四小开本,写于中国,似为若瑟原写本。其中,颇有与马六甲刊本殊异之处。其中第三编谓《论中国人在应酬谈话中之礼仪》,凡四十二页,然则为富尔蒙本矣。现藏英国博物院(增补手稿,十一·七〇七页)。考狄曾见此写本,“然仅存残缺不完全之第二编与第三编之一部分”。(考狄《书目》,一六六五、一六六八页。)

据雷慕沙云:“是为若瑟著述中之最重要而堪注意之著述,亦为欧洲人所据此类著述中之最佳者。”余以为此种批评迄今(一八八四年)尚能适用。雷慕沙又云:“是编不仅为一寻常文法书,如著者自谦之语,亦不仅为一种修辞学,几可谓之为一全部文学讲义。若瑟不仅搜辑华语之一切文法规则与夫语助词,而且对于文体、古今成语、俗谚、常用之譬喻广事引证,并加必要之说明。

“昔人为此研究者,泥守拉丁文法原则,若瑟则不然。其所用者全为新法,勿宁谓其屏除一切方法,即以语句之结构代替文法规则,质言之,习华语者重实习而不重理论。

“世人得谓其编撰体例适于一种商人初习语言之课本,但若识其概略以后,亦得在此书中求文学之深造,此 525
非为年累月翻检中国名家文字不可得者也。”(上引雷慕沙书,二六九页以下。)此书既然具有此优点,是以今日侨居中国求精研华语之人,不惜以重价求之,致成罕觐。晁

德位(Zottoli)神甫新编之《中国文学讲义》五册,内容范围虽较本书为广,然不足以代替本书,而其价值仍完全存在如故也。

《中国语言志略》首绪说,概述中国书籍、读法、词典、音韵,而以最习用之字句索引附焉。

第一编述通俗语言与习用文体:先于数节中节述全部文法及语法,然后说明中国语言之特性,种种语助词:如否定类、增减类、重叠类、开始类、结尾类等等之使用以及字句之重要用法:如申言、对仗、询问等法。终以俗谚附焉。有一部分俗谚曾经《中国书库》,卷十五,一四〇页转载。

第二编述文言与高雅文体,编次与第一编同。所述诸语助词竟可别成专书,其后研究种种文体,各以例附焉。最后一章列举一、二、三、四字成语,然已残缺不全。

第三编已全佚。

(十)《中国古籍中之基督教主要教条之遗迹》,拉丁文写本,藏巴黎国家图书馆,四开本,六五八页。道院长西翁内(Sionnet)曾在《一八三七年基督教哲学年鉴》十四——十八卷中撰有论文五篇述其内容。佩尼(Paul PERNY)曾将此书译为法文,刊于同一《年鉴》中。此外印有单行本二百册,巴黎,一八七八年(参看索默尔沃热尔《书目》,卷六,一二〇〇栏。)

(十一)《书经》选译文,见上引杜赫德书,卷二,二九八页。佩尼在其《汉文文法》(卷二,二七八页)中谓若

瑟已将《书经》全译，然其他传教师无此著录。

(十二)《诗经》八章译文，见上引杜赫德书，卷二，三〇八页。

(十三)海员适用之《马六甲海峡路程》。(《威尔特-博特》，四十号。)

(十四)若瑟所撰《文法》之外，曾与赫苍壁（第二五九传）神甫合撰有拉丁语汉语对照字典一部，曾将达内（Danet）字典几尽转为汉文（一七三三年十月五日澳门信札）。富尔蒙有序称已有此字典在手。

(十五)《耶稣会士适用之拉丁语汉语对照字汇》，手稿，四开本，共三一四页，止于D(Demereor)字。《谈拉丁语法》（问答体），手稿，四开本，共四十八页，亦为未完本。此二手稿并藏巴黎邮政街图书馆，附有一七〇一年十月一日信札一件。（索默尔沃热尔《书目》，卷六，一二〇〇栏。考狄《书目》，一〇五二页。）

(十六)《汉语西班牙语成语》，手稿，四开本，曾在伦敦经里布利(Libri)氏售出(考狄《书目》，一六六八页。)

(十七)《经书理解绪论》，手稿，二开写本，共九十八页，藏巴黎国家图书馆，法文编一二二〇九号，书凡三篇。此手稿仅存第一篇。此书疑出傅圣泽（第二四三传）神甫手。（考狄《书目》，一三六五、一三六六页。)

(十八)三本小册子：1.《作为一个传教士，对中国古典文献是否可以而且应该按天主教教义来理解》；2.《将十二端信德用之于中国》；3.《怎样应用〈五经〉和解决其中的问题》。此三小册子并为若瑟手笔，曾经布罗蒂埃收

藏,现藏巴黎邮政街图书馆。

(十九)《神明为主》,小二开本,其后附有小册子数编,中有若干出若瑟手笔,附有傅圣泽神甫注。(克拉普罗特《克拉普罗特藏书目录》,卷二,二六页。)

(二十)《吾主耶稣我之万有》,法文诗,曾经布鲁克尔神甫刊布于《圣心报》,卷 XLIV,一九〇、一九一页。

(二十一)致昂热尔(Angers)大司牧米切尔·勒·贝勒蒂埃主教(1692—1706)颂词,共二十页,四开本,拉弗累舍。

(二十二)《中国经书古说遗迹选录》,拉丁文本,现藏巴黎邮政街图书馆。(索默尔热沃尔《书目》,卷六,一二〇〇栏。)

(二十三)与傅圣泽(第二四三传)、白晋(第一七一传)二神甫合撰之撰述,可参看各本传书录。(索默尔热沃尔《书目》,卷二,一五七栏;卷三,九〇四栏。)

(二十四)《耶稣圣心篇》,法文小册子,(其中有些段落是用汉文和拉丁文写的。)藏巴黎邮政街图书馆。(索默尔热沃尔《书目》,一二〇一栏。)

(二十五)《宗教说明》,汉文本(原标题未详),仅存第一编,现藏巴黎邮政街图书馆。(同上)

(二十六)关于中国“一神说”之信札,一七二八年作于广州,经波蒂埃刊于巴黎,八开本,一八六二年;并转载于《远东和美洲杂志》及博纳蒂氏之《哲学年鉴》,第五辑,卷三,一三一页。

(二十七)信札三件并载入《传教信札》。一件一六九九 年二月十七日作于广州,致夏斯神甫,述自法赴华之行程,中

间停留上川，抵澳门广州事。另一件一七〇〇年十一月一日作于温州，致郭弼宗神甫，述中国情形、人民苦况、弃婴等事。第三件作于一七二四年，批评雷诺多道院长所译阿拉伯文《二回教徒旅行家行记》中之故事传说，谬妄失真。前此已有传教师数人列正其谬，然皆不及此文之完备而切实也。（雷慕沙《亚洲新杂纂》卷二，二六四页。）

（二十八）傅圣泽（第二四三传）神甫致福斯（de la Force）公爵信札，摘录有若瑟致圣泽信札一件。（《传教信札》，卷四，五六页以下。）

（二十九）一七二〇年十一月二十八日上大主教嘉乐信札，见《中国宗教状况轶事》，卷四，五三页以下。

（三十）富尔蒙在其《中文文法》（一七四二年巴黎刊本）书末选录若瑟在一七二八至一七三三年间所致信札数件。克拉普罗特曾将一七三三年广州信札一件刊布，巴黎，一八一七年。若瑟在此类信札之三件（一七二八年八月二十七日，又十二月四日，又十二月十日）中曾云：“今以关于 Yé-Kim^① 之较长写本寄奉，只此一本。此外并无副本。又《象形文字》编一册；又对雍正皇帝禁止邪教《十六条上谕之解释》编一册。”以上诸编皆未详其存佚。

①此书疑为考狄（《书目》一三六六页著录之《易经理解》写本，现藏巴黎国家图书馆，中国书编二七二〇号，四开本，一二四页。

（三十一）致富尔蒙信札两件，附《赵氏孤儿》后^①。

①关于若瑟与富尔蒙互通之信札，可参考考狄《书目》，

五五〇页。

(三十二) 一七二八年十一月三日自广州致文史研究所信札。此信札与《中国语言志略》同寄富尔蒙。一八七三年一月十六日波蒂埃在东方语言学校教授地理开课演说中引证及之。

(三十三) 致富尔蒙信札对于此人所撰之《文法》与以严正批评,见《百科年鉴》,一八一七年,卷八,一三页。(上引雷慕沙书,卷二,二七五页。)

(三十四) 未刊信札计有一七〇一年八月七日建昌信札,言中国政府事,共三十二页,藏巴黎国家图书馆,法文编一七二三年九号。(考狄《书目》,五三二页。)一七〇七年十月二十五日建昌信札,言儒教,藏巴黎国家图书馆,新藏编一五六号。(同上,七〇九页。)巴黎国家图书馆有一写本,在新收书籍中编一五六号。拉丁文,中有若瑟撰述之《论中国事物》,共五页。《道德经说》,共二页。一七〇七年十月二十七日建昌信札,言经书,共十三页。论中国语言文字,共二九页,见于致布利加(de Briga)神甫信札,其文未全。一七二三年十月一日致利尼埃(de Lignières)神甫信札。《中国的三部古典著作——〈三易〉》,共三页。一七三〇年十一月十二日自广州致利尼埃神甫信札。(考狄《书目》,一〇八八页。)一七三〇年十月二十九日致利尼埃神甫一信札。

529 (三十五) 雷慕沙(《亚洲新杂纂》,二七五页。)谓尚有致路易十五世之告解人与他人之信札原本数件,藏王室图书馆。其中有信札二、三件,乃致傅圣泽神甫者,文

甚长。此种信札编一二二〇九号，附《经书理解绪论》（考狄《书目》，五二六页，一七号书后）。

（三十六）一七二五年十二月二十四日自广州致傅圣泽神甫信札，又一七二六年十月十三日圣泽自罗马答若瑟书，尚有小册子若干篇，亦附《经书理解绪论》后。（考狄《书目》，一三六五页。）

（三十七）一七三三年十月十六日自澳门致弗雷尔（Fréret）信札，言中国编年事。藏泽西城神学院图书馆）

（三十八）一七三一年十一月二十日自广州致道院长比尼翁信札，抄本藏慕尼黑图书馆，手抄本目录，卷七，一三〇〇号。

（三十九）考狄在所撰之《十八世纪汉学研究史片断》中曾将若瑟信札数件摘录，巴黎，一八九五年，二二及二三页。

（四十）《夏尔特学院图书馆》，卷五七（一八九六年），一八五页，注四七五三、四七五四、四七五六著录有从致布利加神甫信札中采录之论文一篇；一七二八年致富尔蒙信札若干件，言中国书籍；一七三一年致道院长拉凯（Raquet）信札一件，言所谓中国之非神说。

（四十一）《与富尔蒙通信集》，巴黎国家图书馆，法文补藏，编五五五〇号。

二二六 雷孝思 法兰西人

一六六三年二月二日生——一六七九年九月十三日

入会——一六九八年十一月四日至华——一六九七年二月二日发愿——一七三八年十一月二十四日歿于北京。

雷孝思 (Jean-Baptiste Régis) 神甫字永维。一六六三年出生于普罗凡斯州之伊斯特雷 (Istres) 城。一六七九年入里昂教区之阿维尼翁城修院^①。一六九八年抵中国，因其精通历算天文，即被召至京师，曾将其伟大测地成绩留示吾人。惟其传教事业与在教生活，惜皆未得其详焉。

①有一名录著录其一六六四年一月二十九日生，一六八三年九月十四日入会，薛孔昭《名录》曾采录之。

凡从事测绘中国全图之传教师，要以孝思历地最广，任务最勤。始而周历塞外平原，其后足迹远至南疆，往来于云南野人山中。（布鲁克尔《一七二二——一七三五年的中国传教团》，一一页。）

巴多明（第二三三传）神甫曾进言康熙皇帝，测绘中国全图，帝纳其言，乃于一七〇八年七月四日命具有学识技能之欧洲传教师任其事。

帝命满、汉官员随诸教师前赴各省，随时供给所需。惟此种官吏之任务，与其谓助理，勿宁谓为监督。据宋君荣（第三一四传）神甫说^①，彼等似奉朝命勿使诸神甫来往自由。巴多明神甫宠眷虽隆，测地不能逼近俄国边境，亦不能进至东海沿岸。杜德美（第二六〇传）神甫奏请测量经过北京之全国子午线，帝严为拒绝。诸神甫将其所绘地图寄回法国时，明确要求，若无新的指示，不

得刊行。(上引布鲁克尔书,一八、一九页。)

①见一七三六年十一月五日致弗雷尔信札。

孝思与白晋(第一七一传)、杜德美(第二六〇传)二神甫开始测绘长城一带地图。越二月,白晋患病,仅由 531 孝思、德美二人从事测绘,一七〇九年一月十日事毕还京。所绘地图广十五尺余,帝甚嘉许,欲于全国各省悉加测绘。同年五月八日孝思又偕杜德美、费隐(第二七四传)二神甫测绘东三省地图。又在是年十二月十日至一七一〇年六月二十九日间测绘直隶地图,终在一七一〇年七月二十二日至同年十二月十四日间测绘黑龙江外地图。

一七一一年孝思偕新近抵华之麦大成(第二八四传)神甫测绘山东地图,杜德美、费隐二神甫偕奥斯定会之潘如(Bonjour)神甫①测绘长城以外喀尔喀一带地图;西抵哈密。一七一二年回京。麦大成奉命与汤尚贤(第二六四传)神甫测绘山西、陕西两省地图。孝思则偕冯秉正(第二六九传)、德玛诺(第二七七传)二神甫在一七一二至一七一五年间测绘河南、江南、浙江、福建诸省及台湾岛地图。汤尚贤、麦大成二神甫测绘江西、湖广地图;费隐、潘如二神甫测绘四川、云南地图。一七一五年三月二十四日潘如神甫病故,费隐神甫亦得病,乃命孝思往代之(一七一五);费隐神甫病愈,又与孝思共测绘云南、贵州、湖广地图。(杜赫德《中华帝国全志》,卷一前言,XXVLL—XXXV页。雷慕沙《亚洲新杂纂》,卷二,二三五、二三六页。)

①钩案: Fabre-Bonjour 原缺汉姓名,兹从《正教奉褒》

著录之汉名补入。

一七一七年一月一日还京，遂集各分图为一总图，由杜德美神甫主持其事。一七一八年图成进呈。雷慕沙（《亚洲新杂纂》，二三七页）云：“此种广大测地事业前此在欧洲从未有人尝试，而能在八年之间（原文如此）告成，从事者之热心努力可以想见，而其目的虽为学术，然不专在学术也。”

孝思等所用之方法杜赫德书序文中已为说明。“孝思曾云欲成绩之良，凡事皆未懈惰疏忽，在各省中曾亲自往来各地；检阅各地之地图方志；面询所过诸地之官吏绅耆；而对于所适用尺度之使用从未中断，俾能与将来之三角测量相合。”

“所采用者盖为三角测量法，缘地面广大城市众多，
532 如用他法须时过久也。此法尚有他益，盖其不仅能测定城市之经度，而且可以测定其纬度。夫然后以子午线与两极星纠正以前之错误。”（以下对于技术说明甚详。）

“尚用别一方法务期求其准确，即复还业已确定之点重在测量之。无论在塞外抑在中国内部，从未忘测验罗盘磁针之偏差。此类慎重方法以及其他方法皆曾使用，务期使测验之成绩上承帝心而负其保教之至意。”（上引杜赫德书，卷一前言，第 XXXV, XXXIV, XXXVI 页。）

“吾人所用之唯一尺度即数年前皇帝决定之尺度，别言之中国工部尺是也。安多（第一六三传）神甫即据此尺以量度数，而定每度为华里二百里，每华里合一百八十丈，每丈合十尺……则吾人之大哩（lieues）合中国

里为十里。”（同上书，第 XLIII，XLIV 页。）

“孝思之工作伟大，旅行频繁，然未完全消耗其一切时间，尚有余暇于所过之地开辟新教区，并记录异闻，其《记录》实大有助于杜赫德神甫也。”（上引雷慕沙书，二二七页。）

一七二五年朝令孝思偕费隐神甫测绘陕西里海间地图，命来自锡尔河流域而服务中国军队之喀尔喀官吏为之向导，并以满文路程及关系各地之文件付孝思等。测绘事竣，一七二六年孝思曾以地图副本寄送杜赫德神甫，并附以说明，昂维尔（d'Anville 似曾利用及之。（上引布鲁克尔书，二九页。）

孝思精通汉文，由翻译《易经》足以证之。末后数年，⁵³³ 身体衰弱，禁教之时劳苦尤甚。“一七二四年禁教之时诸神甫在雍正皇帝前辩争，孝思亦在其列。”（上引雷慕沙书，二二九页）一七三八年十一月二十四日歿。

其遗著列下：

（一）《中国全图》，二开本，共有图五十幅，一七三〇至一七三四年间刻于巴黎，盖著名地理学者昂维尔为杜赫德神甫之书刊刻者也。诸图曾经格罗西埃（Grocier）合为一册，二开本，巴黎，一七八五年。中国刻本则成于一七一八年。此图与昂维尔之图完全无异。吾人藏有一本，见其绘图，名称、大小、度数皆同，惟中文图上之名称较法文图上之地名为众云。

中文地图题曰《皇朝輿地总图》，计全图一，中国本部蒙古、西藏分图三十四幅，别有四图未编号。法文全图

乃据北京所寄抄本仿刻。一八三二年又有中文新版，有长图无分图，题曰《皇朝一统舆地全图》。（一八九四年又有新版。）

法文地图计有中国本部、蒙古、西藏全图一（一七三〇）；中国本部全图一，十五省分图十五，（当时江南、湖广各为一省），蒙古全图一，附专图十二，朝鲜图一，西藏全图一，附专图九，直隶、江南、浙江、湖广、陕西、云南、贵州城市图七，广州港口图一。此外附有天堂、地堂、祠堂、观象台等图，孔子、利玛窦、汤若望、南怀仁、徐光启、许夫人等像、植物、树木、衣服、机械、容貌、货币、船舶、督抚之鹵簿、婚丧执事等图画。

534 比奥（E. Biot）云：诸图合成今人所知中国之唯一正规的总图^①。据最近之测验，北京以下之经度逐渐伸张，盖当时诸传教师所用之仪器不甚完善致有此失。比奥继克拉布罗特后曾经试为矫正其误，惟仅限于海岸而已；其余仍袭用诸传教师之度数，惟据巴黎子午线计算经度。此图今尚为中国之最良地图云。

①补注云：吾人不应忘者，此图以前尚有卫匡国神甫之《中国新图》。参看本书第九〇传第五号书。

至若诸神甫所寄送之原本，现藏法国外交部档库。（考狄《书目》，一八三页以下。）

（二）《易经》拉丁文译本，经莫耳（Mohl）刊行，二卷，八开本，斯图加特，一八三四年（卷一），一八三九年（卷二）。题曰《〈易经〉中国最古之书》。雷慕沙云：“是为中国诸经中之最古、最真、最不明确和最难解者。雷孝思

神甫利用冯秉正(第二六九传)神甫之译文并用满文译本对照,参以汤尚贤(第二六四传)神甫之解释,由是其义较明。”(《亚洲新杂纂》,二三八页。)

书分三编,巴黎国家图书馆所藏法本写本,编一七二四〇号者应即此书。(考狄《书目》,一三七二页。) 535

(三)《朝鲜志》,此志见上引杜赫德书卷四,四二三——四三一页;其史略见卷四,四三一——四五二页。“是为迄于今日(一八二七年)叙述朝鲜历史、风俗较为详尽之者。”(上引雷慕沙书,二三七页。)其后虽有道隆长达尚(Dallet)之更完善之撰述,然是编仍可以供参考也。

(四)《根据西藏地图所作的地理历史观察》,见上引杜赫德书卷四,四五九——四七三页。“此文对于喇嘛阶级之记述不乏异闻。”(上引雷慕沙书,二五八页。)

(五)《中华帝国年鉴和西方年历对照》,是编曾经布律内(Vojeu de Brunem)节译载入《中国历史》(二卷,十二开本,里昂,一七五四年);英文译本载入《一八五二——一五三年上海杂集》。(考狄《书目》,五六二页。)

(六)杜赫德的《中华帝国全志》记录数编;特别在序文中有测绘中国地图所用方法之叙述,是皆本于孝思所撰之记录,而标题为《附图中国蒙古新地理》者。杜赫德神甫并未完全转录,此堪惋惜者也。此本现尚在巴黎国家图书馆,法文写本编一七二四二号。(上引布鲁克尔夫,一一页。)

(七)《诸经说》写本。宋君荣(第三一四传)神甫敬里

斯尔 de l'Isle)信札云:“孝思之《诸经说》完全与《易经》译本不同。此本在杜赫德神甫处,殆为其叙述诸经取材之所本。杜赫德神甫所述太浅薄,吾不知其何以遗孝思书而不转录。”(索默尔沃热尔《书目》,卷六,一五九七栏。)

536 同一神甫在其《中国编年》五〇页云:“孝思对于诸经曾有一重要撰述,寄至法国及罗马,由此书可考诸经之沿革。”

(八) 一七〇八年九月三日山西月蚀之测验;一七一〇年二月十四日北京月蚀之测验;一七一一年七月二十九日山东月蚀之测验;一七一二一年一月二十三日北京月蚀之测验。

(九) 一七〇八年、一七〇九年、一七一一年,偕杜德美(第二六〇传)神甫在蒙古、山东对于磁针偏差之测验。见苏熙业《耶稣会士在印度和中国所作的数学、天文、地理考察》卷一,三五——三七页。

(十) 孝思与费隐(第二七四传)神甫在一七二五至一七二六年间奉雍正相臣第十三亲王命测绘陕西里海间地图。(上引布鲁克尔书,二九页。)

(十一) 雷慕沙(上引书,二三九页)云:“经度局图书馆现尚藏有同一著者其他写本若干件。”

(十二) 孝思准许冯秉正(第二六九传)神甫撰写《中国史》之许可书。(考狄《书目》,五八四、五八五页。)

(十三) 一七三六年十月六日自北京致弗雷尔信札,附寄讨论诸经沿革之文一件,此函业经莫尔转载于《易

经》译本序文中。

(十四) 与苏熙业及弗雷尔二神甫之通信,现藏巴黎气象台图书馆,一五〇篋。(索默尔沃热尔《书目》,卷六,一五九七栏。)

二三七 卫嘉禄 法兰西人

一六五六年生——一六七九年入会——一六九八年十一月四日至华——一七〇〇年后歿。

卫嘉禄(Charles de Belleville) 修士法国人。一六五六年生。一六七九年入会。一六九八年十一月四日至中国。以雕刻建筑为业,据诸名录云,技艺工巧。广州(一七〇一年)、北京两处法国传教驻所之图样与建筑皆 537 由嘉禄主持。其后事迹未详^①。

①补注云:“伯希和撰《俺斐特里特号首航中国记》(三、四七、五八页。)一文中,附带有关于卫嘉禄修士之若干详细事迹。

二三八 恩安当 葡萄牙人

一六七四年十一月二日生——一六九三年三月十六日入会——一六九九年至华——一七〇七年后歿。

恩安当 (Antoine Dantes) 神甫，出生于葡萄牙之波尔托城。一六九四年东迈时，修业未毕。后在澳门完成其学业。一七〇五及一七〇七年尚在澳门。一七〇七年赴马尼刺为会团教师。其后为日本教区区长伴侣。其传教区域似仅限于隶属日本教区之中国南方诸省。

二三九 马安能 葡萄牙人

一六七〇年一月二十五日生——一六八六年六月十五日入会——一六九九年十月至华——一七二一年十月二十四日歿于松江。

马安能 (Dominique de Magalhaens) 神甫字德騰，出生于布拉加。一六九四年东迈。似在澳门继续修业迄于一六九九年。传教江苏、上海、松江为年甚久。似歿于松江府城附近之一小教区中，时在一七二一年十月二十四日。

二四〇 唐玛诺 葡萄牙人

一六七四年一月生——一六九三年十一月入会——一六九九年四月至华。

538 唐玛诺 (Emmanuel Marques) 神甫出生于埃武騰城。似在一六九九年抵澳门时晋司铎，而被派至武昌。

二四一 薄贤士 法兰西人

一六五六年生——一六七一年入会——一六九九年
至华——一七〇八年一月二十日歿于海中。

薄贤士① (Antoine de Beanvollier) 神甫字安当,阿奎塔尼教区人。一六八八年获准派往中国,因其智勇兼备,特命其试从中亚细亚或西伯利亚探取新途。贤士从事于此种探道事业亘十五年,不问荒陬之险阻,气候之严酷,语言之纷杂,益以异教徒之劫掠行李皆罄。其希图拟将波斯与中国之法国传教会互相连接而以撒马儿罕、布哈拉两城为中心。然其一切辛勤,皆经事实上与精神上的困难而失败,遂从海道赴中国,而于一六九九年到达。(弗勒里厄《亚美尼亚现状》,二九九页以下。吉勒尔梅《耶稣会圣徒节日历》法文版,三月七日)

①费类思神甫第一次写本写其姓作“蒲”;第二次写作“博”,薛孔昭《名录》从之;最后写本作“薄”,是亦为一七一六年十月三十一日康熙上谕著录之汉姓也。(参看戴进贤《中国康熙皇帝诏书》,一四页。)

既抵中国,派往福建,传教颇具热勤,洪若翰(第一七〇传)神甫曾称誉之。(《传教信札》,一八一九年,卷IX,五二四页。)一七〇五年任广州法国传教会代表员。康熙皇帝选之偕龙安国(第二一八传)神甫同奉使赏诏书而赴罗马。二神甫于一七〇六年首途,安抵巴西,分途行,然皆同时遭难。龙安国神甫于一七〇八年一月二十日在里斯本附近海中沉没,事具

本传。贤士殆亦在同日之风波中沉海^①。

536 ①康熙诏书改由陆若瑟（第一六七传）、艾逊爵（第二〇五传）二神甫呈递教皇。教皇答书则于一七二〇年由大主教嘉乐赏赴中国。

其遗著列下：

（一）《中国礼仪之争问题之说明》，法文写本。

（二）一六九一年信札，见弗勒里厄《亚美尼亚现状》，巴黎，一六九四年，二九九——三〇六页。

（三）一六九八或一六九九年信札写本，藏巴黎邮政街图书馆（索默尔沃热尔《书目》，卷一，一〇八三栏。）

二四二 殷弘绪 法兰西人

一六六二年二月五日生^①——一六八一年四月五日入会^②——一六九九年六月二十四日至华——一六九八年八月十五日发愿——一七四一年七月二日歿于北京。

殷弘绪（François-Xavier d'Entrecolles）神甫字继宗。一说出生于里昂，一说出生于里摩日。一七〇六至一七一九年间法国传教会第三任会督也，追踪前任二贤，良无愧色。白晋（第一七一传）神甫选派传教师时，弘绪与巴多明（第二三三传）、马若瑟（第二三五传）、雷孝思（第二三六传）诸神甫等同膺选，惟在诸人抵华后一年始蒞中国，缘其偕傅圣泽（第二四三传）神甫在另一舰队上

尽圣职也。

①②上录年月与墓志合，吉勒尔梅神甫在罗马抄录之年月与此异：一六六三年二月二十五日生，一六八二年九月十六日入阿维尼翁修院。

其肄习华语成效甚速。甫抵中国不久，即升教于江西之饶州。弘绪性情和蔼可亲，温厚宽和，城内外庶民与士人数人皆乐与之接。（《传教信札》第一版第二六辑序。）

入教者遂众，互相宣传于亲友中，因宣教于景德镇。景德镇乃制造陶瓷之大镇也，有窑不下三千所。（《传教信札》，卷III，二〇八页。）

弘绪未至饶州以前，信教者无一人，首先入教者乃为修建教堂之一穷病泥匠。未久其人死，弘绪为之举行丧仪，华人颇异之。时为新年，来堂询问者不下万人，然入教者仅二人。（同上，一八一九年，卷IX，三二四—三二七页。）弘绪居江西亘七年，后在一七一二、一七一五、一七二〇、一七二二等年复莅江西安慰教众。

入教之教民慈善过人。“某年患鼠疫，传染者众，患疫者家属皆不敢近之。教民悯之，遍临病者之家省视病者，不畏传染，然诸人得主佑，竟无一人染疫者”。（同上，一八一九年，卷X，六一、六二页。）

弘绪记有云：“一七一二年，经我授洗者有八十人。由此赴九江之途中，受洗者其数或甚众。本年新入教者遭受虐待，有被锁系者，有被杖者，财产抄没，而无怨言。”（同上，八二、八三页。）

景德镇教堂太小，不足以容教众。一七一五年弘绪

购新地建大堂一所,传教师居宅一所,经费不足,自节衣缩食以足成之。(同上,二二六页。)

弘绪居景德镇时,欲以制造陶瓷技术输入欧洲,曾亲访制法于在教匠人,并参证中国图籍,因作二长函寄至欧洲,此信札实为制造陶瓷之专书也。弘绪居北京时,亦在同一目的中记述种痘、制造假花、假珠等术,并为杜赫德神甫摘译不少汉文载记,俾世人获知中国之技巧。(《世界人物传记》)欧洲得知有佛手者,亦赖弘绪之记录云。(格鲁贤《中华帝国概述》,卷二,四四六页。)

景德镇士人入教者甚少,工匠最多。此辈平时所入
543 工资尚足以自给,一旦有疾则无余资以供医药,然入教之人辄互相救济。(《传教信札》一八一九年,卷X,二二六——二二九页。)

耶稣会会长知弘绪为人谨慎,谙悉中国语言,乃任之为法国传教会道长,在任凡十三年。弘绪任道长时,开教于若干大城市中,命平素训练之人往诸城传布宗教。其间弘绪曾备感困难,屡经烦苦。其最足使之苦恼者,欧洲责其不以救世主诞生、受难、死亡等事告入教之人,而教外之人又反以弘绪宣传此类事迹为罪。

544 弘绪于一七二二年重莅北京^①,任法国驻所道长亘十年。(《传教信札》第一版第二六辑序。)

①高龙掣补注云:先是弘绪曾数赴北京。

弘绪在京传布宗教,满人入教者甚众,会中遂以指导在教妇女之事属之。弘绪记有云:“雍正禁教以后,不许华人人教堂,然吾人曾秘密聚集教众,而不启人疑。惟

对于妇女则其事较难，乃伪为医师视疾，前往举行圣事。”（《传教信札》，一八一九年，三三六页以下。）

弘绪最后二十年秘密传教，行迹多类此。末四年得 545 度疾，只能坐卧，然传布教义，至死不辍。（《传教信札》，第一版第二六辑序）后于一七四一年七月二日歿于京师，春秋七十有九，计入会有六十年，在华四十二年。

其遗著列下：

（一）《逆耳忠言》一卷，一七三一年顷北京刻本；土山湾有重刻本，（一八七三年第二版，一九二七年第三版；一九一七年书目一七二号。）钩案今见同治十二年（一八七三年）刻本，作四卷，第一卷曰《泛言》，辨明福善祸淫之说；第二卷曰《正言》，谓为义而被害难者乃永福；第三卷曰《直言》，言致命殉道之功；第四卷曰《引言》，使人知常变经权之道。全编大意无非劝教中人以身殉道，不可阿顺曲从。考弘绪居京时，适当世祖初政，允禧、苏努诸大狱发生之年，是编卷二所言假如一人无辜被害，内受责于妻孥，外见弃于友朋，殆指此事。又卷四云：倘国王之命大不合于天主，犹如传命之臣不合于王言，士庶岂能法守等语，则公然鼓励教中人违抗法禁，胆识可谓大矣。

（二）《主经体味》八卷，一七四三年北京刻本。曾见有一刻本，未著刊刻年月处所。土山湾有重刻本（一九一七年书目四一九号）。

（三）《训慰神编》，一名《圣多俾亚传》，二卷，一七三 546 〇年刻于北京，一八七二年重刻于土山湾（一九一七年书目一九号）。

(四)《莫居凶恶劝》二卷,北京刻本,巴黎国家图书馆藏,中国书新藏编三〇三〇及三〇三一号。(考狄:《中国的中一印刷术》,一七页。)

(五)攻击回教之汉文书籍,今未见此本,未详其标题。科洛尼亚(D. de Colonia)《里昂文学史》,卷二,七六四页引之。

(六)巴黎国民图书馆藏写本,编一七二三八号者,有《竹笋说》法文本,共二十页,写于一七三七年五月十二日。汉文《使民安乐术》(原书标题未详意译如上)之译文:考试章程译文;讲学译文;翰林院章程译文。《人参说》,共三十六页。《中国风俗》,共一二〇页,译自一晚近之汉文著作。(考狄《书目》,一〇六四页以下。)

(七)近代中国某哲学家所撰《中国人之性格和风俗》,殷弘绪译,译文见上引杜赫德书,卷四,一五八页。是编言五伦及齐家、治学、处世、立身之法。

(八)中国故事四编译文,见上引杜赫德书,卷三,三〇四页以下。钩案第四编言庄子鼓盆事,疑均出《今古奇观》。

(九)《长生术》,见上引杜赫德书,卷三,六三一页。

(十)《使民安乐术》(见第六号书)之节译文,见上引杜赫德书,卷二,三一〇页^①。盖据朱熹所撰某书翻译也。

①参看张之洞《劝学篇》。

547 (十一)中国某哲学家关于世界起源与状况之问答,见上引杜赫德书,卷三,五〇页。

(十二)中国某古书所志养蚕之法,见上引杜赫德书,

卷二,二五〇页。

(十三)中国某书所志之货币说,见上引杜赫德书,卷四,一九六页。

(十四)《论中国现在使用之各种货币》,法文写本。弘绪曾以此稿寄赠里昂图书馆,然原稿已佚。(科洛尼亚:《里昂文学史》,卷二,七六四页。)上引杜赫德书,卷四,一九六页有节录文。

(十五)对于 *Acta Phisicomedica de L'Académie des Curiosa naturae* 之考证,一七三二年十一月二十九日写于北京。写本现藏巴黎国家图书馆,法文编一七二四〇号。(考狄《书目》,一〇六四页。)

(十六)对《中国史》中常言某要点之考释,一七二六年九月二十七日写于北京,写本现藏巴黎国家图书馆,法文本编一九五三五号。

(十七)一七〇七年二月七日弘绪与其他二十三位耶稣会士签署的反对大主教铎罗教令之申诉书,见贡扎勒斯·圣皮埃尔:《中国新教难简述》,一七一二年,一四七页以下。

(十八)《十一条争议问题之探讨》,藏罗马维托利奥-埃马纽埃尔图书馆,耶稣会士手稿 1257(3.386),17 号。

(十九)一七二四年九月二十七日自北京上宣教部申诉书(并见后条)(索默尔沃热尔《书目》,卷二,一九三四栏。)

(二十)信札。现有数件载于《传教信札》(庞特翁(Panthéon)编,卷 III)中有若干甚为重要,兹列举于下:一七〇四年十一月十五日自饶州致布鲁瓦西亚侯爵(de Broissia)书,述其弟利圣学(第二二九传)神甫病故事。

一七〇七年七月十七日自饶州上传教会总代表员某神甫书,述皇子某失宠,宫内情形,传教会状况等事。

一七一二年八月二十七日致传教会代表员奥利(Orry)神甫书,述所管江西诸教堂教务事。

一七一二年九月一日自饶州致奥利神甫书,言景德镇制造瓷器,上色等事。

一七二二年一月二十五日自景德镇致奥利神甫书,重述制造瓷器事。

弘绪对于瓷器之最初撰述,曾载入一七一七年一月刊《特雷武(Trévoux)回忆录》和一七一七年十月刊《学者杂志》。至其关于瓷器之全部撰述,则见朱利安(Stanislas Juliens)之《中国瓷器制造史》,附萨尔维塔(Salvetat)注释及增补文,巴黎,一八五五年刻本。

一七一五年五月十日自饶州致利圣学(第二二九传)神甫书,述传教状况及教外人造谣诬罔事,并及安徽九华山佛徒朝山事。

一七二〇年十月十九日北京信札,言地震事。

同日致英籍某妇信札,言弃儿事。

一七二六年五月十二日自北京致杜赫德神甫书,言华人鼻中种痘事。

一七二六年七月二十六日自北京致杜赫德神甫书,言京师教民热忱奉教事。

一七二七年七月七日自北京致杜赫德神甫书,言制造假花事。

一七三四年十一月四日自北京致杜赫德神甫书:考

证中国书籍；列举中国人在科学和艺术方面之发明；译某方士传；述瓷器、珍珠、丹药。

一七三六年十月八日自北京致杜赫德神甫书，节译中国《本草》。

以上诸信札除第一信札外，并见《威尔特-博特》，一〇六、一三二、一三六、一六四、一八九、二二四、四三〇、四三一、四三二、五七四、六二七诸页。

一七二四年九月十七日致奥利神甫书驳雷诺多所撰《中国古记》之误。（考狄《书目》，一〇六四页。）索默尔沃热尔神甫谓此书与一七二四年九月二十七日上宣教部申诉书（见上第十九号书）同为一书。

前第六号书所录诸写本中尚引有下列信札数件：

一七一六年五月二十九日饶州信札。

549

一七二二年八月十四日北京信札。

一七三七年十月八日自北京致杜赫德神甫信札。

此外尚有关于德理格事件之一七二一年重要信札数件，现藏研究图书馆（参看索默尔沃热尔《书目》，卷九，一九八栏。）

二四三 傅圣泽 法兰西人

一六六三年三月十二日生^①——一六八一年九月十七日入会——一六九九年六月二十四日至华^②——一六九九年九月八日发愿——疑在一

七三九至一七四〇年间歿于罗马。

傅圣泽(Jean-François Foucquet)主教字方济,出生于勃艮第^③。一六八一年九月十七日入巴黎修院,研究哲学三年,神学四年,教授古典学四年,数学一年。

①②③一七二三年名录著录其在一六六五年出生于波尔多,在一六九四年至华,此二年代显误。

圣泽甫莅中国,即传教福建,然无定所。一七〇二年诸道长遣之至江西之南昌、抚州。圣泽初至抚州,仅有教民百人,逾年其数倍增。考试年士子集州城,多有访问
550 圣泽者,圣泽常集士子多人之为之讲说教义,并以前辈教师所撰之书籍赠之。(*传教信札*,一八一九年,卷IX,三三〇、三三一、三三二诸页。)

时尚无人劝化妇女入教会。有湖广妇女数人从其夫等舟载至饶州,开始接受教理。未久遂以其舟为集会所,受洗者妇女七人。自是以后,诸妇女劝化不少其他妇女入教。(同上,三二八页。)

圣泽学习中国语言文字,越时未久并皆精通。(同上,三五五页。)此种学习常未免使教师数人沦入附会。雷慕沙云:“诸教师中最盼在中国文字中发现基督教之秘迹者,莫逾于圣泽,彼谓其眩惑之极至于迷乱。不特以中国诸经中载有明白预言,而且以为有时在其中发现基
551 督教之根本教理。竟谓中国古籍中之某山,即是耶稣被钉于十字架之山。誉文王周公之词,即是誉救世主之词。中国之古帝,即是圣经中之族长。”(*亚洲新杂纂*,卷二,二五八、二五九页。)

此种见解只能引起烦恼，后此(一七二二年)被召还欧洲，与此事不无关系。召还以前，似曾居留北京，盖一七一〇年王石汗(第一七九传)神甫记有云：圣泽曾与法国神甫数人建议，拟将前辈所定之天文推步略为改正。彼等尤拟将拉伊尔(La Hire)诸表采入，当时视察员暨神甫数人不许，盖若将前人大费辛勤之成绩变改，恐有人因是反对宗教也。(威斯切尔斯《未公布的神甫书信》，一三一页。)

圣泽居留北京似迄于一七二〇年被耶稣会长召还欧洲之时。一七二一年登舟^①，一七二三年在巴黎誓愿修院。(一七二三年名录)^②同年六月八日赴罗马，颇受优待，教皇命下榻于宣教部。

①一七二二年一月二十二日或二十五日，其舟停昆仑山(Poulo-Condor)时，达纳(Danaé)舟中载宋君荣(第三一四传)、雅嘉禄(第三一五传)神甫二人，自一七二一年九月七日以来避寒于此岛。二神甫与圣泽晤谈数次，曾以中国之情形询之。(布鲁克尔《宋君荣神甫学术通信集》，一一页。)

②考狄(《书目》，一〇六八页。)谓其在一七二三年四月八日以后出耶稣会。

圣泽西还时曾携有书籍⁽¹⁾，选择之善，卷帙之多，前此西士无能及之者。此种书籍，现在分散，其一部分藏王国内阁，其余则散藏于法、英、意三国公私书库中。观此中国书籍之目录，尤足证明搜集此种书籍者之学识与鉴赏。(上引雷慕沙书，二六七页。)今巴黎国家图书馆藏 552

拉丁文写本，编一七一九五号(fol 93—117 和 118—140) 与英国博物院藏 addit. Mu. 20583A 之中国书籍目录，即是编也。（考狄《书目》，一〇六九页。）

①布鲁克尔神甫注云：时教皇英诺森十三世欲得此种书籍，圣泽赴罗马时，曾将此种书籍携往。后此圣泽曾要求将寄存北京之余书及资金拨给，一七二八年三月十八日教皇命耶稣会会长以金钱八百枚付宣教部书记转给圣泽。

圣泽为抄录中国书籍文字，曾携带有广州教民名胡若翰(Jean Hou)者返欧。其人在海中得狂疾，后在法国之狂举颇著名一时也。（参看考狄《傅圣泽携带赴欧之华人》，载《远东杂志》，卷三，一八八三年，三八一页以下。）

一七二五年三月加戴勒特罗波里(d'Eleuthéropolis)主教衔，常居罗马。据一七三九年三月十二日之一信札，似是年尚居罗马。其歿时似在此年或下年云。

其遗著列下：

（一）《中国历史年表》，写以拉丁文，一七二九年刻于罗马，一七四九年重刻于奥格斯堡。“此表与吾人之年表相类，上列在位君主，下列大事。圣泽按照干支排列，中国之用干支，如吾人之用世纪。原本为一七二四年任广州总督之旗人年希尧(Nian)所撰，此乃其译文也。所记年代皆从司马光《资治通鉴》。其最有益者，列举读中国史必须之年号。欧洲首先认识中国年号即赖是编。”（上引雷慕沙书，卷二，二六〇页。参看《特雷武回忆录》，一七九页。）是编以为中国年代确实可靠者，只能上溯至纪元前四二五年。此说已经宋君荣神甫所撰之《中国年代记》纠正其非，参看本书第三一四传第九号书。

(二)《天元问答》，是编盖经康熙皇帝敕命撰述，后因结论不合帝意，遂未流行。(布鲁克尔《宋君荣神父学术通信集》，五〇页。)

(三)《神明为主》之考释，(参看第二三五马若瑟传第一九号书)写以拉丁文及法文，后附杂说四编，皆选译中 553 国书籍之文。(索默尔沃热尔《书目》，卷三，九〇四栏。)

(四)《道德经评注》(钩案评注二字从 Ping Chon 音译，未审原文是否此二字)，附有拉丁文及法文译注，写本二册。(克拉普罗特《克拉普罗特藏书书目》，一〇六九页。)

(五)《中国家庭礼规，附注释》，手抄本。

(六)傅圣泽主教对于中国古今学说之观念，法文本，四开本，手抄本。(索默尔沃热尔《书目》，卷三，九〇四栏。)

(七)圣泽开始翻译《诗经》，附有解说，曾将基督教教义附会中国旧说。雷慕沙后将孙璋(第三二四传)神甫之译文译写于是编中。(雷慕沙《亚洲新杂纂》，卷二，二五九页。索默尔沃热尔《书目》，九〇四栏。)

(八)《傅圣泽神甫携带赴欧之华人》，法文写本，见圣西门(de Saint-Simon)公爵遗物表录一六九号，业经考狄刊行，载《远东杂志》，卷一，一八八二年，一八、三八一页以下。

(九)《诸经研究绪说》^①，藏巴黎国家图书馆，法文本编一二二〇九号。(索默尔沃热尔《书目》，卷三，九〇四栏。)

- ①据布鲁克尔神甫说,此书前人误属马若瑟(第二三五传)神甫,应为圣泽撰述。(考狄《书目》,一三六六页。)

(十)《一七〇一年耶稣会诸法国神甫年报》,写以拉丁文,写本现藏伦敦公共档案局。(索默尔沃热尔《书目》,卷三,九〇四栏。)

(十一)《为中国礼仪问题上教皇书》,拉丁文写本,藏特罗耶图书馆,写本目录编一一一一号。

(十二)一七〇〇年信札,藏伦敦公共档案局,国外通讯,XVIII,中国。

(十三)一七〇二年十一月二十六日自南昌致弗斯(de la Force)公爵信札,述传教状况,见《传教信札》,一八一九年,卷IX,三一六页以下。《威尔特-博特》,六九号。

(十四)上大主教嘉乐信札数件,说明返回法兰西事,见《中国宗教状况轶事》,卷四,五五页。

- 554 (十五)一七三六年三月三十日自罗马致戈维尔(de Goville)神甫信札,见普拉特《历史回忆录》,卷二,四四三页。

(十六)一七三八年九月十二日致罗马某人信札,见《现代著作评论》,卷一五。

(十七)英国博物院现藏有圣泽与枢机员古尔特利奥(Gualterio)之通信一函,约五六十页。第一信札作于一七二三年二月八日,末一信札作于一七二七年,诸信札皆无甚关系。其中较有关系者为一七二四年九月十五日信札,圣泽闻将被任命为主教会参事员,特作此函以

拒之。(见考狄文章,载《远东杂志》,卷二,一八八二年,一六页以下。参看考狄《书目》,一〇六九页。)

(十八)圣泽信札藏帕拉丁·帕尔莫(Parme de Palatine)图书馆,一六五八号,II,1,14。(索默尔沃热尔《书目》,卷IX,三五七栏。)

(十九)一六九九至一七二六年间,圣泽本人信札,或所接信札,抄本,藏圣热内维夫图书馆,四开本,六一二页。(同上。)

(二十)一七三九年三月十二日信札。

二四四 宋若翰 法兰西人

一六五七年生——一六八三年入会——一六九九年
至华——疑歿于一七三六年后。

宋若翰^①(Jean-François Pélisson)神甫隶图卢兹教区。一六八三年入此城修院。吾人于此传教师之事迹所知甚鲜。其由法国赴华,曾假道巴西,附“小圣约翰号”舶,中途被昂儒昂岛海盗劫掠,然尚得于一六九八年抵印度。已而从印度僧罗德先(第二四五传)修士共附英国舶于一六九九年安抵厦门。次年传教广州。一七三六及一七三七年居北京,年达八十矣^②。(《传教信札》,卷X,二〇五页。)

①钩案:原录其人姓宋,佚其名,若翰乃新译名。参看本传。

②费赖之神甫手写本九一〇页有铅笔补注云:“此误:其人在一七一三年八月三日歿于图卢兹城。”然未著明出处。

其人似未殁于北京，盖葡、法两国墓地皆无此人墓碑也^①。

- ①补注云：“济南大修院教习方济各会士曼兹 Kilian Menz 神甫于一九二八年十一月来函，称泰安府属濰庄西南四里之王家庄有天主教墓地，有古墓三百，其中有一墓碑，文多漫漶，仅有方济各……宋公之墓，生一千六……年等字尚可辨识，疑即本传之宋神甫。现存遗札有一七〇〇年十二月九日自广州致夏斯神甫信札，述中国与安南南圻传教事。见《传教信札》，卷IX，二五七页以下。《威尔特-博特》，四三号。此外伦敦公共档案局藏有若翰信札，参看本书第一七三《张诚传》第十三号书。

二四五 罗德先 法兰西人

一六四五年生——一六七五年入会——一六九九年至华——一七一五年十一月十日^① 歿于北京附近。

- 罗德先 (Bernard Rhodes) 修士字恒斋，亦隶图卢兹区。入会时年三十岁。曾居印度传教会数年。荷兰人攻取本地治里(Pondicherry)时，与塔夏尔神甫同被虏，送至荷兰，投入阿姆斯特丹狱中，至交换俘虏时，始被释还。及莅巴黎，即请赴中国，遂携宋若翰(第二四四传)神甫东返。抵厦门数日，即被皇帝所遣官吏召之赴京师。

①德先歿年诸书所志各异:

一七一四年十一月十日: 见巴多明(第二三三传)神甫一七一五年三月二十七日信札, 载《传教信札》, 一八一九年, 卷X, 二〇九页。《威尔特-博特》, 一七二八年, 一三五号, 二四、二五页著录之同一信件亦作一七一四年十一月十日。

一七一五年三月十日: 《传教信札》, 一八一九年, 卷X, 二〇四页著录之同一信札又谓其歿于一七一五年三月十日, 年逾七旬。

一七一五年十月十九日: 汉文墓志作“康熙五十四年乙未九月二十三日, 年六十九岁, 在会四十一年。”

一七一五年十一月十日: 拉丁文墓志作“一七一五年十一月十日, 年七十岁, 在会四十年。”吉勒尔梅书著录同。

一七一五年十一月十一日: 见薛孔昭《名录》。案三月份似误, 盖与种种情况(从塞外狩猎还, 初寒等等)不合也。巴多明神甫信札著录之月日殆有错误, 缘海泊往来视信风为准, 而三月非作书之时也。多明信札有云: “上月在热河曾奉书”, 案二月正寒, 似不应在热河作书。顾诸本《传教信札》, 自一七二〇年版以来, 著录之文皆同, 然则曾经斯托克林(Stöcklein)将年月改窜欤?

德先为人谦下温和, 华人初皆重其人而乐与之交, 后知其精于外科医术与调制药剂^①, 而善诊脉治病, 尤重之。有数人患病, 诸医束手, 帝命德先治之, 皆愈, 帝甚喜。自是以后, 宫中官吏皆信其医术, 而不愿再延他医。诸人常语巴多明(第二三三传)神甫云: “此西医与吾国诸医大异。此辈中医对于不

能诊治之疾，不问病者之安危，亦敢于妄治之，则其结果不特增加病者之疾，而且促其早死也。至此西医则反是，其言寡，而不轻许人，然所治之疾辄愈。尤可异者，我辈中医常多取人钱，而此西医竟不索诊费云。”（《传教信札》，卷X，二〇四页以下。）

①罗德先修士尤以药剂师著名于当时：《威尔特-博特》，一〇六号。《宁波简讯》，一九二五年十二月，一四七页。

:557 德先无药，辄为配置。脱有数人同时来求药，从未使一人空返。当时全家赖其诊治获痊者不可以数计。曾两愈康熙皇帝疾：一次帝心跳剧烈，德先进药止之；一次帝上唇有肿疡，德先为之割治获痊。是以帝信之深，十次巡幸塞外，必命之扈从，每次巡幸时间辄逾六月。帝奖其功，赏以黄金值二十万法郎①。（《传教信札》，卷X，五三、二〇七页。）

①克雷蒂诺-若利（Cretineau-Joly）所著《耶稣会史》（卷五，四三页）云：“此金之用途可以调查。传教会诸道长曾以此金存放于英国印度公司，限以每年利息供应中国、印度两地耶稣会士之需。耶苏会取消时，印度公司拟仿诸天主教国君主之例，将此二十万法郎没收，停付利息，而转供医院之用。留存印度之耶稣会士，乃遣一代表赴伦敦，诉之于公司董事。董事等直其请，致书于公司云：他国政府对于国际法既犯有重大过失，印度公司不应效之，而违背其最神圣之协定。董事且云，本地治里城之耶稣会士

大有助于印度人及英国人，公司应保存其存款，而将利息给付迄于最后耶稣会士之死而后已。同时并将所欠三年利息交出。一八一三年北京和本地治里两城之耶稣会士尽歿，宣教部决定将此款作供给中国遣使会之用。”

德先在热河忽得寒疾，继以发热，自知大限将至，曾云：“塞外之行已终，应预备永远之行也。”帝见其衰弱日甚，乃命先行回京由阳秉义（第二八五传）神甫护送，行至京师附近，疾遂不起，时在一七一五年十一月十日也。同月二十五日葬于都城外教会坟园。巴多明神甫云：“其为人谦恭温和持戒严，和蔼可亲，人有求之者无不应，尤其对于穷苦之人尽力不倦，凡人对我言及其生平者，莫不誉之。”（《传教信札》，卷X，二〇九页。）

二四六 范若瑟 葡萄牙人

558

一七〇〇年至华——一七二四后歿。

范若瑟(Joseph d'Almeida)神甫，葡萄牙人。一六九〇年自里斯本东迈。吾人仅知其在一七〇一年传教琼州，雍正仇教（一七二三至一七三六）之事起，被遣发。一七二五年退居暹罗。

二四七 聂若望 葡萄牙人

一六七一年十一月二十七日生——一六九〇年
七月十七日入会——一七〇〇年至华——一七
〇五年八月十五日发愿——一七五〇年后歿。

聂若望 (Jean Duarte) 神甫，于一六九六年离葡萄牙。至华后传教湖南之湘潭甚久。初居湘潭时，在一七〇〇至一七〇三年间。衡山县知县信教甚笃，自出资在衡山建筑教堂一所，以供若望传教之用(一七〇二年)。此外衡山、永州在当时亦新建有教堂数所。至衡州以北，计有驻所两处，大堂十二，小堂四十五。(《威尔特·博特》，八七号，三一页。)

若望后任中国副教区区长，似在一七一五或一七一六年。嗣后任日本教区区长。雍正仇教时(一七二三至一七三六)若望已返湘潭，于是乔装隐匿诸山中。一七三八及一七三九年间其人尚在。其歿年歿地以及其他传教情形无考。一七五一年其人尚存也^①。

①补注云：此 Duarte 神甫与一七三三年间同安德烈·李(André Ly) 发生关系之 Eduardus 神甫疑为一人，参看《安德烈·李日志》，五一九页。

其遗著有十二开写本一册，内容：

- 1.《八天避静神书》。
- 2.《十诫略说》。

此写本之发现情形特别。安徽广德州属陈洪铺（音译）（Jcheng-hong-pou）地方有教外人拆毁墙垣，于其中得一书，仿西式，用皮面装订。见其中所载皆天主教事，乃于一八七八年将此本赠给沈薰良（Chen-liang）神甫^①。此本文体通俗，观其纸张装订与夫保存状况，殆为百年前物。书面后有一残余法文信札，内云：“伯努瓦（Benoit）神甫之一七七〇年十月二十二日信札，勿以我向 KO 君所言关于其被派往湖广传教会之事告之，彼自能尽其职也。”此残余信札疑出晁俊秀（第四三〇传）神甫手，此时该神甫为法国传教会会督也，由是可假定此本装订在一七七〇至一七八〇年间，别言之，高类思（第四二八传）神甫身故以前^②。此写本未编页数，亦未著录年月处所。书角已破弊，赖有皮装，未为湿气侵蚀。

①补注云：薰良字陶如，大场附近姚湾人，一八三八年生，一八六二年入会，一九〇二年歿于徐家汇。

②补注云：高类思神甫之死，似不应在一七九〇年前，可参看本书第四二八《高类思传》。

至其如何藏之墙内，原因未明。殆藏有此本之湖北教民某，（盖若望传教湖广甚久）在最后仇教时期（一八七五至一八七六）恐藏书获罪而匿之墙中歟？

二四八 穆敬远 葡萄牙人

一六八一年八月二日生——一六九四年一月二十二日入会^①——一七〇〇年至华——一七二六年八月

十八日歿于西宁。

- 560 穆敬远^②(Jean Mourao) 神甫字若望。一六九九年出发时尚未晋司铎。后在澳门完成其学业。一七一一年澳门当局欲毁华人房屋数所，敬远曾代房主诉之于澳门参事会。已而被召至北京，深得朝廷信任，朝中大员争与交游。敬远任皇帝译员数年，曾数次随驾巡幸塞外(《威尔特-博特》，二〇三号。)

①补注云：然则入会时不仅十二岁半欤？此入会年与生年必有一误。

②《东华录》作经远。钩案，《正教奉褒》亦作敬远。

康熙帝崩，雍正皇帝继承大位，有谋奉雍正兄塞思黑(允禩)承袭大位而废雍正者。事被发觉，苏努全家皆受牵连，此家人几全奉教，其被谪受苦，纪元初数世纪中最堪感动殉教之事，不能专美于前也。(参看本书第二三三《巴多明传》。)敬远任北京某堂长，被人告发，谓其同谋。时敬远自广州赍贡品回京，会中拟命其转赴山东济南传教以避祸。

据道院长古伯察所撰《中国宗教状况轶事》(卷四，四二页。)之说，敬远死，状甚惨。冯秉正(第二六九传)神甫亦据同一史料接述其事，《中国史》，四七二页)谓敬远受缢刑，头示众，焚尸扬灰，其事在葡萄牙专使抵京以前，盖恐葡使为之请命故先杀之以灭迹也。顾《中国宗教状况轶事》一书是对于耶苏会士具有反对成见之撰述，胡伯察曾自言之，则其所记敬远死事，不可信，兹采《威尔特-博特》，二九七号，所记之说转录于下：

“雍正御极之初，嫉敬远者进谗于帝，谓敬远与兄允禧合谋，帝乃谪敬远于外。敬远居谪所时，得苏努家若干人之助，劝化数人入教，建筑教堂数所。雍正帝决意禁止天主教，闻敬远身居谪所，尚敢劝人入教，怒甚，命人将其锁解来京，身被九链，严刑拷问，迫其自陈。然敬远自承无罪。帝命人将其重押解至谪所授意解者杀之。八月五日敬远抵谪所，次日始悉食中有毒，越十二日歿于西宁，时在一七二六年八月十八日也。”（参看考狄《中国通史》，卷三，三三八页。）

敬远曾与巴多明神甫等共署名于一七一六年十月三十一日康熙皇帝上谕译文，参看本书第二五九《赫苍壁传》附注。考狄《中国的中-欧印刷术》（一九〇一年），六六页；考狄《书目》，九一八栏。

二四九 蒋若翰 法兰西人

一六六二年生——一六八一年入会——一七〇〇年至华——一七〇〇年前发愿——歿年未详。

蒋若翰(Jean-Baptiste de Champeville)^① 神甫仅知其为法兰西人。一六六二年生，一六八一年入会，一七〇〇年至华，至华前曾发誓愿，余皆无考。

①布鲁克尔《一七二二——一七三五年的中国传教团》写其名作 de Chambeul。

二五〇 郭中传 法兰西人

一六六六年五月四日生——一六八四年九月十三日入会——一七〇〇年八月七日至华——一七〇〇年二月二日发愿——一七四一年一月五日歿于澳门。

郭中传(Jean Alexis de Gollet)神甫字怀义，出利圣马洛。一六八四年入会。甫抵中国，与利圣学(第二二九传)神甫同被派至江西。一七〇一年偕圣学同赴宁波，开辟新教区，并建设教堂一所。其始也浙江巡抚阻挠，赖张诚(第一七三传)神甫转请于礼部，其事始解。562 一七〇二年十一月九日教堂附近火灾，中传致书张诚神甫曰：“如天主保佑此堂不火，我誓于星期五日食面包饮白水，愿终身守此戒。是时风忽转，教堂得免。”(《传教信札》，卷III，一二三页。)

中传居城中时，仆人某，教外人也，于进食时，置毒药与铜绿于中以毒之。中传未食幸免。(《传教信札》，卷III，一二四页。)一七〇七年中传尚在宁波，自是以后，事迹未详。一七二一年三月二十二日大主教嘉乐自京师经九江返广州时，曾在中传传教处所附近停留。(《中国宗教状况轶事》，卷四，三三二页。)考维亚尼(Viani)所记之行程，其地不在江苏北部，即在山东南部，一七二七年被谪赴广州。一七四一年一月五日歿于澳门。

据共同伴之说，中传精通汉文。亦为主张异说之一人，盖与马若瑟(第二三五传)、傅圣泽(第二四三传)神甫等同其附会者也。

共遗著列下：

(一)造有写本四册，除若干信札记录外，余文则为在中国象形文字中求预言时代之遗迹，以中国古象形文字与古犹太人之 *Kabale Séphirétique* 共比较，在中国古籍中求救世主降临之遗文等编。据曾经读其写本者之说，其中固不乏佳言，然多流入臆想。其间较感兴趣者则有：《中国人之起源及其历史年表》；《书经》中年代与日蚀之可比；第三、四册则为研究年代之文。(考狄《书目》，一五五页。)此本现藏圣热内维央学校图书馆。(见默尔沃热尔《书目》，卷三，一五四六栏以下。)

(二)里斯尔所赠信札，中有中传信札数件，盖为致里雷尔、苏西埃二人之信札。(布鲁克尔《宋君荣神父学术通信集》，三一页。)皆藏气象台图书馆，里斯尔藏本，一五〇二卷(见默尔沃热尔《书目》，卷三，一五四八栏。)

(三)《发语虚字》，是编克拉普罗特疑出中传手，盖其第一页题撰人名曰耶稣会士 Grollet 撰。案当时入华耶稣会士无此名，殆为 de Gollet 之误。(《克拉普罗特著 503 号书目》，第二部分，一六六号。)

